

聊齋志異

蒲松齡

# 目錄

## 卷一

咬鬼	山魈	畫壁	瞳人語	噴水	尸變	耳中人	考城隍	.....
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
八十二	八十	七十五	七十	六十八	六十四	六十二	五十九	五十九

捉狐

.....

八十四

蕎中怪

.....

八十五

宅妖

.....

八十七

王六郎

.....

八十九

偷桃

.....

九十六

種梨

.....

一百零一

勞山道士

.....

一百零四

長清僧

.....

一百零九

蛇人

.....

一百一十

斫蟒

.....

一百一十

犬奸

.....

一百二十

雷神

.....

一百二十

狐嫁女

.....

一百二十

嬌娜

.....

一百三十

僧孽

.....

一百四十

妖術

.....

一百四十

野狗

.....

一百五十

三生

.....

一百五十

狐入瓶

.....

一百五十

鬼哭

.....

一百五十

真定女

.....

一百六十

焦螟

.....

一百六十

葉生

.....

一百六十

四十千

.....

一百六十

成仙

.....

一百七十

新郎

.....

一百八十

靈官

.....

一百八十

王蘭

.....

一百八十

鷹虎神

.....

一百九十

王成

.....

一百九十

青鳳

.....

二百零七

畫皮

.....

二百一十

賈兒

.....

二百二十

卷二

蛇癖

.....

二百三十

.....

二百三十

金世成

.....

二百三十

董生

.....

二百三十

齷石

.....

二百四十

廟鬼

.....

二百四十

陸判

.....

二百四十

嬰寧

.....

二百五十

聶小倩

.....

二百七十

義鼠

.....

二百九十

地震

.....

二百九十

海公子  
.....  
二百九十

丁前溪  
.....  
三百

海大魚  
.....  
三百零四

張老相公  
.....  
三百零四

水莽草  
.....  
三百零六

造畜  
.....  
三百一十

鳳陽士人  
.....  
三百一十

耿十八  
.....  
三百二十

珠兒  
.....  
三百二十

小官人  
.....  
三百二十

胡四姐  
.....  
三百三十

祝翁

.....

三百四十

獵婆龍

.....

三百四十

某公

.....

三百四十

快刀

.....

三百四十

俠女

.....

三百四十

酒友

.....

三百六十

蓮香

.....

三百六十

阿寶

.....

三百八十

九山王

.....

三百九十

遵化署狐

.....

四百

張誠

.....

四百零二

卷三

汾州狐

.....

四百一十

巧娘

.....

四百一十

吳令

.....

四百三十

口技

.....

四百三十

狐聯

.....

四百三十

灘水狐

.....

四百三十

紅玉

.....

四百四十

龍

.....

四百五十

林四娘

.....

四百五十

.....

四百六十

江中

.....

四百六十

魯公女

.....

四百六十

道士

.....

四百七十

胡氏

.....

四百七十

戲術

.....

四百八十

丐僧

.....

四百八十

伏狐

.....

四百八十

蟄龍

.....

四百八十

蘇仙

.....

四百八十

李伯言

.....

四百九十

黃九郎

.....

四百九十

金陵女子

.....

五百零八

湯公

.....

五百一十

閻羅

.....

五百一十

連瑣

.....

五百一十

單道士

.....

五百二十

白於玉

.....

五百三十

夜叉國

.....

五百四十

小髻

.....

五百五十

西僧

.....

五百五十

老饕

.....

五百六十

連城

.....

五百六十

霍生

.....

五百七十

汪士秀

.....

五百七十

商三官

.....

五百八十

於江

.....

五百八十

小二

.....

五百八十

庚娘

.....

五百九十

宮夢弼

.....

六百零九

鷓鴣

.....

六百二十

劉海石

.....

六百二十

諭鬼

.....

六百二十

泥鬼

.....

六百三十

夢別

.....

六百三十

犬燈

.....

六百三十

番僧

.....

六百三十

狐妾

.....

六百三十

雷曹

.....

六百四十

賭符

.....

六百五十

阿霞

.....

六百六十

李司鑿

.....

六百六十

五殺大夫

.....

六百六十

毛狐

.....

六百六十

翩翩

.....

六百七十

黑獸

.....

六百八十

卷四

.....六百八十

余德 .....六百八十

楊千總 .....六百八十

瓜異 .....六百八十

青梅 .....六百八十

羅刹海市 .....七百零五

田七郎 .....七百二十

產龍 .....七百三十

保住 .....七百三十

公孫九娘 .....七百三十

促織 .....七百五十

柳秀才  
.....  
七百六十

水災  
.....  
七百六十

諸城某甲  
.....  
七百六十

庫官  
.....  
七百六十

艷都御史  
.....  
七百六十

龍無目  
.....  
七百七十

狐諧  
.....  
七百七十

雨錢  
.....  
七百七十

妾杖擊賊  
.....  
七百八十

秀才驅怪  
.....  
七百八十

姊妹易嫁  
.....  
七百八十

續黃梁

.....

七百九十

龍取水

.....

八百零八

小獵犬

.....

八百零八

棋鬼

.....

八百一十

辛十四娘

.....

八百一十

白蓮教

.....

八百三十

雙燈

.....

八百三十

捉鬼射狐

.....

八百四十

蹇償債

.....

八百四十

頭滾

.....

八百四十

鬼作筵

.....

八百四十

胡四相公

.....

八百五十

念秧

.....

八百五十

蛙曲

.....

八百七十

鼠戲

.....

八百七十

泥書生

.....

八百七十

土地夫人

.....

八百八十

寒月芙蕖

.....

八百八十

酒狂

.....

八百八十

卷五

陽武侯

.....

八百九十

趙城虎

.....

八百九十

螳螂捕蛇

.....

九百零二

武技

.....

九百零三

小人

.....

九百零六

秦生

.....

九百零七

鴉頭

.....

九百零九

酒蟲

.....

九百二十

木雕美人

.....

九百二十

封三娘

.....

九百二十

狐夢

.....

九百三十

布客

.....

九百四十

農人

.....

九百四十

章阿端

.....

九百五十

鮑飴媪

.....

九百六十

金永年

.....

九百六十

花姑子

.....

九百六十

武孝廉

.....

九百七十

西湖主

.....

九百八十

孝子

.....

九百九十

獅子

.....

一千

閻王

.....

一千

土偶

.....

一千零四

長治女子

.....

一千零七

義犬

.....

一千零一

鄱陽神

.....

一千零一

伍秋月

.....

一千零一

蓮花公主

.....

一千零二

綠衣女

.....

一千零三

黎氏

.....

一千零三

荷花三娘子

.....

一千零三

罵鴨

.....

一千零四

柳氏子

.....

一千零四

上仙

.....

一千零五

侯靜山

.....

一千零五

卷六

錢流

.....

一千零五

郭生

.....

一千零五

金生色

.....

一千零六

彭海秋

.....

一千零七

堪輿

.....

一千零八

竇氏

.....

一千零八

梁彥

.....

一千零九

龍肉

.....

一千零九

.....

一千零九

潞令

.....

一千零九

馬介甫

.....

一千零九

魁星

.....

一千一百

厘將軍

.....

一千一百

絳妃

.....

一千一百

河間生

.....

一千一百

雲翠仙

.....

一千一百

跳神

.....

一千一百

鐵布衫法

.....

一千一百

大力將軍

.....

一千一百

白蓮教

.....

一千一百

顏氏

.....

一千一百

杜翁

.....

一千一百

小謝

.....

一千一百

縉鬼

.....

一千一百

吳門畫工

.....

一千一百

林氏

.....

一千一百

胡大姑

.....

一千一百

細侯

.....

一千一百

狼

.....

一千一百

美人首

.....

一千一百

劉亮採

.....

一千一百

蕙芳

.....

一千二百

山神

.....

一千二百

蕭七

亂離

豸蛇

雷公

菱角

餓鬼

考弊司

閻羅

大人

向杲

董公子

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

一千二百

周三

.....

一千二百

鴿異

.....

一千二百

聶政

.....

一千二百

冷生

.....

一千二百

狐懲淫

.....

一千二百

山市

.....

一千二百

江城

.....

一千二百

孫生

.....

一千二百

八大王

.....

一千二百

戲縊

.....

一千三百

卷七

羅祖

劉姓

邵九娘

鞏仙

二商

沂水秀才

梅女

郭秀才

死僧

阿英

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

一千二百

橘樹

.....

一千三百

赤字

.....

一千三百

牛成章

.....

一千三百

青娥

.....

一千三百

鏡聽

.....

一千四百

牛廣

.....

一千四百

金姑夫

.....

一千四百

梓潼令

.....

一千四百

鬼津

.....

一千四百

仙人島

.....

一千四百

閻羅薨

.....

一千四百

顛道人

胡四娘

僧術

祿數

柳生

冤獄

鬼令

甄后

宦娘

阿繡

楊疤眼

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

一千四百

一千五百

卷八

小翠

.....

一千五百

金和尚

.....

一千五百

龍戲蛛

.....

一千五百

商婦

.....

一千五百

閻羅宴

.....

一千五百

役鬼

.....

一千五百

細柳

.....

一千五百

.....

一千五百

畫馬

.....

一千五百

局詐

.....

一千五百

放蝶

.....

一千五百

男生子

鐘生

鬼妻

黃將軍

三朝元老

醫術

藏虱

夢狼

夜明

夏雪

化男

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

一千五百

禽俠

.....

一千五百

鴻

.....

一千五百

象

.....

一千六百

負尸

.....

一千六百

紫花和尚

.....

一千六百

周克昌

.....

一千六百

嫦娥

.....

一千六百

鞠樂如

.....

一千六百

褚生

.....

一千六百

盜戶

.....

一千六百

某乙

.....

一千六百

霍女

.....

一千六百

司文郎

.....

一千六百

丑狐

.....

一千六百

呂無病

.....

一千六百

錢卜巫

.....

一千六百

姚安

.....

一千六百

採薇翁

.....

一千七百

崔猛

.....

一千七百

詩讞

.....

一千七百

鹿銜草

.....

一千七百

小棺

.....

一千七百

卷九

邢子儀

.....

一千七百

李生

.....

一千七百

陸押官

.....

一千七百

蔣太史

.....

一千七百

邵士梅

.....

一千七百

顧生

.....

一千七百

陳錫九

.....

一千七百

邵臨淄

.....

一千七百

於去惡

.....

一千七百

狂生

.....

一千七百

激俗

.....

一千七百

鳳仙

.....

一千七百

佟客

.....

一千七百

遼陽軍

.....

一千七百

張貢士

.....

一千七百

愛奴

.....

一千七百

單父宰

.....

一千八百

孫必振

.....

一千八百

邑人

.....

一千八百

元寶

.....

一千八百

研石

.....

一千八百

武夷

.....

一千八百

大鼠

.....

一千八百

張不量

.....

一千八百

牧豎

.....

一千八百

富翁

.....

一千八百

王司馬

.....

一千八百

嶽神

.....

一千八百

小梅

.....

一千八百

藥僧

.....

一千八百

於中丞

.....

一千八百

皂隸

.....

一千八百

績女

.....

一千八百

紅毛氈

.....

一千八百

抽腸

.....

一千八百

張鴻漸

.....

一千八百

太醫

.....

一千八百

牛飛

.....

一千八百

王子安

.....

一千八百

刁姓

.....

一千八百

農婦

.....

一千八百

金陵乙

.....

一千八百

郭安

.....

一千八百

折獄

.....

一千八百

義犬

.....

一千八百

楊大洪

.....

一千八百

查牙山洞

.....

一千八百

安期島

.....

一千九百

沉俗

.....

一千九百

雲蘿公主

.....

一千九百

鳥語

.....

一千九百

天宮

.....

一千九百

喬女

.....

一千九百

蛤此名寄生

.....

一千九百

卷十

劉夫人

.....

一千九百

陵縣狐

.....

一千九百

.....

一千九百

王貨郎

.....

一千九百

疲龍

.....

一千九百

真生

.....

一千九百

布商

.....

一千九百

彭二掙

.....

一千九百

何仙

.....

一千九百

牛同人

.....

一千九百

神女

.....

一千九百

湘裙

.....

一千九百

三生

.....

二千零二

長亭

.....

二千零七

席方平

.....

二千零二

素秋

.....

二千零三

賈奉雉

.....

二千零五

胭脂

.....

二千零六

阿纖

.....

二千零八

瑞雲

.....

二千零九

仇大娘

.....

二千零九

曹操塚

.....

二千一百

龍飛相公

.....

二千一百

珊瑚

.....

二千一百

五通

.....

二千一百

申氏

.....

二千一百

恆娘

.....

二千一百

葛巾

.....

二千一百

卷十一

馮木匠

.....

二千一百

黃英

.....

二千一百

書癡

.....

二千二百

齊天大聖

.....

二千二百

青蛙神

.....

二千二百

任秀

.....

二千二百

晚霞

.....

二千二百

白秋練

.....

二千二百

王者

.....

二千二百

某甲

.....

二千二百

衢州三怪

.....

二千二百

拆樓人

.....

二千二百

大蠍

.....

二千二百

陳云犧

.....

二千二百

司札吏

.....

二千二百

蚰蜒

.....

一千二百

司訓

.....

一千二百

黑鬼

.....

一千二百

織成

.....

一千二百

竹青

.....

一千二百

段氏

.....

一千二百

狐女

.....

一千二百

張氏婦

.....

一千二百

於子游

.....

一千二百

男妾

.....

一千二百

汪可受

.....

一千二百

牛犢

.....

二千二百

王大

.....

二千二百

樂仲

.....

二千二百

香玉

.....

二千二百

三仙

.....

二千二百

鬼隸

.....

二千二百

王十

.....

二千二百

大男

.....

二千二百

外國人

.....

二千二百

韋公子

.....

二千二百

石清虛

.....

二千二百

曾友於

.....

二千三百

嘉平公子

.....

二千四百

卷十一

.....

二千四百

二班

.....

二千四百

車夫

.....

二千四百

乩仙

.....

二千四百

苗生

.....

二千四百

蠍客

.....

二千四百

杜小雷

.....

二千四百

毛大福

.....

二千四百

霍神

.....

二千四百

李八缸

.....

二千四百

老龍船戶

.....

二千四百

青城婦

.....

二千四百

鴉鳥

.....

二千四百

古瓶

.....

二千四百

元少先生

.....

二千四百

薛慰娘

.....

二千四百

田子成

.....

二千四百

王桂庵

.....

二千四百

寄生附

.....

二千四百

周生

.....

二千四百

褚遂良

.....

二千四百

劉全

.....

二千四百

土化兔

.....

二千五百

鳥使

.....

二千五百

姬生

.....

二千五百

果報

.....

二千五百

公孫夏

.....

二千五百

韓方

.....

二千五百

紉針

.....

二千五百

桓侯

.....

二千五百

粉蝶

.....

二千五百

李檀斯

.....

二千五百

錦瑟

.....

二千五百

太原獄

.....

二千五百

新鄭訟

.....

二千五百

李象先

.....

二千五百

房文淑

.....

二千五百

秦檜

.....

二千五百

浙東生

.....

二千五百

博興女

.....

二千五百

一員官

.....

二千五百

丐汕

.....

二千五百

人妖

.....

二千五百

蟄蛇

.....

二千六百

晉人

.....

二千六百

龍

.....

二千六百

愛才

.....

二千六百

# 一、卷一

## 一、一、考城隍

予姊丈之祖宋公，諱燾，邑廩生。一日病臥，見吏人持牒，牽白顛馬來，云：「請赴試。」公言：「文宗未臨，何遽得考？」吏不言，但敦促之。公力病乘馬從去，路甚生疏，至一城郭，如王者都。移時入府廡，宮室壯麗。上坐十餘官，都不知何人，惟關壯繆可識。簷下設幾，墩各一，先有一秀才坐其末，公便與連肩。幾上各有筆札。俄題紙飛下，視之有八字，云：「一人二人，有心無心。」二公文成，呈殿上。公文中有一云：「有心為善，雖善不賞。無心為惡，雖惡不罰。」諸神傳

贊不已。召公上，諭曰：「河南缺一城隍，君稱其職。」公方悟，頓首泣曰：「辱膺寵命，何敢多辭？但老母七旬，奉養無人，請得終其天年，惟聽錄用。」上一帝王像者，即命稽母壽籍。有長須吏捧冊翻閱一過，白：「有陽算九年。」共躊躇間，關帝曰：「不妨令張生攝篆九年，瓜代可也。」乃謂公：「應即赴任，今推仁孝之心，給假九年。及期當復相召。」又勉勵秀才數語。二公稽首並下。秀才握手，送諸郊野，自言長山張某。以詩贈別，都忘其詞，中有「有花有酒春常在，無燭無燈夜自明」之句。

公既騎，乃別而去，及抵裏，豁若夢寤。時卒已三日，母聞棺中呻吟，扶出，半日始能語。問之長山，果有張生於是日

死矣。後九年，母果卒，營葬既畢，浣濯入室而沒。其岳家居城中西門裡，忽見公鏤膺朱幘，輿馬甚眾。登其堂，一拜而行。相共驚疑，不知其為神，奔詢鄉中，則已歿矣。公有自記小傳，惜亂後無存，此其略耳。

一、二、耳中人

譚晉玄，邑諸生也。篤信導引之術，寒暑不輟。行之數月，若有所得。

一日方趺坐，聞耳中小語如蠅，曰：「可以見矣。」開目即不復聞；合眸定息，又聞如故。謂是丹將成，竊喜。自是每坐輒聞。因俟其再言，當應以覘之。一日又言。乃微應曰：「可

以見矣。」俄覺耳中習習然似有物出。微睨之，小人長三寸許，貌獐惡，如夜叉狀，旋轉地上。心竊異之，姑凝神以觀其變。忽有鄰人假物，扣門而呼。小人聞之，意甚張皇，繞屋而轉，如鼠失窟。

譚覺神魂俱失，復不知小人何所之矣。遂得顛疾，號叫不休，醫藥半年，始漸愈。

### 一、三、尸變

陽信某翁者，邑之蔡店人。村去城五六里，父子設臨路店宿行商。有車夫數人，往來負販，輒寓其家。

一日昏暮，四人偕來，望門投止，則翁家客宿邸滿。四人計無復之，堅請容納。翁沉吟，思得一所，似恐不當客意。客言：「但求一席廈宇，更不敢有所擇。」時翁有子婦新死，停尸室中，子出購材木未歸。翁以靈所室寂，遂穿衢導客往。入其廬，燈昏案上。案後有搭帳，衣紙衾覆逝者。又觀寢所，則復室中有連榻。四客奔波頗困，甫就枕，鼻息漸粗。惟一客尚朦朧，忽聞床上察察有聲，急開目，則靈前燈火照視甚了。女尸已揭衾起。俄而下，漸入臥室。面淡金色，生絹抹額。俯近榻前，遍吹臥客者三。客大懼，恐將及己，潛引被覆首，閉息忍咽以聽之。未幾女果來，吹之如諸客。覺出房去，即聞紙衾聲。出首微窺，見殭臥猶初矣。客懼甚，不敢

作聲，陰以足踏諸客。而諸客絕無少動。顧念無計，不如著衣以竄。才起振衣，而察察之聲又作。客懼復伏，縮首衾中。覺女復來，連續吹數數始去。少間聞靈床作響，知其復臥。乃從被底漸漸出手得褲，遽就著之，白足奔出。尸亦起，似將逐客。比其離幃，而客已拔關出矣。尸馳從之。客且奔且號，村中人無有警者。欲叩主人之門，又恐遲為所及，遂望邑城路極力竄去。至東郊，瞥見蘭若，聞木魚聲，乃急搥山門。道人訝其非常，又不即納。旋踵尸已至，去身盈尺，客窘益甚。門外有白楊，圍四五尺許，因以樹自障。彼右則左之，彼左則右之。尸益怒。然各溘倦矣。尸頓立，客汗促氣

逆，庇樹間。尸暴起，伸兩臂隔樹探撲之。客驚僕。尸捉之不得，抱樹而殭。

道人竊聽良久，無聲，始漸出，見客臥地上。燭之死，然心下絲絲有動氣。負入，終夜始蘇。飲以湯水而問之，客具以狀對。時晨鐘已盡，曉色迷蒙，道人覘樹上，果見殭女，大駭。報邑宰，宰親詣質驗，使人拔女手，牢不可開。審諦之，則左右四指並卷如鉤，入木沒甲。又數人力拔乃得下。視指穴，如鑿孔然。遣役探翁家，則以尸亡客斃，紛紛正嘩。役告之故，翁乃從往，舁尸歸。客泣告宰曰：「身四人出，今一人歸，此情何以信鄉里？」宰與之牒，齎送以歸。

一、四、噴水

萊陽宋玉叔先生為部曹時，所僦第甚荒落。一夜二婢奉太夫人宿廳上，聞院內撲撲有聲，如縫工之噴水者。太夫人促婢起，穴窗窺視，見一老嫗，短身駝背，白發如帚，冠一髻長二尺許；周院環走，竦急作鵲行，且噴水出不窮。婢愕返白，太夫人亦驚起，兩婢扶窗下聚觀之。嫗忽逼窗，直噴櫺內，窗紙破裂，三人俱僕，而家人不之知也。

東曦既上，家人畢集，叩門不應，方駭。撬扉入，見一主二婢駢死一室，一婢膈下猶溫，扶灌之，移時而醒，乃述所見。先生至，哀憤欲死。細窮沒處，掘深三尺餘，漸暴白發。又

掘之，得一尸如所見狀，面肥腫如生。令擊之，骨肉皆爛，皮內盡清水。

一、五、瞳人語

長安土方棟，頗有才名，而佻脫不持儀節。每陌上見游女，輒輕薄尾綴之。

清明前一日，偶步郊郭。見一小車，朱葦繡幃，青衣數輩款段以從。內一婢乘小駟，容光絕美。稍稍近覘之，見車幔洞開，內坐二八女郎，紅妝艷麗，尤生平所未睹。目炫神奪，瞻戀弗舍，或先或後，從馳數里。忽聞女郎呼婢近車側，曰：「為我垂簾下。何處風狂兒郎，頻來窺瞻！」婢乃下簾，

怒顧生曰：「此芙蓉城七郎子新婦歸寧，非同田舍娘子，放教秀才胡覷！」言已，掬轍土揚生。

生眯目不可開。才一拭視，而車馬已渺。驚疑而返，覺目終不快，倩人啟臉撥視，則睛上生小翳，經宿益劇，淚簌簌不得止；翳漸大，數日厚如錢；右睛起旋螺。百藥無效，懊悶欲絕，頗思自懺悔。聞《光明經》能解厄，持一卷浼人教誦。初猶煩躁，久漸自安。旦晚無事，惟趺坐捻珠。持之一年，萬緣俱淨。

忽聞左目中小語如蠅，曰：「黑漆似，叵耐殺人！」右目中應曰：「可同小遨游，出此悶氣。」漸覺兩鼻中蠕蠕作癢，似有物出，離孔而去。久之乃返，復自鼻入眶中。又言曰：「許

時不窺園亭，珍珠蘭遽枯瘠死！生素喜香蘭，園中多種植，日常自灌溉，自失明，久置不問。忽聞此言，遽問妻蘭花何使憔悴死？妻詰其所自知。因告之故。妻趨驗之，花果槁矣，大異之。靜匿房中以俟之，見有小人，自生鼻內出，大不及豆，營營然竟出門去。漸遠遂迷所在。俄連臂歸，飛上面，如蜂蟻之投穴者。如此二三日。又聞左言曰：「隧道迂，還往甚非所便，不如自啟門。」右應曰：「我壁子厚，大不易。」左曰：「我試闢，得與爾俱。」遂覺左眶內隱似抓裂。少頃開視，豁見幾物。喜告妻，妻審之，則脂膜破小竅，黑睛熒熒，才如劈椒。越一宿，幃盡消；細視，竟重瞳也。但右目旋螺

如故。乃知兩瞳人合居一眶矣。生雖一目眇，而較之雙目者殊更了了。由是益自檢束，鄉中稱盛德焉。

異史氏曰：「鄉有士人，偕二友於途，遙見少婦控驢出其前，戲而吟曰：『有美人兮！』顧二友曰：『驅之！』相與笑騁，俄追及，乃其子婦，心赧氣喪，默不復語。友偽為不知也者，評鷺殊褻。士人忸怩，吃吃而言曰：『此長男婦也。』各隱笑而罷。輕薄者往往自侮，良可笑也。至於眯目失明，又鬼神之慘報矣。芙蓉城主不知何神，豈菩薩現身耶？然小郎君生關門戶，鬼神雖惡，亦何嘗不許人自新哉！」

一、六、畫壁

江西孟龍潭與朱孝廉客都中，偶涉一蘭若，殿宇禪舍，俱不甚弘敞，惟一老僧掛搭其中。見客入，肅衣出迓，導與隨喜。殿中塑志公像，兩壁畫繪精妙，人物如生。東壁畫散花天女，內一垂髻者，拈花微笑，櫻唇欲動，眼波將流。朱注目久，不覺神搖意奪，恍然凝思；身忽飄飄如駕雲霧，已到壁上。見殿閣重重，非復人世。一老僧說法座上，偏袒繞視者甚眾，朱亦雜立其中。少間似有人暗牽其裾。回顧，則垂髻兒蹶然竟去，履即從之，過曲欄，入一小舍，朱次且不敢前。女回首，搖手中花遙遙作招狀，乃趨之。舍內寂無人，遽擁之亦不甚拒，遂與狎好。既而閉戶去，囑勿咳。夜乃復

至。如此二日，女伴共覺之，共搜得生，戲謂女曰：「腹內小郎已許大，尚發蓬蓬學處子耶？」共捧簪珥促令上鬢。女含羞不語。一女曰：「妹妹姊姊，吾等勿久住，恐人不歡。」群笑而去。生視女，髻雲高簇，鬢鳳低垂，比垂髻時尤艷絕也。四顧無人，漸入猥褻，蘭麝熏心，樂方未艾。

忽聞吉莫靴鏗鏗甚厲，縲鎖鏘然，旋有紛囂騰辨之聲。女驚起，與朱竊窺，則見一金甲使者，黑面如漆，縮鎖挈槌，眾女環繞之。使者曰：「全未？」答言：「已全。」使者曰：「如有藏匿下界人即共出首，勿貽伊戚。」又同聲言：「無。」使者反身鶚顧，似將搜匿。女大懼，面如死灰，張皇謂朱曰：「可急匿榻下。」乃啟壁上小扉，猝遁去。朱伏不敢少息。俄聞

靴聲至房內，復出。未幾煩喧漸遠，心稍安；然戶外輒有往來語論者。朱局踣既久，覺耳際蟬鳴，目中火出，景狀殆不可忍，惟靜聽以待女歸，竟不復憶身之何自來也。

時孟龍潭在殿中，轉瞬不見朱，疑以問僧。僧笑曰：「往聽說法去矣。」問：「何處？」曰：「不遠。」少時以指彈壁而呼曰：「朱檀越！何久游不歸？」旋見壁間畫有朱像，傾耳佇立，若有聽察。僧又呼曰：「游侶久待矣！」遂飄忽自壁而下，灰心木立，目瞪口呆。孟大駭，從容問之。蓋方伏榻下，聞叩聲如雷，故出房窺聽也。共視拈花人，螺髻翹然，不復垂髻矣。朱驚拜老僧而問其故。僧笑曰：「幻由人生，貧道

何能解！朱氣結而不揚，孟心駭嘆而無主。即起，歷階而出。

異史氏曰：「『幻由人生』，此言類有道者。人有淫心，是生褻境；人有褻心，是生怖境。菩薩點化愚蒙，千幻並作，皆人心所自動耳。老婆心切，惜不聞其言下大悟，披發入山也。」

一、七、山魃

孫太白嘗言，其曾祖肄業於南山柳溝寺。麥秋旋里，經旬始返。啟齋門，則案上塵生，窗間絲滿，命僕糞除，至晚始覺清爽可坐。乃拂榻陳臥具，扁扉就枕，月色已滿窗矣。輾轉

移時，萬簌俱寂。忽聞風聲隆隆，山門豁然作響，竊謂寺僧失扃。注念間，風聲漸近居廬，俄而房門闢矣。大疑之，思未定，聲已入屋。又有靴聲鏗鏗然，漸傍寢門。心始怖。俄而寢門闢矣。忽視之，一大鬼鞠躬塞入，突立榻前，殆與梁齊。面似老瓜皮色，目光睽閃，繞室四顧，張巨口如盆，齒疏疏長三寸許，舌動喉鳴，呵喇之聲，響連四壁，公懼極。又念咫尺之地勢無所逃，不如因而刺之。乃陰抽枕下佩刀，遽拔而所之，中腹，作石缶聲。鬼大怒，伸巨爪攫公。公少縮。鬼攫得袞，猝之，忿忿而去。公隨袞墮，伏地號呼。

家人持火奔集，則門閉如故，排窗入，見公狀，大駭。扶曳登床，始言其故。其驗之，則衾夾於寢門之隙。啟扉檢照，見有爪痕如箕，五指著處皆穿。

既明，不敢復留，負笈而歸。後問僧人，無復他異。

### 一、八、咬鬼

沈麟生云：其友某翁者，夏月晝寢，朦朧間見一女子牽簾入，以白布裹首，縗服麻裙，向內室去，疑鄰婦訪內人者。又轉念，何遽以兇服入人家？正自皇惑，女子已出。細審之，年可三十餘，顏色黃腫，眉目蹙蹙然，神情可畏。又逡巡不去，漸逼近榻。遂偽睡以觀其變。無何，女子攝衣登床壓腹

上，覺如百鈞重。心雖了了，而舉其手，手如縛；舉其足，足如痿也。急欲號救，而苦不能聲。女子以喙嗅翁面，顴鼻眉額殆遍。覺喙冷如冰，氣寒透骨。翁窘急中思得計：待嗅至頤頰，當即因而嚙之。未幾果及頤。翁乘勢力齧其顴，齒沒於肉。女負痛身離，且掙且啼。翁齧益力。但覺血液交頤，濕流枕畔。相持正苦，庭外忽聞夫人聲，急呼有鬼，一緩頰而女子已飄忽遁去。

夫人奔入，無所見，笑其魘夢之誣。翁述其異，且言有血證焉。相與檢視，如屋漏之水流浹枕席。伏而嗅之，腥臭異常。翁乃大吐。過數日，口中尚有餘臭云。

一、九、捉狐

孫翁者，餘姻家清服之伯父也，素有膽。一日晝臥，仿佛有物登床，遂覺身搖搖如駕雲霧。竊意無乃魘狐耶？微窺之，物大如貓，黃毛而碧嘴，自足邊來。蠕蠕伏行，如恐翁寤。逡巡附體，著足足痿，著股股軟。甫及腹，翁驟起，按而捉之，握其項。物鳴急莫能脫。翁亟呼夫人以帶系其腰，乃執帶之兩端笑曰：「聞汝善化，今注目在此，看作如何化法。」言次，物忽縮其腹細如管，幾脫去。翁乃大愕，急力縛之，則又鼓其腹粗於碗，堅不可下！力稍懈，又縮之。翁恐其脫，命夫人急殺之。夫人張皇四顧，不知刀之所在，翁左顧示以處。比回首則帶在手如環然，物已渺矣。

一、十、蕎中怪

長山安翁者，性喜操農功。秋間蕎熟，刈堆隴畔。時近村有盜稼者，因命佃人乘月輦運登場，俟其裝載歸，而自留邏守。遂枕戈露臥。日稍暝，忽聞有人踐蕎根咋咋作響。心疑暴客，急舉首，則一大鬼高丈餘，赤發盪須，去身已近。大怖，不遑他計，踴身暴起狠刺之。鬼鳴如雷而逝。恐其復來，荷戈而歸。迎佃人於途，告以所見，且戒勿往。眾未深信。越日曝麥於場，忽聞空際有聲。翁駭曰：「鬼物來矣！」乃奔，眾亦奔。移時復聚，翁命多設弓弩以俟之。異日果復來，數矢齊發，物懼而遁。二三日竟不復來。

麥既登倉，禾黠雜還，翁命收積為垛，而親登踐實之，高至數尺。忽遙望駭曰：「鬼物至矣！」眾急覓弓矢，物已奔翁。翁僕，齧其額而去。共登視，則去額骨如掌，昏不知人。負至家中，遂卒。後不復見。不知其為何怪也。

一、十一、宅妖

長山李公，大司寇之侄也。宅多妖異。嘗見廈有春凳，肉紅色，甚修潤。李以故無此物，近撫按之，隨手而曲，殆如肉軟，駭而卻走。旋回視則四足移動，漸入壁中。又見壁間倚白挺，潔澤修長。近扶之，膩然而倒，委蛇入壁，移時始沒。

康熙十七年，王生浚升設帳其家。日暮燈火初張，生著履臥榻上。忽見小人長三寸許，自外入。略一盤旋，即復去。少頃，荷二小凳來，設堂中，宛如小兒輩用梁黠心所制者。又頃之，二小人舁一棺入，長四寸許，停置凳上。安厝未已，一女子率廝婢數人來，率細小如前狀。女子衰衣，麻練束腰際，布裹首。以袖掩口，嚶嚶而哭，聲類巨蠅。生睥睨良久，毛發森立，如箱被於體。因大呼，遽走，顛床下，搖戰莫能起。館中人聞聲異，集堂中，人物杳然矣。

一、十二、王六郎

許姓，家淄之北郭，業漁。每夜攜酒河上，飲且漁。飲則酌酒於地，祝云：「河中溺鬼得飲。」以為常。他人漁，迄無所獲，而許獨滿筐。

一夕方獨酌，有少年來徘徊其側。讓之飲，慨與同酌。既而終夜不獲一魚，意頗失。少年起曰：「請於下流為君驅之。」遂飄然去。少間復返曰：「魚大至矣。」果聞唼呷有聲。舉網而得數頭皆盈尺。喜極，申謝。欲歸，贈以魚不受，曰：「屢叨佳醞，區區何足云報。如不棄，要當以為常耳。」許曰：「方共一夕，何言屢也？如肯永顧，誠所甚願，但愧無以為情。」

詢其姓字，曰：「姓王，無字，相見可呼王六郎。」遂別。明日，許貨魚益利，沾酒。晚至河干，少年已先在，遂與歡飲。飲數杯，輒為許驅魚。如是半載，忽告許曰：「拜識清揚，情逾骨肉，然相別有日矣。」語甚淒楚。驚問之，欲言而止者再，乃曰：「情好如吾兩人，言之或勿訝耶？今將別，無妨明告：我實鬼也。素嗜酒，沉醉溺死數年於此矣。前君之獲魚獨勝於他人者，皆僕之暗驅以報酹奠耳。明日業滿，當有代者，將往投生。相聚只今夕，故不能無感。」許初聞甚駭，然親狎既久，不復恐怖。因亦欵欵，酌而言曰：「六郎飲此，勿戚也。相見遽違，良足悲惻。然業滿劫脫，正宜相賀，悲乃不倫。」遂與暢飲。因問：「代者何人？」曰：「兄於河畔視

之，亭午有女子渡河而溺者是也。」聽村雞既唱，灑涕而別。明日敬伺河邊以覘其異。果有婦人抱嬰兒來，及河而墮。兒拋岸上，揚手擲足而啼。婦沉浮者屢矣，忽淋淋攀岸以出。藉地少息，抱兒徑去。當婦溺時，意良不忍，思欲奔救；轉念是所以代六郎者，故止不救。及婦自出，疑其言不驗。抵暮，漁舊處，少年復至，曰：「今又聚首，且不言別矣。」問其故。曰：「女子已相代矣；僕憐其抱中兒，代弟一人遂殘二命，故舍之。更代不知何期。或吾兩人之緣未盡耶？」許感嘆曰：「此仁人之心，可以通上帝矣。」由此相聚如初。

數日又來告別，許疑其復有代者，曰：「非也。前一念惻隱，果達帝天。今授為招遠縣鄔鎮土地，來日赴任。倘不忘故交，

當一往探，勿憚修阻。」許賀曰：「君正直為神，甚慰人心。但人神路隔，即不憚修阻，將復如何？」少年曰：「但往勿慮。」再三叮嚀而去。許歸，即欲制裝東下，妻笑曰：「此去數百里，即有其地，恐土偶不可以共語。」許不聽，竟抵招遠。問之居人，果有鄔鎮。尋至其處，息肩逆旅，問祠所在。主人驚曰：「得無客姓為許？」許曰：「然。何見知？」又曰：「得無客邑為淄？」曰：「然。何見知？」主人不答遽出。俄而丈夫抱子，媳女窺門，雜沓而來，環如墻堵。許益驚。眾乃告曰：「數夜前夢神言：淄川許友當即來，可助一資斧。祇候已久。」許亦異之，乃往祭於祠而祝曰：「別君後，寤寐不去心，遠踐曩約。又蒙夢示居人，感篆中懷。愧無腆物，

僅有卮酒，如不棄，當如河上之飲。」祝畢焚錢紙。俄見風起座後，旋轉移時始散。至夜夢少年來，衣冠楚楚，大異平時，謝曰：「遠勞顧問，喜淚交並。但任微職，不便會面，咫尺河山，甚愴於懷。居人薄有所贈，聊酬夙好。歸如有期，尚當走送。」居數日，許欲歸，眾留殷懇，朝請暮邀，日更數主。許堅辭欲行。眾乃折柬抱襪，爭來致贐，不終朝，饋遺盈橐。蒼頭稚子，畢集祖送。出村，欸有羊角風起，隨行十餘里。許再拜曰：「六郎珍重！勿勞遠涉。君心仁愛，自能造福一方，無庸故人囑也。」風盤旋久之乃去。村人亦嗟訝而返。

許歸，家稍裕，遂不復漁。後見招遠人問之，其靈應如響云。或言即章丘石坑莊。未知孰是？

異史氏曰：「置身青雲無忘貧賤，此其所以神也。今日車中貴介，寧復識戴笠人哉？余鄉有林下者，家甚貧。有童稚交任肥秩，計投之必相周顧。竭力辦裝，奔涉千里，殊失所望。瀉囊貨騎始得歸。其族弟甚諧，作月令嘲之云：『是月也，哥哥至，貂帽解，傘蓋不張，馬化為驢，靴始收聲。』念此可為一笑。」

一、十三、偷桃

童時赴郡試，值春節。舊例，先一日各行商賈，彩樓鼓吹赴藩司，名曰「演春」。餘從友人戲矚。

是日游人如堵。堂上四官皆赤衣，東西相向坐，時方稚，亦不解其何官，但聞人語嚙嘈，鼓吹聒耳。忽有一人率披發童，荷擔而上，似有所白；萬聲洶湧，亦不聞其為何語，但視堂上作笑聲。即有青衣人大聲命作劇。其人應命方興，問：「作何劇？」堂上相顧數語，吏下宣問所長。答言：「能顛倒生物。」吏以白官。小頃復下，命取桃子。

術人應諾，解衣覆笥上，故作怨狀，曰：「官長殊不了了！堅冰未解，安所得桃？不取，又恐為南面者怒，奈何！」其子曰：「父已諾之，又焉辭？」術人惆悵良久，乃曰：「我籌之爛熟：春初雪積，人間何處可覓？惟王母園中四時常不凋謝，或有之。必竊之天上乃可。」子曰：「嘻！天可階而升乎？」曰：「有術在。」乃啟笥，出繩一團約數十丈，理其端，望空中擲去；繩即懸立空際，若有物以掛之。未幾愈擲愈高，渺入雲中，手中繩亦盡。乃呼子曰：「兒來！餘老憊，體重拙，不能行，得汝一往。」遂以繩授子，曰：「持此可登。」子受繩有難色，怨曰：「阿翁亦大憤憤！如此一線之繩，欲我附之以登萬仞之高天，倘中道斷絕，骸骨何存矣！」

父又強鳴拍之，曰：「我已失口，追悔無及，煩兒一行。倘竊得來，必有百金賞，當為兒娶一美婦。」子乃持索，盤旋而上，手移足隨，如蛛趁絲，漸入雲霄，不可復見。久之，墜一桃如碗大。術人喜，持獻公堂。堂上傳示良久，亦不知其真偽。

忽而繩落地上，術人驚曰：「殆矣！上有人斷吾繩，兒將焉托！移時一物墜，視之，其子首也。捧而泣曰：「是必偷桃為監者所覺。吾兒休矣！」又移時一足落；無何，肢體紛墜，無復存者。術人大悲，一一拾置笥中而闔之，曰：「老夫止此兒，日從我南北游。今承嚴命，不意罹此奇慘！當負去瘞

之。」乃升堂而跪，曰：「為桃故，殺吾子矣！如憐小人而助之葬，當結草以圖報耳。」坐官駭詫，各有賜金。

術人受而纏諸腰，乃扣筭而呼曰：「八八兒，不出謝賞將何待？」忽一蓬頭童首抵筭蓋而出，望北稽首，則其子也。以其術奇，故至今猶記之。後聞白蓮教能為此術，意此其苗裔耶？

#### 一、十四、種梨

有鄉人貨梨於市，頗甘芳，價騰貴。有道士破巾絮衣丐於車前，鄉人咄之亦不去，鄉人怒，加以叱罵。道士曰：「一車

數百顆，老衲止丐其一，於居士亦無大損，何怒為？」觀者勸置劣者一枚令去，鄉人執不肯。

肆中傭保者，見喋聒不堪，遂出錢市一枚付道士。道士拜謝，謂眾曰：「出家人不解吝惜。我有佳梨，請出供客。」或曰：「既有之何不自食？」曰：「我特需此核作種。」於是掬梨啖，且盡，把核於手，解肩上鑿，坎地深數寸納之，而覆以土。向市人索湯沃灌，好事者於臨路店索得沸沈，道士接浸坎上。萬日攢視，見有勾萌出，漸大；俄成樹，枝葉扶蘇；倏而花，倏而實，碩大芳馥，累累滿樹。道士乃即樹頭摘賜觀者，頃刻向盡。已，乃以鑿伐樹，丁丁良久方斷。帶葉荷肩頭，從容徐步而去。

初道士作法時，鄉人亦雜立眾中，引領注目，竟忘其業。道士既去，始顧車中，則梨已空矣，方悟適所俵散皆已物也。又細視車上一靶亡，是新鑿斷者。心大憤恨。急跡之，轉過墻隅，則斷靶棄垣下，始知所伐梨本即是物也，道士不知所。一市粲然。

異史氏曰：「鄉人憤憤，愍狀可掬，其見笑於市人有以哉。每見鄉中稱素豐者，良朋乞米，則怫然，且計曰：『是數日之資也。』或勸濟一危難，飯一瑩獨，則又忿然，又計曰：『此十人五人之食也。』甚而父子兄弟，較盡錙銖。及至淫博迷心，則頃囊不吝；刀鋸臨頸，則贖命不遑。諸如此類，正不勝道，蠢爾鄉人，又何足怪。」

一、十五、勞山道士

邑有王生，行七，故家子。少慕道，聞勞山多仙人，負笈往游。登一頂，有觀宇甚幽。一道士坐蒲團上，素發垂領，而神光爽邁。叩而與語，理甚玄妙。請師之，道士曰：「恐矯情不能作苦。」答言：「能之。」其門人甚眾，薄暮畢集，王俱與稽首，遂留觀中。

凌晨，道士呼王去，授一斧，使隨眾採樵。王謹受教。過月餘，手足重繭，不堪其苦，陰有歸志。一夕歸，見二人與師共酌，日已暮，尚無燈燭。師乃剪紙如鏡粘壁間，俄頃月明輝室，光鑒毫芒。諸門人環聽奔走。一客曰：「良宵勝樂，不可不

同。」乃於案上取酒壺分贖諸徒，且囑盡醉。王自思：七八人，壺酒何能遍給？遂各覓盞盃，競飲先釀，惟恐樽盡，而往復挹注，竟不少減。心奇之。俄一客曰：「蒙賜月明之照，乃爾寂飲，何不呼嫦娥來？」乃以箸擲月中。見一美人自光中出，初不盈尺，至地遂與人等。纖腰秀項，翩翩作「霓裳舞」。已而歌曰：「仙仙乎！而還乎！而幽我於廣寒乎！」其聲清越，烈如簫管。歌畢，盤旋而起，躍登幾上，驚顧之間，已復為箸。三人大笑。又一客曰：「今宵最樂，然不勝酒力矣。其餞我於月宮可乎？」三人移席，漸入月中。眾視三人，坐月中飲，須眉畢見，如影之在鏡中。移時月漸暗，門人燃燭來，則道士獨坐，而客杳矣。幾上肴核尚存；壁上月，紙

圓如鏡而已。道士問眾：「飲足乎？」曰：「足矣。」「足，宜早寢，勿誤樵蘇。」眾諾而退。王竊欣慕，歸念遂息。

又一月，苦不可忍，而道士並不傳教一本。心不能待，辭曰：「弟子數百里受業仙師，縱不能得長生術，或小有傳習，亦可慰求教之心。今閱兩三月，不過早樵而暮歸。弟子在家，未諳此苦。」道士笑曰：「吾固謂不能作苦，今果然。明早當遣汝行。」王曰：「弟子操作多日，師略授小技，此來為不負也。」道士問：「何術之求？」王曰：「每見師行處，牆壁所不能隔，但得此法足矣。」道士笑而允之。乃傳一訣，令自咒畢，呼曰：「入之！」王面牆不敢入。又曰：「試入之。」王果從容入，及牆而阻。道士曰：「俯首輒入，勿逡巡！」王果

去墻數步奔而入，及墻，虛若無物，回視，果在墻外矣。大喜，入謝。道士曰：「歸宜潔持，否則不驗。」遂助資斧遣歸。抵家，自詡遇仙，堅壁所不能阻，妻不信。王效其作為，去墻數尺，奔而入；頭觸硬壁，驀然而踣。妻扶視之，額上墳起如巨卵焉。妻擲揄之。王漸忿，罵老道士之無良而已。異史氏曰：「聞此事，未有不大笑者，而不知世之為王生者正復不少。今有傖父，喜痰毒而畏藥石，遂有舐吮癰痔者，進宣威逞暴之術，以迎其旨，給之曰：『執此術也以往，可以橫行而無礙。』初試未嘗不小效，遂謂天下之大，舉可以如是行矣，勢不至觸硬壁而顛蹶不止也。」

一、十六、長清僧

長清僧道行高潔，年七十餘猶健。一日顛僕不起，寺僧奔救，已圓寂矣。僧不自知死，魂飄去至河南界。河南有故紳子，率十餘騎按鷹獵兔。馬逸，墜斃。僧魂適值，翕然而合，遂漸蘇。廝僕環問之，張目曰：「胡至此！」眾扶歸。入門，則粉白黛綠者，紛集顧問。大駭曰：「我僧也，胡至此！」家人以為妄，共提耳悟之。僧亦不自申解，但閉目不復有言。餉以脫粟則食，酒肉則拒。夜獨宿，不受妻妾奉。數日後，忽思少步。眾皆喜。既出少定，即有諸僕紛來，錢簿穀籍，雜請會計。公子托以病倦，悉謝絕之。惟問：「山東長清縣知

之否？」共答：「知之。」曰：「我鬱無聊賴，欲往游矚，宜即治任。」眾謂：「新瘳，未應遠涉。」不聽，翼日遂發。

抵長清，視風物如昨。無煩問途，竟至蘭若。弟子數人見貴客至，伏謁甚恭。乃問：「老僧焉往？」答云：「吾師曩已物化。」問墓所，群導以往，則三尺孤墳，荒草猶未合也。眾僧不知何意。既而戒馬欲歸，囑曰：「汝師戒行之僧，所遺手澤宜恪守，勿俾損壞。眾唯唯。乃行。

既歸，灰心木坐，了不勾當家務。居數月，出門自遁，直抵舊寺，謂弟子曰：「我即汝師。」眾疑其謬，相視而笑。乃述返魂之由，又言生平所為，悉符。眾乃信，居以故榻，事之如平日。後公子家屢以輿馬來哀請之，略不顧瞻。又年餘，

夫人遣紀綱至，多所饋遺，金帛皆卻之，惟受布袍一襲而已。友人或至其鄉，敬造之。見其人默然誠篤，年僅三十，而輒道其八十餘年事。

異史氏曰：「人死則魂散，其千里而不散者，性定故耳。餘於僧，不異之乎其再生，而異之乎其入紛華靡麗之鄉，而能絕人以逃世也。若眼睛一閃，而蘭麝熏心，有求死而不得者矣，況僧乎哉！」

一、十七、蛇人

東郡某甲，以弄蛇為業。嘗蓄馴蛇二，皆青色，其大者呼之大青，小曰二青。二青額有赤點，尤靈馴，盤旋無不如意。

蛇人愛之異於他蛇。期年大青死，思補其缺，未暇遑也。一夜寄宿山寺。既明啟笥，二青亦渺，蛇人悵恨欲死。冥搜亟呼，迄無影兆。然每至豐林茂草，輒縱之去，俾得自適，尋復返；以此故冀其自至。坐伺之，日既高，亦已絕望，怏怏遂行。出門數武，聞叢薪錯楚中窸窣作響，停趾愕顧，則二青來也。大喜，如獲拱璧。息肩路隅，蛇亦頓止。視其後，小蛇從焉。撫之曰：「我以汝為逝矣。小侶而所薦耶？」出餌飼之，兼飼小蛇。小蛇雖不去，然瑟縮不敢食。二青含哺之，宛似主人之讓客者。蛇人又飼之，乃食。食已，隨二青俱入笥中。荷去教之旋折，輒中規矩，與二青無少異，因名之小青。炫技四方，獲利無算。

大抵蛇人之弄蛇也，止以二尺為率，大則過重，輒更易。緣二青馴，故未遽棄。又二三年，長三尺餘，臥則笥為之滿，遂決去之。一日至淄邑東山間，飼以美餌，祝而縱之。既去，頃之復來，蜿蜒笥外。蛇人揮曰：「去之！世無百年不散之筵。從此隱身大谷，必且為神龍，笥中何可以久居也？」蛇乃去。蛇人目送之。已而復返，揮之不去，以首觸笥，小青在中亦震震而動。蛇人悟曰：「得毋欲別小青也？」乃發笥，小青徑出，因與交首吐舌，似相告語。已而委蛇並去。方意小青不還，俄而踽踽獨來，竟入笥臥。由此隨在物色，迄無佳者，而小青亦漸大不可弄。後得一頭亦頗馴，然終不如小青良。而小青粗於兒臂矣。

先是二青在山中，樵人多見之。又數年，長數尺，圍如碗，漸出逐人，因而行旅相戒，罔敢出其途。一日蛇人經其處，蛇暴出如風，蛇人大怖而奔。蛇逐益急，回顧已將及矣。而視其首，朱點儼然，始悟為二青。下擔呼曰：「二青，二青！蛇頓止。昂首久之，縱身繞蛇人如昔弄狀，覺其意殊不惡，但軀沉重，不勝其繞，僕地呼禱，乃釋之。又以首觸笥，蛇人悟其意，開笥出小青。二蛇相見，交纏如飴糖狀，久之始開。蛇人乃祝小青曰：「我久欲與汝別，今有伴矣。」謂二青曰：「原君引之來，可還引之去。更囑一言：深山不乏食飲，勿擾行人，以犯天譴。」二蛇垂頭，似相領受。遽起，大者

前，小者後，過處林木為之中分。蛇人佇立望之，不見乃去。此後行人如常，不知二蛇何往也。

異史氏曰：「蛇，蠢然一物耳，乃戀戀有故人之意，且其從諫也如轉圜。獨怪儼然而人也者，以十年把臂之交，數世蒙恩之主，轉思下井復投石焉；又不然則藥石相投，悍然不顧，且怒而仇焉者，不且出斯蛇下哉。」

一、十八、斫蟒

胡田村胡姓者，兄弟採樵，深入幽谷。遇巨蟒，兄在前為所吞，弟初駭欲奔，見兄被噬，遂怒出樵斧斫蟒首。首傷而吞不已。然頭雖已沒，幸肩際不能下。弟急極無計，乃兩手持

兄足力與蟒爭，竟曳兄出。蟒亦負痛去。視兄，則鼻耳俱化，奄將氣盡。肩負以行，途中凡十餘息始至家。醫養半年方愈。至今面目皆癩痕，鼻耳惟孔存焉。噫！農人中乃有悌弟如此哉！或言：「蟒不為害，乃德義所感。」信然！

一、十九、犬奸

青州賈某客於外，恆經歲不歸。家蓄一白犬，妻引與交，習為常。一日夫婦，與妻共臥。犬突入，登榻嚙賈人竟死。後里舍稍聞之，共為不平，鳴於官。官械婦，婦不肯伏，收之。命縛犬來，始取婦出。犬忽見婦，直前碎衣作交狀。婦始無詞。使兩役解部院，一解人而一解犬。有欲觀其合者，共斂

錢賂役，役乃牽聚令交。所止處觀者常百人，役以此網利焉。後人犬俱寸磔以死。嗚呼！天地之大，真無所不有矣。然人面而獸交者，獨一婦也乎哉？

異史氏為之判曰：「會於濮上，古所交譏；約於桑中，人且不齒。乃某者，不堪雌守之苦。浪思苟合之歡。夜叉伏床，竟是家中牝獸；捷卿入竇，遂為被底情郎。雲雨臺前，亂搖續貂之尾；溫柔鄉里，頻款曳象之腰。銳錐處於皮囊，一縱股而脫穎；留情結於鏃項，甫飲羽而生根。忽思異類之交，直屬匪夷之想。龍吠奸而為奸，妒殘兇殺，律難治以蕭曹；人非獸而實獸，奸穢淫腥，肉不食於豺虎。嗚呼！人奸殺則女擬以副；至於犬奸殺陽世遂無其刑。人不良則罰人作犬，

至於犬不良陰曹應窮於法。宜支解以追魂魄，請押赴以問閻羅。」

一、二十、雹神

王公筠倉蒞任楚中，擬登龍虎山謁天師。及湖，甫登舟，即有一人駕小艇來，使舟中人為通。公見之，貌修偉，懷中出天師刺，曰：「聞騶從將臨，先遣負弩。」公訝其預知，益神之，誠意而往。

天師治具相款。其服役者，衣冠須鬣多不類常人，前使者亦侍其側。少間向天師細語，天師謂公曰：「此先生同鄉，不之識耶？」公問之。曰：「此即世所傳雹神李左車也。」公愕

然改容。天師曰：「適言奉旨雨雹，故告辭耳。」公問：「何處？」曰：「章丘。」公以接壤關切，離席乞免。天師曰：「此上帝玉敕，雹有額數，何能相徇？」公哀不已。天師垂思良久，乃顧而囑曰：「其多降山谷，勿傷禾稼可也。」又囑：「貴客在坐，文去勿武。」神出至庭中，忽足下生煙，氤氳匝地。俄延逾刻，極力騰起，才高於庭樹；又起，高於樓閣。霹靂一聲，向北飛去，屋宇震動，筵器擺簸。公駭曰：「去乃作雷霆耶！」天師曰：「適戒之，所以遲遲，不然平地一聲，便逝去矣。」公別歸，志其月日，遣人問章丘。是日果大雨雹，溝渠皆滿，而田中僅數枚焉。

一、二十一、狐嫁女

歷城殷天官，少貧，有膽略。邑有故家之第，廣數十畝，樓宇連瓦。常見怪異，以故廢無居人。久之蓬蒿漸滿，白晝亦無敢入者。會公與諸生飲，或戲云：「有能寄此一宿者，共釀為筵。」公躍起曰：「是亦何難！」攜一席往。眾送諸門，戲曰：「吾等暫候之，如有所見，當急號。」公笑云：「有鬼狐當捉證耳。」

遂入，見長莎蔽徑，蒿艾如麻。時值上弦，幸月色昏黃，門戶可辨。摩娑數進，始抵後樓。登月臺，光潔可愛，遂止焉。西望月明，惟銜山一線耳。坐良久，更無少異，竊笑傳言之

訛。席地枕石，臥看牛女。一更向盡，恍惚欲寐。樓下有履聲籍籍而上。假寐睨之，見一青衣人挑蓮燈，猝見公，驚而卻退。語後人曰：「有生人在。」下問：「誰也？」答云：「不識。」俄一老翁上，就公諦視，曰：「此殷尚書，其睡已酣。但辦吾事，相公倜儻，或不叱怪。」乃相率入樓，樓門盡闢。移時往來者益眾。樓上燈輝如晝。公稍稍轉側作嚏咳。翁聞公醒，乃出跪而言曰：「小人有箕帚女，今夜於歸。不意有觸貴人，望勿深罪。」公起，曳之曰：「不知今夕嘉禮，慚無以賀。」翁曰：「貴人光臨，壓除兇煞，幸矣。即煩陪坐，倍益光寵。」公喜，應之。入視樓中，陳設綺麗。遂有婦人出拜，年可四十餘。翁曰：「此拙荊。」公揖之。俄聞笙樂聒

耳，有奔而上者，曰：「至矣！」翁趨迎，公亦立俟。少間籠紗一簇，導新郎入。年可十七八，豐採韶秀。翁命先與貴客為禮。少年目公。公若為僮，執半主禮。次翁婿交拜，已，乃即席。少間粉黛雲從，酒馥霧霏，玉碗金甌，光映幾案。酒數行，翁喚女奴請小姐來。女奴諾而入，良久不出。翁自起，牽韓促之。俄婢娼輩擁新人出，環佩璆然，麝蘭散馥。翁命向上拜。起，即坐母側。微目之，翠鳳明璫，容華絕世。既而酌以金爵，大容數斗。公思此物可以持驗同人，陰內袖中。偽醉隱幾，頹然而寢。皆曰：「相公醉矣。」居無何，聞新郎告行，笙樂暴作，紛紛下樓而去。已而主人斂酒具，小一爵，冥搜不得。或竊議臥客。翁急戒勿語，惟恐公聞。

移時內外俱寂。公始起。暗無燈火，惟脂香酒氣，充溢四堵。視東方既白，乃從容出。探袖中，金爵猶在。及門，則諸生先候，疑其夜出而早入者。公出爵示之。眾駭問，公以狀告。共思此物非寒士所有，乃信之。

後公舉進士，任肥丘。有世家朱姓宴公，命取巨觥，久之不至。有細奴掩口與主人語，主人有怒色。俄奉金爵勸客飲。諦視之，款式雕文，與狐物更無殊別。大疑，問所從制。答云：「爵凡八隻，大人為京卿時，覓良工監制。此世傳物，什襲已久。緣明府辱臨，適取諸箱篋，僅存其七，疑家人所竊取，而十年塵封如故，殊不可解。」公笑曰：「金杯羽化矣。然世守之珍不可失。僕有一具，頗近似之，當以奉贈。」終

筵歸署，揀爵持送之。主人審視，駭絕。親詣謝公，詰所自來，公為歷陳顛末。始知千里之物，狐能攝致，而不敢終留也。

一、二十二、嬌娜

孔生雪笠，聖裔也。為人蘊藉，工詩。有執友令天臺，寄函招之。生往，令適卒，落拓不得歸，寓普陀寺，傭為寺僧抄錄。寺西百餘步有單先生第，先生故公子，以大訟蕭條，眷口寡，移而鄉居，宅遂曠焉。

一日大雪崩騰，寂無行旅。偶過其門，一少年出，豐採甚都。見生，趨與為禮，略致慰問，即屈降臨。生愛悅之，慨然從

入。屋宇都不甚廣，處處悉懸錦幕，壁上多古人書畫。案頭書一冊，簽曰《瑯嬛瑣記》。翻閱一過，皆目所未睹。生以居單第，以為第主，即亦不審官閥。少年細詰行蹤，意憐之，勸設帳授徒。生嘆曰：「羈旅之人，誰作曹丘者？」少年曰：「倘不以駑駘見斥，願拜門牆。」生喜，不敢當師，請為友。便問：「宅何久錮？」答曰：「此為單府，曩以公子鄉居，是以久曠。僕，皇甫氏，祖居陝。以家宅焚於野火，暫借安頓。」生始知非單。當晚談笑甚歡，即留共榻。

昧爽，即有僮子熾炭火於室。少年先起入內，生尚擁被坐。僮入白：「太翁來。」生驚起。一叟入，鬢發皤然，向生殷謝曰：「先生不棄頑兒，遂肯賜教。小子初學塗鴉，勿以友故，

行輩視之也。」已，乃進錦衣一襲，貂帽、襪、履各一事。視生盥櫛已，乃呼酒薦饌。幾、榻、裙、衣，不知何名，光彩射目。酒數行，叟興辭曳杖而去。餐訖，公子呈課業，類皆古文詞，並無時藝。問之，笑云：「僕不求進取也。」抵暮，更酌曰：「今夕盡歡，明日便不許矣。」呼僮曰：「視太公寢未？已寢，可暗喚香奴來。」僮去，先以繡囊將琵琶至。少頃一婢入，紅妝艷艷。公子命彈湘妃，婢以牙撥勾動，激揚哀烈，節拍不類夙聞。又命以巨觴行酒，三更始罷。次日早起共讀。公子最慧，過目成詠，二三月後，命筆警絕。相約五日一飲，每飲必招香奴。一夕酒酣氣熱，目注之。公子已會其意，曰：「此婢乃為老父所豢養。兄曠邈無家，我夙夜

代籌久矣，行當為君謀一佳耦。」生日：「如果惠好，必如香奴者。」公子笑曰：「君誠少所見而多所怪者矣。以此為佳，君願亦易足也。」居半載，生欲翱翔郊郭，至門，則雙扉外扃，問之，公子曰：「家君恐交游紛意念，故謝客耳。」生亦安之。

時盛暑溽熱，移齋園亭。生胸間腫起如桃，一夜如碗，痛楚呻吟。公子朝夕省視，眠食俱廢。又數日創劇，益絕食飲。太翁亦至，相對太息。公子曰：「兒前夜思先生清恙，嬌娜妹子能療之，遣人於外祖母處呼令歸。何久不至？」俄僮入白：「娜姑至，姨與松姑同來。」父子即趨入內。少間，引妹來視生。年約十三四，嬌波流慧，細柳生姿。生望見艷色，

嘖呻頓忘，精神為之一爽。公子便言：「此兄良友，不啻同胞也，妹子好醫之。」女乃斂羞容，揄長袖，就榻診視。把握之間，覺芳氣勝蘭。女笑曰：「宜有是疾，心脈動矣。然癥雖危，可治；但膚塊已凝，非伐皮削肉不可。」乃脫臂上金釧安患處，徐徐按下之。創突起寸許，高出釧外，而根際余腫，盡束在內，不似前如碗闊矣。乃一手啟羅衿，解佩刀，刃薄於紙，把釧握刃，輕輕附根而割，紫血流溢，沾染床席。生貪近嬌姿，不惟不覺其苦，且恐速竣割事，俛傍不久。未幾割斷腐肉，團團然如樹上削下之瘻。又呼水來，為洗割處。口吐紅丸如彈大，著肉上按令旋轉。才一周，覺熱火蒸騰；

再一周，習習作癢；三周已，遍體清涼，沁入骨髓。女收丸入咽，曰：「愈矣！」趨步出。

生躍起走謝，沉痾若失。而懸想容輝，苦不自己。自是廢卷癡坐，無復聊賴。公子已窺之，曰：「弟為兄物色得一佳耦。」問：「何人？」曰：「亦弟眷屬。」生凝思良久，但云：「勿須也！」面壁吟曰：「曾經滄海難為水，除卻巫山不是雲。」公子會其旨，曰：「家君仰慕鴻才，常欲附為婚姻。但止一少妹，齒太稚。有姨女阿松，年十八矣，頗不粗陋。如不見信，松姊曰涉園亭，伺前廂可望見之。」生如其教，果見嬌娜偕麗人來，畫黛彎蛾，蓮鉤蹴鳳，與嬌娜相伯仲也。生大悅，求公子作伐。公子異曰自內出，賀曰：「諧矣。」乃除別院，為

生成禮。是夕鼓吹闐咽，塵落漫飛，以望中仙人，忽同衾幄，遂疑廣寒宮殿，未必在雲霄矣。合卺之後，甚愜心懷。

一夕公子謂生曰：「切磋之惠，無日可以忘之。近單公子解訟歸，索宅甚急，意將棄此而西。勢難復聚，因而離緒縈懷。」生願從之而去。公子勸還鄉閭，生難之。公子曰：「勿慮，可即送君行。」無何，太翁引松娘至，以黃金百兩贈生。公子以左右手與生夫婦相把握，囑閉目勿視。飄然履空，但覺耳際風鳴，久之，曰：「至矣。」啟目果見故里。始知公子非人。喜叩家門，母出非望，又睹美婦，方共忻慰。及回顧，則公子逝矣。松娘事姑孝，艷色賢名，聲聞遐邇。

後生舉進士，授延安司李，攜家之任。母以道遠不行。松娘生一男名小宦。生以忤直指罷官，掛礙不得歸。偶獵郊野，逢一美少年跨驪駒，頻頻瞻視。細看則皇甫公子也。攬轡停驂，悲喜交至。邀生去至一村，樹木濃昏，蔭翳天日。入其家，則金漚浮釘，宛然世家。問妹子，已嫁；岳母，已亡。深相感悼。經宿別去，偕妻同返。嬌娜亦至，抱生子掇提而弄曰：「姊姊亂吾種矣。」生拜謝曩德。笑曰：「姊夫貴矣。創口已合，未忘痛耶？」妹夫吳郎亦來謁拜。信宿乃去。

一日公子有憂色，謂生曰：「天降兇殃，能相救否？」生不知何事，但銳自任。公子趨出，招一家俱入，羅拜堂上。生大駭，亟問。公子曰：「余非人類，狐也。今有雷霆之劫。君肯

以身赴難，一門可望生全；不然，請抱子而行，無相累。」生矢共生死。乃使仗劍於門，囑曰：「雷霆轟擊，勿動也！」生如所教。果見陰雲晝暝，昏黑如□。回視舊居，無復□。閔，惟見高塚巋然，巨穴無底。方錯愕間，霹靂一聲，擺簸山嶽，急雨狂風，老樹為拔。生日眩耳聾，屹不少動。忽於繁煙黑絮之中，見一鬼物，利喙長爪，自穴攫一人出，隨煙直上。瞥睹衣履，念似嬌娜。乃急躍離地，以劍擊之，隨手墮落。忽而崩雷爆裂，生僕遂斃。

少間晴霽，嬌娜已能自蘇。見生死於旁，大哭曰：「孔郎為我而死，我何生矣！」松娘亦出，共舁生歸。嬌娜使松娘捧其首，先以金簪撥其齒，自乃撮其頤，以舌度紅丸入，又接

吻而呵之。紅丸隨氣入喉，格格作響，移時豁然而蘇。見眷口，恍如夢悟。於是一門團圓，驚定而喜。生以幽曠不可久居，議同旋里。滿堂交贊，惟嬌娜不樂。生請與吳郎俱，又慮翁媪不肯離幼子。終日議不果。忽吳家一小奴，汗流氣促而至。驚致研詰，則吳郎家亦同日遭劫，一門俱沒。嬌娜頓足悲傷，涕不可止。共慰勸之。而同歸之計遂決。

生入城，勾當數日，遂連夜趣裝。既歸以閑園寓公子，恆返關之；生及松娘至，始發扃。生與公子兄妹，棋酒談宴若一家然。小宦長成，貌韶秀，有狐意。出游都市，共知為狐兒也。

異史氏曰：「余於孔生，不羨其得艷妻，而羨其得膩友也。觀其容，可以療饑；聽其聲，可以解頤。得此良友，時一談宴，則『色授魂與』，尤勝於『顛倒衣裳』矣。」

一、二十三、僧孽

張某暴卒，隨鬼使去見冥王。王稽簿，怒鬼使誤捉，責令送歸。張下，私洩鬼使求觀冥獄。鬼導歷九幽，刀山、劍樹，一指點。末至一處，有一僧扎股穿繩而倒懸之，號痛欲絕。近視則其兄也。張見之驚哀，問：「何罪至此？」鬼曰：「是為僧，廣募金錢，悉供淫賭，故罰之。欲脫此厄，須其自懺。」張既蘇，疑兄已死。

時其兄居興福寺，因往探之。入門便聞其號痛聲。入室，見瘡生股間，膿血崩潰，掛足壁上，宛然冥司倒懸狀。駭問其故。曰：「掛之稍可，不則痛徹心腑。」張因告以所見。僧大駭，乃戒葷酒，虔誦經咒。半月尋愈。遂為戒僧。

異史氏曰：「鬼獄茫茫，惡人每以自解，而不知昭昭之禍，即冥冥之罰也。可勿懼哉！」

一、二十四、妖術

於公者，少任俠，喜拳勇，力能持高壺作旋風舞。崇禎間，殿試在都，僕疫不起，患之。會市上有善卜者，能決人生死，將代問之。

既至未言，卜者曰：「君莫欲問僕病乎？」公駭應之。曰：「病者無害，君可危。」公乃自卜，卜者起卦，愕然曰：「君三日當死！」公驚詫良久。卜者從容曰：「鄙人有小術，報我十金，當代禳之。」公自念生死已定，術豈能解，不應而起，欲出。卜者曰：「惜此小費，勿悔！勿悔！」愛公者皆為公懼，勸罄橐以哀之。公不聽。

倏忽至三日，公端坐旅舍，靜以覘之，終日無恙。至夜，闔戶挑燈，倚劍危坐。一漏向盡，更無死法。意欲就枕，忽聞窗隙窸窣有聲。急視之，一小人荷戈入，及地則高如人。公捉劍起急擊之，飄忽未中。遂遽小，復尋窗隙，意欲遁去。公疾斫之，應手而倒。燭之，則紙人，已腰斷矣。公不敢臥，

又坐待之。逾時一物穿窗入，怪獐如鬼。才及地，急擊之，斷而為兩，皆蠕動。恐其復起，又連擊之，劍劍皆中，其聲不軟。審視則土偶，片片已碎。

於是移坐窗下，目注隙中。久之，聞窗外如牛喘，有物推窗，欂，房壁震搖，其勢欲傾。公懼覆壓，計不如出而鬥，遂劃然脫肩，奔而出。見一巨鬼，高與簷齊；昏月中見其面黑如煤，眼閃爍有黃光；上無衣，下無履，手弓而腰矢。公方駭，鬼則彎矣。公以劍撥矢，矢墮。欲擊之，則又彎矣。公急躍避，矢貫於壁，戰戰有聲。鬼怒甚，拔佩刀，揮如風，望公力劈。公猱進，刀中庭石，石立斷。公出其股間，削鬼中踝，鏗然有聲。鬼益怒，吼如雷，轉身復剝。公又伏身入，刀落，

斷公裙。公已及脅下，猛斫之，亦鏗然有聲，鬼僕而殭。公亂擊之，聲硬如柝。燭之則一木偶，高大如人。弓矢尚纏腰際，刻畫猙獰；劍擊處，皆有血出。公因秉燭待旦。方語鬼物皆卜人遣之，欲致人於死，以神其術也。

次日，遍告交知，與共詣卜所。卜人遙見公，瞥不可見。或曰：「皆翳形術也，犬血可破。」公如其言，戒備而往。卜人又匿如前。急以犬血沃立處，但見卜人頭面，皆為犬血模糊，目灼灼如鬼立。乃執付有司而殺之。

異史氏曰：「嘗謂買卜為一癡。世之講此道而不爽於生死者幾人？卜之而爽，猶不卜也。且即明明告我以死期之至，將復如何？況借人命以神其術者，其可畏尤甚耶！」

一、二十五、野狗

於七之亂，殺人如麻。鄉民李化龍，自山中竄歸。值大兵宵進，恐罹炎昆之禍，急無所匿，殭臥於死人之叢詐作尸。兵過既盡，未敢遽出。忽見闕頭斷臂之尸，起立如林。內一尸斷首猶連肩上，口中作語曰：「野狗子來，奈何？」群尸參差而應曰：「奈何！」俄頃蹶然盡倒，遂無聲。

李方驚顫欲起，有一物來，獸首人身，伏嚙人首，遍吸其腦。李懼，匿首尸下。物來撥李肩，欲得李首。李力伏，俾不可得。物乃推覆尸而移之，首見。李大懼，手索腰下，得巨石如碗，握之。物俯身欲齧，李驟起大呼，擊其首，中嘴。物

嗥如鴟，掩口負痛而奔，吐血道上。就視之，於血中得二齒，中曲而端銳，長四寸餘。懷歸以示人，皆不知其何物也。

一、二十六、三生

劉孝廉，能記前身事。自言一世為搢紳，行多玷。六十二歲而歿，初見冥王，待如鄉先生禮，賜坐，飲以茶。覩冥王盞中茶色清徹，己盞中濁如膠。暗疑迷魂湯得勿此乎？乘冥王他顧，以盞就案角瀉之，偽為盡者。

俄頃稽前生惡錄，怒命群鬼捽下，罰作馬。即有厲鬼繫去。行至一家，門限甚高，不可逾。方趨趨間，鬼力楚之，痛甚而蹶。自顧，則身已在櫪下矣。但聞人曰：「驪馬生駒矣，牡

也。」心甚明了，但不能言。覺大餒，不得已，就牝馬求乳。逾四五年間，體修偉。甚畏撻楚，見鞭則懼而逸。主人騎，必覆障泥，緩轡徐徐，猶不甚苦；惟奴僕圍人，不加韉裝以行，兩踝夾擊，痛徹心腑。於是憤甚，三日不食，遂死。

至冥司，冥王查其罰限未滿，責其規避，剝其皮革，罰為犬。意懊喪不欲行。群鬼亂撻之，痛極而竄於野。自念不如死，憤投絕壁，顛莫能起。自顧則身伏竇中，牝犬舐而腓字之，乃知身已復生於人世矣。稍長，見便液亦知穢，然嗅之而香，但立念不食耳。為犬經年，常忿欲死，又恐罪其規避。而主人又豢養不肯戮。乃故嚙主人脫股肉，主人怒，杖殺之。

冥王鞫狀，怒其狂獠，笞數百，俾作蛇。囚於幽室，暗不見天。悶甚，緣壁而上，穴屋而出。自視則身伏茂草，居然蛇矣。遂矢志不殘生類，饑吞木實。積年餘，每思自盡不可，害人而死又不可，欲求一善死之策而未得也。一日臥草中，聞車過，遽出當路，車馳壓之，斷為兩。

冥王訝其速至，因蒲伏自剖。冥王以無罪見殺原之，準其滿限復為人，是為劉公。公生而能言，文章書史，過輒成誦。辛酉舉孝廉。每勸人：乘馬必厚其障泥，股夾之刑，勝於鞭楚也。

異史氏曰：「毛角之儔，乃有王公大人在其中。所以然者，王公大人之內，原未必無毛角者在其中也。故賤者為善，如求

花而種其樹；貴者為善，如已花而培其本：種者可大，培者可久。不然，且將負鹽車，受羈馱，與之為馬。不然，且將啖便液，受烹割，與之為犬。又不然，且將披鱗介，葬鶴鸛，與之為蛇。」

一、二十七、狐入瓶

萬村石氏之婦崇於狐，患之而不能遣。扉後有瓶，每聞婦翁來，狐輒遁匿其中。婦窺之熟，暗計而不言。一日竄入，婦急以絮塞瓶口，置釜中，燂湯而沸之。瓶熱，狐呼曰：「熱甚！勿惡作劇。」婦不語，號益急，久之無聲。拔塞而驗之，毛一堆，血數點而已。

一、二十八、鬼哭

謝遷之變，宦第皆為賊窟。王學使七襄之宅，盜聚尤眾。城破兵入，掃蕩群醜，尸填墀，血至充門而流。公入城，打尸滌血而居。往往白晝見鬼，夜則床下磷飛，墻角鬼哭。一日王生皞迪寄宿公家，聞床底小聲連呼：「皞迪！」已而聲漸大，曰：「我死得苦！」因哭，滿庭皆哭。公聞，仗劍而入，大言曰：「汝不識我王學院耶？」但聞百聲啞啞，笑之以鼻。公於是設水陸道場，命釋道懺度之。夜拋鬼飯，則見磷火熒熒，隨地皆出。先是，闖人王姓者疾篤，昏不知人事者數日矣。是夕，忽欠伸若醒，婦以食進。王曰：「適主人不知何

事，施飯於庭，我亦隨眾啖噉。食已方歸，故不饑耳。」由此鬼怪遂絕。豈鈹鐃鐘鼓，焰口瑜伽，果有益耶？

異史氏曰：「邪怪之物，惟德可以已之。當陷城之時，王公勢正烜赫，聞聲者皆股慄，而鬼且擲揄之。想鬼物逆知其不令終耶？普告天下大人先生：出人面猶不可以嚇鬼，願無出鬼面以嚇人也！」

一、二一九、真定女

真定界有孤女，方六七歲收養於夫家。相居二三年，夫誘與交而孕。腹膨膨而以為病，告之母。母曰：「動否？」曰：「動。」

又益異之。然以其齒太稚不敢決。未幾生男。母嘆曰：「不圖拳母，竟生錐兒！」

一、三十、焦螟

董侍讀默庵家為狐所擾，瓦礫磚石，忽如雹落，家人相率奔匿，待其間歇，乃敢出操作。公患之，假作庭孫司馬第移避之。而狐擾猶故。

一日朝中待漏，適言其異。大臣或言關東道士焦螟居內城，總持敕勒之術，頗有效。公造廬而請之。道士朱書符，使歸粘壁上。狐竟不懼，拋擲有加焉。公復告道士。道士怒，親詣公家，築壇作法。俄見一巨狐伏壇下，家人受虐已久，銜

恨綦甚，一婢近擊之，婢忽僕地氣絕。道士曰：「此物猖獗，我尚不能遽服之，女子何輕犯爾爾。」既而曰：「可借鞫狐詞亦得。」戟指咒移時，婢忽起長跪。道士詰其里居。婢作狐言：「我西域產，入都者十八輩。」道士曰：「輦轂下，何容爾輩久居？可速去！」狐不答。道士擊案怒曰：「汝欲梗吾令耶？再若迂延，法不汝宥！」狐乃蹙怖作色，願謹奉教。道士又速之。婢又僕絕，良久始蘇。俄見白塊四五團，滾滾如球附簷際而行，次第追逐，頃刻俱去。由是遂安。

一、三十一、葉生

淮陽葉生者，失其名字。文章詞賦，冠絕當時，而所遇不偶，困於名場。會關東丁乘鶴來令是邑，見其文，奇之，召與語，大悅。使即官署受燈火，時賜錢穀恤其家。值科試，公游揚於學使，遂領冠軍。公期望綦切，闈後索文讀之，擊節稱嘆。不意時數限人，文章憎命，及放榜時，依然鍛羽。生嗒喪而歸，愧負知己，形銷骨立，癡若木偶。公聞，召之來而慰之；生零涕不已。公憐之，相期考滿入都，攜與俱北。生甚感佩。辭而歸，杜門不出。無何寢疾。公遺問不絕，而服藥百裹，殊罔所效。

公適以忤上官免，將解任去。函致之，其略云：「僕東歸有日，所以遲遲者，待足下耳。足下朝至，則僕夕發矣。」傳之臥榻。生持書啜泣，寄語來使：「疾革難遽瘥，請先發。」使人返白。公不忍去，徐待之。

逾數日，門者忽通葉生至。公喜，迎而問之。生曰：「以犬馬病，勞夫子久待，萬慮不寧。今幸可從杖履。」公乃束裝戒旦。抵裏，命子師事生，夙夜與俱。公子名再昌，時年十六，尚不能文。然絕慧，凡文藝三兩過，輒無遺忘。居之期歲，便能落筆成文。益之公力，遂入邑癢。生以生平所擬舉業悉錄授讀，闡中七題，並無脫漏，中亞魁。公一日謂生曰：「君出餘緒，遂使孺子成名。然黃鐘長棄若何！」生曰：「是殆

有命！借福澤為文章吐氣，使天下人知半生淪落，非戰之罪也，願亦足矣。且士得一人知己可無憾，何必拋卻白紵，乃謂之利市哉！公以其久客，恐誤歲試，勸令歸省。生慘然不樂，公不忍強，囑公子至都為之納粟。公子又捷南宮，授部中主政，攜生赴監，與共晨夕。逾歲，生入北闈，竟領鄉薦。會公子差南河典務，因謂生曰：「此去離貴鄉不遠。先生奮跡雲霄，錦還為快。」生亦喜。擇吉就道，抵淮陽界，命僕馬送生歸。

見門戶蕭條，意甚悲惻。逡巡至庭中，妻攜簸箕以出，見生，擲具駭走。生淒然曰：「今我貴矣！三四年不覿，何遂頓不相識？」妻遙謂曰：「君死已久，何復言貴？所以久淹君柩

者，以家貧子幼耳。今阿大亦已成立，將卜窀穸，勿作怪異嚇生人。」生聞之，憮然惆悵。逡巡入室，見靈柩儼然，撲地而滅。妻驚視之，衣冠履舄如蛻委焉。大慟，抱衣悲哭。子自塾中歸，見結駟於門，審所自來，駭奔告母。母揮涕告訴。又細詢從者，始得顛末。從者返，公子聞之，涕墮垂膺。即命駕哭諸其室；出橐為營喪，葬以孝廉禮。又厚遺其子，為延師教讀。言於學使，逾年游泮。

異史氏曰：「魂從知己竟忘死耶？聞者疑之，餘深信焉。同心倩女，至離枕上之魂；千里良朋，猶識夢中之路。而況繭絲蠅跡，吐學士之心肝；流水高山，通我曹之性命者哉！嗟乎！遇合難期，遭逢不偶。行蹤落落，對影長愁；傲骨嶙嶙，

搔頭自愛。嘆面目之酸澀，來鬼物之擲揄。頻居康了之中，則須發之條條可醜；一落孫山之外，則文章之處處皆疵。古今痛哭之人，卞和惟爾；顛倒逸群之物，伯樂伊誰？抱刺於懷，三年滅字，側身以望，四海無家。人生世上，只須合眼放步，以聽造物之低昂而已。天下之昂藏淪落如葉生者，亦復不少，顧安得令威復來而生死從之也哉？噫！」

一、三十二、四十千

新城王大司馬有主計僕，家稱素封。忽夢一人奔入，曰：「汝欠四十千，今宜還矣。」問之不答，徑入內去。既醒，妻產男。知為夙孽，遂以四十千捆置一室，凡兒衣食病藥皆取給

焉。過三四歲，視室中錢僅存七百。適乳姥抱兒至，調笑於側，僕呼之曰：「四十千將盡，汝宜行矣！」言已，兒忽顏色蹙變，項折目張；再撫之，氣已絕矣。乃以餘資置葬具而瘞之。此可為負欠者戒也。

昔有老而無子者問諸高僧。僧曰：「汝不欠人者，人又不欠汝者。烏得子？」蓋生佳兒所以報我之緣，生頑兒所以取我之債。生者勿喜，死者勿悲也。

一、三十三、成仙

文登周生與成生少共筆硯，遂訂為杵臼交。而成貧，故終歲依周。論齒則周為長，呼周妻以嫂。節序登堂如一家焉。周

妻生子，產後暴卒，繼聘王氏，成以少故，未嘗請見之。一日王氏弟來省姊，宴於內寢。成適至，家人通白，周坐命邀之，成不入，辭去。周追之而還，移席外舍。

甫坐，即有人白別業之僕為邑宰重笞者。先是，黃吏部家牧傭，牛蹊周田，以是相詬。牧傭奔告主，捉僕送官，遂被笞責。周因詰得其故，大怒曰：「黃家牧豬奴何取爾！其先世為大父服役，促得志，乃無人耶！」氣填吭臆，忿而起，欲往尋黃。成捺而止之，曰：「強梁世界，原無皂白。況今日官宰，半強寇不操矛弧者耶？」周不聽。成諫止再三，至泣下，周乃止。怒終不釋，轉側達旦，謂家人曰：「黃家欺我，我仇也，姑置之。邑令朝廷官，非勢家官，縱有互爭，亦須

兩造，何至如狗之隨嗾者？我亦呈治其備，視彼將何處分。」家人悉慫恿之，計遂決。以狀赴宰，宰裂而擲之，周怒，語侵宰。宰慚恚，因逮系之。

辰後，成往訪周，始知入城訟理。急奔勸止，則已在囹圄矣。頓足無所為計。時獲海寇三名，宰與黃賂囑之，使捏周同黨。據詞申黜頂衣，榜掠酷慘。成入獄，相顧淒酸。謀叩闕。周曰：「身系重犴，如鳥在籠，雖有弱弟，止堪供囚飯耳。」成銳身自任。曰：「是予責也。難而不急，烏用友也！」乃行。周弟瞋之，則去已久矣。至都，無門入控。相傳駕將出獵，成預隱木市中。俄駕過，伏舞哀號，遂得準。驛送而下，著部院審奏。時閱十月餘，周已誣服論闕。院接御批，大駭，

復提躬讞。黃亦駭，謀殺周。因賂監，絕其飲食，弟來饋問，苦禁拒之。成又為赴院聲屈，始蒙提問，業已饑餓不起。院臺怒，杖斃監者。黃大怖，納數千金，囑為營脫，以是得朦朧題免。宰以枉法擬流。

周放歸，益肝膽成。成自經訟系，世情灰冷，招周偕隱。周溺少婦，輒迂笑之。成雖不言，而意甚決。別後數日不至。周使探諸其家，家人方疑其在周所；兩無所見，始疑。周心知其異，遣人蹤跡之，寺觀巖壑，物色殆遍。時以金帛恤其子。

又八九年，成忽自至，黃巾斃服，岸然道貌。周喜把臂曰：「君何往，使我尋欲遍？」成笑曰：「孤雲野鶴，棲無定所。別

後幸復頑健。」周命置酒，略通間闊，欲為變易道裝。成笑不語。周曰：「愚哉！何棄妻孥猶敝屣也？」成笑曰：「不然。人將棄予，其何人之能棄。」問所棲止，答在勞山上清宮。既而抵足寢，夢成裸伏胸上，氣不得息。訝問何為，殊不答。忽驚而寤，呼成不應。坐而索之，杳然不知所往。定移時，始覺在成榻，駭曰：「昨不醉，何顛倒至此耶！」乃呼家人。家人火之，儼然成也。周固多髭，以手自捋，則疏無幾莖。取鏡自照，訝曰：「成生在此，我何往？」已而大悟，知成以幻術招隱。意欲歸內，弟以其貌異，禁不聽前。周亦無以自明，即命僕馬往尋成。

數日入勞山，馬行疾，僕不能及。休止樹下，見羽客往來甚眾。內一道人目周，周因以成問。道士笑曰：「耳其名矣，似在上清。」言已徑去。周日送之，見一矢之外，又與一人語，亦不數言而去。與言者漸至，乃同社生。見周，愕曰：「數年不晤，人以君學道名山，與尚遊戲人間耶？」周述其異。生驚曰：「我適遇之而以為君也。去無幾時，或亦不遠。」周大異，曰：「怪哉！何自己面目覲面而不之識？」僕尋至，急馳之，竟無蹤兆。一望寥闊，進退難以自主。自念無家可歸，遂決意窮追。而怪險不復可騎，遂以馬付僕歸，迤邐自往。遙見一童獨立，趨近問程，且告以故。童自言為成弟子，代荷衣糧，導與俱行。星飯露宿，遵行殊遠。三日始至，又非

世之所謂上清。時十月中，山花滿路，不類初冬。童入報，成即出，始認己形。執手而入，置酒宴語。見異彩之禽，馴入不驚，聲如笙簧，時來鳴於座上，心甚異之。然塵俗念切，無意留連。地下有蒲團二，曳與並坐。至二更後，萬慮俱寂，忽似瞥然一盹，身覺與成易位。疑之，自捋頷下，則於思者如故矣。既曙，浩然思返。成固留之。越三日，乃曰：「迄少寐息，早送君行。」甫交睫，聞成呼曰：「行裝已具矣。」遂起從之。所行殊非舊途。覺無幾時，里居已在望中。成坐候路側，俾自歸。周強之不得，因踽踽至家門。叩不能應，思欲越牆，覺身飄似葉，一躍已過。凡逾數重垣，始抵臥室，燈燭熒然，內人未寢，嚶嚶與人語。舐窗一窺，則妻與一廝僕

同杯飲，狀甚狎褻。於是怒火如焚，計將掩執，又恐孤力難勝。遂潛身脫扃而出，奔告成，且乞為助。成慨然從之，直抵內寢。周舉石撾門，內張皇甚。播愈急，內閉益堅。成撥以劍，劃然頓闢。周奔入，僕沖戶而走。成在門外，以劍擊之，斷其肩臂。周執妻拷訊，乃知被收時即與僕私。周借劍決其首，冒腸庭樹間。乃從成出，尋途而返。

驀然忽醒，則身在臥榻，驚而言曰：「怪夢參差，使人駭懼！成笑曰：『夢者兄以為真，真者乃以為夢。』」周愕而問之。成出劍示之，濺血猶存。周驚怛欲絕，竊疑成譎張為幻。成知其意，乃促裝送之歸，荏苒至里門，乃曰：「疇昔之夜，倚劍而相待者非此處耶！吾厭見惡濁，請還待君於此。如過晡

不來，予自去。」周至家，門戶蕭索，似無居人。還入弟家。弟見兄，雙淚交墜，曰：「兄去後，盜夜殺嫂，刳腸去，酷慘可悼。於今官捕未獲。」周如夢醒，因以情告，戒勿究。弟錯愕良久。周問其子，乃命老嫗抱至。周曰：「此襁褓物，宗緒所關，弟善視之。兄欲辭人世矣。」遂起徑去。弟涕泗追挽，笑行不顧。至野外見成，與俱行。遙回顧，曰：「忍事最樂。」弟欲有言，成闊袖一舉，即不可見。悵立移時，痛哭而返。周弟樸拙，不善治家人生產，居數年，家益貧；周子漸長，不能延師，因自教讀。一日早至齋，見案頭有函書，緘封甚固，簽題「仲氏啟」，審之為兄跡。開視則虛無所有，只見爪甲一枚，長二指許，心怪之。以甲置硯上，出問家人

所自來，並無知者。回視，則硯石燦燦，化為黃金，大驚。以試銅鐵皆然。由此大富。以千金賜成氏子，因相傳兩家有點金術云。

一、三十四、新郎

江南梅孝廉耦長，言其鄉孫公為德州宰，鞫一奇案：初，村人有為子娶婦者，新人入門，戚里畢賀。飲至更餘，新郎出，見新婦炫裝，趨轉舍後，疑而尾之。宅後有長溪，小橋通之。見新婦渡橋徑去，益疑。呼之不應。遙以手招婿，婿急趁之。相去盈尺，而卒不可及。行數里，入村落。婦止，謂婿曰：「君家寂寞，我不慣住。請與郎暫居妾家數日，便同歸。」

省。」言已，抽簪叩扉軋然，有女童出應門。婦先入，不得已從之。既入，則岳父母俱在堂上，謂婿曰：「我女少嬌慣，未嘗一刻離膝下，一旦去故里，心輒戚戚。今同郎來，甚慰系念。居數日，當送兩人歸。」乃為除室，床褥備具，遂居之。

家中客見新郎久不至，共索之。室中惟新婦在，不知婿之何往。由是遐邇訪問，並無耗息。翁媪零涕，謂其必死。將半載，婦家悼女無偶，遂請於村人父，欲別醮女。村人父益悲，曰：「骸骨衣裳，無所驗證，何知吾兒遂為異物！縱其奄喪，周歲而嫁，當亦未晚，胡為如是急耶！」婦父益銜之，訟於庭。孫公怪疑，無所措力，斷令待以三年，存案，遣去。村

人子居女家，家人亦大相忻待。每與婦議歸，婦亦諾之，而因循不即行。積半年餘，中心徘徊，萬慮不安。欲獨歸，而婦固留之。一日合家遑遽，似有急難。倉卒謂婿曰：「本擬三二日遣夫婦偕歸，不意儀裝未備，忽遘閔兇。不得已先送郎還。」於是送出門，旋踵即返，周旋言動，頗甚草草。方欲覓途，回視院宇無存，但見高塚，大驚。尋路急歸至家，歷述端末，因與投官陳訴。孫公拘婦父諭之，送女於歸，使合卺焉。

一、三十五、靈官

朝天觀道士某喜吐納之術，有翁假寓觀中，適同所好，遂為玄友。居數年，每至郊祭時，輒先旬日而去，郊後乃返。道士疑而問之。翁曰：「我兩人莫逆，可以實告，我狐也。郊期至，則諸神清穢，我無所容，故行遁耳。」

又一年及期而去，久不復返，疑之。一日忽至，因問其故。答曰：「我幾不復見子矣！曩欲遠避，心頗怠，視陰溝甚隱，遂潛伏卷甕下。不意靈官糞除至此，瞥為所睹，憤欲加鞭，餘懼而逃。靈官追逐甚急。至黃河上，瀕將及矣。大窘無計，竄伏溷中。神惡其穢，始返身去。既出，臭惡沾染，不可復

游人世。乃投水自濯訖，又蟄隱穴中凡百日，垢濁始淨。今來相別，兼以致囑，君亦宜隱身他去，大劫將來，此非福地也。」言已辭去，道士依言別徙。未幾而有甲申之變。

一、三十六、王蘭

利津王蘭暴病死，閻王覆勘，乃鬼卒之誤勾也。責送還生，則尸已敗。鬼懼罪，謂王曰：「人而鬼也則苦，鬼而仙也則樂。苟樂矣，何必生？」王以為然。鬼曰：「此處一狐金丹成矣，竊其丹吞之，則魂不散，可以長存。但憑所之，無不如意。子願之否？」王從之。鬼導去，入一高第，見樓閣渠然，而悄無一人。有狐在月下，仰首望空際。氣一呼，有丸自口

中出，直上入月中；一吸復落，以口承之，則又呼之，如是不已。鬼潛伺其側，俟其吐，急掇於手，付王吞之。狐驚，勝氣相尚，見二人在，恐不敵，憤恨而去。

王與鬼別，至其家，妻子見之，咸懼卻走。王告以故，乃漸集。由此在家寢處如平時。其友張某者聞而省之，相見話溫涼。因謂張曰：「我與若家世夙貧，今有術可以致富，子能從我游乎？」張唯唯。王曰：「我能不藥而醫，不卜而斷。我欲現身，恐識我者相驚怪，附子而行可乎？」張又唯唯。於是即日趨裝，至山西界。遇富室有女，得暴疾，眩然瞽瞑，前後藥禳既窮。張造其廬，以術自炫。富翁止此女，甚珍惜之，能醫者願以千金相酬報。張請視之，從翁入室，見女瞑

臥，啟其衾，撫其體，女昏不覺。王私告張曰：「此魂亡也，當為覓之。」張乃告翁：「病雖危，可救。」問：「需何藥？」俱言：「不須。女公子魂離他所，業遣神覓之矣。」約一時許，王忽來，具言已得。張乃請翁再入，又撫之。少頃女欠伸，目遽張。翁大喜，撫問。女言：「向戲園中，見一少年郎，挾彈彈雀，數人牽駿馬，從諸其後。急欲奔避，橫被阻止。少年以弓授兒，教兒彈。方羞訶之，便攜兒馬上，累騎而行。笑曰：『我樂與子戲，勿羞也。』數里入山中，我馬上號且罵，少年怒，推墮路旁，欲歸無路。適有一人捉兒臂，疾若馳，瞬息至家，忽若夢醒。」翁神之，果貽千金。王宿與張謀，留二百金作路用，餘盡攝去，款門而付其子。又命以

三百饋張氏，乃復還。次日與翁別，不見金藏何所，益奇之，厚禮而送之。逾數日，張於郊外遇同鄉人賀才。才飲賭不事生業，其貧如丐。聞張得異術，獲金無算，因奔尋之。王勸薄贈令歸。才不改故行，旬日蕩盡，將復尋張。王已知之，曰：「才狂悖不可與處，只宜賂之使去，縱禍猶淺。」逾日才果至，強從與俱。張曰：「我固知汝復來。日事酗賭，千金何能滿無底竇？誠改若所為，我百金相贈。」才諾之，張瀉囊授之。才去，以百金在橐，賭益豪。益之狹邪游，揮灑如土。邑中捕役疑而執之，質於官，拷掠酷慘。才實告金所自來。乃遣隸押才捉張。創劇，斃於途。魂不忘於張，復往依之，因與王會。一日聚飲於煙墩，才大醉狂呼，王止之不

聽。適巡方御史過，聞呼搜之，獲張。張懼，以實告。御史怒，笞而牒於神。夜夢金甲人告曰：「查王蘭無辜而死，今為鬼仙。醫亦神術，不可律以妖魅。今奉帝命，授為清道使。賀才邪蕩，已罰竄鐵圍山。張某無罪，當宥之。」御史醒而異之，乃釋張。張制裝旋里。囊中存數百金，敬以一半送王家。王氏子孫以此致富焉。

一、三十七、鷹虎神

郡城東嶽廟在南郭。大門左右，神高丈餘，俗名「鷹虎神」，猙獰可畏。廟中道士任姓，每雞鳴輒起焚誦。有偷兒預匿廊間，伺道士起，潛入寢室，搜括財物。奈室無長物，惟於薦

底得錢三百納腰中，拔關而出，將登千佛山。南竄許時，方至山下。見一巨丈夫自山上來，左臂蒼鷹，適與相遇。近視之，面銅青色，依稀似廟門中所習見者。大恐，蹲伏而戰。神詫曰：「盜錢安往？」偷兒益懼，叩不已。神揪令還入廟，使傾所盜錢跪守之。道士課畢，回顧駭愕。盜歷歷自述。道士收其錢而遣之。

一、三十八、王成

王成，平原故家子。性最懶，生涯日落，惟剩破屋數間，與妻臥牛衣中，交謫不堪。

時盛夏燠熱。村外故有周氏園，墻宇盡傾，惟存一亭。村人多寄宿其中，王亦在焉。既曉睡者盡去，紅日三竿王始起，逡巡欲歸。見草際金釵一股，拾視之，鐫有細字云：儀賓府制。王祖為衡府儀賓，家中故物，多此款式，因把釵躊躇。歎一嫗來尋釵。王雖貧，然性介，遽出授之。嫗喜，極贊盛德，曰：「釵值幾何，先夫之遺澤也。」問：「夫君伊誰？」答云：「故儀賓王柬之也。」王驚曰：「吾祖也，何以相遇？」嫗亦驚曰：「汝即王柬之之孫耶！我乃狐仙。百年前與君祖繾綣，君祖歿，老身遂隱。過此遺釵，適入子手，非天數耶！」王亦曾聞祖有狐妻，信其言，便邀臨顧。嫗從之。

王呼妻出見，負敗絮，菜色黯焉。嫗嘆曰：「嘻！王東之之孫，乃一貧至此哉！」又顧敗灶無煙，曰：「家計若此，何以聊生？」妻因細述貧狀，嗚咽飲泣。嫗以釵授婦，使姑質錢市米，三日外請復相見。王挽留之。嫗曰：「汝一妻猶不能存活，我在，仰屋而居，復何裨益？」遂徑去。王為妻言其故，妻大怖。王誦其義，使姑事之，妻諾。愈三日果至，出數金糶粟麥各一石。夜與婦宿短榻。婦初懼之，然察其意殊拳拳，遂不之疑。

翌日謂王曰：「孫勿情，宜操小生業，坐食烏可長也！」王告以無資。嫗曰：「汝祖在時，金泉憑所取，我以世外人無需是物，故未嘗多取。積花粉之金四十兩，至今猶存。久貯亦

無所用，可將去悉以市葛，刻日赴都，可得微息。」王從之，購五十餘端以歸。媪命趨裝，計六七日可達燕都。囑曰：「宜勤勿惰，宜急勿緩，遲之一日，悔之已晚！」王敬諾，囊貨就路。中途遇雨，衣履浸濡。王生平未歷風霜，委頓不堪，因暫休旅舍。不意淙淙徹暮，簷雨如繩，過宿溼益甚。見往來行人踐淖沒胫，心畏苦之。待至亭午始漸燥，而陰雲復合，雨又滂沱。信宿乃行。將近京，傳聞葛價翔貴，心竊喜。入都解裝客店，主人深惜其晚。先是，南道初通，葛至絕少。貝勒府購致甚急，價頓昂，較常可三倍。前一日方購足，後來者並皆失望。主人以故告王。王鬱鬱不樂。越日葛至愈多，價益下，王以無利不肯售。遲十餘日，計食耗煩多，倍益憂

悶。主人勸令賤賣，改而他圖。從之，虧資十餘兩，悉脫去。早起將作歸計，起視囊中，則金亡矣。警告主人，主人無所為計。或勸鳴官，責主人償。王嘆曰：「此我數也，於主人何干？」主人聞而德之，贈金五兩慰之使歸。

自念無以見祖母，蹀躞內外，進退維谷。適見斗鶉者，一賭數千；每市一鶉，恆百錢不止。意忽動，計囊中資僅足販鶉，以商主人，主人亟愆息之。且約假寓飲食，不取其值。王喜，遂行。購鶉盈僮，復入都。主人喜，賀其速售。至夜，大雨徹曙，天明衢水如河，淋零猶未休也。居以待晴，連綿數日，更無休止。起視籠中鶉漸死。王大懼，不知計之所出。越日死愈多，僅餘數頭，並一籠飼之。經宿往窺，則一鶉僅存。

因告主人，不覺涕墮，主人亦為扼腕。王自度金盡罔歸，但欲覓死，主人勸慰之。共往視鶉，審諦之曰：「此似英物。諸鶉之死，未必非此之鬥殺之也。君暇亦無事，請把之，如其良也，賭亦可以謀生。」王如其教。

既馴，主人令持向街頭賭酒食。鶉健甚，輒贏。主人喜，以金授王，使復與子弟決賭，三戰三勝。半年蓄積二十金，心益慰，視鶴如命。

先是大親王好鶉，每值上元，輒放民間把鶉者入邸相角。主人謂王曰：「今大富宜可立致，所不可知者在子之命矣。」因告以故，導與俱往。囑曰：「脫敗則喪氣出耳。倘有萬分一鶉鬥勝，王必欲市之，君勿應；如固強之，惟予首是瞻，待

首肯而後應之。」王曰：「諾。」至邸，則鶉人肩摩於墀下。頃之，王出御殿。左右宣言：「有願鬥者上。」即有一人把鶉趨而進。王命放鶉，客亦放。略一騰蹕，客鶉已敗。王大笑。俄頃登而敗者數人。主人曰：「可矣。」相將俱登。王相之，曰：「睛有怒脈，此健羽也，不可輕敵。」命取鐵喙者當之。一再騰躍，而王鶉鍛羽。更選其良，再易再敗。王急命取宮中玉鶉。片時把出，素羽如鷺，神駿不凡。王成意餒，跪而求罷，曰：「大王之鶉神物也，恐傷吾禽，喪吾業矣。」王笑曰：「縱之，脫斗而死，當厚爾償。」成乃縱之。玉鶉直奔之。而玉鶉方來，則伏如怒雞以待之。玉鶉健喙，則起如翔鶴以擊之。進退頡頏，相持約一伏時。玉鶉漸懈，而其怒益烈，其

鬥益急。未幾，雪毛摧落，垂翅而逃。觀者千人，罔不嘆羨。王乃索取而親把之，自啄至爪，審周一過，問成曰：「鶉可貨否？」答曰：「小人無恆產，與相依為命，不願售也。」王曰：「賜爾重值，中人之產可致。頗願之乎？」成俯思良久，曰：「本不樂置；顧大王既愛好之，苟使小人得衣食業，又何求？」王問直，答以千金。王笑曰：「癡男子！此何珍寶而千金直也？」成曰：「大王不以為寶，臣以為連城之壁不過也。」王曰：「如何？」曰：「小人把向市中，日得數金，易升斗粟，一家十餘口食指無凍餒，是何寶如之？」王曰：「予不相虧，便與二百金。」成搖首。又增百數。成目視主人，主人色不動，乃曰：「承大王命，請減百價。」王曰：「休矣！誰

肯以九百易一鶉者！」成囊鶉欲行。王呼曰：「鶉人來，實給六百，肯則售，否則已耳。」成又目主人，主人仍自若。成心願盈溢，惟恐失時，曰：「以此數售，心實怏怏。但交而不成，則獲戾滋大。無已，即如王命。」王喜，即秤付之。成囊金拜賜而出。主人對曰：「我言如何，子乃急自鬻也！再少靳之，八百金在掌中矣。」成歸，擲金案上，請主人自取之，主人不受。又固讓之，乃盤計飯直而受之。王治裝歸。至家，歷述所為，出金相慶。媪命置良田三百畝，起屋作器，居然世家。早起使成督耕、婦督織。稍隋輒訶之。夫婦相安，不敢有怨詞。過三年家益富，媪辭欲去。夫婦共挽之，至泣下。媪亦遂止。旭旦候之，已杳然矣。異史氏曰：「富皆得於勤，

此獨得於情，亦創聞也。不知一貧徹骨而至性不移，此天所以始棄之而終憐之也。懶中豈果有富貴乎哉！

一、三十九、青鳳

太原耿氏，故大家，第宅弘闊。後凌夷，樓舍連瓦，半曠廢之，因生怪異，堂門輒自開掩，家人恆中夜駭嘩。耿患之，移居別墅，留一老翁門焉。由此荒落益甚，或聞笑語歌吹聲。

耿有從子去病，狂放不羈，囑翁有所聞見，奔告之。至夜，見樓上燈光明滅，走報生。生欲入覘其異，止之不聽。門戶素所習識，竟撥蒿蓬，曲折而入。登樓，初無少異。穿樓而

過，聞人語切切。潛窺之，見巨燭雙燒，其明如晝。一叟儒冠南面坐，一媪相對，俱年四十餘。東向一少年，可二十許。右一女郎，才及笄耳。酒載滿案，圍坐笑語。生突入，笑呼曰：「有不速之客一人來！」群驚奔匿。獨叟詫問：「誰何入人閨闈？」生曰：「此我家也，君占之。旨酒自飲，不邀主人，毋乃太吝？」叟審諦之，曰：「非主人也。」生曰：「我狂生，耿去病，主人之從子耳。」叟致敬曰：「久仰山斗！」乃揖生入，便呼家人易饌，生止之。叟乃酌客。生曰：「吾輩通家，座客無庸見避，還祈招飲。」叟呼：「孝兒！」俄少年自外入。叟曰：「此豚兒也。」揖而坐，略審門閥。叟自言：「義君姓胡。」生素豪，談論風生，孝兒亦倜儻，傾吐間，雅相愛悅。

生二十一，長孝兒二歲，因弟之。叟曰：「聞君祖纂《塗山外傳》，知之乎？」答曰：「知之。」叟曰：「我塗山氏之苗裔也。唐以後，譜系猶能憶之；五代而上無傳焉。幸公子一垂教也。」生略述塗山女佐禹之功，粉飾多詞，妙緒泉湧。叟大喜，謂子曰：「今幸得聞所未聞。公子亦非他人，可請阿母及青鳳來共聽之，亦令知我祖德也。」孝兒入幃中。少時媪偕女郎出，審顧之，弱態生嬌，秋波流慧，人間無其麗也。叟指媪曰：「此為老荊。」又指女郎：「此青鳳，鄙人之猶女也。頗慧，所聞見輒記不忘，故喚令聽之。」生談竟而飲，瞻顧女郎，停睇不轉。女覺之，俯其首。生隱躡蓮鉤，女急斂足，亦無愠怒。生神志飛揚，不能自主，拍案曰：「得婦如

此，南面王不易也！媼見生漸醉益狂，與女俱去。生失望，乃辭叟出。而心縈縈，不能忘情於青鳳也。

至夜復往，則蘭麝猶芳，凝待終宵，寂無聲咳。歸與妻謀，欲攜家而居之，冀得一遇。妻不從。生乃自往，讀於樓下。夜方憑幾，一鬼披發入，面黑如漆，張目視生。生笑，拈指研墨自塗，灼灼然相與對視，鬼慚而去。次夜更深，滅燭欲寢，聞樓後發扃，闢之闐然。急起窺覘，則扉半啟。俄聞履聲細碎，有燭光自房中出。視之，則青鳳也。驟見生，駭而卻退，遽闔雙扉。生長跪而致詞曰：「小生不避險惡，實以卿故。幸無他人，得一握手為笑，死不憾耳。」女遙語曰：「倦倦深情，妾豈不知？但吾叔閨訓嚴謹，不敢奉命。」生固哀

之，曰：「亦不敢望肌膚之親，但一見顏色足矣。」女似肯可，啟關出，捉其臂而曳之。生狂喜，相將入樓下，擁而加諸膝。女曰：「幸有夙分，過此一夕，即相思無益矣。」問：「何故？」曰：「阿叔畏君狂，故化厲鬼以相嚇，而君不動也。今已卜居他所，一家皆移什物赴新居，而妾留守，明日即發矣。」言已欲去，云：「恐叔歸。」生強止之，欲與為歡。方持論間，叟掩入。女羞懼無以自容，挽手依床，拈帶不語。叟怒曰：「賤輩辱我門戶！不速去，鞭撻且從其後！」女低頭急去，叟亦出。生尾而聽之，訶詬萬端，聞青鳳嚶嚶啜泣。生心意如割，大聲曰：「罪在小生，與青鳳何與！倘宥青鳳，刀鋸鈇鉞，願身受之！」良久寂然，乃歸寢。自此第內絕不

復聲息矣。生叔聞而奇之，願售以居，不較直。生喜，攜家口而遷焉。居逾年甚適，而未嘗須臾忘青鳳也。

會清明上墓歸，見小狐二，為犬逼逐。其一投荒竄去；一則皇急道上，望見生，依依哀啼，葛耳輯首，似乞其援。生憐之，啟裳衿提抱以歸。閉門，置床上，則青鳳也。大喜，慰問。女曰：「適與婢子戲，遘此大厄。脫非郎君，必葬犬腹。望無以非類見憎。」生曰：「日切懷思，系於魂夢。見卿如得異寶，何憎之云！」女曰：「此天數也，不因顛覆，何得相從？然幸矣，婢子必言妾已死，可與君堅永約耳。」生喜，另舍居之。

積二年餘，生方夜讀，孝兒忽入。生輟讀，訝詰所來，孝兒伏地愴然曰：「家君有橫難，非君莫救。將自詣懇，恐不見納，故以某來。」問：「何事？」曰：「公子識莫三郎否？」曰：「此吾年家子也。」孝兒曰：「明日將過，倘攜有獵狐，望君留之也。」生曰：「樓下之羞，耿耿在念，他事不敢預聞。必欲僕效綿薄，非青鳳來不可！」孝兒零涕曰：「鳳妹已野死三年矣。」生拂衣曰：「既爾，則恨滋深耳！」執卷高吟，殊不顧瞻。孝兒起，哭失聲，掩面而去。生如青鳳所，告以故。女失色曰：「果救之否？」曰：「救則救之。適不之諾者，亦聊以報前橫耳。」女乃喜曰：「妾少孤，依叔成立。昔雖獲罪，乃家範應爾。」生曰：「誠然，但使人不能無介介耳。卿果

死，定不相援。」女笑曰：「忍哉！」次日，莫三郎果至，鏤膺虎背，僕從甚赫。生門逆之。見獲禽甚多，中一黑狐，血殷毛革。撫之皮肉猶溫。便托裘敝，乞得綴補。莫慨然解贈，生即付青鳳，乃與客飲。客既去，女抱狐於懷，三日而蘇，展轉復化為叟。舉目見鳳，疑非人間。女歷言其情。叟乃下拜，慚謝前愆，喜顧女曰：「我固謂汝不死，今果然矣。」女謂生曰：「君如念妾，還祈以樓宅相假，使妾得以申返哺之私。」生諾之。叟赧然謝別而去，入夜果舉家來，由此如家人父子，無復猜忌矣。生齋居，孝兒時共談宴。生嫡出子漸長，遂使傅之，蓋循循善教，有師範焉。

一、四十、畫皮

太原王生早行，遇一女郎，抱襖獨奔，甚艱於步，急走趁之，乃二八姝麗。心相愛樂，問：「何夙夜踽踽獨行？」女曰：「行道之人，不能解愁憂，何勞相問。」生曰：「卿何愁憂？或可效力不辭也。」女黯然曰：「父母貪賂，鬻妾朱門。嫡妒甚，朝詈而夕楚辱之，所弗堪也，將遠遁耳。」問：「何之？」曰：「在亡之人，烏有定所。」生言：「敝廬不遠，即煩枉顧。」女喜從之。生代攜襖物，導與同歸。女顧室無人，問：「君何無家口？」答云：「齋耳。」女曰：「此所良佳。如憐妾而活之，須秘密勿洩。」生諾之。乃與寢合。使匿密室，過數日而人不知也。生微告妻。妻陳，疑為大家媵妾，勸遣

之，生不聽。偶適市，遇一道士，顧生而愕。問：「何所遇？」答言：「無之。」道士曰：「君身邪氣縈繞，何言無？」生又力白。道士乃去，曰：「惑哉！」世固有死將臨而不悟者！生以其言異，頗疑女。轉思明明麗人，何至為妖，意道士借魘禳以獵食者。無何，至齋門，門內杜不得入，心疑所作，乃逾堦坦，則室門已閉。躡足而窗窺之，見一獰鬼，面翠色，齒巉巉如鋸，鋪人皮於榻上，執彩筆而繪之。已而擲筆，舉皮如振衣狀，披於身，遂化為女子。睹此狀，大懼，獸伏而出。急追道士，不知所往。遍跡之，遇於野，長跪求救，請遣除之。道士曰：「此物亦良苦，甫能覓代者，予亦不忍傷其生。」乃以蠅拂授生，令掛寢門。臨別約會於青帝廟。生

歸，不敢入齋，乃寢內室，懸拂焉。一更許，聞門外戢戢有聲，自不敢窺，使妻窺之。但見女子來，望拂子不敢進，立而切齒，良久乃去。少時復來，罵曰：「道士嚇我，終不然，寧入口而吐之耶！」取拂碎之，壞寢門而入，徑登生床，裂生腹，掬生心而去。妻號。婢入燭之，生已死，腔血狼藉。陳駭涕不敢聲。

明日使弟二郎奔告道士。道士怒曰：「我固憐之，鬼子乃敢爾！」即從生弟來。女子已失所在。既而仰首四望，曰：「幸遁未遠。」問：「南院誰家？」二郎曰：「小生所舍也。」道士曰：「現在君所。」二郎愕然，以為未有。道士問曰：「曾否有不識者一人來？」答曰：「僕早赴青帝廟，良不知，當歸

問之。」去少頃而返，曰：「果有之，晨間一嫗來，欲傭為僕家操作，室人止之，尚在也。」道士曰：「即是物矣。」遂與俱往。仗木劍立庭心，呼曰：「孽鬼！償我拂子來！」嫗在室，惶遽無色，出門欲遁，道士逐擊之。嫗僕，人皮劃然而脫，化為厲鬼，臥嗥如豬。道士以木劍梟其首。身變作濃煙，匝地作堆。道士出一葫蘆，拔其塞，置煙中，颼颼然如口吸氣，瞬息煙盡。道士塞口入囊。共視人皮，眉目手足，無不備具。道士卷之，如卷畫軸聲，亦囊之，乃別欲去。

陳氏拜迎於門，哭求回生之法。道士謝不能。陳益悲，伏地不起。道士沉思曰：「我術淺，誠不能起死。我指一人或能之。」問：「何人？」曰：「市上有瘋者，時臥糞土中，試叩而

哀之。倘狂辱夫人，夫人勿怒也。」二郎亦習知之，乃別道士，與嫂俱往。見乞人顛歌道上，鼻涕三尺，穢不可近。陳膝行而前。乞人笑曰：「佳人愛我乎？」陳告以故。又大笑曰：「人盡夫也，活之何為！」陳固哀之。乃曰：「異哉！人死而乞活於我，我閻羅耶？」怒以杖擊陳，陳忍痛受之。市人漸集如堵。乞人咯痰唾盈把，舉向陳吻曰：「食之！」陳紅漲於面，有難色；既思道士之囑，遂強啖焉。覺入喉中，硬如團絮，格格而下，停結胸間。乞人大笑曰：「佳人愛我哉！」遂起，行已不顧。尾之，入於廟中。迫而求之，不知所在，前後冥搜，殊無端兆，慚恨而歸。既悼夫亡之慘，又悔食唾之羞，俯仰哀啼，但願即死。方欲展血斂尸，家人佇

望，無敢近者。陳抱尸收腸，且理且哭。哭極聲嘶，頓欲嘔，覺鬲中結物，突奔而出，不及回首，已落腔中。驚而視之，乃人心也，在腔中突突猶躍，熱氣騰蒸如煙然。大異之。急以兩手合腔，極力抱擠。少懈，則氣氤氳自縫中出，乃裂縞帛急束之。以手撫尸，漸溫，覆以衾裯。中夜啟視，有鼻息矣。天明竟活。為言：「恍惚若夢，但覺腹隱痛耳。」視破處，痂結如錢，尋愈。異史氏曰：「愚哉世人！明明妖也而以為美。迷哉愚人！明明忠也而以為妄。然愛人之色而漁之，妻亦將食人之唾而甘之矣。天道好還，但愚而迷者不悟耳。哀哉！」

一、四十一、賈兒

楚客有賈於外者。婦獨居，夢與人交，醒而捫之，小丈夫也。察其情與人異，知為狐，未幾下床去，門未開而已逝矣。入暮，邀媼伴焉。有子十歲，素別榻臥，亦招與俱。夜既深，媼、兒皆寐，狐復來，婦喃喃如夢語。媼覺呼之，狐遂去。自是，身忽忽若有亡。至夜遂不敢息燭，戒子勿熟。夜闌，兒及媼倚壁少寐，既醒，失婦，意其出遺，久待不至，始疑。媼懼不敢往覓。兒執火遍照之，至他室，則母裸臥其中。近扶之，亦不羞縮。自是遂狂，歌哭叫詈，日萬狀。夜厭與人居，另榻寢，兒、媼亦遣去。兒每聞母笑語，輒起火之。母反怒訶兒，兒亦不為意，因共壯兒膽。然嬉戲無節，日效朽

者以磚石疊窗上，止之不聽。或去其一石，則滾地作嬌啼，人無敢氣觸之。過數日，兩窗盡塞無少明，已，乃合泥塗壁孔，終日營營，不憚其勞。塗已，無所作，遂把廚刀霍霍磨之。見者皆憎其頑，不以人齒。兒宵分隱刀於懷，以瓢覆燈，伺母嚙語，急啟燈，杜門聲喊。久之無異，乃離門揚言詐作欲搜狀。欸有一物如狸，突奔門隙。急擊之，僅斷其尾，約二寸許，濕血猶滴。初，挑燈起，母便詬罵，兒若弗聞。擊之不中，懊恨而寢。自念雖不即戮，可以幸其不來。及明，視血跡逾垣而去。跡之，入何氏園中。至夜果絕，兒竊喜；但母癡臥如死。

未幾賈人歸，就榻問訊。婦謾罵，視若仇。兒以狀對，翁驚，延醫藥之，婦瀉藥詬罵。潛以藥入湯水雜飲之，數日漸安。父子俱喜，一夜睡醒，失婦所在，父子又覓得於別室。由是復顛，不欲與夫同室處，向夕竟奔他室。挽之，罵益甚。翁無策，盡扃他扉。婦奔去，則門自闢，翁患之，驅禳備至，殊無少驗。

兒薄暮潛入何氏園，伏莽中，將以探狐所在。月初升，乍聞人語。暗撥蓬科，見二人來飲，一長鬣奴捧壺，衣老棕色。語俱細隱，不甚可辨。移時聞一人曰：「明日可取白酒一瓶來。」頃之俱去，惟長鬣獨留，脫衣臥石上。審顧之，四肢皆如人，但尾垂後部，兒欲歸，恐狐覺，遂終夜伏。未明又聞

二人以次復來，噉噉入竹叢中。兒乃歸。翁問所往，答：「宿阿伯家。」適從父入市，見帽肆掛狐尾，乞翁市之。翁不顧，兒牽父衣嬌聒之。翁不忍過拂，市焉。父貿易塵中，兒戲弄其側，乘父他顧盜錢去，沽白酒寄肆廊。有舅氏城居，素業獵，兒奔其家。舅他出。姪詰母疾，答云：「連日稍可。又以耗子嚙衣，怒涕不解，故遣我乞獵藥耳。」姪檢櫃，出錢許裏付兒。兒少之。姪欲作湯餅啖兒。兒覷室無人，自發藥裏，竊盈掬而懷之。乃趨告姪，俾勿舉火，「父待市中，不遑食也」。遂去，隱以藥置酒中，遨游市上，抵暮方歸。父問所在，托在舅家。

兒自是日游塵肆間。一日見長鬣雜在人中。兒審之確，陰綴系之。漸與語，詰其里居，答言：「北村。」亦詢兒，兒偽云：「山洞。」長鬣怪其洞居。兒笑曰：「我世居洞府，君固否耶？」其人益驚，便詰姓氏。兒曰：「我胡氏子。曾在何處，見君從兩郎，顧忘之耶？」其人熟審之，若信若疑。兒微啟下裳，少少露其假尾，曰：「我輩混跡人中，但此物猶在，為可恨耳。」其人問：「在市欲何為？」兒曰：「父遣我沽。」其人亦以沽告。兒問：「沽未？」曰：「吾儕多貧，故常竊時多。」兒曰：「此役亦良苦，耽驚憂。」其人曰：「受主人遣，不得不爾。」因問：「主人伊誰？」曰：「即曩所見兩郎兄弟也。一私北郭王氏婦，一宿東村某翁家。翁家兒大

惡，被斷尾，十日始瘥，今復往矣。」言已欲別，曰：「勿誤我事。」兒曰：「竊之難，不若沽之易。我先沽寄廊下，敬以相贈。我囊中尚有餘錢，不愁沽也。」其人愧無以報。兒曰：「我本同類，何靳此須？暇時，尚當與君痛飲耳。」遂與俱去，取酒授之，乃歸。

至夜，母竟安寢不復奔。心知有異，告父同往驗之，則兩狐斃於亭上，一狐死於草中，喙津津尚有血出。酒瓶猶在，持而搖之，未盡也。父驚問：「何不早告？」兒曰：「此物最靈，一洩則彼知之。」翁喜曰：「我兒討狐之陳平也。」於是父子荷狐歸。見一狐秃半尾，刀痕儼然。自是遂安。而婦瘡殊甚，心漸明了，但益之嗽，嘔痰數升，尋愈。北郭王氏婦，向崇

於狐，至是問之，則狐絕而病亦愈。翁由此奇兒，教之騎射。後貴至總戎。

一、四十二、蛇癖

王蒲令之僕呂奉寧，性嗜蛇。每得小蛇，則全吞之如啖蔥狀；大者以刀寸寸斷之，始掬以食。嚼之錚錚，血水沾頤。且善嗅，嘗隔牆聞蛇香，急奔牆外，果得蛇盈尺。時無佩刀，先嚙其頭，尾尚蜿蜒於口際。

## 二、卷二

### 二、一、金世成

金世成，長山人，素不檢。忽出家作頭陀，類顛，啖不潔以為美。犬羊遺穢於前，輒伏啖之。自號為佛。愚民婦異其所為，執弟子禮者以萬千計。金訶使食矢，無敢違者。創殿閣，所費不貲，人咸樂輸之。邑令南公惡其怪，執而答之，使修聖廟。門人競相告曰：「佛遭難！」爭募救之。宮殿旬月而成，其金錢之集，尤捷於酷吏之追呼也。

異史氏曰：「予聞金道人，人皆就其名而呼之，謂為『今世成佛』。品至啖穢，極矣。答之不足辱，罰之適有濟，南令公處法何良也！然學宮圯而煩妖道，亦士大夫之差矣。」

二、一一、董生

董生字遐思，青州之西鄙人。冬月薄暮，展被於榻而熾炭焉。方將篝燈，適友人招飲，遂扃戶去。至友人所，坐有醫人，善太素脈，遍診諸客。末顧王生九思及董曰：「余閱人多矣，脈之奇無如兩君者，貴脈而有賤兆，壽脈而有促征，此非鄙人所敢知也。然而董君實甚。」共驚問之。曰：「某至此亦窮

於術，未敢臆決，願兩君自慎之。」二人初聞甚駭，既以模稜語，置不為意。

半夜董歸，見齋門虛掩，大疑。醺中自憶，必去時忙促，故忘扃鍵。入室未遑爇火，先以手入衾中探其溫否。才一探入，膩有臥人，大驚，斂手。急火之，竟為姝麗，韶顏稚齒，神仙不殊。狂喜，戲探下體，則毛尾修然。大懼，欲遁。女已醒，出手捉生臂，問：「君何往？」董益懼，戰慄哀求，願乞憐恕。女笑曰：「何所見而畏我？」董曰：「我不畏首而畏尾。」女又笑曰：「君誤矣。尾於何有？」引董手，強使復探則髀肉如脂，尻骨童童。笑曰：「何如？醉態朦朧，不知伊何，遂誣人若此。」董固喜其麗，至此益惑，反自咎適然之錯，然

疑其所來無因。女曰：「君不憶東鄰之黃發女乎？屈指移居者已十年矣。爾時我未笄：君垂髻也。」董恍然曰：「卿周氏之阿瑣耶？」女曰：「是矣。」董曰：「卿言之，我仿佛憶之。十年不見。遂苗條如此。然何遽能來？」女曰：「妾適癡郎四五年，翁姑相繼逝，又不幸為文君。剩妾一身，瑩無所依。憶孩時相識者惟君，故來相見就。入門已暮，邀飲者適至，遂潛隱以待君歸。待之既久，足冰肌粟，故借被以自溫耳，幸勿見疑。」董喜，解衣共寢，意殊自得。月餘漸羸瘦，家人怪問，輒言不自知。久之，面目益支離，乃懼，復造善脈者診之。醫曰：「此妖脈也。前日之死徵驗矣，疾不可為也。」董大哭不去，醫不得已，為之針手灸臍，而贈以

藥。囑曰：「如有所遇，力絕之。」董亦自危。既歸，女笑要之。怫然曰：「勿復相糾纏，我行且死！」走不顧。女大慚，亦怒曰：「汝尚欲生耶！」至夜，董服藥獨寢，甫交睫，夢與女交，醒已遺矣。益恐，移寢於內，妻、子夾守之。夢如故，窺女子已失所在。積數日，董吐血斗餘而死。

王九思在齋中，見一女子來，悅其美而私之。詰所自，曰：「妾遐思之鄰也。渠舊與妾善，不意為狐惑而死。此輩妖氣可畏，讀書人宜慎相防。」王益佩之，遂相歡待。居數日，迷罔病瘠，忽夢董曰：「與君好者狐也。殺我矣，又欲殺我友。我已訴之冥府洩此幽憤。七日之夜，當炷香室外，勿忘卻。」醒而異之。謂女曰：「我病甚，恐委溝壑，或勸勿室也。」女曰：「命

當壽，室亦生，不壽，勿室亦死也。」坐與調笑，王心不能自持，又亂之，已而悔之，而不能絕。及暮插香戶上，女來拔棄之。夜又夢董來囑其違囑。次夜暗囑家人，俟寢後潛炷香室外。女在榻上忽驚曰：「又置香也。」王言不知。女急起得香，又折滅之。入曰：「誰教君為此者？」王曰：「或室人憂病，聽巫家厭禳耳。」女徬徨不樂。家人潛窺香滅，又炷之。女忽嘆曰：「君福澤良厚。我誤害遐思而奔子，誠我之過，我將與彼就質於冥曹。君如不忘夙好，勿壞我皮囊也。」逡巡下榻，僕地而死。燭之，狐也。猶恐其活，遽呼家人，剝其革而懸焉。王病甚，見狐來曰：「我訴諸法曹。法曹謂董君見色而動，死當其罪；但咎我不當惑人，追金丹去，復

令還生。皮囊何在？」曰：「家人不知，已脫之矣。」狐慘然曰：「余殺人多矣。今死已晚，然忍哉君乎！」恨恨而去。王病幾危，半年乃瘥。

二、三、齧石

新城王欽文太翁家有圉人王姓，初入勞山學道，久之不火食，惟啖松子及白石。遍體生毛。既數年，念母老歸里，漸復火食，猶啖石如故。向日視之，即知石之甘苦酸咸，如啖芋然。母死，復入山，今又十七八年矣。

## 二、四、廟鬼

新城諸生王啟後者，方伯中宇公象坤曾孫。見一婦人入室，貌肥黑不揚。笑近坐榻，意甚褻。王拒之，不去。由此坐臥輒見之，而意堅定，終不搖。婦怒，批其頰有聲，而亦不甚痛。婦以帶懸梁上，摔與並縊。王不覺自投梁下，引頸作縊狀。人見其足離地，挺然立當中，即亦不能死。自是病顛，忽曰：「彼將與我投河矣。」望河狂奔，曳之乃止。如此百端，日常數作，術藥罔效。一日忽見有武士綰鎖而入，怒叱曰：「樸誠者汝何敢擾！」即繫婦項，自櫪中出。才至窗外，婦不復人形，目電閃，口血赤如盆。憶城隍廟中有泥鬼四，絕類其一焉。於是病若失。

二、五、陸判

陵陽朱爾旦，字小明，性豪放，然素鈍，學雖篤，尚末知名。一日文社眾飲，或戲之云：「君有豪名，能深夜負十王殿左廊下判官來。眾當釀作筵。」蓋陵陽有十王殿，神鬼皆木雕，妝飾如生。東廡有立判，綠面赤須，貌尤獍惡。或夜聞兩廊下拷訊聲，入者毛皆森豎，故眾以此難朱。朱笑起，徑去。居無何，門外大呼曰：「我請髯宗師至矣！」眾起。俄負判入，置幾上，奉觴酌之三。眾睹之，瑟縮不安於坐，仍請負去。朱又把酒灌地，祝曰：「門生狂率不文，大宗師諒不為怪。荒舍匪遙，合乘興來覓飲，幸勿為畛畦。」乃負之去。次日眾果招飲，抵暮半醉而歸，興未闌，挑燈獨酌。忽

有人褰簾入，視之，則判官也。起曰：「噫，吾殆將死矣！前夕冒瀆，今來加斧鑕耶？」判啟濃髯微笑曰：「非也。昨蒙高義相訂，夜偶暇，敬踐達人之約。」朱大悅，牽衣促坐，自起滌器爇火。判曰：「天道溫和，可以冷飲。」朱如命，置瓶案上。奔告家人治肴果，妻聞大駭，戒勿出。朱不聽，立俟治具以出。易盞交酬，始詢姓氏。曰：「我陸姓，無名字。」與談典故，應答如響。問：「知制藝否？」曰：「妍媸亦頗辨之。陰司誦讀，與陽世亦略同。」陸豪飲，一舉十觥。朱因竟日飲，遂不覺玉山傾頹，伏幾醺睡。比醒，則殘燭昏黃，鬼客已去。自是三兩日輒一來，情益洽，時抵足臥。朱獻窗稿，陸輒紅勒之，都言不佳。一夜朱醉先寢，陸猶自酌。忽醉夢

中，臟腹微痛。醒而視之，則陸危坐床前，破腔出腸胃，條條整理。愕曰：「夙無仇怨，何以見殺？」陸笑云：「勿懼！我與君易慧心耳。」從容納腸已，復合之，末以裹足布束朱腰。作用畢，視榻上亦無血跡，腹間覺少麻木。見陸置肉塊幾上，問之。曰：「此君心也。作文不快，知君之毛竅塞耳。適在冥間，於千萬心中，揀得佳者一枚，為君易之，留此以補缺數。」乃起，掩扉去。天明解視，則創縫已合，有線而赤者存焉。自是文思大進，過眼不忘。數日又出稿示陸，陸曰：「可矣。但君福薄，不能大顯貴，鄉、科而已。」問：「何時？」曰：「今歲必魁。」未幾，科試冠軍，秋闈果中魁元。同社中諸生素擲揄之，及見闈墨，相視而驚，細詢始知其異。

共求朱先容，願納交陸。陸諾之。眾大設以待之。更初陸至，赤髯生動，目炯炯如電。眾茫乎無色，齒欲相擊，漸引去。

朱乃攜陸歸飲，既醺，朱曰：「漣腸伐胃，受賜已多。尚有一事相煩，不知可否？」陸便請命。朱曰：「心腸可易，面目想亦可更。予結發人，下體頗亦不惡，但面目不甚佳麗。欲煩君刀斧，如何？」陸笑曰：「諾！容徐以圖之。」過數日，半夜來叩門。朱急起延入，燭之，見襟裏一物。詰之，曰：「君曩所囑，向艱物色。適得美人首，敬報君命。」朱撥視，頸血猶濕。陸力促急入，勿驚禽犬。朱慮門戶夜扃。陸至，以手推扉，扉自開。引至臥室，見夫人側身眠。陸以頭授朱抱之，自於靴中出白刃如匕首，按夫人項，著力如切腐狀，迎

刃而解，首落枕畔。急於朱懷取美人首合項上，詳審端正，而後按捺。已而移枕塞肩際，命朱瘞首靜所，乃去。朱妻醒覺頸間微麻，面頰甲錯，搓之得血片。甚駭，呼婢汲盥。婢見面血狼藉，驚絕，濯之盆水盡赤。舉手則面目全非，又駭極。夫人引鏡自照，錯愕不能自解，朱入告之。因反覆細視，則長眉掩鬢，笑靨承顴，畫中人也。解領驗之，有紅線一周，上下肉色，判然而異。

先是，吳侍御有女甚美，未嫁而喪二夫，故十九猶未醮也。上元游十王殿時，游人甚雜，內有無賴賊窺而艷之，遂陰訪居里，乘夜梯入，穴寢門，殺一婢於床下，逼女與淫，女力拒聲喊，賊怒而殺之。吳夫人微聞鬧聲，叫婢往視，見尸駭

絕。舉家盡起，停尸堂上，置首項側，一門啼號，紛騰終夜。詰旦啟衾，則身在而失其首。遍撻諸婢，謂所守不堅，致葬犬腹。侍御告郡，郡嚴限捕賊，三月而罪人弗得。漸有以朱家換頭之異聞吳公者。吳疑之，遣媼探諸其家。入見夫人，駭走以告吳公。公視女尸故存，驚疑無以自決。猜朱以左道殺女，往詰朱。朱曰：「室人夢易其首，實不解其何故？謂僕殺之則冤也。」吳不信，訟之。收家人鞠之，一如主言，郡守不能決。朱歸，求計於陸。陸曰：「不難，當使伊女自言之。」吳夜夢女曰：「兒為蘇溪楊大年所殺，無與朱孝廉。彼不艷其妻，陸判官取兒首與之易之，是兒身死而頭生也。願勿相仇。」醒告夫人，所夢同。乃言於官。問之果有楊大年。

執而械之，遂伏其罪。吳乃詣朱，請見夫人，由此為翁婿。乃以朱妻首合女尸而葬焉。

朱三入禮闈，皆以場規被放，於是灰心仕進。積三十年，一夕陸告曰：「君壽不永矣。」問其期，對以五日。「能相救否？」曰：「惟天所命，人何能私？且自達人觀之，生死一耳，何必生之為樂，死之為悲？」朱以為然，即制衣衾棺槨。既竟，盛服而沒。翌日夫人方扶柩哭，朱忽冉冉自外至。夫人懼。朱曰：「我誠鬼，不異生時。慮爾寡母孤兒，殊戀戀耳。」夫人大慟，涕垂膺，朱依依慰解之。夫人曰：「古有還魂之說，君既有靈，何不再生？」朱曰：「天數不可違也。」問：「在陰司作何務？」曰：「陸判薦我督案務，受有官爵，亦無所苦。」

夫人欲再語，朱曰：「陸判與我同來，可設酒饌。」趨而出。夫人依言營備。但聞室中笑語，亮氣高聲，宛若生前。半夜窺之，眇然已逝。

自是三數日輒一來，時而留宿繾綣，家中事就便經紀。子瑋方五歲，來輒捉抱，至七八歲，則燈下教讀。子亦慧，九歲能文，十五入邑庠，竟不知無父也。從此來漸疏，日月至焉而已。又一夕來謂夫人曰：「今與卿永訣矣。」問：「何往？」曰：「承帝命為太華卿，行將遠赴，事煩途隔，故不能來。」母子持之哭，曰：「勿爾！兒已成立，家計尚可存活，豈有百歲不拆之鸞鳳耶！」顧子曰：「好為人，勿墮父業。十年後一相見耳。」徑出門去，於是遂絕。

後瑋二十五舉進士，官行人。奉命祭西岳道經華陰，忽有輿從羽葆馳冲鹵薄。訝之。審視車中人，其父也。下車哭伏道左。父停輿曰：「官聲好，我瞑目矣。」瑋伏不起。朱促輿行，火馳不顧。去數步回望，解佩刀遣人持贈。遙語曰：「佩之則貴。」瑋欲追從，見輿馬人從飄忽若風，瞬息不見。痛恨良久。抽刀視之，制極精工，鐫字一行，曰：「膽欲大而心欲小，智欲圓而行欲方。」瑋後官至司馬。生五子，曰沉，曰潛，曰洌，曰渾，曰深。一夕夢父曰：「佩刀宜贈渾也。」從之。渾仕為總憲，有政聲。

異史氏曰：「斷鶴續鳧，矯作者妄。移花接木，創始者奇。而況加鑿削於心肝，施刀錐於頸項者哉？陸公者，可謂媿皮裏

妍骨矣。明季至今，為歲不遠，陵陽陸公猶存乎？尚有靈焉否也？為之執鞭，所忻慕焉。」

二、六、嬰寧

王子服，莒之羅店人，早孤，絕慧，十四入泮。母最愛之，尋常不令游郊野。聘蕭氏，未嫁而夭，故求凰未就也。

會上元，有舅氏子吳生邀同眺矚，方至村外，舅家僕來招吳去。生見游女如云，乘興獨游。有女郎攜婢，拈梅花一枝，容華絕代，笑容可掬。生注目不移，竟忘顧忌。女過去數武，顧婢子笑曰：「個兒郎目灼灼似賊！」遺花地上，笑語自去。生拾花悵然，神魂喪失，怏怏遂返。至家，藏花枕底，垂頭

而睡，不語亦不食。母憂之，醮禳益劇，肌革銳減。醫師診視，投劑發表，忽忽若迷。母撫問所由，默然不答。適吳生來，囑秘詰之。吳至榻前，生見之淚下，吳就榻慰解，漸致研詰，生具吐其實，且求謀畫。吳笑曰：「君意亦癡！此願有何難遂？當代訪之。徒步於野，必非世家，如其未字，事固諧矣，不然，拚以重賂，計必允遂。但得痊瘳，成事在我。」生聞之不覺解頤。吳出告母，物色女子居里。而探訪既窮，並無蹤跡。母大憂，無所為計。然自吳去後，顏頓開，食亦略進。數日吳復來，生問所謀。吳給之曰：「已得之矣。我以為誰何人，乃我姑之女，即君姨妹，今尚待聘。雖內戚有婚姻之嫌，實告之無不諧者。」生喜溢眉宇，問：「居何里？」

吳詭曰：「西南山中，去此可三十餘里。」生又囑再四，吳銳身自任而去。

生由是飲食漸加，日就平復。探視枕底，花雖枯，未便雕落，凝思把玩，如見其人。怪吳不至，折柬招之，吳支托不肯赴招。生恚怒，悒悒不歡。母慮其復病，急為議姻，略與商榷，輒搖首不願，惟日盼吳。吳迄無耗，益怨恨之。轉思三十里非遙，何必仰息他人？懷梅袖中，負氣自往，而家人不知也。伶仃獨步，無可問程，但望南山行去。約三十餘里，亂山合沓，空翠爽肌，寂無人行，止有鳥道。遙望谷底叢花亂樹中，隱隱有小里落。下山入村，見舍宇無多，皆茅屋，而意甚修雅。北向一家，門前皆絲柳，墻內桃杏尤繁，間以修

竹，野鳥格磔其中。意其園亭，不敢遽入。回顧對戶，有巨石滑潔，因坐少憩。俄聞牆內有女子長呼：「小榮！」其聲嬌細。方佇聽間，一女郎由東而西，執杏花一朵，俯首白簪；舉頭見生，遂不復簪，含笑拈花而入。審視之，即上元途中所遇也。心驟喜，但念無以階進。欲呼姨氏，顧從無還往，懼有訛誤。門內無人可問，坐臥徘徊，自朝至於日昃，盈盈望斷，並忘饑渴。時見女子露半面來窺，似訝其不去者。忽一老媪扶杖出，顧生曰：「何處郎君，聞自辰刻來，以至於今。意將何為？得勿饑也？」生急起揖之，答云：「將以探親。」媪聾聵不聞。又大言之。乃問：「貴戚何姓？」生不能答。媪笑曰：「奇哉！姓名尚自不知，何親可探？我視郎

君亦書癡耳。不如從我來，啖以粗糲，家有短榻可臥。待明朝歸，詢知姓氏，再來探訪。」生方腹餒思啖，又從此漸近麗人，大喜。從媪入，見門內白石砌路，夾道紅花片片墜階上，曲折而西，又啟一關，豆棚花架滿庭中。肅客入舍，粉壁光如明鏡，窗外海棠枝朵，探入室中，裊藉幾榻，罔不潔澤。甫坐，即有人自窗外隱約相窺。媪喚：「小榮！可速作黍。」外有婢子噉聲而應。坐次，具展宗閥。媪曰：「郎君外祖，莫姓吳否？」曰：「然。」媪驚曰：「是吾甥也！尊堂，我妹子。年來以家屢貧，又無三尺之男，遂至音問梗塞。甥長成如許，尚不相識。」生曰：「此來即為姨也，匆遽遂忘姓氏。」媪曰：「老身秦姓，並無誕育，弱息亦為庶產。渠母改

醮，遺我鞠養。頗亦不鈍，但少教訓，嬉不知愁。少頃，使來拜識。」未幾，婢子具飯，雛尾盈握。媪勸餐已，婢來斂具。媪曰：「喚寧姑來。」婢應去。良久，聞戶外隱有笑聲。媪又喚曰：「嬰寧，汝姨兄在此。」戶外嗤嗤笑不已。婢推之以入，猶掩其口，笑不可遏。媪逋目曰：「有客在，吒吒叱叱，是何景象？」女忍笑而立，生揖之。媪曰：「此王郎，汝姨子。一家尚不相識，可笑人也。」生問：「妹子年幾何矣？」媪未能解；生又言之。女復笑，不可仰視。媪謂生曰：「我言少教誨，此可見矣。年已十六，呆癡如嬰兒。」生曰：「小於甥一歲。」曰：「阿甥已十七矣，得非庚午屬馬者耶？」生首應之。又問：「甥婦阿誰？」答曰：「無之。」曰：「如甥才貌，何

十七歲猶未聘？嬰寧亦無姑家，極相匹敵。惜有內親之嫌。」生無語，目注嬰寧，不遑他瞬。婢向女小語云：「目灼灼賊腔未改！」女又大笑，顧婢曰：「視碧桃開未？」遽起，以袖掩口，細碎連步而出。至門外，笑聲始縱。媪亦起，喚婢襆被，為生安置。曰：「阿甥來不易，宜留三五日，遲遲送汝歸。如嫌幽悶，舍後有小園，可供消遣；有書可讀。」次日至舍後，果有園半畝，細草鋪氈，楊花糝徑。有草舍二楹，花木四合其所。穿花小步，聞樹頭蘇蘇有聲，仰視，則嬰寧在上，見生來，狂笑欲墮。生曰：「勿爾，墮矣！」女且下且笑，不能自止。方將及地，失手而墮，笑乃止。生扶之，陰按其腕。女笑又作，倚樹不能行，良久乃罷。生俟其笑歇，

乃出袖中花示之。女接之，曰：「枯矣！何留之？」曰：「此上元妹子所遺，故存之。」問：「存之何益？」曰：「以示相愛不忘。自上元相遇，凝思成病，自分化為異物；不圖得見顏色，幸垂憐憫。」女曰：「此大細事，至戚何所靳惜？待郎行時，園中花，當喚老奴來，折一巨捆負送之。」生曰：「妹子癡耶？」女曰：「何便是癡？」生曰：「我非愛花，愛拈花之人耳。」女曰：「葭莩之情，愛何待言。」生曰：「我所為愛，非瓜葛之愛，乃夫妻之愛。」女曰：「有以異乎？」曰：「夜共枕席耳。」女俯首思良久，曰：「我不慣與生人睡。」語未已，婢潛至，生惶恐遁去。少時會母所，母問：「何往？」女答以園中共話。媪曰：「飯熟已久，有何長言，周遮乃爾。」

女曰：「大哥欲我共寢。」言未已，生大窘，急目瞪之。女微笑而止。幸媪不聞，猶絮絮究詰。生急以他詞掩之，因小語責女。女曰：「適此語不應說耶？」生曰：「此背人語。」女曰：「背他人，豈得背老母？且寢處亦常事，何諱之？」生恨其癡，無術可悟之。

食方竟，家人捉雙衛來尋生。先是，母待生久不歸，始疑村中搜覓已遍，竟無蹤兆，因往尋吳。吳憶曩言，因教於西南山村尋覓。凡歷數村，始至於此。生出門，適相值，便入告媪，且請偕女同歸。媪喜曰：「我有志，匪伊朝夕。但殘軀不能遠涉，得甥攜妹子去，識認阿姨，大好！」呼嬰寧，寧笑至。媪曰：「大哥欲同汝去，可裝束。」又餉家人酒食，始

送之出，曰：「姨家田產豐裕，能養冗人。到彼且勿歸，小學詩禮，亦好事翁姑。即煩阿姨擇一良匹與汝。」二人遂發。至山坳回顧，猶依稀見媪倚門北望也。

抵家，母睹姝麗，驚問為誰。生以姨妹對。母曰：「前吳郎與兒言者，詐也。我未有姊，何以得甥？」問女，女曰：「我非母出。父為秦氏，沒時兒在襁中，不能記憶。」母曰：「我一姊適秦氏良確。然殂謝已久，那得復存？」因審詰面龐、志贅，一一符合。又疑曰：「是矣！然亡已多年，何得復存？」疑慮間，吳生至，女避入室。吳詢得故，惘然久之，忽曰：「此女名嬰寧耶？」生然之。吳極稱怪事。問所自知，吳曰：「秦家姑去世後，姑丈鰥居，崇於狐，病瘖死。狐生女名嬰寧，

繡臥床上，家人皆見之。姑丈沒，狐猶時來。後求天師符粘壁上，狐遂攜女去。將勿此耶？彼此疑參，但聞室中啞啞，皆嬰寧笑聲。母曰：「此女亦太憨。」吳生請面之。母入室，女猶濃笑不顧。母促令出，始極力忍笑，又面壁移時方出。才一展拜。翻然遽入，放聲大笑。滿室婦女，為之粲然。

吳請往覘其異，就便執柯。尋至村所，廬舍全無，山花零落而已。吳憶葬處仿佛不遠，然墳壟湮沒，莫可辨識，詫嘆而返。母疑其為鬼，入告吳言，女略無駭意。又吊其無家，亦殊無悲意，孜孜憨笑而已。眾莫之測，母令與少女同寢止，昧爽即來省問，操女紅糖巧絕倫。但善笑，禁之亦不可止。然笑處嫣然，狂而不損其媚，人皆樂之。鄰女少婦，爭承迎

之。母擇吉為之合卺，而終恐為鬼物，竊於日中窺之，形影殊無少異。

至日，使華裝行新婦禮，女笑極不能俯仰，遂罷。生以憨癡，恐洩漏房中隱事，而女殊秘密，不肯道一語。每值母憂怒，女至一笑即解。奴婢小過，恐遭鞭楚，輒求詣母共話，罪婢投見恆得免。而愛花成癖，物色遍戚黨；竊典金釵，購佳種，數月，階砌藩溷無非花者。庭後有木香一架，故鄰西家，女每攀登其上，摘供簪玩。母時遇見輒訶之，女卒不改。一日西人子見之，凝注傾倒。女不避而笑。西人子謂女意屬己，心益蕩。女指墻底笑而下，西人子謂示約處，大悅。及昏而往，女果在焉，就而淫之，則陰如錐刺，痛徹於心，大

號而踣。細視非女，則一枯木臥墻邊，所接乃水淋竅也。鄰父聞聲，急奔研問，呻而不言；妻來，始以實告。爇火燭窺，見中有巨蠍如小蟹然，翁碎木，捉殺之。負子至家，半夜尋卒。鄰人訟生，訐發嬰寧妖異。邑宰素仰生才，稔知其篤行士，謂鄰翁訟誣，將杖責之，生為乞免，遂釋而出。母謂女曰：「憨狂爾爾，早知過喜而伏憂也。邑令神明，幸不牽累。設鵲突官宰，必逮婦女質公堂，我兒何顏見戚裏？」女正色，矢不復笑。母曰：「人罔不笑，但須有時。」而女由是竟不復笑，雖故逗之亦終不笑，然竟日未嘗有戚容。

一夕，對生零涕。異之。女哽咽曰：「曩以相從日淺，言之恐致駭怪。今日察姑及郎，皆過愛無有異心，直告或無妨

乎？妾本狐產。母臨去，以妾托鬼母，相依十餘年，始有今日。妾又無兄弟，所恃者惟君。老母岑寂山阿，無人憐而合厝之，九泉輒為悼恨。君倘不惜煩費，使地下人消此怨恫，庶養女者不忍溺棄。」生諾之，然慮墳塚迷於荒草。女言無慮。刻日夫婦輿櫬而往。女於荒煙錯楚中，指示墓處，果得媪尸，膚革猶存。女撫哭哀痛。舁歸，尋秦氏墓合葬焉。是夜生夢媪來稱謝，寤而述之。女曰：「妾夜見之，囑勿驚郎君耳。」生恨不邀留。女曰：「彼鬼也。生人多，陽氣勝，何能久居？」生問小榮，曰：「是亦狐，最黠。狐母留以視妾，每攝餌相哺，故德之常不去心；昨問母，雲已嫁之。」由是

歲值寒食，夫婦登秦墓，拜掃無缺。女逾年生一子，在懷抱中，不畏生人，見人輒笑，亦大有母風雲。

異史氏曰：「觀其孜孜憨笑，似全無心肝者。而墻下惡作劇，其黠孰甚焉！至淒戀鬼母，反笑為哭，我嬰寧何常憨耶。竊聞山中有草，名『笑矣乎』，嗅之則笑不可止。房中植此一種，則合歡、忘憂，並無顏色矣。若解語花，正嫌其作態耳。」

## 二、七、聶小倩

寧採臣，浙人，性慷爽，廉隅自重。每對人言：「生平無二色。」適赴金華，至北郭，解裝蘭若。寺中殿塔壯麗，然蓬蒿沒人，似絕行蹤。東西僧舍，雙扉虛掩，惟南一小舍，扃

鍵如新。又顧殿東隅，修竹拱把，階下有巨池，野藕已花。意甚樂其幽杳。會學使案臨，城舍價昂，思便留止，遂散步以待僧歸。日暮有士人來啟南扉，寧趨為禮，且告以意。士人曰：「此間無房主，僕亦僑居。能甘荒落，旦暮惠教，幸甚！」寧喜，藉槁代床，支板作幾，為久客計。是夜月明高潔，清光似水，二人促膝殿廊，各展姓字。士人自言燕姓，字赤霞。寧疑為赴試者，而聽其音聲，殊不類浙。詰之，自言秦人，語甚樸誠。既而相對詞竭，遂拱別歸寢。

寧以新居，久不成寐。聞舍北喁喁，如有家口。起，伏北壁石窗下微窺之，見短墻外一小院落，有婦可四十餘；又一媪衣 〇 緋，插蓬沓，鮐背龍鐘，偶語月下。婦曰：「小倩

何久不來？」媪曰：「殆好至矣。」婦曰：「將無向姥姥有怨言否？」曰：「不聞；但意似蹙蹙。」婦曰：「婢子不宜好相識。」言未已，有十七八女子來，仿佛艷絕。媪笑曰：「背地不言人，我兩個正談道，小妖婢悄來無跡響，幸不訾著短處。」又曰：「小娘子端好是畫中人，遮莫老身是男子，也被攝去。」女曰：「姥姥不相譽，更阿誰道好？」婦人女子又不知何言。寧意其鄰人眷口，寢不復聽；又許時始寂無聲。

方將睡去，覺有人至寢所，急起審顧，則北院女子也。驚問之，女笑曰：「月夜不寐，願修燕好。」寧正容曰：「卿防物議，我畏人言。略一失足，廉恥道喪。」女云：「夜無知者。」寧又咄之。女逡巡若復有詞。寧叱：「速去！不然，當呼南

舍生知。」女懼，乃退。至戶外忽返，以黃金一錠置褥上。寧掇擲庭墀，曰：「非義之物，污我囊囊！」女慚出，拾金自言曰：「此漢當是鐵石。」

詰旦有蘭溪生攜一僕來候試，寓於東廂，至夜暴亡。足心有小孔，如錐刺者，細細有血出，俱莫知故。經宿一僕死，癥亦如之。向晚燕生歸，寧質之，燕以為魅。寧素抗直，頗不在意。宵分女子復至，謂寧曰：「妾閱人多矣，未有剛腸如君者。君誠聖賢，妾不敢欺。小倩，姓聶氏，十八夭殂，葬於寺側，被妖物威脅，歷役賤務，腆顏向人，實非所樂。今寺中無可殺者，恐當以夜叉來。」寧駭求計。女曰：「與燕生同室可免。」問：「何不惑燕生？」曰：「彼奇人也，固不

敢近。」又問：「迷人若何？」曰：「狎暱我者，隱以錐刺其足，彼即茫若迷，因攝血以供妖飲。又惑以金，非金也，乃羅刹鬼骨，留之能截取人心肝。二者，凡以投時好耳。」寧感謝，問戒備之期，答以明宵。臨別泣曰：「妾墮玄海，求岸不得。郎君義氣幹雲，必能拔生救苦。倘肯囊妾朽骨，歸葬安宅，不啻再造。」寧毅然諾之。因問葬處，曰：「但記白楊之上，有烏巢者是也。」言已出門，紛然而滅。

明日恐燕他出，早詣邀致。辰後具酒饌，留意察燕。既約同宿，辭以性癖耽寂。寧不聽，強攜臥具來，燕不得已，移榻從之，囑曰：「僕知足下丈夫，傾風良切。要有微衷，難以遽白。幸勿翻窺篋牝，違之兩俱不利。」寧謹受教。既各寢，

燕以箱篋置窗上，就枕移時，齁如雷吼。寧不能寐。近一更許，窗外隱隱有人影。俄而近窗來窺，目光睽閃。寧懼，方欲呼燕，忽有物裂篋而出，耀若匹練，觸折窗上石櫺，颯然一射，即遽斂入，宛如電滅。燕覺而起，寧偽睡以覘之。燕捧篋檢征，取一物，對月嗅視，白光晶瑩，長可二寸，徑非葉許。已而數重包固，仍置破篋中。自語曰：「何物老魅，直爾大膽，致壞篋子。」遂復臥。寧大奇之，因起問之，且告以所見。燕曰：「既相知愛，何敢深隱。我劍客也。若非石櫺，妖當立斃；雖然，亦傷。」問：「所緘何物？」曰：「劍也。適嗅之有妖氣。」寧欲觀之。慨出相示，熒熒然一小劍也。於是益厚重燕。

明日，視窗外有血跡。遂出寺北，見荒墳累累，果有白楊，烏巢其顛。迨營謀既就，趣裝欲歸。燕生設祖帳，情義殷渥，以破革囊贈寧，曰：「此劍袋也。寶藏可遠魑魅。」寧欲從受其術。曰：「如君信義剛直，可以為此，然君猶富貴中人，非此道中人也。」寧托有妹葬此，發掘女骨，斂以衣衾，賃舟而歸。寧齋臨野，因營墳葬諸齋外，祭而祝曰：「憐卿孤魂，葬近蝸居，歌哭相聞，庶不見凌於雄鬼。一甌漿水飲，殊不清旨，幸不為嫌！」祝畢而返，後有人呼曰：「緩待同行！」回顧，則小倩也。歡喜謝曰：「君信義，十死不足以報。請從歸，拜識姑嫜，媵御無悔。」審諦之，肌映流霞，足翹細筍，白晝端相，嬌麗尤絕。遂與俱至齋中。囑坐少待，先入

白母。母愕然。時寧妻久病，母戒勿言，恐所駭驚。言次，女已翩然入，拜伏地下。寧曰：「此小倩也。」母驚顧不遑。女謂母曰：「兒飄然一身，遠父母兄弟。蒙公子露覆，澤被發膚，願執箕帚，以報高義。」母見其綽約可愛，始敢與言，曰：「小娘子惠顧吾兒，老身喜不可已。但生平止此兒，用承祧緒，不敢令有鬼偶。」女曰：「兒實無二心。泉下人既不見信於老母，請以兄事，依高堂，奉晨昏，如何？」母憐其誠，允之。即欲拜嫂，母辭以疾，乃止。女即入廚下，代母尸饗。入房穿榻，似熟居者。

日暮母畏懼之，辭使歸寢，不為設床褥。女窺知母意，即竟去。過齋欲入，卻退，徘徊戶外，似有所懼。生呼之。女

曰：「室有劍氣畏人。向道途中不奉見者，良以此故。」寧悟為革囊，取懸他室。女乃入，就燭下坐；移時，殊不一語。久之，問：「夜讀否？」妾少誦《楞嚴經》，今強半遺忘。洵求一卷，夜暇就兄正之。」寧諾。又坐，默然，二更向盡，不言去。寧促之。愀然曰：「異域孤魂，殊怯荒墓。」寧曰：「齋中別無床寢，且兄妹亦宜遠嫌。」女起，顰蹙欲啼，足□儻而懶步，從容出門，涉階而沒。寧竊憐之，欲留宿別榻，又懼母嗔。女朝旦朝母，捧匱沃盥，下堂操作，無不曲承母志。黃昏告退，輒過齋頭，就燭誦經。覺寧將寢，始慘然出。先是，寧妻病廢，母劬不堪；自得女，逸甚，心德之。日漸稔，親愛如己出，竟忘其為鬼，不忍晚令去，留與同臥起。

女初來未嘗飲食，半年漸啜稀餲。母子皆溺愛之，諱言其鬼，人亦不知辨也。無何，寧妻亡，母隱有納女意，然恐於子不利。女微知之，乘間告曰：「居年餘，當知肝膈。為不欲禍行人，故從郎君來。區區無他意，止以公子光明磊落，為天人所欽矚，實欲依贊三數年，借博封誥，以光泉壤。」母亦知無惡意，但懼不能延宗嗣。女曰：「子女惟天所授。郎君注福籍，有亢宗子三，不以鬼妻而遂奪也。」母信之，與子議。寧喜，因列筵告戚黨。或請覲新婦，女慨然華妝出，一堂盡眙，反不疑其鬼，疑為仙。由是五黨諸內眷，咸執贄以賀，爭拜識之。女善畫蘭、梅，輒以尺幅酬答，得者藏之什襲以為榮。一日俯頸窗前，怊悵若失。忽問：「革囊何在？」

曰：「以卿畏之，故緘致他所。」曰：「妾受生氣已久，當不復畏，宜取掛床頭。」寧詰其意，曰：「三日來，心怔忡無停息，意金華妖物，恨妾遠遁，恐旦晚尋及也。」寧果攜革囊來。女反復審視，曰：「此劍仙將盛人頭者也。敝敗至此，不知殺人幾何許！妾今日視之，肌猶粟慄。」乃懸之。次日又命移懸戶上。夜對燭坐，欵有一物，如飛鳥至。女驚匿夾幕間。寧視之，物如夜叉狀，電目血舌，睽閃攫拿而前，至門卻步，逡巡久之，漸近革囊，以爪摘取，似將抓裂。囊忽格然一響，大可合篋，恍惚有鬼物突出半身，揪夜叉入，聲遂寂然，囊亦頓索如故。寧駭詫，女亦出，大喜曰：「無恙矣！」共視囊中，清水數斗而已。

後數年，寧果登進士。舉一男。納妾後，又各生一男，皆仕進有聲。

## 二、八、義鼠

楊天一言：見二鼠出，其一為蛇所吞；其一瞪目如椒，意似甚恨怒，然遙望不敢前。蛇果腹蜿蜒入穴，方將過半，鼠奔來，力嚼其尾，蛇怒，退身出。鼠故便捷，欻然遁去，蛇追不及而返。及入穴，鼠又來，嚼如前狀。蛇入則來，蛇出則往，如是者久。蛇出，吐死鼠於地上。鼠來嗅之，啾啾如悼息，銜之而去。友人張歷友為作《義鼠行》。

## 二、九、地震

康熙七年六月十七日戌時，地大震。餘適客稷下，方與表兄李篤之對燭飲。忽聞有聲如雷，自東南來，向西北去。眾駭異，不解其故。俄而幾案擺簸，酒杯傾覆，屋梁椽柱，錯折有聲。相顧失色。久之，方知地震，各疾趨出。見樓閣房舍，僕而復起，墻傾屋塌之聲，與兒啼女號，喧如鼎沸。人眩暈不能立，坐地上隨地轉側。河水傾潑丈餘，雞鳴犬吠滿城中。逾一時許始稍定。視街上，則男女裸體相聚，競相告語，並忘其未衣也。後聞某處井傾側不可汲，某家樓臺南北易向，棲霞山裂，沂水陷穴，廣數畝。此真非常之奇變也。有邑人婦夜起溲溺，回則狼銜其子。婦急與狼爭。狼一緩頰，婦奪

兒出，攜抱中，狼蹲不去。婦大號，鄰人奔集，狼乃去。婦驚定作喜，指天畫地，述狼銜兒狀，已奪兒狀。良久，忽悟一身未著寸縷，乃奔。此當與地震時男女兩忘同一情狀也。人之惶急無謀，一何可笑！

## 二、十、海公子

東海古跡島，有五色耐冬花，四時不凋。而島中古無居人，人亦罕到之。登州張生好奇，喜游獵，聞其佳勝，備酒食，自掉扁舟而往。至則花正繁，香聞數里，樹有大至十餘圍者。反復留連，甚慊所好；開尊自酌，恨無同游。忽花中一麗人來，紅裳眩目，略無倫比。見張，笑曰：「妾自謂興致不凡，

不圖先有同調。」張驚問：「何人？」曰：「我膠娼也，適從海公子來。彼尋勝翱翔，妾以艱於步履，故留此耳。」張方苦寂，得美人，大悅，招坐共飲。女言辭溫婉，蕩人心志，張愛好之。恐海公子來不得盡歡，因挽與亂。女忻從之。

相狎未已，忽聞風肅肅，草木偃折有聲。女急推張起，曰：「海公子至矣。」張束衣愕顧，女已失去。旋見一大蛇，自叢樹中出，粗於巨桶。張懼，障身大樹後，冀蛇不睹。蛇近前，以身繞人並樹，糾纏數匝，兩臂直束胯間，不可少屈。昂其首，以舌刺張鼻。鼻血下注，流地上成窪，乃俯就飲之。張自分必死，忽憶腰中佩荷囊內有毒狐藥，因以二指夾出，破裏堆掌上。又側頸自顧其掌，令血滴藥上，頃刻盈把。蛇果

就掌吸飲。飲未及盡，遽伸其體，擺尾若霹靂聲，觸樹，樹半體崩落，蛇臥地如梁而斃矣。張亦眩莫能起，移時方蘇，載蛇而歸。大病月餘方瘥。疑女子亦蛇精也。

二、十一、丁前溪

丁前溪，諸城人，富有錢穀，游俠好義，慕郭解之為人。御史行臺按訪之。丁亡去，至安丘遇雨。避身逆旅。雨日中不止。有少年來，館穀豐隆。既而昏暮，止宿其家，莖豆飼畜，給食周至。問其姓字，少年云：「主人楊姓，我其內侄也。主人好交游，適他出，家惟娘子在。貧不能厚客給，幸能垂諒。」問：「主人何業？」則家無資產，惟日設博場以謀

升斗。次日雨仍不止，供給弗懈。至暮銕芻，芻束濕，頗極參差。丁怪之。少年曰：「實告客，家貧無以飼畜，適娘子撤屋上茅耳。」丁益異之，謂其意在得直。天明，付之金不受，強付少年持入。俄出仍以反客，云：「娘子言：我非業此獵食者。主人在外，嘗數日不攜一錢，客至吾家，何遂索償乎？」丁贊嘆而別。囑曰：「我諸城丁某，主人歸，宜告之。暇幸見顧。」數年無耗。

值歲大饑，楊困甚，無所為計，妻漫勸詣丁，從之。至諸城，通姓名於門者，丁茫不憶，申言始憶之。蹂履而出，揖客入，見其衣敝踵決，居之溫室，設筵相款，寵禮異常。明日為制冠服，表里溫暖。楊義之，而內顧增憂，褊心不能無少望，

居數日殊不言贈別。楊意甚急，告丁曰：「顧不敢隱，僕來時米不滿升。今過蒙推解固樂，妻子如何矣！」丁曰：「是無煩慮，已代經紀矣。幸舒意少留，當助資斧。」走伴招諸博徒，使楊坐而抽頭，終夜得百金，乃送之還。歸見室人，衣履鮮整，小婢侍焉。驚問之，妻言：「自君去後，次日即有車徒齎送布帛米粟，堆積滿屋，云是丁客所贈。又給一婢，為妾驅使。」楊感不自已。由此小康，不屑舊業矣。

異史氏曰：「貧而好客，飲博浮蕩者優為之，異者，獨其妻耳。受之施而不報，豈人也哉？然一飯之德不忘，丁其有焉。」

二、十二、海大魚

海濱故無山。一日，忽見峻嶺重疊，綿亙數里，眾悉駭怪。又一日，山忽他徙，化而烏有。相傳海中大魚，值清明節，則攜眷口往拜其墓，故寒食時多見之。

二、十三、張老相公

張老相公，晉人。適將嫁女，攜眷至江南，躬市奩妝。舟抵金山，張先渡江，囑家人在舟勿爆臙腥。蓋江中有鼃怪，聞香輒出，壞舟吞行人，為害已久。張去，家人忘之，炙肉舟中。忽巨浪覆舟，妻女皆沒。

張回棹，悼恨欲死。因登金山謁寺僧，詢龜之異，將以仇  
龜。僧聞之，駭言：「吾儕日與習近，懼為禍殃，惟神明奉  
之；祈勿怒，時斬牲牢，投以半體，則躍吞而去。誰復能相  
仇哉！」張聞，頓思得計。便招鐵工起爐山半，治赤鐵重百  
餘斤。審知所常伏處，使二三健男子，以大鉗舉投之，龜躍  
出，疾吞而下。少時波湧如山；頃之浪息，則龜死已浮水上  
矣。行旅寺僧並快之，建張老相公祠，肖像其中以為水神，  
禱之輒應。

二、十四、水莽草

水莽，毒草也。蔓生似葛，花紫類扁豆，誤食之立死，即為水莽鬼。俗傳此鬼不得輪回，必再有毒死者始代之。以故楚中桃花江一帶，此鬼尤多云。

楚人以同歲生者為同年，投刺相謁，呼庚兄庚弟，子侄呼庚伯，習俗然也。有祝生造其同年某，中途燥渴思飲。俄見道旁一媪，張棚施飲，趨之。媪承迎入棚，給奉甚殷。嗅之有異味，不類茶茗，置不飲，起而出。媪止客，急喚：「三娘，可將好茶一杯來。」俄有少女，捧茶自棚後出。年約十四五，姿容艷絕，指環臂釧，晶瑩鑒影。生受盞神馳，嗅其茶，芳

烈無倫，吸盡復索。覷媪出，戲捉纖腕，脫指環一枚。女頰頰微笑，生益惑。略詰門戶。女云：「郎暮來，妾猶在此也。」生求茶葉一撮，並藏指環而去。至同年家，覺心頭作惡，疑茶為患，以情告某。某駭曰：「殆矣！此水莽鬼也！先君死於是。是不可救，奈何？」生大懼，出茶葉驗之，真水莽草也。又出指環，兼述女子情狀。某懸想曰：「此必寇三娘也！」生以其名確符，問何故知。曰：「南村富室寇氏女夙有艷名，數年前誤食水莽而死，必此為魅。」或言受魅者若知鬼之姓氏，求其故襠煮服可痊。某急詣寇所，實告以故，長跪哀懇。寇以其將代女死故，靳不與。某忿而返。以告生，生亦切齒恨之，曰：「我死，必不令彼女脫生！」某昇之歸，將至家

門而卒。母號啼，葬之。遺一子甫周歲。妻不能守，半年改醮去。母留孤自哺，劬瘁不堪，朝夕悲啼。一日方抱兒哭室中，生悄然忽入。母大駭，揮涕問之。答云：「兒地下聞母哭，甚愴於懷，故來奉晨昏耳。兒雖死，已有家室，即同來分母勞，母其勿悲。」母問：「兒婦何人？」曰：「寇氏坐聽兒死，兒深恨之。死後欲尋三娘，而不知其處，近遇庚伯，始相指示。兒往，則三娘已投生任侍郎家，兒馳去，強捉之來。今為兒婦，亦相得，頗無苦。」移時門外一女子入，華妝艷麗，伏地拜母。生曰：「此寇三娘也。」雖非生人，母視之，情懷差慰。生便遣三娘操作，三娘雅不習慣，然承順殊憐人。由此居故室，遂留不去。女請母告諸家。生意欲勿

告，而母承女意，卒告之。寇家媪翁，聞而大駭，命車疾至，視之果三娘，相向哭失聲。女勸止之。媪視生家良貧，意甚悼。女曰：「人已鬼，又何厭貧？祝郎母子，情意拳拳，兒固已安之矣。」因問：「茶媪誰也？」曰：「彼倪姓。自慚不能惑行人，故求兒助之耳。今已生於郡城賣漿者之家。」因顧生曰：「既婿矣，而不拜岳，妾復何心？」生乃投拜。女便入廚下，代母執炊供客。翁媪視之愴心，既歸，即遣兩婢來，為之服役；金百斤、布帛數十匹，酒馘不時饋送，小阜祝母矣。寇亦時招歸寧。居數日，輒曰：「家中無人，宜早送兒還。」或故稽之，則飄然自歸。翁乃代生起夏屋，營備臻至。然生終未嘗至翁家。

一日村中有中水莽草毒者，死而復蘇，競傳為異。生日：「是我活之也。彼為李九所害，我為之驅其鬼而去之。」母曰：「汝何不取人以自代？」曰：「兒深恨此等輩，方將盡驅除之，何屑為此？且兒事母最樂，不願生也。」由是中毒者，往往具豐筵禱祝其庭，輒有效。

積十餘年母死。生夫婦哀毀，但不對客，惟命兒緘麻擗踊，教以禮義而已。葬母後又二年餘，為兒娶婦。婦，任侍郎之孫女也。先是，任公妾生女數月而殤。後聞祝生之異，遂命駕其家，訂翁婿焉。至是，遂以孫女妻其子，往來不絕矣。一日謂子曰：「上帝以我有功人世，策為『四瀆牧龍君』。今行矣。」俄見庭下有四馬，駕黃幃車，馬四股皆鱗甲。夫妻

盛裝出，同登一輿。子及婦皆泣拜，瞬息而渺。是日，寇家見女來，拜別翁媪，亦如生言。媪泣挽留。女曰：「祝郎先去矣。」出門遂不復見。其子名鶚，字離塵，請寇翁，以三娘骸骨與生合葬焉。

## 二、十五、造畜

魘昧之術，不一其道，或投美餌，給之食之，則人迷罔，相從而去，俗名曰「打絮巴」，江南謂之「扯絮」。小兒無知，輒受其害。又有變人為畜者，名曰「造畜」。此術江北猶少，河以南輒有之。揚州旅店中，有一人牽驢五頭，暫繫櫪下，云：「我少旋即返。」兼囑：「勿令飲啖。」遂去。驢暴日中，

蹄啣殊喧。主人牽著涼處。驢見水奔之，遂縱飲之。一滾塵皆化為婦人。怪之，詰其所由，舌強而不能答。乃匿諸室中。既而驢主至，系五羊於院中，驚問驢之所在。主人曳客坐，便進餐飲，且云：「客姑飯，驢即至矣。」主人出，悉飲五羊，輾轉化為童子。陰報郡，遣役捕獲，遂械殺之。

二、十六、鳳陽士人

鳳陽一士人，負笈遠游。謂其妻曰：「半年當歸。」十餘月竟無耗問，妻翹盼綦切。一夜才就枕，紗月搖影，離思縈懷，方反側間，有一麗人，珠鬢絳帔，舉帷而入，笑問：「姊姊得無欲見郎君乎？」妻急起應之。麗人邀與共往，妻憚修阻，

麗人但請無慮。即挽女手出，並踏月色，約行一矢之遠。覺麗人行迅速，女步履艱澀，呼麗人少待，將歸著復履。麗人牽坐路側，自乃捉足，脫履相假。女喜著之，幸不鑿柄。復起從行，健步如飛。

移時見士人跨白驪來，見妻大驚，急下騎，問：「何往？」女曰：「將以探君。」又顧問麗人伊誰。女未及答，麗人掩口笑曰：「且勿問訊。娘子奔波非易。郎君星馳夜半，人畜想當俱殆。妾家不遠，且請息駕，早日而行，不晚也。」顧數武之外，即有村落，遂同行入一庭院，麗人促睡婢起供客，曰：「今夜月色皎然，不必命燭，小臺石榻可坐。」士人紮蹇

簷梧，乃即坐。麗人曰：「履大不適於體，途中頗累贅否？歸有代步，乞賜還也。」女稱謝付之。

俄頃設酒果，麗人酌曰：「鸞鳳久乖，圓在今夕，濁醪一觴，敬以為賀。」士人亦執盞酬報。主客笑言，履舄交錯。士人注視麗者，屢以游詞相挑。夫妻乍聚，並不寒暄一語。麗人亦眉目流情，而妖言隱謎。女惟默坐，偽為愚者。久之漸醺，二人語益狎。又以巨觥勸客，士人以醉辭，勸之益苦。士人笑曰：「卿為我度一曲，即當飲。」麗人不拒，即以牙杖撫提琴而歌曰：「黃昏卸得殘妝罷，窗外西風冷透紗。聽蕉聲，一陣一陣細雨下。何處與人閑磕牙？望穿秋水，不見還家，漣漣淚似麻。又是想他，又是恨他，手拿著紅繡鞋兒

占鬼卦。」歌竟，笑曰：「此市井之謠，有污君聽。然因流俗所尚，姑效顰耳。」音聲靡靡，風度狎褻，士人搖惑，若不自禁。少間麗人偽醉離席，士人亦起，從之而去。久之不至。婢子乏疲，伏睡廂下。女獨坐無侶，頗難自堪。思欲遁歸，而夜色微茫，不憶道路。輾轉無以自主，因起而覘之。甫近窗，則斷雲零雨之聲，隱約可聞。又聽之，聞良人與己素常猥褻之狀，盡情傾吐。女至此手顫心搖，殆不可遏，念不如出門竄溝壑以死。憤然方行，忽見弟三郎乘馬而至，遽便下問。女具以告。三郎大怒，立與姊回，直入其家，則室門扃閉，枕上之語猶喁喁也。三郎舉巨石拋擊窗櫺，三五碎斷。內大呼曰：「郎君腦破矣！奈何！」女聞之大哭，謂弟

曰：「我不謀與汝殺郎君，今且若何？」三郎撐目曰：「汝嗚嗚促我來；甫能消此胸中惡，又護男兒、怒弟兄，我不慣與婢子供指使！」返身欲去。女牽衣曰：「汝不攜我去，將何之？」三郎揮姊僕地，脫體而去。女頓驚寤，始知其夢。越日，士人果歸，乘白驪。女異之而未言。士人是夜亦夢，所見所遭，述之悉符，互相駭怪。既而三郎聞姊夫自遠歸，亦來省問。語次，問士人曰：「昨宵夢君，今果然，亦大異。」士人笑曰：「幸不為巨石所斃。」三郎愕然問故，士以夢告。三郎大異之。蓋是夜，三郎亦夢遇姊泣訴，憤激投石也。三夢相符，但不知麗人何許耳。

二、十七、耿十八

新成耿十八病危篤，自知不起。謂妻曰：「永訣在旦晚耳，我死後，嫁守由汝，請言所志。」妻默不語。耿固問之，且云：「守固佳，嫁亦恆情。明言之，庸何傷？行與子訣，子守我心慰，子嫁我意斷也。」妻乃慘然曰：「家無儋石，君在猶不給，何以能守？」耿聞之，遽捉妻臂作恨聲曰：「忍哉！言已而沒，手握不可開。妻號。家人至，兩人攀指力擘之，始開。」

耿不自知死，出門，見小車十餘輛，輛各十人，即以方幅書名字貼車上。御人見耿，促登車。耿視車中已有九人，並已

而十，又視粘單上己名最後。車行咋咋，響震耳際，亦不知何往。俄至一處，聞人言曰：「此思鄉地也。」聞其名疑之。又聞御人偶語云：「今日」 三人。」耿又駭。及細聽其言，悉陰間事，乃自悟曰：「我豈作鬼物耶？」頓念家中無復可懸，惟老母臘高，妻嫁後缺於奉養。念之，不覺涕漣。又移時，見有臺高可數仞，游人甚多，囊頭械足之輩，嗚咽而下上，聞人言為「望鄉臺」。諸人至此，俱踏轅下，紛然競登。御人或撻之，或止之，獨至耿，則促令登。登數十級，始至顛頂。翹首一望，則門閭庭院宛在目前。但內室隱隱，如籠煙霧。淒惻不自勝。

回顧，一短衣人立肩下，即以姓氏問耿，耿俱以告。其人亦自言為東海匠人，見耿零涕，問：「何事不了於心？」耿又告之。匠人謀與越臺而遁，耿懼冥追，匠人固言無妨；耿又慮臺高傾跌，匠人但令從己。遂先躍，耿果從之，及地，竟無恙，喜無覺者。視所乘車猶在臺下。二人急奔，數武，忽自念名字粘車上，恐不免執名之追，遂反身近車，以手指塗去己名始復奔，哆口空息，不敢少停。

少間入里門，匠人送諸其室。驀睹己尸，醒然而蘇。覺乏疲躁渴，驟呼水。家人大駭，與之水，飲至石餘。乃驟起，作揖拜伏。既而出門拱謝，方歸。歸則殭臥不轉。家人以其行異，疑非真活，然漸覘之，殊無他異。稍稍近問，始歷歷言

本末。問：「出門何故？」曰：「別匠人也。」「飲水何多？」曰：「初為我飲，後乃匠人飲也。」投之湯羹，數日而瘥。由此厭薄其妻，不復共枕席。

二、十八、珠兒

常州民李化，富有田產，年五十餘無子，一女名小惠，容質秀美，夫妻最憐愛之。十四歲暴病夭殂，冷落庭幃，益少生趣。始納婢，經年餘生一子，視如拱璧，名之珠兒。兒漸長，魁梧可愛，然性絕癡，五六歲尚不辨菽麥，言語蹇澀。李亦好而不知其惡。會有眇僧募緣於市，輒知人閨闈，於是相驚以神，且云能生死禍福人。幾十百千，執名一索，無敢違

者。詣李募百緡，李難之。給十金不受，漸至三十金。僧厲色曰：「必百金，缺一文不可！」李怒，收金而去。僧忿然起曰：「勿悔！勿悔！」無何，珠兒心暴痛，爬刮床席，色如土灰。李俱，將八十金詣僧求救。僧笑曰：「多金大不易！然山僧何能為？」李回而兒已死。李慟甚，以狀訴邑宰。宰拘僧訊鞫，亦辨給無情詞。答之，似擊鞞革。令搜其身，得木人二、小棺一、小旗幟五。宰怒，以手疊訣舉示之。僧乃懼，自投無數。宰不聽，杖殺之。李叩謝而歸。

時已曠暮，與妻坐床上。忽一小兒，  
儻入室，曰：「阿翁行何疾？極力不能得追。」視其體貌，當得七八歲。李驚，方將詰問，則見其若隱隱現，恍惚如煙霧，宛轉間已登榻。

李推下之，墮地無聲。曰：「阿翁何乃爾！」瞥然復登。李懼，與妻俱奔。兒呼阿父、阿母，嘔啞不休。李入妾室，急闔其扉，還顧，兒已在膝下。李駭問何為。答曰：「我蘇州人，姓詹氏。六歲失怙恃，不為兄嫂所容，逐居外祖家。偶戲門外，為妖僧迷殺桑樹下，驅使如佞鬼，冤閉窮泉，不得脫化。幸賴阿翁昭雪，願得為子。」李曰：「人鬼殊途，何能相依？」兒曰：「但除斗室，為兒設床褥，日澆一杯冷漿粥，餘都無事。」李從之。兒喜，遂獨臥室中。

晨來出入閨閣如家生。聞妾哭子聲，問：「珠兒死幾日矣？」答以七日。曰：「天嚴寒，尸當不腐。試發塚起視，如未損壞，兒當活之。」李喜，與兒去，開穴驗之，軀殼如故。方深

忉怛，回視，兒失所在。異之，異尸歸，方置榻上，日已瞥動，少頃呼湯，湯已而汗，汗已遂起。群喜珠兒復生，又加之慧黠便利，迥異平昔。但夜間殭臥，毫無氣息，共轉側之，冥然若死。眾大愕，謂其復死；天將明，始若夢醒。群就問之，答云：「昔從妖僧時，有兒等二人，其一名呼哥子。昨追我父不及，蓋在後與哥子作別耳。今在冥司，與姜員外作義嗣，夜分，固來邀兒戲。適以白鼻騮送兒歸。」母因問：「在陰司見珠兒否？」曰：「珠兒已轉生矣。渠與阿翁無父子緣，不過金陵嚴子方，來討百十千債負耳。」初，李販於金陵，欠嚴貨價未償，而嚴翁死，此事無人知者。李聞之大駭。

母問：「兒見惠姊否？」兒曰：「不知。再去當訪之。」又二三日，謂母曰：「姊在陰司大好，嫁得楚江王小郎子。珠翠滿頭髻。一出門，便十百作呵殿聲。」母曰：「何不一歸寧？」曰：「人既死，與骨肉無關切。倘有人細述前生，方豁然動念耳。昨托姜員外，夤緣見姊姊，姊呼我坐珊瑚床上，與言父母懸念，渠都如眠睡。兒云：『姊在時，喜繡並蒂花，剪刀刺手爪，血漉綾子上，姊就刺作赤水雲。今母猶掛床頭壁，顧念不去心。姊忘之乎？』姊始淒感，云：『會須白郎君，歸省阿母。』」母問其期，答言不知。一日謂母：「姊行且至，僕從大繁，當多備漿酒。」少間奔入室曰：「姊來矣！」移榻中堂，曰：「姊姊且憩坐，少悲啼。」諸人悉無所見。兒率人焚

紙酌飲於門外，反曰：「騶從暫令去矣。姊言：『昔日所覆綠被，曾為燭花燒一點如豆大，尚在否？』」母曰：「在。」即啟笥出之。兒曰：「姊命我陳舊閨中。乏疲，且小臥，翌日再與阿母言。」東鄰趙氏女，故與惠為繡閣交。是夜忽夢惠襍頭紫帔來相望，言笑猶如平生。且言：「我今異物，父母覲面，不啻河山。將借妹子與家人共語，勿須驚恐。」質明，方與母言。忽僕地悶絕。逾刻方醒，向母曰：「小惠與我嬖別幾年矣，頓髮髮白發生！」母駭曰：「兒病狂耶？」女拜別即出。母知其異，從之。直達李所，抱母哀啼。母驚，不知所謂。女曰：「兒昨歸，頗委頓，未遑一言。兒不孝，中途棄高堂，勞父母哀念，罪莫大焉！」母頓悟，乃哭。已而問

曰：「聞兒今貴，甚慰母心。但汝棲身王家，何遂能來？」女曰：「郎君與兒極燕好，姑舅亦相撫愛，頗不謂妒醜。」惠生時好以手支頤，女言次，輒作故態，神情宛似。未幾珠兒奔入，曰：「接姊者至矣。」女乃起，拜別泣下，曰：「兒去矣。」言訖，復踣，移時乃醒。

後數月，李病劇，醫藥無效。兒曰：「旦夕恐不救也！」二鬼坐床頭，一執鐵杖子，一挽苧麻繩，長四五尺許，兒晝夜哀之不去。」母哭，乃備衣衾。既暮，兒趨入曰：「雜人婦，且退去，姊夫來視阿翁。」俄頃，鼓掌大笑。母問之，曰：「我笑二鬼，聞姊夫來，俱匿床下如龜鱉。」又少時，望空道寒暄，問姊起居。既而拍手曰：「二鬼奴哀之不去，至此大快！」

乃出之門外，卻回，曰：「姊夫去矣。一鬼被鎖馬鞅上。阿父當即無恙。姊夫言：歸白大王，為父母乞百年壽也。」一家俱喜。至夜病良已，數日尋瘥。

延師教兒讀，兒甚慧，十八歲入邑庠，猶能言冥間事。見里中病者，輒指鬼祟所在，以火爇之，往往得瘳。後暴病，體膚青紫，自言鬼神責我洩露，由是不復言。

## 二、十九、小官人

太史某翁，忘其姓氏，晝臥齋中，忽有小鹵簿，出自堂陬。馬大如蛙，人細如指。小儀仗以數十隊。一官冠皂紗，著繡襍，乘肩輿，紛紛出門而去。公心異之，竊疑睡眠之訛。頓

見一小人返入舍，攜一氈包大如拳，竟造床下。白言：「家主人有不腆之儀，敬獻太史。」言已，對立，即又不陳其物。少間又自笑曰：「茆茆微物，想太史亦無所用，不如即賜小人。」太史領之。欣然攜之而去。後不復見。惜太史中餒，不會詰所來。

二、二十、胡四姐

尚生泰山人，獨居清齋。會值秋夜，銀河高耿。明月在天，徘徊花陰，頗存遐想。忽一女子逾垣來，笑曰：「秀才何思之深？」生就視，容華若仙。驚喜擁入，窮極狎暱。自言胡氏，名三姐。問其居第，但笑不言。生亦不復置問，惟相期

永好而已。自此臨無虛夕。一夜與生促膝燈幕，生愛之，矚盼不轉。女笑曰：「眈眈視妾何為？」曰：「我視卿如紅葉碧桃，雖竟夜視勿厭也。」三姐曰：「妾陋質，遂蒙青盼如此，若見吾家四妹，不知如何顛倒。」生益傾動，恨不一見顏色，長跽哀請。

逾夕果偕四姐來。年方及笄，荷粉露垂，杏花煙潤，嫣然含笑，媚麗欲絕。生狂喜，引坐。三姐與生同笑語，四姐惟手引繡帶，俯首而已。未幾三姐起別，妹欲從行，生曳之不釋，顧三姐曰：「卿卿煩一致聲。」三姐乃笑曰：「狂郎情急矣！妹子一為少留。」四姐無語，姊遂去。二人備盡歡好，既而引臂替枕，傾吐生平，無復隱諱。四姐自言為狐，生依戀其

美，亦不之怪。四姐因言：「阿姊狠毒，業殺三人矣，惑之無不斃者。妾幸承溺愛，不忍見滅亡，當早絕之。」生懼，求所以處。四姐曰：「妾雖狐，得仙人正法，當書一符粘寢門，可以卻之。」遂書之。既曉三姐來，見符卻退，曰：「婢子負心，傾意新郎，不憶引線人矣。汝兩人合有夙分，餘亦不相仇，但何必爾？」乃徑去。數日四姐他適，約以隔夜。

是日生偶出門眺望，山下故有榭林，蒼莽中出一少婦，亦頗風韻。近謂生曰：「秀才何必日沾沾戀胡家姊妹？渠又不能以一錢相贈。」即以一貫授生，曰：「先持歸貫良醞，我即攜小肴饌來，與君為歡。」生懷錢歸，果如所教。少間婦果至，置幾上燔雞、咸彘肩各一，即抽刀子縷切為饜。釃酒調謔，

歡洽異常。繼而滅燭登床，狎情蕩甚。既明始起，方坐床頭，捉足易舄，忽聞人聲。傾聽，已入幃幕，則胡姊妹也。婦乍睹，倉惶而遁，遺舄於床。一女遂叱曰：「騷狐！何敢與人同寢處！」追去，移時始返。四姐怨生曰：「君不長進，與騷狐相匹偶，不可復近！」遂悻悻欲去。生惶恐自投，情詞哀懇；三姊從旁解免，四姐怒稍釋，由此相好如初。

一日有陝人騎驢造門，曰：「吾尋妖物，匪伊朝夕，乃今始得之。」生父以其言異，訊所由來。曰：「小人曰泛煙波，游四方，終歲十餘月，常八九離桑梓，被妖物盅殺吾弟。歸甚悼恨，誓必尋而殄滅之。奔波數千里，殊無跡兆，今在君家。不剪，當有繼吾弟而亡者。」時生與女密邇，父母微察之，聞

客言大懼，延入令作法。出二瓶，列地上，符咒良久，有黑霧四團，分投瓶中。客喜曰：「全家都到矣。」遂以豬脬裹瓶口，緘封甚固。生父亦喜，堅留客飯。

生心惻然，近瓶竊聽，聞四姐在瓶中言：「坐視不救，君何負心？」生意感動。急啟所封，而結不可解。四姐又曰：「勿須爾！但放倒壇上旗，以針刺脬作空，予即出矣。」生如其言。果見白氣一絲白孔中出，凌霄而去。客出，見旗垂地，大驚曰：「遁矣！此必公子所為。」搖瓶俯聽，曰：「幸止亡其一。此物合不死，猶可赦。」乃攜瓶別去。

後生在野督傭刈麥，遙見四姐坐樹下。生就近之，執手慰問。且曰：「別後十易春秋，今大丹已成。但思君之念未忘，故

復一拜問。」生欲與借歸。女曰：「妾今非昔比，不可以塵情染，後當復見耳。」言已，不知所在。又二十年餘，生適獨居，見四姐自外至，生喜與語。女曰：「我今名列仙籍，不應再履塵世。但感君情，特報撤瑟之期。可早處分後事，亦勿悲憂。妾當度君為鬼仙，亦無苦也。」乃別而去。至日生果卒。尚生乃友人李文玉之戚好，嘗親見之。

## 二、二十一、祝翁

濟陽祝村有祝翁者，年五十餘病卒，家人入室理纒經，忽聞翁呼甚急。群奔集靈寢，則見翁已復活，群喜慰問。翁但謂媪曰：「我適去，拚不復還。行數里，轉思拋汝一副老皮骨

在兒輩手，寒熱仰人，亦無復生趣，不如從我去。故復歸，欲偕爾同行也。」咸以其新蘇妄語，殊未深信。翁又言之。媪云：「如此亦善。但方生，如何使死？」翁揮之曰：「是不難。家中俗務，可速料理。」媪笑不去，翁又促之。乃出戶外，延數刻而入，給之曰：「處置安妥矣。」翁命速妝，媪不去，翁催益急。媪不忍拂其意，遂裙妝以出，媳女皆匿笑。翁移首於枕，手拍令臥。媪曰：「子女皆在，雙雙挺臥，是何景象？」翁捶床曰：「並死有何可笑！」子女見翁躁急，共勸媪姑從其言。媪如言，並枕殭臥，家人又共笑之。俄時媪笑容忽斂，又漸而兩眸俱合，久之無聲，儼如睡去。眾始近

視，則膚已冰而鼻無息矣。視翁亦然，始共驚怛。康熙二十一年，翁弟婦傭於畢刺史之家，言之甚悉。

異史氏曰：「翁其夙有畸行與？泉路茫茫，去來由爾，奇矣！且白頭者欲其去，則呼令去，抑何其暇也！人當屬纊之時，所最不忍訣者，床頭之暱人耳。苟廣其術，則賣履分香，可以不事矣。」

二、二十二、獵婆龍

豬婆龍產於江西，形似龍而短，能橫飛，常出沿江岸撲食鵝鴨。或獵得之，則貨其肉於陳、柯。此二姓皆友諒之裔，世食婆龍肉，他族不敢食也。一客自江右來，得一頭，紫舟中。

一日泊舟錢塘，縛稍懈，忽躍入江。俄傾，波濤大作，估舟傾沉。

二、二十三、某公

陝右某公，辛丑進士，能記前身。嘗言前生為士人，中年而死，死後見冥王判事，鼎鑊油鑊，一如世傳。殿東隅設數架，上搭豬羊犬馬諸皮。簿吏呼名，或罰作馬，或罰作豬，皆裸之，於架上取皮被之。俄至公，聞冥王曰：「是宜作羊。」鬼取一白羊皮來，捺覆公體。吏白：「是曾拯一人死。」王檢籍覆視，示曰：「免之。惡雖多，此善可贖。」鬼又褫其毛革，革已粘體，不可復動，兩鬼捉臂按胸，力脫之，痛苦不可名。

狀，皮片片斷裂，不得盡淨，既脫，近肩處猶粘羊皮大如掌。公既生，背上有羊毛叢生，剪去復出。

## 二、二十四、快刀

明末濟屬多盜，邑各置兵，捕得輒殺之。章丘盜尤多。有一兵佩刀甚利，殺輒導窾。一日捕盜十餘名，押赴市曹。內一盜識兵，逡巡告曰：「聞君刀最快，斬首無二割。求殺我！」兵曰：「諾。其謹依我，無離也。」盜從之刑處，出刀揮之，豁然頭落。數步之外猶圓轉，而大贊曰：「好快刀！」

二、二十五、俠女

顧生金陵人，博於材藝，而家綦貧。又以母老不忍離膝下。惟日為人書畫，受贄以自給。行年二十有五，伉儷猶虛。對戶舊有空第，一老嫗及少女稅居其中，以其家無男子，故未問其誰何。一日偶自外入，見女郎自母房中出，年約十八九，秀曼都雅，世罕其匹，見生不甚避，而意凜如也。生入問母。母曰：「是對戶女郎，就吾乞刀尺，適言其家亦止一母。此女不似貧家產。問其何為不字，則以母老為辭。明日當往拜其母，便風以意，倘所望不著，兒可代養其老。」明日造其室，其母一聾媪耳。視其室並無隔宿糧，問所業則仰女十指。徐以同食之謀試之，媪意似納，而轉商其女；女默

然，意殊不樂。母乃歸。詳其狀而疑之曰：「女子得非嫌吾貧乎？為人不言亦不笑，艷如桃李，而冷如霜雪，奇人也！」母子猜嘆而罷。

一日生坐齋頭，有少年來求畫，姿容甚美，意頗儇佻。詰所自，以「鄰村」對。嗣後三兩日輒一至。稍稍稔熟，漸以嘲謔，生狎抱之亦不甚拒，遂私焉。由此往來暱甚。會女郎過，少年目送之，問為誰，對以「鄰女」。少年曰：「艷麗如此，神情何可畏？」少間生入內，母曰：「適女子來乞米，云不舉火者經日矣。此女至孝，貧極可憫，宜少周恤之。」生從母言，負斗米款門，達母意。女受之，亦不申謝。日嘗至生家，見母作衣履，便代縫紉，出入堂中，操作如婦。生益德

之。每獲饋餌，必分給其母，女亦略不置齒頰。母適疽生隱處，宵旦號啣。女時就榻省視，為之洗創敷藥，日三四作。母意甚不自安，而女不厭其穢。母曰：「唉！安得新婦如兒，而奉老身以死也！」言訖悲哽，女慰之曰：「郎子大孝，勝我寡母孤女什百矣。」母曰：「床頭蹠躩之役，豈孝子所能為者？且身已向暮，旦夕犯霧露，深以祧續為憂耳。」言間生入，母泣曰：「虧娘子良多，汝無忘報德。」生伏拜之。女曰：「君敬我母，我勿謝也，君何謝焉？」於是益敬愛之。然其舉止生硬，毫不可干。

一日女出門，生目注之，女忽回首，媿然而笑。生喜出意外，趨而從諸其家，挑之亦不拒，欣然交歡。已，戒生曰：「事可

一而不可再。」生不應而歸。明日又約之，女厲色不顧而去。日頻來，時相遇，並不假以詞色。少遊戲之，則冷語冰人。忽於空處問生：「日來少年誰也？」生告之。女曰：「彼舉止態狀，無禮於妾頻矣。以君之狎暱，故置之。請更寄語：再復爾，是不欲生也已！」生至夕，以告少年，且曰：「子必慎之，是不可犯！」少年曰：「既不可犯，君何私犯之？」生白其無。曰：「如其無。則猥褻之語，何以達君聽哉？」生不能答。少年曰：「亦煩寄告：假惺惺勿作態；不然，我將遍播揚。」生甚怒之，情見於色，少年乃去。一夕方獨坐，女忽至，笑曰：「我與君情緣未斷，寧非天數。」生狂喜而抱於懷，欸聞履聲籍籍，兩人驚起，則少年推扉入矣。生驚問：「子

胡為者？」笑曰：「我來觀貞潔人耳。」顧女曰：「今日不怪人耶？」女眉豎頰紅，默不一語，急翻上衣，露一革囊，應手而出，而尺許晶瑩匕首也。少年見之，駭而卻走。追出戶外，四顧渺然。女以匕首望空拋擲，戛然有聲，燦若長虹，俄一物墮地作響。生急燭之，則一白狐身首異處矣。大駭。女曰：「此君之變童也。我固恕之，奈渠定不欲生何！」收刃入囊。生曳令入，曰：「適妖物敗意，請俟來宵。」出門徑去。次夕女果至，遂共綢繆。詰其術，女曰：「此非君所知。宜須慎秘，洩恐不為君福」又訂以嫁娶，曰：「枕席焉，提汲焉，非婦伊何也？業夫婦矣，何必復言嫁娶乎？」生曰：「將勿憎吾貧耶？」曰：「君固貧，妾富耶？今宵之聚，正以憐君

貧耳。」臨別囑曰：「苟且之行，不可以屢。當來我自來，不當來相強無益。」後相值，每欲引與私語，女輒走避。然衣綻炊薪，悉為紀理，不啻婦也。

積數月，其母死，生竭力葬之。女由是獨居。生意孤寢可亂，逾垣入，隔窗頻呼，迄不應。視其門，則空室扁焉。竊疑女有他約。夜復往，亦如之。遂留佩玉於窗間而去之。越日，相遇於母所。既出，而女尾其後曰：「君疑妾耶？人各有心，不可以告人。今欲使君無疑，烏得可？然一事煩急為謀。」問之，曰：「妾體孕已八月矣，恐旦晚臨盆。『妾身未分明』，能為君生之，不能為君育之。可密告母覓乳媪，偽為討螟蛉者，勿言妾也。」生諾，以告母。母笑曰：「異哉此女！聘之

不可，而顧私於我兒。」喜從其謀以待之。又月餘，女數日不至，母疑之，往探其門，蕭蕭閉寂。叩良久，女始蓬頭垢面自內出。啟而入之，則復闔之。入其室，則呱呱者在床上矣。母驚問：「誕幾時矣？」答云：「三日。」捉繃席而視之，則男也，且豐頤而廣額。喜曰：「兒已為老身育孫子，伶仃一身，將焉所托？」女曰：「區區隱衷，不敢掬示老母。俟夜無人，可即抱兒去。」母歸與子言，竊共異之。夜往抱子歸。

更數夕，夜將半，女忽款門入，手提革囊，笑曰：「我大事已了，請從此別。」急詢其故，曰：「養母之德，刻刻不去諸懷。向云『可一而不可再』者，以相報不在床第也。為君貧

不能婚，將為君延一線之續。本期一索而得，不意信水復來，遂至破戒而再。今君德既酬，妾志亦遂，無憾矣。」問：「囊中何物？」曰：「仇人頭耳。」檢而窺之，須發交而血模糊。駭絕，復致研詰。曰：「向不與君言者，以機事不密，懼有宣洩。今事已成，不妨相告：妾浙人。父官司馬，陷於仇，彼籍吾家。妾負老母出，隱姓名，埋頭項，已三年矣。所以不即報者，徒以有母在；母去，又一塊肉累腹中，因而遲之又久。曩夜出非他，道路門戶未稔，恐有訛誤耳。」言已出門，又囑曰：「所生兒，善視之。君福薄無壽，此兒可光門閭。夜深不得驚老母，我去矣！」方淒然欲詢所之，女一閃如電，瞥爾間遂不復見。生嘆惋木立，若喪魂魄。明以告母，

相為嘆異而已。後三年生果卒。子十八舉進士，猶奉祖母以終老云。異史氏曰：「人必室有俠女，而後可以畜變童也。不然，爾愛其艾豕，彼愛爾婁豬矣！」

二、二十六、酒友

車生者，家不中資而耽飲，夜非浮三白不能寢也，以故床頭樽常不空。一夜睡醒，轉側間，似有人共臥者，意是覆裳墮耳。摸之則茸茸有物，似貓而巨，燭之狐也，酣醉而大臥。視其瓶則空矣。因笑曰：「此我酒友也。」不忍驚，覆衣加臂，與之共寢，留燭以觀其變。半夜狐欠伸，生笑曰：「美哉睡乎！」啟覆視之，儒冠之俊人也。起拜榻前，謝不殺之恩。生

曰：「我癖於曲蘖，而人以為癡；卿，我鮑叔也。如不見疑，當為糟丘之良友。」曳登榻復寢。且言：「卿可常臨，無相猜。」狐諾之。生既醒，則狐已去。乃治旨酒一盛專伺狐。

抵夕果至，促膝歡飲。狐量豪善諧，於是恨相得晚。狐曰：「屢叨良醞，何以報德？」生曰：「斗酒之歡，何置齒頰！」狐曰：「雖然，君貧士，杖頭錢大不易，當為君少謀酒資。」明夕來告曰：「去此東南七里道側有遺金，可早取之。」詰旦而往，果得二金，乃市佳肴，以佐夜飲。狐又告曰：「院後有窖藏宜發之。」如其言，果得錢百餘千，喜曰：「囊中已自有，莫漫愁沽矣。」狐曰：「不然。轍中水胡可以久掬？合更謀之。」異日謂生曰：「市上蕎價廉，此奇貨可居。」從之，

收蕎四十餘石，人咸非笑之。未幾大旱，禾豆盡枯，惟蕎可種；售種息十倍，由此益富，治沃田二百畝。但問狐，多種麥則麥收，多種黍則黍收，一切種植之早晚皆取決於狐。曰稔密，呼生妻以嫂，視子猶子焉。後生卒，狐遂不復來。

二、二十七、蓮香

桑生名曉，字子明，沂州人。少孤，館於紅花埠。桑為人靜穆自喜，日再出，就食東鄰，餘時堅坐而已。東鄰生戲曰：「君獨居，不畏鬼狐耶？」笑答曰：「丈夫何畏鬼狐？雄來吾有利劍，雌者尚當開門納之。」鄰生歸與友謀，梯妓於垣而過之，彈指叩扉。主窺問其誰，妓自言為鬼。生大懼，齒震震有聲，

妓逡巡自去。鄰生早至主齋，生述所見，且告將歸。鄰生鼓掌曰：「何不開門納之？」生頓悟其假，遂安居如初。積半年，一女子夜來叩齋，生意友人之復戲也，啟門延入，則傾國之姝。驚問所來。曰：「妾蓮香，西家妓女。」埠上青樓故多，信之。息燭登床，綢繆甚至。自此，三五宿輒一至。

一夕獨坐凝思，一女子翩然入。生意其蓮，承逆與語。覲面殊非，年僅十五六，髯袖垂髻，風流秀曼，行步之間，若還若往。大愕，疑為狐。女曰：「妾良家女，姓李氏。慕君高雅，幸能垂盼。」生喜，握其手，冷如冰，問：「何涼也？」曰：「幼質單寒，夜蒙霜露，那得不爾。」既而羅襦衿解，儼然處子。女曰：「妾為情緣，葳蕤之質，一朝失守，不嫌鄙

陋，願常侍枕席。房中得毋有人否？」生云：「無他，止一鄰娼，顧亦不常至。」女曰：「當謹避之。妾不與院中人等，君秘勿洩。彼來我往，彼往我來可耳。」雞鳴欲去，贈繡履一鉤，曰：「此妾下體所著，弄之足寄思慕。然有人慎勿弄也！」受而視之，翹翹如解結錐，心甚愛悅。越夕無人，便出審玩。女飄然忽至，遂信款呢。自此每出履，則女必應念而至。異而詰之。笑曰：「適當其時耳。」

一夜蓮來，驚曰：「郎何神氣蕭索？」生言：「不自覺。」蓮便告別，相約十日。去後，李來恆無虛夕。問：「君情人何久不至？」因以相約告。李笑曰：「君視妾何如蓮香美？」曰：「可稱兩絕，但蓮卿肌膚溫和。」李變色曰：「君謂雙美，對妾云

爾。渠必月殿仙人，妾定不及。」因而不歡。乃屈指計十日之期已滿，囑勿漏，將竊窺之。次夜蓮香果至，笑語甚洽。及寢，大駭曰：「殆矣！十日不見，何益億損？保無有他遇否？」生詢其故。曰：「妾以神氣驗之，脈拆拆如亂絲，鬼癥也。」次夜李來，生問：「窺蓮香何似？」曰：「美矣。妾固謂世間無此佳人，果狐也。去，吾尾之，南山而穴居。」生疑其妒，漫應之。逾夕戲蓮香曰：「余固不信，或謂卿狐者。」蓮亟問：「是誰所云？」笑曰：「我自戲卿。」蓮曰：「狐何異於人？」曰：「惑之者病，甚則死，是以可懼。」蓮香曰：「不然。如君之年，房後三日精氣可復，縱狐何害？設旦旦而伐之，人有甚於狐者矣。天下病尸療鬼，寧皆狐盅死耶？雖然，

必有議我者。」生力白其無，蓮詰益力。生不得已，洩之。蓮曰：「我固怪君憊也。然何遽至此？得勿非人乎？君勿言，明宵當如渠窺妾者。」是夜李至，才三數語，聞窗外嗽聲，急亡去。蓮入曰：「君殆矣！是真鬼物！暱其美而不速絕，冥路近矣！」生意其妒，默不語。蓮曰：「固知君不忘情，然不忍視君死。明日當攜藥餌，為君以除陰毒。幸病蒂尤淺，十日恙當已。請同榻以視痊可。」次夜果出刀圭藥啖生。頃刻，洞下三兩行，覺臟腑清虛，精神頓爽。心雖德之，然終不信為鬼。蓮香夜夜同衾偃生，生欲與合，輒止之。數日後膚革充盈。欲別，殷殷囑絕李，生謬應之。及閉戶挑燈，輒捉履傾想，李忽至。數日隔絕，頗有怨色。生曰：「彼連宵為我作

巫醫，請勿為懟，情好在我。」李稍懼。生枕上私語曰：「我愛卿甚，乃有謂卿鬼者。」李結舌良久，罵曰：「必淫狐之惑君聽也！若不絕之，妾不來矣！」遂嗚嗚飲泣。生百詞慰解乃罷。隔宿蓮香至，知李復來，怒曰：「君必欲死耶！」生笑曰：「卿何相妒之深？」蓮益怒曰：「君種死根，妾為若除之，不妒者將復何如？」生托詞以戲曰：「彼雲前日之病，為狐祟耳。」蓮乃嘆曰：「誠如君言，君迷不悟，萬一不虞，妾百口何以自解？請從此辭。百日後當視君於臥榻中。」留之不可，怫然徑去。由是與李夙夜必偕。約兩月餘，覺大困頓。初猶自寬解，日漸羸瘠，惟飲餽粥一甌。欲歸就奉養，尚戀戀不忍遽去。因循數日，沉綿不可復起。鄰生見其病憊，日

遣館僮饋給食飲。生至是始疑李，因請李曰：「吾悔不聽蓮香之言，以至於此！」言訖而暝。移時復蘇，張目四顧，則李已去，自是遂絕。生羸臥空齋，思蓮香如望歲。

一日方凝想間，忽有搥簾入者，則蓮香也。臨榻曬曰：「田舍郎，我豈妄哉！」生哽咽良久，自言知罪，但求拯救。蓮曰：「病入膏肓，實無救法。姑來永訣，以明非妒。」生大悲曰：「枕底一物，煩代碎之。」蓮搜得履，持就燈前，反復展玩。李女歎入，卒見蓮香，返身欲遁。蓮以身閉門，李窘急不知所出。生責數之，李不能答。蓮笑曰：「妾今始得與阿姨面相質。昔謂郎君舊疾，未必非妾致，今竟何如？」李俯首謝過。蓮曰：「佳麗如此，乃以愛結仇耶？」李即投地隕

泣，乞垂憐救。蓮遂扶起，細詰生平。曰：「妾，李通判女，早夭，瘞於墻外。已死春蠶，遺絲未盡。與郎偕好，妾之願也；致郎於死，良非素心。」蓮曰：「聞鬼利人死，以死後可常聚，然否？」曰：「不然！兩鬼相逢，並無樂處。如樂也，泉下少年郎豈少哉！」蓮曰：「癡哉！夜夜為之，人且不堪，而況於鬼！」李問：「狐能死人，何術獨否？」蓮曰：「是採補者流，妾非其類。故世有不害人之狐，斷無不害人之鬼，以陰氣盛也。」生聞其語，始知鬼狐皆真，幸習常見慣，頗不為駭。但念殘息如絲，不覺失聲大痛。蓮顧問：「何以處郎君者？」李赧然遜謝。蓮笑曰：「恐郎強健，醋娘子要食楊梅也。」李斂衽曰：「如有醫國手，使妾得無負郎君，便當

埋首地下，敢復覷然於人世耶！」蓮解囊出藥，曰：「妾早知有今，別後採藥三山，凡三閱月，物料始備，瘵虛至死，投之無不蘇者。然癥何由得，仍以何引，不得不轉求效力。」問：「何需？」曰：「櫻口中一點香唾耳。我一丸進，煩接口而唾之。」李暈生頤頰，俯首轉側而視其履。蓮戲曰：「妹所得意惟履耳！」李益慚，俯仰若無所容。蓮曰：「此平時熟技，今何吝焉？」遂以丸納生吻，轉促逼之，李不得已唾之。蓮曰：「再！」又唾之。凡三四唾，丸已下咽。少間腹殷然如雷鳴，復納一丸，自乃接唇而布以氣。生覺丹田火熱，精神煥發。蓮曰：「愈矣！」

李聽雞鳴，徬徨別去。蓮以新瘥，尚須調攝，就食非計，因將戶外反關，偽示生歸，以絕交往，日夜守護之。李亦每夕必至，給奉殷勤，事蓮猶姊，蓮亦深憐愛之。居三月生健如初，李遂數夕不至；偶至，一望即去。相對時亦悒悒不樂。蓮常留與共寢，必不肯。生迫出，提抱以歸，身輕若芻靈。女不得遁，遂著衣偃臥，蹠其體不盈二尺。蓮益憐之，陰使生狎抱之，而撼搖亦不得醒。生睡去，覺而索之已杳。後十餘日更不復至。生懷思殊切，恆出履共弄。蓮曰：「窈娜如此，妾見猶憐，何況男子！」生曰：「昔日弄履則至，心固疑之，然終不料其鬼。今對履思容，實所愴惻。」因而泣下。

先是，富室張姓有女子燕兒，年十五，不汗而死。終夜復蘇，起顧欲奔。張扃戶，不得出。女自言：「我通判女魂。感桑郎眷注，遺舄猶存彼處。我真鬼耳，錮我何益？」以其言有因，詰其至此之由。女低徊反顧，茫不自解。或有言桑生病歸者，女執辨其誣。家人大疑。東鄰生聞之，逾垣往窺，見生方與美人對語。掩入逼之，張皇間已失所在。鄰生駭詰。生笑曰：「向固與君言，雌者則納之耳。」鄰生述燕兒之言。生乃啟關，將往偵探，苦無由。張母聞生果未歸，益奇之。故使傭媪索履，生遂出以授。燕兒得之喜。試著之，鞋小於足者盈寸，大駭。攬鏡自照，忽恍然己之借軀以生也者，因陳所由。母始信之。女鏡面大哭曰：「當日形貌，頗堪自信，

每見蓮姊，猶增慚怍。今反若此，人也不如其鬼也！把履號啣，勸之不解。蒙衾殭臥，食之，亦不食，體膚盡腫；凡七日不食，卒不死，而腫漸消；覺饑不可忍，乃復食。數日，遍體瘙癢，皮盡脫。晨起，睡舄遺墮，索著之，則碩大無朋矣。因試前履，肥瘦吻合，乃喜。復自鏡，則眉目頤頰，宛肖生平，益喜。盥櫛見母，見者盡眙。

蓮香聞其異，勸生媒通之，而以貧富懸邈，不敢遽進。會媪初度，因從其子婿行往為壽。媪睹生名，故使燕兒窺簾認客。生最後至，女驟出捉袂，欲從與俱歸。母訶譙之，始慚而入。生審視宛然，不覺零涕，因拜伏不起。媪扶之，不以為侮。生出，浼女舅執柯，媪議擇吉贅生。生歸告蓮香，且

商所處。蓮悵然良久，便欲別去，生大駭泣下。蓮曰：「君行花燭於人家，妾從而往，亦何形顏？」生謀先與旋里而後迎燕，蓮乃從之。生以情白張。張聞其有室，怒加誚讓。燕兒力白之，乃如所請。至日生往親迎，家中備具頗甚草草。及歸，則自門達堂，悉以罽毯貼地，百千籠燭，燦列如錦。蓮香扶新婦入青廬，搭面既揭，歡若生平。蓮陪啻飲，因細詰還魂之異。燕曰：「爾日抑鬱無聊，徒以身為異物，自覺形穢。別後憤不歸墓，隨風漾泊。每見生人則羨之。晝憑草木，夜則信足浮沉。偶至張家，見少女臥床上，近附之，未知遂能活也。」蓮聞之，默默若有所思。

逾兩月，蓮舉一子。產後暴病，日就沉綿。捉燕臂曰：「敢以孽種相累，我兒即若兒。」燕泣下，姑慰藉之。為召巫醫，輒卻之。沉痾彌留，氣如懸絲，生及燕兒皆哭。忽張目曰：「勿爾！子樂生，我樂死。如有緣，十年後可復得見。」言訖而卒。啟衾將斂，尸化為狐。生不忍異視，厚葬之。子名狐兒，燕撫如己出。每清明必抱兒哭諸其墓。後生舉於鄉，家漸裕，而燕苦不育。狐兒頗慧，然單弱多疾。燕每欲生置媵。一日，婢忽白：「門外一嫗，攜女求售。」燕呼入，卒見，大驚曰：「蓮姊復出耶！」生視之，真似，亦駭。問：「年幾何？」答云：「十四。」聘金幾何？曰：「老身止此一塊肉，但俾得所，妾亦得啖飯處，後日老骨不至委溝壑，足矣。」生優

價而留之。燕握女手入密室，撮其頷而笑曰：「汝識我否？」  
答言：「不識。」詰其姓氏，曰：「妾韋姓。父徐城賣漿者，死  
三年矣。」燕屈指停思，蓮死恰十有四載。又審視女儀容態  
度，無一不神肖者。乃拍其頂而呼曰：「蓮姊，蓮姊！十年  
相見之約，當不欺吾！」女忽如夢醒，豁然曰：「咦！」熟視  
燕兒。生笑曰：「此『似曾相識燕歸來』也。」女泫然曰：「是  
矣。聞母言，妾生時便能言，以為不祥，犬血飲之，遂昧宿  
因。今日始如夢寤。娘子其恥於為鬼之李妹耶？」共話前生，  
悲喜交至。一日，寒食，燕曰：「此每歲妾與郎君哭姊日也。」  
遂與親登其墓，荒草離離，木已拱矣。女亦太息。燕謂生  
曰：「妾與蓮姊，兩世情好，不忍相離，宜令白骨同穴。」生

從其言，啟李塚得骸，舁歸而合葬之。親朋聞其異，吉服臨穴，不期而會者數百人。餘庚戌南游至沂，阻雨休於旅舍。有劉生子敬，其中表親，出同社王子章所撰《桑生傳》，約萬餘言，得卒讀。此其崖略耳。

異史氏曰：「嗟乎！死者而求其生，生者又求其死，天下所難得者非人身哉？奈何具此身者，往往而置之，遂至腆然而生不如狐，泯然而死不如鬼。」

二、二一八、阿寶

粵西孫子楚，名士也。生有枝指；性迂訥，人誑之輒信為真。或值座有歌妓，則必遙望卻走。或知其然，誘之來，使妓狎

逼之，則頰顏徹頸，汗珠珠下滴，因共為笑。遂貌其呆狀相郵傳，作醜語而名之「孫癡」。

邑大賈某翁，與王侯埒富，姻戚皆貴胄。有女阿寶，絕色也，日擇良匹，大家兒爭委禽妝，皆不當翁意。生時失儷，有戲之者勸其通媒，生殊不自揣，果從其教，翁素耳其名而貧之。媒媪將出，適遇寶，問之，以告。女戲曰：「渠去其枝指，餘當歸之。」媪告生。生曰：「不難。」媒去，生以斧自斷其指，大痛徹心，血益傾注，濱死。過數日始能起，往見媒而示之。媪驚，奔告女；女亦奇之，戲請再去其癡。生聞而嘩辨，自謂不癡，然無由見而自剖。轉念阿寶未必美如天人，何遂高自位置如此？由是曩念頓冷。

會值清明，俗於是日婦女出游，輕薄少年亦結隊隨行，恣其月旦。有同社數人強邀生去。或嘲之曰：「莫欲一觀可人否？」生亦知其戲已，然以受女揶揄故，亦思一見其人，忻然隨眾物色之。遙見有女子憩樹下，惡少年環如墻堵。眾曰：「此必阿寶也。」趨之，果寶也。審諦之，娟麗無雙。少傾人益稠。女起，遽去。眾情顛倒，品頭題足，紛紛若狂；生獨默然。及眾他適，回視生猶癡立故所，呼之不應。群曳之曰：「魂隨阿寶去耶？」亦不答。眾以其素訥，故不為怪，或推之，或挽之以歸。至家直上床臥，終日不起，冥如醉，喚之不醒。家人疑其失魂，招于曠野，莫能效。強拍問之，則朦朧應云：「我在阿寶家。」及細詰之，又默不語，家人惶

惑莫解。初，生見女去，意不忍舍，覺身已從之行，漸傍其衿帶間，人無呵者。遂從女歸，坐臥依之，夜輒與狎，甚相得。然覺腹中奇餒，思欲一返家門，而迷不知路。女每夢與人交，問其名，曰：「我孫子楚也。」心異之，而不可以告人。生臥三日，氣休休若將漸滅。家人大恐，托人婉告翁，欲一招魂其家。翁笑曰：「平昔不相往還，何由遺魂吾家？」家人固哀之，翁始允。巫執故服、草薦以往。女詰得其故，駭極，不聽他往，直導入室，任招呼而去。巫歸至門，生榻上已呻。既醒，女室之香奩什具，何色何名，歷言不爽。女聞之，益駭，陰感其情之深。

生既離床寢，坐立凝思，忽忽若忘。每伺察阿寶，希幸一再進之。浴佛節，聞將降香水月寺，遂早旦往候道左，日眩睛勞。日涉午，女始至，自車中窺見生，以摻手搯簾，凝睇不轉。生益動，尾從之。女忽命青衣來詰姓字。生殷勤自展，魂益搖。車去始歸。歸復病，冥然絕食，夢中輒呼寶名，每自恨魂不復靈。家舊養一鸚鵡，忽斃，小兒持弄於床。生自念：倘得身為鸚鵡，振翼可達女室。心方注想，身已翩然鸚鵡，遽飛而去，直達寶所。女喜而撲之，鎖其肘，飼以麻子。大呼曰：「姐姐勿鎖！我孫子楚也！」女大駭，解其縛，亦不去。女祝曰：「深情已篆中心。今已人禽異類，姻好何可復圓？」鳥云：「得近芳澤，於願已足。」他人飼之不食，女自

飼之則食；女坐則集其膝，臥則依其床。如是三日，女甚憐之。陰使人輜生，生則殭臥氣絕已三日，但心頭未冰耳。女又祝曰：「君能復為人，當誓死相從。」鳥云：「誑我！」女乃自矢。鳥側目若有所思。少間，女束雙彎，解履床下，鸚鵡驟下，銜履飛去。女急呼之，飛已遠矣。

女使嫗往探，則生已寤。家人見鸚鵡銜繡履來，墮地死，方共異之。生既蘇即索履，眾莫知故。適嫗至，入視生，問履所自。生日：「是阿寶信誓物。借口相覆，小生不忘金諾也。」嫗反命，女益奇之，故使婢洩其情於母。母審之確，乃曰：「此子才名亦不惡，但有相如之貧。擇數年得婿若此，恐將為顯者笑。」女以履故，矢不他。翁媪從之，馳報生。生

喜，疾頓瘳。翁議贅諸家。女曰：「婿不可久處岳家。況郎又貧，久益為人賤。兒既諾之，處蓬茅而甘藜藿，不怨也。」生乃親迎成禮，相逢如隔世歡。

自是家得奩妝小阜，頗增物產。而生癡於書，不知理家人生業。女善居積，亦不以他事累生，居三年家益富。生忽病消渴，卒。女哭之痛，淚眼不睛，至絕眠食，勸之不納，乘夜自經。婢覺之，急救而醒，終亦不食。三日集親黨，將以殮生。聞棺中呻以息，啟之，已復活。自言：「見冥王，以生平樸誠，命作部曹。忽有人白：『孫部曹之妻將至。』」王稽鬼錄言：『此未應便死。』」又白：「不食三日矣。」王顧謂：「感汝妻節義，姑賜再生。」因使馭卒控馬送餘還。」由此體漸平。

值歲大比，入闈之前，諸少年玩弄之，共擬隱僻之題七，引生僻處與語，言：「此某家關節，敬秘相授。」生信之，晝夜揣摩制成七藝，眾隱笑之。時典試者慮熟題有蹈襲弊，力反常經，題紙下，七藝皆符。生以是掄魁。明年舉進士，授詞林。上聞異，召問之，生具啟奏，上大嘉悅。後召見阿寶，賞賚有加焉。

異史氏曰：「性癡則其志凝，故書癡者文必工，藝癡者技必良。世之落拓而無成者，皆自謂不癡者也。且如粉花蕩產，盧雉傾家，顧癡人事哉！以是知慧黠而過，乃是真癡，彼孫子何癡乎！」

集癡類十：窖鏹食貧，對客輒誇兒慧，愛兒不忍教讀，諱病恐人知，出資賺人嫖，竊赴飲會賺人賭，倩人作文欺父兄，父子賬目太清，家庭用機械，喜子弟善賭。

二、二十九、九山王

曹州李姓者，邑諸生，家素饒，而居宅故不甚廣，舍後有園數畝，荒置之。一日有叟來稅屋，出直白金，李以無屋為辭。叟曰：「請受之，但無煩慮。」李不喻其意，姑受之，以覘其異。越日，村人見輿馬眷口入李家，紛紛甚夥，共疑李第無安頓所，問之。李殊不自知，歸而察之，並無跡響。過數日，叟忽來謁，且云：「庇宇下已數晨夕，事事都草創，起爐作

灶，未暇一修客子禮。今遣兒女輩作黍，幸一垂顧。」李從之，則入園中，欸見舍宇華好，嶄然一新；入室陳設芳麗，酒鼎沸於廊下，茶煙裊於廚中。俄而行酒薦饌，備極甘旨，時見庭下少年人，往來甚眾；又聞兒女喁喁，幕中作笑語聲；家人婢僕，似有數十百口。李心知其狐。

席終而歸，陰懷殺心。每入市，市硝硫積數百斤，暗布園中殆滿。驟火之，焰亙霄漢，如黑靈芝，燔臭灰暎不可近，但聞嗚啼噪動之聲，嘈雜聒耳。既熄入視，則死狐滿地，焦頭爛額者不可勝計。方閱視間，叟自外來，顏色慘慟，責李曰：「夙無嫌怨，荒園報歲百金非少；何忍遂相族滅？此奇慘之仇無不報者！」忿然而去。疑其擲礫為殃，而年餘無少

怪異。時順治初年，山中群盜竊發，嘯聚萬餘人，官莫能捕。生以家口多，日憂離亂。適村中來一星者，自號「南山翁」，言人休咎，了若目睹，名大噪，李召至家，求推甲子。翁愕然起敬，曰：「此真主也！」李聞大駭，以為妄；翁正容固言之。李疑信半焉，乃曰：「豈有白手受命而帝者乎？」翁謂：「不然。自古帝王，類多起於匹夫，誰是生而天子者？」生惑之，前席而請。翁毅然以「臥龍」自任。請先備甲冑數千具、弓弩數千事。李慮人莫之歸。翁曰：「臣請為大王連諸山，深相結。使擘言者謂大王真天子，山中士卒，宜必響應。」李喜，遣翁行。發藏鏹，造甲冑。翁數日始還，曰：「借大王威福，加臣三寸舌，諸山莫不願執鞭勒，從戟下。」浹旬

之間，果歸命者數千人。於是拜翁為軍師，建大纛，設彩幟若林，據山立柵，聲勢震動。邑令率兵來討，翁指揮群寇大破之。令懼，告急於亮。亮兵遠涉而至，翁又伏寇進擊，兵大潰，將士殺傷者甚眾。勢益震，黨以萬計，因自立為「九山王」。翁患馬少，會都中解馬赴江南，遣一旅要路篡取之。由是「九山王」之名大噪。加翁為「護國大將軍」。高臥山巢，公然自負，以為黃袍之加，指日可俟矣。東撫以奪馬故，方將進剿，又得亮報，乃發精兵數千，與六道合圍而進。軍旅旌旗，彌滿山谷。「九山王」大懼，召翁謀之，則不知所往。「九山王」窘急無術，登山而望曰：「今而知朝廷之勢大

矣！山破被擒，妻孥戮之。始悟翁即老狐，蓋以族滅報李也。

異史氏曰：「夫人擁妻子，閉門科頭，何處得殺？即殺，亦何由族哉？狐之謀亦巧矣。而壤無其種者，雖溉不生；彼其殺狐之殘，方寸已有盜根，故狐得長其萌而施之報。今試執途人而告之曰：『汝為天子！』未有不駭而走者。明明導以族滅之為，而猶樂聽之，妻子為戮，又何足雲？然人聽匪言也，始聞之而怒，繼而疑，又既而信，迨至身名俱殞，而始悟其誤也，大率類此矣。」

二、三十、遵化署狐

諸城邱公為遵化道，署中故多狐，最後一樓，綏綏者族而居之，以為家。時出殃人，遣之益熾。官此者惟設牲禱之，無敢迕。邱公蒞任，聞而怒之。狐亦畏公剛烈，化一媪告家人曰：「幸白大人勿相仇。容我三日，將攜細小避去。」公聞，亦默不言。次日，閱兵已，戒勿散，使盡扛諸營巨炮驟入，環樓千座並發。數仞之樓，頃刻摧為平地，革肉毛血，自天雨而下。但見濃塵毒霧之中，有白氣一縷，冒煙沖空而去，眾望之曰：「逃一狐矣。」而署中自此平安。

後二年，公遣乾僕齎銀如乾數赴都，將謀遷擢。事未就，姑窖藏於班役之家。忽有一叟詣闕聲屈，言妻子橫被殺戮；又訐公克削軍糧，夤緣當路，現頓某家，可以驗證。奉旨押驗。至班役家，冥搜不得，叟惟以一足點地。悟其意，發之，果得金；金上鐫有「某郡解」字。已而覓叟，則失所在。執鄉里姓名以求其人，竟亦無之。公由此罹難。乃知叟即逃狐也。異史氏曰：「狐之崇人，可誅甚矣。然服而舍之，亦以全吾仁。公可云疾之已甚者矣。抑使關西為此，豈百狐所能仇哉！」

二、三十一、張誠

豫人張氏者，其先齊人，明末齊大亂，妻為北兵掠去。張常客豫，遂家焉。娶於豫，生子訥。無何，妻卒，又娶繼室牛氏，生子誠。牛氏悍甚，每嫉訥，奴畜之，啖以惡草具。使樵，日責柴一肩，無則撻楚詬詛，不可堪。隱畜甘脆餌誠，使從塾師讀。

誠漸長，性孝友，不忍兄劬，陰勸母；母弗聽。一日訥入山樵，未終，值大風雨，避身巖下，雨止而日已暮。腹中大餒，遂負薪歸。母驗之少，怒不與食。饑火燒心，入室彊臥。誠自塾中來，見兄嗒然，問：「病乎？」曰：「餓耳。」問其故，以情

告。誠愀然便去，移時懷餅來餌兄。兄問其所自來。曰：「余竊面倩鄰婦為之，但食勿言也。」訥食之。囑弟曰：「後勿復然，事洩累弟。且日一啖，饑當不死。」誠曰：「兄故弱，烏能多樵！」次日食後，竊赴山，至兄樵處。兄見之，驚問：「將何作？」答曰：「將助樵採。」問：「誰之遣？」曰：「我自來耳。」兄曰：「無論弟不能樵，縱或能之，且猶不可。」於是速之歸。誠不聽，以手足斷柴助兄。且云：「明日當以斧來。」兄近止之。見其指已破，履已穿，悲曰：「汝不速歸，我即以斧自剄死！」誠乃歸。兄送之半途，方復回樵。既歸，詣塾囑其師曰：「吾弟年幼，宜閉之。山中虎狼多。」師曰：「午前不知何往，業夏楚之。」歸謂誠曰：「不聽吾言，遭笞責

矣！誠笑曰：「無之。」明日懷斧又去，兄駭曰：「我固謂子勿來，何復爾？」誠不應，刈薪且急，汗交頤不少休。約足一束，不辭而返。師又責之，乃實告之。師嘆其賢，遂不之禁。兄屢止之，終不聽。

一日與數人樵山中，欵有虎至，眾懼而伏，虎竟銜誠去。虎負人行緩，為訥追及，訥力斧之，中胯。虎痛狂奔，莫可尋逐，痛哭而返。眾慰解之，哭益悲。曰：「吾弟，非猶夫人之弟；況為我死，我何生焉！」遂以斧自刎其項。眾急救之，入肉者已寸許，血溢如湧，眩瞽殞絕。眾駭，裂之衣而約之，群扶以歸。母哭罵曰：「汝殺吾兒，欲剗頸以塞責耶！」訥呻云：「母勿煩惱，弟死，我定不生！」置榻上，創痛不能眠，

惟晝夜依壁坐哭。父恐其亦死，時就榻少哺之，牛輒詬責，訥遂不食，三日而斃。村中有巫走無常者，訥途遇之，緬訴曩苦。因詢弟所，巫言不聞，遂反身導訥去。至一都會，見一皂衫人自城中出，巫要遮代問之。皂衫人於佩囊中檢牒審顧，男婦百餘，並無犯而張者。巫疑在他牒。皂衫人曰：「此路屬我，何得差逮。」訥不信，強巫入內城。城中新鬼、故鬼往來憧憧，亦有故識，就問，迄無知者。忽共嘩言：「菩薩至！」仰見雲中有偉人，毫光徹上下，頓覺世界透明。巫賀曰：「大郎有福哉！菩薩幾十年一入冥司拔諸苦惱，今適值之。」便猝訥跪。眾鬼囚紛紛籍籍，合掌齊誦慈悲救苦之聲，哄騰震地。菩薩以楊柳枝遍灑甘露，其細如塵；俄而霧

收光斂，遂失所在。訥覺頸上沾露，斧處不復作痛。巫乃導與俱歸，望見里門，始別而去。訥死二日，豁然竟蘇，悉述所遇，謂誠不死。母以為撰造之誣，反詬罵之。訥負屈無以自伸，而摸創痕良瘥。自力起，拜父曰：「行將穿雲入海往尋弟，如不可見，終此身勿望返也。願父猶以兒為死。」翁引空處與泣，無敢留之，訥乃去。

每於冲衢訪弟耗，途中資斧斷絕，丐而行。逾年達金陵，懸鶉百結，偃僂道上。偶見十餘騎過，走避道側。內一人如官長，年四十已來，健卒駿馬，騰蹕前後。一少年乘小駟，屢視訥。訥以其貴公子，未敢仰視。少年停鞭少駐，忽下馬，呼曰：「非吾兄耶！」訥舉首審視，誠也，握手大痛失聲。誠

亦哭曰：「兄何漂落以至於此？」訥言其情，誠益悲。騎者並下問故，以白官長。官命脫騎載訥，連轡歸諸其家，始詳詰之。初，虎銜誠去，不知何時置路側，臥途中經宿，適張別駕自都中來，過之，見其貌文，憐而撫之，漸蘇。言其里居，則相去已遠，因載與俱歸。又藥敷傷處，數日始痊。別駕無長君，子之。蓋適從游矚也。誠具為兄告。言次，別駕入，訥拜謝不已。誠入內捧帛衣出進兄，乃置酒燕敘。別駕問：「貴族在豫，幾何丁壯？」訥曰：「無有。父少齊人，流寓於豫。」別駕曰：「僕亦齊人。貴裏何屬？」答曰：「曾聞父言屬東昌轄。」驚曰：「我同鄉也！何故遷豫？」訥曰：「明季清兵入境，掠前母去。父遭兵燹，蕩無家室。先賈於西道，

往來頗稔，故止焉。」又驚問：「君家尊何名？」訥告之。別駕瞠而視，俯首若疑，疾趨入內。無何，太夫人出。共羅拜已，問訥曰：「汝是張炳之之孫耶？」曰：「然。」太夫人大哭，謂別駕曰：「此汝弟也。」訥兄弟莫能解。太夫人曰：「我適汝父三年，流離北去，身屬黑固山半年，生汝兄。又半年固山死，汝兄補秩旗下遷此官。今解任矣。每刻刻念鄉井，遂出籍，復故譜。屢遣人至齊，殊無所覓耗，何知汝父西徙哉！」乃謂別駕曰：「汝以弟為子，折福死矣！」別駕曰：「曩問誠，誠未嘗言齊人，想幼稚不憶耳。」乃以齒序：別駕四十有一，為長；誠十六，最少；訥二十二，則伯而仲矣，別駕得兩弟，甚歡，與同臥處，盡悉離散端由，將作歸計。太

夫人恐不見容。別駕曰：「能容則共之，否則析之。天下豈有無父之人？」

於是鬻宅辦裝，刻日西發。既抵裏，訥及誠先馳報父。父白訥去，妻亦尋卒；塊然一老嫠，形影自吊。忽見訥人，暴喜，恍恍以驚；又睹誠，喜極不復作言，漣漣以涕。又告以別駕母子至，翁輟泣愕然，不能喜，亦不能悲，蚩蚩以立。未幾，別駕入，拜已；太夫人把翁相向哭。既見婢媪廝卒，內外盈塞，坐立不知所為。誠不見母，問之，方知己死，號嘶氣絕，食頃始蘇。別駕出資建樓閣，延師教兩弟。馬騰於廄，人喧於室，居然大家矣。

異史氏曰：「余聽此事至終，涕凡數墮。十餘歲童子，斧薪助兄，慨然曰：『王覽固再見乎！』於是一墮。至虎銜誠去，不禁狂呼曰：『天道憤憤如此！』於是一墮。及兄弟猝遇，則喜而亦墮。轉增一兄，又益一悲，則為別駕墮。一門團圞，驚出不意，喜出不意，無從之涕，則為翁墮也。不知後世亦有善涕如某者乎？」

二、三十二、汾州狐

汾州判朱公者，居廨多狐。公夜坐，有女子往來燈下，初謂是家人婦，未遑顧瞻，及舉目，竟不相識，而容光艷絕。心知其狐，而愛好之，遽呼之來，女停履笑曰：「厲聲加人，誰

是汝婢媪耶？」朱笑而起，曳坐謝過。遂與款密，久如夫妻之好。忽謂曰：「君秩當遷，別有日矣。」問：「何時？」答曰：「目前。但賀者在門，吊者在閭，不能官也。」三日遷報果至，次日即得太夫人訃音。公解任，欲與偕旋。狐不可，送之河上，強之登舟。女曰：「君自不知，狐不能過河也。」朱不忍別，戀戀河畔。女忽出，言將一謁故舊。移時歸，即有客來答拜。女別室與語。客去乃來，曰：「請便登舟，妾送君渡。」朱曰：「向言不能渡，今何以渡？」曰：「曩所謁非他，河神也。妾以君故特請之。彼限我十天往復，故可暫依耳。」遂同濟。至十日，果別而去。

二、三十三、巧娘

廣東有搢紳傅氏年，六十餘，生一子名廉，甚慧而天閹，十七歲陰才如蠶。遐邇聞知，無以女女者。自分宗緒已絕，晝夜憂怛，而無如何。

廉從師讀。師偶他出，適門外有猴戲者，廉視之，廢學焉。度師將至而懼，遂亡去。離家數里，見一素衣女郎偕小婢出其前。女一回首，妖麗無比，蓮步蹇緩，廉趨過之。女回顧婢曰：「試問郎君，得無欲如瓊乎？」婢果呼問，廉詰其何為，女曰：「倘之瓊也，有尺書一函，煩便道寄里門。老母在家，亦可為東道主。」廉出本無定向，念浮海亦得，因諾

之。女出書付婢，婢轉付生。問其姓名居里，云：「華姓，居秦女村，去北郭三四里。」生附舟便去。至瓊州北郭，日已曛暮，問秦女村，迄無知者。望北行四五里，星月已燦，芳草迷目，曠無逆旅，窘甚。見道側墓，思欲傍墳棲止，大懼虎狼，因攀樹猱升，蹲踞其上。聽松聲謾謾，宵蟲哀奏，中心志下，悔至如燒。

忽聞人聲在下，俯瞰之，庭院宛然，一麗人坐石上，雙鬟挑畫燭，分侍左右。麗人左顧曰：「今夜月白星疏，華姑所贈團茶，可烹一盞，賞此良夜。」生意其鬼魅，毛發直豎，不敢少息。忽婢子仰視曰：「樹上有人！」女驚起曰：「何處大膽兒，暗來窺人！」生大懼，無所逃隱，遂盤旋下，伏地乞

宥。女近臨一睇，反恚為喜，曳與並坐。睨之，年可十七八，姿態艷絕，聽其言亦土音。問：「郎何之？」答云：「為人作寄書郵。」女曰：「野多暴客，露宿可虞。不嫌蓬蓽，願就稅駕。」邀生入。室惟一榻，命展婢兩被其上。生自慚形穢，願在下床。女笑曰：「佳客相逢，女元龍何敢高臥？」生不得已，遂與共榻，而惶恐不敢自舒。未幾女暗中以纖手探入，輕捻脛股，生偽寐若不覺知。又未幾啟衾入，搖生，迄不動，女便下探隱處。乃停手悵然，悄悄出衾去，俄聞哭聲。生惶愧無以自容，恨天公之缺陷而已。女呼婢篝燈。婢見啼痕，驚問所苦。女搖首曰：「我嘆吾命耳。」婢立榻前，耽望顏色。

女曰：「可喚郎醒，遣放去。」生聞之，倍益慚恚，且懼宵半，茫茫無所之。

籌念間，一婦人排闥入。婢曰：「華姑來。」微窺之，年約五十餘，猶風格。見女未睡，便致詰問，女未答。又視榻上有臥者，遂問：「共榻何人？」婢代答：「夜一少年郎寄此宿。」婦笑曰：「不知巧娘諧花燭。」見女啼淚未幹，驚曰：「合卺之夕，悲啼不倫，將勿郎君粗暴也？」女不言，益悲。婦欲捫衣視生，一振衣，書落榻上。婦取視，駭曰：「我女筆意也！」拆讀嘆吒。女問之。婦云：「是三姐家報，言吳郎已死，瑩無所依，且為奈何？」女曰：「彼固云為人寄書，幸未遣之去。」婦呼生起，究詢書所自來，生備述之。婦曰：「遠

煩寄書，當何以報？」又熟視生，笑問：「何迂巧娘？」生言：「不自知罪。」又詰女，女嘆曰：「自憐生適鬻寺，沒奔椽人，是以悲耳。」婦顧生曰：「慧黠兒，固雄而雌者耶？是我之客，不可久溷他人。」遂導生入東廂，探手於褲而驗之。笑曰：「無怪巧娘零涕。然幸有根蒂，猶可為力。」挑燈遍翻箱篋，得黑丸授生，令即吞下，秘囑勿嘩，乃出。生獨臥籌思，不知藥醫何癥。將比五更，初醒，覺臍下熱氣一縷直沖隱處，蠕蠕然似有物垂股際，自探之，身已偉男。心驚喜，如乍膺九錫。

櫺色才分，婦即入室，以炊餅納生，叮囑耐坐，反關其戶。出語巧娘曰：「郎有寄書勞，將留招三娘來與訂姊妹交。且

復閉置，免人厭惱。」乃出門去。生回旋無聊，時近門隙，如鳥窺籠。望見巧娘，輒欲招呼自呈，慚訥而止。延及夜分，婦始攜女歸。發扉曰：「悶煞郎君矣！三娘可來拜謝。」途中人逡巡入，向生斂衽。婦命相呼以兄妹，巧娘笑曰：「姊妹亦可。」並出堂中，團坐置飲。飲次，巧娘戲問：「寺人亦動心佳麗否？」生曰：「跛者不忘履，盲者不忘視。」相與粲然。巧娘以三娘勞頓，迫令安置。婦顧三娘，俾與生俱。三娘羞暈不行。婦曰：「此丈夫而巾幗者，何畏之？」敦促偕去。私囑生曰：「陰為吾婿，陽為吾子，可也。」生喜，捉臂登床，發硯新試，其快可知，既於枕上問女：「巧娘何人？」曰：「鬼也。才色無匹，而時命蹇落。適毛家小郎子，病闈，

十八歲而不能人，因邑邑不暢，齎恨如冥。」生驚，疑三娘亦鬼。女曰：「實告君，妾非鬼，狐耳。巧娘獨居無耦，我母子無家，借廬棲止。」生大愕。女云：「無懼，雖故鬼狐，非相禍者。」由此日共談宴。雖知巧娘非人，而心愛其娟好，獨恨自獻無隙。生蘊藉，善諛噓，頗得巧娘憐。一日華氏母子將他往，復閉生室中。生悶氣，繞室隔扉呼巧娘；巧娘命婢歷試數鑰，乃得啟。生附耳請問，巧娘遣婢去，生挽就寢榻，俛向之，女戲掬臍下，曰：「惜可兒此處闕然。」語未竟，觸手盈握。驚曰：「何前之渺渺，而遽累然！」生笑曰：「前羞見客，故縮，今以誚謗難堪，聊作蛙怒耳。」遂相綢繆。已而恚曰：「今乃知閉戶有因。昔母子流蕩棲無所，假廬居之。」

三娘從學刺繡，妾會不少秘惜。乃妒忌如此！」生勸慰之，且以情告，巧娘終銜之。生日：「密之！華姑囑我嚴。」語未及已，華姑掩入，二人皇遽方起。華姑逋曰，問：「誰啟扉？」巧娘笑逆自承。華益怒，聒絮不已。巧娘故哂曰：「阿姥亦大笑人！是丈夫而巾幗者，何能為？」三娘見母與巧娘苦相抵，意不自安，以一身調停兩間，始各拗怒為喜。巧娘言雖憤烈，然自是屈意事三娘。但華姑晝夜閑防，兩情不得自展，眉目含情而已。

一日，華姑謂生日：「吾兒姊妹皆已奉事君，念居此非計，君宜歸告父母，早訂永約。」即治裝促生行。二女相向，容顏悲惻。而巧娘尤不可堪，淚滾滾如斷貫珠，殊無已時。華姑

排止之，便曳生出。至門外，則院宇無存，但見荒塚。華姑送至舟上，曰：「君行後，老身攜兩女僦屋於貴邑。倘不忘夙好，李氏廢園中，可待親迎。」生乃歸。時傅父覓子不得，正切焦慮，見子歸，喜出非望。生略述崖末，兼至華氏之訂。父曰：「妖言何足聽信？汝尚能生還者，徒以闍廢故。不然，死矣！」生曰：「彼雖異物，情亦猶人，況又慧麗，娶之亦不為戚黨笑。」父不言，但嗤之。生乃退而技癢，不安其分，輒私婢，漸至白晝宣淫，意欲駭聞翁媪。一日為小婢所窺，奔告母，母不信，薄觀之，始駭。呼婢研究，盡得其狀。喜極，逢人宣暴，以示子不闍，將論婚於世族。生私白母：「非華氏不娶。」母曰：「世不乏美婦人，何必鬼物？」生曰：「兒非

華姑，無以知人道，背之不祥。」傅父從之，遣一僕一嫗往覘之。出東郭四五里，尋李氏園。見敗垣竹樹中，縷縷有飲煙。嫗下乘，直造其闥，則母子拭幾濯漑，似有所伺。嫗拜致主命。見三娘，驚曰：「此即吾家小主婦耶？我見猶憐，何怪公子魂思而夢繞之。」便問阿姊。華姑嘆曰：「是我假女，三日前忽殂謝去。」因以酒食餉嫗及僕。嫗歸，備道三娘容止，父母皆喜。末陳巧娘死耗，生惻惻欲涕。至親迎之夜，見華姑親問之。答云：「已投生北地矣。」生歔歔久之。迎三娘歸，而終不能忘情巧娘，凡有自瓊來者，必召見問之。或言秦女墓夜聞鬼哭，生詫其異，入告三娘。三娘沉吟良久，泣下曰：「妾負姊矣！」詰之，答云：「妾母子來時，實未使聞。」

茲之怨啼，將無是姊？向欲相告，恐彰母過。」生聞之，悲已而喜。即命輿，宵晝兼程，馳詣其墓，叩墓木而呼曰：「巧娘！巧娘！某在斯！」俄見女郎捧嬰兒，自穴中出，舉首酸嘶，怨望無已；生亦涕下。探懷問誰氏子，巧娘曰：「是君之遺孽也，誕三月矣。」生嘆曰：「誤聽華姑言，使母子埋憂地下，罪將安辭！」乃與同輿，航海而歸。抱子告母。母視之，體貌豐偉，不類鬼物，益喜。二女諧和，事姑孝。後傅父病，延醫來。巧娘曰：「疾不可為，魂已離舍。」督治冥具，既竣而卒。兒長，絕肖父，尤慧，十四游泮。

高郵翁紫霞，客於廣而聞之。地名遺脫，亦未知所終矣。

二、三十四、吳令

吳令某公，忘其姓字，剛介有聲。吳俗最重城隍之神，木肖之，被錦藏機如生。值神壽節，則居民斂資為會，輦游通衢。建諸旗幢，雜鹵簿，森森部列，鼓吹行且作，闐闐咽咽然，一道相屬也。習以為俗，歲無敢懈。公出，適相值，止而問之，居民以告；又詰知所費頗奢。公怒，指神而責之曰：「城隍實主一邑。如冥頑無靈，則淫昏之鬼，無足奉事。其有靈，則物力宜惜，何得以無益之費，耗民脂膏？」言已，曳神於地，答之二十。從此習俗頓革。

公清正無私，惟少年好戲。居年餘，偶於廨中梯簷探雀鷄，失足而墮，折股，尋卒。人間城隍祠中，公大聲喧怒，似與神爭，數日不止。吳人不忘公德，集群祝而解之，別建一祠祠公，聲乃息。祠亦以城隍名，春秋祀之，較故神尤著。吳至今有二城隍云。

二、三十五、口技

村中來一女子，年二十有四五，攜一藥囊，售其醫。有問病者，女不能自為方，俟暮夜問諸神。晚潔斗室，閉置其中。眾繞門窗，傾耳寂聽；但竊竊語，莫敢咳。內外動息俱冥。至夜許，忽聞簾聲。女在內曰：「九姑來耶？」一女子答云：「來

矣。」又曰：「臘梅從九姑耶？」似一婢答云：「來矣。」三人絮語間雜，刺刺不休。俄聞簾鉤復動，女曰：「六姑至矣。」亂言曰：「春梅亦抱小郎子來耶？」一女曰：「拗哥子！嗚嗚不睡，定要從娘子來。身如百鈞重，負累煞人！」旋聞女子殷勤聲，九姑問訊聲，六姑寒暄聲，二婢慰勞聲，小兒喜笑聲，一齊嘈雜。即聞女子笑曰：「小郎君亦大好耍，遠迢迢抱貓兒來。」既而聲漸疏，簾又響，滿室俱嘩，曰：「四姑來何遲也？」有一小女子細聲答曰：「路有千里且溢，與阿姑走爾許時始至。阿姑行且緩。」遂各各道溫涼聲，並移坐聲，喚添坐聲，參差並作，喧繁滿室，食頃始定。即聞女子問病，九姑以為宜得參，六姑以為宜得芪，四姑以為宜得術。參酌

移時，即聞九姑喚筆硯。無何，折紙戢戢然，拔筆擲帽丁丁然，磨墨隆隆然；既而投筆觸幾，震筆作響，便聞撮藥包裹蘇蘇然。頃之，女子推簾，呼病者授藥並方。反身入室，即聞三姑作別，三婢作別，小兒啞啞，貓兒唔唔，又一時並起。九姑之聲清以越，六姑之聲緩以蒼，四姑之聲嬌以婉，以及三婢之聲，各有態響，聽之了了可辨。群訝以為真神。而試其方亦不甚效。此即所謂口技，特借之以售其術耳。然亦奇矣！

昔王心逸嘗言：「在都偶過市廛，聞弦歌聲，觀者如堵。近窺之，則見一少年曼聲度曲。並無樂器，惟以一指捺頰際，且捺且謳，聽之鏗鏗，與弦索無異。」亦口技之苗裔也。

二、三十六、狐聯

焦生，章丘石紅先生之叔弟也。讀書園中，宵分有二美人來，顏色雙絕。一可十七八，一約十四五，撫幾展笑。焦知其狐，正色拒之。長者曰：「君髯如戟，何無丈夫氣？」焦曰：「僕生平不敢二色。」女笑曰：「迂哉！子尚守腐局耶？下元鬼神，凡事皆以黑為白，況床第間瑣事乎？」焦又咄之。女知不可動，乃云：「君名下士，妾有一聯，請為屬對，能對我自去：戊戌同體，腹中止欠一點。」焦凝思不就。女笑曰：「名士固如此乎？我代對之可矣：己巳連蹤，足下何不雙挑。」一笑而去。

二、三十七、灘水狐

灘邑李氏有別第，忽一翁來稅居，歲出直金五十，諾之。既去無耗，李囑家人別租。翌日翁至，曰：「租宅已有關說，何欲更僦他人？」李白所疑。翁曰：「我將久居是，所以遲遲者，以涓吉在十日之後耳。」因先納一歲之直，曰：「終歲空之，勿問也。」李送出，問期，翁告之。

過期數日，亦竟渺然。及往覘之，則雙扉內閉，炊煙起而人聲雜矣。訝之，投刺往謁。翁趨出，逆而入，笑語可親。既歸，遣人饋遺其家；翁犒賜豐隆。又數日，李設筵邀翁，款洽甚歡。問其居里，以秦中對。李訝其遠，翁曰：「貴鄉福地

也。秦中不可居，大難將作。」對方承平，置未深問。越日，翁折柬報居停之禮，供帳飲食，備極侈麗。李益驚，疑為貴官。翁以交好，因自言為狐。李駭絕，逢人輒道。邑摺紳聞其異，日結駟於門，願納交翁，翁無不偃僂接見。漸而郡官亦時還往。獨邑令求通，輒辭以故。令又托主人先容，翁辭。李詰其故。翁離席近客而私語曰：「君自不知，彼前身為驢，今雖儼然民上，乃飲犲而亦醉者也。僕固異類，羞與為伍。」李乃托詞告令，謂狐畏其神明故不敢見。令信之而止。

此康熙十一年事，未幾秦羅兵燹，狐能前知，信矣。異史氏曰：「驢之為物龐然也。一怒則跼蹐嗥嘶，眼大於盂，氣粗於牛，不惟聲難聞，狀亦難見。倘執束芻而誘之，則帖耳輯

首，喜受羈勒矣。以此居民上，宜其飲牖而亦醉也。願臨民者以驢為戒，而求齒於狐，則德日進矣。」

二、三十八、紅玉

廣平馮翁有一子，字相如，父子俱諸生。翁年近六旬，性方鯁，而家屢空。數年間，媪與子婦又相繼逝，井臼自操之。一夜，相如坐月下，忽見東鄰女自牆上來窺。視之，美；近之，微笑；招以手，不來亦不去。固請之，乃梯而過，遂共寢處。問其姓名，曰：「妾鄰女紅玉也。」生大愛悅，與訂永好，女諾之。夜夜往來，約半年許。翁夜起聞女子含笑語，窺之見女，怒，喚生出，罵曰：「畜產所為何事！如此落寞，

尚不刻苦，及學浮蕩耶？人知之喪汝德，人不知促汝壽！」生跪自投，泣言知悔。翁叱女曰：「女子不守閨戒，既自玷，而又以玷人。倘事一發，當不僅貽寒舍羞！」罵已，憤然歸寢。女流涕曰：「親庭罪責，良足愧辱！我二人緣分盡矣！」生曰：「父在，不得自專。卿如有情，尚當含垢為好。」女言辭決絕，生乃灑涕。女止之曰：「妾與君無媒妁之言，父母之命，逾牆鉗隙，何能白首？此處有一佳耦，可聘也。」告以貧。女曰：「來宵相俟，妾為君謀之。」次夜女果至，出白金四十兩贈生。曰：「去此六十里，有吳村衛氏，年十八矣，高其價，故未售也。君重啖之，必合諧允。」言已別去。

生乘間語父，欲往相之，而隱饋金不敢告。翁自度無資，以是故止之。生又婉言：「試可乃已。」翁領之。生遂假僕馬，詣衛氏。衛故田舍翁，生呼出引與閑語。衛知生望族，又見儀採軒豁，心許之，而慮其靳於資。生聽其詞意吞吐，會其旨，傾囊陳幾上。衛乃喜，浼鄰生居間，書紅箋而盟焉。生入拜媪。居室逼側，女依母自幃。微睨之。雖荆布之飾，而神情光艷，心竊喜。衛借舍款婿，便言：「公子無須親迎。待少作衣妝，即合舁送去。」生與期而歸。詭告翁，言衛愛清門，不責資。翁亦喜。至日衛果送女至。女勤儉，有順德，琴瑟甚篤。逾二年舉一男，名福兒。會清明抱子登墓，遇邑紳宋氏。宋官御史，坐行賕免，居林下，大煽威虐。是日亦

上墓歸，見女艷之，問村人知為生配。料馮貧士，誘以重賂，冀可搖，使家人風示之。生驟聞，怒形於色。既思勢不敵，斂怒為笑，歸告翁。翁大怒，奔出，對其家人，指天畫地，詬罵萬端。家人鼠竄而去。宋氏亦怒，竟遣數人入生家，毆翁及子，洶若沸鼎。女聞之，棄兒於床，披發號救。群篡舁之，哄然便去。父子傷殘，吟呻在地，兒呱呱啼室中。鄰人共憐之，扶之榻上。經日，生杖而能起；翁忿不食，嘔血，尋斃。生大哭，抱子興詞，上至督撫，訟幾遍，卒不得直。後聞婦不屈死，益悲。冤塞胸吭，無路可伸。每思要路刺殺宋，而慮其扈從繁，兒又罔托。日夜哀思，雙睫為之不交。忽一丈夫吊諸其室，虬髯闊頷，曾與無素。挽坐欲問邦族。

客遽曰：「君有殺父之仇，奪妻之恨，而忘報乎？」生疑為宋人之偵，姑偽應之。客怒，眦欲裂，遽出曰：「僕以君人也，今乃知不足齒之儉！」生察其異，跪而挽之，曰：「誠恐宋人誑我。今實布腹心：僕之臥薪嘗膽者，固有日矣。但憐此裸中物，恐墜宗祧。君義士，能為我杵臼否？」客曰：「此婦人女子之事，非所能。君所欲托諸人者，請自任之；所欲自任者，願得而代庖焉。」生聞，崩角在地，客不顧而出。生追問姓字，曰：「不濟，不任受怨；濟，亦不任受德。」遂去。生懼禍及，抱子亡去。至夜，宋家一門俱寢，有人越重垣入，殺御史父子三人，及一媳一婢。宋家具狀告官。官大駭。宋執謂相如，於是遣役捕生，生遁不知所之，於是情益

真。宋僕同官役諸處冥搜，夜至南山，聞兒啼，蹤得之，系縲而行。兒啼愈嗔，群奪兒拋棄之，生冤憤欲絕。見邑令，問：「何殺人？」生曰：「冤哉！某以夜死，我以晝出，且抱呱呱者，何能逾垣殺人？」令曰：「不殺人，何逃乎？」生詞窮，不能置辯。乃收諸獄。生泣曰：「我死無足惜，孤兒何罪？」令曰：「汝殺人子多矣，殺汝子何怨？」生既褫革，屢受桎慘，卒無詞，令是夜方臥，聞有物擊床，震震有聲，大懼而號。舉家驚起，集而燭之；一短刀銛利如霜，剝床入木者寸餘，牢不可拔。令睹之，魂魄喪失。荷戈遍索，竟無蹤跡。心竊餒，又以宋人死，無可畏俱，乃詳諸憲，代生解免，竟釋生。

生歸，翁無升斗，孤影對四壁。幸鄰人憐饋食飲，苟且自度。念大仇已報，則輾然喜；思慘酷之禍幾於滅門，則淚漣漣墮；及思半生貧徹骨，宗支不續，則於無人處大哭失聲，不復能自禁。如此半年，捕禁益懈。乃哀邑令，求判還衛氏之骨。及葬而歸，悲怛欲死，輾轉空床，竟無生路。忽有款門者，凝神寂聽，聞一人在門外，嚶嚶與小兒語。生急起窺覘，似一女子。扉初啟，便問：「大冤昭雪，可幸無恙！」其聲稔熟，而倉卒不能追憶。燭之，則紅玉也。挽一小兒，嬉笑跨下。生不暇問，抱女嗚哭，女亦慘然。既而推兒曰：「汝忘爾父耶？」兒牽女衣，目灼灼視生。細審之，福兒也。大驚，泣問：「兒那得來？」女曰：「實告君，昔言鄰女者，妄也，

妾實狐。適宵行，見兒啼谷中，抱養於秦。聞大難既息，故攜來與君團聚耳。」生揮涕拜謝，兒在女懷，如依其母，竟不復能識父矣。天未明，女即遽起，問之，答曰：「奴欲去。」生裸跪床頭，涕不能仰。女笑曰：「妾逛君耳。今家道新創，非夙興夜寐不可。」乃剪莽擁篲，類男子操作。生憂貧乏，不自給。女曰：「但請下帷讀，勿問盈歉，或當不殍餓死。」遂出金治織具，租田數十畝，雇傭耕作。荷鋤誅茅，牽蘿補屋，日以為常。里黨聞婦賢，益樂資助之。約半年，人煙騰茂，類素封家。生曰：「灰燼之餘，卿白手再造矣。然一事未就安妥，如何？」詰之，答曰：「試期已迫，巾服尚未復也。」女笑曰：「妾前以四金寄廣文，已復名在案。若待君言，誤之

已久。」生益神之。是科遂領鄉薦。時年二十六，腴田連阡，夏屋渠渠矣。女裊娜如隨風欲飄去，而操作過農家婦。雖嚴冬白苦，而手膩如脂。自言二十八歲，人視之，常若二十許人。

異史氏曰：「其子賢，其父德，故其報之也俠。非特人俠，狐亦俠也。遇亦奇矣！然官宰悠悠，豎人毛發，刀震震入木，何惜不略移床上半尺許哉？使蘇子美讀之，必浮白曰：『惜乎擊之不中！』」

二、三十九、龍

北直界有墮龍入村，其行重抽，入某紳家。其戶僅可容軀，塞而入。家人盡奔。登樓嘩噪，銃炮轟然。龍乃出。門外停貯潦水，淺不盈尺。龍入，轉側其中，身盡泥塗，極力騰躍，尺餘輒墮。泥蟠三日，蠅集鱗甲。忽大雨，乃霹靂拏空而去。

房生與友人登牛山，入寺游矚。忽椽間一黃磚墮，上盤一小蛇，細裁如蚓。忽旋一周如指，又一周已如帶。共驚，知為龍，群趨而下。方至山半，聞寺中霹靂一聲，天上黑雲如蓋，一巨龍夭矯其中，移時而沒。

章丘小相公莊，有民婦適野，值大風，塵沙撲面。覺一目眯，如含麥芒，揉之吹之，迄不愈。啟臉而審視之，睛固無恙，但有赤線蜿蜒於肉分。或曰：「此蟄龍也。」婦憂懼待死。積三月餘，天暴雨，忽巨霆一聲，裂眚而去，婦無少損。袁宣四言：「在蘇州，值陰晦，霹靂大作。眾見龍垂雲際，鱗甲張動，爪中搏一人頭，須眉畢見；移時，入雲而沒。亦未聞有失其頭者。」

二、四十、林四娘

青州道陳公寶鑰，閩人。夜獨坐，有女子褰幃入，視之不識，而艷絕，長袖宮裝。笑云：「清夜兀坐，得勿寂耶？」公驚問

何人，曰：「妾家不遠，近在西鄰。」公意其鬼，而心好之。捉袂挽坐，談詞風雅，大悅。擁之不甚抗拒，顧曰：「他無人耶？」公急闔戶，曰：「無。」促其緩裳，意殊羞怯，公代為之殷勤。女曰：「妾年二十，猶處子也，狂將不堪。」狎褻既竟，流丹浹席。既而枕邊私語，自言「林四娘」。公詳詰之，曰：「一世堅貞，業為君輕薄殆盡矣。有心愛妾，但圖永好可耳，絮絮何為？」無何，雞鳴，遂起而去。

由此夜夜必至，每與闔戶雅飲。談及音律，輒能剖悉宮商，公遂意其工於度曲。曰：「兒時之所習也。」公請一領雅奏。女曰：「久矣不托於音，節奏強半遺忘，恐為知者笑耳。」再強之，乃俯首擊節，唱「伊」、「涼」之調，其聲哀婉。歌已，

泣下。公亦為酸惻，抱而慰之曰：「卿勿為亡國之音，使人悒悒。」女曰：「聲以宣意，哀者不能使樂，亦猶樂者不能使哀。」兩人燕暱，過於琴瑟。既久，家人竊聽之，聞其歌者，無不流涕。

夫人窺見其容，疑人世無此妖麗，非鬼必狐，懼為厭盅，勸公絕之。公不能聽，但固詰之。女愀然曰：「妾，衡府宮人也，遭難而死十七年矣，以君高義，托為燕婉，然實不敢禍君。倘見疑畏，即從此辭。」公曰：「我不為嫌，但燕好若此，不可不知其實耳。」乃問宮中事，女緬述津津可聽。談及式微之際，則哽咽不能成語。女不甚睡，每夜輒起誦《準

提《金剛》諸經咒。公問：「九原能自懺耶？」曰：「一也。妾思終身淪落，欲度來生耳。」

又每與公評

詩詞，

瑕輒疵之，至好句則曼聲嬌吟。意

緒風流，使人忘倦。公問：「工詩乎？」曰：「生時亦偶為之。」公素其贈。笑曰：「兒女之語，烏足為高人道。」居三年。一夕忽慘然告別，公驚問之，答云：「冥王以妾生前無罪，死猶不忘經咒，俾生王家。別在今宵，永無見期。」言已，愴然；公亦淚下。乃置酒相與痛飲，女慷慨而歌，為哀曼之音，一字百轉，每至悲處，輒便嗚咽。數停數起，而後終曲，飲不能暢。乃起，逡巡欲別；公固挽之，又坐少時。雞聲忽唱，乃曰：「必不可以久留矣。然君每怪妾不肯獻醜，

今將長別，當率成一章。」索筆構成，曰：「心悲意亂，不能推敲，乖音錯節，慎勿出以示人。」掩袖而出，公送諸門外，湮然沒。公悵悼良久。視其詩，字態端好，珍而藏之。詩曰：「靜鎖深宮十七年，誰將故國問青天？閑看殿宇封喬木，泣望君王化杜鵑。海國波濤斜夕照，漢家簫鼓靜烽煙。紅顏力弱難為厲，惠質心悲只問禪。日誦菩提千百句，閑看貝葉兩三篇。高唱梨園歌代哭，請君獨聽亦濟然。」詩中重復脫節，疑有錯誤。

# 三、卷三

## 三、一、江中

王聖俞南游，泊舟江心，既寢，視月明如練，未能寐，使童僕為之按摩。忽聞舟頂如小兒行，踏蘆席作響，遠自舟尾來，漸近艙戶。慮為盜，急起問童，童亦聞之。問答間，見一人伏舟頂上，垂首窺艙內。大愕，按劍呼諸僕，一舟俱醒。告以所見。或疑錯誤。俄響聲又作。群起四顧，渺然無人，惟疏星皎月，漫漫江波而已。眾坐舟中，旋見青火如燈狀，突出水面，隨水浮游，漸近舡則火頓滅。即有黑人驟起屹立水上，以手攀舟而行。眾噪曰：「必此物也！」欲射之。方開弓，

則遽伏水中不可見矣。問舟人，舟人曰：「此古戰場，鬼時出沒，其無足怪。」

三、一、魯公女

招遠張於旦，性疏狂不羈，讀書蕭寺。時邑令魯公，三韓人，有女好獵。生活遇諸野，見其風姿娟秀，著錦貂裘，跨小驪駒，翩然若畫。歸憶容華，極意欽想；後聞女暴卒，悼嘆欲絕。

魯以家遠，寄靈寺中，即生讀所。生敬禮如神明，朝必香，食必祭，每酌而祝曰：「睹卿半面，長系夢魂，不圖玉人，奄然物化。今近在咫尺，而邈若河山，恨如何也！然生有拘束，

死無禁忌，九泉有靈，當姍姍而來，慰我傾慕。」日夜祝之幾半月。一夕挑燈夜讀，忽舉首，則女子含笑立燈下，生驚起致問。女曰：「感君之情，不能自己，遂不避私奔之嫌。」生大喜，遂共歡好。自此無虛夜。謂生曰：「妾生好弓馬，以射獐殺鹿為快，罪孽深重，死無歸所。如誠心愛妾，煩代誦《金剛經》一藏數，生生世世不忘也。」生敬受教，每夜起，即柩前捻珠諷誦。偶值節序，欲與偕歸，女憂足弱，不能跋履。生請抱負以行，女笑從之。如抱嬰兒，殊不重累，遂以為常，考試亦載與俱，然行必以夜。生將赴秋闈，女曰：「君福薄，徒勞馳驅。」遂聽其言而止。

積四五年，魯罷官，貧不能櫬，將就窆之，苦無葬地。生及自陳：「某有薄壤近寺，願葬女公子。」魯公喜。生又力為營葬。魯德之而莫解其故。魯去，二人綢繆如平日。一夜側倚生懷，淚落如豆，曰：「五年之好，於今別矣！受君恩義，數世不足以酬！」生驚問之。曰：「蒙惠及泉下人，經咒藏滿，今得生河北盧戶部家。如不忘今日，過此十五年，八月十六日，煩一往會。」生泣下曰：「生三十餘年矣，又十五年，將就木焉，會將何為？」女亦泣曰：「願為奴婢以報。」少間曰：「君送妾六七里，此去多荊棘，妾衣長難度。」乃抱生項，生送至通衢，見路旁車馬一簇，馬上或一人，或二人；車上或三人、四人、十數人不等；獨一鈿車，繡纓朱幃，僅

一老嫗在焉。見女至，呼曰：「來乎？」女應曰：「來矣。」乃回顧生云：「盡此，且去！勿忘所言。」生諾。女行近車，嫗引手上之，展輪即發，車馬闐咽而去。

生悵悵而歸，志時日於壁。因思經咒之效，持誦益虔。夢神人告曰：「汝志良嘉，但須要到南海去。」問：「南海多遠？」曰：「近在方寸地。」醒而會其旨，念切菩提，修行倍潔。三年後，次子明、長子政，相繼擢高科。生雖暴貴，而善行不替。夜夢青衣人邀去，見宮殿中坐一人如菩薩狀，逆之曰：「子為善可喜，惜無修齡，幸得請於上帝矣。」生伏地稽首。喚起，賜坐；飲以茶，味芳如蘭。又令童子引去，使浴於池。池水清潔，游魚可數，入之而溫，掬之有荷葉香。移時漸入

深處，失足而陷，過涉滅頂。驚寤，異之。由此身益健，日益明。自捋其須，白者盡簌簌落；又久之，黑者亦落。面紋亦漸舒。至數月後，頷禿童面，宛如十五六時。輒兼好遊戲事，亦猶童。過飾邊幅，二子輒匡救之。

未幾夫人以老病卒，子欲為求繼室於朱門。生曰：「待吾至河北來而後娶。」屈指已及約期，遂命僕馬至河北。訪之，果有盧戶部。先是，盧公生一女，生而能言，長益慧美，父母最鐘愛之。貴家委禽，女輒不欲，怪問之，具述生前約。共計其年，大笑曰：「癡婢！張郎計今年已半百，人事變遷，其骨已朽。縱其尚在，發童而齒墜矣。」女不聽。母見其志不搖，與盧公謀，戒閹人勿通客，過期以絕其望。未幾生至，

闍人拒之，退返旅舍，悵恨無所為計。閑游郊郭，因循而暗訪之。女謂生負約，涕不食。母言：「渠不來，必已殂謝。即不然，背盟之罪，亦不在汝。」女不語，但終日臥。盧患之，亦思一見生之為人，乃托游遨，遇生於野。視之，少年也，訝之。班荊略談，甚倜儻。公喜，邀至其家。方將探問，盧即遽起，囑客暫獨坐，匆匆入內告女。女喜，自力起，窺審其狀不符，零涕而返，怨父欺罔，公力白其是，女無言，但泣不止。公出，意緒懊喪，對客殊不款曲。生問：「貴族有為戶部者乎？」公漫應之。首他顧，似不屬客。生覺其慢，辭出。女啼數日而卒。

生夜夢女來，曰：「下顧者果君耶？年貌舛異，覲面遂致違隔。妾已憂憤死。煩向土地祠速招我魂，可得活，遲則無及矣。」既醒，急探盧氏之門，果有女亡二日矣。生大慟，進而吊諸其室，已而以夢告盧。盧從其言，招魂而歸，啟其衾，撫其尸，呼而祝之，俄聞喉中咯咯有聲。忽見朱櫻乍啟，墜痰塊如冰，扶移榻上，漸復吟呻。盧公悅，肅客出，置酒宴會。細展官閥，知其巨家，益喜，擇吉成禮。居半月攜女而歸，盧送至家，半年乃去。夫婦居室儼如小耦，不知者多誤以子婦為姑嫜者焉。盧公逾年卒。子最幼，為豪強所中傷，家產兒盡。生迎養之，遂家焉。

三、三、道士

韓生，世家也。好客，同村徐氏常飲於其座。會宴集，有道士托鉢門外，家人投錢及粟皆不受，亦不去，家人怒歸不顧。韓聞擊剝之聲甚久，詢之家人，以情告。言未已，道士竟入，韓招之坐。道士向主客皆一舉手，即坐。略致研詰，始知其初居村東破廟中。韓曰：「何日棲鶴東觀，竟不聞知，殊缺地主之禮。」答曰：「野人新至無交游，聞居士揮霍，深願求飲焉。」韓命舉觴。道士能豪飲。徐見其衣服垢敝，頗偃蹇，不甚為禮。韓亦海客遇之。道士傾飲二十餘杯，乃辭而去。自是每宴會道士輒至，遇食則食，遇飲則飲，韓亦稍厭其頻。飲次，徐嘲之曰：「道長日為客，寧不一作主？」道

士笑曰：「道人與居士等，惟雙肩承一喙耳。」徐漸不能對。道士曰：「雖然，道人懷誠久矣，會當竭力作杯水之酬。」飲畢，囑曰：「翌午幸賜光寵。」次日相邀同往，疑其不設。行去，道士已候於途，且語且步，已至廟門。入門，則院落一新，連閣雲蔓。大奇之，曰：「久不至此，創建何時？」道士答：「峻工未久。」比入其室，陳設華麗，世家所無。二人肅然起敬。甫坐，行酒下食，皆二八狡童，錦衣朱履。酒饌芳美，備極豐渥。飯已，另有小進。珍果多不可名，貯以水晶玉石之器，光照幾榻。酸以玻璃盞，圍尺許。道士曰：「喚石家姊妹來。」童去少時，二美人入，一細長如弱柳，一身短，齒最稚；媚曼雙絕。道士即使歌以侑酒。少者拍板而歌，和

者和以洞簫，其聲清細。既闕，道士懸爵促酌，又命遍酌。顧問：「美人久不舞，尚能之否？」遂有僮僕展氍毹於筵下，兩女對舞，長衣亂拂，香塵四散。舞罷，斜倚畫屏。韓、徐二人心曠神飛，不覺醺醉。道士亦不顧客，舉杯飲盡，起謂客曰：「姑煩自酌，我稍憩，即復來。」即去。南屋壁下，設一螺鈿之床，女子為施錦裯，扶道士臥。道士乃曳長者共寢，命少者立床下為之爬搔。韓、徐睹此狀頗不平。徐乃大呼：「道士不得無禮」往將撓之，道士急起而遁。見少女猶立床下，乘醉拉向北榻，公然擁臥。視床上美人，尚眠繡榻。顧韓曰：「君何太迂？」韓乃徑登南榻，欲與狎褻，而美人睡去，撥之不轉；因抱與俱寢。天明酒夢俱醒，覺懷中冷物冰

人，視之，則抱長石臥青階下。急視徐，徐尚未醒，見其枕遺屙之石，酣寢敗廁中。蹴起，互相駭異。四顧，則一庭荒草，兩間破屋而已。

### 三、四、胡氏

直隸有巨家欲延師，忽一秀才踵門自薦，主人延之。詞語開爽，遂相知悅。秀才自言胡氏，遂納贄館之。胡課業良勤，淹洽非下士等。然時出游，輒昏夜始歸，扃閉儼然，不聞款叩而已在室中矣。遂相驚以狐。然察胡意固不惡，優重之，不以怪異廢禮。

胡知主人有女，求為姻好，屢示意，主人偽不解。一日胡假而去。次日有客來謁，摯黑衛於門，主人逆而入。年五十餘，衣履鮮潔，意甚恬雅。既坐，自達，始知為胡氏作冰。主人默然良久，曰：「僕與胡先生，交已莫逆，何必婚姻？且息女已許字矣，煩代謝先生。」客曰：「確知令媛待聘，何拒之深？」再三言之，而主人不可，客有慚色，曰：「胡亦世族，何遽不如先生？」主人直告曰：「實無他意，但惡非其類耳。」客聞之怒，主人亦怒，相侵益亟。客起抓主人，主人命家人杖逐之，容乃遁。遺其驢，視之毛黑色，批耳修尾，大物也。牽之不動，驅之則隨手而蹶，嚶嚶然草蟲耳。

主人以其言忿，知必相仇，戒備之。次日果有狐兵大至，或騎、或步、或戈、或弩，馬嘶人沸，聲勢洶洶。主人不敢出，狐聲言火屋，主人益懼。有健者率家人噪出，飛石施箭，兩相沖擊，互有夷傷。狐漸靡，紛紛引去。遺刀地上，亮如霜雪，近拾之，則高粱葉也。眾笑曰：「技止此耳。」然恐其復至，益備之。明日眾方聚語，忽一巨人自天而降，高丈餘，身橫數尺，揮大刀如門，逐人而殺。群操矢石亂擊之，顛踣而斃，則芻靈耳。眾益易之。狐三日不復來，眾亦少懈。主人適登廁，俄見狐兵張弓挾矢而至，亂射之，集矢於臀。大懼，急喊眾奔斗，狐方去。拔矢視之，皆蒿梗。如此月餘，去來不常，雖不甚害，而日日戒嚴，主人患苦之。

一日胡生率眾至，主人身出，胡望見，避於眾中，主人呼之，不得已，乃出。主人曰：「僕自謂無失禮於先生，何故興戎？」群狐欲射，胡止之。主人近握其手，邀入故齋，置酒相款，從容曰：「先生達人，當相見諒。以我情好，寧不樂附婚姻？但先生車馬、宮室，多不與人同，弱女相從，即先生當知其不可。且諺云：『瓜果之生摘者，不適於口。』先生何取焉？」胡大慚。主人曰：「無傷，舊好故在。如不以塵濁見棄，在門墻之幼子年十五矣，願得坦腹床下。不知有相若者吾？」胡喜曰：「僕有弱妹少公子一歲，頗不陋劣，以奉箕帚如何？」主人起拜，胡答拜。於是酬酢甚歡，前隙俱

忘，命羅酒漿，遍犒從者，上下歡慰。乃詳問居里，將以奠雁，胡辭之。日暮繼燭，醺醉乃去。由是遂安。

年餘胡不至，或疑其約妄，而主人堅持之。又半年胡忽至，既道溫涼已，乃曰：「妹子長成矣。請卜良辰，遣事翁姑。」主人喜，即同定期而去。至夜果有輿馬送新婦至，奩妝豐盛，設室中幾滿。新婦見姑嫜，溫麗異常，主人大喜。胡生與一弟來送女，談吐俱風雅，又善飲。天明乃去。新婦且能預知年歲豐兇，故謀生之計皆取則焉。胡生兄弟以及胡媪，時來望女，人人皆見之。

### 三、五、戲術

有桶戲者，桶可容升，無底中空，亦如俗戲。戲人以二席置街上，持一升入桶中，旋出，即有白米滿升傾注席上，又取又傾，頃刻兩席皆滿。然後一一量入，畢而舉之猶空桶。奇在多也。

利津李見田，在顏鎮閑游陶場，欲市巨甕，與陶人爭直，不成而去。至夜，窯中未出者六十餘甕，啟視一空。陶人大驚，疑李，踵門求之。李謝不知，固哀之，乃曰：「我代汝出窯，一甕不損，在魁星樓下非與？」如言往視，果一一俱在。樓在鎮之南山，去場三里餘。傭工運之，三日乃盡。

三、六、丐僧

濟南一僧，不知何許人。赤足衣百衲，日於芙蓉、明湖諸館，誦經抄募。與以酒食錢粟皆弗受，叩所需又不答。終日未嘗見其餐飯。或勸之曰：「師既不如葷酒，當募山村僻巷中，何日日往來於膾鬧之場？」僧合眸諷誦，睫毛長指許，若不聞。少旋又語之，僧遽張目厲聲曰：「要如此化！」又誦不已。久之自出而去，或從其後，固詰其必如此之故，走不應。叩之數四，又厲聲曰：「非汝所知！老僧要如此化！」積數日，忽出南城，臥道側如殭，三日不動。居民恐其餓死，貽累近郭，因集勸他徙。欲飯飯之，欲錢錢之，僧瞑然不動，群搖而語之。僧怒，於衲中出短刀，自剖其腹，以手入內理腸於

道，而氣隨絕。眾駭告郡，蒿葬之。異日為犬所穴，席見；踏之似空，發視之，席封如故，猶空繭然。

### 三、七、伏狐

太史某為狐所魅，病瘖。符禳既窮，乃乞假歸，冀可逃避。太史行而狐從之，大懼，無所為謀。一日止於涿，門外有鈴醫自言能伏狐，太史延之入。投以藥，則房中術也。促令服訖，入與狐交，銳不可當。狐關易，哀而求罷，不聽，進益勇。狐展轉營脫，苦不得去。移時無聲，視之，現狐形而斃矣。

昔餘鄉某生者，素有嫪毒之目，自言生平未得一快意。夜宿孤館四無鄰，忽有奔女扉未啟而已入，心知其狐，亦欣然樂就狎之。衿襦甫解，貫革直入。狐驚痛，啼聲吱然，如鷹脫鞴，穿窗而出。某猶望窗外作狎暱聲，哀喚之，冀其復回，而已寂然矣。此真討狐之猛將也！宜榜門驅狐，可以為業。

### 三、八、蟄龍

於陵曲銀臺公，讀書樓上。值陰雨晦暝，見一小物有光如熒、蠕蠕而行，過處則黑如蚰跡，漸盤卷上，卷亦焦。意為龍，乃捧卷送之至門外，持立良久，蠖曲不少動。公曰：「將無

謂我不恭？」執卷返，仍置案上，冠帶長揖送之。方至簷下，但見昂首乍伸，離卷橫飛，其聲嗤然，光一道如縷。數步外，回首向公，則頭大於甕，身數十圍矣。又一折反，霹靂震驚，騰霄而去。回視所行處，蓋曲曲白書笥中出焉。

### 三、九、蘇仙

高公明圖知郴州時，有民女蘇氏浣衣於河，河中有巨石，女踞其上。有苔一縷，綠滑可愛，浮水漾動，繞石三匝。女視之心動。既歸而娠，腹漸大，母私詰之，女以情告，母不能解。數月竟舉一子，欲置隘巷，女不忍也，藏諸櫝而養之。遂矢志不嫁，以明其不二也。然不夫而孕，終以為羞。

兒至七歲未嘗出以見人，兒忽謂母曰：「兒漸長，幽禁何可長也？去之不為母累。」問所之。曰：「我非人種，行將騰霄昂壑耳。」女泣詢歸期。答曰：「待母屬續兒始來。去後倘有所需，可啟藏兒櫝索之，必能如願。」言已，拜母竟去。出而望之，已杳矣。女告母，母大奇之。女堅守舊志，與母相依，而家益落。偶缺晨炊，仰屋無計。忽憶兒言，往啟櫝，果得米，賴以舉火。自是有求輒應。逾三年母病卒，一切葬具皆取給於櫝。

既葬，女獨居三十年，未嘗窺戶。一日鄰婦乞火者，見其兀坐空閨，語移時始去。居無何，忽見彩雲繞女舍，亭亭如蓋，中有一入盛服立，審視則蘇女也。回翔久之，漸高不見。鄰

人共疑之，窺諸其室，見女靚妝凝坐，氣則已絕。眾以其無歸，議為殯殮。忽一少年入，豐姿俊偉，向眾申謝。鄰人向亦竊知女有子，故不之疑。少年出金葬母，值二桃於墓，乃別而去。數步之外，足下生云，不可復見。後桃結實甘芳，居人謂之「蘇仙桃」，樹年年華茂，更不衰朽。官是地者，每攜實以饋親友。

### 三、十、李伯言

李生伯言，沂水人，抗直有肝膽。忽暴病，家人進藥，卻之曰：「吾病非藥餌可療。陰司閻羅缺，欲吾暫攝其篆耳。死勿埋我，宜待之。」是日果死。

騶從導去，入一宮殿，進冕服，隸胥祇候甚肅。案上簿書叢沓。一宗：江南某，稽生平所私良家女八十二人，鞫之佐證不誣，按冥律宜炮烙。堂下有銅柱，高八九尺，圍可一抱，空其中而熾炭焉，表裏通赤。群鬼以鐵蒺藜撻驅使登，手移足盤而上，甫至頂，則煙氣飛騰，崩然一響如爆竹，人乃墮；團伏移時始復蘇。又撻之，爆墮如前。三墮，則匝地如煙而散，不復能成形矣。

又一起：為同邑王某，被婢父訟盜占生女，王即李姻家。先是一人賣婢，王知其所來非道，而利其直廉，遂購之。至是王暴卒。越日其友周生遇於途，知為鬼，奔避齋中。王亦從入。周懼而祝，問所欲為。王曰：「煩作見證於冥司耳。」驚

問：「何事？」曰：「餘婢實價購之，今被誤控，此事君親見之，惟借季路一言，無他說也。」周固拒之，王出曰：「恐不由君耳。」未幾周果死，同赴閻羅質審。李見王，隱存左袒意。忽見殿上火生，焰燒梁棟。李大駭，側足立，吏急進曰：「陰曹不與人世等，一念之私不可容。急消他念則火自熄。」李斂神寂慮，火頓滅。已而鞫狀，王與婢父反復相苦；問周，周以實對；王以故犯論答。答訖，遣人俱送回生，周與王皆三日而蘇。

李視事畢，輿馬而返。中途見闕頭斷足者數百輩，伏地哀鳴。停車研詰，則異鄉之鬼，思踐故土，恐關隘阻隔，乞求路引。李曰：「余攝任三日已解任矣，何能為力？」眾曰：「南村胡

生，將建道場，代囑可致。」李諾之。至家，騶從都去，李乃蘇。

胡生字水心，與李善，聞李再生，便詣探省。李遽問：「清醮何時？」胡訝曰：「兵燹之後，妻孥瓦全，向與室人作此願心，未向一人道也，何知之？」李具以告。胡嘆曰：「閨房一語遂播幽冥，可懼哉！」乃敬諾而去。次日如王所，王猶憊臥。見李，肅然起敬，申謝佑庇。李曰：「法律不能寬假。今幸無恙乎？」王云：「已無他癥，但答瘡膿潰耳。」又二十餘日始痊，臀肉腐落，癥痕如杖者。

異史氏曰：「陰司之刑慘於陽世，責亦苛於陽世。然關說不行，則受殘酷者不怨也。誰謂夜臺無天日哉？第恨無火燒臨民之堂廡耳！」

三、十一、黃九郎

何師參，字子蕭，齋於茗溪之東，門臨曠野。薄暮偶出，見婦人跨驢來，少年從其後。婦約五十許，意致清越；轉視少年，年可十五六，豐採過於姝麗。何生素有斷袖之癖，睹之，神出於舍，翹足目送，影滅方歸。

次日早伺之，落日冥蒙，少年始過。生曲意承迎，笑問所來。答以「外祖家」。生請過齋少憩，辭以不暇，固曳之，乃入；

略坐興辭，豎不可挽。生挽手送之，殷囑便道相過，少年唯唯而去。生由是凝思如渴，往來眺注，足無停趾。一日日銜半規，少年欵至，大喜要入，命館童行酒。問其姓字，答曰：「黃姓，第九。童子無字。」問：「過往何頻？」曰：「家慈在外祖家，常多病，故數省之。」酒數行，欲辭去；生捉臂遮留，下管鑰。九郎無如何，頰顏復坐，挑燈共語，溫若處子，而詞涉遊戲，便含羞面向壁。未幾引與同衾，九郎不許，堅以睡惡為辭。強之再三，乃解上下衣，著褲臥床上。生滅燭，少時移與同枕，曲肘加髀而狎抱之，苦求私暱。九郎怒曰：「以君風雅士故與流連，乃此之為，是禽處而獸愛之也！」未幾晨星熒熒，九郎徑去。

生恐其遂絕，復伺之，蹀躞凝盼，目穿北斗。過數日九郎始至，喜逆謝過，強曳入齋，促坐笑語，竊幸其不念舊惡。無何，解履登床，又撫哀之。九郎曰：「纏綿之意已鏤肺腑，然親愛何必在此？」生甘言糾纏，但求一親玉肌，九郎從之。生俟其睡寐，潛就輕簿，九郎醒，攬衣遽起，乘夜遁去。生邑邑若有所失，忘啜廢枕，日漸委悴，惟日使齋童邏偵焉。一日九郎過門即欲徑去，童牽衣入之。見生清臆，大駭，慰問。生實告以情，淚泫泫隨聲零落。九郎細語曰：「區區之意，實以相愛無益於弟，面有害於兄，故不為也。君既樂之，僕何惜焉？」生大悅。九郎去後病頓減，數日平復。九郎果至，遂相繾綣。曰：「今勉承君意，幸勿以此為常。」既而

曰：「欲有所求，肯為力乎？」問之，答曰：「母患心痛，惟太醫齊野王先天丹可療。君與善，當能求之。」生諾之，臨去又囑。生入城求藥，及暮付之。九郎喜，上手稱謝。又強與合。九郎曰：「勿相糾纏。請為君圖一佳人，勝弟萬萬矣。」生問：「誰何？」九郎曰：「有表妹美無倫，倘能垂意，當執柯斧。」生微笑不答，九郎懷藥便去。

三日乃來，復求藥。生恨其遲，詞多誚讓。九郎曰：「本不忍禍君，故疏之。既不蒙見諒，請勿悔焉。」由是燕會無虛夕。凡三日必一乞藥，齊怪其頻，曰：「此藥未有過三服者，胡久不瘥？」因裹三劑並授之。又顧生曰：「君神色黯然，病乎？」曰：「無。」脈之，驚曰：「君有鬼脈，病在少陰，不自

慎者殆矣！」歸語九郎。九郎嘆曰：「良醫也！我實狐，久恐不為君福。」生疑其誑，藏其藥不以盡予，慮其弗至也。居無何，果病。延齊診視，曰：「曩不實言，今魂氣已游墟莽，秦緩何能為力？」九郎曰來省侍，曰：「不聽吾言，果至於此！」生尋死，九郎痛哭而去。

先是，邑有某太史，少與生共筆硯，十七歲擢翰林。時秦藩貪暴，而賂通朝士，無有言者。公抗疏劾其惡，以越俎免。藩升是省中丞，日伺公隙。公少有英稱，曾邀叛王青盼，因購得舊所往來札脅公，公懼，自經；夫人亦投繯死。公越宿忽醒，曰：「我何子蕭也。」詰之，所言皆何家事，方悟其借

軀返魂。留之不可，出奔舊舍。撫疑其詐，必欲排陷之，使人索千金於公。公偽諾，而憂悶欲絕。

忽通丸郎至，喜共話言，悲歡交集，既欲復狎，九郎曰：「君有三命耶？」公曰：「余悔生勞，不如死逸。」因訴冤苦，九郎悠憂以思，少間曰：「幸復生聚。君曠無偶，前言表妹慧麗多謀，必能分憂。」公欲一見顏色。曰：「不難。明日將取伴老母，此道所經，君偽為弟也兄者，我假渴而求飲焉，君曰『驢子亡』，則諾也。」計已而別。明日亭午，九郎果從女郎經門外過，公拱手絮絮與語，略睨女郎，娥眉秀曼，誠仙人也。九郎索茶，公請入飲。九郎曰：「三妹勿訝，此兄盟好，不妨少休止。」扶之而下，系驢於門而入。公自起淪茗，因

目九郎曰：「君前言不足以盡。今得死所矣！」女似悟其言之為己者，離榻起立，嚶喔而言曰：「去休！」公外顧曰：「驢子其亡！」九郎火急馳出。公擁女求合。女顏色紫變，窘若囚拘，大呼九兄，不應。曰：「君自有婦，何喪人廉恥也？」公自陳無室。女曰：「能矢山河，勿令秋扇見捐，則惟命是聽。」公乃誓以皦日。女不復拒。事已，九郎至，女色然怒讓之。九郎曰：「此何子蕭，昔之名士，今之太史。與兄最善，其人可依。即聞諸妗氏，當不相見罪。」日向晚，公邀遮不聽去，女恐姑母駭怪，九郎銳身自任，跨驢徑去。居數日，有婦攜婢過，年四十許，神情意致雅似三娘。公呼女出窺，果母也。瞥睹女，怪問：「何得在此？」女慚不能對。公

邀入，拜而告之。母笑曰：「九郎雅氣，胡再不謀？」女自入廚下，設食供母，食已乃去。公得麗偶頗快心期，而惡緒縈懷，恆蹙蹙有憂色。女問之，公緬述顛末。女笑曰：「此九兄一人可得解，君何憂？」公詰其故，女曰：「聞撫公溺聲歇而比頑童，此皆九兄所長也。投所好而獻之，怨可消，仇亦可復。」公慮九郎不肯，女曰：「但請哀之。」越日公見九郎來，肘行而逆之，九郎驚曰：「兩世之交，但可自效，頂踵所不敢惜，何忽作此態向人？」公具以謀告，九郎有難色。女曰：「妾失身於郎，誰實為之？脫令中途凋喪，焉置妾也？」九郎不得已，諾之。

公陰與謀，馳書與所善之王太史，而致九郎焉。王會其意，大設，招撫公飲。命九郎飾女郎，作天魔舞，宛然美女。撫惑之，亟請於王，欲以重金購九郎，惟恐不得當。王故沉思以難之。遲之又久。始將公命以進。撫喜，前隙頓釋。自得九郎，動息不相離，侍妾十餘視同塵土。九郎飲食供具如王者，賜金萬計。半年撫公病，九郎知其去冥路近也，遂輦金帛，假歸公家。既而撫公薨，九郎出資，起屋置器，畜婢僕，母子及姪並家焉。九郎出，輿馬甚都，人不知其狐也。餘有「笑判」，並志之：男女居室，為夫婦之大倫；燥濕互通，乃陰陽之正竅。迎風待月，尚有蕩檢之譏；斷袖分桃，難免掩鼻之醜。人必力士，鳥道乃敢生開；洞非桃源，漁篙寧許誤。

人？今某從下流而忘返，舍正路而不由。雲雨未興，輒爾上下其手；陰陽反背，居然表裏為奸。華池置無用之鄉，謬說老僧入定；蠻洞乃不毛之地，遂使眇帥稱戈。系赤兔於轅門，如將射戟；探大弓於國庫，直欲斬關。或是監內黃鱸，訪知交於昨夜；分明王家朱李，索鈷報於來生。彼黑松林戎馬頓來，固相安矣；設黃龍府潮水忽至，何以御之？宜斷其鈷刺之恨，兼塞其送迎之路。

三、十二、金陵女子

沂水居民趙某，以故自城中歸，見女子白衣哭路側，甚哀。睨之，美；悅之，凝注不去，女垂涕曰：「夫夫也，路不行

而顧我！」趙曰：「我以曠野無人，而子哭之慟，實愴於心。」女曰：「夫死無路，是以哀耳。」趙勸其復擇良匹。曰：「渺此一身，其何能擇？如得所托，媵之可也。」趙忻然自薦，女從之。趙以去家遠，將覓代步。女曰：「無庸。」乃先行、飄若仙奔。至家，操井臼甚勤。

積二年餘，謂趙曰：「感君戀戀，猥相從，忽已三年，今宜且去。」趙曰：「曩言無家，今焉往？」曰：「彼時漫為是言耳，何得無家？身父貨藥金陵。倘欲再晤，可載藥往，可助資斧。」趙經營，為貫輿馬。女辭之，出門徑去，追之不及，瞬息遂杳。

居久之，頗涉懷想，因市藥詣金陵。寄貨旅邸，訪諸衢市，忽藥肆一翁望見，曰：「婿至矣。」延之入，女方浣裳庭中，見之不言亦不笑，浣不輟。趙銜恨遽出，翁又曳之返，女不顧如初。翁命治具作飯，謀厚贈之。女止之曰，「渠福薄，多將不任；宜少慰其苦辛，再檢十數醫方與之，便吃著不盡矣。」翁問所載藥，女云：「已售之矣，直在此。」翁乃出方付金，送趙歸。

試其方，有奇驗。沂水尚有能知其方者。以蒜白接茅簷雨水，洗瘕贅，其方之一也，良效。

三、十三、湯公

湯公名聘，辛丑進士。抱病彌留，忽覺下部熱氣漸升而上，至股則足死，至腹則股又死，至心，心之死最難。凡白童稚以及瑣屑久忘之事，都隨心血來，一潮過。如一善則心中清淨寧帖，一惡則懊懣煩燥，似油沸鼎中，其難堪之狀，口不能肖似之。猶憶七八歲時，曾探雀雛而斃之，只此一事，心頭熱血潮湧，食頃方過。直待平生所為，一一潮盡，乃覺熱氣縷縷然，穿喉入腦自頂顛出，騰上如炊，逾數十刻期，魂乃離竅忘軀殼矣。

而渺渺無歸，漂泊郊路間。一巨人來，高幾盈尋，掇拾之納諸袖中。入袖，則疊肩壓股，其人甚夥，薙腦悶氣，殆不可過。公頓思惟佛能解厄，因宣佛號，才三四聲，飄墮袖外。巨人復納之，三納三墮，巨人乃去之。

公獨立徬徨，未知何往之善。憶佛在西土，乃遂西。無何，見路側一僧趺坐，趨拜問途。僧曰：「凡士子生死錄，文昌及孔聖司之，必兩處銷名，乃可他適。」公問其居，僧示以途，奔赴。無幾至聖廟，見宣聖南面坐，拜禱如前。宣聖言：「名籍之落，仍得帝君。」因指以路，公又趨之。見一殿閣如王者居，俯身入，果有神人，如世所傳帝君像。伏祝之，帝君檢名曰：「汝心誠正，宜復有生理。但皮囊腐矣，非菩薩莫

能為力。」因指示令急往，公從其教。俄見茂林修竹，殿宇華好。入，見螺髻莊嚴，金容滿月，瓶浸楊柳，翠碧垂煙。公肅然稽首，拜述帝君言。菩薩難之，公哀禱不已，旁有尊者白言：「菩薩施大法力，撮土可以為肉，折柳可以為骨。」菩薩即如所請，手斷柳枝，傾瓶中水，合淨土為泥，拍附公體。使童子攜送靈所，推而合之。棺中呻動，霍然病已，家人駭然集，扶而出之。計氣絕已斷七矣。

三、十四、閻羅

萊蕪秀才李中之，性直諒不阿。每數日輒死去，殭然如尸，三四日始醒。或問所見，則隱秘不洩。時邑有張生者，亦數

日一死。語人曰：「李中之，閻羅也，餘至陰司亦其屬曹。」其門殿對聯，俱能述之。或問：「李昨赴陰司何事？」張曰：「不能具述，惟提勘曹操，答二十。」

異史氏曰：「阿瞞一案，想更數十閻羅矣。畜道、劍山，種種具在，宜得何罪，不勞挹取；乃數千年不決，何也？豈以臨刑之囚，快於速割，故使之求死不得也？異已！」

### 三、十五、連瑣

楊於畏移居泗水之濱，齋臨曠野，墻外多古墓，夜聞白楊蕭蕭，聲如濤湧。夜闌秉燭，方復淒斷，忽墻外有人吟曰：「玄夜淒風卻倒吹，流螢惹草復沾幃。」反復吟誦，其聲哀楚。聽

之，細婉似女子。疑之。明日視牆外並無人跡，惟有紫帶一條遺荊棘中，拾歸置諸窗上。向夜二更許，又吟如昨。楊移杙登望，吟頓輟。悟其為鬼，然心向慕之。

次夜，伏伺墻頭，一更向盡，有女子珊珊自草中出，手扶小樹，低首哀吟。楊微嗽，女忽入荒草而沒。楊由是伺諸墻下，聽其吟畢，乃隔壁而續之曰：「幽情苦緒何人見？翠袖單寒月上時。」久之寂然，楊乃入室。方坐，忽見麗者自外來，斂衽曰：「君子固風雅士，妾乃多所畏避。」楊喜，拉坐。瘦怯凝寒，若不勝衣，問：「何居里，久寄此間？」答曰：「妾隴西人，隨父流寓。十七暴疾殂謝，今二十餘年矣。九泉荒野，孤寂如鶩。所吟乃妾自作以寄幽恨者，思久不屬，蒙君代續，

歡生泉壤。」楊欲與歡，蹙然曰：「夜臺朽骨不比生人，如有幽歡，促人壽數，妾不忍禍君子也。」楊乃止。戲以手探胸，則雞頭之肉，依然處子。又欲視其裙下雙鉤。女俯首笑曰：「狂生太羅嗦矣！」楊把玩之，則見月色錦襪，約彩線一縷；更視其一，則紫帶系之。問：「何不俱帶？」曰：「昨宵畏君而避，不知遺落何所。」楊曰：「為卿易之。」遂即窗上取以授女。女驚問何來，因以實告。女乃去線束帶。既翻案上書，忽見《連昌宮詞》，慨然曰：「妾生時最愛讀此。今視之殆如夢寐！」與談詩文，慧黠可愛，剪燭西窗，如得良友。自此每夜但聞微吟，少頃即至。輒囑曰：「君秘勿宣。妾少膽怯，恐有惡客見侵。」楊諾之。兩人歡同魚水，雖不至亂，

而閨閣之中，誠有甚於畫眉者。女每於燈下為楊寫書，字態端媚。又自選宮詞百首，錄誦之。使楊治棋枰，購琵琶，每夜教楊手談。不則挑弄弦索，作「蕉窗零雨」之曲，酸人胸臆；楊不忍卒聽，則為「曉苑鶯聲」之調，頓覺心懷暢適。挑燈作劇，樂輒忘曉，視窗上有曙色，則張皇遁去。

一日薛生造訪，值楊晝寢。視其室，琵琶、棋枰俱在，知非所善。又翻書得宮詞，見字跡端好，益疑之。楊醒，薛問：「戲具何來？」答：「欲學之。」又問詩卷，托以假諸友人。薛反復檢玩，見最後一葉細字一行云：「某月日連瑣書。」笑曰：「此是女郎小字，何相欺之甚？」楊大窘，不能置詞。薛詰之益苦，楊不以告。薛卷挾，楊益窘，遂告之。薛求一見，

楊因述所囑。薛仰慕殷切，楊不得已，諾之。夜分女至，為致意焉。女怒曰：「所言伊何？乃已喋喋向人！」楊以實情自白，女曰：「與君緣盡矣！」楊百詞慰解，終不歡，起而別去，曰：「妾暫避之。」明日薛來，楊代致其不可。薛疑支托，暮與窗友二人來，淹留不去，故撓之，恆終夜擘，大為楊生白眼，而無如何。眾見數夜杳然，寢有去志，喧囂漸息。忽聞吟聲，共聽之，淒婉欲絕。薛方傾耳神注，內一武生王某，掇巨石投之，大呼曰：「作態不見客，那甚得好句。嗚嗚惻惻，使人悶損！」吟頓止，眾甚怨之，楊恚憤見於詞色。次日始共引去。楊獨宿空齋，冀女復來而殊無影跡。逾二日女忽至，泣曰：「君致惡賓，幾嚇煞妾！」楊謝過不遑，女遽出，

曰：「妾固謂緣分盡也，從此別矣。」挽之已渺。由是月餘，更不復至。楊思之，形銷骨立，莫可追挽。一夕方獨酌，忽女子褰幃入。楊喜極，曰：「卿見宥耶？」女涕垂膺，默不言。亟問之，欲言復忍，曰：「負氣去，又急而求人，難免愧怍。」楊再三研詰，乃曰：「不知何處來一齷齪隸，逼充媵妾。顧念清白裔，豈屈身輿臺之鬼？然一線弱質烏能抗拒？君如齒妾在琴瑟之數，必不聽自為生活。」楊大怒，憤將致死，但慮人鬼殊途，不能為力。女曰：「來夜早眠，妾邀君夢中耳。」於是復共傾談，坐以達曙。

女臨去囑勿晝眠，留待夜約。楊諾之，因於午後薄飲，乘醺登榻，蒙衣偃臥。忽見女來，授以佩刀，引手去。至一院宇，

方闔門語，聞有人搯石搗門。女驚曰：「仇人至矣！」楊啟戶驟出，見一人赤帽青衣，蝟毛繞喙。怒咄之。隸橫目相仇，言詞兇謾。楊大怒，奔之。隸捉石以投，驟如急雨，中楊腕，不能握刃。方危急間，遙見一人，腰矢野射。審視之，王生也。大號乞救。王生張弓急至，射之，中股；再射之，殪。楊喜感謝，王問故，具告之。王自喜前罪可贖，遂與共入女室。女戰惕羞縮，遙立不作一語。案上有小刀長僅尺餘，而裝以金玉，出諸匣，光芒鑒影。王嘆贊不釋手。與楊略話，見女慚懼可憐，乃出，分手去。楊亦自歸，越牆而僕，於是驚寤，聽村雞已亂鳴矣。覺腕中痛甚；曉而視之，則皮肉赤腫。亭午王生來，便言夜夢之奇。楊曰：「未夢射否？」王怪

其先知。楊出手示之，且告以故。王憶夢中顏色，恨不真見。自幸有功於女，復請先容。夜間，女來稱謝。楊歸功王生，遂達誠懇。女曰：「將伯之助，義不敢忘，然彼赳赳，妾實畏之。」既而曰：「彼愛妾佩刀，刀實妾父出使粵中，百金購之。妾愛而有之，纏以金絲，瓣以明珠。大人憐妾夭亡，用以殉葬。今願割愛相贈，見刀如見妾也。」次日楊致此意，王大悅。至夜女果攜刀來，曰：「囑伊珍重，此非中華物也。」由是往來如初。

積數月，忽於燈下笑而向楊，似有所語，面紅而止者三。生抱問之，答曰：「久蒙眷愛，妾受生人氣，日食煙火，白骨頓有生意。但須生人精血，可以復活。」楊笑曰：「卿自不肯，

豈我故惜之？」女云：「交接後，君必有念餘日大病，然藥之可愈。」遂與為歡。既而著衣起，又曰：「尚須生血一點，能拚痛以相愛乎？」楊取利刃刺臂出血，女臥榻上，便滴臍中。乃起曰：「妾不來矣。君記取百日之期，視妾墳前有青鳥鳴於樹頭，即速發塚。」楊謹受教。出門又囑曰：「慎記勿忘，遲速皆不可！」乃去。

越十餘日，楊果病，腹脹欲死。醫師投藥，下惡物如泥，浹辰而愈。計至百日，使家人荷鍤以待。日既夕，果見青鳥雙鳴。楊喜曰：「可矣！」乃斬荆發壙，見棺木已朽，而女貌如生。摩之微溫。蒙衣舁歸置暖處，氣咻咻然，細於屬絲。漸進湯醪，半夜而蘇。每謂楊曰：「二十餘年如一夢耳。」

三、十六、單道士

韓公子，邑世家。有單道士工作劇，公子愛其術，以為座上客。單與人行坐，輒忽不見。公子欲傳其法，單不肯。公子固懇之，單曰：「我非吝吾術，恐壞吾道也。所傳而君子則可，不然，有借此以行竊者矣。公子固無慮此，然或出見美麗而悅，隱身入人閨闥，是濟惡而宣淫也。不敢從命。」公子不能強，而心怒之，陰與僕輩謀撻辱之。恐其遁匿，因以細灰布麥場上，思左道能隱形，而履處必有印跡，可隨印處急擊之。於是誘單往，使人執牛鞭立撻之。單忽不見，灰上果有履跡，左右亂擊，頃刻已迷。

公子歸，單亦至。謂諸僕曰：「吾不可復居矣！向勞服役，今且別，當有以報。」袖中出旨酒一盛，又探得肴一簋。並陳幾上；陳已復探，凡十餘探，案上已滿。遂邀眾飲，俱醉，一仍內袖中。韓聞其異，使復作劇。單于壁上畫一城，以手推搥，城門頓闕。因將囊衣篋物，悉擲門內，乃拱別曰：「我去矣！」躍身入城，城門遂合，道士頓杳。

後聞在青州市上，教兒童畫墨圈於掌，逢人戲拋之，隨所拋處，或面或衣，圈輒脫去，落印其上。又聞其善房中術，能令下部吸燒酒，盡一器。公子嘗面試之。

三、十七、白於玉

吳青庵筠，少知名。葛太史見其文，每嘉嘆之，托相善者邀至其家，領其言論風採。曰：「焉有才如吳生而長貧賤者乎？」因俾鄰好致之曰：「使青庵奮志云霄，當以息女奉巾櫛。」時太史有女絕美，生聞大喜，確自信。既而秋闈被黜，使人謂太史：「富貴所固有，不可知者遲早耳，請待我三年，不成而後嫁。」於是刻志益苦。

一夜月明之下，有秀才造謁，白晰短須，細腰長爪。詰所來，自言白氏，字於玉。略與傾談，豁人心胸。悅之，留同止宿。遲明欲去，生囑便道頻過。白感其情殷，願即假館，約期而

別。至日，先一蒼頭送炊具來，少間白至，乘駿馬如龍。生另舍舍之。白命奴牽馬去。

遂共晨夕，忻然相得。生視所讀書，並非常所見聞。亦絕無時藝。訝而問之，白笑曰：「士名有志，僕非功名中人也。」夜每招生飲，出一卷授生，皆吐納之術，多所不解，因以迂緩置之。他日謂生曰：「曩所授，乃《黃庭》之要道，仙人之梯航。」生笑曰：「僕所急不在此，且求仙者必斷絕情緣，使萬念俱寂，僕病未能也。」白問：「何故？」生以宗嗣為慮，白曰：「胡久不娶？」笑曰：「寡人有疾，寡人好色。」白亦笑曰：「『王請無好小色。』所好何如？」生具以情告。白

疑未必真美，生日：「此遐邇所共聞，非小生之目賤也。」白微哂而罷。

次日忽促裝言別，生淒然與語，刺刺不能休。白乃命童子先負裝行，兩相依戀。俄見一青蟬鳴落案間，白辭曰：「輿已駕矣，請自此別。如相憶，拂我榻而臥之。」方欲再問，轉瞬間白小如指，翩然跨蟬背上，嘲哢而飛，杳入雲中。生乃知其非常人，錯愕良久，悵悵自失。

逾數日，細雨忽集，思白綦切。視所臥榻，鼠跡碎瑣，慨然掃除，設席即寢。無何。見白家童來相招，忻然從之。俄有桐鳳翔集，童捉謂生日：「黑徑難行，可乘此代步。」生慮細小不能勝任，童曰：「試乘之。」生如所請，寬然殊有餘地，

童亦附其尾上。戛然一聲，凌空際。未幾見一朱門，童先下，扶生亦下。問：「此何所？」曰：「此天門也。」門邊有巨虎蹲伏，生駭俱，童一身障之。見處處風景，與世殊異。童導入廣寒宮，內以水晶為階，行人如在鏡中。桂樹兩章，參空合抱。花氣隨風，香無斷際。亭宇皆紅窗，時有美人出入，冶容秀骨，曠世並無其儔。童言：「王母宮佳麗尤勝。」然恐主人伺久，不暇留連，導與趨出。移時見白生候於門，握手入，見簷外清水白沙，涓涓流溢，玉砌雕闌，殆疑桂闕。甫坐，即有二八妖鬟，來薦香茗。少間命酌，有四麗人斂衽鳴璫，給事左右。才覺背上微癢，麗人即纖指長甲，探衣代搔。生覺心神搖曳，罔所安頓。既而微醺，漸不自持，笑顧

麗人，兜搭與語，美人輒笑避。白令度曲侑觴，一衣絳綃者引爵向客，便即筵前，宛轉清歌。諸麗者笙管敖曹，嗚嗚雜和。既闋，一衣翠裳者亦酌亦歌。尚有一些紫衣人，與一淡白軟綃者，吃吃笑，暗中互讓不肯前。白令一酌一唱，紫衣人便來把盞，生托接杯，戲撓纖腕。女笑失手，酒杯傾墮。白譙訶之，女拾杯含笑，俯首細語云：「冷如鬼手馨，強來捉人臂。」白大笑，罰令自歌且舞。舞已，衣淡白者又飛一觥，生驚不能酌，女捧酒有愧色，乃強飲之。

細視四女，風致翩翩，無一非絕世者。遽謂主人曰：「人間尤物，僕求一而難之，君集群芳，能令我真個銷魂否？」白笑曰：「足下意中自有佳人，此何足當巨眼之顧？」生曰：「吾

今乃知所見之不廣也。」白乃盡招諸女，俾自擇，生顛倒不能自決。白以紫衣人有把臂之好，遂使襪被奉客。既而衾枕之愛，極盡綢繆。生素贈，女脫金腕釧付之。忽童入曰：「仙凡路殊，君宜即去。」女急起，遁去。生問主人，童曰：「早詣待漏，去時囑送客耳。」生悵然從之，復尋舊途。將及門，回視童子，不知何時已去。虎哮驟起，生驚竄而去，望之無底，而足已奔墮。

一驚而寤，則朝暾已紅。方將振衣，有物膩然墜褥間，視之釧也。心益異之。由是前念灰冷，每欲尋赤松游，而尚以胤續為憂。過十餘月，晝寢方酣，夢紫衣姬自外至，懷中繡嬰兒曰：「此君骨肉。天上難留此物，敬持送君。」乃寢諸床，

牽衣覆之。匆匆欲去。生強與為歡。乃曰：「前一度為合昏，今一度為永訣，百年夫婦盡於此矣。君倘有志，或有見期。」生醒，見嬰兒臥袱褥間，繙以告母。母喜，傭媪哺之，取名夢仙。

生於是使人告太史，自己將隱，令別擇良匹，太史不肯，生固以為辭。太史告女，女曰：「遠近無不知兒身許吳郎矣。今改之，是二天也。」因以此意告生。生曰：「我不但無志於功名，兼絕情於燕好。所以不即入山者，徒以有老母在。」太史又以商女，女曰：「吳郎貧我甘其藜藿，吳郎去我事其姑嫜，定不他適！」使人三四返，迄無成謀，遂諏曰備車馬妝

奩嬪於生家。生感其賢，敬愛臻至。女事姑孝，曲意承順，過貧家女。逾二年，母亡，女質奩作具，罔不盡禮。

生曰：「得卿如此吾何憂！顧念一人得道，拔宅飛升。餘將遠逝，一切付之於卿。」女坦然，殊不挽留，生遂去。女外理生計，內訓孤兒，井井有法。夢仙漸長，聰慧絕倫。十四歲，以神童領鄉薦，十五入翰林。每褒封，不知母姓氏，封葛母一人而已。值霜露之辰，輒問父所，母具告之，遂欲棄官往尋。母曰：「汝父出家今已十有餘年，想已仙去，何處可尋？」

後奉旨祭南嶽。中途遇寇。窘急中，一道人仗劍入，寇盡披靡，圍始解。德之。饋以金不受。出書一函，付囑曰：「余有

故人與大人同里，煩一致寒暄。」問：「何姓名？」答曰：「王林。」因憶村中無此名，道士曰：「草野微賤，貴官自不識耳。」臨行出一金釧，曰：「此閨閣物，道人拾此無所用處，即以奉報。」視之嵌鏤精絕。

懷歸以授夫人，夫人愛之，命良工依式配造，終不及其精巧。遍問村中，並無王林其人者。私發其函，上云：「三年鸞鳳，分拆各天；葬母教子，端賴卿賢。無以報德，奉藥一丸；剖而食之，可以成仙。」後書「琳娘夫人妝次」。讀畢不解何人，持以告母。母執書以泣。曰：「此汝父家報也。琳，我小字。」始恍然悟「王林」為拆白謎也，悔恨不已。又以釧示母，母曰：「此汝母遺物。而翁在家時，嘗以相示。」又視

丸如豆大，喜曰：「我父仙人，啖此必能長生。」母不遽吞，受而藏之。

會葛太史來視甥，女誦吳生書，便進丹藥為壽。太史剖而分食之，頃刻精神煥發。太史時年七旬，龍鐘頗甚，忽覺筋力溢於膚革，遂棄輿而步，其行健速，家人全息始能及焉。逾年都城有回祿之災，火終日不熄，夜不敢寐，畢集庭中，見火勢拉雜，寢及鄰舍，一家徊徨，不知所計。忽夫人臂上金釧戛然有聲，脫臂飛去。望之大可數畝。團覆宅上，形如月闌，釧口降東南隅，歷歷可見。眾大愕。俄頃火自西來，近闌則斜越而東。迨火勢既遠，竊意釧亡不可復得，忽見紅光乍斂，釧錚然墮足下。都中延燒民舍數萬間，左右前後並為

灰燼，獨吳第無恙。惟東南一小閣化為烏有，即釧口漏覆處也。葛母年五十餘，或見之，猶似二十許人。

### 三、十八、夜叉國

交州徐姓，泛海為賈，忽被大風吹去。開眼至一處，深山蒼莽。冀有居人，遂纜船而登，負糗臘焉。方入，見兩崖皆洞口，密如蜂房，內隱有人聲。至洞外佇足一窺，中有夜叉二，牙森列戟，目閃雙燈，爪劈生鹿而食。驚散魂魄，急欲奔下，則夜叉已顧見之，輟食執入。二物相語，如鳥獸鳴，爭裂徐衣，似欲啖噉。徐大懼，取橐中糗糒，並牛脯進之。分啖甚美。復翻徐橐，徐搖手以示其無，夜叉怒，又執之。徐哀之

曰：「釋我。我舟中有釜甑可烹飪。」夜叉不解其語，仍怒。徐再與手語，夜叉似微解。從至舟，取具入洞，束薪燃火，煮其殘鹿，熟而獻之。二物啖之喜。夜以巨石杜門，似恐徐遁，徐曲體遙臥，深懼不免。天明二物出，又杜之。少頃攜一鹿來付徐，徐剝革，於深洞處取流水，汲煮數釜。俄有數夜叉至，群集吞啖訖，共指釜，似嫌其小。過三四日，一夜叉負一大釜來，似人所常用者。於是群夜叉各致狼麋。既熟，呼徐同啖。居數日，夜叉漸與徐熟，出亦不施禁錮，聚處如家人。徐漸能察聲知意，輒效其音，為夜叉語。夜叉益悅，攜一雌來妻徐。徐初畏懼莫敢伸，雌自開其股就徐，徐乃與交，雌大歡悅。每留肉餌徐，若琴瑟之好。

一日諸夜叉早起，項下各掛明珠一串，更番出門，若伺貴客狀。命徐多煮肉，徐以問雌，雌云：「此天壽節。」雌出謂眾夜叉曰：「徐郎無骨突子。」眾各摘其五，並付雌。雌又自解十枚，共得五十之數，以野苧為繩，穿掛徐項。徐視之，一珠可直百十金。俄頃俱出。徐煮肉畢，雌來邀去，云：「接天王。」至一大洞廣闊數畝，中有石滑平如幾，四圈俱有石坐，上一坐蒙一豹革，餘皆以鹿。夜叉二三十輩，列坐滿中，少頃。大風揚塵，張皇都出。見一巨物來，亦類夜叉狀，竟奔入洞，踞坐鶚顧。群隨入，東西列立，悉仰其首，以雙臂作十字交。大夜叉按頭點視。問：「臥眉山眾盡於此乎？」群哄應之。顧徐曰：「此何來？」雌以「婿」對，眾又贊其烹調。

即有二三夜又，奔取熟肉陳幾上，大夜又掬啖盡飽，極贊嘉美，且責常供。又顧徐云：「骨突子何短？」眾曰：「初來未備。」物於項上摘取珠串，脫十枚付之，俱大如指頂，圓如彈丸，雌急接代徐穿掛，徐亦交臂作夜叉語謝之。物乃去，躡風而行，其疾如飛。眾始享其餘食而散。

居四年餘，雌忽產，一胎而生二雄一雌，皆人形不類其母。眾夜叉皆喜其子，輒共拊弄。一日皆出攫食，惟徐獨坐，忽別洞來一雌欲與徐私，徐不肯。夜叉怒，撲徐踏地上。徐妻自外至，暴怒相搏，齧斷其耳。少頃其雄亦歸，解釋令去。自此雌每守徐，動息不相離。又三年，子女俱能行步，徐輒

教以人言，漸能語，啁啾之中有人氣焉，雖童也，而奔山如履坦途，與徐依依有父子意。

一日雌與一子一女出，半日不歸，而北風大作。徐惻然念故鄉，攜子至海岸，見故舟猶存，謀與同歸。子欲告母，徐止之。父子登舟，一晝夜達交。至家妻已醮。出珠二枚，售金盈兆，家頗豐。子取名彪，十四五歲，能舉百鈞，粗莽好鬥。交帥見而奇之，以為千總。值邊亂，所向有功，十八為副將。

時一商泛海，亦遭風，飄至臥眉，方登岸，見一少年，視之而驚。知為中國人，便問居里，商以告。少年曳入幽谷一小石洞，洞外皆叢棘，且囑勿出。去移時，挾鹿肉來啖商。自

言：「父亦交人。」商問之，而知為徐，商在客中嘗識之。因曰：「我故人也。今其子為副將。」少年不解何名。商曰：「此中國之官名。」又問：「何以為官？」曰：「出則輿馬，入則高堂，上一呼而下百諾，見者側目視，側足立，此名為官。」少年甚歆動。商曰：「既尊君在交，何久淹此？」少年以情告。商勸南旋，曰：「余亦常作是念。但母非中國人，言貌殊異，且同類覺之必見殘害，用是輾轉。」乃出曰：「待北風起，我來送汝行。煩於父兄處，寄一耗問。」商伏洞中幾半年。時自棘中外窺，見山中輒有夜叉往還，大懼，不敢少動。一日北風策策，少年忽至，引與急竄。囑曰：「所言勿忘卻。」商應之。又以肉置幾上，商乃歸。

徑抵交，達副總府，備述所見。彪聞而悲，欲往尋之。父慮海濤妖藪，險惡難犯，力阻之。彪撫膺痛哭，父不能止。乃告交帥，攜兩兵至海內。逆風阻舟，擺簸海中者半月。四望無涯，咫尺迷悶，無從辨其南北。忽而湧波接漢，乘舟傾覆，彪落海中，逐浪浮沉。久之被一物曳去，至一處竟有舍宇。彪視之，一物如夜叉狀。彪乃作夜叉語，夜叉驚訊之，彪乃告以所往。夜叉喜曰：「臥眉我故里也，唐突可罪！君離故道已八千里。此去為毒龍國，向臥眉非路。」乃覓舟來送彪。夜叉在水中，推行如矢，瞬息千里，過一宵已達北岸，見一少年臨流瞻望。彪知山無人類，疑是弟，近之，果弟，因執手哭。既而問母及妹，並云健全。彪欲偕往，弟止之，倉忙

便去。回謝夜叉，則已去。未幾母妹俱至，見彪俱哭。彪告其意，母曰：「恐去為人所凌。」彪曰：「兒在中國甚榮貴，人不敢欺。」歸計已決，苦逆風難度。母子方徊徨間，忽見布帆南動，其聲瑟瑟。彪喜曰：「天助吾也！」相繼登舟，波如箭激，三日抵岸，見者皆奔。彪向三人脫分袍褲。抵家，母夜叉見翁怒罵，恨其不謀，徐謝過不遑。家人拜見家主母，無不戰慄。彪勸母學作華言，衣錦，厭梁肉，乃大欣慰。母女皆男兒裝，類滿制。數月稍辨語言，弟妹亦漸白晢。

弟曰豹，妹日夜兒，俱強有力。彪恥不知書，教弟讀，豹最慧，經史一過輒了。又不欲操儒業，仍使挽強弩，馳怒馬，登武進士第，聘阿游擊女，夜兒以異種無與為婚。會標下袁

奪備失偶，強妻之。夜兒開百石弓，百餘步射小鳥，無虛落。袁每征輒與妻俱，歷任同知將軍，奇勛半出於閨門。豹二十四歲掛印，母嘗從之南征，每臨巨敵，輒擐甲執銳為子接應，見者莫不關易。詔封男爵。豹代母疏辭，封夫人。

異史氏曰：「夜叉夫人，亦所罕聞，然細思之而不罕也。家床頭有個夜叉在。」

### 三、十九、小髻

長山居民某暇居，輒有短客來，久與扳談。素不識其生平，頗注疑念。客曰：「三數日將便徙居，與君比鄰矣。」過四五日，又曰：「今已同里，旦晚可以承教。」問：「喬居何所？」

亦不詳告，但以手北指。自是日輒一來，時向人假器具，或吝不與則自失之。群疑其狐，村北有古塚陷不可測，意必居此，共操兵杖往。伏聽之，久無少異。一更向盡，聞穴中戢戢然，似數十百人作耳語。眾寂不動。俄而尺許小人連遽而出，至不可數。眾噪起，並擊之。杖杖皆火，瞬息四散。惟遺一小髻如胡桃殼然，紗飾而金線，嗅之，騷臭不可言。

### 三、二十、西僧

兩僧自西域來，一赴五臺，一卓錫泰出。其服色言貌，俱與中國殊異。自言歷火焰山，山重重氣熏騰若爐灶，凡行必於雨後，心凝目注，輕跡步履之，誤蹴山石，則飛焰騰灼焉。

又經流沙河，河中有水晶山，峭壁插天際，四面瑩徹，似無所隔。又有隘可容單車，二龍交角對口把守之。過者先拜龍，龍許過，則口角自開。龍色白，鱗鬣皆如晶然。僧言途中歷十八寒暑矣。離西土者十有二人，至中國僅存其二。西土傳中國名山四：一泰山，一華山，一五臺，一落伽也。相傳山上遍地皆黃金，觀音、文殊猶生。能至其處，則身便是佛，長生不死。

聽其所言狀，亦猶世人之慕西土也。倘有西游人，與東渡者中途相值，各述所有，當必相視失笑，兩免跋涉矣。

三、二十一、老饕

邢德，澤州人，綠林之傑也，能挽強弩，發連矢，稱一時絕技。而生平落拓，不利營謀，出門輒虧其資。兩京大賈往往喜與邢俱，途中恃以無恐。

會冬初，有二三估客薄假以資，邀同販鬻，邢復自罄其囊，將並居貨。有友善卜，因詣之，友占曰：「此爻為『悔』，所操之業，即不母而子亦有損焉。」邢不樂，欲中止，而諸客強速之行。至都果符所占。

臘將半，匹馬出都門，自念新歲無資，倍益怏悶。時晨霧蒙蒙，暫趨臨路店解裝覓飲。見一頰白叟共兩少年酌北牖下，

一僮侍黃發蓬蓬然。邢于南座，對叟休止。僮行觴誤翻杵具，污叟衣。少年怒，立摘其耳。捧巾持傘，代叟揩拭。既見僮手拇，俱有鐵箭環，厚半寸，每一貫約重二兩餘。食已，叟命少年於革囊中探出鏹物，堆累幾上，稱秤握算，可飲數杯時，始緘裹完好。少年於櫪中牽一黑跛騾來，扶叟乘之，僮亦跨羸馬相從，出門去。兩少年各腰弓矢，捉馬俱出。

邢窺多金，窮睛旁睨，饒焰若炙，輟飲，急尾之。視叟與僮猶款段於前，乃下道斜馳出叟前，緊銜關弓怒相向。叟俯脫左足靴，微笑云：「而不識得老饕也？」邢滿引一矢去。叟仰臥鞍上，伸其足，開兩指如鉗，夾矢住。笑曰：「技但止此，何須而翁手敵？」邢怒，出其絕技，一矢剛發，後矢繼

至。曳手掇一，似未防其連珠，後矢直貫其口，踣然而墮，銜矢殭眠。僮亦下。邢喜，謂其已斃，近臨之。叟吐矢躍起，鼓掌曰：「初會面，何便作此惡劇？」邢大驚，馬亦駭逸，以此知叟異，不敢復返。

走三四十里，值方面綱紀，囊物赴都，要取之，略可千金，意氣始得揚。方疾驚間，聞後有蹄聲，回首則僮易跛驟來，駛若飛。叱曰：「男子勿行！獵取之貨宜少瓜分。」邢曰：「汝識『連珠箭邢某』否？」僮云：「適已承教矣。」邢以僮貌不揚，又無弓矢，易之。一發三矢連遺不斷，如群隼飛翔。僮殊不忙迫，手接二，口銜一。笑曰：「如此技藝，辱寔煞人！乃翁億遽，未暇尋得弓來，此物亦無用處，請即擲還。」遂

於指上脫鐵環，穿矢其中，以手力擲，嗚嗚風鳴。邢急撥以弓，弦適觸鐵環，鏗然斷絕，弓亦綻裂。邢驚絕，未及覷避，矢過貫耳，不覺翻墜。僮下騎便將搜括，邢以弓臥撻之，僮奪弓去，拗折為兩，又折為四，拋置之。已，乃一手握邢兩臂，一足踏邢兩股，臂若縛，股若壓，極力不能少動。腰中束帶雙疊可駢三指許，僮以一手捏之，隨手斷如灰燼。取金已，乃超乘，作一舉手，致聲「孟浪」，霍然徑去。

邢歸，卒為善士，每向人述往事不諱。此與劉東山事蓋仿佛焉。

三、二十一、連城

喬生，晉寧人，少負才名。年二十餘，猶偃蹇，為人有肝膽。與顧生善，顧卒，時恤其妻子。邑宰以文相契重，宰終於任，家口淹滯不能歸，生破產扶柩，往返二千餘里。以故士林益重之，而家由此益替。

史孝廉有女字連城，工刺繡，知書，父嬌愛之。出所刺《倦繡圖》，徵少年題詠，意在擇婿。生獻詩云：「慵鬟高髻綠娑娑，早向蘭窗繡碧荷。刺到鴛鴦魂欲斷，暗停針線蹙雙蛾。」又贊挑繡之工云：「繡線挑來似寫生，幅中花鳥自天成。當年織錦非長技，幸把回文感聖明。」女得詩喜，對父稱賞，父

貧之。女逢人輒稱道，又遣媪嬌父命，贈金以助燈火。生嘆曰：「連城我知己也！」傾懷結想，如饑思啖。

無何，女許字於鹺賈之子王化成，生始絕望，然夢魂中猶佩戴之。未幾女病瘵沉痼不起，有西域頭陀自謂能療，但須男子膺肉一錢，搗合藥屑。史使人詣王家告婿，婚笑曰：「癡老翁，欲我剜心頭肉也！」使返。史乃言於人曰：「有能割肉者妻之。」生聞而往，自出白刃，請膺授僧。血濡袍褲，僧敷藥始止。合藥三丸，三日服盡，疾若失。史將踐其言，先告王。王怒，欲訟官。史乃設筵招生，以千金列幾上。曰：「重負大德，請以相報。」因具白背盟之由。生怫然曰：「僕所以不愛膺肉者，聊以報知己耳。豈貨肉哉！」拂袖而歸。女聞

之，意良不忍，托媪慰諭之，且云：「以彼才華，當不久落。天下何患無佳人？我夢不詳，三年必死，不必與人爭此泉下物也。」生告媪曰：「『士為知己者死』，不以色也。誠恐連城未必真知我，但得真知我，不諧何害？」媪代女郎矢誠自剖。生曰：「果爾，相逢時當為我一笑，死無憾！」媪既去。逾數日，生偶出，遇女自叔氏歸，睨之，女秋波轉顧，啟齒嫣然。生大喜曰：「連城真知我者！」

會王氏來議吉期，女前癥又作，數月尋死。生往臨吊，一痛而絕。史異送其家。生自知已死，亦無所戚，出村去，猶冀一見連城。遙望南北一道，行人連緒如蟻，因亦混身雜跡其中。俄頃入一廨署，值顧生，驚問：「君何得來？」即把手將送

令歸。生太息言：「心事殊未了。」顧曰：「僕在此典牘，頗得委任，倘可效力，不惜也。」生問連城，顧即導生旋轉多所，見連城與一白衣女郎，淚睫慘黛，藉坐廊隅。見生至，驟起似喜，略問所來。生曰：「卿死，僕何敢生！」連城泣曰：「如此負義人，尚不吐棄之，身殉何為？然已不能許君今生，願矢來世耳。」生告顧曰：「有事君自去，僕樂死不願生矣。但煩稽連城托生何里，行與俱去耳。」顧諾而去，白衣女郎問生何人，連城為緬述之，女郎聞之，若不勝悲。連城告生曰：「此妾同姓，小字賓娘，長沙史太守女。一路同來，遂相憐愛。」生視之，意態憐人。方欲研問，而顧已返，向生賀曰：「我為君平章已確，即教小娘子從君返魂，好否？」

兩人各喜。方將拜別，賓娘大哭曰：「姊去，我安歸？乞垂憐救，妾為姊捧窾耳。」連城淒然，無所為計，轉謀生。生又哀顧，顧難之，峻辭以為不可，生固強之。乃曰：「試妄為之。」去食頃而返，搖手曰：「何如！誠萬分不能為力矣！」賓娘聞之，宛轉嬌啼，惟依連城肘下，恐其即去。慘怛無術，相對默默，而睹其愁顏戚容，使人肺腑酸柔。顧生憤然曰：「請攜賓娘去，脫有愆尤，小生拚身受之！」賓娘乃喜從生出，生憂其道遠無侶。賓娘曰：「妾從君去，不願歸也。」生曰：「卿大癡矣！不歸，何以得活也？他日至湖南勿復走避，為幸多矣。」適有兩媪攝牒赴長沙，生屬賓娘，泣別而去。

途中，連城行蹇緩，里餘輒一息，凡十餘息始見里門。連城曰：「重生後，懼有反覆，請索妾骸骨來，妾以君家生，當無悔也。」生然之。偕歸生家。女惕惕若不能步，生佇待之。女曰：「妾至此，四肢搖搖，似無所主。志恐不遂，尚宜審謀，不然生後何能自由？」相將入側廂中。默定少時，連城笑曰：「君憎妾耶？」生驚問其故。赧然曰：「恐事不諧，重負君矣。請先以鬼報也。」生喜，極盡歡戀。因徘徊不敢遽出，寄廂中者三日。連城曰：「諺有之：『醜婦終須見姑嫜。』」戚戚於此，終非久計。」乃促生入，才至靈寢，豁然頓蘇。家人驚異，進以湯水。生乃使人要史來，請得連城之尸，自言能活之。史喜，從其言。方昇入室，視之已醒。告父曰：「兒

已委身喬郎矣，更無歸理。如有變動，但仍一死！」史歸，遣婢往役給奉。王聞，具詞申理，官受賂，判歸王。生憤懣欲死，亦無奈之。連城至王家，忿不飲食，惟乞速死，室無人，則帶懸梁上。越日，益憊，殆將奄逝，王懼，送歸史；史復舁歸生。王知之亦無如何，遂安焉。連城起，每念賓娘，欲遣信探之，以道遠而艱於往。一日家人進曰：「門有車馬。」夫婦出視，則賓娘已至庭中矣。相見悲喜。太守親詣送女，生延入。太守曰：「小女子賴君復生，誓不他適，今從其志。」生叩謝如禮。孝廉亦至，敘宗好焉。生名年，字大年。

異史氏曰：「一笑之知，許之以身，世人或議其癡。彼田橫五百人豈盡愚哉！此知希之貴，賢豪所以感結而不能自己

也。顧茫茫海內，遂使錦繡才人，僅傾心於峨眉之一笑也。悲夫！

三、一二十三、霍生

文登霍生與嚴生少相狎，長相謔也，口給交御。惟恐不工。霍有鄰媪，曾與嚴妻導產，偶與霍婦語，言其私處有兩贅疣，婦以告霍。霍與同黨者謀，窺嚴將至，故竊語云：「某妻與我最暱。」眾不信。霍因捏造端末，且云：「如不信，其陰側有雙疣。」嚴止窗外，聽之既悉，不入徑去。至家苦掠其妻，妻不服，撈益殘，妻不堪虐，自經死。霍始大悔，然亦不敢向嚴而白其誣矣。

嚴妻既死，其鬼夜哭，舉家不得寧焉。無何，嚴暴卒，鬼乃不哭。霍婦夢女子披發大叫曰：「我死得良苦，汝夫妻何得歡樂耶！」既醒而病，數日尋卒。霍亦夢女子指數詬罵，以掌批其吻。驚而寤，覺唇際隱痛，捫之高起，三日而成雙疣，遂為痼疾。不敢大言笑，啟吻太驟，則痛不可忍。

異史氏曰：「死能為厲，其氣冤也。私病加於唇吻，神而近於戲矣。」

邑王氏，與同窗某狎。其妻歸寧，王知其驢善驚，先伏叢莽中，伺婦至，暴出，驢驚婦墮，惟一僮從，不能扶婦乘。王乃殷勤抱控甚至，婦亦不識誰何。王揚揚以此得意，謂僮逐驢去，因得私其婦於莽中，述裙褲履甚悉。某聞，大慚而去。

少間，自窗隙中見某一手握刃，一手捉妻來，意甚怒惡。大懼，逾垣而逃。某從之，追二三里地不及，始返。王盡力極奔，肺葉開張，以是得吼疾，數年不愈焉。

三、二一四、汪士秀

汪士秀，廬州人，剛勇有力，能舉石舂，父子善蹴鞠。父四十餘，過錢塘沒焉。

積八九年，汪以故詣湖南，夜泊洞庭，時望月東升，澄江如練。方眺矚間，忽有五人自湖中出，攜大席平鋪水面，略可半畝。紛陳酒饌，饌器磨觸作響，然聲溫厚不類陶瓦。已而三人踐席坐，二人侍飲。坐者一衣黃，二衣白。頭上巾皆皂

色，峨峨然下連肩背，制絕奇古，而月色微茫，不甚可晰。侍者俱褐衣，其一似童，其一似叟也。但聞黃衣人曰：「今夜月色大佳，足供快飲。」白衣者曰：「此夕風景，大似廣利王宴梨花島時。」二人互勸，引釔競浮白。但語略小即不可聞，舟人隱伏不敢動息。汪細審侍者叟酷類父，而聽其言又非父聲。

二漏將殘，忽一人曰：「趁此明月，宜一擊球為樂。」即見僮汲水中取一圓出，大可盈抱，中如水銀滿貯，表裏通明。坐者盡起。黃衣人呼叟共蹴之。蹴起丈餘，光搖搖射人眼。俄而訇然遠起，飛墮舟中。汪技癢，極力踏去，覺異常輕軟。踏猛似破，騰尋丈，中有漏光下射如虹，蚩然疾落。又如經

天之彗直投水中，滾滾作沸泡聲而滅。席中共怒曰：「何物生人敗我清興！」叟笑曰：「不惡不惡，此吾家流星拐也。」白衣人嗔其語戲，怒曰：「都方厭惱，老奴何得作歡？便同小烏皮捉得狂子來，不然，脛股當有椎吃也！」汪計無所逃，即亦不畏，捉刀立舟中。倏見僮叟操兵來，汪汪視真其父也，疾呼：「阿翁！兒在此！」叟大駭，相顧淒斷。

僮即反身去。叟曰：「兒急作匿。不然都死矣！」言未已三人忽已登舟，面皆漆黑，睛大於榴，攫叟出。汪力與奪，搖舟斷纜。汪以刀截其臂落，黃衣者乃逃。一白衣人奔汪，汪剝其顛，墮水有聲，哄然俱沒，方謀夜渡，旋見巨喙出水面深若井，四面湖水奔注，砰砰作響。俄一噴湧，則浪接星斗，

萬舟簸蕩。湖人大恐。舟上有石鼓二皆重百斤，汪舉一以投，激水雷鳴，浪漸消。又投其一，風波悉平。汪疑父為鬼，叟曰：「我固未嘗死也。溺江者十九人，皆為妖物所食，我以踢圓得全。物得罪於錢塘君，故移避洞庭耳。三人魚精，所蹴魚胞也。」父子聚喜，中夜擊棹而去。天明，見舟中有魚翅徑四五尺許，乃悟是夜間所斷臂也。

### 三、一二十五、商三官

故諸葛城有商士禹者，士人也，以醉謔忤邑豪，豪嗾家奴亂捶之，鼻歸而死。禹二子，長曰臣，次曰禮。一女曰三官。三官年十六，出閣有期，以父故不果。兩兄出訟，終歲不得

結。婿家遣人參母，請從權畢姻事，母將許之。女進曰：「焉有父尸未寒而行吉禮？彼獨無父母乎？」婿家聞之。漸而止。無何，兩兄訟不得直，負屈歸，舉家悲憤。兄弟謀留父尸，張再訟之本。三官曰：「人被殺而不理，時事可知矣。天將為汝兄弟專生一閻羅包老耶？骨骸暴露，於心何忍矣。」二兄服其言，乃葬父。葬已，三官夜遁，不知所往。母慚忤，惟恐婿家知，不敢告族黨，但囑二子冥冥偵察之。幾半年杳不可尋。

會豪誕辰，招優為戲，優人孫淳攜二弟子往執投。其一王成，姿容平等，而音詞清徹，群贊賞焉。其一李玉貌韶秀如好女，呼令歌，辭以不稔，強之，所度曲半雜兒女俚謠，合座為之

鼓掌。孫大慚，白主人：「此子從學未久，只解行觴耳，幸勿罪責。」即命行酒。玉往來給奉，善覲主人意向，豪悅之。酒闌人散，留與同寢，玉代豪拂榻解履，殷勤周至。醉語狎之，但有展笑，豪惑益甚。盡遣諸僕去，獨留玉。玉伺諸僕去，闔扉下鍵焉。諸僕就別室飲。

移時，聞廳事中格格有聲，一僕往覘之，見室內冥黑，寂不聞聲。行將旋踵，忽有響聲甚厲，如懸重物而斷其索。亟問之，並無應者。呼眾排闥入，則主人身首兩斷，玉自經死，繩絕墮地上，梁間頸際，殘綆儼然。眾大駭，傳告內闔，群集莫解。眾移玉尸於庭，覺其襪履虛若無足。解之則素舄如鉤，蓋女子也。益駭。呼孫淳詰之，淳駭極，不知所對，但

云：「玉月前投作弟子，願從壽主人，實不知從來。」以其服兇，疑是商家刺客。誓以二人邏守之。女貌如生，撫之肢體溫軟，二人竊謀淫之。一人抱尸轉側，方將緩其結束，忽腦如物擊，口血暴注，頃刻已死。其一大警告眾，眾敬若神明焉，且以告郡。郡官問臣及禮，並言：「不知；但妹亡去已半載矣。」俾往驗視，果二官。官奇之，判二兄領葬，敕豪家勿仇。

異史氏曰：「家有女豫讓而不知，則兄之為丈夫者可知矣。然三官之為人，即蕭蕭易水，亦將羞而不流，況碌碌與世浮沉者耶！願天下閨中人，買絲繡之，其功德當不減於奉壯繆也。」

三、二十六、於江

鄉民於江，父宿田間為狼所食。江時年十六，得父遺履，悲恨欲死。夜俟母寢，潛持鐵槌去眠父所，冀報父仇。少間一狼來逡巡嗅之，江不動。無何，搖尾掃其額，又漸俯首舐其股，江迄不動。既而歡躍直前，將齧其領。江急以錘擊狼腦，立斃。起置草中。少間又一狼來如前狀，又斃之。以至中夜杳無至者。

忽小睡，夢父曰：「殺二物，足洩我恨，然首殺我者其鼻白，此都非是。」江醒，堅臥以伺之。既明，無所復得。欲曳狼歸，恐驚母，遂投諸智井而歸。至夜復往，亦無至者。如此

三四夜。忽一狼來嚙其足，曳之以行。行數步，棘刺肉，石傷膚。江若死者，狼乃置之地上，意將齧腹，江驟起錘之，僕；又連錘之，斃。細視之，真白鼻也。大喜，負之以歸，始告母。母泣從去，探智井，得二狼焉。

異史氏曰：「農家者流，乃有此英物耶！義烈發於血誠，非直勇也。智亦異焉。」

三、二十七、小二

膝邑趙旺夫妻奉佛，不如葷血，鄉中有「善人」之目。家稱小有。一女小二絕慧美，趙珍愛之。年六歲，使與兄長春並從師讀，凡五年而熟五經焉。同窗丁生字紫陌，長於女二歲，

文采風流，頗相傾愛。私以意告母，求婚趙氏。趙期以女字大家，故弗許。

未幾，趙惑於白蓮教，徐鴻儒既反，一家俱陷為賊。小二知書善解，凡紙兵豆馬之術一見輒精。小女子師事徐者六年，惟二稱最，因得盡傳其術。趙以女故，大得委任。時丁年十八，游滕泮矣，而不肯論婚，意不忘小二也，潛亡去投徐麾下。女見之喜，優禮逾於常格。女以徐高足主軍務，晝夜出入，父母不得閑。

丁每宵見，嘗斥絕諸役，輒至三漏。丁私告曰：「小生此來，卿知區區之意否？」女云：「不知。」丁曰：「我非妄意攀龍，所以故，實為卿耳。左道無濟，止取滅亡。卿慧人不念

此乎？能從我亡，則寸心誠不負矣。」女憮然為問，豁然夢覺，曰：「背親而行不義，請告。」二人入陳利害，趙不悟，曰：「我師神人，豈有舛錯？」

女知不可諫，乃易髻而髻。出二紙鳶，與丁各跨其一，鳶肅肅展翼，似鷓鷯之鳥，比翼而飛。質明，抵萊蕪界。女以指拈鳶項，忽即斂墮，遂收鳶。更以雙衛，馳至山陰里，托為避亂者，僦屋而居。二人草草出，嗇於裝，薪儲不給，丁甚憂之。假粟比舍，莫肯貸以升斗。女無愁容，但質簪珥。閉門靜對，猜燈謎，憶亡書，以是角低昂，負者駢二指擊腕臂焉。

西鄰翁姓，綠林之雄也。一日獵歸，女曰：「富以其鄰，我何憂？暫假千金，其與我乎！」丁以為難。女曰：「我將使彼樂輸也。」乃剪紙作判官狀置地下，覆以雞籠。然後握丁登榻，煮藏酒，檢《周禮》為觴政，任言是某冊第幾葉第幾行，即共翻閱。其人得食旁、水旁、酉旁者飲，得酒部者倍之。既而女適得「酒人」，丁以巨觥引滿促釀。女乃祝曰：「若借得金來，君當得飲部。」丁翻卷，得「鰲人」。女大笑曰：「事已諧矣！」滴漉授爵。丁不服。女曰：「君是水族，宜作鰲飲。」方喧競所，聞籠中戛戛，女起曰：「至矣。」啟籠驗視，則布囊中有巨金累累充溢。丁不勝愕喜。後翁家媪抱兒來戲，竊言：「主人初歸，篝燈夜坐。地忽暴裂，深不可底。一判官

自內出，言：『我地府司隸也。太山帝君會諸冥曹，造暴客惡錄，須銀燈千架，架計重十兩。施百架，則消滅罪愆。』主人駭懼，焚香叩禱，奉以千金。判官荏苒而入，地亦遂合。」夫妻聽其言，故嘖嘖詫異之。

而從此漸購牛馬，蓄廝婢，自營宅第。里中無賴子窺其富，糾諸不逞，逾垣劫丁。丁夫婦始自夢中醒，則編菅爇照，寇集滿屋。二人執丁，又一人探手女懷。女袒而起，戟指而呵曰：「止，止！」盜十三人皆吐舌呆立，癡若木偶。女始著褲下榻，呼集家人，一一反接其臂，逼令供吐明悉。乃責之曰：「遠方人埋頭澗穀，冀得相扶持，何不仁至此！緩急人所時有，窘急者不妨明告，我豈積殖自封者哉？豺狼之行本

合盡誅，但吾所不忍，姑釋去，再犯不宥！」諸盜叩謝而去。居無何鴻儒就擒，趙夫婦妻子俱被夷誅。生齎金往贖長春之幼子以歸。兒時三歲，養為己出，使從姓丁，名之承祧。於是里中人漸知為白蓮教戚裔。適蝗害稼，女以紙鳶數百翼放田中，蝗遠避，不入其隴，以是得無恙。里人共嫉之，群首於官，以為鴻儒餘黨。官啖其富，肉視之，收丁；丁以重賂啖令，始得免。

女曰：「貨殖之來也苟，固宜有散亡。然蛇蠍之鄉不可久居。」因賤售其業而去之，止於益都之西鄙。女為人靈巧，善居積，經紀過於男子。嘗開琉璃廠，每進工人而指點之。一切棋燈，其奇式幻採，諸肆莫能及，以故直昂得速售。居數年財益稱

雄。而女督課婢僕嚴，食指數百無冗口。暇輒與丁烹茗著棋，或觀書史為樂。錢穀出入以及婢僕業，凡五日一課，婦自持籌，丁為之點籍唱名數焉。勤者賞齎有差，惰者鞭撻罰膝立。是日，給假不夜作，夫妻設有酒，呼婢輩度俚曲為笑。女明察如神，人無敢欺。而賞輒浮於其勞，故事易辦。村中二百餘家，凡貧者俱量給資本，鄉以此無游惰。值大旱，女令村人設壇於野，乘輿野出，禹步作法，甘霖傾注，五里內悉獲沾足。人益神之。女出未嘗障面，村人皆見之，或少年群居，私議其美，及覲面逢之，俱肅肅無敢仰視者。每秋日，村中童子不能耕作者，授以錢，使採茶薊，幾二十年，積滿

樓屋。人竊非笑之。會山左大饑，人相食。女乃出菜雜粟贍饑者，近村賴以全活，無逃亡焉。

異史氏曰：「二所為殆天授，非人力也。然非一言之悟，駢死已久。由是觀之，世抱非常之才，而誤入匪僻以死者當亦不少，焉知同學六人中，遂無其人乎？使人恨不為丁生耳。」

三、二十八、庚娘

金大用，中州舊家子也。聘尤太守女，字庚娘，麗而賢，述好甚敦。以流寇之亂，家人離逃，金攜家南竄。途遇少年，亦偕妻以逃者，自言廣陵王十八，願為前驅。金喜，行止與俱。至河上，女隱告金曰：「勿與少年同舟，彼屢顧我，目

動而色變，中叵測也。」金諾之。王殷勤覓巨舟，代金運裝，劬勞臻至，金不忍卻。又念其攜有少婦，應亦無他。婦與庚娘同居，意度亦頗溫婉。王坐舡頭上與櫓人傾語，似甚熟識戚好。

未幾日落，水程迢遞，漫漫不辨南北。金四顧幽險，頗涉疑怪。頃之，皎月初升，見彌望皆蘆葦。既泊，王邀金父子出戶一豁，乃乘間擠金入水；金有老父，見之欲號，舟人以篙築之，亦溺；生母聞聲出窺，又築溺之。王始喊救。母出時，庚娘在後，已微窺之。既聞一家盡溺，即亦不驚，但哭曰：「翁姑俱沒，我安適歸！」王入勸：「娘子勿憂，請從我至金陵，家中田廬頗足贍給，保無虞也。」女收涕曰：「得如

此，願亦足矣。」王大悅，給奉良殷。既暮，曳女求歡，女托體婢，王乃就婦宿。

初更既盡，夫婦喧競，不知何由。但聞婦曰：「若所為，雷霆恐碎汝顱矣！」王乃搗婦。婦呼云：「便死休！誠不願為殺人賊婦！」王吼怒，摔婦出。便聞骨董一聲，遂嘩言婦溺矣。未幾抵金陵，導庚娘至家，登堂見媪，媪訝非故婦。王言：「婦墮水死，新娶此耳。」歸房，又欲犯。庚娘笑曰：「三十許男子，尚未經人道耶？市兒初合香亦須一杯薄漿酒，汝家沃饒，當即不難。清醒相對，是何體段？」王喜，具酒對酌。庚娘執爵，勸酬殷懇。王漸醉，辭不飲。庚娘引巨碗，強媚勸之，王不忍拒，又飲之。於是酣醉，裸脫促寢。庚娘

撤器滅燭，托言溲溺，出房，以刀入，暗中以手索王項，王猶捉臂作暈聲。庚娘力切之，不死，號而起；又揮之，始殪。媪仿佛有聞，趨問之，女亦殺之。王弟十九覺焉。庚娘知不免，急自刎，刀鈍缺不可入，啟戶而奔，十九逐之，已投池中矣。呼告居人，救之已死，色麗如生。共驗王尸，見窗上一函，開視，則女備述其冤狀。群以為烈，謀斂資作殯。天明集視者數千人，見其容皆朝拜之。終日間得金百，於是葬諸南郊。好事者為之珠冠袍服，瘞藏豐滿焉。

初，金生之溺也，浮片板上，得不死。將曉至淮上，為小舟所救。舟蓋富民尹翁，專設以拯溺者。金既蘇，詣翁申謝。翁優厚之。留教其子。金以不知親耗，將往探訪，故不決。

俄曰：「撈得死叟及媪。」金疑是父母，奔驗果然。翁代營棺木。生方哀慟，又白：「拯一溺婦，自言金生其夫。」生揮涕驚出，女子已至，殊非庚娘，乃十八婦也。向金大哭，請勿相棄。金曰：「我方寸已亂，何暇謀人？」婦益悲。尹審其故，喜為天報，勸金納婦。金以居喪為辭，且將復仇，懼細弱作累。婦曰：「如君言，脫庚娘猶在，將以報仇居喪去之耶？」翁以其言善，請暫代收養，金乃許之。卜葬翁媪，婦縗經哭泣，如喪翁姑。

既葬，金懷刃托鉢，將赴廣陵，婦止之曰：「妾唐氏，祖居金陵，與豺子同鄉，前言廣陵者詐也。且江湖水寇，半伊同黨，仇不能復，只取禍耳。」金徘徊不知所謀。忽傳女子誅仇事，

洋溢河渠，姓名甚悉。金聞之一快，然益悲，辭婦曰：「幸不污辱。家有烈婦如此，何忍負心再娶？」婦以業有成說，不肯中離，願自居於媵妾。會有副將軍袁公，與尹有舊，適將西發，過尹，見生，大相知愛，請為記室。無何，流寇犯順，袁有大勛，金以參機務，敘勞，授游擊以歸。夫婦始成合卺之禮。

居數日，攜婦詣金陵，將以展庚娘之墓。暫過鎮江，欲登金山。漾舟中流，欸一艇過，中有一嫗及少婦，怪少婦頗類庚娘。舟疾過，婦自窗中窺金，神情益肖。驚疑不敢追問，急呼曰：「看群鴨兒飛上天耶！」少婦聞之。亦呼云：「饞獍兒欲吃貓子腥耶！」蓋當年閨中之隱諺也。金大驚，反棹近之，

真庚娘。青衣扶過舟，相抱哀哭，傷感行旅。唐氏以嫡禮見庚娘。庚娘驚問，金始備述其由。庚娘執手曰：「同舟一話，心常不忘，不圖吳越一家矣。蒙代葬翁姑，所當首謝，何以此禮相向？」乃以齒序，唐少庚娘一歲，妹之。

先是，庚娘既葬，自不知歷幾春秋。忽一人呼曰：「庚娘，汝夫不死，尚當重圓。」遂如夢醒。捫之四面皆壁，始悟身死已葬，只覺悶悶，亦無所苦。有惡少窺其葬具豐美，發塚破棺，方將搜括，見庚娘猶活，相共駭懼。庚娘恐其害己，哀之曰：「幸汝輩來，使我得睹天日。頭上簪珥，悉將去，願鬻我為尼，更可少得直。我亦不洩也。」盜稽首曰：「娘子貞烈，神人共欽。小人輩不過貧乏無計，作此不仁。但無漏言幸矣。」

何敢鬻作尼！」庚娘曰：「此我自樂之。」又一盜曰：「鎮江耿夫人寡而無子，若見娘子必大喜。」庚娘謝之。自拔珠飾悉付盜，盜不敢受，固與之，乃共拜受。遂載去，至耿夫人家，托言舡風所迷。耿夫人，巨家，寡媪自度。見庚娘大喜，以為己出。適母子自金山歸也，庚娘緬述其故。金乃登舟拜母，母款之若婿。邀至家，留數日始歸。後往來不絕焉。

異史氏曰：「大變當前，淫者生之，貞者死焉。生者裂人背，死者雪人涕耳。至如談笑不驚，手刃仇讎，千古烈丈夫中豈多匹儔哉！誰謂女子，遂不可比蹤彥云也？」

三、二十九、宮夢弼

柳芳華保定人，財雄。一鄉，慷慨好客，座上常百人；急人之急，千金不靳；賓友假貸常不還。惟一客宮夢弼，陝人，生平無所乞請，每至輒經歲，詞旨清灑，柳與寢處時最多。柳子名和，時總角，叔之，宮亦喜與和戲。每和白塾歸，輒與發貼地磚，埋石子偽作埋金為笑。屋五架，掘藏幾遍。眾笑其行稚，而和獨悅愛之，尤較諸客曠。後十餘年家漸虛，不能供多客之求，於是客漸稀，然十數人徹宵談宴，猶是常也。年既暮，日益落，尚割畝得直以備雞黍。和亦揮霍，學父結小友，柳不之禁。無何，柳病卒，至無以治兇具。宮乃自出囊金，為柳經紀。和益德之，事無大小，悉委宮叔。宮

時自外入必袖瓦礫，至室則拋擲暗陬，更不解其何意。和每對宮憂貧，宮曰：「子不知作苦之難。無論無金；即授汝千金可立盡也。男子患不自立，何患貧？」一日辭欲歸，和泣囑速返，宮諾之，遂去。和貧不自給，典質漸空，日望宮至以為經理，而宮滅跡匿影去如黃鶴矣。

先是，柳生時，為和論親於無極黃氏，素封也，後聞柳貧，陰有悔心。柳卒訃告之，即亦不吊，猶以道遠曲原之。和服除，母遣自詣嶽所定婚期，冀黃憐顧。比至，黃聞其衣履敝穿，斥門者不納。寄語云：「歸謀百金可復來，不然，請自此絕。」和聞言痛哭。對門劉媪，憐而進之食，贈錢三百，慰令歸。母亦哀憤無策，因念舊客負欠者十常八九，俾擇富貴者

求助焉。和曰：「昔之交我者為我財耳，使兒駟馬高車，假千金亦即匪難。如此景象，誰猶念曩恩，憶故好耶？且父與人金資，曾無契保，責負亦難憑也。」母固強之，和從教，凡二十餘日不能致一文。惟優人李四舊受恩恤，聞其事，義贈一金。母子痛哭，自此絕望矣。

黃女年已及笄，聞父絕和，竊不直之。黃欲女別適，女泣曰：「柳郎非生而貧者也。使富倍他日，豈仇我者所能奪乎？今貧而棄之，不仁！」黃不悅，曲諭百端，女終不搖。翁嫗並怒，旦夕唾罵之，女亦安焉。無何，夜遭寇劫，黃夫婦炮烙幾死，家中席卷一空。荏苒三載，家益零替。有西賈聞女美，願以五十金致聘。黃利而許之，將強奪其志。女察知其

謀，毀裝塗面，乘夜遁去，丐食於途。閱兩月始達保定，訪和居址，直造其家。母以為乞人婦，故咄之，女嗚咽自陳，母把手泣曰：「兒何形骸至此耶！」女又慘然而告以故，母子俱哭。便為盥沐，顏色光澤，眉目煥映，母子俱喜。然家三口，日僅一啖，母泣曰：「吾母子固應爾；所憐者，負吾賢婦！」女笑慰之曰：「新婦在乞人中，稔其況味，今日視之，覺有天堂地獄之別。」母為解頤。

女一日入閑舍中，見斷草叢叢無隙地，漸入內室，塵埃積中，暗陬有物堆積，蹴之迂足，拾視皆朱提。驚走告和，和同往驗視，則宮往日所拋瓦礫，盡為白金。因念兒時，常與瘞石室中，得母皆金？而故地已典於東家，急贖歸。斷磚殘

缺，所藏石子儼然露焉，頗覺失望，及發他磚，則燦燦皆白鏹也。頃刻間數巨萬矣。由是贖田產，市奴僕，門庭華好過昔日。因自奮曰：「若不自立，負我宮叔！」刻志下帷，三年中鄉選。

乃躬齎白金，往酬劉媪。鮮衣射日，僕十餘輩皆騎怒馬如龍。媪僅一屋，和便坐榻上。人嘩馬騰，棄溢里巷。黃翁自女失亡，西賈逼退聘財，業已耗去殆半，售居宅始得償，以故困窘如和曩日。聞舊婚烜耀，閉戶自傷而已。媪沽酒備饌款和，因述女賢，且惜女遁。問和：「娶否？」和曰：「娶矣。」食已，強媪往視新婦，載與俱歸。至家，女華妝出，群婢簇擁

若仙。相見大駭，遂敘往舊，殷問父母起居。居數日，款洽優厚，制好衣，上下一新，始送令返。

媪詣黃許報女耗，兼致存問，夫婦大驚。媪勸往投女，黃有難色。既而凍餒難堪，不得已如保定。既到門，見一閨峻麗，閨人怒目張，終日不得通，一婦人出，黃溫色卑詞，告以姓氏，求暗達女知。少間婦出，導入耳舍，曰：「娘子極欲一覲，然恐郎君知，尚候隙也。翁幾時來此？得毋饑否？」黃因訴所苦。婦人以酒一盛、饌二簋，出置黃前；又贈五金，曰：「郎君宴房中，娘子恐不得來。明日宜早去，勿為郎聞。」黃諾之。早起趣裝，則管鑰未啟，止於門中，坐袱囊以待。忽嘩主人出，黃將斂避，和已睹之，怪問誰何，家人悉無以

應。和怒曰：「是必奸宄！可執赴有司。」眾應聲出，短綆繃系樹間，黃慚懼不知置詞。未幾昨夕婦出，跪曰：「是某舅氏。以前夕來晚，故未告主人。」和命釋縛。

婦送出門，曰：「忘囑門者，遂致參差。娘子言：相思時可使老夫人偽為賣花者，同劉媪來。」黃諾，歸述於媪。媪念女若渴，以告劉媪，媪果與俱至和家，凡啟十餘關，始達女所。女著帔頂髻，珠翠綺褲，散香氣撲人。嚶嚶一聲，大小婢媪奔入滿側，移金椅床，置雙夾膝。慧婢瀹茗，各以隱語道寒暄，相視淚熒。至晚除室安二媪，裊褥溫軟，並昔年富時所未經。居三五日，女意殷渥。媪輒引空處，泣白前非。女曰：「我子母有何過不忘？但郎忿不解，防他聞也。」每和

至，便走匿。一日方促膝，和遽入，見之，怒詬曰：「何物村嫗，敢引身與娘子接坐！宜撮鬢毛令盡！」劉媪急進曰：「此老身瓜葛，王嫂賣花者，幸勿罪責。」和乃上手謝過。即坐曰：「姥來數日，我大忙，未得展敘。黃家老畜產尚在否？」笑云：「都佳，但是貧不可過。官人大富貴，何不一念翁婿情也？」和擊桌曰：「曩年非姥憐賜一甌粥，更何得旋鄉土！今欲得而寢處之，何念焉！」言致忿際，輒頓足起罵。女恚曰：「彼即不仁，是我父母，我迢迢遠來，手皴瘃，足趾皆穿，亦自謂無負郎君。何乃對子罵父，使人難堪？」和始斂怒，起身去。黃媪愧喪無色，辭欲歸，女以二十金私付之。

既歸，曠絕音問，女深以為念。和乃遣人招之，夫妻至，慚作無以自容。和謝曰：「舊歲辱臨，又不明告，遂是開罪良多。」黃但唯唯。和為更易衣履。留月餘，黃心終不自安，數告歸。和遺白金百兩，曰：「西賈五十金，我今倍之。」黃汗顏受之。和以輿馬送還，暮歲稱小豐焉。

異史氏曰：「雍門泣後，朱履杳然，令人憤氣杜門，不欲復交一客。然良朋葬骨，化石成金，不可謂非慷慨好客之報也。閨中人坐享高奉，儼然如嬪嬙，非貞異如黃卿，孰克當此而無愧者乎？造物之不妄降福澤也如是。」

鄉有富者，居積取盈，搜算入骨。窖鏹數百，惟恐人知，故衣敗絮。啖糠粃以示貧。親友偶來，亦曾無作雞黍之事。或

言其家不貧，便逋目作怒，其仇如不共戴天。暮年，日餐榆屑一升，臂上皮摺垂一寸長，而所窖終不肯發。後漸尪羸。瀕死，兩子環問之，猶未遽告；迨覺果危急，欲告子，子至，已舌蹇不能聲，惟爬抓心頭，呵呵而已。死後，子孫不能具棺木，遂槁葬焉。嗚呼！若窖金而以為富，則大帑數千萬，何不可指為我有哉？愚已！

三、三十、鵠鵠

王汾濱言：其鄉有養八哥者，教以語言，甚狎習，出游必與之俱，相將數年矣。一日將過絳州，去家尚遠，而資斧已罄，其人愁苦無策。烏云：「何不售我？送我王邸，當得善價，不

愁歸路無資也。」其人云：「我安忍。」鳥言：「不妨。主人得價疾行，待我城西二十里大樹下。」其人從之。

攜至城，相問答，觀者漸眾。有中貴見之，聞諸王。王召入，欲買之。其人曰：「小人相依為命，不願賣。」王問鳥：「汝願住否？」言：「願住。」王喜，鳥又言：「給價十金，勿多予。」王益喜，立畀十金，其人故作懊悔狀而去。王與鳥言，應對便捷。呼肉啖之。食已，鳥曰：「臣要浴。」王命金盆貯水，開籠令浴。浴已，飛簷間，梳翎抖羽，尚與王喋喋不休。頃之羽燥。翩躚而起，操晉音曰：「臣去呀！」顧盼已失所在。王及內侍仰面咨嗟，急覓其人則已渺矣。後有往秦中者，見其人攜鳥在西安市上。此畢載積先生記。

三、三十一、劉海石

劉海石，蒲臺人，避亂於濱州。時十四歲，與濱州生劉滄客同函丈，因相善，訂為昆季。無何，海石失怙恃，奉喪而歸，音問遂闕。滄客家頗裕，年四十，生二子，長子吉，十七歲，為邑名士，次子亦慧。滄客又內邑中倪氏女，大嬖之。後半  
年長子患腦痛卒，夫妻大慘。無幾何妻病又卒，逾數月長媳  
又死，而婢僕之喪亡且相繼也。滄客哀悼，殆不能堪。

一日方坐愁間，忽闖人通海石至。滄客喜，急出門迎以入。  
方欲展寒溫，海石忽驚曰：「兄有滅門之禍不知耶？」滄客  
愕然，莫解所以。海石曰：「久失聞問，竊疑近況，未必佳

也。」滄客泫然，因以狀對，海石欷歔，既而笑曰：「災殃未艾，餘初為兄吊也。然幸而遇僕，請為兄賀。」滄客曰：「久不晤，豈近精『越人術』耶？」海石曰：「是非所長。陽宅風鑿，頗能習之。」滄客喜，便求相宅。導海石入，內外遍觀之，已而請睹諸眷口。滄客從其教，使子媳婢妾俱見於堂，滄客一一指示。

至倪，海石仰天而視，大笑不已。眾方驚疑，但見倪女戰慄無色，身暴縮短僅二尺餘。海石以界方擊其首，作石缶聲。海石揪其發檢腦後，見白發數莖，欲拔之，女縮項跪啼，言即去，但求勿拔。海石怒曰：「汝兇心尚未死耶？」就項後拔去之。女隨手而變，黑色如狸。眾大駭，海石掇納袖中，

顧子婦曰：「媳受毒已深，背上當有異，請驗之。」婦羞，不肯袒示。劉子固強之，見背上白毛長四指許。海石以針挑去，曰：「此毛已老，七日即不可救。」又顧劉次子，亦有毛才二指。曰：「似此可月餘死耳。」滄客以及婢僕並刺之。曰：「僕適不來，一門無噍類矣。」問：「此何物？」曰：「亦狐屬。吸人神氣以為靈，最利人死。」滄客曰：「久不見君，何能神異如此！無乃仙乎？」笑曰：「特從師習小技耳，何遽云仙。」問其師，答云：「山石道人。適此物，我不能死之，將歸獻俘於師。」言已告別。覺袖中空空，駭曰：「亡之矣！尾末有大毛未去，今已遁去。」眾俱駭然。海石曰：「領毛已盡，不能作人，止能化獸，遁當不遠。」於是入室而相其貓，

出門而嗾其犬，皆曰無之。啟圈笑曰：「在此矣。」滄客視之多一豕，聞海石笑，遂伏不敢少動。提耳捉出，視尾上白毛一莖，硬如針。方將檢拔，而豕轉側哀鳴，不聽拔。海石曰：「汝造孽既多，拔一毛猶不肯耶？」執而拔之，隨手復化為狸。納袖欲出，滄客苦留，乃為一飯。問後會，曰：「此難預定。我師立願宏深，常使我等遨世上，拔救眾生，未必無再見時。」

及別後，細思其名，始悟曰：「海石殆仙矣！『山石』合一『巖』字，蓋呂祖諱也。」

三、三十二、諭鬼

青州石尚書茂華為諸生時，郡門外有大淵，不雨亦不涸。邑中獲大寇數十名，刑於淵上。鬼聚為祟，經過者輒曳入。一日，有某甲正遭困厄，忽聞群鬼惶竄曰：「石尚書至矣！」未幾公至，甲以狀告。公以堊灰題壁示云：「石某為禁約事：照得厥念無良，致嬰雷霆之怒；所謀不軌，遂遭斧鉞之誅。只宜返罔兩之心，爭相懺悔；庶幾洗髑髏之血，脫此沉淪。爾乃生已極刑，死猶聚惡。跳踉而至，披發成群；躑躅以前，搏膺作厲。黃泥塞耳，輒逞鬼子之兇；白晝為妖，幾斷行人之路！彼丘陵三尺外，管轄由人；豈乾坤兩大中，兇頑任爾？諭後各宜潛蹤，勿猶怙惡。無定河邊之骨，靜待輪回；

金閨夢里之魂，還踐鄉土。如蹈前愆，必貽後悔！」自此鬼患遂絕，淵亦尋干。

三、三十三、泥鬼

餘鄉唐太史濟武，數歲時，有表親某相攜戲寺中。太史童年磊落，膽即最豪，見廡中泥鬼睜琉璃眼，甚光而巨，愛之，陰以指抉取，懷之而歸。既抵家，某暴病不語；移時忽起，厲聲曰：「何故掘吾睛！」噪叫不休。眾莫之知，太史始言所作。家人乃祝曰：「童子無知，戲傷尊目，行奉還也。」乃大言曰：「如此，我便當去。」言訖僕地遂絕，良久而蘇。問其所言，茫不自覺。乃送睛仍安鬼眶中。

異史氏曰：「登堂索睛，土偶何其靈也。顧太史抉睛，而何以遷怒於同游？蓋以玉堂之貴，而且至性觥觥，觀其上書北闕，拂袖南山，神且憚之，而況鬼乎？」

### 三、三十四、夢別

王春李先生之祖，與先叔祖玉田公交最好。一夜夢公至其家，黯然相語。問：「何來？」曰：「僕將長往，故與君來別耳。」問：「何之？」曰：「遠矣。」遂出。送至谷中，見石壁有裂罅，便拱手作別，以背向罅，逡巡倒行而入，呼之不應，因而驚寐。及明以告太公敬一，且使備吊具，曰：「玉田公捐舍矣！」太公請先探之，信而後吊之。不聽，竟以素服往，

至門則提幡掛矣。嗚呼！古人於友，其死生相信如此，喪輿待巨卿而行，豈妄哉！

三、三十五、犬燈

韓光祿大千之僕夜宿廈間，見樓上有燈如明星，未幾，熒熒飄落，及地化為犬。睨之，轉舍後去，急起潛尾之，入院中化為女子。心知其狐，還臥故所。俄女子自後來，僕佯寐以觀其變。女俯而撼之，僕偽作醒狀，問其為誰，女不答。僕曰：「樓上燈光非子也耶？」女曰：「既知之，何問焉？」遂共宿之。晝別宵會以為常。

主人知之，使二人夾僕臥，二人既醒，則身臥床下，亦不覺墮自何時。主人益怒，謂僕曰：「來時，當捉之來；不然則有鞭楚！」僕不敢言，諾而退，因念捉之難，不捉懼罪，展轉無策。忽憶女子一小紅衫密著其體，未肯暫脫，必其要害，執此可以脅之。夜來女至，問：「主人囑汝捉我乎？」曰：「良有之。但我兩人情好，何肯此為？」及寢，陰掬其衫，女急啼，力脫而去。從此遂絕。後僕自他方歸，遙見女子坐道周，至前則舉袖障面。僕下騎呼曰：「何作此態？」女乃起握手曰：「我謂子已忘舊好矣。既戀戀有故人意。情尚可原。前事出於主命，亦不汝怪也。但緣分已盡，今設小酌，請入為別。」時秋初，高梁正茂。女攜與俱入，則中有巨第。系馬

而入，廳堂中酒肴已列。甫坐，群婢行炙。日將暮，僕有事欲覆主命，遂別，既出，則依然田隴耳。

三、三十六、番僧

釋體空言：在青州見二番僧，像貌奇古，耳綴雙環，被黃布，須發鬢如羊角，自言從西域來。聞太守重佛，謁之，太守遣二隸送詣叢林，和尚靈轡不甚禮之。執事者見其人異，私款之，止宿焉。或問：「西域多異人，羅漢得毋有奇術否？」其一颯然笑，出手於袖，掌中托小塔，高裁盈尺，玲瓏可愛。壁上最高處，有小龕，僧擲塔其中，轟然端立，無少偏倚。視塔上有舍利放光，照耀一室。少間以手招之，仍落掌中。

其一僧乃袒臂，伸左肱，長可六七尺，而右肱縮無有矣；轉伸右肱亦如左狀。

三、三十七、狐妾

萊蕪劉洞九官汾州，獨坐署中，聞亭外笑語漸近，入室則四女子：一四十許，一可三十，一二十四五已來，末後一垂髻者，並立幾前，相視而笑。劉固知官署多狐，置不顧。少間，垂髻者出一紅巾戲拋面上，劉拾擲窗間，仍不顧。四女一笑而去。

一日年長者來，謂劉曰：「舍妹與君有緣，願無棄葑菲。」劉漫應之，女遂去。俄偕一婢擁垂髻兒來，俾與劉並肩坐。

曰：「一對好鳳侶，今夜諧花燭。勉事劉郎，我去矣。」劉諦視，光艷無儔，遂與燕好。詰其行跡，女曰：「妾固非人，而實人也。妾前官之女，盅於狐，奄忽以死，窆園內，眾狐以術生我，遂飄然若狐。」劉因以手探尻際，女覺之笑曰：「君將無謂狐有尾耶？」轉身云：「請試捫之。」自此，遂留不去，每行坐與小婢俱，家人俱尊以小君禮。婢媪參謁，賞賚甚豐。

值劉壽辰，賓客煩多，共三十餘筵，須庖人甚眾；先期牒拘僅一二到者。劉不勝恚。女知之，便言：「勿憂。庖人既不足用，不如並其來者遣之。」妾固短於才，然三十席亦不難辦。」劉喜，命以魚肉姜椒悉移內署。家中人但聞刀砧聲繁不絕。

門內設以幾，行炙者置杵其上，轉視則肴俎已滿。托去復來，十餘人絡繹於道，取之不絕。末後，行炙人來索湯餅。內言曰：「主人未嘗預囑，咄嗟何以辦？」既而曰：「無已，其假之。」少頃呼取湯餅，視之三十餘碗，蒸騰幾上。客既去，乃謂劉曰：「可出金資，償某家湯餅。」劉使人將直去。則其家失湯餅，方共驚疑，使至疑始解。一夕夜酌，偶思山東苦醪，女請取之。遂出門去，移時返曰：「門外一罌可供數日飲。」劉視之，果得酒，真家中甕頭春也。

越數日，夫人遣二僕如汾。途中一僕曰：「聞狐夫人犒賞優厚，此去得賞金，可買一裘。」女在署已知之，向劉曰：「家中人將至。可恨僮奴無禮，必報之。」僕甫入城，頭大痛，至

署，抱首號呼，共擬進醫藥。劉笑曰：「勿須療，時至當自瘥。」眾疑其獲罪小君。僕自思：初來未解裝，罪何由得？無所告訴，漫膝行而哀之。簾中語曰：「爾謂夫人則已耳，何謂狐也？」僕乃悟，叩不已。又曰：「既欲得裘，何得復無禮？」已而曰：「汝愈矣。」言已，僕病若失。僕拜欲出，忽自簾中擲一裹出，曰：「此一羔羊裘也，可將去。」僕解視，得五金。劉問家中消息，僕言都無事，惟夜失藏酒一罌，稽其時日，即取酒夜也。群憚其神，呼之「聖仙」，劉為繪小像。

時張道一為提學使，聞其異，以桑梓誼詣劉，欲乞一面，女拒之。劉示以像，張強攜而去。歸懸座右，朝夕祝之云：「以

卿麗質，何之不可？乃托身於髮髮之老！下官殊不惡於洞九，何不一惠顧？」女在署，忽謂劉曰：「張公無禮，當小懲之。」一日張方祝，似有人以界方擊額，崩然甚痛。大懼，反卷。劉詰之，使隱其故而詭對。劉笑，曰：「主人額上得毋痛否？」使不能欺，以實告。

無何婿元生來，請覲之，女固辭之，元請之堅。劉曰：「婿非他人，何拒之深？」女曰：「婿相見，必當有以贈之。渠望我奢，自度不能滿其志，故適不欲見耳。」既固請之，乃許以十日見。及期元入，隔簾揖之，少致存問。儀容隱約，不敢審諦。即退，數步之外輒回眸注盼。但聞女言曰：「阿婿回首矣！」言已大笑，烈烈如鴉鳴。元聞之，脛股皆軟，搖搖然

如喪魂魄。既出，坐移時始稍定。乃曰：「適聞笑聲，如聽霹靂，竟不覺身為己有。」少頃，婢以女命，贈元二十金。元受之，謂婢曰：「聖仙日與丈人居，寧不知我素性揮霍，不慣使小錢耶？」女聞之曰：「我固知其然。囊底適罄；向結伴至汴梁，其城為河伯占據，庫藏皆沒水中，入水各得些須，何能飽無饜之求？且我縱能厚饋，彼福薄亦不能任。」

女凡事能先知，遇有疑難與議，無不剖。一日並坐，忽仰天大驚曰：「大劫將至，為之奈何！」劉驚問家口，曰：「餘悉無恙，獨二公子可慮。此處不久將為戰場，君當求差遠去，庶免於難。」劉從之，乞於上官，得解餉雲貴間。道里遼遠，聞者吊之，而女獨賀。無何，姜瓖叛，汾州沒為賊窟。劉仲

子自山東來，適遭其變，遂被其害。城陷，官僚皆罹干難，惟劉以公出得免。

盜平，劉始歸。尋以大案桂誤，貧至饔飧不給，而當道者又多所需索，因而窘憂欲死。女曰：「勿憂，床下三千金，可資用度。」劉大喜，問：「竊之何處？」曰：「天下無主之物，取之不盡，何庸竊乎！」劉借謀得脫歸，女從之。後數年忽去，紙裏數事留贈，中有喪家掛門之小幡，長二寸許，群以為不祥。劉尋卒。

三、三十八、雷曹

樂雲鶴、夏平子二人，少同里，長同齋，相交莫逆。夏少慧，十歲知名。樂虛心事之。夏相規不倦；樂文思日進，由是名並著。而潦倒場屋，戰輒北。無何，夏遘疫而卒，家貧不能葬，樂銳身自任之。遺襁裸子及未亡人，樂以時恤諸其家，每得升鬥必析而二之，夏妻子賴以活。於是士大夫益賢樂。樂恆產無多，又代夏生憂內顧，家計日蹙。乃嘆曰：「文如平子尚碌碌以沒，而況於我？人生富貴須及時，戚戚終歲，恐先狗馬填溝壑，負此生矣，不如早改圖也。」於是去讀而賈。操業半年，家資小泰。

一日客金陵，休於旅舍，見一人頎然而長，筋骨隆起，徬徨坐側，色黯淡有戚容。樂問：「欲得食耶？」其人亦不語。樂推食食之，則以手掬啖，頃刻已盡；樂又益以兼人之饌，食復盡。遂命主人割豚脅，堆以蒸餅，又盡數人之餐。始果腹而謝曰：「三年以來未嘗如此飫飽。」樂曰：「君固壯士，何飄泊若此？」曰：「罪嬰天譴，不可說也。」問其里居，曰：「陸無屋，水無舟，朝村而暮郭也。」樂整裝欲行，其人相從，戀戀不去。樂辭之，告曰：「君有大難，吾不忍忘一飯之德。」樂異之，遂與偕行。途中曳與同餐，辭曰：「我終歲僅數餐耳。」益奇之。次日渡江，風濤暴作，估舟盡覆，樂與其人悉沒江中。俄風定，其人負樂踏波出，登客舟，又破浪去。

少時挽一舟至，扶樂入，囑樂臥守，復躍入江，以兩臂夾貨出，擲舟中，又入之；數入數出，列貨滿舟。樂謝曰：「君生我亦良足矣，敢望珠還哉！」檢視貨財，並無亡失。益喜，驚為神人，放舟欲行，其人告退，樂苦留之，遂與共濟。樂笑云：「此一厄也，止失一金簪耳。」其人欲復尋之。樂方勸止，已投水中而沒。驚愕良久，忽見含笑而出，以簪授樂曰：「幸不辱命。」江上人罔不駭異。

樂與歸，寢處共之，每十數日始一食，食則啖嚼無算。一日又言別，樂固挽之。適晝晦欲雨，聞雷聲。樂曰：「雲間不知何狀？雷又是何物？安得至天上視之，此疑乃可解。」其人笑曰：「君欲作雲中游耶？」少時樂倦甚，伏榻假寐。既

醒，覺身搖搖然不似榻上，開目則在雲氣中，周身如絮。驚而起，暈如舟上，踏之軟無地。仰視星斗，在眉目間。遂疑是夢。細視星嵌天上如蓮實之在蓬也，大者如甕，次如瓠，小如盞盂。以手撼之，大者堅不可動，小星搖動似可摘而下者；遂摘其一藏袖中。撥雲下視，則銀河蒼茫，見城郭如豆。愕然自念：設一脫足，此身何可復向？俄見二龍夭矯，駕縵車來，尾一掉，如鳴牛鞭。車上有器，圍皆數丈，貯水滿之。有數十人，以器掬水，遍灑雲間。忽見樂，共怪之。樂審所與壯士在焉，語眾云：「是吾友也。」因取一器授樂令灑。時苦旱，樂接器排雲，遙望故鄉，盡情傾注。未幾謂樂曰：「我本雷曹，前誤行雨，罰謫三載。今天限已滿，請從

此別。」乃以駕車之繩萬丈擲前，使握端縋下。樂危之；其人笑言：「不妨。」樂如其言，颼颼然瞬息及地。視之，則墮立村外，繩漸收入雲中，不可見矣。

時久旱，十里外雨僅盈指，獨樂里溝澮皆滿。歸探袖中，摘星仍在。出置案上，黯黝如石，入夜則光明煥發，映照四壁。益寶之，什襲而藏。每有佳客，出以照飲。正視之，則條條射日。一夜妻坐對握發，忽見星光漸小如螢，流動橫飛。妻方怪吒，已入口中，咯之不出，竟已下咽。愕奔告樂，樂亦奇之。既寢，夢夏平子來，曰：「我少微星也。因先君失一德，促餘壽齡。君之惠好，在中不忘。又蒙自上天攜歸，可云有緣。今為君嗣，以報大德。」樂三十無子，得夢甚喜。自

是妻果娠，及臨蓐，光輝滿室，如星在幾上時，因名「星兒」。機警非常，十六歲及進士第。

異史氏曰：「樂子文章名一世，忽覺蒼蒼之位置我者不在是，遂棄毛錐如脫屣，此與燕頷投筆者何以少異？至雷曹感一飯之德，少微酬良朋之知，豈神人之私報恩施哉？乃造物之公報賢豪耳。」

三、三十九、賭符

韓道士居邑中之天齊廟，多幻術，共名之「仙」。先子與最善，每適城，輒造之。一日與先叔赴邑，擬訪韓，適遇諸途。

韓付鑰曰：「請先往啟門坐，少旋我即至。」乃如其言。詣廟發扃，則韓已坐室中。諸如此類。

先是有敝族人嗜博賭，因先子亦識韓。值大佛寺來一僧，專事樗蒲，賭甚豪。族人見而悅之，罄資往賭，大虧。心益熱，典質田產復往，終夜盡喪。邑邑不得志，便道詣韓，精神慘淡，言語失次。韓問之，具以實告。韓笑曰：「常賭無不輸之理。倘能戒賭，我為汝覆之。」族人曰：「倘得珠還合浦，花骨頭當鐵杵碎之！」韓乃以紙書符，授佩衣帶間。囑曰：「但得故物即已，勿得隴復望蜀也。」又付千錢約贏而償之。族人大喜而往。僧驗其資，易之，不屑與賭。族人強之，請一擲為期，僧笑而從之。乃以千錢為孤注，僧擲之無所勝負，族

人接色，一擲成採。僧復以兩千為注。又敗。僧漸增至十餘千，明明梟色，呵之皆成盧雉，計前所輸，頃刻盡覆。陰念再贏數千亦更佳，乃復博，則色漸劣。心怪之，起視帶上則符已亡矣，大驚而罷。載錢歸廟，除償韓外，追而計之，並未後所失，適符原數也。已乃愧謝失符之罪，韓笑曰：「已在此矣。固囑勿貪，而君不聽，故取之。」

異史氏曰：「天下之傾家者莫速於博，天下之敗德者亦莫甚於博。入其中者如沉迷海，將不知所底矣。夫商農之人，俱有本業；詩書之士，尤惜分陰。負耒橫徑，固成家之正路；清談薄飲，猶寄興之生涯。」

「爾乃狎比淫朋，纏綿永夜。傾囊倒篋，懸金於嶮巖之天；呼雉呵盧，乞靈於淫昏之骨，盤施五木，似走圓珠；手握多章，如擎團扇。左覷人而右顧己，望穿鬼子之睛；陽示弱而陰用強，費盡魍魎之技。門前賓客待，猶戀戀於場頭；舍上火煙生，尚眈眈於盆里。忘餐廢寢，則久入成迷；舌敝唇焦，則相看似鬼。迨夫全軍盡沒，熱眼空窺。視局中則叫號濃焉，技癢英雄之臆；顧囊底而貫索空矣，灰寒壯士之心。引頸徘徊，覺白手之無濟；垂頭蕭索，始玄夜以方歸。幸交謫之人，眠，恐驚犬吠；苦久虛之腹餓，敢怨羹殘。既而鬻子質田，冀珠還於合浦；不意火灼毛盡，終撈月於滄江。及遭敗後我方思，已作下流之物；試問賭中誰最善，群指無褲之公。甚

而枵腹難堪，遂棲身於暴客；搔頭莫度，至仰給於香奩。嗚呼！敗德喪行，傾財亡身，孰非博之一途致之哉！

### 三、四十、阿霞

文登景星者少有重名，與陳生比鄰而居，齋隔一短垣。一日陳暮過荒落之墟，聞女子啼松柏間，近臨則樹橫枝有懸帶，若將自經。陳詰之，揮涕而對曰：「母遠出，托妾於外兄。不圖狼子野心，畜我不卒。伶仃如此不如死！」言已復泣。陳解帶，勸令適人，女慮無可托者。陳請暫寄其家，女從之。既歸，挑燈審視，豐韻殊絕，大悅，欲亂之，女厲聲抗拒，紛

紘之聲達於間壁。景生逾垣來窺，陳乃釋女。女見景生，凝目停睇，久乃奔去。二人共逐之，不知去向。

景歸，闔戶欲寢，則女子盈盈自房中出。驚問之，答曰：「彼德薄福淺，不可終托。」景大喜，詰其姓氏。曰：「妾祖居於齊，以齊為姓，小字阿霞。」入以游詞，笑不甚拒，遂與寢處，齋中多友人來往，女恆隱閉深房。過數日，曰：「妾姑去，此處煩雜困人甚。繼今，請以夜卜。」問：「家何所？」曰：「正不遠耳。」遂早去，夜果復來，歡愛綦篤。又數日謂景曰：「我兩人情好雖佳，終屬苟合。家君宦游西疆，明日將從母去，容即乘間稟命，而相從以終焉。」問：「幾日別？」約以旬終。既去，景思齋居不可常，移諸內又慮妻妒，

計不如出妻。志既決，妻至輒詬厲，妻不堪其辱，涕欲死。景曰：「死恐見累，請早歸。」遂促妻行。妻啼曰：「從子十年未嘗失德，何決絕如此！」景不聽，逐愈急，妻乃出門去。自是堊壁清塵，引領翹待，不意信杳青鸞，如石沉海。妻大歸後，數渙知交請復於景，景不納，遂適夏侯氏。夏侯里居，與景接壤，以田畔之故世有隙。景聞之，益大恚恨。然猶冀阿霞復來，差足自慰。

越年餘並無蹤緒。會海神壽，祠內外士女雲集，景亦在。遙見一女甚似阿霞，景近之，入於人中；從之，出於門外；又從之，飄然竟去，景追之不及，恨悒而返。後半載適行於途，見一女郎著朱衣，從蒼頭，鞵黑衛來，望之，霞也。因問從

人：「娘子為誰？」答言：「南村鄭公子繼室。」又問：「娶幾時矣？」曰：「半月耳。」景思得毋誤耶？女郎聞語，回眸一睇，景視，真阿霞也。見其已適他姓，憤填胸臆，大呼：「霞娘！何忘舊約？」從人間呼主婦，欲奮老拳。女急止之，啟幃紗謂景曰：「負心人何顏相見？」景曰：「卿自負僕，僕何嘗負卿？」女曰：「負夫人甚於負我！結發者如是而況其他？向以祖德厚，名列桂籍，故委身相從。今以棄妻故，冥中削爾祿秩，今科亞魁王昌即替汝名者也。我已歸鄭姓，無勞復念。」景俯首帖耳，口不能道一詞。視女子策蹇去如飛，悵恨而已。

是科景落第，亞魁果王氏昌名，景以是得薄幸名。四十無偶，家益替，恆趁食於親友家。偶詣鄭，鄭款之，留宿焉。女窺客，見而憐之，問鄭曰：「堂上客非景慶雲耶？」問所自識，曰：「未適君時，曾避難其家，亦深得其豢養。彼行雖賤而祖德未斬，且與君為故人，亦宜有綈袍之義。」鄭然之，易其敗絮，留以數日。夜分欲寢，有婢持金二十餘兩贈景。女在窗外言曰：「此私貯，聊酬夙好，可將去，覓一良匹。幸祖德厚，尚足及子孫；無復喪檢，以促餘齡。」景感謝之。既歸，以十餘金買縉紳家婢，甚醜悍。舉一子，後登兩榜。鄭官至吏部郎。既沒，女送葬歸，啟輿則虛無人矣，始知其非

人也。噫！人之無良，舍其舊而新是謀，卒之卵覆而鳥亦飛，天之所報亦慘矣！

### 三、四十一、李司鑒

李司鑒，永年舉人也，於康熙四年九月二十八日，打死其妻李氏。地方報廣平，行永年查審。司鑒在府前，忽於肉架上奪一屠刀，奔入城隍廟登戲臺上對神而跪。自言：「神責我不當聽信奸人，在鄉黨顛倒是非，著我割耳。」遂將左耳割落，拋臺下。又言：「神責我不應騙人錢財，著我割指。」遂將左指剝去。又言：「神責我不當奸淫婦女，使我割腎。」遂

自闔，昏迷殭僕。時總督朱雲門題參革褫究擬，已奉諭旨，而司鑒已伏冥誅矣。邱抄。

三、四十二、五殺大夫

河津暢體元，字汝玉，為諸生時，夢人呼為「五殺大夫」，喜為佳兆。及遇流寇之亂，盡剝其衣，夜閉置空室。時冬月寒甚，暗中摸索，得數羊皮護體，僅不至死。質明視之，恰符五數。啞然自笑神之戲已也。後以明經授雒南知縣。畢載績先生志。

三、四十三、毛狐

農子馬天榮年二十餘，喪偶，貧不能娶。藝田間，見少婦盛妝，踐禾越陌而過，貌赤色，致亦風流。馬疑其迷途，顧四野無人，戲挑之，婦亦微納。欲與野合，笑曰：「青天白日寧宜為此，子歸掩門相候，昏夜我當至。」馬不信，婦矢之。馬乃以門戶向背俱告之，婦乃去。夜分果至，遂相悅愛。覺其膚肌嫩甚，火之，膚赤薄如嬰兒，細毛遍體，異之。又疑其蹤跡無據，自念得非狐耶？遂戲相詰，婦亦自認不諱。馬曰：「既為仙人，自當無求不得。既蒙繾綣，寧不以數金濟我貧？」婦諾之。次夜來，馬索金，婦故愕曰：「適忘之。」將去，馬又囑。至夜，問：「所乞或勿忘也？」婦笑，請以異

日。愈數日馬復索，婦笑向袖中出白金二錠，約五六金，翹邊細紋，雅可愛玩。馬喜，深藏於櫝。積半歲，偶需金，因持示人。人曰：「是錫也。」以齒齧之，應口而落。馬大駭，收藏而歸。至夜婦至，憤致誚讓，婦笑曰：「子命薄，真金不能任也。」一笑而罷。

馬曰：「聞狐仙皆國色，殊亦不然。」婦曰：「吾等皆隨人現化。子且無一金之福，落雁沉魚何能消受？以我陋質固不足以奉上流，然較之大足駝背者，即為國色。」過數月，忽以三金贈馬，曰：「子屢相索，我以子命不應有藏金。今媒聘有期，請以一婦之資相饋，亦借以贈別。」馬自白無聘婦之說，婦曰：「一二日自當有媒來。」馬問：「所言姿貌何如？」

曰：「子思國色，自當是國色。」馬曰：「此即不敢望。但三金何能買婦？」婦曰：「此月老注定，非人力也。」馬問：「何遽言別？」曰：「戴月披星終非了局。使君自有婦，搪塞何為？」天明而去，授黃末一刀圭，曰：「別後恐病，服此可療。」

次日果有媒來，先詰女貌，答：「在妍媸之間。」聘金幾何？「約四五數。」馬不難其價，而必欲一親見其人。媒恐良家子不肯炫露，既而約與俱去，相機因便。既至其村，媒先往，使馬候諸村外。久之來曰：「諧矣！餘表親與同院居，適往見女，坐室中，請即偽為謁表親者而過之，咫尺可相窺也。」馬從之。果見女子坐室中，伏體於床，倩人爬背。馬趨

過，掠之以目，貌誠如媒言。及議聘，並不爭直，但求一二金裝女出閣。馬益廉之，乃納金並酬媒氏及書券者，計三兩已盡，亦未多費一文。擇吉迎女歸，入門，則胸背皆駝，項縮如龜，下視裙底，蓮船盈尺。乃悟狐言之有因也。

異史氏曰：「隨人現化，或狐女之自為解嘲；然其言福澤，良可深信。餘每謂：非祖宗數世之修行，不可以博高官；非本身數世之修行，不可以得佳人。信因果者，必不以我言為河漢也。」

三、四十四、翩翩

羅子浮，邠人，父母俱早世，八九歲依叔大業。業為國子左廂，富有金繒而無子，愛子浮若己出。十四歲為匪人誘去，作狹邪游，會有金陵娼僑寓郡中，生悅而惑之。娼返金陵，生竊從遁去。居娼家半年，床頭金盡，大為姊妹行齒冷，然猶未遽絕之。無何，廣瘡潰臭，沾染床席，逐而出。丐於市，市人見輒遙避。自恐死異域，乞食西行，日三四十里，漸至邠界。又念敗絮膿穢，無顏入里門，尚赳赳近邑間。

日就暮，欲趨山寺宿，遇一女子，容貌若仙，近問：「何適？」生以實告。女曰：「我出家人，居有山洞，可以下榻，頗不

畏虎狼。」生喜從去。入深山中，見一洞府，入則門橫溪水，石梁駕之。又數武，有石室二，光明徹照，無須燈燭。命生解懸鶉，浴於溪流，曰：「濯之，瘡當愈。」又開幃拂褥促寢，曰：「請即眠，當為郎作褲。」乃取大葉類芭蕉，剪綴作衣，生臥視之。制無幾時，折迭床頭，曰：「曉取著之。」乃與對榻寢。生浴後，覺瘡瘍無苦，既醒摸之，則痂厚結矣。詰旦將興，心疑蕉葉不可著，取而審視，則綠錦滑絕。少間具餐，女取山葉呼作餅，食之果餅；又剪作雞、魚烹之，皆如真者。室隅一罌貯佳醞，輒復取飲，少減，則以溪水灌益之。數日瘡痂盡脫，就女求宿。女曰：「輕薄兒！甫能安身，便生妄想！」生云：「聊以報德。」遂同臥處，大相歡愛。

一日有少婦笑入曰：「翩翩小鬼頭快活死！薛姑子好夢幾時做得？」女迎笑曰：「花城娘子，貴趾久弗涉，今日西南風緊，吹送也！小哥哥抱得未？」曰：「又一小婢子。」女笑曰：「花娘子瓦窖哉！那弗將來？」曰：「方鳴之，睡卻矣。」於是坐以款飲。又顧生曰：「小郎君焚好香也。」生視之，年二十有三四，綽有餘妍，心好之。剝果誤落案下，俯地假拾果，陰捻翹鳳。花城他顧而笑，若不知者。生方恍然神奪，頓覺袍褲無溫，自顧所服悉成秋葉，幾駭絕。危坐移時，漸變如故。竊幸二女之弗見也。少頃酬酢間，又以指搔纖掌。花城坦然笑謔，殊不覺知。突突怔忡間，衣已化葉，移時始復變。由是漸顏息慮，不敢妄想。花城笑曰：「而家小郎子，大不端

好！若弗是醋葫蘆娘子，恐跳跡入雲霄去。」女亦哂曰：「薄幸兒，便值得寒凍殺！」相與鼓掌。花城離席曰：「小婢醒，恐啼腸斷矣。」女亦起曰：「貪引他家男兒，不憶得小江城啼絕矣。花城既去，懼貽誚責，女卒晤對如平時。居無何，秋老風寒，霜零木脫，女乃收落葉，蓄旨御冬。顧生肅縮，乃持襍掇拾洞口白雲為絮復衣，著之溫暖如襦，且輕松常如新綿。

逾年生一子，極惠美，日在洞中弄兒為樂。然每念故里，乞與同歸。女曰：「妾不能從。不然，君自去。」因循二三年，兒漸長，遂與花城訂為姻好。生每以叔老為念。女曰：「阿叔臘故大高，幸復強健，無勞懸耿。待保兒婚後，去住由君。」

女在洞中，輒取葉寫書，教兒讀，兒過日即了。女曰：「此兒福相，放教入塵寰，無憂至臺閣。」未幾兒年十四，花城親詣送女，女華妝至，容光照人。夫妻大悅。舉家宴集。翩翩扣釵而歌曰：「我有佳兒，不羨貴官。我有佳婦，不羨綺褲。今夕聚首，皆當喜歡。為君行酒，勸君加餐。」既而花城去，與兒夫婦對室居。新婦孝，依依膝下，宛如所生。生又言歸，女曰：「子有俗骨，終非仙品。兒亦富貴中人可攜去，我不誤兒生平。」新婦思別其母，花城已至。兒女戀戀，涕各滿眶。兩母慰之曰：「暫去，可復來。」翩翩乃剪葉為驢，令三人跨之以歸。

大業已歸老林下，意侄已死，忽攜佳孫美婦歸，喜如獲寶。入門，各視所衣悉蕉葉，破之，絮蒸蒸騰去，乃並易之。後生思翩翩，偕兒往探之，則黃葉滿徑，洞口路迷，零涕而返。

異史氏曰：「翩翩、花城，殆仙者耶？餐葉衣云何其怪也！然幃幄誹謔，狎寢生雛，亦復何殊於人世？山中十五載，雖無『人民城郭』之異，而雲迷洞口，無跡可尋，睹其景況，真劉、阮返棹時矣。」

### 三、四十五、黑獸

聞李太公敬一言：「某公在沈陽，宴集山顛，俯瞰山下，有虎銜物來，以爪穴地，瘞之而去。使人探所瘞得死鹿，乃取

鹿而掩其穴。少間虎導一黑獸至，毛長數寸，虎前驅，若邀尊客。既至穴，獸眈眈蹲伺。虎探穴失鹿，戰伏不敢少動。獸怒其誑，以爪擊虎額，虎立斃，獸亦徑去。

異史氏曰：「獸不知何名。然問其形，殊不大於虎，而何延頸受死，懼之如此其甚哉？凡物各有所制，理不可解。如獮最畏狢，遙見之則百十成群，羅而跪，無敢遁者。凝睛定息，聽狢至，以爪遍揣其肥瘠，肥者則以片石志顛頂。獮戴石而伏，悚若木雞，惟恐墮落。狢揣志已，乃次第按石取食，餘始哄散。余嘗謂貪吏似狢，亦且揣民之肥瘠而志之，而裂食之；而民之戢耳聽食，莫敢喘息，蚩蚩之情亦猶是也。可哀也夫！」

# 四、卷四

## 四、一、余德

武昌尹圖南有別第，嘗為一秀才稅居，半年來亦未嘗過問。一日遇諸其門，年最少，而容儀裘馬，翩翩甚都。趨與語，卻又蘊藉可愛。異之，歸語妻，妻遣婢托遺問以窺其室。室有麗姝，美艷逾於仙人。一切花石服玩，俱非耳目所經。尹不測其何人，詣門投謁，適值他出。翼日卻來拜答，展其刺呼，始知餘姓德名。語次細審官閥，言殊隱約，固詰之，則曰：「欲相還往，僕不敢自絕。應知非寇竊通逃者，何須必

知來歷。」尹謝之。命酒款宴，言笑甚歡。向暮，有昆侖捉馬挑燈，迎導以去。

明日折簡報主人。尹至其家，見屋壁俱用明光紙裱，潔如鏡，金狻猊爇異香，一碧玉瓶插鳳尾孔雀羽各二，各長二尺餘；一水晶瓶浸粉花一樹，不知何名，亦高二尺許，垂枝覆幾外，葉疏花密，含苞未吐，花狀似濕蝶斂翼，蒂即如須。筵間不過八簋，豐美異常。即命童子擊鼓催花為令。鼓聲既動，則瓶中花顫顫欲折，俄而蝶翅漸張，既而鼓歇，淵然一聲，蒂須頓落，即為一蝶飛落尹衣。余笑起飛一巨觥，酒方引滿，蝶亦揚去。頃之鼓又作，兩蝶飛集餘冠。余笑云：「作法自斃矣。」亦引二觥。三鼓既終，花亂墮，翩翩而下，惹袖沾

衿。鼓童笑來指數：尹得九籌，餘得四籌。尹已薄醉，不能盡籌，強引三爵，離席亡去。由是益奇之。

然其為人寡交與，每闔門居，不與國人通吊慶。尹逢人輒宣，聞其異者爭交歡餘，門外冠蓋相望。餘頗不耐，忽辭主人去。去後，尹入其家，空庭灑掃無纖塵，燭淚堆擲青階下，窗間零帛斷綿，指印宛然。惟舍後遺一小白石缸，可受石許。尹攜歸貯水養朱魚，經年水清如初貯，後為傭保移石誤碎之，水蓄並不傾瀉。視之缸宛在，捫之虛軟。手入其中，水隨手洩，出其手則復合，冬月不冰。一夜忽結為晶，魚游如故。尹畏人知，常置密室，非子婿不以示也。久之漸播，索玩者紛錯於門。臘月忽解為水，陰濕滿地，魚亦渺然，其舊缸殘

石猶存。忽有道士踵門求之，尹出以示，道士曰：「此龍宮蓄水器也。」尹述其破而不洩之異。道士曰：「此缸之魂也。」殷殷然乞得少許。問其何用，曰：「以屑合藥，可得永壽。」予一片，歡謝而去。

#### 四、二、楊千總

畢民部公即家起備兵洮岷時，有千總楊花麟來迎。冠蓋在途，偶見一人遺便路側。楊關弓欲射之，公急呵止。楊曰：「此奴無禮，合小怖之。」乃遙呼曰：「遺屙者，奉贈一股會稽藤簪縮髻子。」即飛矢去，正中其髻，其人急奔，便液污地。

四、三、瓜異

康熙二十六年六月，邑西村民圃中，黃瓜上復生蔓，結西瓜一枚，大如碗。

四、四、青梅

白下程生性磊落，不為畛畦。一日自外歸，緩其束帶，覺帶沉沉，若有物墮，視之，無所見。宛轉間，有女子從衣後出，掠發微笑，麗甚。程疑其鬼，女曰：「妾非鬼，狐也。」程曰：「倘得佳人，鬼且不懼，而況於狐！」遂與狎。二年生一女，小字青梅。每謂程：「勿娶，我且為君生子。」程遂不娶，親友共誚姍之。程志奪，聘湖東王氏。狐聞之大怒，就女乳

之，委於程曰：「此汝家賠錢貨，生之殺之俱由爾，我何故代人作乳媪乎！」出門徑去。

青梅長而慧，貌韶秀，酷肖其母。既而程病卒，王再醮去。青梅寄食於堂叔。叔蕩無行，欲鬻以自肥。適有王進士者，方候銓於家，聞其慧，購以重金，使從女阿喜服役。喜年十四，容華絕代，見梅忻悅，與同寢處。梅亦善候伺，能以目聽，以眉語，由是一家俱憐愛之。

邑有張生字介受，家屢貧，無恆產，稅居王第。性純孝，制行不苟，又篤於學。青梅偶至其家，見生據石啖糠粥，入室與生母絮語，見案上具豚蹄焉。時翁臥病，生入，抱父而私，便液污衣，翁覺之而自恨。生掩其跡，急出自濯，恐翁知。

梅以此大異之。歸述所見，謂女曰：「吾家客非常人也。娘子不欲得良匹則已，欲得良匹，張生其人也。」女恐父厭其貧。梅曰：「不然，是在娘子。如以為可，妾潛告使求伐焉。夫人必召商之，但應之曰『諾』也，則諧矣。」女恐終貧為天下笑。梅曰：「妾自謂能相天下士，必無謬誤。」明日往告張媪，媪大驚，謂其言不祥。梅曰：「小姐聞公子而賢之也，妾故窺其意以為言。冰人往，我兩人袒焉，計合允遂。縱其否也，於公子何辱乎？」媪曰：「諾。」乃托侯氏賣花者往。夫人聞之而笑以告王，王亦大笑。喚女至，述侯氏意。女未及答，青梅亟贊其賢，決其必貴。夫人又問曰：「此汝百年事。如能啜糠覈也，即為汝允之。」女俯首久之，顧壁而答

曰：「貧富命也。倘命之厚則貧無幾時，而不貧者無窮期矣。或命之薄，彼錦繡王孫，其無立錐者豈少哉？是在父母。」初，王之商女也，將以博笑，及聞女言，心不樂曰：「汝欲適張氏耶？」女不答；再問，再不答。怒曰：「賤骨子不長進！欲攜筐作乞人婦，寧不差死！」女漲紅氣結，含涕引去，媒亦遂奔。

青梅見不諧，欲自謀。過數日，夜詣生，生方讀，驚問所來，詞涉吞吐。生正色卻之，梅泣曰：「妾良家子，非淫奔者，徒以君賢，故願自托。」生曰：「卿愛我，謂我賢也。昏夜之行，自好者不為，而謂賢者為之乎？夫始亂之而終成之，君子猶曰不可，況不能成，役此何以自處？」梅曰：「萬一能

成，肯賜援拾否？」生曰：「得人如卿又何求？但有不可如何者三，故不敢輕諾耳。」曰：「若何？」曰：「不能自主，則不可如何；即能自主，我父母不樂，則不可如何；即樂之，而卿之身直必重，我貧不能措，則尤不可如何。卿速退，瓜李之嫌可畏也！」梅臨去，又囑曰：「倘君有意，乞共圖之。」生諾。

梅歸，女詰所往，遂跪而自投。女怒其淫奔，將施撲責。梅泣白無他，因以實告。女嘆曰：「不苟合，禮也；必告父母，孝也；不輕然諾，信也；有此三德，天必祐之，其無患貧也已。」既而曰：「子將若何？」曰：「嫁之。」女笑曰：「癡婢能自主乎？」曰：「不濟，則以死繼之。」女曰：「我必如所

願。」梅稽首而拜之。又數日謂女曰：「曩而言之戲乎，抑果欲慈悲耶？果爾，尚有微情，並祈垂憐焉。」女問之，答曰：「張生不能致聘，婢又無力可以自贖，必取盈焉，嫁我猶不嫁也。」女沉吟曰：「是非我之能為力矣。我曰嫁且恐不得當，而曰必無取直焉，是大人所必不允，亦余所不敢言也。」梅聞之泣下，但求憐拯，女思良久，曰：「無已，我私蓄數金，當傾囊相助。」梅拜謝，因潛告張。張母大喜，多方乞貸，共得如乾數，藏待好音。會王授曲沃宰，喜乘間告母曰：「青梅年已長，今將蒞任，不如遣之。」夫人固以青梅太黠，恐導女不義，每欲嫁之，而恐女不樂也，聞女言甚喜。逾兩日，有傭保婦白張氏意，王笑曰：「是只合偶婢子，前

此何妄也！然鬻媵高門，價當倍於曩昔。」女急進曰：「青梅待我久，賣為妾，良不忍。」王乃傳語張氏，仍以原金署券，以青梅嬪於生。

入門孝翁姑，曲折承順，尤過於生，而操作更勤，饜糠秕不為苦。由是家中無不愛重青梅。梅又以刺繡作業，售且速，賈人候門以購，惟恐弗得。得資稍可御窮。且勸勿以內顧誤讀，經紀皆自任之。因主人之任，往別阿喜。喜見之，泣曰：「子得所矣，我固不如。」梅曰：「是何人之賜，而敢忘之？然以為不如婢子，是促婢子壽。」遂泣相別。

王如晉半載，夫人卒，停柩寺中。又二年，王坐行賅免，罰贖萬計，漸貧不能自給，從者逃散。是時疫大作，王染疾卒。

惟一媪從女，未幾媪亦卒，女伶仃益苦。有鄰媪勸之嫁，女曰：「能為我雙葬親者，從之。」媪憐之，贈以斗米而去。半月復來，曰：「我為娘子極力，事難合也：貧者不能為葬，富者又嫌子為陵夷嗣。奈何！尚有一策，但恐不能從也。」女曰：「若何？」曰：「此間有李郎欲覓側室，倘見姿容，即遣厚葬，必當不惜。」女大哭曰：「我搢紳裔而為人妾耶！」媪無言遂去，日僅一餐，延息待賈，居半年益不可支。一日媪至，女泣告曰：「困頓如此，每欲自盡，猶戀戀而苟活者，徒以有兩柩在。已將轉溝壑，誰收親骨者？故思不如依汝言也。」媪即導李來，微窺女，大悅。即出金營葬，雙槨具舉。已，

乃載女去，入參塚室。塚室故悍妒，李初未敢言妾，但托買婢。及見女，暴怒，杖逐而出，不聽入門。

女披發零涕，進退無所。有老尼過，邀與同居，喜從之。至庵中拜求祝發，尼不可，曰：「我視娘子非久臥風塵者，庵中陶器脫粟粗可自支，姑寄此以待之。時至，子自去。」居無何，市中無賴窺女美，每打門游語為戲，尼不能止。女號泣欲自盡。尼往求吏部某公揭示嚴禁，惡少始稍斂跡。後有夜穴寺壁者，尼驚呼始去。因復告吏部，捉得首惡者，送郡答責，始漸安。又年餘有貴公子過，見女驚絕，強尼通殷勤，又以厚賂啖尼。尼婉語之曰：「渠簪纓胃，不甘媵御。公子且歸，遲遲當有以報命。」既去，女欲乳藥死。夜夢父來，疾

道曰：「我不從汝志，致汝至此，悔之已晚。但緩須臾勿死，夙願尚可復酬。」女異之。天明盥已，尼望之而驚曰：「睹子面濁氣盡消，橫逆不足憂也。福且至，勿忘老身。」語未既聞扣戶聲。女失色，意必貴家奴。尼啟扉果然。驟問所謀，尼笑語承迎，但請緩以三日。奴述主言，事若無成，俾尼自復命。尼唯唯敬應，謝令去。女大悲，又欲自盡，尼止之。女慮三日復來，無詞可應。尼曰：「有老身在，斬殺自當之。」

次日方晡，暴雨翻盆，忽聞數人搥戶大嘩。女意變作，驚怯不知所為。尼冒雨啟關，見有肩輿停駐，女奴數輩捧一麗人出，僕從煊赫，冠蓋甚都。驚問之，云：「是司李內眷，暫避風雨。」導入殿中，移榻肅坐。家人婦群奔禪房，各尋休

憩。入室見女，艷之，走告夫人。無何雨息，夫人起，請窺禪室。尼引入，睹女艷絕，凝眸不瞬，女亦顧盼良久。夫人非他，蓋青梅也。各失聲哭，因道行蹤，蓋張翁病故，生起復後，連捷授司李。生先奉母之任，後移諸眷口。女嘆曰：「今日相看，何啻霄壤！」梅笑曰：「幸娘子挫折無偶，天正欲我兩人完聚耳。倘非阻雨，何以有此邂逅？此中具有鬼神，非人力也。」乃取珠冠錦衣，催女易妝。女俯首徘徊，尼從中贊勸。女慮同居其名不順，梅曰：「昔日自有定分，婢子敢忘大德！試思張郎，豈負義者？」強妝之，別尼而去。抵任，母子皆喜。女拜曰：「今無顏見母。」母笑慰之。因謀涓吉合卺，女曰：「庵中但有一絲生路，亦不肯從夫人至此。倘

念舊好，得受一廬，可容蒲團足矣。」梅笑而不言。及期抱艷妝來，女左右不知所可。俄聞樂鼓大作，女亦無以自主。梅率婢媪強衣之，挽扶而出，見生朝服而拜，遂不覺盈盈而自拜也。梅曳入洞房，曰：「虛此位以待君久矣。」又顧生曰：「今夜得報恩，可好為之。」返身欲去。女捉其裾，梅笑曰：「勿留我，此不能相代也。」解指脫去。

青梅事女謹，莫敢當夕，而女終漸沮不自安。於是母命相呼以夫人。梅終執婢妾禮罔敢懈。三年張行取入都，過庵，以五百金為尼壽，尼不受，強之，乃受二百金，起大士祠，建王夫人碑。後張仕至侍郎。程夫人舉二子一女，王夫人四子一女。張上書陳情，俱封夫人。

異史氏曰：「天生佳麗，固將以報名賢，而世俗之王公，乃留以贈褲褲，此造物所必爭也。而離離奇奇，致作合者無限經營，化工亦良苦矣。獨是青夫人能識英雄於塵埃，誓嫁之志，期以必死，曾儼然而冠裳也者，顧棄德行而求膏粱，何智出婢子下哉！」

#### 四、五、羅刹海市

馬驥字龍媒，賈人子，美豐姿，少倜儻，喜歌舞。輒從梨園子弟，以錦帕纏頭，美如好女，因復有「俊人」之號。十四歲入郡庠，即知名。父衰老罷賈而歸，謂生曰：「數卷書，饑不可煮，寒不可衣，吾兒可仍繼父賈。」馬由是稍稍權子母。

從人浮海，為颶風引去，數晝夜至一都會。其人皆奇醜，見馬至，以為妖，群嘩而走。馬初見其狀，大懼，迨知國中之駭已也，遂反以此欺國人。遇飲食者則奔而往，人驚遁，則啜其餘。久之入山村，其間形貌亦有似人者，然襤褸如丐。馬息樹下，村人不敢前，但遙望之。久之覺馬非噬人者，始稍稍近就之。馬笑與語，其言雖異，亦半可解。馬遂自陳所自，村人喜，遍告鄰里，客非能搏噬者。然奇醜者望望即去，終不敢前；其來者，口鼻位置，尚皆與中國同，共羅漿酒奉馬，馬問其相駭之故，答曰：「嘗聞祖父言：西去二萬六千里，有中國，其人民形象率詭異。但耳食之，今始信。」問其何貧，曰：「我國所重，不在文章，而在形貌。其美之極

者，為上卿；次任民社；下焉者，亦邀貴人寵，故得鼎烹以養妻子。若我輩初生時，父母皆以為不祥，往往置棄之，其不忍遽棄者，皆為宗嗣耳。」問：「此名何國？」曰：「大羅刹國。都城在北去三十里。」馬請導往一觀。於是雞鳴而興，引與俱去。

天明，始達都。都以黑石為墻，色如墨，樓閣近百尺。然少瓦。覆以紅石，拾其殘塊磨甲上，無異丹砂。時值朝退，朝中有冠蓋出，村人指曰：「此相國也。」視之，雙耳皆背生，鼻三孔，睫毛覆目如簾。又數騎出，曰：「此大夫也。」以次各指其官職，率猙獰怪異。然位漸卑，醜亦漸殺。無何，馬歸，街衢人望見之，噪奔跌蹶，如逢怪物。村人百口解說，市人

始敢遙立。既歸，國中咸知有異人，於是搢紳大夫，爭欲一廣見聞，遂令村人要馬。每至一家，闔人輒闔戶，丈夫女子竊竊自門隙中窺語，終一日，無敢延見者。村人曰：「此間一執戟郎，曾為先王出使異國，所閱人多，或不以子為懼。」造郎門。郎果喜，揖為上客。視其貌，如八九十歲人。目睛突出，須卷如蝟。曰：「僕少奉王命出使最多，獨未至中華。今一百二十餘歲，又得見上國人物，此不可不上聞於天子。然臣臥林下，十餘年不踐朝階，早旦為君一行。」乃具飲饌，修主客禮。酒數行，出女樂十餘人，更番歌舞。貌類夜叉，皆以白錦纏頭，拖朱衣及地。扮唱不知何詞，腔拍恢詭。主人顧而樂之。問：「中國亦有此樂乎？」曰：「有」。主人請

擬其聲，遂擊桌為度一曲。主人喜曰：「異哉！聲如鳳鳴龍嘯，從未會聞。」

翼日趨朝，薦諸國王。王忻然下詔，有二三大夫言其怪狀，恐驚聖體，王乃止。郎出告馬，深為扼腕。居久之，與主人飲而醉，把劍起舞，以煤塗面作張飛。主人以為美，曰：「請君以張飛見宰相，厚祿不難致。」馬曰：「遊戲猶可，何能易面目圖榮顯？」主人強之，馬乃諾。主人設筵，邀當路者，令馬繪面以待。客至，呼馬出見客。客訝曰：「異哉！何前媿而今妍也！」遂與共飲，甚歡。馬婆娑歌「弋陽曲」，一座無不傾倒。明日交章薦馬，王喜，召以旌節。既見，問中國治安之道，馬委曲上陳，大蒙嘉嘆，賜宴離宮。酒酣，王

曰：「聞卿善雅樂，可使寡人得而聞之乎？」馬即起舞，亦效白錦纏頭，作靡靡之音。王大悅，即日拜下大夫。時與私宴，恩寵殊異。久而官僚知其面目之假，所至，輒見人耳語，不甚與款洽。馬至是孤立，怡然不自安。遂上疏乞休致，不許；又告休沐，乃給三月假。

於是乘傳載金寶，復歸村。村人膝行以迎。馬以金資分給舊所與交好者，歡聲雷動。村人曰：「吾儕小人受大夫賜，明日赴海市，當求珍玩以報。」問：「海市何地？」曰：「海中市，四海鮫人，集貨珠寶。四方十二國，均來貿易。中多神人游戲。雲霞障天，波濤間作。貴人自重，不敢犯險阻，皆以金帛付我輩代購異珍。今其期不遠矣。」問所自知，曰：「每見

海上朱鳥往來，七日即市。」馬問行期，欲同游矚，村人勸使自貴。馬曰：「我顧滄海客，何畏風濤？」未幾，果有踵門寄資者，遂與裝資入船。船容數十人，平底高欄。十人搖櫓，激水如箭。凡三日，遙見水雲幌漾之中，樓閣層疊，貿遷之舟，紛集如蟻。少時抵城下，視牆上磚皆長與人等，敵樓高接雲漢。維舟而入，見市上所陳，奇珍異寶，光明射目，多人世所無。

一少年乘駿馬來，市人盡奔避，云是「東洋三世子。」世子過，目生曰：「此非異域人。」即有前馬者來詰鄉籍。生揖道左，具展邦族。世子喜曰：「既蒙辱臨，緣分不淺！」於是授生騎，請與連轡。乃出西城，方至島岸，所騎嘶躍入水。生

大駭失聲。則見海水中分，屹如壁立。俄睹宮殿，玳瑁為梁，魴鱗作瓦，四壁晶明，鑒影炫目。下馬揖入。仰視龍君在上，世子啟奏：「臣游市塵，得中華賢士，引見大王。」生前拜舞。龍君乃言：「先生文學士，必能衙官屈、宋。欲煩椽筆賦『海市』，幸無吝珠玉。」生稽首受命。授以水晶之硯，龍鬣之毫，紙光似雪，墨氣如蘭。生立成千餘言，獻殿上。龍君擊節曰：「先生雄才，有光水國矣！」遂集諸龍族，宴集採霞宮。酒炙數行，龍君執爵向客曰：「寡人所憐女，未有良匹，願累先生。先生倘有意乎？」生離席愧荷，唯唯而已。龍君顧左右語。無何，宮女數人扶女郎出，佩環聲動，鼓吹暴作，拜竟睨之，實仙人也。女拜已而去。少時酒罷，雙鬟挑畫燈，

導生入副宮，女濃妝坐伺。珊瑚之床飾以八寶，帳外流蘇綴明珠如斗大，衾褥皆香軟。天方曙，雛女妖鬟，奔入滿側。生起，趨出朝謝。拜為駙馬都尉。以其賦馳傳諸海。諸海龍君，皆專員來賀，爭折簡招駙馬飲。生衣繡裳，坐青虯，呵殿而出。武士數十騎，背雕弧，荷白楛，晃耀填擁。馬上彈箏，車中奏玉。三日間，遍歷諸海。由是「龍媒」之名，噪於四海。宮中有玉樹一株，圍可合抱，本瑩澈如白琉璃，中有心淡黃色，稍細於臂，葉類碧玉，厚一錢許，細碎有濃陰。常與女嘯詠其下。花開滿樹，狀類蒼葡。每一瓣落，鏘然作響。拾視之，如赤瑙雕鏤，光明可愛。時有異鳥來鳴，毛金碧色，尾長於身，聲等哀玉，惻人肺腑。生聞之，輒念故土。

因謂女曰：「亡出三年，恩慈間阻，每一念及，涕膺汗背。卿能從我歸乎？」女曰：「仙塵路隔，不能相依。妾亦不忍以魚水之愛，奪膝下之歡。容徐謀之。」生聞之，涕不自禁。女亦嘆曰：「此勢之不能兩全者也！」明日，生自外歸。龍王曰：「聞都尉有故土之思，詰旦趣裝，可乎？」生謝曰：「逆旅孤臣，過蒙優寵，銜報之思，結於肺腑。容暫歸省，當圖復聚耳。」入暮，女置酒話別。生訂後會，女曰：「情緣盡矣。」生大悲，女曰：「歸養雙親，見君之孝，人生聚散，百年猶旦暮耳，何用作兒女哀泣？此後妾為君貞，君為妾義，兩地同心，即伉儷也，何必旦夕相守，乃謂之偕老乎？若渝此盟，婚姻不吉。倘慮中饋乏人，納婢可耳。更有一事相囑：

自奉衣裳，似有佳朕，煩君命名。」生曰：「其女耶可名龍宮，男耶可名福海。」女乞一物為信，生在羅刹國所得赤玉蓮花一對，出以授女。女曰：「三年後四月八日，君當泛舟南島，還君體胤。」女以魚革為囊，實以珠寶，授生曰：「珍藏之，數世吃著不盡也。」天微明，王設祖帳，饋遺甚豐。生拜別出宮，女乘白羊車。送諸海涘。生上岸下馬，女致聲珍重，回車便去，少頃便遠，海水復合，不可復見。生乃歸。

自浮海去，家人無不謂其已死；及至家人皆詫異。幸翁媪無恙，獨妻已去帷。乃悟龍女「守義」之言，蓋已先知也。父欲為生再婚，生不可，納婢焉。謹志三年之期，泛舟島中。見兩兒坐在水面，拍流嬉笑，不動亦不沉。近引之，兒啞然

捉生臂，躍入懷中。其一大啼，似嗔生之不援己者。亦引上之。細審之，一男一女，貌皆俊秀。額上花冠綴玉，則赤蓮在焉。背有錦囊，拆視，得書云：「翁姑俱無恙。忽忽二年，紅塵永隔；盈盈一水，青鳥難通，結想為夢，引領成勞。茫茫藍蔚，有恨如何也！顧念奔月姮娥，且虛桂府；投梭織女，猶悵銀河。我何人斯，而能永好？興思及此，輒復破涕為笑。別後兩月，竟得孿生。今已啁啾懷抱，頗解言笑；覓棗抓梨，不母可活。敬以還君。所貽赤玉蓮花，飾冠作信。膝頭抱兒時，猶妾在左右也。聞君克踐舊盟，意願斯慰。妾此生不二，之死靡他。奩中珍物，不蓄蘭膏；鏡裏新妝，久辭粉黛。君似征人，妾作蕩婦，即置而不御，亦何得謂非琴

瑟哉？獨計翁姑已得抱孫，曾未一覲新婦，揆之情理，亦屬缺然。歲後阿姑窀穸，當往臨穴，一盡婦職。過此以往，則『龍宮』無恙，不少把握之期；『福海』長生，或有往還之路。伏惟珍重，不盡欲言。」生反覆省書攬涕。兩兒抱頸曰：「歸休乎！」生益慟撫之，曰：「兒知家在何許？」兒啼，嘔啞言歸。生視海水茫茫，極天無際，霧鬢人渺，煙波路窮。抱兒返棹，悵然遂歸。

生知母壽不永，周身物悉為預具，墓中植松檟百餘。逾歲，媪果亡。靈輿至殯宮，有女子縗經臨穴。眾驚顧，忽而風激雷轟，繼以急雨，轉瞬已失所在。松柏新植多枯，至是皆活。福海稍長，輒思其母，忽自投入海，數日始還。龍宮以女子

不得往，時掩戶泣。一日晝暝，龍女急入，止之曰：「兒自成家，哭泣何為？」乃賜八尺珊瑚一株，龍腦香一帖，明珠百粒，八寶嵌金合一雙，為嫁資。生聞之突入，執手啜泣。俄頃，迅雷破屋，女已無矣。

異史氏曰：「花面逢迎，世情如鬼。嗜痂之癖，舉世一轍。『小慚小好，大慚大好』。若公然帶須眉以游都市，其不駭而走者蓋幾希矣！彼陵陽癡子，將抱連城玉向何處哭也？嗚呼！顯榮富貴，當於蜃樓海市市中求之耳！」

四、六、田七郎

武承休，遼陽人，喜交游，所與皆知名士。夜夢一人告之曰：「子交游遍海內，皆濫交耳。惟一人可共患難，何反不識？」問：「何人？」曰：「田七郎非與？」醒而異之。詰朝見所游，輒問七郎。客或識為東村業獵者，武敬謁諸家，以馬箠搗門。未幾一人出，年二十餘，顴目蜂腰，著膩恰，衣皂犢鼻，多白補綴，拱手於額而問所自。武展姓氏，且托途中不快，借廬憩息。問七郎，答曰：「我即是也。」遂延客入。見破屋數椽，木岐支壁。入一小室，虎皮狼蛻，懸布檻間，更無机榻可坐，七郎就地設皋比焉。武與語，言詞樸質，大悅之。遽貽金作生計，七郎不受；固予之，七郎受以

白母。俄頃將還，固辭不受。武強之再四，母龍鐘而至，厲色曰：「老身止此兒，不欲令事貴客！」武慚而退。歸途展轉，不解其意。適從人於室後聞母言，因以告武。先是，七郎持金白母，母曰：「我適睹公子有晦紋，必罹奇禍。聞之：受人知者分人憂，受人恩者急人難。富人報人以財，貧人報人以義。無故而得重賂，不祥，恐將取死報於子矣。」武聞之，深嘆母賢，然益傾慕七郎。翼日設筵招之，辭不至。武登其堂，坐而索飲。七郎自行酒，陳鹿脯，殊盡情禮。越日武邀酬之，乃至。款洽甚歡。贈以金，即不受。武托購虎皮，乃受之。歸視所蓄，計不足償，思再獵而後獻之。入山三日，無所獵獲。會妻病，守視湯藥，不遑操業。浹旬妻淹

忽以死，為營齋葬，所受金稍稍耗去。武親臨唁送，禮儀優渥。既葬，負弩山林，益思所以報武。武探得其故，輒勸勿亟。切望七郎姑一臨存，而七郎終以負債為憾，不肯至。武因先索舊藏，以速其來。七郎檢視故革，則蠹蝕殃敗，毛盡脫，懊喪益甚。武知之，馳行其庭，極意慰解之。又視敗革，曰：「此亦復佳。僕所欲得，原不以毛。」遂軸葑出，兼邀同往。七郎不可，乃自歸。七郎終以不足報武為念，裹糧入山，凡數夜，忽得一虎，全而饋之。武喜，治具，請三日留，七郎辭之堅，武鍵庭戶使不得出。賓客見七郎樸陋，竊謂公子妄交。武周旋七郎，殊異諸客。為易新服卻不受，承其寐而潛易之，不得已而受。既去，其子奉媪命，返新衣，索其敝

襖。武笑曰：「歸語老姥，故衣已拆作履襯矣。」自是。七郎以免鹿相貽，召之即不復至。武一日詣七郎，值出獵未返。媪出，跨閭而語曰：「再勿引致吾兒，大不懷好意！」武敬禮之，慚而退。半年許，家人忽白：「七郎為爭獵豹，毆死人命，捉將官裏去。」武大驚，馳視之，已械收在獄。見武無言，但云：「此後煩惱老母。」武慘然出，急以重金賂邑宰，又以百金賂仇主。月餘無事，釋七郎歸。母慨然曰：「子發膚受之武公子耳，非老身所得而愛惜者。但祝公子百年無災患，即兒福。」七郎欲詣謝武，母曰：「往則往耳，見武公子勿謝也。小恩可謝，大恩不可謝。」七郎見武，武溫言慰藉，七郎唯唯。家人咸怪其疏，武喜其誠篤，厚遇之，由是恆數

日留公子家。饋遺輒受，不復辭，亦不言報。會武初度，賓從煩多，夜舍履滿。武偕七郎臥斗室中，三僕即床下臥。二更向盡，諸僕皆睡去，兩人猶刺刺語。七郎背劍掛壁間，忽自騰出匣數寸，錚錚作響，光閃爍如電。武驚起，七郎亦起，問：「床下臥者何人？」武答：「皆廝僕。」七郎曰：「此中必有惡人。」武問故，七郎曰：「此刀購諸異國，殺人未嘗濡縷，迄佩三世矣。決首至千計，尚如新發於硯。見惡人則鳴躍，當去殺人不遠矣。公子宜親君子，遠小人，或萬一可免。」武頷之。七郎終不樂，輾轉床席。武曰：「災祥數耳，何憂之深？」七郎曰：「我別無恐怖，徒以有老母在。」武曰：「何遽至此？」七郎曰：「無則更佳。」

蓋床下三人：一為林兒，是老彌子，能得主人歡；一僮僕，年十二三，武所常役者；一李應，最拗拙，每因細事與公子裂眼爭，武恆怒之。當夜默念，疑此人。詰旦喚至，善言絕令去。武長子紳，娶王氏。一日武出，留林兒居守。齋中菊花方燦，新婦意翁出，齋庭當寂，自詣摘菊。林兒突出勾戲，婦欲遁，林兒強挾入室。婦啼拒，色變聲嘶。紳奔入，林兒始釋手逃去。武歸聞之，怒覓林兒，竟已不知所之。過二三日，始知其投身某御史家。某官都中，家務皆委決於弟。武以同袍義，致書索林兒，某弟竟置不發。武益恚，質詞邑宰。勾牒雖出，而隸不捕，官亦不問。武方憤怒，適七郎至。武曰：「君言驗矣。」因與告訴。七郎顏色慘變，終無一語，即

徑去。武囑乾僕邏察林兒。林兒夜歸，為邏者所獲，執見武。武掠楚之，林兒語侵武。武叔恆，故長者，恐侄暴怒致禍。勸不如治以官法。武從之，繫赴公庭。而御史家刺書郵至，宰釋林兒，付紀綱以去。林兒意益肆，倡言叢眾中，誣主人婦與私。武無奈之，忿塞欲死。馳登御史門，俯仰叫罵，里舍慰勸令歸。

逾夜，忽有家人白：「林兒被人鬻割，拋尸曠野間。」武驚喜，意稍得伸。俄聞御史家訟其叔侄，遂偕叔赴質。宰不聽辨。欲答恆。武抗聲曰：「殺人莫須有！至辱詈搢紳，則生實為之，無與叔事。」宰置不聞。武裂眦欲上，群役禁掙之。操杖隸皆紳家走狗，恆又老耄，簽數未半，奄然已死。宰見武叔

垂斃，亦不復究。武號且罵，宰亦若弗聞者。遂舁叔歸，哀憤無所為計。因思欲得七郎謀，而七郎終不一吊問。竊自念待伊不薄，何遽如行路人？亦疑殺林兒必七郎。轉念果爾，胡得不謀？於是遣人探索其家，至則扃鑰寂然，鄰人並不知耗。

一日，某弟方在內廨，與宰關說，值晨進薪水，忽一樵人至前，釋擔抽利刃直奔之。某惶急以手格刃，刃落斷腕，又一刀始決其首。宰大驚，竄去。樵人猶張皇四顧。諸役吏急闔署門，操杖疾呼。樵人乃自剄死。紛紛集認，識者知為田七郎也。宰驚定，始出驗，見七郎殭臥血泊中，手猶握刃。方停蓋審視，尸忽突然躍起，竟決宰首，已而復踣。衙官捕其

母子，則亡去已數日矣。武聞七郎死，馳哭盡哀。咸謂其主使七郎，武破產夤緣當路，始得免。七郎尸棄原野月餘，禽犬環守之。武厚葬之。其子流寓於登，變姓為佟。起行伍，以功至同知將軍。歸遼，武已八十餘，乃指示其父墓焉。

異史氏曰：「一錢不輕受，正一飯不敢忘者也。賢哉母乎！七郎者，憤未盡雪，死猶伸之，抑何其神？使荊卿能爾，則千載無遺恨矣。苟有其人，可以補天網之漏。世道茫茫，恨七郎少也。悲夫！」

四、七、產龍

壬戌間，邑邢村李氏婦，夫死，有遺腹，忽脹如甕，忽束如握。臨蓐，一晝夜不能產。視之，見龍首，一見輒縮去。家人懼，有王媪者焚香禹步，且捺且咒。未幾胞墮，不復見龍，惟數鱗大如盞。繼下一女，肉瑩徹如晶，臟腑可數。

四、八、保住

吳藩未叛時，嘗諭將士：有獨力能擒一虎者，優以廩祿，號「打虎將」。將中一人名保住，健捷如猿。邸中建高樓，梁木初架。住沿樓角而登，頃刻至顛，立脊檁上疾趨而行，凡三四返；已，乃躡身躍下，直立挺然。

王有愛姬善琵琶，所御琵琶，以暖玉為牙柱，抱之一室生溫，姬寶藏，非王手諭不出示人。一夕宴集，客請一觀其異。王適惰，期以翼日。時住在側，曰：「不奉王命，臣能取之。」王使人馳告府中，內外戒備，然後遣之。住逾十數重垣，始達姬院，見燈輝室中，而門扃錮，不得入。廊下有鸚鵡宿架上，住乃作貓子叫，既而學鸚鵡鳴，疾呼「貓來」。擺撲之聲且急，聞姬云：「綠奴可急視，鸚鵡被撲殺矣！」住隱身暗處。俄一女子挑燈出，身甫離門，住已塞入。見姬守琵琶在幾上，住攜趨出。姬愕呼「寇至」，防者盡起。見住抱琵琶走，逐之不及，攢矢如雨。住躍登樹上，墻下故有大槐三十餘章，住穿樹行杪，如鳥移枝。樹盡登屋，屋盡登樓，飛奔

殿閣，不啻翹翎，瞥然不知所在。客方飲，住抱琵琶飛落簷前，門扃如故，雞犬無聲。

#### 四、九、公孫九娘

於七一案，連坐被誅者，棲霞、萊陽兩縣最多。一日俘數百人，盡戮於演武場中，碧血滿地，白骨撐天。上官慈悲，捐給棺木，濟城工肆，材木一空。以故伏刑東鬼，多葬南郊。甲寅間，有萊陽生至稷下，有親友二三人亦在誅數，因市楮帛，酌奠榛墟，就稅舍於下院之僧。明日，入城營干，日暮未歸。忽一少年，造室來訪。見生不在，脫帽登床，著履仰臥。僕人問其誰，合眸不對。既而生歸，則暮色朦朧，不甚可辨。

自詣床下問之，瞠目曰：「我候汝主人，絮絮逼問，我豈暴客耶！」生笑曰：「主人在此。」少年即起著冠，揖而坐，極道寒暄，聽其音，似曾相識。急呼燈至，則同邑朱生，亦死於七之難者。大駭卻走，朱曳之云：「僕與君文字之交，何寡於情？我雖鬼，故人之念，耿耿不忘。今有所瀆，願無以異物猜薄之。」生乃坐，請所命。曰：「令女甥寡居無偶，僕欲得主中饋。屢通媒約，輒以無尊長命為辭。幸無惜齒牙餘惠。」先是，生有女甥，早失恃，遺生鞠養，十五始歸其家。俘至濟南，聞父被刑，驚而絕。生曰：「渠自有父，何我之求？」朱曰：「其父為猶子啟櫬去，今不在此。」問：「女甥向依阿誰？」曰：「與鄰媪同居。」生慮生人不能作鬼媒。朱

曰：「如蒙金諾，還屈玉趾。」遂起握生手，生固辭，問：「何之？」曰：「第行。」勉從與去。

北行里許，有大村落，約數十百家。至一第宅，朱以指彈扉，即有媪出，豁開兩扉，問朱：「何為？」曰：「煩達娘子，云阿舅至。」媪旋反，頃復出，邀生入，顧朱曰：「兩椽茅舍子大隘，勞公子門外少坐候。」生從之入。見半畝荒庭，列小室二。甥女迎門啜泣，生亦泣，室中燈火熒然。女貌秀潔如生，凝目含涕，遍問姪姑。生曰：「具各無恙，但荊人物故矣。」女又嗚咽曰：「兒少受舅姪撫育，尚無寸報，不圖先葬溝瀆，殊為恨恨。舊年伯伯家大哥遷父去，置兒不一念，數百里外，伶仃如秋燕。舅不以沉魂可棄，又蒙賜金帛，兒已

得之矣。」生以朱言告，女俯首無語。媪曰：「公子曩托楊姥三五返，老身謂是大好。小娘子不肯白草草，得舅為政，方此意慊得。」言次，一十七八女郎，從一青衣遽掩入，瞥見生。轉身欲遁。女牽其裾曰：「勿須爾！是阿舅。」生揖之。女郎亦斂衽。甥曰：「九娘，棲霞公孫氏。阿爹故家子，今亦『窮波斯』，落落不稱意。旦晚與兒還往。」生睨之，笑彎秋月，羞暈朝霞，實天人也。曰：「可知是大家，蝸廬人焉得如此娟好！」甥笑曰：「且是女學士，詩詞俱大高作。昨兒稍得指教。」九娘微哂曰：「小婢無端敗壞人，教阿舅齒冷也。」甥又笑曰：「舅斷弦未續，若個小娘子，頗能快意否？」九娘笑奔出，曰：「婢子顛瘋作也！」遂去，言雖近戲，

而生殊愛好之，甥似微察，乃曰：「九娘才貌無雙，舅倘不以糞壤致猜，兒當請諸其母。」生大悅，然慮人鬼難匹。女曰：「無傷，彼與舅有夙分。」生乃出。女送之，曰：「五日後，月明人靜，當遣人往相迓。」生至戶外，不見朱。翹首西望。月銜半規，昏黃中猶認舊徑。見南面一第，朱坐門石上，起逆曰：「相待已久，寒舍即勞垂顧。」遂攜手入，殷殷展謝。出金爵一、晉珠百枚，曰：「他無長物，聊代禽儀。」既而曰：「家有濁醪，但幽室之物，不足款嘉賓，奈何！」生攜謝而退。朱送至中餘，始別。

生歸，僧僕集問，隱之曰：「言鬼者妄也，適友人飲耳。」後五日，朱果來，整履搖箠，意甚欣。方至戶，望塵即拜。笑

曰：「君嘉禮既成，慶在旦夕，便煩枉步。」生日：「以無回音，尚未致聘，何遽成禮？」朱曰：「僕已代致之。」生深感荷，從與俱去。直達臥所，則女甥華妝迎笑。生問：「何時於歸？」女曰：「三日矣。」朱乃出所贈珠，為甥助妝。女三辭乃受，謂生日：「兒以舅意白公孫老夫人，夫人作大歡喜。但言老耄無他骨肉，不欲九娘遠嫁，期今夜舅往贅諸其家。伊家無男子，便可同郎往也。」朱乃導去。村將盡，一第門開，二人登其堂。俄白：「老夫人至。」有二青衣扶嫗升階。生欲展拜，夫人云：「老朽龍鐘，不能為禮，當即脫邊幅。」指畫青衣，進酒高會。朱乃喚家人，另出肴俎，列置生前；

亦別設一壺，為客行觴。筵中進饌，無異人世。然主人自舉，殊不勸進。

既而席罷，朱歸。青衣導生去，入室，則九娘華燭凝待。邂逅含情，極盡歡暱。初，九娘母子，原解赴都。至郡，母不堪困苦死，九娘亦自剄。枕上追述往事，哽咽不成眠。乃口占兩絕云：「昔日羅裳化作塵，空將業果恨前身。十年露冷楓林月，此夜初逢畫閣春。」「白楊風雨繞孤墳，誰想陽臺更作雲？忽啟鏤金箱裏看，血腥猶染舊羅裙。」天將明，即促曰：「君宜且去，勿驚廝僕。」自此晝來宵往，劈惑殊甚。

一夕問九娘：「此村何名？」曰：「萊霞裏。里中多兩處新鬼，因以為名。」生聞之歛歔。女悲曰：「千里柔魂，蓬游無底，

母子零孤，言之愴惻。幸念一夕恩義，收兒骨歸葬墓側，使百年得所依棲，死且不朽。」生諾之。女曰：「人鬼路殊，君不宜久滯。」乃以羅襪贈生，揮淚促別。生淒然出，怛不忍歸。因過叩朱氏之門。朱白足出逆；甥亦起，雲鬢籠松，驚來省問。生惆悵移時，始述九娘語。女曰：「姪氏不言，兒亦夙夜圖之。此非人世，不可久居」。於是相對汝瀾，生亦含涕而別。叩寓歸寢，展轉申旦。欲覓九娘之墓，則忘問志表。及夜復往，則千墳累累，竟迷村路，嘆恨而返。展視羅襪，著風寸斷，腐如灰燼，遂治裝東旋。

半載不能自釋，復如稷門，冀有所遇。及抵南郊，日勢已晚，息樹下，趨詣叢葬所。但見墳兆萬接，迷目榛荒，鬼火狐鳴，

駭人心目。驚悼歸舍。失意遨遊，返轡遂東。行里許，遙見一女立丘墓上，神情意致，怪似九娘。揮鞭就視，果九娘。下與語，女徑走，若不相識。再逼近之，色作怒，舉袖自障。頓呼「九娘」，則煙然滅矣。

異史氏曰：「香草沉羅，血滿胸臆；東山佩玦，淚漬泥沙。古有孝子忠臣，至死不諒於君父者。公孫九娘豈以負骸骨之托，而怨懟不釋於中耶？脾膈間物，不能掬以相示，冤乎哉！」

#### 四、十、促織

宣德間，宮中尚促織之戲，歲徵民間。此物故非西產。有華陰令，欲媚上官，以一頭進，試使鬥而才，因責常供。令以責之里正。

市中游俠兒，得佳者籠養之，昂其直，居為奇貨。里胥猾黠，假此科斂丁口，每責一頭，輒傾數家之產。

邑有成名者，操童子業，久不售。為人迂訥，遂為猾胥報充里正役，百計營謀不能脫。不終歲，薄產累盡。會征促織，成不敢斂戶口，而又無所賠償，憂悶欲死。妻曰：「死何益？不如自行搜覓，冀有萬一之得。」成然之。早出暮歸，提竹

筒銅絲籠，於敗堵叢草處探石發穴，靡計不施，迄無濟。即捕三兩頭，又劣弱，不中于款。宰嚴限追比，旬餘，杖至百，兩股間膿血流離，並蟲不能行捉矣。轉側床頭，惟思自盡。時村中來一駝背巫，能以神卜。成妻具資詣問，見紅女白婆，填塞門戶。入其室，則密室垂簾，簾外設香幾。問者爇香於鼎，再拜。巫從旁望空代祝，唇吻翕闕，不知何詞，各竦立以聽。少間，簾內擲一紙出，即道人意中事，無毫發爽。成妻納錢案上，焚香以拜。食頃，簾動，片紙拋落。拾視之，非字而畫，中繪殿閣類蘭若，後小山下怪石亂臥，針針叢棘，青麻頭伏焉；旁一蟆，若將跳舞。展玩不可曉。然睹促織，隱中胸懷，折藏之，歸以示成。成反復自念：「得

無教我獵蟲所耶？」細矚景狀，與村東大佛閣真逼似。乃強起扶杖，執圖詣寺後，有古陵蔚起。循陵而走，見蹲石鱗鱗，儼然類畫。遂於蒿萊中側聽徐行，似尋針芥，而心、目、耳力俱窮，絕無蹤響。冥搜未已，一癩頭蟆猝然躍去。成益愕，急逐之。蟆入草間，躡跡披求，見有蟲伏棘根，遽撲之，入石穴中。搯以尖草不出，以筒水灌之始出。狀極俊健，逐而得之。審視：巨身修尾，青項金翅。大喜，籠歸，舉家慶賀，雖連城拱璧不啻也。土於盆而養之，蟹白慄黃，備極護愛。留待限期，以塞官責。

成有子九歲，窺父不在，竊發盆，蟲躍躑徑出，迅不可捉。及撲入手，已股落腹裂，斯須就斃。兒懼，啼告母。母聞之，

面色灰死，大罵曰：「業根，死期至矣！翁歸，自與汝復算耳！」兒涕而出。未幾成入，聞妻言如被冰雪。怒索兒，兒渺然不知所往；既而，得其尸於井。因而化怒為悲，搶呼欲絕。夫妻向隅，茅舍無煙，相對默然，不復聊賴。

日將暮，取兒槁葬，近撫之，氣息惻然。喜置榻上，半夜復蘇，夫妻心稍慰。但兒神氣癡木，奄奄思睡，成顧蟋蟀籠虛，則氣斷聲吞，亦不復以兒為念，自昏達曙，目不交睫。東曦既駕，僵臥長愁。忽聞門外蟲鳴，驚起覘視，蟲宛然尚在，喜而捕之。一鳴輒躍去，行且速。覆之以掌，虛若無物；手裁舉，則又超而躍。急趁之，折過墻隅，迷其所往。徘徊四顧，見蟲伏壁上。審諦之，短小，黑赤色，頓非前物。成以

其小，劣之；惟徬徨瞻顧，尋所逐者。壁上小蟲。忽躍落襟袖間，視之，形若土狗，梅花翅，方首長脰，意似良。喜而收之。將獻公堂，惴惴恐不當意，思試之斗以覘之。

村中少年好事者，馴養一蟲，自名「蟹殼青」，日與子弟角，無不勝。欲居之以為利，而高其直，亦無售者。徑造廬訪成。視成所蓄，掩口胡盧而笑。因出己蟲，納比籠中。成視之，龐然修偉，自增慚怍，不敢與較。少年固強之。顧念：蓄劣物終無所用，不如拚博一笑。因合納斗盆。小蟲伏不動，蠢若木雞。少年又大笑。試以豬鬣毛撩撥蟲須，仍不動。少年又笑。屢撩之，蟲暴怒，直奔，遂相騰擊，振奮作聲。俄見

小蟲躍起，張尾伸須，直齧敵領。少年大駭，解令休止。蟲翹然矜鳴，似報主知。成大喜。

方共瞻玩，一雞瞥來，徑進一啄。成駭立愕呼。幸啄不中，蟲躍去尺有咫。雞健進，逐逼之，蟲已在爪下矣。成倉猝莫知所救，頓足失色。旋見雞伸頸擺撲，臨視，則蟲集冠上，力叮不釋。成益驚喜，掇置籠中。

翼日進宰。宰見其小，怒訶成。成述其異，宰不信。試與他蟲斗，蟲盡靡；又試之雞，果如成言。乃賞成，獻諸撫軍。撫軍大悅，以金籠進上，細疏其能。既入宮中，舉天下所貢蝴蝶、螳螂、油利撻、青絲額……一切異狀，遍試之，無出其右者。每聞琴瑟之聲，則應節而舞，益奇之。上大嘉悅，

詔賜撫臣名馬衣緞。撫軍不忘所自，無何，宰以「卓異」聞。宰悅，免成役；又囑學使，俾入邑庠。後歲餘，成子精神復舊，自言：「身化促織，輕捷善鬥，今始蘇耳。」撫軍亦厚賚成。不數歲，田百頃，樓閣萬椽，牛羊蹄躐各千計。一出門，裘馬過世家焉。

異史氏曰：「天子偶用一物，未必不過此已忘；而奉行者即為定例。加之官貪吏虐，民日貼婦賣兒，更無休止。故天子一跬步皆關民命，不可忽也。第成氏子以蠹貧，以促織富，裘馬揚揚。當其為里正、受撲責時，豈意其至此哉！天將以酬長厚者，遂使撫臣、令尹、並受促織恩蔭。聞之：一人飛升，仙及雞犬。信夫！」

四、十一、柳秀才

明季，蝗生青兗間，漸集於沂，沂令憂之。退臥署幕，夢一秀才來謁，峨冠綠衣，狀貌修偉，自言御蝗有策。詢之，答云：「明日西南道上有婦跨碩腹牝驢子，蝗神也。哀之，可免。」令異之。治具出邑南。伺良久，果有婦高髻褐帔，獨控老蒼衛，緩蹇北度。即爇香，捧卮酒，迎拜道左，捉驢不令去。婦問：「大夫將何為？」令便哀求：「區區小治，幸憫脫蝗口。」婦曰：「可恨柳秀才饒舌，洩我密機！當即以其身受，不損禾稼可耳。」乃盡三卮，瞥不復見。

後蝗來飛蔽天日，竟不落禾田，盡集楊柳，過處柳葉都盡。方悟秀才柳神也。或云：「是宰官憂民所感。」誠然哉！

#### 四、十二、水災

康熙二十一年，山東旱，自春徂夏，赤地千里。六月十三日小雨，始種粟。十八日大雨後，乃種豆。一日，石門莊有老叟，暮見二羊鬥山上，告村人曰：「大水至矣！」遂攜家播遷。村人共笑之。無何，雨暴注，平地水深數尺，居廬盡沒。一農人棄其兩兒，與妻扶老母奔避高阜。下視村中，匯為澤國，並不復念及兩兒。水落歸家。一村盡成墟墓，入已門，

則一屋獨存，見兩兒尚並坐床頭，嬉笑無恙。咸嘆謂夫婦孝感所致。此六月二十二日事也。

康熙二十四年，平陽地震，人民死者十有七八。城郭盡墟；僅存一舍，則孝子某家也。茫茫大劫中，惟孝嗣無恙，誰謂天公無皂白耶？

#### 四、十三、諸城某甲

諸城孫景夏學師言：其邑中某甲，值流寇亂，被殺，首墜胸前。寇退，家人得尸，將鼻瘞之，聞其氣縷縷然，審視之，咽不斷者盈指。遂扶其頭荷之以歸。經一晝夜能呻，以匕箸稍哺飲食，半年竟愈，又十餘年，與二三人聚談，或作一解

頤語，眾為哄堂，甲亦鼓掌。一俯仰間，刀痕暴裂，頭墮血流，共視之已死。父訟笑者，眾斂金賂之，乃葬甲。

異史氏曰：「一笑頭落，此千古第一大笑也。頭連一線而不死，直待十年後成一笑獄，豈非二三鄰人，負債前生者耶！」

#### 四、十四、庫官

鄒平張華東，奉旨祭南嶽，道出江淮間，將宿驛亭。前驅白：「驛中有怪異，不可宿。」張弗聽，宵分冠劍而坐，俄聞靴聲入，則一頰白叟，皂紗黑帶。怪而問之，叟稽首曰：「我庫官也。為大人典藏有日矣。幸節鉞遙臨，下官釋此重負。」

問：「庫存幾何？」答云：「二萬二千五百金。」公慮多金累綴，約歸時盤驗，叟唯唯而退。張至南中，饋遺頗豐。及還，宿驛亭，叟復出謁。及問庫物，曰：「已撥遼東兵餉矣。」深訝其前後之乖。叟曰：「人世祿命，皆有額數，錙銖不能增損。大人此行，應得之數已得矣，又何求？」言已竟去。張乃計其所獲，與庫數適相吻合。方嘆飲啄有定，不可妄求也。

#### 四、十五、 鄂都御史

鄂都縣外有洞，深不可測，相傳閻羅署。其中一切獄具，皆借人工。桎梏朽敗，輒擲洞口，邑宰即以新者易之，經宿失所在。供應度支，載之經制。

明有御史行臺華公，按臨鄆都，聞之不以為信，欲入洞以決其惑，眾云不可。公弗聽，乃秉燭入，以二役從。入里許，燭暴滅。視之，階道闊朗，有廣殿十餘間，列坐尊官，袍笏儼然。惟東首虛一座。尊官見公至，降階而迎，笑問曰：「至矣乎？別來無恙否？」公問：「此何處所？」尊官曰：「此冥府也。」公愕然告退。尊官指虛座曰：「此為君坐，那可復還。」公益懼，固請寬宥，尊官曰：「定數何可逃也！」遂檢一卷示公，上注云：「某月日，某以肉身歸陰。」公覽之，戰慄如濯冰水，念母老子幼，泫然流涕。

俄有金甲神人，捧黃帛書至，群拜舞啟讀已，乃賀公曰：「君有回陽之機矣。」公喜致問。曰：「適接帝詔，大赦幽冥，可

為君委折原例耳。」乃示公途而出，數武之外，冥黑如漆，不辨行路，公甚窘苦。忽一神將，軒然而入，赤面長髯，光射數尺。公迎拜而哀之，神人曰：「誦佛經可出。」言已而去。公自計經咒多不記憶，惟《金剛經》頗曾習之，乃合掌而誦，頓覺一線光明，映照前路。偶有遺忘，則目前頓黑，定想移時，復誦復明；乃始得出。其二役，則不可問矣。

#### 四、十六、龍無目

沂水大雨，忽墮一龍，雙睛俱無，奄有氣息。邑令以八十席覆之，未能周身。為設野祭，猶反覆以尾擊地，其聲喑然。

四、十七、狐諧

萬福字子祥，博興人，幼業儒，家貧而運蹇，年二十有奇，尚不能掇一芹。鄉中澆俗，多報富戶役，長厚者至碎破其家。萬適報充役，懼而逃，如濟南，稅居逆旅。夜有奔女，顏色頗麗，萬悅而私之，問姓氏。女自言：「實狐，然不為君崇。」萬喜而不疑。女囑勿與客共，遂日至，與共臥處。凡日用所需，無不仰給於狐。

居無何，二三相識，輒來造訪，恆信宿不去。萬厭之，而不忍拒，不得已以實告客。客願一睹仙容，萬白於狐。狐曰：「見我何為哉？我亦猶人耳。」聞其聲，不見其人。客有孫得言

者，善謔，固請見，且曰：「得聽嬌音，魂魄飛越。何吝容華，徒使人聞聲相思？」狐笑曰：「賢孫子！欲為高曾母作行樂圖耶？」眾大笑。狐曰：「我為狐，請與客言狐典，頗願聞之否？」眾唯唯。狐曰：「昔某村旅舍，故多狐，輒出崇行客。客知之，相戒不宿其舍，半年，門戶蕭索。主人大憂，甚諱言狐。忽有一遠方客，自言異國人，望門休止。主人大悅，甫邀入門，即有途人陰告曰：『是家有狐。』客懼，白主人，欲他徙。主人力白其妄，客乃止。入室方臥，見群鼠出於床下。客大駭，驟奔，急呼：『有狐！』主人驚問。客怒曰：『狐巢於此，何誑我言無？』主人又問：『所見何狀？』客曰：『我今所見，細細么麼，不是狐兒，必當是狐孫子。』」

言罷，座客粲然。孫曰：「既不賜見，我輩留勿去，阻爾陽臺。」狐笑曰：「寄宿無妨。倘有小迂犯，幸勿介懷。」客恐其惡作劇，乃共散去，然數日必一來，索狐笑罵。狐諧甚，每一語即顛倒賓客，滑稽者不能屈也。群戲呼為「狐娘子」。

一日。置酒高會，萬居主人位，孫與二客分左右坐，上設一榻待狐。狐辭不善酒。咸請坐談，許之。酒數行，眾擲骰為瓜蔓之令。客值瓜色，會當飲，戲以觥移上座曰：「狐娘子太清醒，暫借一杯。」狐笑曰：「我故不飲，願陳一典，以佐諸公飲。」孫掩耳不樂聞。客皆曰：「罵人者當罰。」狐笑曰：「我罵狐何如？」眾曰：「可。」於是傾耳共聽。狐曰：「昔一大臣，出使紅毛國，著狐腋冠見國王。王見而異之，問：『何皮毛，

溫厚乃爾？」夫臣以狐對。王曰：「此物生平未曾得聞。狐字字畫何等？」使臣書空而奏曰：「右邊是一大瓜，左邊是一小犬。」主客又復哄堂。二客，陳氏兄弟，一名所見，一名所聞。見孫大窘，乃曰：「雄狐何在，而縱雌狐流毒若此？」狐曰：「適一典談猶未終，遂為群吠所亂，請終之。國王見使臣乘一騾，甚異之。使臣告曰：『此馬之所生。』又大異之。使臣曰：『中國馬生騾，騾主駒駒。』王細問其狀。使臣曰：『馬生騾，是「臣所見」，騾生駒駒，是「臣所聞」。』舉坐又大笑。眾知不敵，乃相約：後有開謔端者，罰作東道主。」

頃之酒酣，孫戲謂萬曰：「一聯請君屬之。」萬曰：「何如？」孫曰：「妓者出門訪情人，來時『萬福』，去時『萬福』。」眾屬思未對。狐笑曰：「我有之矣。」對曰：「龍王下詔求直諫，鰲也『得言』，龜也『得言』。」眾絕倒。孫大悲曰：「適與爾盟，何復犯戒？」狐笑曰：「罪誠在我，但非此不能確對耳。明日設席，以贖吾過。」相笑而罷。狐之詼諧，不可殫述。居數月，與萬偕歸。乃博興界，告萬曰：「我此處有葭葦親，往來久梗，不可不一訊。日且暮，與君同寄宿，待旦而行可也。」萬詢其處，指言「不遠。」萬疑前此故無村落，姑從之。二里許，果見一莊，生平所未歷。狐往叩關，一蒼頭出應門。入則重門疊閣，宛然世家。俄見主人，有翁與媪，

揖萬而坐。列筵豐盛，待萬以姻婭，遂宿焉。狐早謂曰：「我遽偕君歸，恐駭聞聽。君宜先往，我將繼至。」萬從其言，先至，預白於家人。未幾狐至，與萬言笑，人盡聞之，而不見其人。逾年，萬復事於濟，狐又與俱。忽有數人來，狐從與語，備極寒暄。乃語萬曰：「我本陝中人，與君有夙因，遂從許時。今我兄弟來，將從以歸，不能周事。」留之不可，竟去。

#### 四、十八、雨錢

濱州一秀才讀書齋中，有款門者，啟視則一老翁，形貌甚古。延入，通姓氏，翁自言：「養真，姓胡，實狐仙。慕君高雅，

願共晨夕。」生故曠達，亦不為怪。相與評駁今古，殊博洽，鏤花雕繪，粲於牙齒，時抽經義，則名理湛深，出人意外。生驚服，留之甚久。

一日密祈翁曰：「君愛我良厚。顧我貧若此，君但一舉手，金錢自可立致，何不小周給？」翁默然，少間笑曰：「此大易事。但須得十數錢作母。」生如其請。翁乃與共入密室中，禹步作咒。俄頃，錢有數十百萬從梁間鏘鏘而下，勢如驟雨，轉瞬沒膝，拔足而立又沒踝。廣丈之舍，約深三四尺餘。乃顧生曰：「頗厭君意否？」曰：「足矣。」翁一揮，錢晝然而止，乃相與扃戶出。生竊喜暴富矣。

頃之入室取用，則阿堵化為烏有，惟母錢十餘枚尚在。生大失望，盛氣向翁，頗對其誑。翁怒曰：「我本與君文字交，不謀與君作賊！便如秀才意，只合尋梁上君子交好得，老夫不能承命！」遂拂衣去。

#### 四、十九、妾杖擊賊

益都西鄙有貴家某巨富，蓄一妾頗婉麗，而塚室凌折之，鞭撻橫施，妾奉事惟謹，某憐之，常私語慰撫，妾殊無怨言。一夜數人逾垣入，撞其扉幾壞。某與妻惶恐惴慄，不知所為。妾起默無聲息，暗摸屋中得挑水木杖，拔關遽出。群賊亂如蓬麻，妾舞杖動，風鳴鉤響，立擊四五人僕地，賊盡靡；駭

愕亂奔，墻急不得上，傾跌啞啞，亡魂失命。妾拄杖於地，顧笑曰：「此等物事，不直下手打得，亦學作賊！我不殺汝，殺嫌辱我。」悉縱之逸去。

某大驚，問曰：「何自能爾？」則「妾父故槍棒師，妾得盡傳其術，殆不啻百人敵也。」妻尤駭甚，悔向之迷於物色。由是善視女，遇之反如嫡，然而妾則終無纖毫失禮。鄰婦謂妾曰：「嫂擊賊若豚犬，顧奈何俯首受撻楚？」妾曰：「是吾分也，他何敢言。」聞者益賢之。

異史氏曰：「身懷絕技，居數年而人莫知之，一旦捍患御災，化鷹為鳩，嗚呼！射雉既獲，內人展笑；握槊方勝，貴主同車。技之不可以已也如是夫！」

四、二十、秀才驅怪

長山徐遠公，故明諸生，鼎革後，棄儒訪道，稍稍學敕勒之術，遠近多耳其名。某邑一巨公，具幣，致誠款書，招之以騎。徐問：「召某何意？」僕曰：「不知。但囑小人務屈降臨。」徐乃行。至則中亭宴饌，禮遇甚恭，然終不道其相迎之旨。徐因問曰：「實欲何為？」幸祛疑抱。主人輒言：「無他。」但勸杯酒。言詞閃爍，殊所不解。談話之間，不覺向暮，邀徐飲園中。園頗佳勝，而竹樹蒙翳，景物陰森，雜花叢叢，半沒草萊。抵一閣，覆板之上懸蛛錯綴，似久無人住者。酒數行，天色曠暗，命燭復飲。徐辭不勝酒，主人即罷酒呼茶。諸僕倉皇撤肴器，盡納閣之左室幾上。茶啜未半，主人托故

竟去。僕人持燭引宿左室，燭置案上，遽返身去，頗甚草草。徐疑或攜襪被來伴，久之，人聲杳然，乃自起扃戶就寢。

窗外皎月，入室侵床，夜鳥秋蟲，一時啾唧，心中怛然，寢不成寐。頃之，板上橐橐似踏蹴聲，甚厲。俄下護梯，俄近寢門。徐駭，毛發蝟立，急引被蒙首，而門已豁然頓開。徐展被角微伺之，見一物獸首人身，毛周遍體，長如馬鬣，深黑色；牙粲群蜂，目炯雙炬。及幾，伏餽器中剩肴，舌一過，數器輒淨如掃。已而趨近榻，嗅徐被。徐驟起，翻被冪怪頭，按之狂喊。怪出不意，驚脫，啟外戶竄去。徐披衣起遁，則園門外扃，不可得出。緣墻而走，躍逾短垣，則主人馬廄。廄人驚，徐告以故，即就乞宿。

將旦，主人使伺徐，不見，大駭。已而出自廄中。徐大怒曰：「我不慣作驅怪術，君遣我，又秘不一言，我橐中蓄有如意鉤，又不送達寢所，是欲死我也！」主人謝曰：「擬即相告，慮君難之，初亦不知橐有藏鉤。幸宥十死！」徐終怏怏，索騎歸。自是怪絕。後主人宴集團中，輒笑向客曰：「我終不忘徐生功也。」

異史氏曰：「黃貍黑貍，得鼠者雄。此非空言也。假令翻被狂喊之後，隱其駭懼，公然以怪之絕為己能，則人將謂徐生真神人不可及矣。」

四、二十一、姊妹易嫁

掖縣相國毛公，家素微，其父常為人牧牛。時邑世族張姓，有新阡在東山之陽。或經其側，聞墓中叱吒聲曰：「若等速避去，勿久混貴人宅！」張聞，亦未深信。既又頻得夢警曰：「汝家墓地，本是毛公佳城，何得久假此？」由是家數不利。客勸徙葬吉，張乃徙焉。

一日相國父牧，出張家故墓，猝遇雨，匿身廢壙中。已而雨益甚，潦水奔穴，崩洶灌注，遂溺以死。相國時尚孩童。母自詣張，丐咫尺地掩兒父。張問其姓氏，大異之。往視溺死所，儼當置棺處，更駭；乃使就故壙窆焉。且令攜若兒來。

葬已，母偕兒詣張謝。張一見，輒喜，即留其家，教之讀，以齒子弟行。又請以長女妻兒，母謝不敢。張妻卒許之。然其女甚薄毛家，怨慚之意時形言色。且曰：「我死不從牧牛兒！」及親迎，新郎入宴，彩輿在門，女方掩袂向隅而哭。催之妝不妝，勸亦不解。俄而新郎告行，鼓樂大作，女猶眼零雨而首飛蓬也。父入勸女，不聽，怒逼之，哭益厲，父無奈。家人報新郎欲行，父急出曰：「衣妝未竟，煩郎少待。」又奔入視女。往復數番，女終無回意。其父周張欲死，皇急無計。其次女在側，因非其姊，苦逼勸之。姊怒曰：「小妮子，亦學人喋聒！爾何不從他去？」妹曰：「阿爺原不會以妹子屬毛郎；若以妹子屬毛郎，何煩姊姊勸駕耶？」父聽其言慊

爽，因與伊母竊議，以次易長。母即向次女曰：「迂逆婢不遵父母命，今欲以兒代姊，兒肯行否？」女慨然曰：「父母之命，即乞丐不敢辭；且何以見毛家郎便終身餓莩死乎？」父母大喜，即以姊妝妝女，倉猝登車徑去。入門，夫婦雅敦好。第女素病赤鬚，毛郎稍介意。及知易嫁之說，由是益以知己德女。

居無何，毛郎補博士弟子，往應鄉試。經王舍人莊，店主先一夕夢神曰：「旦夕有毛解元來，後且脫汝於厄，可善待之。」以故晨起，專伺察東來客，及得公，甚喜。供具甚豐，且不索直。公問故，特以夢兆告。公頗自負；私計女發鬢鬢，慮

為顯者笑，富貴後當易之。及試，竟落第，偃蹇喪志，赧見主人，不敢復由王舍，迂道歸家。

逾三年再赴試，店主人延候如前。公曰：「爾言不驗，殊慚祇奉。」主人曰：「秀才以陰欲易妻，故被冥司黜落，豈吾夢不足踐耶？」公愕然，問故。主人曰：「別後復夢神告，故知之。」公聞而惕然悔懼，木立若偶。主人又曰：「秀才宜自愛，終當作解首。」入試，果舉賢書第一。夫人發亦尋長，雲鬢委綠，倍增嫵媚。

其姊適里中富兒，意氣自高。夫蕩惰，家漸陵替，貧無煙火。聞妹為孝廉婦，彌增愧怍，姊妹輒避路而行。未幾，良人又卒，家落。毛公又擢進士。女聞，刻骨自恨，遂忿然廢身為

尼。及公以宰相歸。強遣女行者詣府謁問，冀有所賂。比至，夫人饋以綺縠羅絹若干匹，以金納其中。行者攜歸見師，師失所望，恚曰：「與我金錢，尚可作薪米費，此物我何所須！」遽令送回。公與夫人疑之，啟視，則金具在，方悟見卻之意。笑曰：「汝師白金尚不能任，焉有福澤從我老尚書也。」遂以五十金付尼去，且囑曰：「將去作爾師用度。但恐福薄人難承受耳。」行者歸，告其師。師啞然自嘆，私念生平所為，率自顛倒，美惡避就，繫豈由人耶？後王舍店主人以人命逮系囹圄，公乃為力解釋罪。

異史氏曰：「張家故墓，毛氏佳城，斯已奇矣。余聞時人有『大姨夫作小姨夫，前解元為後解元』之戲，此豈慧黠者所

能較計耶？嗚呼！彼蒼者天久已夢夢，何至毛公，其應如響耶？」

四、二十二、續黃梁

福建會孝廉，捷南宮時，與二三同年，遨游郭外。聞毗盧禪院寓一星者，往詣問卜。入揖而坐。星者見其意氣揚揚，稍佞諛之。會搖箠微笑，便問：「有蟒玉分否？」星者曰：「二十年太平宰相。」會大悅，氣益高。

值小雨，乃與游侶避雨僧舍。舍中一老僧，深目高鼻，坐蒲團上，淹蹇不為禮。眾一舉手，登榻自話，群以宰相相賀。會心氣殊高，便指同游曰：「某為宰相時，推張年丈作南撫，

家中表為參、游，我家老蒼頭亦得小千把，餘願足矣。」一座大笑。

俄聞門外雨益傾注，曾倦伏榻間。忽見有二中使，齎天子手詔，召曾太師決國計。曾得意榮寵，亦烏知其非有也，疾趨入朝。天子前席，溫語良久，命三品以下，聽其黜陟，不必奏聞。即賜蟒服一襲，玉帶一圍，名馬二匹。曾被服稽拜以出。入家，則非舊所居第，繪棟雕榱，窮極壯麗，自亦不解何以遽至於此。然拈須微呼，則應諾雷動。俄而公卿贈海物，僂僂足恭者疊出其門。六卿來，倒屣而迎；侍郎輩，揖與語；下此者，領之而已。晉撫饋女樂十人，皆是好女子，其尤者為裊裊，為仙仙，二人尤蒙寵顧。科頭休沐，日事聲歌。一

日，念微時嘗得邑紳王子良周濟，我今置身青雲，渠尚磋跎仕路，何不一引手？早旦一疏，薦為諫議，即奉諭旨，立行擢用。又念郭太僕曾睚眦我，即傳呂給諫及侍御陳昌等，授以意旨；越日，彈章交至，奉旨削職以去。恩怨了了，頗快心意。偶出郊衢，醉人適觸鹵簿，即遣人縛付京尹，立斃杖下。接第連阡者，皆畏勢獻沃產，自此富可埒國。無何而裊裊、仙仙，以次殂謝，朝夕遐想，忽憶曩年見東家女絕美，每思購充媵御，輒以綿薄違宿願，今日幸可適志。乃使乾僕數輩，強納資於其家。俄頃藤輿舁至，則較之昔望見時尤艷絕也。自顧生平，於願斯足。

又逾年，朝士竊竊，似有腹非之者，然揣其意，各為立仗馬，曾亦高情盛氣，不以置懷。有龍圖學士包拯上疏，其略曰：「竊以曾某，原一飲賭無賴，市井小人。一言之合，榮膺聖眷，父紫兒朱，恩寵為極。不思捐軀摩頂，以報萬一，反恣胸臆，擅作威福。可死之罪，擢發難數！朝廷名器，居為奇貨，量缺肥瘠，為價重輕。因而公卿將士，盡奔走於門下，估計夤緣，儼如負販，仰息望塵，不可算數。或有傑士賢臣，不肯阿附，輕則置之閑散。重則褫以編氓。甚且一臂不袒，輒許鹿馬之奸；片語方幹，遠竄豺狼之地。朝士為之寒心，朝廷因而孤立。又且平民膏腴，任肆蠶食；良家女子，強委禽妝。沴氣冤氛，暗無天日！奴僕一到，則守、令

承顏；書函一投，則司、院枉法。或有廝養之兒，瓜葛之親，出則乘傳，風行雷動。地方之供給稍遲，馬上之鞭撻立至。荼毒人民，奴隸官府，扈從所臨，野無青草。而某方炎炎赫赫，怙寵無悔。召對方承於闕下，萋菲輒進於君前；委蛇才退於自公，聲歌已起於後苑。聲色狗馬，晝夜荒淫；國計民生，罔存念慮。世上寧有此宰相乎！內外駭訛，人情洶洶。若不急加斧鑕之誅，勢必釀成操、莽之禍。臣拯夙夜抵懼，不敢寧處，冒死列款，仰達宸聽。伏祈斷奸佞之頭，籍貪冒之產，上回天怒，下快輿情。如果臣言虛謬，刀鋸鼎鑊，即加臣身。」雲云。疏上，曾聞之氣魄悚駭，如飲冰水。幸而皇上優容，留中不發。又繼而科、道、九卿，文章劾奏，即

昔之拜門牆、稱假父者，亦反顏相向。奉旨籍家，充雲南軍。子任平陽太守，已差員前往提問。

曾方聞旨驚怛，旋有武士數十人，帶劍操戈，直抵內寢，褫其衣冠，與妻並系。俄見數夫運資於庭，金銀錢鈔以數百萬，珠翠瑤玉數百斛，幄幕簾榻之屬，又數千事，以至兒襁女舄，遺墜庭階。曾一一視之。酸心刺目。又俄而一人掠美妾出，披發嬌啼，玉容無主。悲火燒心，含憤不敢言。俄樓閣倉庫，並已封志，立叱曾出。監者牽羅曳而出，夫妻吞聲就道，求一下駟劣車，少作代步，亦不可得。十里外，妻足弱，欲傾跌，曾時以一手相攀引。又十餘里，已亦困憊。欸見高山，直插雲漢，自憂不能登越，時挽妻相對泣。而監者

獐日來窺，不容稍停駐。又顧斜日已墜，尤可投止，不得已，參差蹙蹙而行。比至山腰，妻力已盡。泣坐路隅。曾亦憩止，任監者叱罵。

忽聞百聲齊噪，有群盜各操利刃，跳梁而前。監者大駭，逸去。會長跪告曰：「孤身遠謫，囊中無長物。」哀求宥免。群盜裂眦宣言：「我輩皆被害冤民，只乞得佞賊頭，他無索取。」曾怒叱曰：「我雖待罪，乃朝廷命官，賊子何敢爾！」賊亦怒，以巨斧揮曾項，覺頭墮地作聲。

魂方駭疑，即有二鬼來反接其手，驅之行。行逾數刻，入一都會。頃之，睹宮殿，殿上一醜形王者，憑幾決罪福。曾前匍伏請命，王者閱卷，才數行，即震怒曰：「此欺君誤國之

罪，宜置油鼎！萬鬼群和，聲如雷霆。即有巨鬼摔至墀下，見鼎高七尺已來，四圍熾炭，鼎足皆赤。曾穀鯁哀啼，竄跡無路。鬼以左手抓發，右手握踝，拋置鼎中。覺塊然一身，隨油波而上下，皮肉焦灼，痛徹於心，沸油入口，煎烹肺腑。念欲速死，而萬計不能得死。約食時，鬼方以巨叉取曾，復伏堂下。王又檢冊籍，怒曰：「倚勢凌人，合受刀山獄！」鬼復摔去。見一山，不甚廣闊，而峻削壁立，利刃縱橫，亂如密筍。先有數人冒腸刺腹於其上，呼號之聲，慘絕心目。鬼促會上，曾大哭退縮。鬼以毒錐刺腦，曾負痛乞憐。鬼怒，捉曾起，望空力擲。覺身在雲霄之上，暈然一落，刃交於胸，痛苦不可言狀，又移時，身驅重贅，刀孔漸闊，忽焉脫落，

四支蠖屈。鬼又逐以見王。王命會計生平賣爵鬻名，枉法霸產，所得金錢幾何。即有盪須人持籌握算，曰：「二百二十一萬。」王曰：「彼既積來，還令飲去！」少間，取金錢堆階上如丘陵，漸入鐵釜，熔以烈火。鬼使數輩，更相以杓灌其口，流頤則皮膚臭裂，入喉則臟腑騰沸。生時患此物之少，是時患此物之多也。半日方盡。

王者令押去甘州為女。行數步，見架上鐵梁，圍可數尺，縮一火輪，其大不知幾百由旬，焰生五採，光耿雲霄。鬼撻使登輪。方合眼躍登，則輪隨足轉，似覺傾墜，遍體生涼。開目自顧，身已嬰兒，而又女也。視其父母，則懸鶉敗絮；土室之中，瓢杖猶存。心知為乞人子，日隨乞兒托鉢，腹轆轤

不得一飽。著敗衣，風常刺骨。十四歲，鬻與顧秀才備媵妾，衣食粗足自給。而塚室悍甚，日以鞭捶從事，輒用赤鐵烙胸乳。幸良人頗憐愛，稍自寬慰。東鄰惡少年，忽逾牆來逼與私，乃自念前身惡孽，已被鬼責，今那得復爾。於是大聲疾呼，良人與嫡婦盡起，少年始竄去。一日，秀才宿諸其室，枕上喋喋，方自訴冤苦；忽震厲一聲，室門大闢，有兩賊持刀入，竟決秀才首，囊括衣物。團伏被底，不敢作聲。既而賊去，乃喊奔嫡室。嫡大驚，相與泣驗。遂疑妾以奸夫殺良人，狀白刺史。刺史嚴鞫，竟以酷刑誣服，律擬凌遲處死，繫赴刑所。胸中冤氣扼塞，距踴聲屈，覺九幽十八獄無此黑暗也。正悲號間，聞游者呼曰：「夢魘耶？」豁然而寤，見老

僧猶跏趺座上。同侶競相謂曰：「日暮腹枵，何久酣睡？」會乃慘淡而起。僧微笑曰：「宰相之占驗否？」曾益驚異，拜而請教。僧曰：「修德行仁，火坑中有青蓮也。山僧何知焉。」曾勝氣而來，不覺喪氣而返。臺閣之想由此淡焉。後入山，不知所終。

異史氏曰：「夢固為妄，想亦非真。彼以虛作，神以幻報。黃梁將熟，此夢在所必有，當以附之邯鄲之後。」

四、二十三、龍取水

徐東癡夜南游，泊舟江岸，見一蒼龍自空垂下，以尾攬江水，波浪湧起，隨龍身而上。遙望水光閃閃，闊於三尺練。移時龍尾收去，水亦頓息。俄而大雨傾注，渠道皆平。

四、二十四、小獵犬

山右衛中堂為諸生時，假齋僧院。苦室中蜚蟲蚊蚤甚多，夜不成寐。食後偃息在床，忽見一小武士首插雉尾，身高二寸許，騎馬大如蠟，臂上青鞵，有鷹如蠅。自外而入，盤旋室中，行且駛。公方疑注，忽又一人入，裝亦如之，腰束小弓矢，牽獵犬如巨蟻。又俄頃，步者、騎者，紛紛來以數百輩，

鷹犬皆數百。見有蚊蠅飛起，縱鷹騰擊，盡撲殺之。獵犬登床緣壁，搜噬虱蚤，凡罅有所伏藏，嗅之無不出者，頃刻之間，決殺殆盡。公偽睡眠之，鷹集犬竄於其身。既而一黃衣人，著平天冠如王者，登別榻，系駟葦篾間。從騎皆下，獻飛獻走，紛集盈側，亦不知作何語。無何，王者登小輦，衛士倉皇，各命鞍馬，萬蹄攢奔，紛如撒菽，煙飛霧騰，斯須散盡。公歷歷在目，駭詫不知所由。

躡履外窺，渺無跡響，返身周視，都無所見，惟壁磚遺一細犬。公急捉之，且馴。置硯匣中，反復瞻玩。毛極細茸，項上有一小環。飼以飯顆，一嗅輒去。躍登床簀，尋衣縫，嚙殺蟣虱。旋復來伏臥。逾宿公疑其已往，視之則盤伏如故。

公臥，則登床簀，遇蟲輒啖斃，蚊蠅無敢落者。公愛之甚於拱壁。一日晝臥，犬潛伏身畔。公醒轉側，壓於腰底。公覺有物，固疑是犬，急起視之，已匾而死，如紙剪成者。然自是壁蟲無噍類矣。

#### 四、二一五、棋鬼

揚州督同將軍梁公，解組鄉居，日攜棋酒，游林丘間。會九日登高與客弈，忽有一人來，逡巡局側，耽玩不去。視之，目面寒儉，懸鵲結焉，然意態溫雅，有文士風。公禮之，乃坐。亦殊撝謙。分指棋謂曰：「先生當必善此，何不與客對壘？」其人遜謝移時，始即局。局終而負，神情懊熱，若不

自己。又著又負，益憤慚。酌之以酒，亦不飲，惟曳客弈。自晨至於日昃，不遑溲溺。方以一子爭路，兩互喋聒，忽書生離席悚立，神色慘阻。少間，屈膝向公座，敗頹乞救，公駭疑，起扶之曰：「戲耳，何至是？」書生曰：「乞囑付園人，勿縛小生頸。」公又異之，問：「園人誰？」曰：「馬成。」

先是，公園役馬成者，走無常，十數日一入幽冥，攝牒作勾役。公以書生言異，遂使人往視成，則已殭臥三日矣。公乃叱成不得無禮，瞥見書生即地而滅，公嘆吒良久，乃悟其鬼。越日馬成寤，公召詰之。成曰：「渠湖襄人，癖嗜弈，產蕩盡。父憂之，閉置齋中。輒逾垣出，竊引空處，與弈者狎。父聞詬詈，終不可制止，父齎恨死。閻王以書生不德，促其

年壽，罰入餓鬼獄，於今七年矣。會東嶽鳳樓成，下牒諸府，徵文人作碑記。王出之獄中，使應召自贖。不意中道遷延，大愆限期。岳帝使直曹問罪於王。王怒，使小人輩羅搜之。前承主人命，故未敢以縲紲系之。」公問：「今日作何狀？」曰：「仍付獄吏，永無生期矣。」公嘆曰：「癖之誤人也如是夫！」異史氏曰：「見弈遂忘其死；及其死也，見弈又忘其生。非其所欲有甚於生者哉？然癖嗜如此，尚未獲一高著，徒令九泉下，有長死不生之弈鬼也。哀哉！」

四、二十六、辛十四娘

廣平馮生，少輕脫，縱酒。昧爽偶行，遇一少女，著紅帔，容色娟好。從小奚奴，躡露奔波，履襪沾濡。心竊好之。薄暮醉歸，道側故有蘭若，久蕪廢，有女子自內出，則向麗人也，忽見生來，即轉身入。陰思：麗者何得在禪院中？繫驢於門，往覘其異。入則斷垣零落，階上細草如毯。徬徨間，一斑白叟出，衣帽整潔，問：「客何來？」生曰：「偶過古剎，欲一瞻仰。」因問：「翁何至此？」叟曰：「老夫流寓無所，暫借此安頓細小。既承寵降，山茶可以當酒。」乃肅賓入。見殿後一院，石路光明，無復榛莽。入其室，則簾幌床幕，香霧噴人。坐展姓字，云：「蒙叟姓辛。」生乘醉遽問曰：「聞

有女公子未適良匹，竊不自揣願以鏡臺自獻。」辛笑曰：「容謀之荊人。」生即索筆為詩曰：「千金覓玉杵，殷勤手自將。雲英如有意，親為搗玄霜。」主人笑付左右。少間，有婢與辛耳語。辛起慰客耐坐，牽幕入，隱約數語即趨出。生意必有佳報，而辛乃坐與啜噉，不復有他言。生不能忍，問曰：「未審意旨，幸釋疑抱。」辛曰：「君卓犖士，傾風已久，但有私衷所不敢言耳。」生固請，辛曰：「弱息十九人，嫁者十有二。醮命任之荊人，老夫不與焉。」生日：「小生只要得今朝領小奚奴帶露行者。」辛不應，相對默然。聞房內嚶嚶膩語，生乘醉搴簾曰：「伉儷既不可得，當一見顏色，以消吾憾。」內聞鉤動，群立愕顧。果有紅衣人，振袖傾鬟，亭亭拈帶。

望見生入，遍室張皇。辛怒，命數人摔生出。酒愈湧上，倒榛蕪中，瓦石亂落如雨，幸不著體。

臥移時，聽驢子猶齧草路側，乃起跨驢，踉蹌而行。夜色迷悶，誤入澗穀，狼奔鴟叫，豎毛寒心。踟躕四顧，並不知其何所。遙望蒼林中燈火明滅，疑必村落，竟馳投之。仰見高閔，以策撻門，內問曰：「何人半夜來此？」生以失路告，內曰：「待達主人。」生累足鵠俟。忽聞振管闢扉，一健僕出，代客捉驢。生入，見室甚華好，堂上張燈火。少坐，有婦人出，問客姓氏，生以告。逾刻，青衣數人扶一老嫗出，曰：「郡君至。」生起立，肅身欲拜。嫗止之坐，謂生曰：「爾非馮云子之孫耶？」曰：「然。」嫗曰：「子當是我彌甥。老身

鐘漏並歇，殘年向盡，骨肉之間，殊多乖闊。」生日：「兒少失怙，與我祖父處者，十不識一焉。素未拜省，乞便指示。」嫗曰：「子自知之。」生不敢復問，坐對懸想。

嫗曰：「甥深夜何得來此？」生以膽力自矜詡，遂歷陳所遇。嫗笑曰：「此大好事。況甥名士，殊不玷於姻婭，野狐精何得強自高？甥勿慮，我能為若致之。」生謝唯唯。嫗顧左右曰：「我不知辛家女兒遂如此端好。」青衣人曰：「渠有十九女，都翩翩有風格，不知官人所聘行幾？」生日：「年約十五餘矣。」青衣曰：「此是十四娘。三月間，曾從阿母壽郡君，何忘卻？」嫗笑曰：「是非刻蓮瓣為高履，實以香屑，蒙紗而步者乎？」青衣曰：「是也。」嫗曰：「此婢大會作意，弄媚

巧。然果窈窕，阿甥賞鑒不謬。」即謂青衣曰：「可遣小狸奴喚之來。」青衣應諾去。

移時，入白：「呼得辛家十四娘至矣。」旋見紅衣女子，望嫗俯拜。嫗曰：「後為我家甥婦，勿得修婢子禮。」女子起，娉娉而立，紅袖低垂。嫗理其鬢發，捻其耳環，曰：「十四娘近在閨中作麼生？」女低應曰：「閑來只挑繡。」回首見生，羞縮不安。嫗曰：「此吾甥也。盛意與兒作姻好，何便教迷途，終夜竄溪穀？」女俯首無語。嫗曰：「我喚汝非他，欲為吾甥作伐耳。」女默默而已。嫗命掃榻展衲褥，即為合卺。女腆然曰：「還以告之父母。」嫗曰：「我為汝作冰，有何舛謬？」女曰：「郡君之命，父母當不敢違，然如此草草，婢

子即死，不敢奉命！媼笑曰：「小女子志不可奪，真吾甥婦也！」乃拔女頭上金花一朵，付生收之。命歸家檢歷，以良辰為定。乃使青衣送女去。聽遠雞已唱，遣人持驢送生出。數步外，歛一回顧，則村舍已失，但見松楸濃黑，蓬顆蔽塚而已。定想移時，乃悟其處為薛尚書墓。

薛乃生故祖母弟，故相呼以甥。心知遇鬼，然亦不知十四娘何人。咨嗟而歸，漫檢歷以待之，而心恐鬼約難恃。再往蘭若，則殿宇荒涼，問之居人，則寺中往往見狐狸云。陰念：若得麗人，狐亦自佳。至日除舍掃途，更僕眺望，夜半猶寂，生已無望。頃之門外嘩然，□ 屣出窺，則繡幃已駐於庭，雙鬢扶女坐青廬中。妝奩亦無長物，惟兩長鬣奴扛一撲滿，

大如甕，息肩置堂隅。生喜得佳麗偶，並不疑其異類。問女曰：「一死鬼，卿家何帖服之甚？」女曰：「薛尚書，今作五都巡環使，數百里鬼狐皆備扈從，故歸墓時常少。」生不忘蹇修，翼日往祭其墓。歸見二青衣，持貝錦為賀，竟委幾上而去。生以告女，女曰：「此郡君物也。」

邑有楚銀臺之公子，少與生共筆硯，頗相狎。聞生得狐婦，饋遺為餽，即登堂稱觴。越數日，又折簡來招飲。女聞，謂生曰：「曩公子來，我穴壁窺之，其人猿睛鷹準，不可與久居也。宜勿往。」生諾之。翼日公子造門，問負約之罪，且獻新什。生評涉嘲笑，公子大慚，不歡而散。生歸笑述於房，女慘然曰：「公子豺狼，不可狎也！子不聽吾言，將及於難！」

生笑謝之。後與公子輒相諛噓，前隙漸釋。會提學試，公子第一，生第二。公子沾沾自喜，走伴來邀生飲，生辭；頻招乃往。至則知為公子初度，客從滿堂，列筵甚盛。公子出試卷示生，親友疊肩嘆賞。酒數行，樂奏於堂，鼓吹僮佇，賓主甚樂。公子忽謂生曰：「諺云：『場中莫論文。』此言今知其謬。小生所以忝出君上者，以起處數語略高一籌耳。」公子言已，一座盡贊。生醉不能忍，大笑曰：「君到於今，尚以為文章至是耶！」生言已，一座失色。公子慚忿氣結。客漸去，生亦遁。醒而悔之，因以告女。女不樂曰：「君誠鄉曲之儇子也！輕薄之態，施之君子，則喪吾德；施之小人，則殺吾身。君禍不遠矣！我不忍見君流落，請從此辭。」生

懼而涕，且告之悔。女曰：「如欲我留，與君約：從今閉戶絕交游，勿浪飲。」生謹受教。

十四娘為人勤儉灑脫，日以紵織為事。時自歸寧，未嘗逾夜。又時出金帛作生計，日有贏餘，輒投撲滿。日杜門戶，有造訪者輒囑蒼頭謝去。

一日，楚公子馳函來，女焚爇不以聞。翼日，出吊於城，遇公子於喪者之家，捉臂苦約，生辭以故。公子使圉人挽轡，擁粹以行。至家，立命洗腆。繼辭夙退。公子要遮無已，出家姬彈箏為樂。生素不羈，向閉置庭中，頗覺悶損，忽逢劇飲，興頓豪，無復縈念。因而醉酣，頽臥席間。公子妻阮氏，最悍妒，婢妾不敢施脂澤。日前，婢入齋中，為阮掩執，以杖

擊首，腦裂立斃。公子以生嘲慢故，銜生，日思所報，遂謀醉以酒而誣之。乘生醉寐，扛尸床間，合扉徑去。生五更醒解，始覺身臥幾上，起尋枕榻，則有物膩然，繼絆步履。摸之，人也。意主人遣僮伴睡。又蹴之不動，舉之而殭，大駭，出門怪呼。廝役盡起，爇之，見尸，執生怒鬧。公子出驗之，誣生逼奸殺婢，執送廣平。隔日，十四娘始知，漣泣曰：「早知今日矣！」因按日以金錢遺生。生見府尹，無理可伸，朝夕撈掠，皮肉盡脫。女自詣問，生見之，悲氣塞心，不能言說。女知陷阱已深，勸令誣服，以免刑憲。生泣聽命。

女還往之間，人咫尺不相窺。歸家咨惋，遽遣婢子去。獨居數日，又托媒媪購良家女，名祿兒，年及笄，容華頗麗，與

同寢食，撫愛異於群小。生認識殺擬絞。蒼頭得信歸，慟述不成聲。女聞，坦然若不介意。既而秋決有日，女始皇皇躁動，晝去夕來，無停履。每於寂所，於邑悲哀，至損眠食。一日，日晡，狐婢忽來。女頓起，相引屏語。出則笑色滿容，料理門戶如平時。翼日，蒼頭至獄，生寄語娘子一往永訣。蒼頭復命，女漫應之，亦不愴惻，殊落落置之；家人竊議其忍。忽道路沸傳：楚銀臺革職，平陽觀察奉特旨治馮生案。蒼頭聞之，喜告主母。女亦喜，即遣入府探視，則生已出獄，相見悲喜。俄捕公子至，一鞫，盡得其情。生立釋寧家。歸見女，泫然流涕，女亦相對愴楚，悲已而喜，然終不知何以得達上聽。女笑指婢曰：「此君之功臣也。」生愕問故。

先是，女遣婢赴燕都，欲達宮闈，為生陳冤抑。婢至，則宮中有神守護，徘徊禦溝間，數月不得入。婢懼誤事，方欲歸謀，忽聞今上將幸大同，婢乃預往，偽作流妓。上至勾欄，極蒙寵眷。疑婢不似風塵人，婢乃垂泣。上問：「有何冤苦？」婢對曰：「妾原籍直隸廣平，生員馮某之女。父以冤獄將死，遂鬻妾勾欄中。」上慘然，賜金百兩。臨行，細問顛末，以紙筆記姓名；且言欲與共富貴。婢言：「但得父子團聚，不願華廬也。」上頷之，乃去。婢以此情告生。生急起拜，淚皆雙熒。居無幾何，女忽謂生曰：「妾不為情緣，何處得煩惱？君被逮時，妾奔走戚眷間，並無一人代一謀者。爾時酸衷，誠不可以告訴。今視塵俗益厭苦。我已為君蓄良偶，可

從此別。」生聞，泣伏不起，女乃止。夜遣祿兒侍生寢，生拒不納。朝視十四娘，容光頓減；又月餘，漸以衰老；半載，黯黑如村嫗：生敬之，終不替。女忽復言別，且曰：「君自有佳侶，安用此鳩盤為？」生哀泣如前日。又逾月，女暴疾，絕飲食，羸臥閨闥。生侍湯藥，如奉父母。巫醫無靈，竟以溘逝。生悲怛欲絕。即以婢賜金，為營齋葬。數日，婢亦去，遂以祿兒為室。逾年，生一子。然比歲不登，家益落。夫妻無計，對影長愁。忽憶堂陬撲滿，常見十四娘投錢於中，不知尚在否。近臨之，則鼓具鹽盞，羅列殆滿。頭頭置去，箸探其中，堅不可入。撲而碎之，金錢溢出。由此頓大充裕。

後蒼頭至太華、遇十四娘，乘青騾，婢子跨蹇以從，問：「馮郎安否？」且言：「致意主人，我已名列仙籍矣。」言訖不見。

異史氏曰：「輕薄之詞，多出於士類，此君子所悼惜也。余嘗冒不韙之名，言冤則已迂，然未嘗不刻苦自勵，以勉附於君子之林，而禍福之說不與焉。若馮生者，一言之微，幾至殺身，苟非室有仙人，亦何能解脫囹圄，以再生於當世耶？可懼哉？」

四、二十七、白蓮教

白蓮教某者，山西人，大約徐鴻儒之徒。左道惑眾，墮其術者甚眾。一日將他往，堂中置一盆，又一盆覆之，囑門人坐守，戒勿啟視。去後門人啟之，見盆貯清水，水上編草為舟，帆檣具焉。異而撥以指，隨手傾側；急扶如故，仍覆之。俄而師來，怒責曰：「何違吾命？」門人立白其無。師曰：「適海中舟覆，何得欺我？」又一夕，燒巨燭於堂上，戒恪守，勿以風滅。漏二滴，師不至，儼然而殆，就床暫寐，及醒燭已竟滅，急起爇之。既而師入，又責之。門人曰：「我固不會睡，燭何得息？」師怒曰：「適使我暗行十餘里，尚復云云耶？」門人大駭。奇行種種，不可勝書。

後有愛妾與門人通，覺之隱而不言。遣門人飼豕，門人入圈，立地化為豕，某即呼屠人殺之，貨其肉，人無知者。門人父以子不歸，過問之，辭以久弗至。門人家各處探訪，杳無消息。有同師者隱知其事，洩諸門人之父，父告之邑宰。宰恐其遁，不敢捕治，詳請官兵千人圍其第，妻子皆就執。閉置樊籠，將以解都。途經太行山，山中出一巨人，高與樹等，目如盞，口如盆，牙長尺許。兵士愕立不敢行。某曰：「此妖也，吾妻可以卻之。」甲士脫妻縛，妻荷戈往，巨人怒，吸吞之，眾愈駭。某曰：「既殺吾妻，是須吾子。」復出其子，巨人又吞之。眾相覷，莫知所為。某泣且怒曰：「既殺吾妻，又殺吾子，情何以甘！非某自往不可也。」眾果出諸籠，授

之刃而遣之。巨人盛氣而逆。格鬥移時，巨人抓攫入口，伸頸咽下，從容竟去。

#### 四、二十八、雙燈

魏運旺，益都益泉人，故世族大家也。後式微不能供讀。年二十餘廢學，就岳業酤。一夕獨臥酒樓上，忽聞樓下踏蹴聲，驚起悚聽。聲漸近，循梯而上，步步繁響。無何，雙婢挑燈，已至榻下。後一年少書生，導一女郎，近榻微笑。魏大愕怪。轉知為狐，毛發森豎，俯首不敢睨。書生笑曰：「君勿見猜。舍妹與有前因，便合奉事。」魏視書生，錦貂炫目，自慚形穢，不知所對。書生率婢，遺燈竟去。魏細視女郎，楚楚若

仙，心甚悅之。然慚忤不能作游語。女顧笑曰：「君非抱本頭者，何作措大氣？」遽近枕席，暖手於懷。魏始為之破顏，捋褲相嘲，遂與狎暱。曉鐘未發，雙鬟即來引去。復訂夜約。至晚女果至，笑曰：「癡郎何福，不費一錢，得如此佳婦，夜夜自投到也。」魏喜無人，置酒與飲，賭藏枚，女子十有九贏。乃笑曰：「不知妾握枚子，君自猜之，中則勝，否則負。若使妾猜，君當無贏時。」遂如其言，通夕為樂。既而將寢，曰：「昨宵衾褥澀冷，令人不可耐。」遂喚婢袱被來，展布榻間，綺縠香軟。頃之，緩帶交俛，口脂濃射，真不數漢家溫柔鄉也。自此，遂以為常。

後半年魏歸家，適月夜與妻話窗間，忽見女郎華妝坐墻頭，以手相招。魏近就之，女援之，逾垣而出，把手而告曰：「今與君別矣。請送我數武，以表半載綢繆之意。」魏驚叩其故，女曰：「姻緣自有定數，何待說也。」語次，至村外，前婢挑雙燈以待，竟赴南山，登高處，乃辭魏言別。留之不得，遂去。魏佇立徬徨，遙見雙燈明滅，漸遠不可睹，怏怏而反。是夜山頭燈火，村人悉望見之。

#### 四、二一九、捉鬼射狐

李公著明，睢寧令襟卓先生公子也，為人豪爽無餒怯，為新城王季良內弟。季良家多樓閣，往往見怪異。公常暑月寄宿，

愛閣上晚涼。或告之異，公笑不聽，固命設榻，主人如言。囑僕輩伴公宿，公辭曰：「生平不解怖。」主人乃使炷香於爐，請衽何趾，始息燭覆扉而去。公就枕移時，於月色中見幾上茗碗，傾側旋轉，不墜亦不休。公咄之，鏗然立止。又若有人拔香炷，炫搖空際，縱橫作花縷。公起叱曰：「何物鬼魅敢爾！」裸裎下榻，欲就捉之。以足覓床下，僅得一履，不暇冥搜，赤足搥搖處，炷頓插爐，竟寂無兆。公俯身遍摸暗陬，忽一物騰擊頰上，覺似履狀，索之，亦殊不得。乃啟覆下樓，呼從人爇火燭之，空無一物，乃復就寢。既明，使數人搜履，翻席倒榻，不知所在。主人為公易履。越日偶一仰首，見一履夾塞椽間，挑撥而下，則公履也。

公益都人，僑居於淄川孫氏第。第綦闊，皆置閑曠，公僅居其半。南院臨高閣，止隔一堵，時見閣扉自啟閉，公亦不置念。偶與家人話於庭，閣開門，忽有一小人面北而坐，身不滿三尺，綠袍白襪。眾指顧之，亦不動。公曰：「此狐也。」急取弓矢，對閣欲射。小人見之，啞啞作擲揄之聲，遂不復見。公捉刀登閣，且罵且搜，竟無所睹，乃返。異遂絕。公居數年，平安無恙。公長公友三，為餘姻家，其所目睹。異史氏曰：「予生也晚，未得奉公杖履。然聞之父老，大約慷慨剛毅丈夫也。觀此二事，大概可睹。浩然中存，鬼狐何為之哉！」

#### 四、三十、蹇償債

李公著明，慷慨好施。鄉人王卓，傭居公家。其人少游惰，不能操農務，家屢貧。然小有技能，常為役務，每贖之厚。時無晨炊，向公哀乞，公輒給以升斗。一日告公曰：「小人日受厚恤，三四口幸不餓殍，然何可以久？乞主人貸我綠豆一石作資本。」公忻然授之。卓負去，年餘，一無所償，及問之，豆資已蕩然矣。公憐其貧，亦置不索。

公讀書蕭寺。後三年餘，忽夢卓來曰：「小人負主人豆直，今來投償。」公慰之曰：「若索爾償，則平日所負欠者，何可算數？」卓愀然曰：「固然。凡人少有所為而受人千金，可不報

也。若無端受人資助，升鬥且不容昧，況其多哉！」言已竟去。公愈疑。既而家人白公曰：「夜牝驢產一駒，且修偉。」公忽悟曰：「得毋駒乃王卓耶？」越數日歸，見駒，戲呼王卓，駒奔赴，若有知識。自此遂以為名。公乘赴青州，衡府內監見而悅之，願以重價購之，議直未定。適公以家務，急不可待，遂歸。又逾歲，駒與雄馬同櫪，齧折脛骨，不可療。有牛醫至公家，見之，謂公曰：「乞以駒付小人，朝夕療養，需以歲月。萬一得痊，得直與公剖分之。」公如所請。後數月，牛醫售驢得錢千八百，以半獻公。公受錢頓悟，其數適符豆價也。噫！昭昭之債，而冥冥之償，此足以勸矣。

四、三十一、頭滾

蘇孝廉貞下太封公晝臥，見一人頭從地中出，其大如斛，在床下旋轉不已。驚而中疾，遂以不起。後其次公就蕩婦宿，罹殺身之禍，其兆於此耶？

四、三十二、鬼作筵

杜生九畹，內人病。會重陽，為友人招作茱萸會。早起盥已，告妻所往。冠服欲出，忽見妻昏憤，絮絮若與人言，杜異之，就問臥榻，妻輒「兒」呼之。家人心知其異。時杜有母柩未殯，疑其靈爽所憑。杜祝曰：「得毋吾母耶？」妻罵曰：「畜生！何不識爾父！」杜曰：「既為吾父，何乃歸家崇兒婦？」

妻呼小字曰：「我專為兒婦來，何反怨恨？兒婦應即死。有四人來勾致，首者張懷玉。我萬端哀乞，甫能允遂。我許小饋送，便宜付之。」杜即於門外焚紙錢。妻又曰：「四人去矣。彼不忍違吾面目，三日後當治具酬之。爾母年老龍鐘，不能料理中饋。及期，尚煩兒婦一往。」杜曰：「幽冥殊途，安能代庖？望恕宥。」妻曰：「兒勿懼，去去即復返。此為渠事，當毋憚勞。」言已，曰：「吾且去。」妻即冥然，良久乃蘇。杜問所言，茫不記憶。但曰：「適見四人來，欲捉我去。幸阿翁哀請。且解囊賂之，始去。我見阿翁鏹袱尚餘二錠，欲竊取一錠來，作糊口計。翁窺見，叱曰：『爾欲何為！此物豈爾所可用耶！』我乃斂手，未敢動。」杜以妻病革，疑

信相半。越三日，方笑語間，忽瞪目久之，語曰：「爾婦綦貪，曩見我白金便生覬覦，然大要以貧故，亦不足怪。將以婦去為我敦庖務，勿慮也。」言甫畢，奄然竟斃。約半日許始醒，告杜曰：「適阿翁呼我去，謂曰：『不用爾操作，我烹調自有人，只須堅坐指揮足矣。我冥中喜豐滿，諸物饌都覆器外，切宜記之。』我諾。至廚下，見一婦操刀砧於中，俱紺帔而綠緣之，呼我以嫂。每盛炙於簋，必請覘視。曩四人都箴中。進饌既畢，酒具已列器中。翁乃命我還。」杜大愕異，每語同人。

四、三十三、胡四相公

萊蕪張虛一者，學使張道一之仲兄也，性豪放自縱。聞邑中某宅為狐狸所居，敬懷刺往謁，冀一見之。投刺隙中，移時扉自闕，僕大愕卻走，張肅衣敬入，見堂中幾榻宛然，而闔寂無人，揖而祝曰：「小生齋宿而來，仙人既不以門外見斥，何不竟賜光霽？」忽聞空中有人言曰：「勞君枉駕，可謂跽然足音矣。請坐賜教。」即見兩坐自移相向。甫坐，即有鏤漆朱盤貯雙茗盞，懸目前。各取對飲，吸嚙有聲，而終不見其人。茶已，繼之以酒。細審官閥，曰：「弟姓胡，行四，曰相公，從人所呼也。」於是酬酢議論，意氣頗洽。鱉羞鹿脯，雜以薺蓼。進酒行炙者，似小輩甚夥。酒後思茶，意才動，

香茗已置幾上。凡有所思，應念即至。張大悅，盡醉而歸。自是三數日必一往，胡亦時至張家，俱如主客往來禮。

一日，張問胡曰：「南城中巫媪，日托狐神漁利。不知其家狐君識之否？」曰：「妄耳，實無狐。」少間，張起溲溺，聞小語曰：「適所言南城狐巫，未知何如人。小人欲從先生往觀之，煩一言請於主人。」張知為小狐，乃應曰：「諾。」即席請於狐曰：「我欲得足下服役者一二輩，往探狐巫，敬請君命。」狐固言不必，張言之再三，乃許之。既而張出，馬自至，如有控者。既騎而行，狐相語於途，曰：「今後先生於道途間，覺有細沙散落衣襟上，便是吾輩從也。」語次入城，至巫家。巫見張生，笑逆曰：「貴人何忽降臨？」張曰：「聞

爾家狐子大靈應，果否？」巫正容曰：「若個蹀躞語，不宜貴人出得！何便言狐子？恐吾家花姊不歡！」言未已，空中發半磚來，中巫臂，踉蹌欲跌。驚謂張曰：「官人何得拋擊老身也？」張笑曰：「婆子盲也！幾曾見自己額顱破，冤誣袖手者？」巫錯愕不知所出。正回惑間，又一石子落，中巫，顛蹶，穢泥亂墜，塗巫面如鬼。惟哀號乞命。張請恕之，乃止。巫急起奔遁房中，闔戶不敢出。張呼與語曰：「爾狐如我狐否？」巫惟謝過。張招之，且仰首望空中，戒勿傷巫，巫始惕惕而出。張笑諭之，乃還。

自此獨行於途，覺塵沙淅淅然，則呼狐語，輒應不訛。虎狼暴客，恃以無恐。如是年餘，愈與莫逆。嘗問其甲子，殊不

自記憶，但言：「見黃巢反，猶如昨日。」一夕共話，忽墻頭蘇然作響，其聲甚厲。張異之，胡曰：「此必家兄。」張云：「何不邀來共坐？」曰：「伊道頗淺，只好攫得兩頭雞啖，便了足耳。」張謂狐曰：「交情之好如吾兩人，可云無憾；終未一見顏色，大是恨事。」胡曰：「但得交好足矣，見面何為？」一日，置酒邀張，且告別。問：「將何往？」曰：「弟陝中產，將歸去矣。君每以對面不覲為憾，今請一識數載之交，他日可相認耳。」張四顧都無所見。胡曰：「君試開寢室門，則弟在焉。」張即推扉一覷，則內有美少年，相視而笑。衣裳楚楚，眉目如畫，轉瞬之間，不復睹矣。張反身而行，即有履聲藉藉隨其後，曰：「今日釋君憾矣。」張依戀不

忍別。狐曰：「離合自有數，何容介介。」乃以巨觥勸酒。飲至中夜，始以紗燭導張歸。明日往探，則空屋冷落而已。

後道一先生為西州學使，張請如晉。因往視弟，願望頗奢。比歸，甚違初意，咨嗟馬上，嗒喪若偶。忽一少年騎青驢，躡其後。張回顧，見裘馬甚麗，意亦騷雅，遂與閑話。少年察張不豫，詰之。張告以故。少年亦為慰藉。同行里許，至歧路中，少年拱手而別，且曰：「前途有一人，寄君故人一物，乞笑納之。」復欲詢之，馳馬遙去。張莫解所由。又二里許，見一蒼頭持小籠子，獻於馬前，曰：「胡四相公敬致先生。」張豁然頓悟。啟視，則白鏹滿中。及顧蒼頭，不知所往。

四、三十四、念秧

異史氏曰：人情鬼蜮，所在皆然；南北沖衢，其害尤烈。如強弓怒馬，御人於國門之外者，夫人而知之矣。或有剽囊刺橐，攫貨於市，行人回首，財貨已空，此非鬼蜮之尤者耶？乃又有萍水相逢，甘言如醴，其來也漸，其入也深。誤認傾蓋之交，遂罹喪資之禍。隨機設阱，情狀不一；俗以其言辭浸潤，名曰「念秧」。今北途多有之，遭其受害者尤眾。

餘鄉王子巽者，邑諸生。有族先生在都為旗籍太史，將往探訊。治裝北上，出濟南，行數里，有一人跨黑衛馳與同行，時以閑語相引，王頗與問答。其人自言：「張姓。為棲霞隸，

被令公差赴都。」稱謂撝卑，祇奉殷勤，相從數十里，約以同宿。王在前則策蹇迫及，在後則祇候道左。僕疑之，因厲色拒去，不使相從。張頗自慚，揮鞭遂去。既暮休於旅舍，偶步門庭，則見張就外舍飲。方驚疑間，張望見王垂手拱立，謙若廝僕，稍稍問訊。王亦以泛泛適相值，不為疑，然王僕終夜戒備之。雞既唱，張來呼與同行，僕咄絕之，乃去。朝暾已上，王始就道。行半日許，前一人跨白衛，約四十許，衣帽整潔，垂首蹇分，盹寐欲墮。或先或後，因循十餘里。王怪問：「夜何作，致迷頓乃爾？」其人聞之，猛然欠伸，言：「青苑人，許姓，臨淄令高檠是我中表。家兄設帳於官署，我往探省，少獲饋貽。今夜旅舍，誤同念秧者宿，驚惕不敢交睫，

遂致白晝迷悶。」王故問：「念秧何說？」許曰：「君客時少，未知險詐。今有匪類，以甘言誘行旅，夤緣與同休止，因而乘機騙賺。昨有葭苧親，以此喪資斧。吾等皆宜警備。」王頷之。先是，臨淄宰與王有舊，曾入其幕，識其門客，果有許姓，遂不復疑。因道寒溫，兼詢其兄況。許約暮共主人，王諾之。僕終疑其偽，陰與主謀，遲留不進，相失，遂杳。

翼日卓午，又遇一少年，年可十六七，騎健騾，冠服修整，貌甚都。同行久之，未交一言。日既夕，少年忽曰：「前去曲律店不遠矣。」王微應之。少年因咨嗟欷歔，如不自勝。王略致詰，少年嘆曰：「僕江南金姓。三年膏火，冀博一第，不圖竟落孫山！家兄為部中主政，遂載細小來，冀得排遣。生

平不曾踐涉，撲面塵沙，使人薙惱。」因取紅巾拭面，嘆吒不已。聽其語，操南音，嬌婉若女子。王心好之，稍為慰藉。少年曰：「適先馳出，眷口久望不來，何僕輩亦無至者？」曰：「已將暮，奈何！」遲留瞻望，行甚緩。王遂先驅，相去漸遠。晚投旅邸，既入舍，則壁下一床，先有客解裝其上。王問主人，即有一人入，攜之而出，曰：「但請安置，當即移他所。」王視之則許。王止與同舍，許遂止，因與坐談。少間，又有攜裝入者，見王、許在舍，返身遽出，曰：「已有客在。」王審視，則途中少年也。王未言，許急起曳留之，少年遂坐。許乃展問邦族，少年又以途中言為許告。俄頃，解囊出資，

堆累頗重，秤兩餘付主人，囑治肴酒，以供夜話。二人爭勸止之，卒不聽。

俄而酒炙並陳。筵間，少年論文甚風雅。王問江南闈題，少年悉告之。且自誦其承破，及篇中得意之句。言已，意甚不平，共扼腕之。少年又以家口相失，夜無僕役，患不解牧圉，王因命僕代攝莖豆，少年深感謝。居無何，忽蹴然曰：「生平蹇滯，出門亦無好況。昨夜逆旅與惡人居，擲骰叫呼，聒耳沸心，使人不眠。」南音呼骰為兜，許不解，固問之，少年手摹其狀。許乃笑，於囊中出色一枚，曰：「是此物否？」少年諾。許乃以色為令，相歡飲。酒既闌，許請共擲，贏一東道主，王辭不解。許乃與少年相對呼盧，又陰囑王曰：「君

勿漏言。蠻公子頗充裕，年又雛，未必深解五木訣。我贏些須，明當奉屈耳。」二人乃入隔舍。旋聞轟賭甚鬧，王潛窺之，見棲霞隸亦在其中。大疑，展衾自臥。又移時，眾共拉王賭，王堅辭不解。許願代辨梟雉，王又不肯；遂強代王擲少間，就榻報王曰：「汝贏幾籌矣。」王睡夢應之。

忽數人排闥而入，番語啁噉。首者言佟姓。為旗下邏捉賭者。時賭禁甚嚴，各大惶恐。佟大聲嚇王，王亦以太史旗號相抵。佟怒解，與王敘同籍，笑請復博為戲。眾果復賭，佟亦賭。王謂許曰：「勝負我不預聞。但願睡，無相混。」許不聽，仍往來報之。既散局，各計籌馬，王負欠頗多，佟遂搜王裝橐取償。王憤起相爭。金捉王臂，陰告曰：「彼都匪人，其情

叵測。我輩乃文字交，無不相顧。適局中我贏得如乾數，可相抵。此當取償許君者，今請易之。便令許償佟，君償我。不過暫掩人耳目，過此仍以相還。終不然，以道義之交，遂實取君償耶？」王故長厚，遂信之。少年出，以相易之謀告佟。乃對眾發王裝物，估入己橐，佟乃轉索許、張而去。

少年遂襍被來，與王連枕，衾褥皆精美。王亦招僕人臥榻上，各默然安枕。久之，少年故作轉側，以下體暱就僕。僕移身避之，少年又近就之。膚著股際，滑膩如脂。僕心動，試與狎，而少年殷勤甚至，衾息鳴動。王頗聞之，雖其駭怪，終不疑其有他也。昧爽，少年即起，促與早行。且云：「君蹇疲殆，夜所寄物，前途請相授耳。」王尚無言，少年已加裝

登騎，王不得已從之。驟行駛，去漸遠，王料其前途相待，初不為意。因以夜間所聞問僕，僕以實告。王始驚曰：「今被念秧者騙矣！焉有宦室名士，而毛遂於圍僕？」又轉念其談詞風雅，非念秧所能，急追數十里，蹤跡殊杳。始悟張、許、佟皆其一黨，一局不行，又易一局，務求其必入也。償債易裝，已伏一圖賴之機，設其攜裝之計不行，亦必執前說篡奪而去。為數十金，委綴數百里，恐僕發其事，而以身交歡之，其術亦苦矣。

後數年，又有吳生之事：

邑有吳生字安仁，三十喪偶，獨宿空齋。有秀才來與談，遂相知悅。從一小奴，名鬼頭，亦與吳僮報兒善。久而知其為

狐。吳遠游，必與俱，同室之中，人不能睹。吳客都中，將旋里，聞王生遭念秧之禍，因戒僮警備。狐笑曰：「勿須，此行無不利。」

至涿，一人系馬坐煙肆，裘服齊楚。見吳過，亦起，超乘從之。漸與吳語，自言：「山東黃姓，提堂戶部。將東歸，且喜同途不孤寂。」於是吳止亦止，每共食必代吳償值。吳陽感而陰疑之。私以問狐，狐曰：「不妨。」吳意釋。

及晚，同尋寓所，先有美少年坐其中。黃入，與拱手為禮，喜問少年：「何時離都？」答云：「昨日。」黃遂拉與共寓，向吳曰：「此史郎，我中表弟，亦文士，可佐君子談騷雅，夜話當不寥落。」乃出金資，治具共飲。少年風流蘊藉，遂與

吳大相愛悅，飲間，輒目示吳作觴弊，罰黃，強使酌，鼓掌作笑。吳益悅之。既而更與黃謀賭博，共牽吳，遂各出橐金為質。狐囑報兒暗鎖板扉，囑曰：「倘聞人喧，但寐無嘩。」吳諾。吳每擲，小注則輸，大注則贏。更餘，計得二百金。史、黃錯橐垂罄，議質其馬。

忽聞搗門聲甚厲，吳急起，投色於火，蒙被假臥。久之，聞主人覓鑰不得，破扇啟關，有數人洶洶入，搜捉博者。史、黃並言無有。一人竟捋吳被，指為賭者，吳叱咄之。數人強檢吳裝。方不能與之撐拒，忽聞門外輿馬呵殿聲。吳急出嗚呼，眾始懼，曳之入，但求無聲。吳乃從容苞苴付主人。鹵簿既遠，眾乃出門去。

黃與史共作驚喜狀，取次覽寢，黃命史與吳同榻。吳以腰橐置枕頭，方伸被而睡。無何，史啟吳衾，裸體入懷，小語曰：「愛兄磊落，願從交好。」吳心知其詐，然計亦良得，遂相偎抱。史極力周奉，不料吳固偉男，大為鑿柄，顰呻殆不可任，竊竊哀免。吳固求訖事。手捫之，血流漂杵矣。乃釋令歸。及明，史憊不能起，托言暴病，請吳、黃先發。吳臨別，贈金為藥餌之費。途中語狐，乃知夜來鹵簿，皆狐所為。黃於途，益諂事吳。暮復同舍，鬥室甚隘，僅容一榻，頗暖潔，吳以為狹。黃曰：「此臥兩人則隘，君自臥則寬，何妨？」食已經去。吳亦喜獨宿可接狐友，坐良久，狐不至。倏聞壁上小扉，有指彈之聲。吳拔關探視，一少女艷妝遽入，自扃

門戶，向吳展笑，佳麗如仙。吳喜致研詰，則主人之子婦也。遂與狎，大相愛悅。女忽漣然泣下。吳驚問之，女曰：「不敢隱匿，妾實主人遣以餌君者。曩時入室，即被掩執，不知今宵，何久不至？」又嗚咽曰：「妾良家女，情所不甘。今已傾心於君，乞垂拔救！」吳聞駭懼，計無所出，但遣速去，女惟俯首泣。

忽聞黃與主人捶鬪鼎沸，但聞黃曰：「我一路祇奉，謂汝為人，何遂誘我弟室！」吳懼，逼女令去。聞壁扉外亦有騰擊聲。吳倉卒汗流如沈，女亦伏泣。又聞有人勸止主人，主人不聽，推門愈急。勸者曰：「請問主人，意將何為？如欲殺耶，有我等客數輩，必不坐視兇暴。如兩人中有一逃者，抵

罪安所辭？如欲質之公庭耶，帷薄不修，適以取辱。且爾宿行旅，明明陷詐，安保女子無異言？」主人張目不能語。吳聞竊感佩，而不知何人。初，肆門將閉，即有秀才共一僕來，就外舍宿。攜有香醞，遍酌同舍，勸黃及主人尤殷。兩人辭欲起，秀才牽裾，苦不令去。後乘間得遁，操杖奔吳所。秀才聞喧，始入勸解。吳伏窗窺之，則狐友也，心竊喜。又見主人意稍奪，乃大言以恐之。又謂女子：「何默不一言？」女啼曰：「恨不如人，為人驅役賤務！」主人聞之，面如死灰。秀才叱罵曰：「爾輩禽獸之情，亦已畢露。此客子所共憤者！」黃及主人皆釋刀杖，長跪而請。吳亦啟戶出，頓大怒詈，秀才又勸止吳，兩始和解。

女子又啼，寧死不歸。內奔出嫗婢，捽女令入。女子臥地，哭益哀。秀才勸重價貨吳生，主人俯首曰：「作老娘三十年，今日倒繃孩兒，亦復何說。」遂依秀才言。吳固不肯破重資，秀才調停主客間，議定五十金。人財交付後，晨鐘已動，乃共促裝，載女子以行。女未經鞍馬，馳驅頗殆。午間稍息憩，將行，喚報兒，不知所往。日已夕，尚無蹤響，頗懷疑訝，遂以問狐。狐曰：「無憂，將自至矣。」星月已出，報兒始至。吳詰之，報兒笑曰：「公子以五十金肥奸僮，竊所不平。適與鬼頭計，反身索得。」遂以金置幾上。吳驚問其故，蓋鬼頭知女止一兄，遠出十餘年不返，遂幻化作其兄狀，使報兒冒弟行，入門索姊妹。主人惶恐，詭托病殂。一二僮欲質官，

主人益懼，啖之以金，漸增至四十，二僮乃行。報兒具述其狀，吳即賜之。

吳歸，琴瑟綦篤。家益富。細詰女子，曩美少年即其夫，蓋史即金也。襲一榭綢帔，云是得之山東王姓者。蓋其黨羽甚眾，逆旅主人，皆其一類。何意吳生所遇，即王子巽連天呼苦之人，不亦快哉！旨哉古言：「騎者善墮。」

#### 四、三十五、蛙曲

王子巽言：在都時，曾見一人作劇於市，攜木盒作格，凡十有二孔，每孔伏蛙。以細杖敲其首，輒哇然作鳴。或與金錢，則亂擊蛙頂，如拊雲鑼之樂，宮商詞曲，了了可辨。

四、三十六、鼠戲

一人在長安市上賣鼠戲，背負一囊，中蓄小鼠十餘頭。每於稠人中，出小木架置肩上，儼如戲樓狀。乃拍鼓板，唱古雜劇。歌聲甫動，則有鼠自囊中出，蒙假面，被小裝服，自背登樓，人立而舞。男女悲歡，悉合劇中關目。

四、三十七、泥書生

羅村有陳代者少蠢陋，娶妻某氏頗麗。自以婿不如人，鬱鬱不得志。然貞潔，婆媳亦相安。一夕獨宿，忽聞風動扉開，一書生入，脫衣巾，就婦共寢。婦駭懼，苦拒，而肌膚頓軟，聽其狎褻而去。自是夜無虛夕。月餘，形容枯瘁，母怪問之，

初慚忤不欲言，固問，始以情告。母駭曰：「此妖也！」百術禁咒，終不能絕。乃使陳代伏匿室中，操杖以伺。夜分書生復來，置冠幾上，又脫袍服，搭樵架上。才欲登榻，忽驚曰：「咄咄！有生人氣！」急復披衣。代暗中暴起，擊中腰脅，塔然作聲。四壁張顧，書生已杳。束薪爇照，泥衣一片墮地上，案頭泥巾猶存。

#### 四、三十八、土地夫人

寫橋王炳者出村，見土地祠中出一美人，顧盼甚殷。試挑之，歡然樂受。狎暱無所，遂期夜奔，炳因告以居址。至夜果至，極相悅愛。問其姓名，固不以告。由此往來不絕。時炳與妻

共榻，美人亦必來與交，妻亦不覺其有人。炳訝問之。美人曰：「我土地夫人也。」炳大駭，亟欲絕之，而百計不能阻。因循半載，病憊不起。美人來更頻，家人都見之。未幾，炳果卒。美人猶曰一至，炳妻叱之曰：「淫鬼不自羞！人已死矣，復來何為？」美人遂去，不返。

土地雖小亦神也，豈有任婦自奔者？不知何物淫昏，遂使千古下謂此村有污賤不謹之神。冤哉！

#### 四、三十九、寒月芙蕖

濟南道人者，不知何許人，亦不詳其姓氏。冬夏著一單衾衣，系黃絳，無褲襦。每用半梳梳發，即以齒銜髻，如冠狀。

日赤腳行市上；夜臥街頭，離身數尺外，冰雪盡熔。初來，輒對人作幻劇，市人爭貽之。有井曲無賴子，遺以酒，求傳其術，不許。遇道人浴於河津，驟抱其衣以脅之，道人揖曰：「請以賜還，當不吝術。」無賴者恐其給，固不肯釋。道人曰：「果不相授耶？」曰：「然。」道人默不與語，俄見黃綈化為蛇，圍可數握，繞其身六七匝，怒目昂首，吐舌相向，某大愕，長跪，色青氣促，惟言乞命。道人乃竟取絳。絳竟非蛇；另有一蛇，蜿蜒入城去。由是道人之名益著。

縉紳家聞其異，招與游，從此往來鄉先生門。司、道俱耳其名，每宴集，必以道人從。一日，道人請於水面亭報諸憲之飲。至期，各於案頭得道人速帖，亦不知所由至。諸官赴宴

所，道人偃僂出迎。既入，則空亭寂然，幾榻未設，或疑其妄。道人啟官宰曰：「貧道無僮僕，煩借諸扈從，少代奔走。」官共諾之。道人於壁上繪雙扉，以手搥之。內有應門者，振管而啟。共趨覘望，則見憧憧者往來於中，屏幔床幾，亦復都有。即有人一一傳送門外，道人命吏胥輩接列亭中，且囑勿與內人交語。兩相授受，惟顧而笑。頃刻，陳設滿亭，窮極奢麗。既而旨酒散馥，熱炙騰熏，皆自壁中傳遞而出，座客無不駭異。亭故背湖水，每六月時，荷花數十頃，一望無際。宴時方凌冬，窗外茫茫，惟有煙綠。一官偶嘆曰：「此日佳集，可惜無蓮花點綴！」眾俱唯唯。少頃，一青衣吏奔白：「荷葉滿塘矣！」一座皆驚。推窗眺矚，果見彌望菁蔥，

間以菡萏。轉瞬間，萬枝千朵，一齊都開，朔風吹面，荷香沁腦。群以為異。遣吏人蕩舟採蓮，遙見吏人入花深處，少間返棹，素手來見。官詰之，吏曰：「小人乘舟去，見花在遠際，漸至北岸，又轉遙遙在南蕩中。」道人笑曰：「此幻夢之空花耳。」無何，酒闌，荷亦凋謝，北風驟起，摧折荷蓋，無復存矣。濟東觀察公甚悅之，攜歸署，日與狎玩。一日公與客飲。公故有傳家美醞，每以一斗為率，不肯供浪飲。是日客飲而甘之，固索傾釀，公堅以既盡為辭。道人笑謂客曰：「君必欲滿老饕，索之貧道而可。」客請之。道人以壺入袖中，少刻出，遍斟座上，與公所藏無異。盡歡而罷。公疑入視酒甌，封固宛然，瓶已罄矣。心竊愧怒，執以為妖，杖

之。杖才加，公覺股暴痛，再加，臀肉欲裂。道人雖聲嘶階下，觀察已血殷座上。乃止不答，遂令去。道人遂離濟，不知所往。後有人遇於金陵，衣裝如故，問之，笑不語。

#### 四、四十、酒狂

繆永定，江西拔貢生，素酗於酒，戚黨多畏避之。偶適族叔家，與客滑稽諧謔，遂共酣飲。繆醉，使酒罵座，忤客；客怒，一座大嘩。叔為排解，繆為左袒客，益遷怒叔。叔無計，奔告其家。家人來，扶挾以歸。才置床上，四肢盡厥，撫之，奄然氣絕。

繆見有皂帽人繫已去。移時至一府署，縹碧為瓦，世間無其壯麗。至墀下，似欲伺見官宰，自思無罪，當是客訟鬥毆。回顧皂帽人，怒目如牛，又不敢問。忽堂上一吏宣言，使訟獄者翼日早候，於是堂下人紛紛散去。繆亦隨皂帽人出，更無歸著，縮首立肆簷下。皂帽人怒曰：「顛酒無賴子！日將暮，各去尋眠食，爾欲何往？」繆戰慄曰：「我且不知何事，並未告家人，故毫無資斧，庸將焉歸？」皂帽人曰：「顛酒賊！若酤白啖，便有用度！再支吾，老拳碎顛骨子！」繆垂首不敢聲。忽一人自戶內出，見繆，詫異曰：「爾何來？」繆視之，則其母舅。舅賈氏，死已數載。繆見之，始悟已死，心益悲懼，向舅涕零曰：「阿舅救我！」賈顧皂帽人曰：「東

靈非他，屈臨寒舍。」二人乃入。賈重揖皂帽人，且囑青眼。俄頃出酒食，團坐相飲。賈問：「舍甥何事，遂煩勾致？」皂帽人曰：「大王駕詣浮羅君，遇令甥醉詈，使我捉得來。」賈問：「見王未？」曰：「浮羅君會花子案，駕未歸。」又問：「阿甥將得何罪？」答曰：「未可知也。然大王頗怒此等人。」繆在側，聞二人言，殼觥汗下，杯箸不能舉。無何，皂帽人起，謝曰：「叨盛酌，已經醉矣。即以令甥相付托，駕歸，再容登訪。」乃去。賈謂繆曰：「甥別無兄弟，父母愛如掌上珠，常不忍一訶。十六七歲，每三杯後，喃喃尋人疵，小不合，輒搗門裸罵，猶謂齒稚。不意別十餘年，甥了不長進。今且奈何！」繆伏地哭，懊悔無及。賈曳之曰：「舅在此業酷，頗

有小聲望，必合極力。適飲者乃東靈使者，舅常飲之酒，與舅頗相善。大王曰：「萬幾，亦未必便能記憶。我委曲與言，洵以私意釋甥去，或可允從。」又轉念曰：「此事擔負頗重，非十萬不能了也。」繆謝諾，即就舅氏宿。次日，皂帽人早來覘望。賈請問。語移時，來謂繆曰：「諧矣。少頃，即復來。我先罄所有用壓契，餘待甥歸從容湊致之。」繆喜曰：「共得幾何？」曰：「十萬。」曰：「甥何處得如許？」賈曰：「只金幣錢紙百提，足矣。」繆喜曰：「此易辦耳。」待將停午，皂帽人不至。

繆欲出市上少游矚，賈囑勿遠蕩，諾而出。見街里貿販，一如人間。至一所，棘垣峻絕，似是囹圄。對門一酒肆，往來

頗夥。肆外一帶長溪，黑潦湧動，深不見底。方佇足窺探，聞肆內一人呼曰：「繆君何來？」繆急視之，則鄰村翁生，乃十年前文字交。趨出握手，歡若平生。即就肆內小酌，各道契闊。繆慶幸中，又逢故知，傾懷盡醕。大醉，頓忘其死，舊態復作，漸絮絮瑕疵翁。翁曰：「數年不見，君猶爾耶？」繆素厭人道其酒德，聞言益憤。擊桌大罵。翁睨之，拂袖竟出。繆又追至溪頭，捋翁帽，翁怒曰：「此真妄人！」乃推繆顛墮溪中。溪水殊不甚深，而水中利刃如麻，刺脅穿脛，豎難搖動，痛徹骨腦。黑水雜洩穢，隨吸入喉，更不可耐。岸上人觀笑如堵，絕不一為援手。

時方危急，賈忽至，望見大驚，提攜以歸，曰：「爾不可為也！死猶弗悟，不足復為人！請仍從東靈受斧鑕。」繆大懼，泣拜知罪。賈乃曰：「適東靈至，候汝立券，汝乃飲蕩不歸，渠迫不能待。我已立券，付千緡令去，餘以旬盡為期。子歸，宜急措置，夜於村外曠莽中，呼舅名焚之，此案可結也。」繆悉如命，乃促之行，送之郊外，又囑曰：「必勿食言，累我無益。」乃示途令歸。

時繆已殭臥三日，家人謂其醉死，而鼻息隱隱如懸絲。是日蘇，大嘔，嘔出黑沈數斗，臭不可聞。吐已，汗濕裊褥，氣味熏騰，與吐物無異，身始涼爽。告家人以異。旋覺刺處痛腫，隔夜成瘡，猶幸不大潰腐。十日漸能杖行。家人共乞償

冥負，繆計所費，非數金不能辦，頗生吝惜，曰：「曩或醉鄉之幻境耳。縱其不然，伊以私釋我，何敢復使冥王知？」家人勸之，不聽。然心惕惕然，不敢復縱飲。里黨咸喜其進德，稍稍與共酌。年餘，冥報漸忘，志漸肆，故狀漸萌。一日飲於子姓之家，又罵座，主人擯斥出，闔戶徑去。繆噪逾時，其子方知，扶持歸家。入室，面壁長跪，自投無數，曰：「便償爾負！便償爾負！」言已僕地，視之氣已絕矣。

# 五、卷五

## 五、一、陽武侯

陽武侯薛公祿，膠州薛家島人。父薛公最貧，牧牛鄉先生家。先生有荒田，公牧其處，輒見蛇兔鬥草萊中，以為異，因請於主人為宅兆，構茅而居。後數年，太夫人臨蓐，值雨驟至，適二指揮使奉命稽海，出其途，避雨戶中。見舍上鴉鵲群集，競以翼覆漏處，異之。既而翁出，指揮問：「適何作？」因以產告，又詢所產，曰：「男也。」指揮又益愕，曰：「是必極貴。不然，何以得我兩指揮護守門戶也？」咨嗟而去。侯既長，垢面垂鼻涕，殊不聰穎。島中薛姓，故隸軍籍。是年應

翁家出一丁口戍遼陽，翁長子深以為憂。時候十八歲，人以太憨生，無與為婚。忽自謂兄曰：「大哥啾唧，得無以遣戍無人耶？」曰：「然。」笑曰：「若肯以婢子妻我，我當任此役。」兄喜，即配婢。

侯遂攜室赴戍所。行方數十里，暴雨忽集。途側有危崖，夫妻奔避其下。少間雨止，始復行。才及數武，崖石崩墜。居人遙望兩虎躍出，逼附兩人而沒。侯自此勇健非常，豐採頓異。後以軍功封陽武侯世爵。

至啟、禎間，襲侯某公薨，無子，止有遺腹，因暫以旁支代。凡世封家進御者，有娠即以上聞，官遣媪伴守之，既產乃已。年餘，夫人生女。產後，腹猶震動，凡十五年，更數媪，又

生男。應以嫡派賜爵，旁支噪之，以為非薛產。官收諸媪，械梏百端，皆無異言。爵乃定。

五、一、趙城虎

趙城媪，年七十餘，止一子。一日入山，為虎所噬。媪悲痛，幾不欲活，號啼而訴之宰。宰笑曰：「虎何可以官法制之乎？」媪愈號啕，不能制之。宰叱之亦不畏懼，又憐其老，不忍加以威怒，遂給之，諾捉虎。媪伏不去，必待勾牒出乃肯行。宰無奈之。即問諸役，誰能往之。一隸名李能，醺醉，詣座下，自言：「能之。」持牒下，媪始去。隸醒而悔之，猶謂宰之偽局，姑以解媪擾耳，因亦不甚為意。持牒報繳，宰

怒曰：「固言能之，何容復悔？」隸窘甚，請牒拘獵戶，宰從之。隸集獵人，日夜伏山谷，冀得一虎庶可塞責。月餘，受杖數百，冤苦罔控。遂詣東郭嶽廟，跪而祝之，哭失聲。

無何，一虎自外來，隸錯愕，恐被啣噬，虎入，殊不他顧，蹲立門中。隸祝曰：「如殺某子者爾也，其俯聽吾縛。」遂出縲索摯虎項，虎帖耳受縛。牽達縣署，宰問虎曰：「某子爾噬之耶？」虎頷之。宰曰：「殺人者死，古之定律。且媼止一子，而爾殺之，彼殘年垂盡，何以生活？倘爾能為若子也。我將赦之。」虎又頷之，乃釋縛令去。媼方怨宰之不殺虎以償子也，遲旦啟扉，則有死鹿，媼貨其肉革，用以資度。自是以為常，時銜金帛擲庭中。媼從此豐裕，奉養過於其子。心竊

德虎。虎來，時臥簷下，竟日不去。人畜相安，各無猜忌。數年，嫗死，虎來吼於堂中。嫗素所積，綽可營葬，族人共瘞之。墳壘方成，虎驟奔來，賓客盡逃。虎直赴塚前，嗥鳴雷動，移時始去。土人立「義虎祠」於東郭，至今猶存。

### 五、三、螳螂捕蛇

張姓者偶行溪谷，聞崖上有聲甚厲。尋途登覘，見巨蛇圍如碗，擺撲叢樹中，以尾擊柳，柳枝崩折。反側傾跌之狀，似有物捉制之，然審視殊無所見，大疑。漸近臨之，則一螳螂據頂上，以刺刀攫其首，攬不可去，久之，蛇竟死。視額上革肉，已破裂雲。

## 五、四、武技

李超字魁吾，淄之西鄙人，豪爽好施。偶一僧來托鉢，李飽啖之。僧甚感荷，乃曰：「吾少林出也。有薄技，請以相授。」李喜，館之客舍，豐其給，旦夕從學。三月藝頗精，意甚得。僧問：「汝益乎？」曰：「益矣。師所能者，我已盡能之。」僧笑，命李試其技。李乃解衣唾手，如猿飛，如鳥落，騰躍移時，詡詡然交叉而立。僧又笑曰：「可矣。子既盡吾能，請一角低昂。」李忻然，即各交臂作勢。既而支撐格拒，李時時蹈僧瑕，僧忽一腳飛擲，李已仰跌丈餘。僧撫掌曰：「子尚未盡吾能也。」李以掌致地，慚沮請教。又數日，僧辭去。

李由此以名，遨游南北，罔有其對。偶適歷下，見一少年尼僧弄藝於場，觀者填溢。尼告眾客曰：「顛倒一身，殊大冷落。有好事者，不妨下場一撲為戲。」如是三言。眾相顧，迄無應者。李在側，不覺技癢，意氣而進。尼便笑與合掌。才一交手，尼便呵止曰：「此少林宗派也。」即問：「尊師何人？」李初不言，尼固詰之，乃以僧告。尼拱手曰：「憨和尚汝師耶？若爾，不必交手足，願拜下風。」李請之再四，尼不可。眾慙息之，尼乃曰：「既是憨師弟子，同是個中人，無妨一戲。但兩相會意可耳。」李諾之。然以其文弱故，易之。又年少喜勝，思欲敗之，以要一日之名。方頡頏間，尼即遽止，李問其故，但笑不言，李以為怯，固請再角。尼乃起。少間

李騰一蹶去，尼駢五指下削其股，李覺膝下如中刀斧，蹶僕不能起。尼笑謝曰：「孟浪迂客，幸勿罪！」李異歸，月餘始愈，後年餘，僧復來，為述往事。僧驚曰：「汝大鹵莽！惹他何為？幸先以我名告之，不然，股已斷矣！」

### 五、五、小人

康熙間有術人攜一榼，榼藏小人長尺許。投一錢，則啟榼令出，唱曲而退。至掖，掖宰索榼入署，細審小人出處。初不敢言，固詰之，方自述其鄉族。蓋讀書童子，自塾中歸，為術人所迷，復投以藥，四體暴縮，彼遂攜之，以為戲具。宰怒，杖殺術人。

五、六、秦生

萊州秦生制藥酒，誤投毒味，未忍傾棄，封而置之。積年餘，夜適思飲，而無所得酒。忽憶所藏，啟封嗅之，芳烈噴溢，腸癢涎流，不可制止。取盞將嘗，妻苦勸諫。生笑曰：「快飲而死，勝於饑渴而死多矣。」一盞既盡，倒瓶再斟。妻覆其瓶，滿屋流溢，生伏地而牛飲之。少時，腹痛口噤，中夜而卒。妻號，為備棺木，行入殮。次夜，忽有美人入，身不滿三尺，徑就靈寢，以甌水灌之，豁然頓蘇。叩而詰之，曰：「我狐仙也。適丈夫入陳家，竊酒醉死，往救而歸，偶過君家，彼憐君子與己同病，故使妾以餘藥活之也。」言訖不見。余友人邱行素貢士，嗜飲。一夜思酒，而無可行沽，輾轉不可復

忍，因思代以醋。謀諸婦，婦嗤之。邱固強之，乃煨醢以進。壺既盡，始解衣甘寢。次日，竭壺酒之資，遣僕代沽。道遇伯弟襄宸，詰知其故，因疑嫂不肯為兄謀酒。僕言：「夫人云：『家中蓄醋無多，昨夜已盡其半；恐再一壺，則醋根斷矣。』」聞者皆笑之。不知酒興初濃，即毒藥甘之，況醋乎？此亦可以傳矣。

### 五、七、鴉頭

諸生王文，東昌人，少誠篤。薄游於楚，過六河，休於旅舍，乃步門外。遇里戚趙東樓，大賈也，常數年不歸。見王，相執甚歡，便邀臨存。至其所，有美人坐室中，愕怪卻步。趙

曳之，又隔窗呼妮子去。王乃入。趙具酒饌，話溫涼。王問：「此何處所？」答云：「此是小勾欄。餘因久客，暫假床寢。」話間，妮子頻來出入，王局促不安，離席告別，趙強捉令坐。

俄見一少女經門外過，望見王，秋波頻顧，眉目含情，儀容嫵婉，實神仙也。王素方直，至此惘然若失，便問：「麗者何人？」趙曰：「此媪次女，小字鴉頭，年十四矣。纏頭者屢以重金啖媪，女執不願，致母鞭楚，女以齒稚哀免。今尚待聘耳。」王聞言，俯首默然癡坐，酬應悉乖。趙戲之曰：「君倘垂意，當作冰斧。」王憮然曰：「此念所不敢存。」然日向夕絕不言去。趙又戲請之，王曰：「雅意極所感佩，囊澀奈

何！趙知女性激烈，必當不允，故許以十金為助。王拜謝趨出，罄資而至，得五數，強趙致媪，媪果少之。鴉頭言於母曰：「母日責我不作錢樹子，今請得如母所願。我初學作人，報母有日，勿以區區放卻財神去。」媪以女性拗執，但得允從，即甚歡喜。遂諾之，使婢邀王郎。趙難中悔，加金付媪。

王與女歡愛甚至。既，謂王曰：「妾煙花下流，不堪匹敵，既蒙繾綣，義即至重。君傾囊博此一宵歡，明日如何？」王泫然悲哽。女曰：「勿悲。妾委風塵，實非所願。顧未有敦篤如君可托者。請以宵遁。」王喜遽起，女亦起。聽譙鼓已三下矣。女急易男裝，草草偕出，叩主人扉。王故從雙衛，托

以急務，命僕便發。女以符系僕股並驢耳上，縱轡極馳，目不容啟，耳後但聞風鳴，平明至漢口，稅屋而止。王驚其異，女曰：「言之，得無懼乎？妾非人，狐耳。母貪淫，日遭虐遇，心所積懣，今幸脫苦海。百里外即非所知，可幸無恙。」王略無疑貳，從容曰：「室對芙蓉，家徒四壁，實難自慰，恐終見棄置。」女曰：「何必此慮。今市貨皆可居，三數口，淡薄亦可自給。可鬻驢子作資本。」王如言，即門前設小肆，王與僕人躬同操作，賣酒販漿其中。女作披肩，刺荷囊，日獲贏餘，顧瞻甚優。積年餘，漸能蓄婢媪，王自是不著犢鼻，但課督而已。

女一日悄然忽悲，曰：「今夜合有難作，奈何！」王問之，女曰：「母已知妾消息，必見凌逼。若遣姊來吾無憂，恐母自至耳。」夜已央，自慶曰：「不妨，阿姊來矣。」居無何，妮子排闥入，女笑逆之。妮子罵曰：「婢子不羞，隨人逃匿！老母令我縛去。」即出索子繫女頸。女怒曰：「從一者得何罪？」妮子益忿，捽女斷衿。家中婢媪皆集，妮子懼，奔出。女曰：「姊歸，母必自至。大禍不遠，可速作計。」乃急辦裝，將更播遷。媪忽掩入，怒容可掬，曰：「我固知婢子無禮，須自來也！」女迎跪哀啼，媪不言，揪發提去。王徘徊愴惻，眠食都廢，急詣六河，翼得賄贖。至則門庭如故，人物已非，問之居人，俱不知其所徙。悼喪而返。於是俵散客

旅，囊資東歸。後數年偶入燕都，過育嬰堂，見一兒，七八歲。僕人怪似其主，反復凝注之。王問：「看兒何說？」僕笑以對，王亦笑。細視兒，風度磊落。自念乏嗣，因其肖己，愛而贖之。詰其名，自稱王孜。王曰：「子棄之襁褓，何知姓氏？」曰：「本師嘗言，得我時，胸前有字，書山東王文之子。」王大駭曰：「我即王文，烏得有子？」念必同己姓名者，心竊喜，甚愛惜之。及歸，見者不問而知為王生子。孜漸長，孔武有力，喜田獵，不務生產，樂鬥好殺，王亦不能鉗制之。又自言能見鬼狐，悉不之信。會里中有患狐者，請孜往覘之。至則指狐隱處，令數人隨指處擊之，即聞狐鳴，毛血交落，自是遂安。由是人益異之。

王一日游市廛，忽遇趙東樓，巾袍不整，形色枯黯。驚問所來，趙慘然請問。王乃偕歸，命酒。趙曰：「媼得鴉頭，橫施楚掠。既北徙，又欲奪其志。女矢志不二，因囚置之。生一男棄之曲巷，聞在育嬰堂，想已長成，此君遺體也。」王出涕曰：「天幸孽兒已歸。」因述本末。問：「君何落拓至此？」嘆曰：「今而知青樓之好，不可過認真也。夫何言！」先是，媼北徙，趙以負販從之。貨重難遷者，悉以賤售。途中腳直供億，煩費不資，因大虧損，妮子索取尤奢。數年，萬金蕩然。媼見床頭金盡，旦夕加白眼。妮子漸寄貴家宿，恆數夕不歸。趙憤激不可耐，然亦無可如何。適媼他出，鴉頭自窗中呼趙曰：「勾欄中原無情好，所綢繆者，錢耳。君依戀不去，將

掇奇禍。」趙懼，如夢初醒。臨行竊往視女，女授書使達王，趙乃歸。因以此情為王述之。即出鴉頭書，書云：「知汝兒已在膝下矣。妾之厄難，東樓君自能面悉。前世之孽，夫何可言！妾幽室之中，暗無天日，鞭創裂膚，饑火煎心，易一晨昏，如歷年歲。君如不忘漢上雪夜單衾，迭互暖抱時，當與兒謀，必能脫妾於厄。母姊雖忍，要是骨肉，但囑勿致傷殘，是所願耳。」王讀之，泣不自禁，以金帛贈趙而去。

時孜年十八矣，王為述前後，因示母書。孜怒眦欲裂，即日赴都，詢吳媪居，則車馬方盈。孜直入，妮子方與湖客飲，望見孜，愕立變色。孜驟進殺之，賓客大駭，以為寇。及視女尸，已化為狐。孜持刀徑入，見媪督婢作羹。孜奔近室門，媪

忽不見，攷四顧，急抽矢望屋梁射之，一狐貫心而墮，遂決其首。尋得母所，投石破扃，母子各失聲。母問媪，曰：「已誅之。」母怨曰：「兒何不聽吾言！」命持葬郊野。攷偽諾之，剝其皮而藏之。檢媪箱篋，盡卷金資，奉母而歸。夫婦重諧，悲喜交至。既問吳媪，攷言：「在吾囊中。」驚問之，出兩革以獻。母怒，罵曰：「忤逆兒！何得此為！」號痛自撻，轉側欲死。王極力撫慰，叱兒瘞革。攷忿曰：「今得安樂所，頓忘撻楚耶？」母益怒，啼不止。攷葬皮反報，始稍釋。

王白女歸，家益盛。心德趙，報以巨金，趙始知母子皆狐也。攷承奉甚孝；然誤觸之，則惡聲暴吼。女謂王曰：「兒有拗筋，不刺去，終當殺身傾產。」夜伺攷睡，潛繫其手足。攷

醒曰：「我無罪。」母曰：「將醫爾虐，其勿苦。」孜大叫，轉側不可開。女以巨針刺踝骨側三四分許，用刀掘斷，崩然有聲，又於肘間腦際並如之。已乃釋縛，拍令安臥。天明，奔候父母，涕泣曰：「兒早夜憶昔所行，都非人類！」父母大喜，從此溫和如處女，鄉里賢之。

異史氏曰：「妓盡狐也。不謂有狐而妓者，至狐而鴉，則獸而禽矣。滅理傷倫，其何足怪？至百折千磨，之死靡他，此人類所難，而乃於狐也得之乎？唐太宗謂魏徵更饒嫵媚，吾於鴉頭亦云。」

五、八、酒蟲

長山劉氏，體肥嗜飲，每獨酌輒盡一甕。負郭田三百畝，輒半種黍，而家豪富，不以飲為累也。一番僧見之，謂其身有異疾。劉答言：「無。」僧曰：「君飲嘗不醉否？」曰：「有之。」曰：「此酒蟲也。」劉愕然，便求醫療。曰：「易耳。」問：「需何藥？」俱言不需。但令於日中俯臥，繫手足，去首半尺許置良醞一器。移時燥渴，思飲為極，酒香入鼻，饒火上熾，而苦不得飲。忽覺咽中暴癢，哇有物出，直墮酒中。解縛視之，赤肉長二寸許，蠕動如游魚，口眼悉備。劉驚謝，酬以金，不受，但乞其蟲。問：「將何用？」曰：「此酒之精，

甕中貯水，入蟲攪之，即成佳釀。」劉使試之，果然。劉自是惡酒如仇。體漸瘦，家亦日貧，後飲食至不能給。

異史氏曰：「日盡一石，無損其富；不飲一斗，適以益貧。豈飲啄固有數乎哉？或言：『蟲是劉之福，非劉之病，僧愚之以成其術。』然歟否歟？」

### 五、九、木雕美人

商人白有功言：在灤口河上，見一人荷竹簾，牽巨犬二。於簾中出木雕美人高尺餘，手自轉動，艷妝如生。又以小錦韉被犬身，便令跨坐。安置已，叱犬疾奔。美人自起，學解馬作諸劇，鐙而腹藏，腰而尾贅，跪拜起立，靈變不訛。又作

昭君出塞，別取一木雕兒，插雉尾，披羊裘，跨犬從之。昭君頻頻回顧，羊裘兒揚鞭追逐，真如生者。

### 五、十、封三娘

範十一娘，□ 城祭酒之女，少艷美，騷雅尤絕。父母鐘愛之，求聘者輒令自擇，女恆少所可。會上元日，水月寺中諸尼作「盂蘭盆會」。是日，游女如云，女亦詣之。方隨喜間，一女子步趨相從，屢望顏色，似欲有言。審視之，二八絕代姝也。悅而好之，轉用盼注。女子微笑曰：「姊非範十一娘乎？」答曰：「然。」女子曰：「久聞芳名，人言果不虛謬。」十一娘亦審里居，女笑曰：「妾封氏，第三，近在鄰村。」把臂

歡笑，詞致溫婉，於是大相愛悅，依戀不舍。十一娘問：「何無伴侶？」曰：「父母早逝，家中止一老嫗留守門戶，故不得來。」十一娘將歸，封凝眸欲涕，十一娘亦惘然，遂邀過從。封曰：「娘子朱門繡戶，妾素無葭莩親，慮致譏嫌。」十一娘固邀之。答：「俟異日。」十一娘乃脫金釵一股贈之，封亦摘髻上綠簪為報。十一娘既歸，傾想殊切。出所贈簪，非金非玉，家人都不之識，甚異之。日望其來，悵然遂病。父母訊得故，使人於近村諮訪，並無知者。時值重九，十一娘羸頓無聊。倩侍兒強扶窺園，設褥東籬下。忽一女子攀垣來窺，覘之，則封女也。呼曰：「接我以力？」侍兒從之，驀然遂下。十一娘驚喜，頓起，曳坐褥間，責其負約，且問所來。

答云：「妾家去此尚遠，時來舅家作耍。前言近村者，緣舅家耳。別後懸思頗苦，然貧賤者與貴人交，足未登門，先懷慚恚，恐為婢僕下眼覷，是以不果來。適經墻外過，聞女子語，便一攀望，冀是小姐，今果如願。」十一娘因述病源，封泣下如雨，因曰：「妾來當須秘密。造言生事者，飛短流長，所不堪受。」十一娘諾。偕歸同榻，快與傾懷，病尋愈。訂為姊妹，衣服履舄，輒互易著。見人來，則隱匿夾幕間。

積五六月，公及夫人頗聞之。一日，兩人方對弈，夫人掩入。諦視，驚曰：「真吾兒友也！」因謂十一娘：「閨中有良友，我兩人所歡，胡不早言？」十一娘因達封意。夫人顧謂三娘曰：「伴吾兒，極所忻慰，何昧之？」封羞暈滿頰，默然拈帶。

而已。夫人去，封乃告別，十一娘苦留之，乃止。一夕，自門外匆忙奔入，泣曰：「我固謂不可留，今果遭此大辱！」驚問之。曰：「適出更衣，一少年丈夫，橫來相干，幸而得逃。如此，復何面目！」十一娘細詰形貌，謝曰：「勿須怪，此妾癡兄。會告夫人，杖責之。」封堅辭欲去。十一娘請待天曙。封曰：「舅家咫尺，但須一梯度我過牆耳。」十一娘知不可留，使兩婢逾牆送之。行半里許，辭謝自去。婢返，十一娘扶床悲惋，如失伉儷。

後數月，婢以故至東村，暮歸，遇封女從老嫗來。婢喜，拜問，封亦惻惻，訊十一娘興居。婢捉袂曰：「三姑過我。我家姑姑盼欲死！」封曰：「我亦思之，但不樂使家人知。歸啟

園門，我自至。」婢歸告十一娘，十一娘喜，從其言，則封已在園中矣。相見，各道間闊，綿綿不寐。視婢子眠熟，乃起，移與十一娘同枕，私語曰：「妾固知娘子未字。以才色門第，何患無貴介婿，然褲褲兒敖不足數，如欲得佳偶，請無以貧富論。」十一娘然之。封曰：「舊年邂逅處，今復作道場，明日再煩一往，當令見一如意郎君。妾少讀相人書，頗不參差。」味爽封即去，約俟蘭若，十一娘果往，封已先在。眺覽一周，十一娘便邀同車。攜手出門，見一秀才，年可十七八，布袍不飾，而容儀俊偉。封潛指曰：「此翰苑才也。」十一娘略睨之，封別曰：「娘子先歸，我即繼至。」入暮果至，曰：「我適物色甚詳，其人即同里孟安仁也。」十一

娘知其貧，不以為可。封曰：「娘子何墮世情哉！此人苟長貧賤者，予當抉眸子，不復相天下士矣。」十一娘曰：「且為奈何？」曰：「願得一物，持與訂盟。」十一娘曰：「姊何草草？父母在，不遂如何？」封曰：「妾此為，正恐其不遂耳。志若堅，生死何可奪也？」十一娘必不可。封曰：「娘子姻緣已動，而魔劫未消。所以故，來報前好耳。請即別，即以所贈金鳳釵，矯命贈之。」十一娘方謀更商，封已出門去。

時孟生貧而多才，意將擇耦，故十八猶未聘也。是日，忽睹兩艷，歸涉冥想。一更向盡，封三娘款門而入。燭之，識為日中所見，喜致詰問。曰：「妾封氏，範十一娘之女伴也。」生大悅，不暇細審，遽前擁抱。封拒曰：「妾非毛遂，乃曹

丘生。十一娘願締永好，請倩冰也。」生愕然不信，封乃以釵示生。生喜不自已，矢曰：「勞眷注如此，僕不得十一娘，寧終鰥耳。」封遂去。生詰旦，浼鄰媪詣範夫人。夫人貧之，竟不商女，立便卻去。十一娘知之，心失所望，深恨封之誤己也，而金釵難返，只須以死矢之。

又數日，有某紳為子求婚，恐不諧，浼邑宰作伐。時某方居權要，範公心畏之。以問十一娘，十一娘不樂，母詰之，默不言，但有涕淚。使人潛告夫人，非孟生不嫁。公聞益怒，竟許某紳家；且疑十一娘有私意於生，遂涓吉速成禮。十一娘忿不食，日惟耽臥。至親迎之前夕，忽起，攬鏡自妝，夫

人竊喜。俄侍女奔曰：「小姐自縊死！」舉家驚涕，痛悔無所復及。三日遂葬。

孟生自鄰媪反命，憤恨欲絕。然遙遙探訪，妄冀復挽。察知佳人有主，忿火中燒，萬慮俱斷矣。未幾，聞玉葬香埋，然悲喪，恨不從麗人俱死。向晚出門，意將乘昏夜一哭十一娘之墓。歎有一人來，近之，則封三娘。向生道喜曰：「喜姻好可就矣。」生泫然曰：「卿不知十一娘亡耶？」封曰：「我所謂就者，正以其亡。可急喚家人發塚，我有異藥能令蘇。」生從之，發墓破棺，復掩其穴。生自負尸，與三娘俱歸，置榻上，投以藥，逾時而蘇。顧見三娘，問：「此何所？」封指

生曰：「此孟安仁也。」因告以故，始知復生。封懼漏洩，相將去五十里，避匿山村。

封欲辭去，十一娘乞留作伴，使別院居。因貨殉葬之飾，用為資度，亦稱小有。封每遇生來輒避去，十一娘從容曰：「吾姊妹骨肉不啻也，然終無百年聚。計不如效英、皇。」封曰：「妾少得異訣，吐納可以長生，故不願嫁耳。」十一娘笑曰：「世傳養生術，汗牛充棟，行而效者誰也？」封曰：「妾所得非人世所知。世所傳並非真訣，惟華陀五禽圖差為不妄。凡修煉家，無非欲血氣流通耳，若得厄逆癥，作虎形立止，非其驗耶？」十一娘陰與生謀，使偽為出者。入夜，強勸以酒，既醉，生潛入污之。三娘醒曰：「妹子害我矣！倘色戒不破，道成

當升第一天。今墮奸謀，命耳！」乃起告辭。十一娘告以誠意而哀謝之。封曰：「實相告：我乃狐也。緣瞻麗容，忽生愛慕，如繭自纏，遂有今日。此乃情魔之劫，非關人力。再留則魔更生，無底止矣。娘子福澤正遠，珍重自愛。」言已而逝。夫妻驚嘆久之。

逾年，生鄉、會果捷，官翰林。投刺謁範公，公愧悔不見；固請之，乃見。生入，執子婿禮，伏拜甚恭。公大怒，疑生儂薄。生請問，具道情事。公不深信，使人探諸其家，方大驚喜。陰戒勿宣，懼有禍變。又二年，某紳以關節發覺，父子充遼海軍。十一娘始歸寧焉。

五、十一、狐夢

余友畢怡庵，個儻不群，豪縱自喜，貌豐肥，多髭，士林知名。嘗以故至叔刺史公之別業，休憩樓上。傳言樓中故多狐。畢每讀《青鳳傳》，心輒向往，恨不一遇。因於樓上攝想凝思，既而歸齋，日已寢暮。

時暑月燠熱，當戶而寢。睡中有人搖之，醒而卻視則一婦人，年逾四十，而風韻猶存。畢驚起，問為誰，笑曰：「我狐也。蒙君注念，心竊感納。」畢聞而喜，投以嘲謔。婦笑曰：「妾齒加長矣，縱人不見惡，先自漸沮。有小女及笄，可侍巾櫛。明宵，無寓人於室，當即來。」言已而去。至夜，焚香

坐伺，婦果攜女至。態度嫵婉，曠世無匹。婦謂女曰：「畢郎與有夙緣，即須留止。明日早歸，勿貪睡也。」畢乃握手入幃，款曲備至。事已笑曰：「肥郎癡重，使人不堪。」未明即去。既夕自來，曰：「姊妹輩將為我賀新郎，明日即屈同去。」問：「何所？」曰：「大姊作筵主，此去不遠也。」畢果候之。良久不至，身漸倦惰。才伏案頭，女忽入曰：「勞君久伺矣。」乃握手而行。奄至一處有大院落，直上中堂，則見燈燭熒熒，燦若星點。俄而主人至，年近二旬，淡妝絕美。斂衽稱賀已，將踐席，婢入曰：「二娘子至。」見一女子入，年可十八九，笑向女曰：「妹子已破瓜矣。新郎頗如意否？」女以扇擊背，白眼視之。二娘曰：「記兒時與妹相撲

為戲，妹畏人數脅骨，遙呵手指，即笑不可耐。便怒我，謂我當嫁倭僥國小王子。我謂婢子他日嫁多髭郎，刺破小吻，今果然矣。」大娘笑曰：「無怪三娘子怒詛也！新郎在側，直爾憨跳！」頃之，合尊促坐，宴笑甚歡。

忽一少女抱一貓至，年可十二三，雛發未燥，而艷媚入骨。大娘曰：「四妹妹亦要見姊丈耶？此無坐處。」因提抱膝頭，取肴果餌之。移時，轉置二娘懷中，曰：「壓我脛股酸痛！」二姊曰：「婢子許大，身如百鈞重，我脆弱不堪；既欲見姊丈，姊丈故壯偉，肥膝耐坐。」乃捉置畢懷。入懷香軟，輕若無人。畢抱與同杯飲，大娘曰：「小婢勿過飲，醉失儀容，恐姊丈所笑。」少女孜孜展笑，以手弄貓，貓戛然鳴。大娘

曰：「尚不拋卻，抱走蚤虱矣！」二娘曰：「請以狸奴為令，執箸交傳，鳴處則飲。」眾如其教。至畢輒鳴；畢故豪飲，連舉數觥，乃知小女子故捉令鳴也，因大喧笑。一姊曰：「小妹子歸休！壓殺郎君，恐三姊怨人。」小女郎乃抱貓去。

大姊見畢善飲，乃摘髻子貯酒以勸。視髻僅容升許，然飲之覺有數斗之多。比干視之，則荷蓋也。二娘亦欲相酬，畢辭不勝灑。二娘出一口脂合子，大於彈丸，酌曰：「既不勝酒，聊以示意。」畢視之，一吸可盡，接吸百口，更無干時。女在旁以小蓮杯易合子去，曰：「勿為奸人所算。」置合案上，則一巨鉢。二娘曰：「何預汝事！」三日郎君，便如許親愛耶！畢持杯向口立盡。把之，膩軟；審之，非杯，乃羅襪一鉤，

襯飾工絕。二娘奪罵曰：「猾婢！何時盜人履子去，怪足冰冷也！」遂起，入室易舄。

女約畢離席告別，女送出村，使畢自歸。瞥然醒寤，竟是夢景，而鼻口醺醺，酒氣猶濃，異之。至暮女來，曰：「昨宵未醉死耶？」畢言：「方疑是夢。」女曰：「姊妹怖君狂噪，故托之夢，實非夢也。」女每與畢弈，畢輒負。女笑曰：「君曰嗜此，我謂必大高著。今視之，只平平耳。」畢求指誨，女曰：「弈之為術，在人自悟，我何能益君？朝夕漸染，或當有益。」居數月，畢覺稍進。女試之，笑曰：「尚未，尚未。」畢出，與所嘗共弈者游，則人覺其異，稍咸奇之。

畢為人坦直，胸無宿物，微洩之。女已知，責曰：「無惑乎同道者不交狂生也！屢囑甚密，何尚爾爾？」佛然欲去。畢謝過不遑，女乃稍解，然由此來淺疏矣。積年餘，一夕來，兀坐相向。與之弈，不弈；與之寢，不寢。悵然良久，曰：「君視我孰如青鳳？」曰：「殆過之。」曰：「我自慚弗如。然聊齋與君文字交，請煩作小傳，未必千載下無愛憶如君者。」曰：「夙有此志。曩遵舊囑，故秘之。」女曰：「向為是囑，今已將別，復何諱？」問：「何往？」曰：「妾與四妹妹為西王母徵作花鳥使，不復得來矣。曩有姊行，與君家叔兄，臨別已產二女，今尚未醮；妾與君幸無所累。」畢求贈言，曰：「盛

氣平，過自寡。」遂起，捉手曰：「君送我行。」至里許，灑涕分手，曰：「役此有志，未必無會期也。」乃去。

康熙二十一年臘月十九日，畢子與餘抵足綽然堂，細述其異。餘曰：「有狐若此，則聊齋筆墨有光榮矣。」遂志之。

### 五、十二、布客

長清某，販布為業，客於泰安。聞有術人工星命之學，詣問休咎。術人推之曰：「運數大惡，可速歸。」某懼，囊資北下。途中遇一短衣人，似是隸胥，漸漬與語，遂相知悅，屢市餐飲，呼與共啜。短衣人甚德之，某問所營干，答曰：「將適長清，有所勾致。」問為何人，短衣人出牒，示令自審，第

一即己姓名。駭曰：「何事見勾？」短衣人曰：「我乃蒿里人，東四司隸役。想子壽數盡矣。」某出涕求救。鬼曰：「不能。然牒上名多，拘集尚需時日。子速歸處置後事，我最後相招，此即所以報交好耳。」

無何，至河際，斷絕橋梁，行人艱涉。鬼曰：「子行死矣，一文亦將不去。請即建橋利行人，雖頗煩費，然於子未必無小益。」某然之，及歸，告妻子作周身具。克日鳩工建橋。久之，鬼竟不至，心竊疑之。一日，鬼忽來曰：「我已以建橋事上報城隍，轉達冥司矣。謂此一節可延壽命。今牒名已除，敬以報命。」某喜感謝。後再至泰山，不忘鬼德，敬齋楮錠，呼名酬奠。既出，見短衣人匆遽而來曰：「子幾禍我！適司

君方蒞事，幸不聞知。不然，奈何！」送之數武，曰：「後勿復來。倘有事北往，自當迂道過訪。」遂別而去。

五、十三、農人

有農人耕於山下，婦以陶器為餉，食已置器壟畔，向暮視之，器中餘粥盡空。如是者屢。心疑之，因睨注以覘之。有狐來，探首器中。農人荷鋤潛往，力擊之，狐驚竄走。器囊頭，苦不得脫，狐顛蹶觸器碎落，出首，見農人，竄益急，越山而去。

後數年，山南有貴家女，苦狐纏崇，敕勒無靈。狐謂女曰：「紙上符咒，能奈我何！」女給之曰：「汝道術良深，可幸永好。」

顧不知生平亦有所畏者否？」狐曰：「我罔所怖。但十年前在北山時，嘗竊食田畔，被一人戴闊笠，持曲項兵，幾為所戮，至今猶悸。」女告父。父思投其所畏，但不知姓名、居里，無從問訊。會僕以故至山村，向人偶道。旁一人驚曰：「此與予曩年事適相符，將無向所逐狐，今能為怪耶？」僕異之，歸告主人。主人喜，即命僕持馬招農人來，敬白所求。農人笑曰：「曩所遇誠有之，顧未必即為此物。且既能怪變，豈復畏一農人？」貴家固強之，使披戴如爾日狀，入室以鋤卓地；吒曰：「我日覓汝不可得，汝乃逃匿在此耶！今相值，決殺不宥！」言已，即聞狐鳴於室。農人益作威怒，狐即哀告乞

命，農人叱曰：「速去，釋汝。」女見狐捧頭鼠竄而去。自是遂安。

五、十四、章阿端

衛輝戚生，少年蘊藉，有氣敢任。時大姓有巨第，白晝見鬼，死亡相繼，願以賤售。生廉其直購居之。而第闊人稀，東院樓亭，蒿艾成林，亦姑廢置。家人夜驚，輒相嘩以鬼。兩月餘，喪一婢。無何，生妻以暮至樓亭，既歸得疾，數日尋斃。家人益懼，勸生他徙，生不聽。而塊然無偶，僚慄自傷。婢僕輩又時以怪異相聒。生怒，盛氣襆被，獨臥荒亭中，留燭以覘其異。久之無他，亦竟睡去。

忽有人以手探被，反復捫搦。生醒視之，則一老大婢，攣耳蓬頭，臃腫無度。生知其鬼，捉臂推之，笑曰：「尊範不堪承教！」婢慚，斂手蹀躞而去。少頃，一女郎自西北隅出，神情婉妙，闖然至燈下，怒罵：「何處狂生，居然高臥！」生起笑曰：「小生此間之地主，候卿討房稅耳。」遂起，裸而捉之。女急遁，生先趨西北隅阻其歸路，女既窮，便坐床上。近臨之，對燭如仙，漸擁諸懷。女笑曰：「狂生不畏鬼耶？將禍爾死！」生強解裙襦，則亦不甚抗拒。已而自白曰：「妾章氏，小字阿端。誤適蕩子，剛愎不仁，橫加折辱，憤悒夭逝，瘞此二十餘年矣。此宅下皆墳塚也。」問：「老婢何人？」曰：「亦一故鬼，從妾服役。上有生人居，則鬼不安於夜室，

適令驅君耳。」問：「捫搦何為？」笑曰：「此婢三十年未經人道，其情可憫，然亦太不自量矣。要之：餒怯者，鬼益侮弄之，剛腸者不敢犯也。」聽鄰鐘響斷，著衣下床，曰：「如不見猜，夜當復至。」

入夕果至，綢繆益歡。生曰：「室人不幸殂謝，感悼不釋於懷。卿能為我致之否？」女聞之益戚，曰：「妾死二十年，誰一置念憶者！君誠多情，妾當極力。然聞投生有地矣，不知尚在冥司否。」逾夕告生曰：「娘子將生貴人家。以前生失耳環，撻婢，婢自縊死，此案未結，以故遲留。今尚寄藥王廊下，有監守者，妾使婢往行賄，或將來也。」生問：「卿何閑散？」曰：「凡枉死鬼不自投見，閻摩天子不及知也。」二鼓

向盡，老婢果引生妻而至。生執手大悲，妻含涕不能言。女別去，曰：「兩人可話契闊，另夜請相見也。」生慰問婢死事。妻曰：「無妨，行結矣。」上床偎抱，款若平生之歡。由此遂以為常。

後五日，妻忽泣曰：「明日將赴山東，乖離苦長，奈何！」生聞言，揮涕流離，哀不自勝。女勸曰：「妾有一策，可得暫聚。」共收涕詢之。女請以錢紙十提，焚南堂杏樹下，持賄押生者，俾緩時日，生從之。至夕妻至，曰：「幸賴端娘，今得十日聚。」生喜，禁女勿去，留與連床，暮以暨曉，惟恐歡盡。過七八日，生以限期將滿，夫妻終夜哭。問計於女，女曰：「勢難再謀。然試為之，非冥資百萬不可。」生焚之

如數。女來，喜曰：「妾使人與押生者關說，初甚難，既見多金，心始搖。今已以他鬼代生矣。」自此，白日亦不復去，今生塞戶牖，燈燭不絕。

如是年餘，女忽病，瞶悶懊懣，恍惚如見鬼狀。妻撫之曰：「此為鬼病。」生曰：「端娘已鬼，又何鬼之能病？」妻曰：「不然。人死為鬼，鬼死為鬻。鬼之畏鬻，猶人之畏鬼也。生欲為聘巫醫。曰：『鬼何可以人療？鄰媪王氏，今行術於冥間，可往召之。』然去此十餘里，妾足弱不能行，煩君焚芻馬。」生從之。馬方爇，即見婢女牽赤騮，授綏庭下，轉瞬已杳，少間，與一老嫗疊騎而來，繫馬廊柱。嫗入，切女十指。既而端坐，首

□ 悚作態。僕地移時，蹶而起曰：「我黑山大王

也。娘子病大篤，幸遇小神，福澤不淺哉！此業鬼為殃，不妨，不妨！但是病有廖，須厚我供養，金百錠、錢百貫，盛筵一設，不得少缺。」妻一一嚶應。媪又僕而蘇，向病者呵叱，乃已。既而欲去。妻送諸庭外，贈之以馬，欣然而去。入視女郎，似稍醒。夫妻大悅，撫問之。女忽言曰：「妾恐不得再履人世矣。合日輒見冤鬼，命也！」因泣下。越宿，病益沉殆，曲體戰慄，若有所睹。拉生同臥，以首入懷，似畏撲捉。生一起，則驚叫不寧。如此六七日，夫妻無所為計。會生他出，半日而歸，聞妻哭聲，驚問，則端娘已斃床上，委蛻猶存。啟之，白骨儼然。生大慟，以生人禮葬於祖墓之側。

一夜，妻夢中嗚咽，搖而問之，答云：「適夢端娘來，言其夫為漕鬼，怒其改節泉下，銜恨索命去，乞我作道場。」生早起，即將如教。妻止之曰：「度鬼非君所可與力也。」乃起去。逾刻而來，曰：「余已命人邀僧侶。當先焚錢紙作用度。」生從之。日方落，僧眾畢集，金鐃法鼓，一如人世。妻每謂其聒耳，生殊不聞。道場既畢，妻又夢端娘來謝，言：「冤已解矣，將生作城隍之女。煩為轉致。」

居三年，家人初聞而懼，久之漸習。生不在，則隔窗啟稟。一夜，向生啼曰：「前押生者，今情弊漏洩，按責甚急，恐不能久聚矣。」數日果疾，曰：「情之所鐘，本願長死，不樂生也。今將永訣，得非數乎！」生皇遽求策，曰：「是不可為

也。」問：「受責乎？」曰：「薄有所責。然偷生之罪大，偷死之罪小。」言訖不動。細審之，面龐形質，漸就漸滅矣。生每獨宿亭中，冀有他遇，終亦寂然，人心遂安。

### 五、十五、餽飢媪

韓生居別墅半載，臘盡始返。一夜妻方臥，聞人視之。爐中煤火，熾耀甚明。見一媪，可八九十歲，雞皮橐背，衰發可數。向女曰：「食餽飢否？」女懼，不敢應。媪遂以鐵箸撥火，加釜其上，又注以水，俄聞湯沸。媪撩襟啟腰橐，出餽飢數十枚投湯中，歷歷有聲。自言曰：「待尋箸來」遂出門去。女乘媪去，急起捉釜傾簞後，蒙被而臥。少刻，媪至，

逼問釜湯所在。女大懼而號，家人盡醒，媪始去。啟篋照視，則土鱉蟲數十，堆累其中。

五、十六、金永年

利津金永年，八十二歲無子；媪亦七十八歲，自公絕望。忽夢神告曰：「本應絕嗣，念汝貿販平準，予一子。」醒以告媪。媪曰：「此真妄想。兩人皆將就木，何由生子？」無何，媪腹震動，十月，竟舉一男。

五、十七、花姑子

安幼輿，陝之撥貢生，為人揮霍好義，喜放生，見獵者獲禽，輒不惜重直買釋之。會舅家喪葬，往助執紼。暮歸，路經華

嶽，迷竄山谷中，心大恐。一矢之外，忽見燈火，趨投之。數武中，欵見一叟，傴僂曳杖，斜徑疾行。安停足，方欲致問，叟先詰誰何。安以迷途告，且言燈火處必是山村，將以投止。叟曰：「此非安樂鄉。幸老夫來，可從去，茅廬可以下榻。」安大悅，從行里許，睹小村。叟扣荆扉，一嫗出，啟關曰：「郎子來耶？」叟曰：「諾。」

既入，則舍宇湫隘。叟挑燈促坐，便命隨事具食。又謂嫗曰：「此非他，是吾恩主。婆子不能行步，可喚花姑子來釀酒。」俄女郎以饌具入，立叟側，秋波斜盼。安視之，芳容韶齒，殆類天仙。叟顧令煨酒。房西隅有煤爐，女郎入房撥火。安問：「此女公何人？」答云：「老夫章姓。七十年止有此女。」

田家少婢僕，以君非他人，遂敢出妻見子，幸勿哂也。」安問：「婿何家裡？」答言：「尚未。」安贊其惠麗，稱不容口。叟方謙挹，忽聞女郎驚號。叟奔入，則酒沸火騰。叟乃救止，訶曰：「老大婢，濡猛不知耶！」回首，見爐旁有菊心插紫姑未竟，又訶曰：「發蓬蓬許，裁如嬰兒！」持向安曰：「貪此生涯，致酒騰沸。蒙君子獎譽，豈不羞死！」安審諦之，眉目袍服，制甚精工。贊曰：「雖近兒戲，亦見慧心。」

斟酌移時，女頻來行酒，嫣然含笑，殊不羞澀。安注目情動。忽聞嫗呼，叟便去。安覩無人，謂女曰：「睹仙容，使我魂失。欲通媒妁，恐其不遂，如何？」女抱壺向火，默若不聞，屢問不對。生漸入室，女起，厲色曰：「狂郎人闖，將何為！」

生長跪哀之。女奪門欲去，安暴起要遮，狎接臆。女顫聲疾呼，叟匆遽入問。安釋手而出，殊切愧懼。女從容向父曰：「酒復湧沸，非郎君來，壺子融化矣。」安聞女言，心始安妥，益德之。魂魄顛倒，喪所懷來。於是偽醉離席，女亦遂去。叟設衾褥，闔扉乃出。

安不寐，未曙，呼別。至家，即浼交好者造廬求聘，終日而返，竟莫得其居里。安遂命僕馬，尋途自往。至則絕壁巉巖，竟無村落，訪諸近裏，此姓絕少。失望而歸，並忘寢食。由此得昏瞽之疾，強啖湯粥，則唾。欲吐，潰亂中，輒呼花姑子。家人不解，但終夜環伺之，氣勢阽危。一夜，守者困怠並寐，生矇矓中，覺有人揣而抗之。略開眸，則花姑

子立床下，不覺神氣清醒。熟視女郎，漣漣涕墮。女傾頭笑曰：「癡兒何至此耶？」乃登榻，坐安股上，以兩手為按太陽穴。安覺腦麝奇香，穿鼻沁骨。按數刻，忽覺汗滿天庭，漸達肢體。小語曰：「室中多人，我不便住。三日當復相望。」又於繡祛中出數蒸餅置床頭，悄然遂去。安至中夜，汗已思食，捫餅啖之。不知所苞何料，甘美非常，遂盡三枚。又以衣覆餘餅，懵騰酣睡，辰分始醒，如釋重負。三日餅盡，精神倍爽，乃遣散家人。又慮女來不得其門而入，潛出齋庭，悉脫扃鍵。

未幾女果至，笑曰：「癡郎子！不謝巫耶？」安喜極，抱與綢繆，恩愛甚至。已而曰：「妾冒險蒙垢，所以故，來報重恩耳。」

實不能永諧琴瑟，幸早別圖。」安默默良久，乃問曰：「素昧生平，何處與卿家有舊？實所不憶。」女不言，但云：「君自思之。」生固求永好。女曰：「屢屢夜奔固不可，常諧伉儷亦不能。」安聞言，悒悒而悲。女曰：「必欲相諧，明宵請臨妾家。」安乃收悲以忻，問曰：「道路遼遠，卿纖纖之步，何遂能來？」曰：「妾固未歸。東頭聾媪我姨行，為君故，淹留至今，家中恐所疑怪。」安與同衾，但覺氣息肌膚，無處不香。問曰：「熏何薝澤，致侵肌骨？」女曰：「妾生來便爾，非由熏飾。」安益奇之。女早起言別，安慮迷途，女約相候於路。安抵暮馳去，女果伺待，偕至舊所，叟媪歡逆。酒肴無佳品，雜具藜藿。既而請安寢，女子殊不瞻顧，頗涉疑念。更既深，

女始至，曰：「父母絮絮不寢，致勞久待。」浹洽終夜，謂安曰：「此宵之會，乃百年之別。」安驚問之，答曰：「父以小村孤寂，故將遠徙。與君好合，盡此夜耳。」安不忍釋，俯仰悲愴。依戀之間，夜色漸曙。叟忽然闖入，罵曰：「婢子玷我清門，使人愧怍欲死！」女失色，草草奔出。叟亦出，且行且詈。安驚孱愕怯，無以自容，潛奔而歸。

數日徘徊，心景殆不可過。因思夜往，逾墻以觀其便。叟固言有恩，即令事洩，當無大譴。遂乘夜竄往，蹀躞山中：迷悶不知所往。大懼。方覓歸途，見谷中隱有舍宇。喜詣之，則一閼高壯，似是世家，重門尚未扃也。安向門者訊章氏之居。有青衣人出，問：「昏夜何人詢章氏？」安曰：「是

吾親好，偶迷居向。」青衣曰：「男子無問章也。此是渠姪家，花姑即今在此，容傳白之。」入未幾，即出邀安。才登廊舍，花姑趨出迎，謂青衣曰：「安郎奔波中夜，想已困殆，可伺床寢。」少間，攜手入幃。安問：「姪家何別無人？」女曰：「姪他出，留妾代守。幸與郎遇，豈非夙緣？」然俛傍之際，覺甚膻腥，心疑有異，女抱安頸，遽以舌舐鼻孔，徹腦如刺。安駭絕，急欲逃脫，而身若巨綆之縛，少時悶然不覺矣。安不歸，家中逐者窮人跡，或言暮遇於山徑者。家人入山，則裸死危崖下。驚怪莫察其由，舁歸。

眾方聚哭，一女郎來吊，自門外噉啣而入。撫尸捺鼻，涕洟其中，呼曰：「天乎，天乎！何愚冥至此！」痛哭聲嘶，移時

乃已。告家人曰：「停以七日，勿殮也。」眾不知何人，方將啟問，女傲不為禮，含涕徑出，留之不顧。尾其後，轉眸已渺。群疑為神，謹遵所教。夜又來，哭如昨。至七夜，安忽蘇，反側以呻。家人盡駭。女子入，相向嗚咽。安舉手，揮眾令去。女出青草一束，燂湯升許，即床頭進之，頃刻能言。嘆曰：「再殺之惟卿，再生之亦惟卿矣！」因述所遇。女曰：「此蛇精冒妾也。前迷道時，所見燈光，即是物也。」安曰：「卿何能起死人而肉白骨也？母乃仙乎？」曰：「久欲言之，恐致驚怪。君五年前，曾於華山道上買獵獐而放之否？」曰：「然，其有之。」曰：「是即妾父也。前言大德，蓋以此故。君前日已生西村王主政家。妾與父訟諸閻摩王，閻摩王

弗善也。父願壞道代郎死，哀之七日，始得當。今之邂逅，幸耳。然君雖生，必且痿痺不仁，得蛇血合酒飲之，病乃可除。」生銜恨切齒，而慮其無術可以擒之。女曰：「不難。但多殘生命，累我百年不得飛升。其穴在老崖中，可於晡時聚茅焚之，外以強弩戒備，妖物可得。」言已，別曰：「妾不能終事，實所哀慘。然為君故，業行已損其七，幸憫宥也。月來覺腹中微動，恐是孽根。男與女，歲後當相寄耳。」流涕而去。

安經宿，覺腰下盡死，爬搔無所痛癢。乃以女言告家人。家人往，如其言，熾火穴中，有巨白蛇沖焰而出。數弩齊發，

射殺之。火熄入洞，蛇大小數百頭，皆焦且死。家人歸，以蛇血進。安服三日，兩股漸能轉側，半年始起。

後獨行谷中，遇老媪以繡席抱嬰兒授之，曰：「吾女致意郎君。」方欲問訊，瞥不復見。啟襁視之，男也。抱歸，竟不復娶。

異史氏曰：「人之所以異於禽獸者幾希，此非定論也。蒙恩銜結，至於沒齒，則人有慚於禽獸者矣。至於花姑，始而寄慧於憨，終而寄情於愬。乃知憨者慧之極，愬者情之至也。仙乎，仙乎！」

五、十八、武孝廉

武孝廉石某，囊資赴都，將求銓敘。至德州，暴病，唾血不起，長臥舟中。僕篋金亡去，石大恚，病益加，資糧斷絕，榜人謀委棄之。會有女子乘船，夜來臨泊，聞之，自願以舟載石。榜人悅，扶石登女舟。石視之，婦四十餘，被服燦麗，神採猶都。呻以感謝，婦臨審曰：「君夙有療根，今魂魄已游墟墓。」石聞之，噉然哀哭。婦曰：「我有丸藥，能起死。苟病瘳，勿相忘。」石灑泣矢盟。婦乃以藥餌石，半日，覺少痊。婦即榻供甘旨，殷勤過於夫婦。石益德之。月餘，病良已。石膝行而前，敬之如母。婦曰：「妾瑩獨無依，如不以色衰見憎，願侍巾櫛。」時石三十餘，喪偶經年，聞之，喜

愜過望，遂相燕好。婦乃出藏金，使入都營干，相約返與同歸。石赴都夤緣，選得本省司閫，餘金市鞍馬，冠蓋赫奕。因念婦臘已高，終非良偶，因以百金聘王氏女為繼室。心中悚怯，恐婦聞知，遂避德州道，迂途履任。年餘，不通音耗。有石中表，偶至德州，與婦為鄰。婦知之，詣問石況，某以實對，婦大罵，因告以情。某亦代為不平，慰解曰：「或署中務冗，尚未暇遑。乞修尺一書，為嫂寄之。」婦如其言。某敬以達石，石殊不置意。又年餘，婦自往歸石，止於旅舍，托官署司賓者通姓氏，石令絕之。一日，方燕飲，聞喧詈聲，釋杯凝聽，則婦已褰簾入矣。石大駭，面色如土。婦指罵曰：「薄情郎！安樂耶？試思富若貴何所自來？我與汝情分

不薄，即欲置婢妾，相謀何妨？」石累足屏氣，不能復作聲。久之，長跪自投，詭辭求宥，婦氣稍平。石與王氏謀，使以妹禮見婦。王氏雅不欲，石固哀之，乃往。王拜，婦亦答拜。曰：「妹勿懼，我非悍妒者。曩事，實人情所不堪，即妹亦不當願有是郎。」遂為王緬述本末。王亦憤恨，因與變詈石。石不能自為地，惟求自贖，遂相安帖。

初，婦之未入也，石戒閹人勿通。至此，怒閹人，陰詰讓之。閹人固言管鑰未發，無入者，不服。石疑之而不敢問婦。兩雖言笑，而終非所好也。幸婦嫻婉，不爭夕。三餐後，掩闥早眠，並不問良人夜宿何所。王初猶自危，見其如此，益敬之。厭旦往朝，如事姑嫜。婦御下寬和有體，而明察若神。一日，

石失印綬，合署沸騰，屑屑還往，無所為計。婦笑言：「勿憂，竭井可得。」石從之，果得。叩其故，輒笑不言。隱約間，似知盜者之姓名，然終不肯洩。居之終歲，察其行多異。石疑其非人，常於寢後使人輶聽之，但聞床上終夜作振衣聲，亦不知其何為。婦與王極相憐愛。

一夕，石以赴臬司未歸，婦與王飲，不覺醉，就臥席間，化而為狐。王憐之，覆以錦褥。未幾，石入，王告以異，石欲殺之。王曰：「即狐，何負于君？」石不聽，急覓佩刀。而婦已醒，罵曰：「虺蜮之行，而豺狼之性，必不可以久居！曩時啖藥，乞賜還也！」即唾石面。石覺森寒如澆冰水，喉中

習習作癢，嘔出，則丸藥如故。婦拾之，忿然徑出，追之已杳。石中夜舊癥復作，血嗽不止，半載而卒。

異史氏曰：「石孝廉翩翩若書生，或言其折節能下士，語人如恐傷。壯年殂謝，士林悼之。至聞其負狐婦一事，則與李十郎何以少異？」

五、十九、西湖主

陳生弼教，字明允，燕人也。家貧，從副將軍賈綰作記室。泊舟洞庭。適豬婆龍浮水面，賈射之中背。有魚銜龍尾不去，並獲之。鎖置桅間，奄存氣息，而龍吻張翕，似求援拯。生

惻然心動，請於賈而釋之。攜有金創藥，戲敷患處，縱之水中，浮沉逾刻而沒。

後年餘，生北歸，復經洞庭，大風覆舟。幸扳一竹籬，漂泊

終夜，僥徑 ㄟ 埂 T ㄟ 斗繳 ㄟ ㄟ 懈 ∈ 驚

討粒 ㄟ 蚱豔灼停 ㄟ \* 引出之，已就斃矣。慘怛無

聊，坐對憩息。但見小山聳翠，細柳搖青，行人絕少，無可

問途。自遲明以至辰後，悵悵靡之。忽僮僕肢體微動，喜而

捫之，無何，嘔水數斗，豁然頓蘇。相與曝衣石上，近午始

燥可著。而枵腸轆轤，饑不可堪。於是越山疾行，冀有村落。

才至半山，聞鳴鏑聲。方疑聽間，有二女郎乘駿馬來，騁如

撒菽。各以紅綃抹額，髻插雉尾，著小袖紫衣，腰束綠錦；

一挾彈，一臂青鞵。度過嶺頭，則數十騎獵於榛莽，並皆姝麗，裝束若一。生不敢前。有男子步馳，似是馭卒，因就問之。答曰：「此西湖主獵首山也。」生述所來，且告之餒。馭卒解裹糧授之，囑云：「宜即遠避，犯駕當死！」生懼，疾趨下山。

茂林中隱有殿閣，謂是蘭若。近臨之，粉垣圍沓，溪水橫流，朱門半啟，石橋通焉。攀扉一望，則臺榭環雲，擬於上苑，又疑是貴家園亭。逡巡而入，橫藤礙路，香花撲人。過數折曲欄，又是別一院宇，垂楊數十株，高拂朱簷。山鳥一鳴，則花片亂飛；深巷微風，則榆錢自落。怡日快心，殆非人世。穿過小亭，有秋千一架，上與雲齊，而胃索沉沉，杳

無人跡。因疑地近閨閣，羅怯未敢深入。俄聞馬騰於門，似有女子笑語。生與僮潛伏叢花中。未幾，笑聲漸近，聞一女子曰：「今日獵興不佳，獲禽絕少。」又一女曰：「非是公主射得雁落，幾空勞僕馬也。」無何，紅妝數輩，擁一女郎至亭上坐。禿袖戎裝，年可十四五。發多斂霧，腰細驚風，玉蕊瓊英，未足方喻。諸女子獻茗熏香，燦如堆錦。移時，女起，歷階而下。一女曰：「公主鞍馬勞頓，尚能秋千否？」公主笑諾。遂有駕肩者，捉臂者，褰裙者，挽扶而上。公主舒皓腕，躡利屣，輕如飛燕，蹴入雲霄。已而扶下，群曰：「公主真仙人也！嘻笑而去。」

生睨良久，神志飛揚。迨人聲既寂，出詣秋千下，徘徊凝想。見籬下有紅巾，知為群美所遺，喜納袖中。登其亭，見案上設有文具，遂題巾曰：「雅戲何人擬半仙？分明瓊女散金蓮。廣寒隊裡恐相妒，莫信凌波上九天。」題已，吟誦而出。復尋故徑，則重門扃錮矣。踟躕無計，返而樓閣亭臺，涉歷幾盡。一女掩入，驚問：「何得來此？」生揖之曰：「失路之人，幸能垂救。」女問：「拾得紅巾否？」生曰：「有之。」然已玷染，如何？」因出之。女大驚曰：「汝死無所矣！此公主所常御，塗鴉若此，何能為地？」生失色，哀求脫免。女曰：「竊窺宮儀，罪已不赦。念汝儒冠，欲以私意相全，今孽乃自作，將何為計！」遂皇皇持巾去。生心悸肌慄，恨無翅翎，惟延

頸俟死。迂久，女復來，潛賀曰：「子有生望矣！公主看巾三四遍，蹶然無怒容，或當放君去。宜姑耐守，勿得攀樹鉗垣，發覺不宥矣。」日已投暮，兇祥不能自必，而餓焰中燒，憂煎欲死。無何，女子挑燈至，一婢提壺榼，出酒食餉生。生急問消息，女云：「適我乘間言：『園中秀才，可恕則放之；不然，餓且死。』」公主沉思云：『深夜教渠何之？』遂命饋君食。此非惡耗也。」生徬徨終夜，危不自安。辰刻向盡，女子又餉之。生哀求緩頰，女曰：「公主不言殺，亦不言放，我輩下人，何敢屑屑瀆告？」

既而斜日西轉，眺望方殷，女子窒息急奔而入，曰：「殆矣！多言者洩其事於王妃，妃展巾抵地，大罵狂傖，禍不遠矣！」

生大驚，面如灰土，長跽請教。忽聞人語紛拿，女搖手避去。數人持索，洶洶入戶，內一婢熟視曰：「將謂何人，陳郎耶？」遂止持索者，曰：「且勿且勿，待白王妃來。」返身急去。少間來，曰：「王妃請陳郎入。」生戰惕從之。經數十門戶，至一宮殿，碧箔銀鉤。即有美姬揭簾，唱：「陳生至。」上一麗者，袍服炫冶。生伏地稽首曰：「萬里孤臣，幸恕生命。」妃急起拽之，曰：「我非君子，無以有今日。婢輩無知，致迂佳客，罪何可贖！」即設筵，酌以鏤杯。生茫然不解其故，妃曰：「再造之恩，恨無所報。息女蒙題巾之愛，當是無緣，今夕即遣奉侍。」生意出非望，神恂恍而無著。

日方暮，一婢前曰：「公主已嚴妝訖。」遂引生就帳。忽而笙管嗷嘈，階上悉踐花鬪，門堂藩溷，處處皆籠燭。數十妖姬，扶公主交拜。麝蘭之氣，充溢殿庭。既而相將入幃，兩相傾愛。生曰：「羈旅之臣，生平不省拜侍。點污芳巾，得免斧鑕，幸矣，反賜姻好，實非所望。」公主曰：「妾母，湖君妃子，乃揚江王女。舊歲歸寧，偶游湖上，為流矢所中。蒙君脫免，又賜刀圭之藥，一門戴佩，常不去心。郎勿以非類見疑。妾從龍君得長生訣，願與郎共之。」生乃悟為神人，因問：「婢子何以相識？」曰：「爾日洞庭舟上，曾有小魚銜尾，即此碑也。」又問：「既不見誅，何遲遲不賜縱脫？」笑曰：「實憐君才，但不得自主。顛倒終夜，他人不及知也。」

生嘆曰：「卿，我鮑叔也。饋食者誰？」曰：「阿念，亦妾腹心。」生曰：「何以報德？」笑曰：「侍君有日，徐圖塞責未晚耳。」問：「大王何在？」曰：「從關聖征蚩尤未歸。」

居數日，生慮家中無耗，懸念綦切，乃先以平安書遣僕歸。家中聞洞庭舟覆，妻子縵經已年餘矣。僕歸，始知不死，而音聞梗塞，終恐漂泊難返。又半載，生忽至，裘馬甚都，囊中寶玉充盈。由此富有巨萬，聲色豪奢，世家所不能及。七八年間，生子五人。日日宴集賓客，宮室飲饌之奉，窮極豐盛。或問所遇，言之無少諱。

有童稚之交梁子俊者，宦游南服十餘年。歸過洞庭，見一畫舫：雕檻朱窗，笙歌幽細，緩蕩煙波。時有美人推窗憑眺。

梁曰：「注舫中，見一少年丈夫，科頭疊股其上，旁有二八姝麗，按莎交摩。念必楚襄貴官，而騶從殊少。凝眸審諦，則陳明允也。不覺憑欄酣呼，生聞罷棹，出臨鷁首，邀梁過舟。見殘肴滿案，酒霧猶濃。生立命撤去。頃之，美婢三五，進酒烹茗，山海珍錯，目所未睹。梁驚曰：「十年不見，何富貴一至於此！」笑曰：「君小覷窮措大，不能發跡耶？」問：「適共飲何人？」曰：「山荊耳。」梁又異之。問：「攜家何往？」答：「將西渡。」梁欲再詰，生遽命歌以侑酒。一言甫畢，早雷聒耳，肉竹嘈雜，不復可聞言笑。梁見佳麗滿前，乘醉大言曰：「明允公，能令我真個銷魂否？」生笑云：「足下醉矣！然有一美妾之資，可贈故人。」遂命侍兒進明珠一顆，

曰：「綠珠不難購，明我非吝惜。」乃趣別曰：「小事忙迫，不及與故人久聚。」送梁歸舟，開纜徑去。

梁歸，探諸其家，則生方與客飲，益疑。因問：「昨在洞庭，何歸之速？」答曰：「無之。」梁乃追述所見，一座盡駭。生笑曰：「君誤矣，僕豈有分身術耶？」眾異之，而究莫解其故。後八十一歲而終。迨殯，訝其棺輕，開視，則空棺耳。異史氏曰：「竹簾不沉，紅巾題句，此其中具有鬼神，要之皆惻隱之一念所通也。迨宮室妻妾，一身而兩享其奉，則又不可解矣。昔有願嬌妻美妾、貴子賢孫，而兼長生不老者，僅得其半耳。豈仙人中亦有汾陽、季倫耶？」

五、二十、孝子

青州東香山之前，有周順亭者，事母至孝。母股生巨疽，痛不可忍，晝夜嘔呻。周撫肌進藥，至忘寢食。數月不痊，周憂煎無以為計。夢父告曰：「母疾賴汝孝。然此瘡非人膏塗之不能愈，徒勞焦惻也。」醒而異之。乃起，以利刃割脅肉，肉脫落，覺不甚苦。急以布纏腰際，血亦不注。於是烹肉持膏，敷母患處，痛截然頓止。母喜問：「何藥而靈效如此？」周詭對之。母瘡尋愈。周每掩護割處，即妻子亦不知也。既痊，有巨疤如掌，妻詰之，始得其詳。

異史氏曰：「封股傷生，君子不貴。然愚夫婦何知傷生為不孝哉？亦行其心之所不自己者而已。有斯人而知孝子之真，猶在天壤耳。」

五、二十一、獅子

暹羅國貢獅，每止處，觀者如堵。其形狀與世所傳繡畫者迥異，毛黑黃色，長數寸。或投以雞，先以爪搏而吹之。一吹，則毛盡落如掃，亦理之奇也。

五、二十二、閻王

李常久，臨朐人。壺榼於野，見旋風蓬蓬而來，敬酌奠之。後以故他適，路旁有廣第，殿閣弘麗。一青衣人自內出，邀李，

李固辭。青衣人要遮甚殷，李曰：「素不相識，得無誤耶？」青衣云：「不誤。」便言李姓字。問：「此誰家第？」云：「入自知之。」入，進一層門，見一女子手足釘扉上，近視之其嫂也，大駭。李有嫂，臂生惡疽，不起者年餘矣。因自念何得至此。轉疑招致意惡，畏沮卻步，青衣促之，乃入。至殿下，上一人，冠帶如王者，氣象威猛。李跪伏，莫敢仰視。王者命曳起之，慰之曰：「勿懼。我以曩昔擾子杯酌，欲一見相謝，無他故也。」李心始安，然終不知故。王者又曰：「汝不憶田野酌奠時乎？」李頓悟，知其為神，頓首曰：「適見嫂氏，受此嚴刑，骨肉之情，實愴於懷。乞王憐宥！」王者曰：「此甚悍妒，宜得是罰。三年前，汝兄妾盤腸而產，彼

陰以針刺腸上，俾至今臟腑常痛。此豈有人理者！」李固哀之，乃曰：「便以子故宥之。歸當勸悍婦改行。」李謝而出，則扉上無人矣。歸視嫂，嫂臥榻上，創血殷席。時以妾拂意故，方致詬罵。李遽勸曰：「嫂勿復爾！今日惡苦，皆平日忌嫉所致。」嫂怒曰：「小郎若個好男兒，又房中娘子賢似孟姑姑，任郎君東家眠，西家宿，不敢一作聲。自當是小郎大乾綱，到不得代哥子降伏老媪！」李微曬曰：「嫂勿怒，若言其情，恐欲哭不暇矣。」嫂曰：「便曾不盜得王母籬中線，又未與玉皇案前吏一眨眼，中懷坦坦，何處可用哭者！」李小語曰：「針刺人腸，宜何罪？」嫂勃然色變，問此言之因，李告之故。嫂戰惕不已，涕泗流離而哀鳴曰：「吾不敢矣！」啼

淚未幹，覺疼頓止，旬日而瘥。由是立改前轍，遂稱賢淑。後妾再產，腸復墮，針宛然在焉。拔去之，腸痛乃瘳。

異史氏曰：「或謂天下悍妒如某者，正復不少，恨陰網之漏多也。餘曰不然。冥司之罰，未必無甚於釘扉者，但無回信耳。」

五、一十三、土偶

沂水馬姓，娶妻王氏，琴瑟甚敦。馬早逝，王父母欲奪其志，王矢不他。姑憐其少，亦勸之，王不聽。母曰：「汝志良佳，然齒太幼，兒又無出。每見有勉強於初，而貽羞於後者，固

不如早嫁，猶恆情也。」王正容，以死自誓，母乃任之。女命塑工肖夫像，每日酌獻如生時。

一夕將寢，忽見土偶人欠伸而下。駭心愕顧，即已暴長如人，真其夫也。女懼呼母，鬼止之曰：「勿爾。感卿情好，幽壤酸辛。一門有忠貞，數世祖宗皆有光榮。吾父生有損德，應無嗣，遂至促我茂齡。冥司念爾苦節，故令我歸，與汝生一子承祧緒。」女亦沾襟，遂燕好如平生。雞鳴，即下榻去。如此月餘，覺腹微動。鬼乃泣曰：「限期已滿，從此永訣矣！」遂絕。

女初不言，即而腹漸大不能隱，陰告其母。母疑涉妄，然窺女無他，大惑不解。十月，果舉一男。向人言之，聞者無不

匿笑，女亦無以自伸，有里正故與馬有隙，告諸邑令。今拘訊鄰人，並無異言。今日：「聞鬼子無影，有影者偽也。」抱兒日中，影淡淡如輕煙然。又刺兒指血付土偶上，立入無痕，取他偶塗之，一拭便去。以此信之。長數歲，口鼻言動，無一不肖馬者。群疑始解。

五、二一四、長治女子

陳歡樂，潞之長治人，有女慧美。一道士行乞，睨之而去。由是日持鉢近塵間。適一瞽人自陳家出，道士追與同行，問何來。瞽云：「適從陳家推造命。」道士曰：「聞其家有女郎，我中表親欲求姻好，但未知其甲子。」瞽為述之，道士乃別

而去。居數日，女繡於房，忽覺足麻痺，漸至股，又漸至腰腹，俄而暈然傾僕。定逾刻，始恍惚能立，將尋告母。及出門，則見茫茫黑波中，一路如線，駭而卻退，門舍居廬，已被黑水淹沒。又視路上，行人絕少，惟道士緩步於前。遂遙尾之，翼見同鄉以相告語。走數里，忽睹里舍，視之，則己家門。大駭曰：「奔馳如許，固猶在村中。何向來迷惘若此！」欣然入門，父母尚未歸。復至己房，所繡業履，猶在榻上。自覺奔波殆極，就榻憩坐。道士忽入，女大驚欲遁。道士捉而捺之，女欲號，則暗不能聲。道士急以利刃剖女心，女覺魂飄飄離殼而立，四顧家舍全非，惟有崩崖若覆。視道士以

己心血點木人上，又復疊指詛咒，女覺木人遂與己合。道士囑曰：「自茲當聽差遣，勿得違誤！」遂佩戴之。

陳氏失女，舉家惶惑。尋至牛頭山，始聞村人傳言，嶺下一女子剖心而死。陳奔驗，果其女也。泣以訴宰。宰拘嶺下居人，拷掠幾遍，訖無端緒。姑收群犯，以待覆勘。道士去數里外，坐路旁柳樹下，忽謂女曰：「今遣汝第一差，往偵邑中審獄狀，去當隱身暖閣上。倘見官宰用印，即當趨避，切記勿忘！限汝辰去已來。遲一刻，則以一針刺汝心中，令作急痛；二刻，刺二針；至三針，則使汝魂魄銷滅矣。」女聞之，四體驚悚，飄然遂去。瞬息至官廨，如言伏閣上。一時嶺下人羅跪堂下，尚未訊詰。適將鈐印公牒，女未及避，而

印已出匣。女覺身軀重軟，紙格似不能勝，曝然作響，滿堂愕顧。宰命再舉，響如前；三舉，翻墜地下，眾悉聞之。宰起祝曰：「如是冤鬼，當便直陳，為汝昭雪。」女哽咽而前，歷言道士殺己、遣己狀。宰差役馳去，至柳樹下，道士果在。捉還，一鞠而服。人犯乃釋。宰問女：「冤雪何歸？」女曰：「將從大人。」宰曰：「我署中無處可容，不如暫歸汝家。」女良久曰：「官署即吾家，我將入矣。」宰又問，音響已寂。退入宅中，則夫人生女矣。

五、二十五、義犬

潞安某甲，父陷獄將死，搜括囊蓄，得百金，將詣郡關說。跨驪出，則所養黑犬從之。呵逐使退。既走，則又從之，鞭逐不返，從行數十里。某下騎，趨路側私焉。既，乃以石投犬，犬始奔去；某既行，則犬欬然復來，嚙驪尾。某怒鞭之，犬雞吠不已。忽躍在前，憤齧驪首，似欲阻其去路。某以為不祥，益怒，回騎馳逐之。視犬已遠，乃返轡疾馳，抵郡已暮。及掃腰橐，金亡其半，泔泔汗下，魂魄都失。輾轉終夜，頓念犬吠有因。候關出城，細審來途。又自計南北冲衢，行人如蟻，遺金寧有存理。逡巡至下騎所，見犬斃草間，毛汗

濕如洗。提耳起視，則封金儼然。感其義，買棺葬之，人以為義犬塚云。

五、一十六、鄱陽神

翟湛持，司理饒州，道經鄱陽湖。湖上有神祠，停蓋游瞻。內雕丁普郎死節神像，翟姓一神，最居末坐。翟曰：「吾家宗人，何得在下！」遂於上易一座。既而登舟，大風斷帆，桅檣傾側，一家哀號。俄一小舟，破浪而來，既近官舟，急挽翟登小舟，於是家人盡登。審視其人，與翟姓神無少異。無何，浪息，尋之已杳。

五、二十七、伍秋月

秦郵王鼎字仙湖，為人慷慨有力，廣交游。年十八，未娶，妻殞。每遠游，恆經歲不返。兄鼐，江北名士，友於甚篤。勸弟勿游，將為擇偶。生不聽，命舟抵鎮江訪友，友他出，因稅居於逆旅閣上。江水澄波，金山在目，心甚快之。次日，友人來，請生移居，辭不去。居半月餘，夜夢女郎，年可十四五，容華端妙，上床與合，既寤而遺。頗怪之，亦以為偶然。入夜，又夢之；如是三四夜。心大異，不敢息燭，身雖偃臥，惕然自警。才交睫，夢女復來，方狎，忽自驚寤，急開目，則少女如仙，儼然猶在抱也。見生醒，頓自愧怯。生雖知非人，意亦甚得，無暇問訊，直與馳驟。女若不堪，曰：「狂

暴如此，無怪人不敢明告也。」生始詰之，答云：「妾伍氏秋月。先父名儒，邃於《易》數。常珍愛妾，但言不永壽，故不許字人。後十五歲果夭歿，即攢瘞閣東，令與地平，亦無塚志，惟立片石於棺側，曰：『女秋月，葬無塚，三十年，嫁王鼎。』今已三十年，君適至。心喜，亟欲自薦，寸心羞怯，故假之夢寐耳。」王亦喜，復求訖事。曰：「妾少須陽氣，欲求復生，實不禁此風雨。後日好合無限，何必今宵。」遂起而去。次日復至，坐對笑謔，歡若平生。滅燭登床，開異生人，但女既起，則遺洩流離，沾染茵褥。

一夕，明月瑩澈，小步庭中，問女：「冥中亦有城郭否？」答曰：「等耳。冥間城府，不在此處，去此可三四里。但以夜

為晝。」問：「生人能見之否？」答云：「亦可。」生請往觀，女諾之。乘月去，女飄忽若風，王極力追隨，歛至一處，女言：「不遠矣。」生瞻望殊無所見。女以唾塗其兩眦，啟之，明倍於常，視夜色不殊白晝。頓見雉堞在杳靄中。路上行人，趨如墟市。俄二皂紮三四人過，末一人怪類其兄；趨近視之，果兄，駭問：「兄那得來？」兄見生，潸然零涕，言：「自不知何事，強被拘囚。」王怒曰：「我兄秉禮君子，何至縲紲如此！」便請一皂，幸且寬釋。皂不肯，殊大傲睨，生恚，欲與爭，兄止之曰：「此是官命，亦合奉法。但餘乏用度，索賄良苦。弟歸，宜措置。」生把兄臂，哭失聲。皂怒，猛掣項索，兄頓顛蹶。生見之，忿火填胸，不能制止，即解佩刀，

立決皂首。一皂喊嘶，生又決之。女大驚曰：「殺官使，罪不宥！遲則禍及！請即覓舟北發，歸家勿摘提幡，杜門絕出入，七日保無慮也。」王乃挽兄夜買小舟，火急北渡。歸見吊客在門，知兄果

死。閉門下鑰，始入，視兄已渺，入室，則亡者已蘇，便呼：「餓死矣！可急備湯餅。」時死已二日，家人盡駭，生乃備言其故。七日啟關，去喪幡，人始知其復蘇。親友集問，但偽對之。

轉思秋月，想念頗煩，遂復南下至舊閣，秉燭久待，女竟不至。朦朧欲寢，見一婦人來，曰：「秋月小娘子致意郎君：前以公役被殺，兇犯逃亡，捉得娘子去，見在監押，押役遇

之虐。日日盼郎君，當謀作經紀。」王悲憤，便從婦去。至一城都，入西郭，指一門曰：「小娘子暫寄此間。」王入，見房舍頗繁，寄頓囚犯甚多，並無秋月。又進一小扉，鬥室中有燈火。王近窗以窺，則秋月在榻上，掩袖鳴泣。二役在側，撮頤捉履，引以嘲戲，女啼益急。一役挽頸曰：「既為罪犯，尚守貞耶？」王怒，不暇語，持刀直入，一役一刀，摧斬如麻，篡取女郎而出，幸無覺者。裁至旅舍，驀然即醒。方怪幻夢之兇，見秋月含睇而立。生驚起曳坐，告之以夢。女曰：「真也，非夢也。」生驚曰：「且為奈何！」女嘆曰：「此有定數。妾待月盡，始是生期。今已如此，急何能待！當速發瘞處，載妾同歸，日頻喚妾名，三日可活。但未滿時日，骨軟足弱，

不能為君任井臼耳。」言已，草草欲出。又返身曰：「妾幾忘之，冥追若何？生時，父傳我符書，言三十年後可佩夫婦。」乃索筆疾書兩符，曰：「一君自佩，一粘妾背。」

送之出，志其沒處，掘尺許即見棺木，亦已敗腐。側有小碑，果如女言。發棺視之，女顏色如生。抱入房中，衣裳隨風盡化。粘符已，以被褥嚴裹，負至江濱，呼攏泊舟，偽言妹急病，將送歸其家。幸南風大競，甫曉已達里門。抱女安置，始告兄嫂。一家驚顧，亦莫敢直言其惑。生啟衾，長呼秋月，夜輒擁尸而寢。日漸溫暖，三日竟蘇，七日能步。更衣拜嫂，盈盈然神仙不殊。但十步之外，須人而行，不則隨風搖曳，屢欲傾側。見者以為身有此病，轉更增媚。每勸生曰：「君

罪孽太深，宜積德誦經以懺之。不然，壽恐不永也。」生素不佞佛，至此皈依甚虔。後亦無恙。

異史氏曰：「余欲上言定律，『凡殺公役者，罪減平人三等。』蓋此輩無有不可殺者也。故能誅鋤蠹役者，即為循良；即稍苛之，不可謂虐。況冥中原無定法，倘有惡人，刀鋸鼎鑊，不以為酷。若人心之所快，即冥王之所善也。豈罪致冥追，遂可幸而逃哉！」

五、二十八、蓮花公主

膠州竇旭，字曉暉。方晝寢，見一褐衣人立榻前，逡巡惶顧，似欲有言。生問之，答云：「相公奉屈。」生問：「相公何人？」

曰：「近在鄰境。」從之而出。轉過墻屋，導至一外，疊閣重樓，萬椽相接，曲折而行，覺萬戶千門，迥非人世。又見宮人女官往來甚夥，都向褐衣人問曰：「竇郎來乎？」褐衣人諾。俄，一貴官出，迎見生甚恭，既登堂，生啟問曰：「素既不敘，遂疏參謁。過蒙愛接，頗注疑念。」貴官曰：「寡君以先生清族世德，傾風結慕，深願思晤焉。」生益駭，問：「王何人？」答云：「少間自悉。」

無何，二女官至，以雙旌導生行。入重門，見殿上一王者，見生入，降階而迎，執賓主禮。禮已，踐席，列筵豐盛。仰視殿上一匾曰「桂府」。生局蹙不能致辭。王曰：「忝近芳鄰，緣即至深。便當暢懷，勿致疑畏。」生唯唯，酒數行，笙歌作

於下，鉦鼓不鳴，音聲幽細。稍間，王忽左右顧曰：「朕一言，煩卿等屬對：『才人登桂府。』」四座方思，生即應云：「君子愛蓮花。」王大悅曰：「奇哉！蓮花乃公主小字，何適合如此？寧非夙分？傳語公主，不可不出一晤君子。」移時，佩環聲近，蘭麝香濃，則公主至矣。年十六七，妙好無雙。王命向生展拜，曰：「此即蓮花小女也。」拜已而去。生睹之，神情搖動，木坐凝思。王舉觴勸飲，目竟罔睹。王似微察其意，乃曰：「息女宜相匹敵，但自慚不類，如何？」生悵然若癡，即又不聞。近坐者躡之曰：「王揖君未見，王言君未聞耶？」生茫乎若失，忪羅自慚，離席曰：「臣蒙優渥，不覺過醉，儀節失次，幸能垂宥。然日旰君勤，即告出也。」王起

曰：「既見君子，實愜心好，何倉卒而便言離也？卿既不住，亦無敢於強，若煩縈念，更當再邀。」遂命內官導之出。途中，內官語生曰：「適王謂可匹敵，似欲附為婚姻，何默不一言？」生頓足而悔，步步追恨，遂已至家。

忽然醒寤，則返照已殘。冥坐觀想，歷歷在目。晚齋滅燭，冀舊夢可以復尋，而邯鄲路渺，悔嘆而已。一夕，與友人共榻，忽見前內官來，傳王命相召。生喜，從去，見王伏謁，王曳起，延止隅坐，曰：「別後知勞思眷。謬以小女子奉裳衣，想不過嫌也。」生即拜謝。王命學士大臣，陪侍宴飲。酒闌，宮人前白：「公主妝竟。」俄見數十宮人擁公主出，以紅錦覆首，凌波微步，挽上氍毹，與生交拜成禮。已而送歸館

舍，洞房溫清，窮極芳膩。生日：「有卿在目，真使人樂而忘死。但恐今日之遭，乃是夢耳。」公主掩口曰：「明明妾與君，那得是夢？」詰旦方起，戲為公主勻鉛黃，已而以帶圍腰，布指度足。公主笑問曰：「君顛耶？」曰：「臣屢為夢誤，故細志之。倘是夢時，亦足動懸想耳。」

調笑未已，一宮女馳入曰：「妖入宮門，王避偏殿，兇禍不遠矣！」生大驚，趨見王。王執手泣曰：「君子不棄，方圖永好。詎期孽降自天，國祚將覆，且復奈何！」生驚問何說。王以案上一章，授生啟讀。章曰：「含香殿大學士臣黑翼，為非常怪異，祈早遷都，以存國脈事。據黃門報稱：自五月初六日，來一千丈巨蟒盤踞宮外，吞食內外臣民一萬三千八百

餘口，所過宮殿盡成丘墟，等因。臣奮勇前窺，確見妖蟒：頭如山嶽，目等江海。昂首則殿閣齊吞，伸腰則樓垣盡覆。真千古未見之兇，萬代不遭之禍！社稷宗廟，危在旦夕！乞皇上早率宮眷，速遷樂土」雲云。生覽畢，面如灰土。即有宮人奔奏：「妖物至矣！」合殿哀呼，慘無天日。王倉遽不知所為，但泣顧曰：「小女已累先生。」生空息而返。公主方與左右抱首哀鳴，見生入，牽衿曰：「郎焉置妾？」生愴惻欲絕，乃捉腕思曰：「小生貧賤，慚無金屋。有茅廬三數間，姑同竄匿可乎？」公主含涕曰：「急何能擇，乞攜速往。」生乃挽扶而出。未幾至家，公主曰：「此大安宅，勝故國多矣。然妾從君來，父母何依？請別築一舍，當舉國相從。」生難之。

公主曰：「不能急人之急，安用郎也！」生略慰解，即已入室。公主伏床悲啼，不可勸止。焦思無術，頓然而醒，始知夢也。而耳畔啼聲，嚶嚶未絕，審聽之，殊非人聲，乃蜂子二三頭，飛鳴枕上。大叫怪事。友人詰之，乃以夢告，友人亦詫為異。共起視蜂，依依裳袂間，拂之不去。友人勸為營巢，生如所請，督工構造。方豎兩堵，而群蜂自牆外來，絡繹如蠅，頂尖未合，飛集盈斗。跡所由來，則鄰翁之舊圃也。圃中蜂一房，三十餘年矣，生息頗繁。或以生事告翁，翁覘之，蜂戶寂然。發其壁，則蛇據其中，長丈許，捉而殺之。乃知巨蟒即此物也。蜂入生家，滋息更盛，亦無他異。

五、二十九、綠衣女

於璟，字小宋，益都人，讀書醴泉寺。夜方披誦，忽一女子在窗外贊曰：「於相公勤讀哉！」因念深山何處得女子？方疑思間，女子已推扉笑入，曰：「勤讀哉！」於驚起，視之，綠衣長裙，婉妙無比。於知非人，因詰里居。女曰：「君視妾當非能咋噬者，何勞窮問？」於心好之，遂與寢處。羅襦既解，腰細殆不盈掬。更籌方盡，翩然遂出。由此無夕不至。

一夕共酌，談吐間妙解音律。於曰：「卿聲嬌細，倘度一曲，必能消魂。」女笑曰：「不敢度曲，恐銷君魂耳。」於固請之。曰：「妾非吝惜，恐他人所聞。君必欲之，請便獻醜，但只微

聲示意可耳」遂以蓮鉤輕點床足，歌云：「樹上烏白鳥，賺奴中夜散。不怨繡鞋濕，只恐郎無伴。」聲細如蠅，裁可辨認。而靜聽之，宛轉滑烈，動耳搖心。

歌已，啟門窺曰：「防窗外有人。」繞屋周視，乃入。生日：「卿何疑懼之深？笑曰：『諺云：『偷生鬼子常畏人。』妾之謂矣。』既而就寢，惕然不喜，曰：『生平之分，殆止此乎？』於急問之，女曰：『妾心動，妾祿盡矣。』於慰之曰：『心動眼輻，蓋是常也，何遽此云？』女稍釋，復相綢繆。更漏既歇，披衣下榻。方將啟關，徘徊復返，曰：『不知何故，只是心怯。乞送我出門。』於果起，送諸門外。女曰：『君佇望我，我逾垣去，君方歸。』於曰：『諾。』

視女轉過房廊，寂不復見。方欲歸寢，聞女號救甚急。於奔往，四顧無跡，聲在簷間。舉首細視，則一蛛大如彈，搏捉一物，哀鳴聲嘶。於破網挑下，去其縛纏，則一綠蜂，奄然將斃矣。捉歸室中置案頭，停蘇移時，始能行步。徐登硯池，自以身投墨汁，出伏幾上，走作「謝」字。頻展雙翼，已乃穿窗而去。自此遂絕。

五、三十、黎氏

龍門謝中條者，佻達無行。三十餘喪妻，遺二子一女，晨夕啼號，縈累甚苦。謀聘繼室，低昂未就。暫雇傭媪撫子女。一日，翔步山途，忽一婦人出其後。待以窺覘，是好女子，

年二十許。心悅之，戲曰：「娘子獨行，不畏怖耶？」婦走不對。又曰：「娘子纖步，山徑殊難。」婦仍不顧，謝四望無人。近身側，遽挈其腕。曳入幽谷，將以強合。婦怒呼曰：「何處強人，橫來相侵！」謝牽挽而行，更不休止，婦步履跌蹶，困窘無計，乃曰：「燕婉之求，乃如此耶？緩我，當相就耳。」謝從之。偕入靜壑，野合既已，遂相欣愛。

婦問其里居姓氏，謝以實告。既亦問婦，婦言：「妾黎氏。不幸早寡，姑又殞殞，塊然一身，無所依倚，故常至母家耳。」謝曰：「我亦鰥也，能相從乎？」婦問：「君有子女無也？」謝曰：「實不相欺，若論枕席之事，交好者亦頗不乏。只是兒啼女哭，令人不耐。」婦躊躇曰：「此大難事，觀君衣服

襪履款樣，亦只平平，我自謂能辦。但繼母難作，恐不勝誚讓也。」謝曰：「請毋疑阻。我自不言，人何干與？」婦亦微納。轉而慮曰：「肌膚已沾，有何不從。但有悍伯，每以我為奇貨，恐不允諧，將復如何？」謝亦憂皇，謀與逃竄。婦曰：「我亦思之爛熟。所慮家人一洩，兩非所便。」謝云：「此即細事。家中惟一孤媪，立便遣去。」婦喜，遂與同歸。

先匿外舍，即入遣媪訖，掃榻迎婦，倍極歡好。婦便操作，兼為兒女補綴，辛勤甚至。謝得婦，嬖愛異常，日惟閉門相對，更不通客。月餘，適以公事出，反關乃去。及歸，則中門嚴閉，扣之不應。排闥而入，渺無人跡。方至寢室，一巨

狼沖門躍出，幾驚絕。入視，子女皆無，鮮血殷地，惟三頭存焉。返身追狼，已不知所之矣。

異史氏曰：「士則無行，報亦慘矣。再娶者，皆引狼入室耳；況將於野合逃竄中求賢婦哉！」

五、三十一、荷花三娘子

湖州宗相若，士人也。秋日巡視田壟，見禾稼茂密處，振搖甚動。疑之，越陌往覘，則有男女野合，一笑將返。即見男子靦然結帶，草草徑去。女子亦起。細審之。雅甚娟好。心悅之，欲就綢繆，實慚鄙惡。乃略近拂拭曰：「桑中之游樂乎？」女笑不語。宗近身啟衣，膚膩如脂，於是按莎上下幾

遍，女笑曰：「腐秀才！要如何，便如何耳，狂探何為？」詰其姓氏。曰：「春風一度，即別東西，何勞審究？豈將留名字作貞坊耶？」宗曰：「野田草露中，乃山村牧豬奴所為，我不習慣。以卿麗質，即私約亦當自重，何至屑屑如此？」女聞言，極意嘉納。宗言：「荒齋不遠，請過留連。」女曰：「我出已久，恐人所疑，夜分可耳。」問宗門戶物志甚悉，乃趨斜徑，疾行而去。更初，果至宗齋。滯雨尤雲，備極親愛。積有月日，密無知者。會有番僧卓錫村寺，見宗驚曰：「君身有邪氣，曾何所遇？」答曰：「無之。」過數日，悄然忽病，女每夕攜佳果餌之，殷勤撫問，如夫妻之好。然臥後必強宗與合。宗抱病，頗不耐之。心疑其非人，而亦無術暫絕使去。

因曰：「曩和尚謂我妖惑，今果病，其言驗矣。明日屈之來，便求符咒。」女慘然色變，宗益疑之。次日，遣人以情告僧。僧曰：「此狐也。其技尚淺，易就束縛。」乃書符二道，付囑曰：「歸以淨壇一事置榻前，即以一符貼壇口。待狐竄入，急覆以盆，再以一符貼盆上。投釜湯烈火烹煮，少頃斃矣，家人歸，並如僧教。夜深，女始至，探袖中金橘，方將就榻問訊。忽壇口颼颼一聲，女已吸入。家人暴起，覆口貼符，方欲就煮。宗見金橘散滿地上，追念情好，愴然感動，遽命釋之。揭符去覆，女子自壇中出，狼狽頗殆，稽首曰：「大道將成，一旦幾為灰土！君仁人也，誓必相報。」遂去。

數日，宗益沉綿，若將隕墜。家人趨市，為購材木。途中遇一女子，問曰：「汝是宗湘若紀綱否？」答云：「是。」女曰：「宗郎是我表兄，聞病沉篤，將便省視，適有故不得去。靈藥一裹，勞寄致之。」家人受歸。宗念中表迄無姊妹，知是狐報。服其藥，果大瘳，旬日平復。心德之，禱諸虛空，願一再覲。一夜，閉戶獨酌，忽聞彈指敲窗。拔關出視，則狐女也。大悅，把手稱謝，延止共飲。女曰：「別來耿耿，思無以報高厚，今為君覓一良匹，聊足塞責否？」宗問：「何人？」曰：「非君所知。明日辰刻，早越南湖，如見有採菱女著冰縠帔者，當急趨之。苟迷所往，即視堤邊有短幹蓮花隱葉底，便採歸，以蠟火熬其蒂，當得美婦，兼致修齡。」宗

謹受教。既而告別，宗固挽之。女曰：「自遭厄劫，頓悟大道。奈何以衾裯之愛，取人仇怨？」厲聲辭去。

宗如言，至南湖，見荷蕩佳麗頗多，中一垂髻人衣冰縠，絕代也。促舟劇逼，忽迷所往。即撥荷叢，果有紅蓮一枝，乾不盈尺，折之而歸。入門置幾上，削蠟於旁，將以爇火。一回頭，化為姝麗。宗驚喜伏拜。女曰：「癡生！我是妖狐，將為君崇矣！」宗不聽。女曰：「誰教子者？」答曰：「小生自能識卿，何待教？」捉臂牽之，隨手而下，化為怪石，高尺許，面面玲瓏。乃攜供案上，焚香再拜而祝之。入夜，杜門塞竇，惟恐其亡。平旦視之，即又非石，紗帔一襲，遙聞薌澤，展視領衿，猶存餘膩。宗覆衾擁之而臥。暮起挑燈，既

返，則垂髻人在枕上。喜極，恐其復化，哀祝而後就之。女笑曰：「孽障哉！不知何人饒舌，遂教風狂兒屑碎死！」乃不復拒。而款洽間若不勝任，屢乞休止。宗不聽，女曰：「如此，我便化去！」宗懼而罷。

由是兩情甚諧。而金帛常盈箱篋，亦不知所自來。女見人喏喏，似口不能道辭，生亦諱言其異。懷孕十餘月，計日當產。入室，囑宗杜門禁款者，自乃以刀割臍下，取子出，令宗裂帛束之，過宿而愈。又六七年，謂宗曰：「夙業償滿，請告別也。」宗聞泣下，曰：「卿歸我時，貧苦不自立，賴卿小阜，何忍遽離逃？且卿又無邦族，他日兒不知母，亦一恨事。」女亦悵悵曰：「聚必有散，固是常也。兒福相，君亦期頤，更

何求？妾本何氏。倘蒙思眷，抱妾舊物而呼曰：『荷花三娘子！』當有見耳。」言已解脫，曰：「我去矣。」驚顧間，飛去已高於頂。宗躍起，急曳之，捉得履。履脫及地，化為石燕，色紅於丹朱，內外瑩徹，若水精然。拾而藏之。檢視箱中，初來時所著冰縠帔尚在。每一憶念，抱呼「三娘子」，則宛然女郎，歡容笑黛。並肖生平，但不語耳。

五、三十二、罵鴨

白家莊民某，盜鄰鴨烹之。至夜，覺膚癢；天明視之，茸生鴨毛，觸之則痛。大懼，無術可醫。夜夢一人告之曰：「汝病乃天罰。須得失者罵，毛乃可落。」鄰翁素雅量，每失物

未嘗徵於聲色。民詭告翁曰：「鴨乃某甲所盜。彼深畏罵焉，罵之亦可警將來。」翁笑曰：「誰有閑氣罵惡人。」卒不罵。某益窘，因實告鄰翁。翁乃罵，其病良已。

異史氏曰：「甚矣，攘者之可懼也：一攘而鴨毛生！甚矣，罵者之宜戒也：一罵而盜罪減！然為善有術，彼鄰翁者，是以罵行其慈者也。」

五、三十三、柳氏子

膠州柳西川，法內史之主計僕也。年四十餘，生一子，溺愛甚至。縱任之，惟恐拂。既長，蕩侈逾檢，翁囊積為空。無何，子病，翁故蓄善騾，子曰：「騾肥可啖。殺啖我，我病

可愈。」柳謀殺蹇劣者。子聞之，大怒罵，疾益甚。柳懼，殺騾以進，子乃喜。然嘗一變，便棄去。病卒不減，尋死，柳悼嘆欲絕。

後三四年，村人以香社登岱。至山半，見一人乘騾駛行而來，怪似柳子。比至，果是。下騾遍揖，各道寒暄。村人共駭，亦不敢詰其死。但問：「在此何作？」答云：「亦無甚事，東西奔馳而已。」便問逆旅主人姓名，眾具告之。柳子拱手曰：「適有小故，不暇敘間闊，明日當相謁。」上騾遂去。眾既歸寓，亦謂其未必即來。厭旦俟之，子果至，系騾廐柱，趨進笑言。眾曰：「尊大人日切思慕，何不一歸省侍？」子訝問：「言者何人？」眾以柳對。子神色俱變，久之曰：「彼

既見思，請歸傳語：我於四月七日，在此相候。」言訖，別去。

眾歸，以情致翁。翁大哭，如期而往，自以其故告主人。主人止之，曰：「曩見公子，精神冷落，似未必有嘉意。以我卜之，殆不可見。」柳啼泣不信。主人曰：「我非阻君，神鬼無常，恐遭不善。如必欲見，請伏櫬中，察其詞色，可見則出。」柳如其言。既而子來，問曰：「柳某來否？」主人曰：「無。」子盛氣罵曰：「老畜產那便不來！」主人驚曰：「何罵父？」答曰：「彼是我何父！初與義為客侶，不意包藏禍心，隱我血資，悍不還。今願得而甘心，何父之有！」言已出門，曰：「便

宜他！柳在櫝中，歷歷聞之，汗流接踵，不敢出氣。主人呼之出，狼狽而歸。

異史氏曰：「暴得多金，何如其樂？所難堪者償耳。蕩費殆盡，尚不忘於夜臺，怨毒之於人甚矣！」

五、三十四、上仙

癸亥三月，與高季文赴稷下，同居逆旅。季文忽病。會高振美亦從念東先生至郡，因謀醫藥。聞袁鱗公言：南郭梁氏家有狐仙，善「長桑之術」。遂共詣之。梁，四十以來女子也，致綏綏有狐意。入其舍，復室中掛紅幕。探幕一窺，壁間懸觀音像。又兩三軸，跨馬操矛，騶從紛沓。北壁下有案，案頭

小座，高不盈尺，貼小錦禱，雲仙人至，則居此。眾焚香列揖。婦擊磬三。口中隱約有詞。祝已，肅客就外榻坐。婦立簾下，理發支頤與客語，具道仙人靈跡。久之，日漸曛。眾恐礙夜難歸，煩再祝請。婦乃擊磬重禱，轉身復立，曰：「上仙最愛夜談，他時往往不得遇。昨宵有候試秀才，攜酒肴來與上仙飲，上仙亦出良醞酬諸客，賦詩歡笑。散時，更漏向盡矣。」

言未已，聞室中細細繁響，如蝙蝠飛鳴。方凝聽間，忽案上若墮巨石，聲甚厲。婦轉身曰：「幾驚怖煞人！」便聞案上作嘆吒聲，似一健叟。婦以蕉扇隔小座。座上大言曰：「有緣哉！有緣哉！」抗聲讓坐，又似拱手為禮。已而問客：「何所

諭教？」高振美尊念東先生意，問：「見菩薩否？」答云：「南海是我熟徑，如何不見！」閻羅亦更代否？」曰：「與陽世等耳。」閻羅何姓？」曰：「姓曹。」已乃為季文求藥。曰：「歸當夜祀茶水，我與大士處討藥奉贈，何恙不已。」眾各有問，悉為剖決。乃辭而歸。過宿，季文少愈。餘與振美洽裝先歸，遂不暇造訪矣。

五、三十五、侯靜山

高少宰念東先生云：「崇禎間，有猴仙，號靜山。托神於河間之叟，與人談詩文，決休咎，娓娓不倦。以肴核置案上，啖飲狼藉，但不能見之耳。」時先生祖寢疾。或致書云：「侯

靜山，百年人也，不可不晤。」遂以僕馬往招叟。叟至經日，仙猶未來。焚香祠之，忽聞屋上大聲嘆贊曰：「好人家！」眾驚顧。俄簷間又言之，叟起曰：「大仙至矣。」群從叟岸幘出迎，又聞作拱致聲。既入室，遂大笑縱談。時少宰兄弟尚諸生，方人闈歸。仙言：「二公闈卷亦佳，但經不熟，再須勤勉，雲路亦不遠矣。」二公敬問祖病，曰：「生死事大，其理難明。」因共知其不祥。無何，太先生謝世。

舊有猴人，弄猴於村。猴斷鎖而逸，不可追，入山中。數十年，人猶見之。其走飄忽，見人則竄。後漸入村中，竊食果餌，人皆莫之見。一日，為村人所睹，逐諸野，射而殺之。而

猴之鬼竟不自知其死也，但覺身輕如葉，一息百里。遂往依河間叟，曰：「汝能奉我，我為汝致富。」因自號靜山雲。

五、三十六、錢流

沂水劉宗玉云：其僕杜和，偶在園中，見錢流如水，深廣二三尺許。杜驚喜，以兩手滿掬，復偃仰其上。既而起視，則錢已盡去，惟握於手者尚存。

五、三十七、郭生

郭生，邑之東山人。少嗜讀，但山村無所就正，年二十餘，字畫多訛。先是，家中患狐，服食器用，輒多亡失，深患苦之。一夜讀，卷置案頭，狐塗鴉甚，狼藉不辨行墨。因擇其

稍潔者輯讀之，僅得六七十首，心恚憤而無如何。又積窗課二十餘篇，待質名流。晨起，見翻攤案上，墨汁濃泚殆盡。恨甚。

會王生者，以故至山，素與郭善，登門造訪。見污本，問之。郭具言所苦，且出殘課示王。王諦玩之，其所塗留，似有春秋。又復視浣卷，類冗雜可刪。訝曰：「狐似有意。不惟勿患，當即以為師。」過數月，回視舊作，頓覺所塗良確。於是改作兩題，置案上，以觀其異。比曉，又塗之。積年餘，不復塗，但以濃墨灑作巨點，淋漓滿紙。郭異之，持以白王。王閱之曰：「狐真爾師也，佳幅可售矣。」是歲，果入邑庫。

郭以是德狐，恆置雞黍，備狐啖飲。每市房書名稿，不自選擇，但決於狐。由是兩試俱列前名，入闈中副車。

時葉、繆諸公稿，風雅絕麗，家弦而戶誦之。郭有抄本，愛惜臻至。忽被傾濃墨碗許於上，污蔭幾無餘字，又擬題構作，自覺快意，悉浪塗之。於是漸不信狐。無何，葉公以正文體被收，又稍稍服其先見。然每作一文，經營慘淡，輒被塗污。自以屢拔前茅，心氣頗高，以是益疑狐妄。乃錄向之灑點煩多者試之，狐又盡泚之。乃笑曰：「是真妄矣！何前是而今非也？」遂不為狐設饌，取讀本鎖箱篋中。旦見封錮儼然，啟視則卷面塗四畫，粗於指，第一章畫五，二章亦畫

五，後即無有矣。自是狐竟寂然。後郭一次四等，兩次五等，始知其兆已寓意於畫也。

異史氏曰：「滿招損，謙受益，天道也。名小立，遂自以為是，執葉、繆之餘習，狃而不變，勢不至大敗塗地不止也。滿之為害如是夫！」

五、三十八、金生色

金生色，晉寧人也。娶同村木姓女。生一子，方周歲。金忽病，自分必死，謂妻曰：「我死，子必嫁，勿守也！」妻聞之，甘詞厚誓，期以必死。金搖手呼母曰：「我死，勞看阿保，勿令守也。」母哭應之。既而金果死。

木媪來吊，哭已，謂金母曰：「天降兇憂，婿遽遭命。女太幼弱，將何為計？」母悲悼中，聞媪言，不勝憤激，盛氣對曰：「必以守！」媪慚而罷。夜伴女寢，私謂女曰：「人盡夫也。以兒好手足，何患無良匹？小兒女不早作人家，眈眈守此襁褓物，寧非癡子？倘必令守，不宜以面目好相向。」金母過，頗聞絮語，益恚。明日：謂媪曰：「亡人有遺囑，本不教婦守也。今既急不能待，乃必以守！」媪怒而去。

母夜夢子來，涕泣相勸，心異之。使人言於木，約殯後聽婦所適。而詢諸術家，本年墓向不利。婦思自炫以售，縷經之中，不忘塗澤。居家猶素妝，一歸寧，則嶄然新艷。母知之心弗善也，以其將為他人婦，亦隱忍之。於是婦益肆。村中

有無賴子董貴者，見而好之，以金啖金鄰媪，求通殷勤於婦。夜分，由媪家逾墻以達婦所，因與會合。往來積有旬日，醜聲四塞，所不知者惟母耳。

婦室夜惟一小婢，婦腹心也。一夕，兩情方洽，聞棺木震響，聲如爆竹。婢在外榻，見亡者自幃後出，帶劍入寢室去。俄聞二人駭詫聲，少頃，董裸奔出；無何，金摔婦發亦出。婦大噪，母驚起，見婦赤體走去，方將啟關，問之不答。出門追視，寂不聞聲，竟迷所往。入婦室，燈火猶亮。見男子履，呼婢，婢始戰惕而出，具言其異，相與駭怪而已。董竄過鄰家，團伏墻隅，移時，聞人聲漸息，始起。身無寸縷，苦寒戰甚，將假衣於媪。視院中一室，雙扉虛掩，因而暫入。暗

摸榻上，觸女子足，知為鄰子婦。頓生淫心，乘其寢，潛就私之。婦醒，問：「汝來乎？」應曰：「諾。」婦竟不疑，狎褻備至。先是，鄰子以故赴北村，囑妻掩戶以待其歸。既返，聞室內有聲，疑而審聽，音態絕穢。大怒，操戈入室。董懼，竄於床下，子就戮之。又欲殺妻；妻泣而告以誤，乃釋之。但不解床下何人，呼母起，共火之，僅能辨認。視之，奄有氣息。詰其所來，猶自供吐。而刃傷數處，血溢不止，少頃已絕。媪倉皇失措，謂子曰：「捉奸而單戮之，子且奈何？」子不得已，遂又殺妻。

是夜，木翁方寢，聞戶外拉雜之聲，出窺則火熾於簷，而縱火人猶徬徨未去。翁大呼，家人畢集，幸火初燃，尚易撲滅。

命人操弓驚，逐搜縱火者，見一人趨捷如猿，竟越垣去。垣外乃翁家桃園，園中四繚周墉皆峻固。數人梯登以望，蹤跡殊杳。惟墻下塊然微動，問之不應，射之而軟。啟扉往驗，則女子白身臥，矢貫胸腦。細燭之，則翁女而金婦也。駭告主人，翁媪驚惕欲絕，不解其故。女合眸，面色灰敗，口氣細於屬絲。使人拔腦矢不可出，足踏頂而後出之。女嚶然一聲，血暴注，氣亦遂絕。

翁大懼，計無所出。既曙，以實情白金母，長跽哀祈。而金母殊不怨怒，但告以故，令自營葬。金有叔兄生光，怒登翁門，詬數前非。翁慚沮，賂令罷歸。而終不知婦所私者何人。俄鄰子以執奸自首，既薄責釋訖。而婦兄馬彪素健訟，具詞

控妹冤。官拘媼，媼懼，悉供顛末。又喚金母，母托疾，令生光代質，具陳底裏。於是前狀並發，牽木翁夫婦盡出，一切廉得其情。木以誨女嫁，坐縱淫，笞；使自贖，家產蕩焉。鄰媼導淫，杖之斃。案乃結。

異史氏曰：「金氏子其神乎！諄囑醮婦，抑何明也！一人不殺，而諸恨並雪，可不謂神乎！鄰媼誘人婦，而反淫己婦；木媼愛女，而卒以殺女。嗚呼！『欲知後日因，當前作者是』，報更速於來生矣！」

五、三十九、彭海秋

萊州諸生彭好古，讀書別業，離家頗遠，中秋未歸，岑寂無偶。念村中無可共語。惟邱生是邑名士，而素有隱惡，彭常鄙之。月既上，倍益無聊，不得已，折簡邀邱。飲次，有剝啄者。齋僮出應門，則一書生，將謁主人。彭離度，肅客人。相揖環坐，便詢族居。客曰：「小生廣陵人，與君同姓，字海秋。值此良夜，旅邸倍苦。聞君高雅，遂乃不介而見。」視其人，布衣潔整，談笑風流。彭大喜曰：「是我宗人。今夕何夕，邁此嘉客！」即命酌，款若夙好。察其意，似甚鄙邱。邱仰與攀談，輒傲不為禮。彭代為之慚，因撓亂其詞，請先以俚歌侑飲。乃仰天再咳，歌「扶風豪士之曲」，相與歡笑。

客曰：「僕不能韻，莫報『陽春』。請代者可乎？」彭言：「如教。」客問：「萊城有名妓無也？」彭曰：「無。」

客默良久，謂齋僮曰：「適喚一人，在門外，可導入之。」僮出，果見一女子逡巡戶外。引之入，年二八已來，宛然若仙。彭驚絕，掖坐。衣柳黃帔，香溢四座。客便慰問：「千里頗煩跋涉也。」女含笑唯唯。彭異之，便致研詰。客曰：「貴鄉苦無佳人，適於西湖舟中喚得來。」謂女曰：「適舟中所唱『薄幸郎曲』，大佳，請再反之。」女歌云：「薄幸郎，牽馬洗春沼。人聲遠，馬聲杳；江天高，山月小。掉頭去不歸，庭中空白曉。不怨別離多，但愁歡會少。眠何處？勿作隨風

絮。便是不封侯，莫向臨邛去！」客於襪中出玉笛，隨聲便串；曲終笛止。

彭驚嘆不已，曰：「西湖至此。何止千里，咄嗟招來，得非仙乎？」客曰：「仙何敢言，但視萬里猶庭戶耳。今夕西湖風月，尤盛曩時，不可不一觀也，能從游否？」彭留心以覘其異，諾曰：「幸甚。」客問：「舟乎，騎乎？」彭思舟坐為逸，答言：「願舟。」客曰：「此處呼舟較遠，天河中當有渡者。」乃以手向空中招曰：「船來！我等要西湖去，不吝價也。」無何，彩船一隻，自空飄落，煙雲繞之。眾俱登。見一人持短棹，棹末密排修翎，形類羽扇，一搖羽，清風習習。舟漸上入雲霄，望南游行，其駛如箭。逾刻，舟落水中。但聞弦管

敖嘈，鳴聲惶聒。出舟一望，月印煙波，游船成市。榜人罷棹，任其自流。細視，真西湖也。客於艙後，取異肴佳釀，歡然對酌。少間，一樓船漸近，相傍而行。隔窗以窺，中有三兩人，圍棋喧笑。客飛一觥向女曰：「引此送君行。」女飲間，彭依戀徘徊，惟恐其去，蹴之以足。女斜波送盼，彭益動，請要後期。女曰：「如相見愛，但問娟娘名字，無不知者。」客即以彭綾巾授女，曰：「我為若代訂三年之約。」即起，托女子於掌中，曰：「仙乎，仙乎！」乃扳鄰窗捉女人，窗曰如盤，女伏身蛇游而進，殊不覺隘。俄聞鄰舟曰：「娟娘醒矣。」舟即蕩去。遙見舟已就泊，舟中人紛紛並去，游興頓消。

遂與客言，欲一登崖，略同眺矚。才作商榷，舟已自攏。因而離舟翔步，覺有里餘。客後至，牽一馬來，令彭捉之。即復去，曰：「待再假兩騎來。」久之不至。行人亦稀，仰視斜月西轉，天色向曙。邱亦不知何往。捉馬營營，進退無主，振轡至泊舟所，則人船俱失。念腰橐空匱，倍益憂皇。天大明，見馬上有小錯囊；探之，得白金三四兩。買食凝待，不覺向午。計不如暫訪娟娘，可以徐察邱耗。比詢娟娘名字，並無知者，興轉蕭索。次日遂行。馬調良，幸不蹇劣，半月始歸。方三人之乘舟而上也，齋僮歸白：「主人已仙去。」舉家哀啼，謂其不返。彭歸，系馬而入，家人驚喜集問，彭始具白其異。因念獨還鄉井，恐邱家聞而致詰，戒家人勿播。

語次，道馬所由來。眾以仙人所遺，便悉詣殿驗視。及至，則馬頓渺，但有邱生，以草韁繫櫪邊。駭極，呼彭出視。見邱垂首棧下，面色灰死，問之不言，兩眸啟閉而已。彭大不忍，解扶榻上，若喪魂魄，灌以湯酖，稍稍能咽。中夜少蘇，急欲登廁，扶掖而往，下馬糞數枚。又少飲啜，始能言。彭就榻研問之，邱云：「下船後，彼引我閑語，至空處，歡拍項領，遂迷悶顛踣。伏定少刻，自顧已馬。心亦醒悟，但不能言耳。是大辱恥，誠不可以告妻子，乞勿洩也！」彭諾之，命僕馬馳送歸。

彭自是不能忘情於娟娘。又三年，以姊丈判揚州，因往省視。州有梁公子，與彭通家，開筵邀飲。即席有歌姬數輩，

俱來祇謁。公子問娟娘，家人白以病。公子怒曰：「婢子聲價自高，可將索子系之來！」彭聞娟娘名，驚問其誰。公子云：「此娼女，廣陵第一人。緣有微名，遂倨而無禮。」彭疑名字偶同，然突突自急，極欲一見之。無何，娟娘至，公子盛氣排數。彭諦視，真中秋所見者也。謂公子曰：「是與僕有舊，幸垂原恕。」娟娘向彭審顧，似亦錯愕。公子未遑深問，即命行觴。彭問：「『薄幸郎曲』猶記之否？」娟娘更駭，目注移時，始度舊曲。聽其聲，宛似當年中秋時。酒闌，公子命侍客寢。彭捉手曰：「三年之約，今始踐耶？」娟娘曰：「昔日從人泛西湖，飲不數卮，忽若醉。蒙朧間，被一人攜去置一村中，一僮引妾入，席中三客，君其一焉。後乘

船至西湖，送妾自窗櫺歸，把手殷殷。每所凝念，謂是幻夢，而綾巾宛在，今猶什襲藏之。」彭告以故，相共嘆吒。娟娘縱體入懷，哽咽而言曰：「仙人已作良媒，君勿以風塵可棄，遂舍念此苦海人。」彭曰：「舟中之約，未嘗一日去心。卿倘有意，則瀉囊貨馬，所不惜耳。」詰旦，告公子，又稱貸於別駕，千金削其籍，攜之以歸。偶至別業，猶能識當年飲處云。

異史氏曰：「馬而人，必其為人而馬者也；使為馬，正恨其不為人耳。獅象鶴鵬，悉受鞭策，何可謂非神人之仁愛乎？即訂三年約，亦度苦海也。」

五、四十、堪輿

沂州宋侍郎君楚家，素尚堪輿，即閨閣中亦能讀其書，解其理。宋公卒，兩公子各立門戶，為公卜兆。聞能善青烏之術者，不憚千里爭羅致之。於是兩門術士，召致盈百。日日連騎遍郊野，東西分道出入，如兩旅。經月餘，各得牛眠地，此言封侯，彼言拜相。兄弟兩不相下，因負氣不為謀，並營壽域，錦棚彩幢，兩處俱備。靈輿至歧路，兄弟各率其屬以爭，自晨至於日昃，不能決。賓客盡引去。舁夫凡十易肩，困憊不舉，相與委柩路側。因止不葬，鳩工構廬，以蔽風雨。兄建舍於旁，留役居守，弟亦建舍如兄，兄再建之，弟又建之：三年而成村焉。

積多年兄弟繼逝，嫂與姊始合謀，力破前人水火之議，並車入野，視所擇兩地，並言不佳，遂同修聘贄，請術人另相之。每得一地，必具圖呈閨闈，判其可否。日進數圖，悉疵摘之。旬餘，始卜一域。嫂覽圖，喜曰：「可矣。」示姊。姊曰：「是地當先發一武孝廉。」葬後二年，公長孫果以武生領鄉薦。

異史氏曰：「青烏之術，或有其理，而僻而信之則癡矣。況負氣相爭，委樞路側，其於孝弟之道不講，奈何冀以地理福兒孫哉！如閨中宛若，真雅而可傳者矣。」

五、四十一、竇氏

南三復，晉陽世家也。有別墅，去所居十餘里，每馳騎日一詣之。適遇雨，中途有小村，見一農人家，門內寬敞，因投止焉。近村人固皆威重南。少頃，主人出邀，跼踖甚恭，入其舍斗如。客既坐，主人始操篲，殷勤汜掃；既而潑蜜為茶。命之坐，始敢坐。問其姓名，自言：「廷章，姓竇。」未幾，進酒烹雛，給奉周至。有笄女行炙，時止戶外，稍稍露其半體，年十五六，端妙無比，南心動。雨歇既歸，系念綦切。

越日，具粟帛往酬，借此階進。是後常一過竇，時攜肴酒，相與留連。女漸稔，不甚避忌，輒奔走其前。睨之，則低鬟

微笑。南益惑焉，無三日不往者。一日值竇不在，坐良久，女出應客。南捉臂狎之，女慚急，峻拒曰：「奴雖貧，要嫁，何貴倨凌人也！」時南失偶，便揖之曰：「倘獲憐眷，定不他娶。」女要誓，南指矢天曰，以堅永約，女乃允之。自此為始，瞰竇他出，即過繾綣。女促之曰：「桑中之約，不可長也。日在帡幪之下，倘肯賜以姻好，父母必以為榮，當無不諧。宜速為計！」南諾之。轉念農家豈堪匹偶，姑假其詞以因循之。

會媒來議婚於大家，初尚躊躇，既聞貌美財豐，志遂決。女以體孕，催並益急，南遂絕跡不往。無何，女臨蓐，產一男。父怒撈女，女以情告，且言：「南要我矣。」竇乃釋女，使人

問南，南立即不承。竇乃棄兒。益撲女。女暗哀鄰婦，告南以苦，南亦置之。女夜亡，視棄兒猶活，遂抱以奔南。款關而告闈者曰：「但得主人一言，我可不死。彼即不念我，寧不念兒耶？」闈人具以達南，南戒勿入。女倚戶悲啼，五更始不復聞。至明視之，女抱兒坐殭矣。竇忿，訟之上官，悉以南不義，欲罪南。南懼，以千金行賂得免。

其大家夢女披發抱子而告曰：「必勿許負心郎；若許，我必殺之！」大家貪南富，卒許之。既親迎，奩妝豐盛，新人亦娟好，然喜悲，終日未嘗睹歡容，枕席之間，時復有涕洟。問之，亦不言。過數日，婦翁至，入門便淚，南未遑問故，相將入室。見女而駭曰：「適於後園，見吾女縊死桃樹上，今

房中誰也？」女聞言，色暴變，僕然而死。視之，則竇女。急至後園，新婦果自經死。駭極，往報竇。竇發女塚，棺啟尸亡。前忿未蠲，倍益慘怒，復訟於官。官因其情幻，擬罪未決。南又厚餌竇，哀令休結；官亦受其賕囑，乃罷。而南家自此稍替。又以異跡傳播，數年無敢字者。

南不得已，遠於百里外聘曹進士女。未及成禮，會民間訛傳，朝廷將選良家女充掖庭，以故有女者，悉送歸夫家去。一日，有嫗導一輿至，自稱曹家送女者。扶女入室，謂南曰：「選嬪之事已急，倉卒不能如禮，且送小娘子來。」問：「何無客？」曰：「薄有奩妝，相從在後耳。」嫗草草徑去。南視女亦風致，遂與諧笑。女俯頸引帶，神情酷類竇女。心中作惡，

第未敢言。女登榻，引被幃首而眠，亦謂新人常態，弗為意。日斂昏，曹人不至，始疑。捫被問女，而女亦奄然冰絕。驚怪莫知其故，馳伴告曹，曹竟無送女之事。相傳為異。時有姚孝廉女新葬，隔宿為盜所發，破材失尸。聞其異，詣南所征之，果其女。啟衾一視，四體裸然。姚怒，質狀於官，官因南屢行無理，惡之，坐發塚見尸，論死。

異史氏曰：「始亂之而終成之，非德也，況誓於初而絕於後乎？撻於室，聽之；哭於門，仍聽之：抑何其忍！而所以報之者，亦比李十郎慘矣！」

五、四十二、梁彥

徐州梁彥，患齕嚏，久而不已。一日方臥，覺鼻奇癢，遽起大嚏。有物突出落地，狀類屋上瓦狗，約指頂大。又嚏，又一枚落。四嚏凡落四枚。蠢然而動，相聚互嗅。俄而強者嚙弱者以食，食一枚則身頓長。瞬息吞並，止存其一，大於鼯鼠矣。伸舌周匝，自舐其吻。梁大愕，踏之，物緣襪而上，漸至股際。捉衣而撼擺之，粘據不可下。頃入衿底，爬搔腰脅。大懼，急解衣擲地。捫之，物已貼伏腰間。推之不動，掐之則痛，竟成贅疣，口眼已合，如伏鼠然。

五、四十三、龍肉

姜太史玉璇言：「龍堆之下，掘地數尺，有龍肉充物其中，任人割取，但勿言『龍』字。或言『此龍肉也』，則霹靂震作，擊人而死。」太史曾食其肉，實不謬也。

六、卷六

六、一、潞令

宋國英，東平人，以教習授潞城令。貪暴不仁，催科尤酷，斃杖下者狼藉於庭。餘鄉徐白山適過之，見其橫，諷曰：「為民父母，威焰固至此乎？」宋洋洋作得意之詞曰：「喏！不

敢！官雖小，蒞任百日，誅五十八人矣。」後半年，方據案視事，忽瞪目而起，手足撓亂，似與人撐拒狀，自言曰「我罪當死！我罪當死！」扶入署中，逾時尋卒。嗚呼！幸陰曹兼攝陽政，不然，顛越貨多，則「卓異」聲起矣，流毒安窮哉！

異史氏曰：「潞子故區，其人魂魄毅，故其為鬼雄。今有一官握篆於上，必有一二鄙流，風承而痔舐之。其方盛也，則竭攫未盡之膏脂，為之具錦屏；其將敗也，則驅誅未盡之肢體，為之乞保留。官無貪廉，每蒞一任，必有此兩事。赫赫者一日未去，則蚩蚩者不敢不從。積習相傳，沿為成規，其亦取笑於潞城之鬼也已！」

六、一、馬介甫

楊萬石，大名諸生也，生平有「季常之懼」。妻尹氏，奇悍，少迂之，輒以鞭撻從事。楊父年六十餘而鰥，尹以齒奴隸數。楊與弟萬鐘常竊餌翁，不敢令婦知。然衣敗絮，恐貽訕笑，不令見客。萬石四十無子，納妾王，旦夕不敢通一語。兄弟候試郡中，見一少年，容服都雅。與語，悅之，詢其姓字，自云：「介甫，馬姓。」由此交日密，焚香為昆季之盟。既別，約半載，馬忽攜僮僕過楊。值楊翁在門外曝陽捫虱，疑為傭僕，通姓氏使達主人，翁披絮去。或告曰：「此即其翁也。」馬方驚訝，楊兄弟岸幘出迎。登堂一揖，便請朝父，萬石辭以偶恙。促坐笑語，不覺向夕，萬石屢言具食而終不見。

至。兄弟迭互出入，始有瘦奴持壺酒來，俄頃飲盡。坐伺良久，萬石頻起催呼，額頰間熱汗蒸騰。俄瘦奴以饌具出，脫粟失飪，殊不甘旨。食已，萬石草草硬去。萬鐘襍被來伴客寢，馬責之曰：「曩以伯仲高義，遂同盟好。今老父實不溫飽，行道者羞之！」萬鐘泫然曰：「在心之情，卒難申致。家門不吉，蹇遭悍嫂，尊長細弱，橫被催殘。非瀝血之好，此醜不敢揚也。」馬駭嘆移時，曰：「我初欲早旦而行，今得此異聞，不可不一日見之。請假閑舍，就便自炊。」萬鐘從其教，即除室為馬安頓。夜深竊饋蔬稻，惟恐婦知。馬會其意，力卻之，且請楊翁與同食寢。自詣城肆市布帛，為易袍褲，父子兄弟皆感泣。萬鐘有子喜兒方七歲，夜從翁眠。馬撫之

曰：「此兒福壽，過於其父，但少年孤苦耳。」婦聞老翁安飽，大怒，輒罵，謂馬強預人家事。初惡聲尚在閨闈，漸近馬居，以示瑟歌之意。楊兄弟汗體徘徊，不能制止；而馬若弗聞也者。妾王，體妊五月，婦始知之，褫衣慘掠。已，乃喚萬石跪受巾幘，操鞭逐出。值馬在外，慚懔不前，又追逼之，始出。婦亦隨出，叉手頓足，觀者填溢。馬指婦叱曰：「去去！」婦即反奔，若被鬼逐，褲履俱脫，足纏縈繞於道上，徒跌而歸，面色灰死。少定，婢進襪履，著已，嗷啣大哭。家無敢問者。馬曳萬石為解巾幘，萬石聳身定息，如恐脫落，馬強脫之，而坐立不寧，猶懼以私脫加罪。探婦哭已，乃敢入，趑趄而前。婦殊不發一語，遽起，入房自寢。萬石意始

舒，與弟竊奇焉。家人皆以為異，相聚偶語。婦微有聞，益羞怒，遍撻奴婢。呼妾，妾創劇不能起。婦以為偽，就榻撈之，崩注墮胎。萬石於無人處，對馬哀啼，馬慰解之。呼僮具牢饌，更籌再唱，不放萬石去。

婦在閨房恨夫不歸，方大恚忿，聞撬扉聲，急呼婢，則室門已闢。有巨人入，影蔽一室，猙獰如鬼；俄又有數人入，各執利刃。婦駭絕欲號，巨人以刀刺頸曰：「號便殺卻！」婦急以金帛贖命。巨人曰：「我冥曹使者，不要錢，但取悍婦心耳！婦益懼，自投敗頰。巨人乃以利刃畫婦心而數之曰：「如某事，謂可殺否？」即以畫。凡一切兇悍之事，責數殆盡，刀畫膚革不啻數十。末乃曰：「妾生子，亦爾宗緒，何忍打墮？」

此事必不可宥！」乃令數人反接其手，剖視悍婦心腸。婦叩頭乞命，但言知悔。俄聞中門啟閉，曰：「楊萬石來矣。既已悔過，姑留餘生。」紛然盡散。

無何，萬石入，見婦赤身繃系，心頭刀痕，縱橫不可數。解而問之，得其故，大駭，竊疑馬。明日，向馬述之，馬亦駭。由是婦威漸斂，經數月不敢出一惡語。馬大喜，告萬石曰：「實告君，幸勿宣洩，前以小術懼之。既得好合，請暫別也。」遂去。婦每日暮，挽留萬石作侶，歡笑而承迎之。萬石生平不解此樂，遽遭之，覺坐立皆無所可。婦一夜憶巨人狀，瑟縮搖戰。萬石思媚婦意，微露其假。婦遽起，苦致窮詰。萬石自覺失言，而不能悔，遂實告之。婦勃然大罵，萬石懼，長

踞床下。婦不顧，哀至漏三下，婦曰：「欲得我恕，須以刀畫汝心頭如乾數，此恨始消。」乃起捉廚刀。萬石大懼而奔，婦逐之。犬吠雞騰，家人盡起。萬鐘不知何故，但以身左右翼兄。婦乃詬詈，忽見翁來，睹袍服，倍益烈怒，即就翁身條條割裂，批頰而摘翁髭。萬鐘見之怒，以石擊婦，中顛，顛蹶而斃。萬鐘曰：「我死而父兄得生，何憾！」遂投井中，救之已死。移時婦復蘇，聞萬鐘死，怒亦遂解。

既殯，弟婦戀兒，矢不嫁。婦唾罵不與食，醮去之。遺孤兒，朝夕受鞭楚，俟家人食訖，始啖以冷塊。積半歲，兒尪羸，僅存氣息。一日馬忽至，萬石囑家人，勿以告婦。馬見翁檻縷如故，大駭；又聞萬鐘殞謝，頓足悲哀。兒聞馬至，便來

依戀，前呼馬叔。馬不能識，審顧始辯，驚曰：「兒何憔悴至此！翁乃囁嚅具道情事，馬忿然謂萬石曰，我曩道兄非人，果不謬。兩人止此一線，殺之，將奈何？」萬石不言，惟伏首帖耳而泣。坐語數刻，婦已知之，不敢自出逐客，但呼萬石入，批使絕馬。含涕而出，批痕儼然。馬怒之曰：「兄不能威，獨不能斷『出』耶？毆父殺弟，安然忍之，何以為人！」萬石欠伸，似有動容。馬又激之曰：「如渠不去，理須殺；即便殺卻勿懼。僕有二三知交，都居要地，必合極力，保無虧也。」萬石喏，負氣疾行，奔而入。適與婦遇，叱問：「何為？」萬石皇遽失色，以手據地曰：「馬生教餘出婦。」婦益恚，顧尋刀杖，萬石懼而卻步。馬唾之曰：「兄真不可教也

已！遂開篋，出刀圭藥，合水授萬石飲。曰：「此丈夫再造散。所以不輕用者，以能病人故耳。今不得已，暫試之。」飲下，少頃，萬石覺忿氣填胸，如烈焰沖燒，刻不容忍，直抵閨闈，叫喊雷動。婦未及詰，萬石以足騰起，婦顛去數尺有咫。即復握石成拳，擂擊無算。婦體幾無完膚，嘲 猶詈。萬石於腰中出佩刀。婦罵曰：「出刀子，敢殺我耶？」萬石不語，割股上肉大如掌，擲地下。方欲再割，婦哀鳴乞恕。萬石不聽，又割之。家人見萬石兇狂，相集，死力掖出。馬迎去，捉臂相用慰勞。萬石餘怒未息，屢欲奔尋，馬止之。少間，藥力消，嗒若喪。馬囑曰：「兄勿餒。乾綱之振，在此一舉。夫人之所以懼者，非朝夕之故，其所由來者漸矣。譬

之昨死而今生，須從此滌故更新。再一餒，則不可為矣。」遣萬石入探入。婦股慄心慄，倩婢扶起，將以膝行。止之，乃已。出語馬生，父子交賀。馬欲去，父子共挽之。馬曰：「我適有東海之行，故便道相過，還時可復會耳。」

月餘婦起，賓事良人。久覺黔驢無技，漸狎，漸嘲，漸罵，居無何，舊態全作矣。翁不能堪，宵遁，至河南隸道士籍，萬石亦不敢尋。年余馬至，知其狀，怫然責數已，立呼兒至，置驢子上，驅策徑去。由此鄉人皆不齒萬石。學使案臨，以劣行黜名。又四五年，遭回祿，居室財物，悉為煨燼，延燒鄰舍。村人執以告郡，罰鍰煩苛。於是家產漸盡，至無居廬，近村相戒，無以舍舍萬石。尹氏兄弟，怒婦所為，亦絕拒之。

萬石既窮，質妾於貴家，偕妻南渡。至河南界，資斧已絕。婦不肯從，聒夫再嫁。適有屠而鰥者，以錢三百貨去。

萬石一身，丐食於遠村近郭間。至一朱門，闖入訶拒不聽前。少間一官人出，萬石伏地啜泣。官人熟視久之，略詰姓名，驚曰：「是伯父也！何一貧至此？」萬石細審，知為喜兒，不覺大哭。從之入，見堂中金碧煥映。俄頃，父扶童子出，相對悲哽。萬石始述所遭。初，馬攜喜兒至此，數日，即出尋楊翁來，使祖孫同居。又延師教讀。十五歲入邑庠，次年領鄉薦，始為完婚。乃別欲去，祖孫泣留之。馬曰：「我非人，實狐仙耳。道侶相候已久。」遂去。孝廉言之，不覺

惻楚。因念昔與庶伯母同受酷虐，倍益感傷。遂以輿馬贖金贖王氏歸。年餘生一子，因以為嫡。

尹從屠半載，狂悖猶昔。夫怒，以屠刀孔其股，穿以毛綆懸梁上，荷肉竟出。號極聲嘶，鄰人始知。解縛抽綆，一抽則呼痛之聲，震動四鄰。以是見屠來，則骨毛皆豎。後脛創雖愈，而斷芒遺肉內，終不利於行，猶夙夜服役，無敢少懈。屠既橫暴，每醉歸，則撻詈不情。至此，始悟昔之施於人者，亦猶是也。一日，楊夫人及伯母燒香普陀寺，近村農婦並來參謁。尹在中悵立不前，王氏故問：「此伊誰？」家人進白：「張屠之妻。」便訶使前，與太夫人稽首。王笑曰：「此婦從屠，當不乏肉食，何羸瘠乃爾？」尹愧恨，歸欲自經，綆

弱不得死。屠益惡之。歲餘，屠死。途遇萬石，遙望之，以膝行，淚下如麻。萬石礙僕，未通一言。歸告侄，欲謀珠還，侄固不肯。婦為里人所唾棄，久無所歸，依群乞以食。萬石猶時就尹廢寺中，侄以為玷，陰教群乞窘辱之，乃絕。

此事餘不知其究竟，後數行，乃畢公權撰成之。

異史氏曰：「懼內，天下之通病也。然不意天壤之間，乃有楊郎！寧非變異？余常作《妙音經》之續言，謹附錄以博一噓：

『竊以天道化生萬物，重賴坤成；男兒志在四方，尤須內助。同甘獨苦，勞爾十月呻吟；就濕移干，苦矣三年顰笑。此顧

宗祧而動念，君子所以有伉儷之求；瞻井臼而懷思，古人所以有魚水之愛也。第陰教之旗幟日立，遂乾綱之體統無存。始而不遜之聲，或大施而小報；繼則如賓之敬，竟有往而無來。只緣兒女深情，遂使英雄短氣。床上夜叉坐，任金剛亦須低眉；釜底毒煙生，即鐵漢無能強項。秋砧之杵可掬，不搗月夜之衣；麻姑之爪能搔，輕試蓮花之面。小受大走，直將代孟母投梭；婦唱夫隨，翻欲起周婆制禮。婆婆跳擲，停觀滿道行人；嘲

□

雞嘶，撲落一群嬌鳥。

『惡乎哉！呼天籲地，忽爾披發向銀床；醜矣夫！轉日搖頭，猥欲投繯延玉頸。當是時也：地下已多碎膽，天外更有驚魂。北宮黜未必不逃，孟施舍焉能無懼？將軍氣同雷電，一

入中庭，頓歸無何有之鄉；大人面若冰霜，比到寢門，遂有不可問之處。豈果脂粉之氣，不勢而威？胡乃骯臟之身，不寒而慄？猶可解者：魔女翹鬢來月下，何妨俯伏皈依？最冤枉者：鳩盤蓬首到人間，也要香花供養。聞怒獅之吼，則雙孔撩天；聽牝雞之鳴，則五體投地。登徒子淫而忘丑，「回波詞」憐而成嘲。設為汾陽之婿，立致尊榮，媚卿卿良有故；若贅外黃之家，不免奴役，拜僕僕將何求？彼窮鬼自覺無顏，任其斫樹摧花，止求包荒於悍婦，如錢神可云有勢，乃亦嬰鱗犯制，不能借助於方兄。

『豈縛游子之心，惟茲鳥道？抑消霸王之氣，恃此鴻溝？然死同穴，生同衾，何嘗教吟「白首」？而朝行雲，暮行雨，輒

欲獨占巫山。恨煞「池水清」，空按紅牙玉板；憐爾「妾命薄」，獨支永夜寒更。蟬殼鷺灘，喜驪龍之方睡；犢車塵尾，恨駑馬之不奔。榻上共臥之人，撻去方知為舅；床前久系之客，牽來已化為羊。需之殷者僅俄頃，毒之流者無盡藏。買笑纏頭，而成自作之孽，太甲必曰難違；俯首帖耳，而受無妄之刑，李陽亦謂不可。酸風凜冽，吹殘綺閣之春；酷海汪洋，淹斷藍橋之月。又或盛會忽逢，良朋即坐，鬥酒藏而不設，且由房出逐客之書；故人疏而不來，遂自我廣絕交之論。甚而雁影分飛，涕空沾於荊樹；鸞膠再覓，變遂起於蘆花。故飲酒陽城，一堂中惟有兄弟；吹竽商子，七旬餘並無室家。古人為此，有隱痛矣。

『嗚呼！百年鴛偶，竟成附骨之疽；五兩鹿皮，或買剝床之痛。髯如戟者如是，膽似鬥者何人？固不敢於馬棧下斷絕禍胎，又誰能向蠶室中斬除孽本？娘子軍肆其橫暴，苦療妒之無方；胭脂虎啖盡生靈，幸渡迷之有楫。天香夜蕪，全澄湯鑊之波；花雨晨飛，盡滅劍輪之火。極樂之境，彩翼雙棲；長舌之端，青蓮並蒂。拔苦惱於優婆之國，立道場於愛河之濱。咦！願此幾章貝葉文，灑為一滴楊枝水！』

六、三、魁星

鄆城張濟宇，臥而未寐，忽見光明滿室。驚視之，一鬼執筆立，若魁星狀。急起拜叩，光亦尋滅。由此自負，以為元魁

之先兆也。後竟落拓無成，家亦雕落，骨肉相繼死，惟生一人存焉。彼魁星者，何以不為福而為禍也？

#### 六、四、庫將軍

庫大有，字君實，漢中洋縣人，以武舉隸祖述舜麾下。祖厚遇之，屢蒙拔擢，遷偽周總戎。後覺大勢既去，潛以兵乘祖。祖格拒傷手，因就縛之，納款於總督蔡。至都夢至冥司，冥王怒其不義，命鬼以沸湯澆其足。既醒，足痛不可忍，後腫潰，指盡墮；又益之瘡。輒呼曰：「我誠負義！」遂死。異史氏曰：「事偽朝固不足言忠，然國士庸人，因知為報，賢豪之自命宜爾也。是誠可以惕天下之人臣而懷二心者矣。」

六、五、絳妃

癸亥歲，餘館於畢刺史公之綽然堂。公家花木最盛，暇輒從公杖履，得恣游賞。

一日眺覽既歸，倦極思寢，解屨登床。夢二女郎被服艷麗，近請曰：「有所奉托，敢屈移玉。」餘愕然起，問：「誰相見召？」曰：「絳妃耳。」恍惚不解所謂，遽從之去。俄睹殿閣高接雲漢，下有石階層層而上，約盡百餘級，始至顛頭。見朱門洞敞。又有二三麗者，趨入通客。無何，詣一殿外，金鉤碧箔，光明射眼，內一婦人降階出，環佩鏘然，狀若貴嬪。方思展拜，婦便先言：「敬屈先生，理須首射。」呼左右以毯

貼地，若將行禮。餘惶然無以為地，因啟曰：「草莽微賤，得辱寵召，已有餘榮。況分敢庭抗禮，益臣之罪，折臣之福！妃命撤毯設宴，對宴相向。酒數行，餘辭曰：「臣飲少輒醉，懼有愆儀。教命云何？幸釋疑慮。」妃不言，但以巨杯促飲。餘屢請命，乃言：「妾，花神也。合家細弱依棲於此，屢被封家女子橫見摧殘。今欲背城借一，煩君屬檄草耳。」餘惶然起奏：「臣學陋不文，恐負重托；但承寵命，敢不竭肝膈之愚。」妃喜，即殿上賜筆札。諸姬者拭案拂坐，磨墨濡毫。又一垂髻人，折紙為範置腕下。略寫一兩句，便二三輩疊背相窺。餘素遲鈍，此時覺文思若湧。少間稿脫，爭持去啟呈

絳妃。妃展閱一過，頗謂不疵，遂復送餘歸。醒而憶之，情事宛然。但檄詞強半遺忘，因足而成之：

「謹按封氏，飛揚成性，忌嫉為心。濟惡以才，妒同醉骨；射人於暗，奸類含沙。昔虞帝受其狐媚，英、皇不足解憂，反借渠以解慍；楚王蒙其盅惑，賢才未能稱意，惟得彼以稱雄。沛上英雄，雲飛而思猛士；茂陵天子，秋高而念佳人。從此怙寵日恣，因而肆狂無忌。怒號萬竅，響碎玉於王宮；澎湃中宵，弄寒聲於秋樹。倏向山林叢裏，假虎之威；時於灑灑堆中，生江之浪。」

「且也，簾鉤頻動，發高閣之清商；簷鐵忽敲，破離人之幽夢。尋帷下榻，反同入幕之賓；排闥登堂，竟作翻書之客。」

不會於生平識面，直開門戶而來；若非是掌上留裙，凡掠妃子而去。吐虹絲於碧落，乃敢因月成闌；翻柳浪於青郊，謬說為花寄信。賦歸田者，歸途才就，飄飄吹薜荔之衣；登高合者，高興方濃，輕輕落茱萸之帽。篷梗卷兮上下，三秋之羊角搏空；箏聲入乎雲霄，百尺之鳶絲斷系。不奉太后之詔，欲速花開；未絕坐客之纓，竟吹燈滅。

「甚則揚塵播土，吹平李賀之山；叫雨呼云，卷破杜陵之屋。馮夷起而擊鼓，少女進而吹笙。蕩漾以來，草皆成偃；吼奔而至，瓦欲為飛。未施搏水之威，浮水江豚時出拜；陡出障天之勢，書天雁字不成行。助馬當之輕帆，彼有取爾；牽瑤臺之翠帳，於意云何？至於海鳥有靈，尚依魯門以避；但使

行人無恙，願喚尤郎以歸；古有賢豪，乘而破者萬里；世無高士，御以行者幾人？駕炮車之狂云，遂以夜郎自大；恃貪狼之逆氣，漫以河伯為尊。姊妹俱受其摧殘，匯族悉為其蹂躪。紛紅駭綠，掩苒何窮？擘柳鳴條，蕭騷無際。雨零金谷，綴為藉客之裯；露冷華林，去作沾泥之絮。埋香瘞玉，殘妝卸而翻飛；朱榭雕闌，雜佩紛其零落。減春光於旦夕，萬點正飄愁；覓殘紅於西東，五更非錯恨。翻躑江漢女，弓鞋漫踏春園；寂寞玉樓人，珠勒徒嘶芳草。

「斯時也：傷春者有難乎為情之怨，尋勝者作無可奈何之歌。爾乃趾高氣揚，發無端之踔厲；催蒙振落，動不已之攔珊。傷哉綠樹猶存，簌簌者繞墻白落；久矣朱幡不豎，娟娟者實

涕誰憐？墮溷沾籬，畢芳魂於一日；朝容夕悴，免荼毒於何年？怨羅裳之易開，罵空聞於子夜；訟狂伯之肆虐，章未報於天庭。誕告芳鄰，學作蛾眉之陣；凡屬同氣，群興草木之兵。莫言蒲柳無能，但須藩籬有志。且看鶯儔燕侶，公覆奪愛之仇；請與蝶友蜂媒，共發同心之誓。蘭橈桂楫，可教戰於昆明；桑蓋柳旌，用觀兵於上苑。東籬處士，亦出茅廬；大樹將軍，應懷義憤。殺其氣焰，洗千年粉黛之冤；殲爾豪強，銷萬古風流之恨！

六、六、河間生

河間某生，場中積麥穰如丘，家人日取為薪，洞之。有狐居其中，常與主人相見，老翁也。一日屈主人飲，拱生入洞，生難之，強而後入。入則廊舍華好。即坐，茶酒香烈；但日色蒼皇，不辨中夕。筵罷既出，景物俱杳。翁每夜往夙歸，人莫能跡，問之則言友朋招飲。生請與俱，翁不可；固請之，翁始諾。挽生臂，疾如乘風，可炊黍時，至一城市。入酒肆，見坐客良多，聚飲頗曄，乃引生登樓上。下視飲者，幾案枰餐，可以指數。翁自下樓，任意取案上酒果，抔來供生。筵中人曾莫之禁。移時，生視一朱衣人前列金橘，命翁取之。翁曰：「此正人，不可近。」生默念：狐與我游，必我邪也。

自今以往，我必正！方一注想，覺身不自主，眩墮樓下。飲者大駭，相嘩以妖。生仰視，竟非樓，乃梁間耳。以實告眾。眾審其情確，贈而遣之。問其處，乃魚臺，去河間千里雲。

六、七、雲翠仙

梁有才，故晉人，流寓於濟作小負販，無妻子田產。從村人登岱。當四月交，香侶雜沓，又有優婆夷、塞，率男子以百十，雜跪神座下，視香炷為度，名曰：「跪香」。才視眾中有女郎，年十七八而美，悅之。詐為香客，近女郎跪，又偽為膝困無力狀，故以手據女郎足。女回首似嗔，膝行而遠之。才亦膝行而近之，少間又據之。女郎覺，遽起，不跪，出門

去。才亦起，亦出履其跡，不知其往，心無望，怏怏而行。途中見女郎從媪，似為女也母者，才趨之。

媪女行且語，媪云：「汝能參禮娘娘，大好事！汝又無弟妹，但獲娘娘冥加護，護汝得快婿。但能相孝順，都不必貴公子、富王孫也。」才竊喜，漸漬詰媪；媪自言為雲氏，小女名翠仙，其出也。家西山四十里。才曰：「山路」，母如此蹢躅，妹如此纖纖，何能便至？」曰：「日已晚，將寄舅家宿耳。」才曰：「適言相婿，不以貧嫌，不以賤鄙，我又未婚，頗當母意否？」媪以問女，女不應；媪數問，女曰：「渠寡福，又蕩無行，輕薄之心，還易翻覆。兒不能為邇伎兒作

婦。」才聞，樸誠自表，切矢皦日。媪喜，竟諾之。女不樂，勃然而已。母又強拍咻之。

才殷勤，手於橐，覓山兜二，舁媪及女，已步從，若為僕。過隘，輒訶兜夫不得顛搖，意良殷。俄抵村舍，便邀才同入舅家。舅出翁，矜出媪也。雲兄之嫂之，謂：「才吾婿。日適良，不須別擇，便取今夕。」舅亦喜，出酒肴餌才。既，嚴妝翠仙出，拂榻促眠。女曰：「我固知郎不義，迫母命，漫相隨。郎若人也，當不須憂偕活。」才唯唯聽受。

明日早起，母謂才：「宜先去，我以女繼至。」才歸，掃戶闔，媪果送女至。入視室中，虛無有，便云：「似此何能自

給？老身速歸，當小助汝辛苦。」遂去。次日，即有男女數輩，各攜服食器具，布一室滿之。不飯俱去，但留一婢。

才由此坐溫飽，惟日引里無賴朋飲競賭，漸盜女郎簪珥佐博。女勸之不聽，頗不耐之，惟嚴守箱奩，如防寇。一日，博黨款門訪才，窺見女，適適然驚。戲謂才曰：「子大富貴，何憂貧耶？」才問故，答曰：「曩見夫人，真仙人也。適與子家道不相稱。貨為媵，金可得百；為妓，可得千。千金在室，而聽飲博無資耶？」才不言，而心然之。歸，輒向女歛獻，時時言貧不可度。女不顧，才頻頻擊桌，拋箸，罵婢，作諸態。一夕女沽酒與飲，忽曰：「郎以貧故，日焦心。我又不能御貧，分郎憂衷，豈不愧忤？但無長物，止有此婢，

鬻之，可稍稍佐經營。」才搖首曰：「其值幾何！」又飲少時，女曰：「妾於郎，有何不相承？但力竭耳。念一貧如此，便死相從，不過均此百年苦，有何發跡？不如以妾鬻貴家，兩所便益，得值或較婢多。」才故愕言：「何得至此！」女固言之，色作莊。才喜曰：「容再計之。」遂緣中貴人，貨隸樂籍。中貴人親詣才，見女大悅。恐不能即得，立券八百緡，事濱就矣。女曰：「母以婿家貧，常常縈念，今意斷矣，我將暫歸省；且郎與妾絕，何得不告母？」才慮母阻，女曰：「我顧自樂之，保無差貸。」才從之。

夜將半，始抵母家。搗闔入，見樓舍華好，婢僕輩往來憧憧。才曰與女居，每請詣母，女輒止之。故為甥館年餘，曾未一

臨岳家。至此大駭，以其家巨，恐媵妓所不甘從也。女引才登樓上，媼驚問：「夫婦何來？」女怨曰：「我固道渠不義，今果然。」乃於衣底出黃金一錠，置幾上，曰：「幸不為小人賺脫，今仍以還母。」母駭問故，女曰：「渠將鬻我，故藏金無用處。」乃指才罵曰：「豺鼠子！曩日負肩擔，面沾塵如鬼。初近我，熏熏作汗腥，膚垢欲傾塌，足手皴一寸厚，使人終夜惡。自我歸汝家，安座餐飯，鬼皮始脫。母在前，我豈誣耶？」才垂首不敢少出氣。女又曰：「自顧無傾城姿，不堪奉貴人；似若輩男子，我自謂猶相匹，有何虧負，遂無一念香火情？我豈不能起樓宇、買良沃？念汝儂薄骨、乞丐相，終不是白頭侶！」言次，婢媼連衿臂，旋旋圍繞之。聞女責

數，便都唾罵，共言：「不如殺卻，何須復云云：「才大懼，據地自投，但言知悔。女又盛氣曰：「鬻妻子已大惡，猶未便是劇，何忍以同衾人賺作娼！」言未已，眾皆裂，悉以銳簪、剪刀股攢刺脅腓。才號悲乞命，女止之，曰：「可暫釋卻。渠便無仁義，我不忍殺。」乃率眾下樓去。

才坐聽移時，語聲俱寂，思欲潛遁。忽仰視，見星漢，東方已白，野色蒼莽，燈亦尋滅。並無屋宇，身坐削壁上。俯瞰絕望深無底，駭絕，懼墮。身稍移，塌然一聲，隨石崩墜，壁半有枯橫焉，冒不得墮。以枯受腹，手足無著。下視茫茫，不知幾何尋丈。不敢轉側，嗥怖聲嘶，一身盡腫，眼耳鼻舌身力俱竭。日漸高，始有樵人望見之；尋縋來，縋而下，取

置崖上，奄將溘斃。舁歸其家，至則門洞敞，家荒荒如敗寺，床簾什器俱杳，惟有繩床敗案，是己家舊物，零落猶存。嗒然自臥，饑時日一乞食於鄰，既而腫潰為癩。里黨薄其行，悉唾棄之。才無計，貨屋而穴居，行乞於道，以刀自隨。或勸以刀易餌，才不肯，曰：「野居防虎狼，用自衛耳。」後遇向勸鬻妻者於途，近而哀語，遽出刀擊而殺之，遂被收。官廉得其情，亦未忍酷虐之，系獄中，尋瘐死。

異史氏曰：「得遠山芙蓉，與共四壁，與之南面王豈易哉！己則非人，而怨逢惡之友，故為友者不可不知戒也。凡狹邪子誘人淫博，為諸不義，其事不敗，雖則不怨亦不德。迨於身無襦，婦無褲，千人所指，無疾將死，窮敗之念，無時不

縈於心；窮敗之恨，無時不加於齒。清夜牛衣中，輾轉不寐。夫然後歷歷想未落時，歷歷想將落時，又歷歷想致落之故，而因以及發端致落之人。至於此，弱者起，擁絮坐詛，強者忍凍裸行，篝火索刀，霍霍磨之，不待終夜矣。故以善規人，如贈橄欖；以惡誘人，如饋漏脯也。聽者固當省，言者可勿戒哉！

## 六、八、跳神

濟俗：民間有病者，閨中以神卜。倩女巫擊鐵環單面鼓，娑婆作態，名曰「跳神」。而此俗都中尤盛。良家少婦，時自為之。堂中肉於案，酒於盆，甚設幾上。燒巨燭，明於晝。婦

束短幅裙，屈一足，作「商羊舞」。兩人捉臂，左右扶掖之。婦刺刺瑣絮，似歌又似祝，字多寡參差，無律帶腔。室數鼓亂，搗如雷，蓬蓬聒人耳。婦吻鬪翁，雜鼓聲，不甚辨了。既而首垂目斜睨，立全須人，失扶則僕。旋忽伸頸巨躍，離地尺有咫。室中諸女子，凜凜愕顧曰：「祖宗來吃食矣。」便一噓，吹燈滅，內外冥黑。人慄息立暗中，無敢交一語，語亦不得聞，鼓聲亂也。食頃，聞婦厲聲呼翁姑及夫嫂小字，始共爇燭，偃僂問休咎。視樽中、盎中、案中，都空。望顏色，察嗔喜。肅肅羅問之，答若響。中有腹誹者，神已知，便指某姍笑我，大不敬，將褫汝褲。誹者自顧，瑩然已裸，輒於門外樹頭覓得之。

滿洲婦女，奉事尤虔。小有疑，必以決。時嚴妝，騎假虎、假馬，執長兵，舞榻上，名「跳虎神」。馬、虎勢作威怒，尸者聲儉佇。或言關、張、玄壇，不一號。赫氣慘凜，尤能畏怖人。有丈夫穴窗來窺，輒被長兵破窗刺帽，挑入去。一家媪媳姊若妹，森森蹣蹣，雁行立，無歧念，無懈骨。

### 六、九、鐵布衫法

沙回子得鐵布衫大力法，駢其指力斫之，可斷牛項；橫擲之，可洞牛腹。曾在仇公子彭三家，懸木於空，遣兩健僕極力撐去，猛反之，沙裸腹受木，砰然一聲，木去遠矣。又出其勢即石上，以木椎力擊之，無少損。但畏刀耳。

六、十、大力將軍

查伊璜，浙人，清明飲野寺中，見殿前有古鐘，大於兩石甕，而上下土痕手跡，滑然如新。疑之。俯窺其下，有竹筐受八升許，不知所貯何物。使數人掘耳，力掀舉之無少動，益駭。乃坐飲以伺其人；居無何，有乞兒入，攜所得糗糲，堆累鐘下。乃以一手起鐘，一手掬餌置筐內，往返數回始盡。已復合之乃去，移時復來，探取食之。食已復探，輕若啟櫝。一座盡駭。查問：「若個男兒胡行乞？」答以：「啖噉多，無備者。」查以其健，勸投行伍，乞人愀然慮無階。查遂攜歸餌之，計其食，略倍五六人。為易衣履，又以五十金贈之行。

後十餘年，查猶子令於閩，有吳將軍六一者，忽來通謁。款談間，問：「伊璜是君何人？」答言：「為諸父行。與將軍何處有素？」曰：「是我師也。十年之別，頗復憶念。煩致先生一賜臨也。」漫應之。自念叔名賢，何得武弟子？會伊璜至，因告之，伊璜茫不記憶。因其問訊之殷，即命僕馬，投刺於門。將軍趨出，逆諸大門之外。視之，殊昧生平。竊疑將軍誤，而將軍傴僂益恭。肅客入，深啟三四關，忽見女子往來，知為私廨，屏足立。將軍又揖之。少間登堂，則卷簾者、移座者，並皆少姬。既坐，方擬展問，將軍頤少動，一姬捧朝服至，將軍遽起更衣，查不知其何為。眾姬捉袖整衿訖，先命數人撩查座上不使動，而後朝拜，如覲君父。查大愕，莫

解所以。拜已，以便服侍坐。笑曰：「先生不憶舉鐘之乞人耶？」查乃悟。既而華筵高列，家樂作於下。酒闌，群姬列侍。將軍入室，請衽何趾，乃去。

查醉起遲，將軍已於寢門三問矣。查不自安，辭欲返，將軍投轄下鑰，錮閉之。見將軍曰：「無別作，惟點數姬婢養廝卒，及驟馬服用器具，督造記籍，戒無虧漏。」查以將軍家政，故未深叩。一日，執籍謂查曰：「不才得有今日，悉出高厚之喝。一婢一物，所不敢私，敢以半奉先生。」查愕然不受，將軍不聽。出藏鏹數萬，亦兩置之。按籍點照，古玩床幾，堂內外羅列幾滿。查固止之，將軍不顧。稽婢僕姓名已，即今

男為治裝，女為斂器，且囑敬事先生，百聲悚應。又親視姬婢登輿，廐卒捉馬騾，鬪咽並發，乃返別查。

後查以修史一案，株連被收，卒得免，皆將軍力也。異史氏曰：「厚施而不問其名，真俠烈古丈夫哉！而將軍之報，其慷慨豪爽，尤千古所僅見。如此胸襟，自不應老於溝瀆，以是知兩賢之相遇，非偶然也。」

### 六、十一、白蓮教

白蓮盜首徐鴻儒，得左道之書，能役鬼神。小試之，觀者盡駭，走門下者如鶩。於是陰懷不軌。因出一鏡，言能鑒人終身。懸於庭，令人自照，或襍頭，或紗帽，繡衣貂蟬，現形不

一。人益怪愕。由是道路遙播，踵門求見者，揮汗相屬。徐乃宣言：「凡鏡中文武貴官，皆如來佛注定龍華會中人。各宜努力，勿得退縮。」因以對眾自照，則冕旒龍袞，儼然王者。眾相視而驚，大眾齊伏。徐乃建旗秉鉞，罔不歡躍相從，翼符所照。不數月，聚黨以萬計，滕、嶧一帶，望風而靡。

後大兵進剿，有彭都司者，長山人，藝勇絕倫，寇出二垂髻女與戰。女俱雙刃，利如霜；騎大馬，噴嘶甚怒。飄忽盤旋，自晨達暮，彼不能傷彭，彭亦不能捷也。如此三日，彭覺筋力俱竭，哮喘卒。迨鴻儒既誅，捉賊黨械問之，始知刃乃木刀，騎乃木凳也。假兵馬死真將軍，亦奇矣！

六、十二、顏氏

順天某生，家貧，值歲饑，從父之洛。性鈍，年十七，裁能成幅。而豐儀秀美，能雅諠，善尺牘，見者不知其中之無有也。無何，父母繼歿，孑然一身，受童蒙於洛汭。

時村中顏氏有孤女，名士裔也，少慧，父在時嘗教之讀，一過輒記不忘。十數歲，學父吟詠，父曰：「吾家有女學士，惜不弁耳。」鐘愛之，期擇貴婿。父卒，母執此志，三年不遂，而母又卒。或勸適佳士，女然之而未就也。適鄰婦逾垣來，就與攀談。以字紙裏繡線，女啟視，則某手翰，寄鄰生者，反復之似愛好焉。鄰婦窺其意，私語曰：「此翩翩一美少年，

孤與卿等，年相若也。倘能垂意，妾囑渠儂。合之。」女默默不語。婦歸，以意授夫。鄰生故與生善，告之，大悅。有母遺金鴉環，托委致焉。刻日成禮，魚水甚歡。

及睹生文，笑曰：「文與卿似是兩人，如此，何日可成？」朝夕勸生研讀，嚴如師友。斂昏，先挑燭據案自哦，為丈夫率聽漏三下，乃已。如是年餘，生制藝頗通，而再試再黜，身名蹇落，饔飧不給，撫情寂漠，嗷嗷悲泣。女訶之曰：「君非丈夫，負此弁耳！使我易髻而冠，青紫直芥視之！」生方懊喪，聞妻言，睽暘而怒曰：「閨中人，身不到場屋，便以功名富貴，似在廚下汲水炊白粥；若冠加於頂，恐亦猶人耳！」女笑曰：「君勿怒。俟試期，妾請易裝相代。倘落拓如君，當

不敢復藐天下士矣。」生亦笑曰：「卿自不知蘄苦，直宜使請嘗試之。但恐綻露，為鄉鄰笑耳。」女曰：「妾非戲語。君嘗言燕有故廬，請男裝從君歸，偽為弟。君以襁褓出，誰得辨其非？」生從之。女入房，巾服而出，曰：「視妾可作男兒否？」生視之，儼然一少年也。生喜，遍辭里社。交好者薄有饋遺，買一羸蹇，御妻而歸。

生叔兄尚在，見兩弟如冠玉，甚喜，晨夕恤顧之。又見宵旰攻苦，倍益愛敬。雇一剪發雛奴為供給使，暮後輒遣去之。鄉中吊慶，兄自出周旋，弟惟下帷讀。居半年，罕有睹其面者。客或請見，兄輒代辭。讀其文，蝦然駭異。或排闥入而迫之，一揖便亡去。客見豐採，又共傾慕，由此名大噪，世

家爭願贅焉。叔兄商之，惟蹶然笑。再強之，則言：「矢志青雲，不及第，不婚也。」會學使案臨，兩人並出。兄又落；弟以冠軍應試，中順天第四。明年成進士，授桐城令，有吏治。尋遷河南道掌印御史，富埒王侯。因托疾乞骸骨，賜歸田里。賓客填門，迄謝不納。

又自諸生以及顯貴，並不言娶，人無不怪之者。歸後漸置婢，或疑其私，嫂察之，殊無苟且。無何，明鼎革，天下大亂。乃告嫂曰：「實相告：我小郎婦也。以男子鬪茸，不能自立，負氣自為之。深恐播揚，致天子召問，貽笑海內耳。」嫂不信。脫靴而示之足，始愕，視靴中則絮滿焉。於是使生承其銜，仍閉門而雌伏矣。而生平不孕，遂出資購妾。謂生曰：「凡

人置身通顯，則買姬媵以自奉，我宦跡十年猶一身耳。君何福澤，坐享佳麗？」生日：「面首三十人，請卿自置耳。」相傳為笑。是時生父母，屢受覃恩矣。搢紳拜往，尊生以待禦禮。生羞襲閨銜，惟以諸生自安，終身未嘗輿蓋云。

異史氏曰：「翁姑受封於新婦，可謂奇矣。然侍御而夫人也者，何時無之？但夫人而侍御者少耳。天下冠儒冠、稱丈夫者，皆愧死矣！」

六、十三、杜翁

杜翁，沂水人。偶自市中出，坐墻下，以候同游。覺少倦，忽若夢，見一人持牒攝去。至一府署，從來所未經。一人戴

瓦壘冠自內出，則青州張某，其故人也。見杜驚曰：「杜大哥何至此？」杜言：「不知何事，但有勾牒。」張疑其誤，將為查驗。乃囑曰：「謹立此，勿他適。恐一迷失，將難救挽。」遂去，久之不出。

惟持牒人來，自認其誤，釋今歸。別杜而行，途中遇六七女郎，容色美好，悅而尾之。下道，趨小徑，行數十步，聞張在後大呼曰：「杜大哥，汝將何往？」杜迷戀不已。俄見諸女人入一圭竇，心識為王氏賣酒之家。不覺探身門內，略一窺瞻，即覺身在苙中，與諸小豕同伏。豁然自悟，已化豕矣。而耳中猶聞張呼，大懼，急以首觸壁。聞人言曰：「小豕顛癩矣。」還顧，已復為人。速出門，則張候於途。責曰：「固囑勿他

往，何不聽言？幾至壞事！遂把手送至市門，乃去。杜忽醒，則身猶倚壁間。詣王氏問之，果有一豕自觸死雲。

六、十四、小謝

渭南姜部郎第，多鬼魅，常惑人，因徙去。留蒼頭門之而死，數易皆死，遂廢之。里有陶生望三者，夙倜儻，好狎妓，酒闌輒去之。友人故使妓奔就之，亦笑內不拒，而實終夜無所沾染。常宿部郎家，有婢夜奔，生堅拒不亂，部郎以是契重之。家甚貧，又有「鼓盆之戚」；茅屋數椽，溽暑不堪其熱，因請部郎假廢第。部郎以其兇故卻之，生因作《續無鬼論》獻部郎，且曰：「鬼何能為！」部郎以其請之堅，諾之。

生往除廳事。薄暮，置書其中，返取他物，則書已亡。怪之，仰臥榻上，靜息以伺其變。食頃，聞步履聲，睨之，見二女自房中出，所亡書送還案上。一約二十，一可十七八，並皆姝麗。逡巡立榻下，相視而笑。生寂不動。長者翹一足踞生腹，少者掩口匿笑。生覺心搖搖若不自持，即急肅然端念，卒不顧。女近以左手捋髭，右手輕批頤頰作小響，少者益笑。生驟起，叱曰：「鬼物敢爾！」二女駭奔而散。生恐夜為所苦，欲移歸，又恥其言不掩，乃挑燈讀。暗中鬼影僮僮，略不顧瞻。夜將半，燭而寢。始交睫，覺人以細物穿鼻，奇癢，大嚏，但聞暗處隱隱作笑聲。生不語，假寐以俟之。俄見少女以紙條拈細股，鶴行鷺伏而至，生暴起訶之，飄竄而去。既

寢，又穿其耳。終夜不堪其擾。雞既鳴，乃寂無聲，生始酣眠，終日無所睹聞。

日既下，恍惚出現。生遂夜炊，將以達旦。長者漸曲肱幾上觀生讀，既而掩生卷。生怒捉之，即已飄散；少間，又撫之。生以手按卷讀。少者潛於腦後，交兩手掩生日，瞥然去，遠立以哂。生指罵曰：「小鬼頭！捉得便都殺卻！」女子即又不懼。因戲之曰：「房中縱送，我都不解，纏我無益。」二女微笑，轉身向灶，析薪澆米，為生執爨。生顧而獎之曰：「兩卿此為，不勝慙跳耶？」俄頃粥熟，爭以匕、箸、陶碗置幾上。生日：「感卿服役，何以報德？」女笑云：「『飯中澆合

砒、酖矣。」生曰：「與卿夙無嫌怨，何至以此相加。」啜已復盛，爭為奔走。生樂之，習以為常。

日漸稔，接坐傾語，審其姓名。長者云：「妾秋容喬氏，彼阮家小謝也。」又研問所由來，小謝笑曰：「癡郎！尚不敢一呈身，誰要汝問門第，作嫁娶耶？」生正容曰：「相對麗質，寧獨無情；但陰冥之氣，中人必死。不樂與居者，行可耳；樂與居者，安可耳。如不見愛，何必玷兩佳人？如果見愛，何必死一狂生？」一女相顧動容，自此不甚虐弄之。然時而探手於懷，捋褲於地，亦置不為怪。

一日，錄書未卒業而出，返則小謝伏案頭，操管代錄。見生，擲筆睨笑。近視之，雖劣不成書，而行列疏整。生贊

曰：「卿雅人也！苟樂此，僕教卿為之。」乃擁諸懷，把腕而教之畫。秋容自外入，色乍變，意似妒。小謝笑曰：「童時嘗從父學書，久不作，遂如夢寐。」秋容不語。生喻其意，偽為不覺者，遂抱而授以筆，曰：「我視卿能此否？」作數字而起，曰：「秋娘大好筆力！」秋容乃喜。生於是折兩紙為範，俾共臨摹，生另一燈讀。竊喜其各有所事，不相侵擾。仿畢，祇立幾前，聽生月旦。秋容素不解讀，塗鴉不可辨認，花判已，自顧不如小謝，有慚色。生獎慰之，顏霽。二女由此師事生，坐為抓背，臥為按股，不惟不敢侮，爭媚之。逾月，小謝書居然端好，生偶贊之。秋容大慚，粉黛淫淫，淚痕如線，生百端慰解之乃已。因教之讀，穎悟非常，指示一過，

無再問者。與生競讀，常至終夜。小謝又引其弟三郎來拜生門下，年十五六，姿容秀美，以金如意一鉤為贄。生令與秋容執一經，滿堂咿唔，生於此設鬼帳焉。部郎聞之喜，以時給其薪水。積數月，秋容與三郎皆能詩，時相酬唱。小謝陰囑勿教秋容，生諾之；秋容陰囑勿教小謝，生亦諾之。一日生將赴試，二女涕淚相別。三郎曰：「此行可以托疾免；不然，恐履不吉。」生以告疾為辱，遂行。先是，生好以詩詞譏切時事，獲罪於邑貴介，日思中傷之。陰賂學使，誣以行簡，淹禁獄中。資斧絕，乞食於囚人，自分已無生理。忽一人飄忽而入，則秋容也，以饌具饋生。相向悲咽，曰：「三郎慮君不吉，今果不謬。三郎與妾同來，赴院申理矣。」數

語而出，人不之睹。越日部院出，三郎遮道聲屈，收之。秋容入獄報生，返身往偵之，三日不返。生愁餓無聊，度日如年。忽小謝至，愴惋欲絕，言：「秋容歸，經由城隍祠，被西廊黑判強攝去，逼充御賸。秋容不屈，今亦幽囚。妾馳百里，奔波頗殆；至北郭，被老棘刺吾足心，痛徹骨髓，恐不能再至矣。」因示之足，血殷凌波焉。出金三兩，跛踣而沒。部院勘三郎，素非瓜葛，無端代控，將杖之，撲地遂滅。異之。覽其狀，情詞悲惻。捉生面鞫，問：「三郎何人？」生偽為不知。部院悟其冤，釋之。既歸，竟夕無一人。更闌，小謝始至，慘然曰：「三郎在部院，被廨神押赴冥司；冥王因三郎義，令托生富貴家。秋容久錮，妾以狀投城隍，又被按閣

不得入，且復奈何？」生忿然曰：「黑老魅何敢如此！明日僕其像，踐踏為泥，數城隍而責之。案下吏暴橫如此，渠在醉夢中耶！」悲憤相對，不覺四漏將殘，秋容飄然忽至。兩人驚喜，急問。秋容泣下曰：「今為郎萬苦矣！判日以刀杖相逼，今夕忽放妾歸，曰：『我無他意，原亦愛故；既不願，固亦不會污玷。煩告陶秋曹，勿見譴責。』」生聞少歡，欲與同寢，曰：「今日願與卿死。」二女戚然曰：「向受開導，頗知義理，何忍以愛君者殺君乎？」執不可。然俯頸傾頭，情均伉儷。二女以遭難故，妒念全消。會一道士途遇生，顧謂「身有鬼氣」。生以其言異，具告之。道士曰：「此鬼大好，不擬負他。」因書二符付生，曰：「歸授兩鬼，任其福命。如聞

門外有哭女者，吞符急出，先到者可活。」生拜受，歸囑二女。後月餘，果聞有哭女者，二女爭棄而去。小謝忙急，忘吞其符。見有喪輿過，秋容直出，入棺而沒；小謝不得入，痛哭而返。生出視，則富室郝氏殯其女。共見一女子入棺而去，方共驚疑；俄聞棺中有聲，息肩發驗，女已頓蘇。因暫寄生齋外，羅守之。忽開目問陶生，郝氏研詰之，答云：「我非汝女也。」遂以情告。郝未深信，欲舁歸，女不從，徑入生齋，偃臥不起。郝乃識婿而去。

生就視之，面龐雖異，而光艷不減秋容，喜愜過望，殷敘平生。忽聞嗚嗚然鬼泣，則小謝哭於暗陬。心甚憐之，即移燈往，寬譬哀情，而衿袖淋浪，痛不可解，近曉始去。天明，

郝以婢媪齎送香奩，居然翁婿矣。暮入帷房，則小謝又哭。如此六七夜。夫婦俱為慘動，不能成合巹之禮。生憂思無策，秋容曰：「道士，仙人也。再往求，倘得憐救。」生然之。跡道士所在，叩伏自陳。道士力言「無術」，生哀不已。道士笑曰：「癡生好纏人。合與有緣，請竭吾術。」乃從生來，索靜室，掩扉坐，戒勿相問，凡十餘日，不飲不食。潛窺之，瞑若睡。一日晨興，有少女搴簾入，明眸皓齒，光艷照人，微笑曰：「跋履終日，憊極矣！被汝糾纏不了，奔馳百里外，始得一好廬舍，道人載與俱來矣。待見其人，便相交付耳。」斂昏。小謝至，女遽起迎抱之，翕然合為一體，僕地而殭。

道士自室中出，拱手徑去。拜而送之。及返，則女已蘇。扶置床上，氣體漸舒，但把足呻言趾股痠痛，數日始能起。

後生應試得通籍。有蔡子經者與同譜，以事過生，留數日。小謝自鄰舍歸，蔡望見之，疾趨相躡，小謝側身斂避，心竊怒其輕薄。蔡告生曰：「一事深駭物聽，可相告否？」詰之，答曰：「三年前，少妹夭殞，經兩夜而失其尸，至今疑念。適見夫人。何相似之深也？」生笑曰：「山荊陋劣，何足以方君妹？然既系同譜，義即至切，何妨一獻妻孥。」乃入內室，使小謝衣殉裝出。蔡大驚曰：「真吾妹也！」因而泣下。生乃具述其本末。蔡喜曰：「妹子未死，吾將速歸，用慰嚴慈。」遂去。過數日，舉家皆至。後往來如郝焉。

異史氏曰：「絕世佳人，求一而難之，何遽得兩哉！事千古而一見，惟不私奔女者能邁之也。道士其仙耶？何術之神也！苟有其術，醜鬼可交耳。」

六、十五、縊鬼

範生者宿於旅，食後燭而假寐。忽一婢來，袱衣置椅上，又有鏡奩掃篋，一一列案頭，乃去。俄一少婦自房中出，發篋開奩，對鏡櫛掠；已而髻，已而簪，顧影徘徊甚久。前婢來，進匱沃盥。盥已捧帨，既，持沐湯去。婦解襖出裙帔，炫然新制，就著之。掩衿提領，結束周至。範不語，中心疑怪，謂必奔婦，將嚴裝以就客也。婦裝訖，出長帶，垂諸梁而結

焉。訝之。婦從容跂雙鬢，引頸受縊。方一著帶，目即合，眉即豎，舌出吻二寸許，顏色慘變如鬼。大駭奔出，呼告主人，驗之已渺。主人曰：「曩子婦經於是，毋乃此乎？」異哉！即死猶作其狀，此何說也？

異史氏曰：「冤之極而至於自盡，苦矣！然前為人而不知，後為鬼而不覺，所最難堪者，束裝結帶時耳。故死後頓忘其他，而獨於此際此境，猶歷歷一作，是其所極不忘者也。」

六、十六、吳門畫工

吳門一畫工，喜繪呂祖，每想象神會，希幸一遇，虔結在念，靡刻不存。一日，有群丐飲郊郭間，內一人敝衣露肘，而神

採軒豁。心疑呂祖，諦視，愈覺其確，遂捉其臂曰：「君呂祖也。」丐者大笑。某堅執為是，伏拜不起。丐者曰：「我即呂祖，汝將奈何？」某叩頭，求指教。丐者曰：「汝能相識，可謂有緣。然此處非語所，夜間當相見也。」轉盼遂杳，駭嘆而歸。

至夜，果夢呂祖來，曰：「念子志慮專凝，特來一見。但汝骨氣貪吝，不能為仙。我使見一人可也。」即向空一招，遂有一麗人躡空而下，服飾如貴嬪，容光袍儀，煥映一室。呂祖曰：「此乃董娘娘，子謹志之。」既而又問：「記得否？」答曰：「已記之。」又曰：「勿忘卻。」俄而麗者去，呂祖亦去。醒而異之，即夢中所見，肖像而藏之，終亦不解所謂。

後數年偶游於都。會董妃卒，上念其賢，將為肖像。諸工群集，口授心擬，終不能似。某忽憶念夢中麗者，得無是耶？以圖呈進。宮中傳覽，俱謂神肖。上大悅，授官中書，辭不受；賜萬金。名大噪。貴戚家爭贖重幣，求為先人傳影。凡懸空摹寫，無不曲肖。浹辰之間，累數萬金。萊蕪朱拱奎曾見其人。

六、十七、林氏

濟南戚安期，素佻達，喜狎妓，妻婉戒之不聽。妻林氏，美而賢。會北兵入境被俘去，暮宿途中欲相犯，林偽許之。適兵佩刀系床頭，急抽刀自刎死，兵舉而委諸野。次日，拔舍

去。有人傳林死，戚痛悼往。視之，有微息。負而歸，目漸動，稍嘔呻，輕扶其項，以竹管滴瀝灌飲，能咽。戚撫之曰：「卿萬一能活，相負者必遭兇折！」半年，林平復如故；惟首為頸痕所牽，常苦左顧。戚不以為醜，愛戀逾於平昔，曲巷之游從此絕跡。林自覺形穢，將為置媵，戚執不可。

居數年，林不育，因勸納婢，戚曰：「業誓不二，鬼神鑒之。即嗣續不承，亦吾命耳。若不應絕，卿豈老而不能生耶？」林乃托疾，使戚獨宿，遣婢海棠臥其床下。既久，陰以宵情問婢。婢曰：「並無。」林不信。至夜，戒婢勿住，自詣婢所臥。少間，聞床上睡息已動。潛起，登床捫之。戚問誰，林耳語曰：「我海棠也。」戚拒卻曰：「我有盟誓，不敢更也。若似

曩年，尚須汝奔就耶？」林乃下床去。戚仍孤眠。林又使婢托已往就之。戚念妻生平從不肯作不速之客，疑而摸其項，無痕，知為婢，又叱之。婢慚而退。及明，以情告林，使速嫁婢。林笑曰：「君亦不必過執。倘得一丈夫子，豈不幸甚。」戚曰：「倘背盟誓，鬼責將及，尚望延宗嗣乎？」

林一日笑語戚曰：「凡農家者流，苗與秀不可知，播種常例不可違。晚間耕耨之期至矣。」戚笑會之。既夕，林滅燭呼婢，使臥己衾中。戚入就榻，戲曰：「佃人來矣。深愧錢鏹不利，負此良田。」婢不語。婢及舉事，小語戚曰：「私處小腫，顛猛不任。」戚體意溫恤之。事已，婢偽起溺，以林易之。從此時值落紅，輒一為之，而戚不知也。未幾，婢腹震，

林氏每使靜坐，不令給役於前。故謂戚曰：「妾勸內婢，而君弗聽。設爾日冒妾時，君誤信之。交而得孕，將復如何？」戚曰：「留憤鬻母。」林不言。無何婢舉一子，林暗買乳媪，抱養母家。積四五年，又產一子一女。長名長生已七歲，就外祖家讀書。林半月輒托歸寧，一往看視。婢年益長，戚時時促遣之。林輒諾。婢日思兒女，林乃竊為上鬻，送詣母所。林謂戚曰：「日謂我不嫁海棠，母家有一義男，業配之。」又數年，子女俱長成。

值戚初度，林先期治具，為候賓客。戚嘆曰：「歲月驚過，忽已半世。幸各強健，家亦不至凍餒。所闕者，膝下一點耳。」林曰：「君執拗，不從妾言，夫誰怨？然欲得男，兩亦甚易，

何況一也？」戚解顏曰：「既言不難，明日便索兩男。」林曰：「易耳，易耳！」早起，命駕至母家，嚴妝子女，載與俱歸。入門，令雁行立，呼父叩祝千秋。拜已而起，相顧嬉笑。戚駭怪不解。林曰：「君索兩男，妾添一女。」始為詳述本末。戚喜曰：「何不早告？」曰：「早告，恐絕其母。今子已成立，尚可絕其母乎？」戚感極涕泣。遂迎婢歸，偕老焉。

異史氏曰：「女有存心如林氏者，可謂賢德矣。」

六、十八、胡大姑

益都岳於九，家有狐崇，布帛器具，輒被拋擲鄰堵。蓄細葛，將取作服，見捆卷如故，解視，則邊實而中虛，悉被剪去。

諸如此類，不堪其苦。亂詬罵之，岳戒止曰：「恐狐聞。」狐在梁上曰：「我已聞之矣。」崇益甚。

一日，夫妻臥未起，狐攝衾服去，各白身蹲床上，望空哀祝之。忽見好女子自窗入，擲衣床頭。視之，不甚修長；衣絳紅，外襲雪花比甲。岳著衣，揖之曰：「上仙有意垂顧，幸勿相擾。請以為女，何如？」狐曰：「我齒較汝長，何得妄自尊？」又請為姊妹，乃許之。於是命家人皆呼以胡大姑。時顏鎮張八公子家，有狐居樓上，恆與人語。岳問：「識之否？」答云：「是吾家喜姨，何得不識？」岳曰：「彼喜姨曾不擾人，汝何不效之？」狐不聽，擾如故。猶不甚崇他人。而專崇其子婦：履襪簪珥往往棄道上，每食，輒於粥碗中埋死鼠或糞

穢。婦輒擲碗罵騷狐，並不禱免。岳祝曰：「兒女輩皆呼汝姑，何略無尊長體耶？」狐曰：「教汝子出若婦，我為汝媳，便相安矣。」子婦罵曰：「淫狐不自慚，欲與人爭漢子耶？」時婦坐衣笥上，忽見濃煙出尻下，熏熱如籠。啟視，藏裳俱燼，剩一二事，皆姑服也。又使獄子出其婦，子不應。過數日，又促之，仍不應，狐怒以石擊之，額破血流，幾斃。岳益患之。

西山李成文，善符水，因幣聘之。李以泥金寫紅絹作符，三日始成。又以鏡縛梃上，捉作柄，遍照宅中。使童子隨視，有所見，即急告。至一處，童曰：「牆若犬伏。」李即戟手書符其處。既而禹步庭中，咒移時，即見家中犬豕並來，帖耳

戢尾，若聽教誨。李揮曰：「去！」即紛然魚貫而去。又咒，群鴨又來，又揮去之。已而雞至。李指一雞，大叱之；他雞俱去，此雞獨伏，交翼長鳴，曰：「餘不敢矣！」李曰：「此物是家中所作紫姑也。」家人並言不會作。李曰：「紫姑今尚在。」因共憶三年前，曾為此戲，怪異即自爾日始矣。遍搜之，見芻偶在廐梁上。李取投火中。乃出一酒甌，三咒三叱，雞起徑去。聞甌口作人言曰：「岳四狼哉！數年後當復來。」岳乞付之湯火；李不可，攜去。或見其壁間掛數十瓶，塞口者皆狐也。言其以次縱之，出為祟，因此獲聘金，居為奇貨云。

六、十九、細侯

昌化滿生，設帳餘杭。偶涉塵市，經臨街閣下，忽有荔殼墜肩頭。仰視，一雛姬憑閣上，妖姿要妙，不覺注目發狂，姬俯哂而入。詢之，知為娼樓賈氏女細侯也。其聲價頗高，自顧不能適願。歸齋冥想，終宵不枕。明日，往投以刺，相見，言笑甚歡，心志益迷。托故假貸同人，斂金如乾，攜以赴女，款洽臻至。即枕上口占一絕贈之云：「膏膩銅盤夜未央，床頭小語麝蘭香。新鬟明日重妝鳳，無復行雲夢楚王。」細侯蹙然曰：「妾雖污賤，每願得同心而事之。君既無婦，視妾可當家否？」生大悅，即叮嚀，堅相約。細侯亦喜曰：「吟詠之事，妾自謂無難，每於無人處，欲效作一首，恐未能便

佳，為觀聽所譏。倘得相從，幸以教妾。」因問生：「家田產幾何？」答曰：「薄田半頃，破屋數椽而已。」細侯曰：「妾歸君後，當常相守，勿復設帳為也。四十畝聊足自給，十畝可以種黍，織五匹絹，納太平之稅有餘矣。閉戶相對，君讀妾織，暇則詩酒可遣，千戶侯何足貴！」生曰：「卿身價約可幾多？」曰：「依媪貪志，何能盈也？多不過二百金足矣。可恨妾齒稚，不知重資財，得輒歸母，所私者區區無多。君能辦百金，過此即非所慮。」生曰：「小生之落窶，卿所知也，百金何能自致，有同盟友令於湖南，屢相見招，僕因道遠，故憚於行。今為卿故，當往謀之。計三四月，可以復歸，幸耐相候。」細侯曰：「諾。」生即棄館南游，至則令已免官，以

掛誤居民舍，宦囊空虛，不能為禮。生落魄難返，就邑中授徒焉。三年，莫能歸。偶答弟子，弟子自溺死。東翁痛子而訟師，因被逮囹圄。幸有他門人，憐師無過，時致饋遺，得以無苦。

細侯自別生，杜門不交一客。母詰知故，而志不可奪，亦姑聽之。有富賈慕細侯名，托媒于媪。務在必得，不靳直。細侯不可，賈以負販詣湖南，敬偵生耗。時獄已將解，賈以金賂當事吏，使久錮之。歸告媪云：「生已瘐死。」細侯不信。媪曰：「無論滿生已死，縱或不死，與其從窮措大以椎布終也，何如衣錦而厭梁肉乎？」細侯曰：「滿生雖貧，其骨清也；守齷齪商，誠非所願。且道路之言，何足憑信！」賈又

轉囑他商，假作滿生絕命書寄細侯，以絕其望。細侯得書，朝夕哀哭，媪曰：「我自幼於汝，撫育良劬。汝成人二三年，所得報日亦無多。既不願隸籍，又不肯嫁，何以能生活？」細侯不得已，遂嫁賈。賈衣服簪環，供給豐侈。年餘，生子。

無何，生得門人力，昭雪出獄，始知賈之錮已也。然念素無嫌隙，反復不得其由，門人義助資斧得歸，既聞細侯已嫁，心甚激楚，因以所苦，托市媪賣漿者達細侯。細侯大悲，方悟前此多端，悉賈之詭謀。乘賈他出，殺抱中兒，攜所有以歸滿；凡賈家服飾，一無所取。賈歸，怒訟於官。官原其情，

竟置不問。嘻！破鏡重歸，盟心不改，義實可嘉。然必殺子而行，未免太忍矣！

六、二十、狼

有屠人貨肉歸，日已暮，歛一狼來，瞰擔上肉，似甚垂涎，隨屠尾行數里。屠懼，示之以刃，少卻；及走，又從之。屠思狼所欲者肉，不如懸諸樹而早取之。遂鉤肉，翹足掛樹間，示以空擔。狼乃止。屠歸。昧爽往取肉，遙望樹上懸巨物，似人縊死狀，大駭。逡巡近視，則死狼也。仰首細審，見狼口中含肉，鉤刺狼齧，如魚吞餌。時狼皮價昂，直十餘金，屠小裕焉。緣木求魚，狼則罹之，是可笑也！

一屠晚歸，擔中肉盡，止剩骨。途遇兩狼綴行甚遠。屠懼，投以骨，一狼得骨止，一狼又從；復投之，後狼止而前狼又至；骨已盡，而兩狼並驅如故。屠大窘，恐前後受其敵。顧野有麥場，場主以薪積其中，苫蔽成丘。屠乃奔倚其下，弛擔待刀。狼不敢前，眈眈相向。少時，一狼徑去；其一犬坐於前，久之，目似暝，意暇甚。屠暴起，以刀劈狼首，又數刀斃之。轉視積薪後，一狼洞其中，意將隧入以攻其後也。身已半入，露其尾，屠自後斷其股，亦斃之。方悟前狼假寐，蓋以誘敵。狼亦黠矣！而頃刻兩斃，禽獸之變詐幾何哉，止增笑耳！

一屠暮行，為狼所逼。道旁有夜耕者所遺行室，奔入伏焉。狼自苫中探爪入，屠急捉之，令出不去，但思無計可以死之。惟有小刀不盈寸，遂割破狼爪下皮，以吹豕之法吹之。極力吹移時，覺狼不甚動，方縛以帶。出視，則狼脹如牛，股直不能屈，口張不得合。遂負之以歸。非屠，烏能作此謀也！三事皆出於屠；則屠人之殘，殺狼亦可用也。

六、二十一、美人首

諸商寓居京舍，舍與鄰屋相連，中隔板壁，板有松節脫處穴如盞。忽女子探首入，挽鳳髻，絕美；旋伸一臂，潔白如玉。眾駭其妖，欲捉，已縮去。少頃，又至，但隔壁不見其身。

奔之，則又去之。一商操刀伏壁下，俄首出，暴決之，應手而落，血濺塵土。眾驚告主人，主人懼，以其首首焉。逮諸商鞫之，殊荒唐。淹系半年，迄無情詞，亦未有一人送官者，乃釋商，瘞女首。

六、二十二、劉亮採

濟南懷利仁曰：劉公亮採，狐之後身也。初，太翁居南山，有叟造其廬，自言胡姓。問所居，曰：「只在此山中。閑處人少，惟我兩人，可與數晨夕，故來相拜識。」因與接談，詞旨便利，悅之。治酒相歡，醺醺而去。越日復來，更加款厚。劉云：「自蒙下交，分即最深。但不識家何里，焉所問興居？」

胡曰：「不敢諱，某實山中之老狐也。與若有夙因，故敢內交門下。固不能為翁福，亦不敢為翁禍，幸相信勿駭。」劉亦不疑，更相契重。即敘年齒，胡作兄，往來如昆季。有小休咎亦以告。

時劉乏嗣，叟忽云：「公勿憂，我當為君後。」劉訝其言怪，胡曰：「僕算數已盡，投生有期矣。與其他適，何如生故人家？」劉曰：「仙壽萬年，何遂及此？」叟搖首曰：「非汝所知。」遂去。夜果夢叟來，曰：「我今至矣。」既醒，夫人生男，是為劉公。公既長，身短，言詞敏諧，絕類胡。少有才名，壬辰成進士。為人任俠，急人之急，以故秦、楚、燕、趙之客，趾踏於門；貨酒賣餅者，門前成市焉。

六、二十三、蕙芳

馬二混，居青州東門內，以貨面為業。家貧無婦，與母共作苦。一日，媪獨居，忽有美人來，年可十六七，椎布甚樸，光華照人。媪驚詰之，女笑曰：「我以賢郎誠篤，願委身母家。」媪益驚曰：「娘子天人，有此一言，則折我母子數年壽！」女固請之，媪拒益力，女去。越三日復來，留連不去。問其姓氏，曰：「母肯納我，我乃言；不然，無庸問。」媪曰：「貧賤傭保骨，得婦如此，不稱亦不祥。」女笑坐床頭，戀戀殊殷。媪辭之曰：「娘子宜速去，勿相禍。」女出門，媪窺之西去。

又數日，西巷中呂媪來，謂母曰：「鄰女董蕙芳，孤而無依，自願為賢郎婦，胡勿納？」母以所疑為逃亡具白之。呂曰：「烏有是？如有乖謬，咎在老身。」母大喜，諾之。呂去，媪掃室布席，將待子歸往娶之。日將暮，女飄然自至，入室參母，起拜盡禮。告媪曰：「妾有兩婢，未得母命，不敢進也。」媪曰：「我母子守窮廬，不解役婢僕。日得蠅頭利，僅足自給。今增新婦一人，嬌嫩坐食，尚恐不充飽；益之二婢，豈吸風所能活耶？」女笑曰：「婢來，亦不費母度支，皆能自食。」問：「婢何在？」女乃呼：「秋月、秋松！」聲未及已，忽如飛鳥墮，二婢已立於前，即令伏地叩母。

既而馬歸，母迎告之，馬喜。入室，見翠棟雕梁，侔於宮殿，幾屏簾幕，光耀奪目。驚極，不敢入。女下床迎笑，睹之若仙，益駭，卻退，女挽之，坐與溫語。馬喜出非分，形神若不相屬。即起，欲出行沽，女曰：「勿須。」因命二婢治具。秋月出一革袋，執向扉後，拊拊撼擺之。已而以手探入，壺盛酒，杵盛炙，觸類熏騰。飲已而寢，則花罽錦裯，溫膩非常。

天明出門，則茅廬依舊。母子共奇之。媪詣呂所，將跡所由。入門，先謝其媒合之德，呂訝云：「久不拜訪，何鄰女之會托乎？」媪益疑，具言端委。呂大駭，即同媪來視新婦。女笑迎之。極道作合之義。呂見其惠麗，愕眙良久，即亦不辨，

唯唯而已。女贈白木搔具一事，曰：「無以報德，姑奉此為姥姥爬背耳。」呂受以歸，審視則化為白金。

馬自得婦，頓更舊業，門戶一新。笥中貂錦無數，任馬取著，而出室門，則為布素，但輕暖耳。女所白衣亦然。積四五年，忽曰：「我適降人間十餘載，因與子有緣，遂暫留止。今別矣。」馬苦留之，女曰：「請別擇良偶以承廬墓，我歲月當一至焉。」忽不見。馬乃娶秦氏。後三年，七夕，夫妻方共語，女忽入，笑曰：「新偶良歡，不念故人耶？」馬驚起，愴然曳坐，便道衷曲。女曰：「我適送織女渡河，乘間一相望耳。」兩相依依，語勿休止。忽空際有人呼「蕙芳」，女急起作別。馬問其誰，曰：「余適同雙成姊來，彼不耐久伺矣。」馬送之，

女曰：「子壽八旬，至期，我來收爾骨。」言已遂逝。今馬六十餘矣。其人但樸訥，無他長。

異史氏曰：「馬生其名混，其業藝，蕙芳奚取哉？於此見仙人之貴樸訥誠篤也。余嘗謂友人曰：若我與爾，鬼狐且棄之類。所差不愧於仙人者，惟『混』耳。」

六、二十四、山神

益都李會斗，偶山行，值數人籍地飲。見李至，歡然並起，曳入坐，競觴之。視其杓饌，雜陳珍錯。移時飲甚歡，但酒味薄。□，忽遙有一人來，面狹長，可二三尺許；冠之高細稱是。眾驚曰：「山神至矣！」即紛紛四去。李亦伏匿坎窞

中；既而起視，則肴酒一無所有，惟有破陶器貯溲滄，瓦片上盛晰蜴數枚而已。

六、二十五、蕭七

徐繼長，臨淄人，居城東之磨房莊。業儒未成，去而為吏。偶適姻家，道出於氏殯宮。薄暮醉歸，過其處，見樓閣繁麗，一叟當戶坐。徐酒渴思飲，揖叟求漿。叟起邀客人，升堂授飲。飲已，叟曰：「曠暮難行，姑留宿，早日而發，何如也？」徐亦疲殆，遂止宿焉。叟命家人具酒奉客，且謂徐曰：「老夫一言，勿嫌孟浪：君清門令望，可附婚姻。有幼女未字，欲充下陳，幸垂援拾。」徐蹶蹶不知所對。叟即遣伴告其親

族，又傳語令女郎妝束。頃之，峨冠博帶者四五輩，先後並至。女郎亦炫妝出，姿容絕俗。於是交坐宴會。徐神魂眩亂，但欲速寢。酒數行，堅辭不任，乃使小鬟引夫婦入幃，館同愛止。徐問其族姓，女曰：「蕭姓，行七。」又細審門閥，女曰：「身雖陋賤，配吏胥當不辱寞，何苦研窮？」徐溺其色，款暱備至，不復他疑。

女曰：「此處不可為家。審知汝家姊姊甚平善，或不拗阻，歸除一舍，行將自至耳。」徐應之。既而加臂於身，奄忽就寐，及覺，則抱中已空。天色大明，松陰翳曉，身下籍黍穰尺許厚。駭嘆而歸，告妻。妻戲為除館，設榻其中，闔門出，曰：「新娘子今夜至矣。」相與共笑。日既暮，妻戲曳徐啟

門，曰：「新人得母已在室耶？」及入，則美人華妝坐榻上，見二人入，橋起逆之，夫妻大愕。女掩口局局而笑，參拜恭謹。妻乃治具，為之合歡。女早起操作，不待驅使。

一日曰：「姊姨輩俱欲來吾家一望。」徐慮倉卒無以應客。女曰：「都知吾家不饒，將先齎饌具來，但煩吾家姊姊烹任而已。」徐告妻，妻諾之。晨炊後，果有人荷酒馘來，釋擔而去。妻為職庖人之役。晡後，六七女郎至，長者不過四十以來，圍坐並飲，喧笑盈室。徐妻伏窗一窺，惟見夫及七姐相向坐，他客皆不可睹。北斗掛屋角，歡然始去，女送客未返。妻入視案上，杯杓俱空。笑曰：「諸婢想俱餓，遂如狗舐砧。」少間女還，殷殷相勞，奪器自滌，促嫡安眠。妻曰：「客臨

吾家，使自備飲饌，亦大笑話。明日合另邀致。」逾數日，徐從妻言，使女復召客。客至，恣意飲啖；惟留四簋，不加匕箸。徐問之，群笑曰：「夫人為吾輩惡，故留以待調人。」座間一女年十八九，素舄縞裳，云是新寡，女呼為六姊；情態妖艷，善笑能口。與徐漸洽，輒以諧語相嘲。行觴政，徐為錄事，禁笑謔。六姊頻犯，連引十餘爵，酡然徑醉，芳體嬌懶，荏弱難持。無何亡去，徐燭而覓之，則酣寢暗幃中。近接其吻亦不覺，以手探褲，私處墳起。心旌方搖，席中紛喚徐郎，乃急理其衣，見袖中有綾巾，竊之而出。迨於夜央，眾客離席。六姊未醒，七姐入搖之，始呵欠而起，系裙理發從眾去。徐拳拳懷念不釋，將於空處展玩遺巾，而覓之已

渺。疑送客時遺落途間。執燈細照階除，都復烏有，意瑣瑣不自得。女問之，徐漫應之。女笑曰：「勿誑語，巾子人已將去，徒勞心目。」徐驚，以實告，且言懷思。女曰：「彼與君無宿分，緣止此耳。」問其故，曰：「彼前身曲中女，君為士人，見而悅之，為兩親所阻，志不得遂，感疾陟危。使人語之曰：『我已不起。』但得若來獲一捫其肌膚，死無憾。」彼感此意，允其所請。適以冗羈未遽往，過夕而至，則病者已殞，是前世與君有一捫之緣也。過此即非所望。」後設筵再招諸女，惟六姊不至。徐疑女妒，頗有怨懟。

女一日謂徐曰：「君以六姊之故，妄相見罪。彼實不肯至，於我何尤？今八年之好，行相別矢，請為君極力一謀，用解前

之惑。彼雖不來，寧禁我不往？登門就之，或人定勝天不可知。」徐喜從之，女握手飄然履虛，頃刻至其家。黃巖廣堂，門戶曲折，與初見時無少異。岳父母並出，曰：「拙女久蒙溫煦，老身以殘年衰慵，有疏省問，或當不怪耶？」即張筵作會。女便問諸姊妹。母云：「各歸其家，惟六姊在耳。」即喚婢請六娘子來，久之不出。女入曳之以至，俯首簡默，不似前此之諧。少時，叟媪辭去。女謂六姊曰：「姐姐高自重，使人怨我！」六姊微矚曰：「輕薄郎何宜相近！」女執兩人殘卮，強使易飲，曰：「吻已接矣，作態何為？」少時，七姐亡去，室中止餘二人。徐遽起相逼，六姊宛轉撐拒。徐牽衣長跽而哀之，色漸和，相攜入室。裁緩襦結，忽聞喊嘶動地，

火光射闥。六姊大驚，推徐起曰：「禍事忽臨，奈何！」徐忙迫不知所為，而女郎已竄無跡矣。

徐悵然少坐，屋宇並失。獵者十餘人，按鷹操刃而至，驚問：「何人夜伏於此？」徐托言迷途，因告姓字。一人曰：「適逐一狐見之否？」答曰：「不見。」細認其處，乃於氏殯宮也。怏怏而歸。尤冀七姊復至，晨占雀喜，夕卜燈花，而竟無消息矣。董玉玔談。

六、二十六、亂離

學師劉芳輝，京都人。有妹許聘戴生，出閣有日矣。值北兵入境，父兄恐細弱為累，謀妝送戴家。修飾未竟，亂兵紛入，

父子分竄，女為牛錄俘去。從之數日，殊不少狎。夜則臥之別榻，飲食供奉甚殷。又掠一少年來，年與女相上下，儀採都雅。牛錄謂之曰：「我無子，將以汝繼統緒，肯否？」少年唯唯。又指女謂曰：「如肯，即以此女為汝婦。」少年喜，願從所命。牛錄乃使同榻，浹洽甚樂。及枕上各道姓氏，則少年即戴生也。

陝西某公任鹽秩，家累不從。值姜瓖之變，故里陷為盜藪，音信隔絕。後亂平，遣人探問，則百里絕煙，無處可詢消息。會以復命入都，有老班役喪偶，貧不能娶，公賚數金使買婦。時大兵凱旋，俘獲婦口無算，插標市上，如賣牛馬。遂攜金就擇之。自分金少，不敢問少艾。中一媪甚整潔，遂贖以歸。

媪坐床上細認曰：「汝非某班投耶？」驚問所知，曰：「汝從我兒服役，胡不識！」役大駭，急告公。公認之果母也，因而痛哭，倍償之。班役以金多不屑謀媪。見一婦年三十餘，風範超脫，因贖之。即行，婦且走且顧，曰：「汝非某班役耶？」又驚問之，曰：「汝從我夫服役，如何不識！」班役愈駭，導見公，公視之真其夫人，又悲失聲。一日而母妻重聚，喜極，乃以白金為班役娶美婦焉。此必公有大德，故鬼神為之感應。惜言者忘其姓字，秦中或有能道之者。

異史氏曰：「炎昆之禍，玉石不分，誠然。若公一門，是以聚而傳者也。董思白之後，僅有一孫，今亦不得奉其祭祀，亦朝士之責也。悲夫！」

六、二十七、豢蛇

泗水山中舊有禪院，四無村落，人跡罕到，有道士棲止其中。或言內多大蛇，故游人絕跡。一少年入山羅鷹，入既深，夜無歸宿，遙見蘭若，趨投之。道士驚曰：「居士何來，幸不為兒輩所見！」即命坐，具饘粥。食未已，一巨蛇入。粗十餘圍，昂首向客，怒目電衍。客大懼。道士以掌擊其額，呵曰：去！蛇乃俯首入東室。蜿蜒移時，其軀始盡，盤旋其中，一室盡滿。客大懼。道士曰：「此平時所豢養。有我在，不妨，所患客自遇之耳。」客甫坐，又一蛇入，較前略小，約可五六圍。見客遽止，睽眨吐舌如前狀。道士又叱之。亦入室去。室無臥處，半繞梁間，壁上土搖落有聲。客益懼，終

夜不眠。早起欲歸，道士送之。出屋門見牆上階下，大如盞盞者，行臥不一。見生人，皆有吞噬狀。客依道士肘腋而行，使送出谷口，乃歸。

餘鄉有客中州者，寄居蛇佛寺。寺中僧人具晚餐，肉湯甚美，而段段皆圓，類雞項。疑問寺僧：「殺雞何乃得多項？」僧曰：「此蛇段耳。」客大驚，有出門而哇者。既寢，覺胸上蠕蠕，摸之，蛇也，頓起駭呼，僧起曰：「此常事，奚足怪！」因以火照壁間，大小滿墻，榻上下皆是也。次日，僧引入佛殿。佛座下有巨井，井中有蛇，粗如巨甕，探首井邊而不出。爇火下視，則蛇子蛇孫以數百萬計，族居其中。僧云：「昔蛇出為害，佛坐其上以鎮之，其患始平」云。

六、二十八、雷公

亳州民王從簡，其母坐室中，值小雨冥晦，見雷公持錘振翼而入。大駭，急以器中便溺傾注之。雷公沾穢，若中刀斧，返身疾逃；極力展騰，不得去，顛倒庭際，嗥聲如牛。天上雲漸低，漸與簷齊。雲中蕭蕭如馬鳴，與雷公相應。少時，雨暴澍，身上惡濁盡洗，乃作霹靂而去。

六、二十九、菱角

胡大成，楚人，其母素奉佛。成從塾師讀，道由菱角觀音祠，母囑過必入叩。一日至祠，有少女挽兒邀戲其中，發裁掩頸，而風致娟然。時成年十四，心好之。問其姓氏，女笑

云：「我是祠西焦畫工女菱角也。問將何為？」成又問：「有婿家否？」女酡然曰：「無也。」成曰：「我為若婿，好否？」女慚云：「我不能自主。」而眉目澄澄，上下睨成，意似欣屬焉。成乃出。女追而遙告曰：「崔爾誠，吾父所善，用為媒無不諧。」成曰：「諾。」因念其慧而多情，益傾慕之。歸，向母實白心願。母止此兒，恐拂其意，遂浼崔作冰。焦責聘財奢，事幾不就。崔極言成清族美才，焦始許之。

成有伯父，老而無子，授教職於湖北。妻卒任所，母遣成往奔其喪。數月將歸，伯又病卒。淹留既久，適大寇據湖南，家耗遂隔。成竄民間，吊影孤惶。一日，有媪年四十八九，縈回村中，日昃不去。自言：「亂無歸，將以自鬻。」或問

其價，曰：「不屑為人奴，亦不願為人婦，但有母我者則從之，不較直。」聞者皆笑。成往視之，面目間有一二頗肖其母，觸懷大悲。自念只身無縫紉者，遂邀歸，執子禮焉。媪喜，便為炊飯織履，勉勞若母。拂意輒譴之；少有疾苦，則濡煦過於所生。

忽謂曰：「此處太平，幸可無虞。然兒長矣，雖在羈旅，大倫不可廢。三兩日，當為兒娶之。」成泣曰：「兒自有婦，但間阻南北耳。」媪曰：「大亂時，人事翻覆，何可株待？」成又泣曰：「無論結發之盟不可背，且誰以嬌女付萍梗人？」媪不答，但為治簾幌衾枕，甚周備，亦不識所自來。一日，曰既夕，戒成曰：「獨坐勿寐，我往視新婦來也未。」遂出門去。

三更既盡，媪不返，心大疑。俄聞門外喧嘩，出視，則一女坐庭中，篷首啜泣。驚問：「何人？」亦不語。良久，乃言曰：「娶我來，即亦非福，但有死耳！」成大驚，不知其故。女曰：「我少受聘於胡大成，不意湖北去，音信斷絕。父母強以我歸汝家。身可致，志不可奪也！」成聞而哭曰：「我便即是胡某。卿菱角耶？」女收涕而駭，不信。相將入室，就燈審顧，曰：「得無夢耶？」乃轉悲為喜，相道離苦。先是亂後，湖南百里，滌地無類。焦移家竄長沙之東，又受周生聘。亂中不能成禮。期是夕送諸其家。女泣不盥櫛，家中強置車上。途次，女顛墮其下。遂有四人荷肩輿至，云是周家迎女者，即扶升輿，疾行若飛，至是始停。一老姥曳入，曰：「此

汝夫家，但入勿哭。汝家婆婆，旦晚將至矣。」乃去，成詰知情事，始悟媪神人也。夫妻焚香共禱，願得母子復聚。母自戎馬戒嚴，同儔人婦奔伏澗穀。一夜，噪言寇至，即並張皇四匿。有童子以騎授母，母急不暇問，扶肩而上，輕迅剽遡，瞬息至湖上。馬踏水奔騰，蹄下不波。無何，扶下，指一戶云：「此中可居。」母將啟謝。回視其馬，化為金毛犴，高丈餘，童子超乘而去。母以手撾門，豁然啟扉。有人出問，怪其音熟，視之，成也。母子抱哭。婦亦驚起，一門歡慰。疑媪是觀音大士現身，由此持觀音經咒益虔。遂流寓湖北，治田廬焉。

六、三十、餓鬼

齊人馬永，貧面無賴，鄉人戲名為餓鬼，年三十餘，日益窶，衣百結鶉，兩手交其肩，在市上攫食。人盡棄之，不以齒。邑有朱叟者，少攜妻居於五都之市，操業不雅；暮歲歸其鄉，大為士類所口，而朱潔行為善，人始稍稍禮貌之。一日，值馬攫食不償，為肆人所苦；憐之，代給其直。引歸，贈以數百俾作本。馬去，不肯謀業，坐而食。無何資復匱，仍蹈故轍。而常懼與朱遇，去之臨邑。

暮宿學宮，冬夜凜寒，輒摘聖賢頭上旒而煨其板。學官知之，怒欲加刑。馬哀免，願為先生生財。學官喜，縱之去。馬探

其生殷富，登門強索資，故挑其怒，乃以刀自剗，誣而控諸學。學官勒取重賂，始免申黜。諸生因而共憤，公質縣尹。尹廉得實，笞四十，梏其頸，三日斃焉。

是夜，朱叟夢馬冠帶而入，曰：「負公大德，今來相報。」即寤，妾生子。叟知為馬，名以馬兒。少不慧，喜其能讀。二十餘，竭力經紀，得入邑庠。後考試寓旅邸，晝臥床上，見壁間悉糊舊藝，視之有「犬之性」四句題，心畏其難，讀而志之。入場，適遇此題，錄之，得優等，食餼焉。六十餘，補臨邑訓導。數年，曾無一道義交。惟袖中出青蚨，則作鷓鴣笑；不則睫毛一寸長，稜稜若不相識，偶大令以諸生小故，判令薄懲，輒酷烈如治盜賊。有訟士子者，即富來叩門矣。

如此多端，諸生不復可耐。而年近七旬，臃腫聾聵，每向人物色烏須藥。有某生素狂，銼茜根給之。天明共視，如廟中所塑靈官狀。大怒拘生，生已早夜亡去。因此憤氣中結，數月而死。

六、三十一、考弊司

聞人生，河南人。抱病經日，見一秀才入伏謁床下，謙抑盡禮。已而請生少步，把臂長語，刺刺且行，數里外猶不言別。生佇足，拱手致辭。秀才云：「更煩移趾，僕有一事相求。」生問之，答云：「吾輩悉屬考弊司轄。司主名虛肚鬼王。初見之，例應割髀肉，浼君一緩頰耳。」生驚問：「何罪而至於

此？」曰：「不必有罪，此是舊例。苦豐於賄者可贖也，然而我貧。」生曰：「我素不稔鬼王，何能效力？」曰：「君前世是伊大父行，宜可聽從。」

言次，已入城郭。至一府署，廨宇不甚弘敞，惟一堂高廣，堂下兩碣東西立，綠書大於拷棹，一云「孝弟忠信」，一云「禮義廉恥」。踏階而進，見堂上一匾，大書「考弊司」。楹間，板雕翠色一聯云：「日校、日序、日庠，兩字德行陰教化；上士、中士、下士，一堂禮樂鬼門生。」游覽未已，官已出，鬖發鮐背，若數百年人。而鼻孔撩天，唇外傾，不承其齒。從一主簿吏，虎首人身。有十餘人列侍，半獍惡若山精。秀才曰：「此鬼王也。」生駭極，欲退卻；鬼王已睹，降

階揖生上，便問興居。生但諾諾。又云：「何事見臨？」生以秀才意具白之。鬼王色變曰：「此有成例、即父命所不敢承！」氣象森凜，似不可入一詞。生不敢言，驟起告別，鬼王側行送之，至門外始返。生不歸，潛入以觀其變。至堂下，則秀才已與同輩數人，交臂歷指，儼然在徽纆中。一獐人持刀來，裸其股，割片肉，可駢三指許。秀才大嗥欲噎。

生少年負義，憤不自持，大呼曰：「慘毒如此，成何世界！」鬼王驚起，暫命止割，蹣履迎生。生忿然已出，遍告市人，將控上帝。或笑曰：「迂哉！藍尉蒼蒼，何處覓上帝而訴之冤也？此輩與閻羅近，呼之或可應耳。」乃示之途。趨而往，果見殿陛威赫，閻羅方坐，伏階號屈。王召訴已，立命諸鬼

縮紕提錘而去。少頃，鬼王及秀才並至，審其情確，大怒曰：「憐爾夙世攻苦，暫委此任，候生貴家，今乃敢爾！其去若善筋，增若惡骨，罰今生生世世不得發跡也！」鬼乃極之，僕地，顛落一齒。以刀割指端，抽筋出，亮白如絲。鬼王呼痛，聲類斬豕。手足並抽訖，有二鬼押去。

生稽首而出，秀才從其後，感荷殷殷。挽送過市，見一戶垂朱簾，簾內一女子露半面，容妝絕美。生問：「誰家？」秀才曰：「此曲巷也。」既過，中低徊不能舍，遂堅止秀才。秀才曰：「君為僕來，而今踴踴而去，心何忍。」生固辭，乃去。生望秀才去遠，急趨入簾內。女接見，喜形於色。入室促坐，相道姓名。女曰：「柳氏，小字秋華。」一嫗出，為具肴酒。

酒闌，入帷，歡愛殊濃，切切訂婚嫁。媼入曰：「薪水告竭，要耗郎君金資，奈何！」生頓念腰橐空虛，愧惶無聲。久之，曰：「我實不曾攜得一文，官署券保，歸即奉酬。」媼變色曰：「曾聞夜度娘索逋欠耶？」秋華顰蹙，不作一語。生暫解衣為質，媼持笑曰：「此尚不能償酒值耳。」嗶嗶不滿志，與女俱入。生慚，移時，猶冀女出展別，再訂前約。久候無音，潛入窺之，見媼與女，自肩以上化為牛鬼，目睖睖相對立。大懼，趨出，欲歸，則百道岐出，莫知所從。問之市人，並無知其村名者。徘徊塵肆之間，歷兩昏曉，淒意含酸，響腸鳴餓，進退不能自決。忽秀才過，望見之，驚曰：「何尚未歸，而簡褻若此？」生靦顏莫對。秀才曰：「有之矣！得

母為花夜叉所迷耶？」遂盛氣而往，曰：「秋華母子，何遽不少施面目耶！」去少時，即以衣來付生曰：「淫婢無禮，已叱罵之矣。」送生至家，乃別而去。生暴絕三日而蘇，歷歷為家人言之。

六、三十二、閻羅

沂州徐公星自言夜作閻羅王。州有馬生亦然。徐聞之，訪諸其家，問馬昨夕冥中處分何事？馬曰「無他事，但送左蘿石升天。天上墮蓮花，朵大如屋」云。

六、三十三、大人

長山李孝廉質君詣青州，途中遇六七人，語音類燕。審視兩頰俱有癍，大如錢，異之，因問何病之同。客曰：舊歲客雲南，日暮失道，入大山中，絕壑巉巖，不可得出。因共系馬解裝，傍樹棲止。夜深，虎豹鴟鴞，次第噪動，諸客抱膝相向，不能寐。忽見一大人來，高以丈許。客團伏莫敢息。大人至，以手攫馬而食，六七匹頃刻都盡；既而折樹上長條，捉人首穿腮，如貫魚狀，貫訖，提行數步，條毳折有聲。大人似恐墜落，乃屈條之兩端，壓以巨石而去。客覺其去遠，出佩刀自斷貫條，負痛疾走。見大人又導一人俱來，客懼，伏叢莽中。見後來者更巨，至樹下，往來巡視，似有所求而

不得。已乃聲啁啾，似巨鳥鳴，意甚怒，蓋怒大人之給己也。因以掌批其頰。大人傴僂順受，不敢少爭。俄而俱去。

諸客始倉皇出，荒竄良久，遙見嶺頭有燈火，群趨之。至則一男子居石室中。客人環拜，兼告所苦。男子曳令坐曰：「此物殊可恨，然我亦不能鉗制。待舍妹歸，可與謀也。」無何，一女子荷兩虎自外入，問客何來，諸客叩伏而告以故。女子曰：「久知兩個為孽，不圖兇頑若此！當即除之。」於石室中出銅錘，重三四百斤，出門遂逝。男子煮虎肉餉客。肉未熟，女子已返，曰：「彼見我欲遁，追之數十里，斷其一指而還。」因以指擲地，大於胫骨焉。眾駭極，問其姓氏，不答。少間，肉熟，客創痛不食；女以藥屑遍糝之，痛頓止。天明，女子

送客至樹下，行李俱在。各負裝行十餘里，經昨夜鬥處，女子指示之，石窪中殘血尚存益許。出山，女子始別而返。

六、三十四、向杲

向杲字初旦，太原人，與庶兄晟友於最敦。晟狎一妓，名波斯，有割臂之盟，以其母取直奢，所約不遂。適其母欲從良，願先遣波斯。有莊公子者，素善波斯，請贖為妾。波斯謂母曰：「既願同離水火，是欲出地獄而登天堂也。若妾媵之相去幾何矣！肯從奴志，向生其可。」母諾之，以意達晟。時晟喪偶未婚，喜，竭資聘波斯以歸。莊聞，怒奪所好，途中偶逢，大加詬罵；晟不服，遂嗾從人折捶答之，垂斃乃去。

杲聞奔視，則兄已死，不勝哀憤。具造赴郡。莊廣行賄賂，使其理不得伸。

杲隱忿中結，莫可控拆，惟思要路刺殺莊，日懷利刃伏於山徑之莽。久之，機漸洩。莊知其謀，出則戒備甚嚴。聞汾州有焦桐者，勇而善射，以多金聘為衛。杲無計可施，然猶日伺之。一日方伏，雨暴作，上下沾濡，寒戰頗苦。既而烈風四塞，冰雹繼至，身忽然痛癢不能復覺。嶺上舊有山神祠，強起奔赴。既入廟，則所識道士在內焉。先是，道士嘗行乞村中，杲輒飯之，道士以故識杲。見杲衣服濡濕，乃以布袍授之，曰：「姑易此。」杲易衣，忍凍蹲若犬，自視則毛革頓生，身化為虎。道士已失所在。心中驚恨，轉念：得仇人而

食其肉，計亦良得。下山伏舊處，見己尸臥叢莽中，始悟前身已死，猶恐葬於烏鳶，時時邏守之。越日，莊始經此，虎暴出，於馬上撲莊落，齧其首，咽之。焦桐返馬而射，中虎腹，蹶然遂斃。

杲在錯楚中，恍若夢醒；又經宵，始能行步，厭厭以歸。家人以其連夕不返，方共駭疑，見之，喜相慰問。杲但臥，蹇澀不能語。少間，聞莊信，爭即床頭慶告之。杲乃自言：「虎即我也。」遂述其異，由此傳播。莊子痛父之死甚慘，聞而惡之，因訟果官以其誕而無據，置不理焉。

異史氏曰：「壯士志酬，必不生返，此千古所悼恨也。借人之殺以為生，仙人之術亦神哉！然天下事足發指者多矣。使怨者常為人，恨不令暫作虎！」

六、三十五、董公子

青州董尚書可畏，家庭嚴肅，內外男女，不敢通一語。一日，有婢僕調笑於中門之外，公子見而怒叱之，各奔去。及夜公子偕僮臥齋中，時方盛暑，室門洞敞。更深時，僮聞床上有聲甚厲，驚醒；月影中見前僕提一物出門去，以其家人故，弗深怪，遂復寐。忽聞靴聲訇然，一偉丈夫赤而修髯，似壽亭侯像，捉一人頭入。僮懼，蛇行入床下，聞床上支支格格

如振衣，如摩腹，移時始罷。靴聲又響，乃去。僮伸頸漸出，見窗櫺上有曉色。以手捫床上，著手沾濕，嗅之血腥。大呼公子，公子方醒，告而火之，血盈枕席。大駭，不知其故。

忽有官役叩門，公子出見，役愕然，但言怪事。詰之，告曰：「適衙前一人神色迷罔，大聲曰：『我殺主人矣！』眾見其衣有血污，執而白之官，審知為公子家人。渠言已殺公子，埋首於關廟之側。往驗之，穴土猶新，而首則並無。」公子駭異，趨赴公庭，見其人即前狎婢者也。因述其異。官甚惶惑，重責而釋之。公子不欲結怨於小人，以前婢配之，令去。

積數日，其鄰堵者，夜聞僕房中一聲震響若崩裂，急起呼之，不應。排闥入視，見夫婦及寢床，皆截然斷而為兩。木肉上

俱有削痕，似一刀所斷者。關公之靈跡最多，未有奇於此者也。

六、三十六、周三

泰安張太華，富吏也。家有狐擾，不可堪，遣制罔效。陳其狀於州尹，尹亦不能為力。時州之東亦有狐居村民家，人共見為一白發叟，叟與居人通吊問，如世人禮。自雲行二，都呼為胡二爺。適有諸生謁尹，問道其異。尹為吏策，使往問叟，時東村人有作隸者，吏訪之，果不誣，因與俱往。即隸家設筵招胡，胡至，揖讓酬酢，無異常人。吏告所求，胡曰：「我固悉之，但不能為君效力。僕友人周二，僑居嶽廟，

宜可降伏，當代求之。」吏喜，申謝。胡臨別與吏約，明日張筵於嶽廟之東，吏領教。

胡果導周至。周虬髯鐵面，服褲褶。飲數行，向吏曰：「適胡二弟致尊意，事已盡悉。但此輩實繁有徒，不可善諭，難免用武。請即假館君家，微勞所不敢辭。」吏轉念去一狐，得一狐，是以暴易暴也，游移不敢即應。周已知之，曰：「無畏。我非他比，且與君有喜緣，請勿疑。」吏諾之。周又囑：「明日偕家人闔戶坐室中，幸勿嘩。」吏歸，悉遵所教。俄聞庭中攻擊刺斗之聲，逾時始定。啟關出視，血點點盈階上；墀中有小狐首數枚，大如碗盞焉；又視所除舍，則周危坐其中，

拱手笑曰：「蒙重托，妖類已蕩滅矣。」自是館於其家，相見如主客焉。

六、三十七、鴿異

鴿類甚繁：晉有坤星，魯有鶴秀，黔有腋蝶，梁有翻跳，越有諸尖，皆異種也。又有靴頭、點子、大白、黑石、夫婦雀、花狗眼之類，名不可屈以指，惟好事者能辨之也。

鄒平張公子幼量癖好之，按經而求，務盡其種。其養之也，如保嬰兒：冷則療以粉草，熱則投以鹽顆。鴿善睡，睡太甚，有病麻痺而死者。張在廣陵，以十金購一鴿，體最小，善走，置地上，盤旋無已時，不至於死不休也，故常須人把握之；

夜置群中使驚諸鴿，可以免痺股之病，是名「夜游」。齊魯養鴿家，無如公子最；公子亦以鴿自詡。

一夜坐齋中，忽一白衣少年叩扉入，殊不相識。問之，答曰：「漂泊之人，姓名何足道。遙聞畜鴿最盛，此亦生平所好，願得寓日。」張乃盡出所有，五色俱備，燦若雲錦。少年笑曰：「人言果不虛，公子可謂養鴿之能事矣。僕亦攜有一兩頭，頗願觀之否？」張喜，從少年去。月色冥漠，曠野蕭條，心竊疑俱。少年指曰：「請勉行，寓屋不遠矣。」又數武，見一道院僅兩楹，少年握手入，昧無燈火。少年立庭中，口中作鴿鳴。忽有兩鴿出：狀類常鴿而毛純白，飛與簷齊，且鳴且鬥，每一撲，必作斤鬥。少年揮之以肱，連翼而去。復

撮口作異聲，又有兩鴿出：大者如鶩，小者裁如拳，集階上，學鶴舞。大者延頸立，張翼作屏，宛轉鳴跳，若引之；小者上下飛鳴，時集其頂，翼翩翩如燕子落蒲葉上，聲紙碎類鞞鼓；大者伸頸不敢動。鳴愈急，聲變如磬，兩兩相和，間雜中節。既而小者飛起，大者又顛倒引呼之。張嘉嘆不已，自覺望洋可愧。遂揖少年，乞求分愛，少年不許。又固求之，少年乃叱鴿去，仍作前聲，招二白鴿來，以手把之，曰：「如不嫌憎，以此塞責。」接而玩之，睛映月作琥珀色，兩目通透，若無隔闕，中黑珠圓於椒粒；啟其翼，脅肉晶瑩，臟腑可數。張甚奇之，而意猶未足，詭求不已。少年曰：「尚有兩種未獻，今不敢復請觀矣。」

方競論間，家人燎麻炬入尋主人。回視少年，化白鴿大如雞，沖霄而去。又目前院宇都渺，蓋一小墓，樹二柏焉。與家人抱鴿，駭嘆而歸。試使飛，馴異如初，雖非其尤，人世亦絕少矣。於是愛惜臻至。

積二年，育雌雄各三。雖戚好求之，不得也。有父執某公為貴官，一日見公子，問：「畜鴿幾許？」公子唯唯以退。疑某意愛好之也，思所以報而割愛良難。又念長者之求，不可重拂。且不敢以常鴿應，選二白鴿籠送之，自以千金之贈不啻也。他日見某公，頗有德色，而其殊無一申謝語。心不能忍，問：「前禽佳否？」答云：「亦肥美。」張驚曰：「烹之

乎？」曰：「然。」張大驚曰：「此非常鴿，乃俗所言『鞞鞞』者也！」某回思曰：「味亦殊無異處。」

張嘆恨而返。至夜夢白衣少年至，責之曰：「我以君能愛之，故遂托以子孫。何以明珠暗投，致殘鼎鑊！今率兒輩去矣。」言已化為鴿，所養白鴿皆從之，飛鳴徑去。天明視之，果俱亡矣。心甚恨之，遂以所畜，分贈知交，數日而盡。異史氏曰：「物莫不聚於所好，故葉公好龍，則真龍入室，而況學士之於良友，賢君之於良臣乎？而獨阿堵之物，好者更多，而聚者特少，亦以見鬼神之怒貪，而不怒癡也。」向有友人饋朱鯽於孫公子禹年，家無慧僕，以老傭往。及門，傾水出魚，索枓而進之，及達主所，魚已枯斃。公子笑而不言，以酒

犒傭，即烹魚以饗。既歸，主人問：「公子得魚頗歡慰否？」答曰：「歡甚。」問：「何以知？」曰：「公子見魚便欣然有笑容，立命賜酒，且烹數尾以犒小人。」主人駭甚，自念所贈，頗不粗劣，何至烹賜下人。因責之曰：「必汝蠢頑無禮，故公子遷怒耳。」傭揚手力辯曰：「我固陋拙，遂以為非人也！登公子門，小心如許，猶恐笞鬥不文，敬索梓出，一一勻排而後進之，有何不周詳也？」主人罵而遣之。

靈隱寺僧某以茶得名，錫白皆精。然所蓄茶有數等，恆視客之貴賤以為烹獻；其最上者，非貴客及知味者，不一奉也。一日有貴官至，僧伏謁甚恭，出佳茶，手自烹進，冀得稱譽。貴官默然。僧惑甚，又以最上一等烹而進之。飲已將盡，並

無贊語。僧急不能待，鞠躬曰：「茶何如？」貴官執盞一拱曰：「甚熱。」此兩事，可與張公子之贈鴿同一笑也。

六、三十八、聶政

懷慶潞王有昏德，時行民間，窺有好女子輒奪之。有王生妻，為王所睹，遣輿馬直入其家。女子號泣不伏，強舁而出。王亡去，隱身聶政之墓，冀妻經過，得一遙訣。無何妻至，望見夫，大哭投地。王惻動心懷，不覺失聲。從人知其王生，執之，將加榜掠。忽墓中一丈夫出，手握白刃，氣象威猛，厲聲曰：「我聶政也！良家子豈可強占！念汝輩不能自由，姑且宥恕。寄語無道王：若不改行，不日將抉其首！」眾大駭，

棄車而走。丈夫亦入墓中而沒。夫妻叩墓歸，猶懼王命復臨。過十餘日，竟無消息，心始安。王自是淫威亦少殺雲。

異史氏曰：「余讀刺客傳，而獨服膺於軹深井里也。其銳身而報知己也，有豫之義；白晝而屠卿相，有□之勇；皮面自刑，不累骨肉，有曹之智。至於荊軻，力不足以謀無道秦，遂使絕裾而去，自取滅亡。輕借樊將軍之頭，何日可能還也？此千古之所恨，而聶政之所嗤者矣。聞之野史：其墳見掘於羊、左之鬼。果爾，則生不成名，死猶喪義，其視聶之抱義憤而懲荒淫者，為人之賢不肖何如哉！噫！聶之賢，於此益信。」

六、三十九、冷生

平城冷生，少最鈍，年二十餘，未能通一經。忽有狐來與之燕處，每聞其終夜語，即兄弟詰之，亦不肯洩。如是多日，忽得狂易病，每得題為文，則閉門枯坐，少時嘩然大笑。窺之，則手不停草，而一藝成矣。脫稿又文思精妙。是年入泮，明年食餼。每逢場作笑，響徹堂壁，由此「笑生」之名大噪。幸學使退休，不聞。後值某學使規矩嚴肅，終日危坐堂上。忽聞笑聲，怒執之，將以加責，執事官代白其顛。學使怒稍息，釋之，而黜其名。從此佯狂詩酒。著有《顛草》四卷，超拔可誦。

異史氏曰：「閉門一笑，與佛家頓悟時何殊間哉！大笑成文，亦一快事，何至以此褫革？如此主司，寧非悠悠！」學師孫景夏往訪友人，至其窗外，不聞人語，但聞笑聲嗤然，頃刻數作。意其與人戲耳。入視，則居之獨也。怪之。始大笑曰：「適無事，默熟笑談耳。」

邑宮生家畜一驢，性蹇劣，每途中逢徒步客，拱手謝曰：「適忙，不遑下騎，勿罪！」言未已，驢已蹶然伏道上，屢試不爽。宮大慚恨，因與妻謀，使偽作客。己乃跨驢周於庭，向妻拱手，作遇客語，驢果伏。便以利錐毒刺之。適有友人相訪，方欲款關，聞宮言於內曰：「不遑下騎，勿罪！」少頃，又言之。心大怪異，叩扉問其故，以實告，相與捧腹。

此二則，可附冷生之笑並傳矣。

六、四十、狐懲淫

某生購新第，常患狐。一切服物，多為所毀，且時以塵土置湯餅中。

一日有友過訪，值生出，至暮不歸。生妻備饌供客，已而借婢啜食餘餌。生素不羈，好蓄媚藥，不知何時狐以藥置粥中，婦食之，覺有腦麝氣，問婢，婢云不知。食訖，覺欲焰上熾，不可暫忍，強自按抑，燥渴愈急。籌思家中無可奔者，惟有客在，遂往叩齋。客問其誰，實告之；問何作，不答。客謝曰：「我與若夫道義交，不敢為此獸行。」婦尚流連，客叱罵

曰：「某兄文章品行，被汝喪盡矣！」隔窗唾之，婦大慚乃退。因自念我何為若此？忽憶碗中香，得毋媚藥也？檢包中藥，果狼藉滿案，盞盞中皆是也。稔知冷水可解，因就飲之。頃刻，心下清醒，愧恥無以自容。展轉既久，更漏已殘，愈恐天曉難以見人，乃解帶自經。婢覺救之，氣已漸絕；辰後始有微息。客夜間已遁。

生晡後方歸，見妻臥，問之不語，但含清涕。婢以狀告，大驚，苦詰之。妻遣婢去，始以實告。生嘆曰：「此我之淫報也，於卿何尤？幸有良友，不然，何以為人！」遂從此痛改往行，狐亦遂絕。

異史氏曰：「居家者相戒勿蓄砒鴆，從無有相戒不蓄媚藥者，亦猶人之畏兵刃而狎床第也。寧知其毒有甚於砒鴆者哉！顧蓄之不過以媚內耳！乃至見嫉於鬼神；況人之縱淫，有過於蓄藥者乎？」

某生赴試，自郡中歸，日已暮，攜有蓮實菱藕，入室，並置幾上。又有藤津偽器一事，水浸盎中。諸鄰人以生新歸，攜酒登堂，生倉卒置床下而出，令內子經營供饌，與客薄飲。飲已入內，急燭床下，盎水已空。問婦，婦曰：「適與菱藕並出供客，何尚尋也？」生憶肴中有黑條雜錯，舉座不知何物。乃失笑曰：「癡婆子！此何物事，可供客耶？」婦亦疑曰：「我尚怨子不言烹法，其狀可醜，又不知何名，只得糊

塗鬢切耳。」生乃告之，相與大笑。今某生貴矣，相狎者猶以為戲。

六、四十一、山市

奂山山市，邑八景之一也，數年恆不一見。孫公子禹年，與同人飲樓上，忽見山頭有孤塔聳起，高插青冥。相顧驚疑，念近中無此禪院。無何，見宮殿數十所，碧瓦飛甍，始悟為山市。未幾高垣睥睨，連亘六七里，居然城郭矣。中有樓若者、堂若者、坊若者，歷歷在目，以億萬計。忽大風起，塵氣莽莽然，城市依稀而已。既而風定天清，一切烏有；惟危樓一座，直接霄漢。樓五架窗扉皆洞開，一行有五點明處，

樓外天也。層層指數：樓愈高則明漸小；數至八層、裁如星點，又其上則黯然縹緲，不可計其層次矣。而樓上人往來屑屑，或憑或立，不一狀。逾時樓漸低，可見其頂，又漸如常樓，又漸如高舍，倏忽如拳如豆，遂不可見。又聞有早行者，見山上人煙市肆，與世無別，故又名「鬼市」云。

六、四十二、江城

臨江高蕃，少慧，儀容秀美，十四歲入邑庠。富室爭女之，生選擇良苛，屢梗父命。父仲鴻年六十，止此子，寵惜之，不忍少拂。

東村有樊翁者，授童蒙於市肆，攜家僦生屋。翁有女，小字江城，與生同甲，時皆八九歲，兩小無猜，日共嬉戲。後翁徙去，積四五年，不復聞問。一日，生於隘巷中，見一女郎，艷美絕俗，從以小鬟僅六七歲，不敢傾顧但斜睨之。女停睇若欲有言，細視之江城也。頓大驚喜。各無所言，相視呆立，移時始別，兩情戀戀。生故以紅巾遺地而去，小鬟拾之，喜以授女。女入袖中，易以己巾，偽謂鬟曰：「高秀才非他人，勿得諱其遺物，可追還之。」小鬟果追付生，生得巾大喜。歸見母，請與論婚。母曰：「家無半間屋，南北流寓，何足匹偶？」生曰：「我自欲之，固當無悔。」母不能決，以商仲鴻，鴻執不可。生聞之悶悶，噉不容粒。母憂之，謂高曰：「樊

氏雖貧，亦非狙儉無賴者比。我請過其家，倘其女可偶，當亦無害。」高曰：「諾。」母托燒香黑帝祠，詣之。見女明眸秀齒，居然娟好，心大愛悅。遂以金帛厚贈之，實告以意。樊媪謙抑而後受盟。歸述其情，生始解顏為笑。

逾歲擇吉迎女歸，夫妻相得甚歡。而女善怒，反眼若不相識，詞舌嘲啁，常聒於耳。生以愛故，悉含忍之。翁媪聞之，心弗善也，潛責其子。為女所聞，大恚，詬罵彌加。生稍稍反其惡聲，女益怒，撻逐出戶，闔其扉。生嚶嚶門外，不敢叩關，抱膝宿簷下。女從此視若仇。其初，長跪猶可以解，漸至屈膝無靈，而丈夫益苦矣。翁姑薄讓之，女抵牾不可言狀。翁姑忿怒，逼令大歸。

樊慚懼，浼交好者請於仲鴻，仲鴻不許。年餘，生出遇岳，岳邀歸其家，謝罪不遑。妝女出見，夫婦相看，不覺惻楚。樊乃沽酒款婿，酬勸甚殷。日暮堅止留宿，掃別榻，使夫婦並寢。既曙辭歸，不敢以情告父母，掩飾彌縫。自此三五日，暫一寄岳家宿，而父母不知也。樊一日自詣仲鴻。初不見，迫而後見之。樊膝行而請，高不承，諉諸其子。樊曰：「婿昨夜宿僕家，不聞有異言。」高驚問：「何時寄宿？」樊具以告。高赧謝曰：「我固不知。彼愛之，我獨何仇乎？」樊既去，高呼子而罵，生但俯首，不少出氣。言間，樊已送女至。高曰：「我不能為兒女任過，不如各立門戶，即煩主析爨之盟。」樊勸之，不聽。遂別院居之，遣一婢給役焉。

月餘，頗相安，翁媪竊慰。未幾女漸肆，生面上時有指爪痕，父母明知之，亦忍不置問。一日生不堪撻楚，奔避父所，芒芒然如鳥雀之被鷓鷀毆者。翁媪方怪問，女已橫槌追入，竟即翁側捉而捶之。翁姑涕噪，略不顧瞻，撻至數十，始悻悻以去。高逐子曰：「我惟避罵，故析爾。爾固樂此，又焉逃乎？」

生被逐，徙倚無所歸。母恐其折挫行死，今獨居而給之食。又召樊來，使教其女。樊入室，開諭萬端，女終不聽，反以惡言相苦。樊拂衣去，誓相絕。無何樊翁憤生病，與媪相繼死。女恨之，亦不臨吊，惟日隔壁噪罵，故使翁姑聞。高悉置不知。

生自獨居，若離湯火，但覺淒寂。暗以金啖媪李氏，納妓齋中，往來皆以夜。久之，女微聞之，詣齋嫚罵。生力白其誣，矢以天日，女始歸。自此日伺生隙。李媪自齋中出，適相遇，急呼之；媪神色變異，女愈疑，謂媪曰：「明告所作，或可宥免；若有隱秘，撮毛盡矣！」媪戰而告曰：「半月來，惟勾欄李雲娘過此兩度耳。適公子言，曾於玉笥山見陶家婦，愛其雙翹，囑奴招致之。渠雖不貞，亦未便作夜度娘，成否故未必也。」女以其言誠，姑從寬恕。媪欲去，又強止之。日既昏，呵之曰：「可先往滅其燭，便言陶家至矣。」媪如其言。女即速入。生喜極，挽臂促坐，具道饑渴。女默不語，生暗中索其足，曰：「山上一覲仙容，介介獨戀是耳。」

女終不語。生日：「夙昔之願，今始得遂，何可覲面而不識也？」躬自促火一照，則江城也。大懼失色，墮燭於地，長跪齧鯁，若兵在頸。女摘耳提歸，以針刺兩股殆遍，乃臥以下床，醒則罵之。生以此畏若虎狼，即偶假以顏色，枕席之上，亦震懾不能為人。女批頰而叱去之，益厭棄不以人齒。生日在蘭麝之鄉，如狂狴中人，仰獄吏之尊也。女有兩姊，俱適諸生。長姊平善，訥於口，常與女不相洽。二姊適葛氏，為人狡黠善辯，顧影弄姿，貌不及江城，而悍妒與埒。姊妹相逢無他語，惟各以闖威自鳴得意。以故二人最善。生適戚友，女輒嗔怒；惟適葛所，知而不禁。一日飲葛所，既醉，葛嘲曰：「子何畏之甚？」生笑美曰：「天下事頗多不解：我

之畏，畏其也，乃有美不及內人，而畏甚於僕者，惑不滋甚哉？」葛大慚，不能對。婢聞，以告二姊。二姊怒，操杖遽出，生見其兇，跣屣欲走。杖起，已中腰脊，三杖三蹶而不能起。誤中顛，血流如沈。二姊去，生蹣跚而歸。

妻驚問之，初以迂姨故，不敢遽告；再三研詰，始具陳之。女以帛束生首，忿然曰：「人家男子，何煩他撻楚耶！」更短袖裳，懷木杵，攜婢徑去。抵葛家，二姊笑語承迎，女不語，以杵擊之，僕；裂褲而痛楚焉。齒落唇缺，遺失洩便。女返，二姊羞憤，遣夫赴訴於高。生趨出，極意溫恤，葛私語曰：「僕此來，不得不爾。悍婦不仁，幸假手而懲創之，我兩人何嫌焉。」女已聞之，遽出，指罵曰：「齷齪賊！妻子虧

苦，反竊竊與外人交好！此等男子，不宜打煞耶！」疾呼覓杖。葛大窘，奪門竄去。生由此往來全無一所。

同窗王子雅過之，宛轉留飲。飲間，以閨閣相謔，頻涉狎褻。女適窺客，伏聽盡悉，暗以巴豆投湯中而進之。未幾吐利不可堪，奄存氣息。女使婢問之曰：「再敢無禮否？」始悟病之所自來，呻吟而哀之，則綠豆湯已儲待矣，飲之乃止。從此同人相戒，不敢飲於其家。

王有酤肆，肆中多紅梅，設宴招其曹侶。生托文社，稟白而往。日暮，既酣，王生曰：「適有南昌名妓，流寓此間，可以呼來共飲。」眾大悅。惟生離席，興辭，群曳之曰：「闔中耳目雖長，亦聽睹不至於此。」因相矢緘口，生乃復坐。少間

妓果出，年十七八，玉佩丁冬，雲鬢掠削。問其姓，云：「謝氏，小字芳蘭。」出詞吐氣，備極風雅，舉座若狂。而芳蘭猶屬意生，屢以色授。為眾所覺，故曳兩人連肩坐。芳蘭陰把生手，以指書掌作「宿」字。生於此時，欲去不忍，欲留不敢，心如亂絲，不可言喻。而傾頭耳語，醉態益狂，榻上胭脂虎，亦並忘之。少選，聽更漏已動，肆中酒客愈稀，惟遙座一美少年對燭獨酌，有小僮捧巾侍焉；眾竊議其高雅。無何，少年罷飲，出門去。僮返身入，向生曰：「主人相候一語。」眾則茫然，惟生顏色慘變，不遑告別，匆匆便去。蓋少年乃江城，僮即其家婢也。

生從至家，伏受鞭撲。從此禁錮益嚴，吊慶皆絕。文宗下學，生以誤講降為青。一日與婢語，女疑與私，以酒壇囊婢首而撻之。已而縛生及婢，以繡剪剪腹間肉互補之，釋縛令其自束。月餘，補處竟合為一云。女每以白足踏餅塵土中，叱生撫食之。如是種種。母以憶子故，偶至其家，見子柴瘠，歸而痛哭欲死。夜夢一叟告之曰：「不須憂煩，此是前世因。江城原靜業和尚所養長生鼠，公子前生為士人，偶游其地，誤斃之。今作惡報，不可以人力回也。每早起，虔心誦觀音咒一百遍，必當有效。」醒而述於仲鴻，異之，夫妻遵教。虔誦兩月餘，女橫如故，益之狂縱。聞門外鉦鼓，輒握發出，慙

然引眺，千人指視，恬不為怪。翁姑共恥之，而不能禁，腹誹而已。

忽有老僧在門外宣佛果，觀者如堵。僧吹鼓上革作牛鳴。女奔出，見人眾無隙，命婢移行床，翹登其上。眾目集視，女如弗覺。逾時，僧敷衍將畢，索清水一盃，持向女而宣言曰：「莫要嗔，莫要嗔！前世也非假，今世也非真。咄！鼠子縮頭去，勿使貓兒尋。」宣已，吸水嚙射女面，粉黛淫淫，下沾衿袖。眾大駭，意女暴怒，女殊不語，拭面自歸。僧亦遂去。女入室癡坐，嗒然若喪，終日不食，掃榻遽寢。中夜忽喚生醒，生疑其將遺，捧進溺盆。女卻之，暗把生臂，曳入衾。生承命，四體驚悚，若奉丹詔。女慨然曰：「使君如

此，何以為人！乃以手撫捫生體，每至刀杖痕，嚶嚶啜泣，輒以爪甲自掐，恨不即死。生見其狀，意良不忍，所以慰藉之良厚。女曰：「妾思和尚必是菩薩化身。清水一灑，若更腑肺。今回憶曩昔所為，都如隔世。妾向時得毋非人耶？有夫婦而不能歡，有姑嫜而不能事，是誠何心！明日可移家去，仍與父母同居，庶便定省。」絮語終夜，如話十年之別。昧爽即起，折衣斂器，婢攜簾，躬襪被，促生前往叩扉。母出駭問，告以意。母尚遲回有難色，女已偕婢入。母從入。女伏地哀泣，但求免死。母察其意誠，亦泣曰：「吾兒何遽如此？」生為細述前狀，始悟曩昔之夢驗也。喜，喚廝僕為除舊舍。女自是承顏順志過於孝子，見人，則覷如新婦；或

戲述往事，則紅漲於頰。且勤儉，又善居積，三年翁媪不問家計，而富稱巨萬矣。生是歲鄉捷。每謂生曰：「當日一見芳蘭，今猶憶之。」生以不受荼毒，願已至足，妄念所不敢萌，唯唯而已。會以應舉入都，數月乃返。入室，見芳蘭方與江城對弈。驚而問之，則女以數百金出其籍矣。此事浙中王子雅言之甚詳。

異史氏曰：「人生業果，飲啄必報，而惟果報之在房中者，如附骨之疽，其毒尤慘。每見天下賢婦十之一，悍婦十之九，亦以見人世之能修善業者少也。觀自在願力宏大，何不將盂中水灑大千世界也？」

六、四十三、孫生

孫生娶故家女辛氏，初入門，為窮褲，多其帶，渾身糾纏甚密，拒男子不與共榻，床頭常設錐簪之器以自衛。孫屢被刺，因就別榻眠。月餘，不敢問鼎。即白晝相逢，女未嘗假以言笑。

同窗某知之，私謂孫曰：「夫人能飲否？」答云：「少飲。」某戲之曰：「僕有調停之法，善而可行。」問：「何法？」曰：「以迷藥入酒，給使飲焉，則惟君所為矣。」孫笑之，而陰服其策良。詢之醫家，敬以酒煮烏頭置案上。入夜，孫釀別酒，獨酌數觥而寢。如此三夕，妻終不飲。一夜孫臥移時，視妻猶

寂坐，孫故作齁聲，妻乃下榻，取酒煨爐上。孫竊喜。既而滿飲一杯；又復的，約盡半杯許，以其餘仍內壺中，拂榻遂寢。久之無聲，而燈惶惶尚未滅也。疑其尚醒，故大呼：「錫槩融化矣！」妻不應，再呼仍不應；白身往視，則醉睡如泥。啟衾潛入，層層斷其縛結。妻固覺之，不能動，亦不能言，任其輕薄而去。既醒，惡之，投繯自縊。孫夢中聞喘吼聲，起而奔視，舌已出兩寸許。大驚，斷索，扶榻上，逾時始蘇。孫自此殊厭恨之，夫妻避道而行，相逢則俯其首，積四五年不交一語。妻或在室中，與他人嬉笑，見夫至色則立變，凜如霜雪。孫嘗寄宿齋中，經歲不歸；即強之歸，亦面壁移時，默然就枕而已。父母甚憂之。

一日有老尼至其家，見婦，亟加贊譽。母不言，但有浩嘆，尼詰其故，具以情告。尼曰：「此易事耳。」母喜曰：「倘能回婦意，當不靳酬也。」尼窺室無人，耳語曰：「購春宮一幀，三日後為若厭之。」尼去，母即購以待之。三日尼果來，囑曰：「此須甚密，勿令夫婦知。」乃剪下圖中人，又針三枚，艾一撮，並以素紙包固，外繪數畫如蚓狀，使母賺婦出，竊取其枕，開其縫而投之；已而仍合之，返歸故處。尼乃去。至晚，母強子歸宿。媪往竊聽。二更將殘，聞婦呼孫小字，孫不答。少間，婦復語，孫厭氣作惡聲。質明，母入其室，見夫婦面首相背，知尼之術誣也。呼子於無人處，委諭之。孫聞妻名便怒，切齒。母怒罵之，不顧而去。

越日尼來，告之罔效，尼大疑。媪因述所聽：尼笑曰：「前言婦憎夫，故偏厭之。今婦意已轉，所未轉者男耳。請作兩制之法，必有驗。」母從之，索子枕如前緘置訖，又呼令歸寢。更餘，猶聞兩榻上皆有轉側聲，時作咳，都若不能寐。久之，聞兩人在一床上唧唧語，但隱約不可辨。將曙，猶聞嬉笑，吃吃不絕。媪以告母，母喜。尼來，厚饋之。孫由是琴瑟和好。生一男兩女，十餘年從無角口之事。同人私問其故，笑曰：「前此顧影生怒，後此聞聲而喜，自亦不解其何心也。」異史氏曰：「移憎而愛，術亦神矣。然能令人喜者，亦能令人怒，術人之神，正術人之可畏也。先哲云：『六婆不入門。』有見矣夫！」

六、四十四、八大王

臨洮馮生，蓋貴介裔而凌夷矣。有漁鰲者負其債，不能償，得鰲輒獻之。一日獻巨鰲，額有白點，生以其狀異，放之。

後白婿家歸，至恆河之側，日已就昏，見一醉者從二三僮，顛跋而至，遙見生，便問：「何人？」生漫應：「行道者。」醉人怒曰：「寧無姓名，胡言行道者？」生馳驅心急，置不答，徑過之。醉人益怒，捉袂使不得行，酒臭熏人。生更不耐，然力解不能脫。問：「汝何名？」嚙然而對曰：「我南都舊令尹也。將何為？」生曰：「世間有此等令尹，辱寔世界矣！幸是舊令尹；假新令尹，將無殺盡途人耶？」醉人怒甚，勢將

用武。生大言曰：「我馮某非受人撻打者！」醉人聞之，變怒為歡，踉蹌下拜曰：「是我恩主，唐突勿罪！」起喚從人，先歸治具。生辭之不得。握手行數里，見一小村。既入，則廊舍華好，似貴人家。醉人醒稍解，生始詢其姓字。曰：「言之勿驚，我洮水八大王也。適西山青童招飲，不覺過醉，有犯尊顏，實切愧悚。」生知其妖，以其情辭殷渥，遂不畏怖。俄而設筵豐盛，促坐歡飲。八大王最豪，連舉數觥。生恐其復醉，再作縈擾，偽醉求寢。八大王已喻其意，笑曰：「君得無畏我狂耶？但請勿懼。凡醉人無行，謂隔夜不復記者，欺人耳。酒徒之不德，故犯者十之九。僕雖不齒於儕偶，顧未敢以無賴之行施之長者，何遂見拒如此？」生乃復坐，正容而

諫曰：「既自知之，何勿改行？」八大王曰：「老夫為令尹時，沉湎尤過於今日。自觸帝怒，謫歸島嶼，力返前轍者十餘年矣。今老將就木，潦倒不能橫飛，故態復作，我自不解耳。茲敬聞命矣。」傾談間遠鐘已動。八大王起，捉臂曰：「相聚不久。蓄有一物，聊報厚德。此不可以久佩，如願後，當見還也。」口中吐一小人，僅寸許，因以爪掐生臂，痛若膚裂；急以小人按捺其上，釋手已入革裏，甲痕尚在，而漫漫墳起，類痰核狀。驚問之，笑而不答。但曰：「君宜行矣。」送生出，八大王自返。回顧村舍全渺，惟一巨鱉，蠢蠢入水而沒。

錯愕久之，自念所獲，必鱉寶也。由此目最明，凡有珠寶之處，黃泉下皆可見，即素所不知之物，亦隨口而知其名。於

寢室中，掘得藏鏹數百，用度頗充。後有貨故宅者，生視其中有藏鏹無算，遂以重金購居之。由此與王公坪富矣，火齊木難之類皆蓄焉。得一鏡，背有鳳紐，環水雲湘妃之圖，光射里餘，須眉皆可數。佳人一照，則影留其中，磨之不能滅也；若改妝重照，或更一美人，則前影消矣。時肅府第三公主絕美，雅慕其名。會主游崆峒，乃往伏山中，伺其下輿，照之而歸，設置案頭。審視之，見美人在中，拈巾微笑，口欲言而波欲動，喜而藏之。

年餘為妻所洩，聞之肅府。王怒收之，追鏡去，擬斬。生大賄中貴人，使言於王曰：「王如見赦，天下之至寶，不難致也。不然，有死而已，於王誠無所益。」王欲籍其家而徙之。

三公主曰：「彼已窺我，十死亦不足解此玷，不如嫁之。」王不許，公主閉戶不食。妃子大憂，力言於王。王乃釋生囚，命中貴以意示生。生辭曰：「糟糠之妻不下堂，寧死不敢承命。王如聽臣自贖，傾家可也。」王怒，復逮之。妃召生妻入宮，將鳩之。既見，妻以珊瑚鏡臺納妃，詞意溫惻。妃悅之，使參公主。公主亦悅之，訂為姊妹，轉使諭生。生告妻曰：「王侯之女，不可以先後論嫡庶也。」妻不聽，歸修聘幣，納王邸，齎送者迨千人。珍石寶玉之屬，王家不能知其名。王大喜，釋生歸，以公主嬪焉。公主仍懷鏡歸。

生一夕獨寢，夢八大王軒然入曰：「所贈之物，當見還也。佩之若久，耗人精血，損人壽命。」生諾之，即留宴飲。八

大王辭曰：「自聆藥石，戒杯中物，已三年矣。」乃以口嚙生臂，痛極而醒。視之，則核塊消矣。後此遂如常人。

異史氏曰：「醒則猶人，而醉則猶鰲，此酒人之大都也。顧鰲雖曰習於酒狂乎，而不敢忘恩，不敢無禮於長者，鰲不過人遠哉？若夫己氏則醒不如人，而醉不如鰲矣。古人有龜鑿，盍以為鰲鑿乎？乃作《酒人賦》。賦曰：

『有一物焉，陶情適口；飲之則醺醺騰騰，厥名為「酒」。其名最多，為功已久：以宴嘉賓，以速父舅，以促膝而為歡，以合盃而成偶；或以為「釣詩鉤」，又以為「掃愁帚」。故曲生頻來，則騷客之金蘭友；醉鄉深處，則愁人之逋逃藪。糟丘之臺既成，鴟夷之功不朽。齊臣遂能一石，學士亦稱五

斗。則酒固以人傳，而人或以酒醜。若夫落帽之孟嘉，荷鍤之伯倫，山公之倒其接，彭澤之漉以葛巾。酣眠乎美人之側也，或察其無心；濡首於墨汁之中也，自以為有神。井底臥乘船之士，槽邊縛珥玉之臣。甚至效鰲囚而玩世，亦猶非害物而不仁。

『至如雨宵雪夜，月旦花晨，風定塵短，客舊妓新，履舄交錯，蘭麝香沉，細批薄抹，低唱淺斟；忽清商兮一奏，則寂若兮無人。雅謔則飛花粲齒，高吟則戛玉敲金。總陶然而大醉，亦魂清而夢真。果爾，即一朝一醉，當亦名教之所不嗔。爾乃嘈雜不韻，俚詞並進；坐起歡嘩，呶呶成陣。涓滴忿爭，勢將投刃；伸頸攢眉，引杯若鳩；傾沈碎觥，拂燈滅燼。綠

醋葡萄，狼藉不斲；病葉狂花，觴政所禁。如此情懷，不如弗飲。

『又有酒隔咽喉；間不盈寸；呐呐呢呢，猶譏主客。坐不言行，飲復不任；酒客無品，於斯為甚。甚有狂藥下，客氣粗；努石棱，磔鬚須；袒兩臂，躍雙趺。塵蒙蒙兮滿面，哇浪浪兮沾裾；口狺狺兮亂吠，發蓬蓬兮若奴。其籲地而呼天也，似李郎之嘔其肝臟；其揚手而擲足也，如蘇相之裂於牛車。舌底生蓮者，不能窮其狀；燈前取影者，不能為之圖。父母前而受忤，妻子弱而難扶。或以父執之良友，無端而受罵于灌夫。婉言以警，倍益眩暝。』

『此名「酒兇」，不可救拯。惟有一術，可以解酲。厥術維何？只須一槌。繫其手足，與斬豕等。止困其臀，勿傷其頂；捶至百餘，豁然頓醒。』

六、四十五、戲縊

邑人某年少無賴，偶游村外，見少婦乘馬來，謂同游者曰：「我能令其一笑。」眾不信，約賭作筵。某遽奔去出馬前，連聲嘩曰：「我要死！」因於墻頭抽梁黠一本，橫尺許，解帶掛其上，引頸作縊狀。婦果過而哂之，眾亦粲然。婦去既遠，某猶不動，眾益笑之。近視則舌出目瞑，而氣真絕矣。梁干白經，不亦奇哉？是可以為儇薄者戒。

# 七、卷七

## 七、一、羅祖

羅祖，即墨人也，少貧。總族中應出一丁戍北邊，即以羅往。羅居邊數年，生一子。駐防守備雅厚遇之。會守備遷陝西參將，欲攜與俱去，羅乃托妻子於其友李某者，遂西。自此三年不得返。

適參將欲致書北塞，羅乃自陳，請以便道省妻子，參將從之。羅至家，妻子無恙，良慰。然床下有男子遺舄，心疑之；即而至李申謝。李致酒殷勤，妻又道李恩義，羅感激不勝。明日謂妻曰：「我往致主命，暮不能歸，勿伺也。」出門跨馬

而去。匿身近處，更定卻歸。聞妻與李臥語，大怒，破扉。二人懼，膝行乞死。羅抽刃出，已，復韜之曰：「我始以汝為人也，今如此，殺之污吾刀耳！與汝約：妻子而受之，籍名亦而充之，馬匹械器具在。我逝矣！」遂去。鄉人共聞於官，官答李，李以實告。而事無驗見，莫可質憑，遠近搜羅，則絕匿名跡。官疑其因奸致殺，益械李及妻；逾年並桎梏以死。乃驛送其子歸即墨。

後石匣營有樵人入山，見一道人坐洞中，未嘗求食。眾以為異，齎糧供之。或有識者蓋即羅也。饋遺滿洞。羅終不食，意似厭囂，以故來者漸寡。積數年，洞外蓬蒿成林。或潛窺之，則坐處不會少移。又久之，見其出游山上，就之已杳；

往瞰洞中，則衣上塵蒙如故。益奇之。更數日而往，則玉柱下垂，坐化已久。土人為之建廟，每三月間，香楮相屬於道。其子往，人皆呼以小羅祖，香稅悉歸之。今其後人猶歲一往，收稅金焉。浙水劉宗玉向予言之甚詳。予笑曰：「今世諸檀越，不求為聖賢，但望成佛祖。請遍告之：若要立地成佛，須放下刀子去。」

七、二、劉姓

邑劉姓，虎而冠者也。後去淄居沂，習氣不除，鄉人咸畏惡之。有田數畝，與苗某連壟。苗勤，田畔多種桃。桃初實，子往攀摘，劉怒驅之，指為己有，子啼而告諸父。父方駭怪，

劉已詬罵在門，且言將訟。苗笑慰之。怒不解，忿而去。時有同邑李翠石作典商於沂，劉持狀入城，適與之遇。以同鄉故相熟，問：「作何干？」劉以告，李笑曰：「子聲望眾所共知；我素識苗甚平善，何敢占騙？將毋反言之也！」乃碎其詞紙，曳入肆，將與調停。劉恨恨不已，竊肆中筆，復造狀藏懷中，期以必告。未幾苗至，細陳所以，因哀李為之解免，言：「我農人，半世不見官長。但得罷訟，數株桃何敢執為己有。」李呼劉出，告以退讓之意。劉又指天畫地，叱罵不休，苗惟和色卑詞，無敢少辯。

既罷，逾四五日，見其村中人傳劉已死，李為驚嘆。異日他適，見杖而來者儼然劉也。比至，殷殷問訊，且請顧臨。李

逡巡問曰：「日前忽聞兇訃，一何妄也？」劉不答，但挽入村，至其家，羅漿酒焉。乃言：「前日之傳，非妄也。曩出門見二人來，捉見官府。問何事，但言不知。自思出入衙門數十年，非怯見官長者，亦不為怖。從去至公廨，見南面者有怒容曰：「汝即某耶？罪惡貫盈，不自悛悔；又以他人之物，占為己有。此等橫暴，合置鎗鼎！」一人稽簿曰：「此人有一善合不死。」南面者閱簿，其色稍霽，便云：「暫送他去。」數十人齊聲呵逐。餘曰：「因何事勾我來？又因何事遣我去？還祈明示。」吏持簿下，指一條示之。上記：崇禎十三年，用錢三百，救一人夫婦完聚。吏曰：「非此，則今日命當絕，宜墮畜生道。」駭極，乃從二人出。二人索賄，怒

告曰：『不知劉某出入公門二十年，專勒人財者，何得向老虎討肉吃耶？』二人乃不復言。送至村，拱手曰：『此役不會啖得一掬水。』二人既去，入門遂蘇，時氣絕已隔日矣。」

李聞而異之，因詰其善行顛末。初，崇禎十三年，歲大兇，人相食。劉時在淄，為主捕隸。適見男女哭甚哀，問之，答云：「夫婦聚裁年餘，今歲荒，不能兩全，故悲耳。」少時，油肆前復見之，似有所爭。近詰之，肆主馬姓者便云：「伊夫婦餓將死，日向我討麻醬以為活；今又欲賣婦於我，我家中已買十餘口矣。此何要緊？賤則售之，否則已耳。如此可笑，生來纏人！」男子因言：「今粟如珠，自度非得三百數，不足供逃亡之費。本欲兩生，若賣妻而不免於死，何敢焉？」

非敢言直，但求作陰鷲行之耳。」劉憐之，便問馬出幾何。馬言：「今日婦口，止直百許耳。」劉請勿短其數，且願助以半價之資，馬執不可。劉少負氣，便謂男子：「彼鄙瑣不足道，我請如數相贈。若能逃荒，又全夫婦，不更佳耶？」遂發囊與之。夫妻泣拜而去。劉述此事，李大加獎嘆。

劉自此前行頓改，今七旬猶健。去年李詣周村，遇劉與人爭，眾圍勸不能解，李笑呼曰：「汝又欲訟桃樹耶？」劉茫然改容，啞啞斂手而退。

異史氏曰：「李翠石兄弟皆稱素封。然翠石又醇謹，喜為善，未嘗以富自豪，抑然誠篤君子也。觀其解紛勸善，其生平可

知矣。古云：『為富不仁。』吾不知翠石先仁而後富者耶？抑先富而後仁者耶？」

七、三、邵九娘

柴廷賓，太平人，妻金氏不育，又奇妒。柴百金買妾，金暴遇之，經歲而死。柴忿出，獨宿數月，不踐閨闥。

一日柴初度，金卑詞莊禮為丈夫壽，柴不忍拒，始通言笑。金設筵內寢招柴，柴辭以醉。金華妝自詣柴所，曰：「妾竭誠終日，君即醉，請一盞而別。」柴乃入，酌酒話言。妻從容曰：「前日誤殺婢子，今甚悔之。何便仇忌，遂無結發情

耶？後請納金釵十二，妾不汝瑕疵也。」柴益喜，燭盡見跋，遂止宿焉。由此敬愛如初。

金便呼媒媪來，囑為物色佳媵，而陰使遷延勿報，已則故督促之。如是年餘。柴不能待，遍囑戚好為之購致，得林氏之養女。金一見，喜形於色，飲食共之，脂澤花釧任其所取。然林固燕產，不習女紅，繡履之外須人而成。金曰：「我素勤儉，非似王侯家，買作畫圖看者。」於是授美錦，使學制，若嚴師誨弟子。初猶呵罵，繼而鞭楚。柴痛切於心，不能為地。而金之憐愛林尤倍於昔，往往自為汝束，勻鉛黃焉。但履跟稍有折痕，則以鐵杖擊雙彎，發少亂則批兩頰。林不堪其虐，自經死。柴悲慘心日，頗致怨懟。妻怒曰：「我代汝

教娘子，有何罪過？」柴始悟其奸，因復反目，永絕琴瑟之好。陰於別業修房闔，思購麗人而別居之。

荏苒半載，未得其人。偶會友人之葬，見二八女郎，光艷溢目，停睇神馳。女怪其狂顧，秋波斜轉之。詢諸人，知為邵氏。邵貧士，止此女，少聰慧，教之讀，過目能了。尤喜讀《內經》及冰鑒書。父愛溺之，有議婚者，輒令自擇，而貧富皆少所可，故十七歲猶未字也。柴得其端末，知不可圖，然心低徊之。又翼其家貧，或可利動。謀之數媪，無敢媒者，遂亦灰心，無所復望。

忽有賈媪者，以貨珠過柴，柴告所願，賂以重金，曰：「止求一通誠意，其成與否所勿責也。萬一可圖，千金不惜。」媪

利其有，諾之，登門，故與邵妻絮語。睹女，驚贊曰：「好個美姑姑！假到昭陽院，趙家姊妹何足數得！」又問：「婿家阿誰？」邵妻答：「尚未。」媪言：「若個娘子，何愁無王侯作貴客也！」邵妻嘆曰：「王侯家所不敢望，只要個讀書種子，便是佳耳。我家小孽冤，翻復遴選，十無一當，不解是何意向？」媪曰：「夫人勿須煩怨。憑個麗人，不知前身修何福澤才能消受得！昨一大笑事，柴家郎君云：於某家瑩邊望見顏色，願以千金為聘。此非餓鴟作天鵝想耶？早被老身呵斥去矣！」邵妻微笑不答。媪曰：「便是秀才家難與較計，若在別個，失尺而得丈，宜若可為矣。」邵妻復笑不言。媪撫掌曰：「果爾，則為老身計亦左矣。日蒙夫人愛，登堂便促

膝賜漿酒；若得千金，出車馬，入樓閣，老身再到門，則圈者呵叱及之矣。」邵妻沉吟良久，起而去與夫語；移時喚其女；又移時三人並出。邵妻笑曰：「婢子奇特，多少良匹，悉不就，聞為賤媵則就之。但恐為儒林笑也！」媪曰：「倘入門得一小哥子，大夫人便如何耶！」言已，告以別居之謀。邵益喜，喚女曰：「試同賈姥言之。此汝自主張，勿後悔，致懟父母。」女腆然曰：「父母安享厚奉，則養有濟矣。況白顧命薄，若得佳偶，必減壽數，少受折磨，未必非福。前見柴郎亦福相，子孫必有興者。」媪大喜，奔告。柴喜出非望，即置千金，備輿馬，娶女於別業，家人無敢言者。女謂柴曰：「君之計，所謂燕巢於幕，不謀朝夕者也。塞口防舌以

冀不漏，何可得寧？請不如早歸，猶速發而禍小。」柴慮摧殘，女曰：「天下無不可化之人。我苟無過，怒何由起？」柴曰：「不然。此非常之悍，不可情理動者。」女曰：「身為賤婢，摧折亦自分耳。不然，買日為活，何可長也？」柴以為是，終躊躇而不敢決。

一日柴他往，女青衣而出，命蒼頭控老牝馬，一媪攜襍從之，竟詣嫡所，伏地而陳。妻始而怒，既念其自首可原，又見容飾兼卑，氣亦稍平。乃命婢子出錦衣衣之，曰：「彼薄幸人播惡於眾，使我橫被口語。其實皆男子不義，諸婢無行，有以激之。汝試念背妻而立家室，此豈復是人矣？」女曰：「細察渠似稍悔之，但不肯下氣耳。諺云：『大者不伏小。』以禮

論：妻之於夫，猶子之於父，庶之於嫡也。夫人若肯假以詞色，則積怨可以盡捐。」妻云：「彼自不來，我何與焉？」即命婢媪為之除舍。心雖不樂，亦暫安之。

柴聞女歸，驚惕不已，竊意羊入虎群，狼藉已不堪矣。疾奔而至，見家中寂然，心始穩貼。女迎門而勸，令詣嫡所，柴有難色。女泣下，柴意少納。女往見妻曰：「郎適歸，自慚無以見夫人，乞夫人往一姍笑之也。」妻不肯行，女曰：「妾已言：夫之於妻，猶嫡之於庶。孟光舉案，而人不以為諂，何哉？分在則然耳。」妻乃從之，見柴曰：「汝狡兔三窟，何歸為？」柴俯不對。女肘之，柴始強顏笑。妻色稍霽，將返。女推柴從之，又囑庖人備酌。自是夫妻復和。女早起青衣往

朝，盥已授帨，執婢禮甚恭。柴入其室，苦辭之，十餘夕始肯一納。妻亦心賢之，然自愧弗如，積慚成忌。但女奉侍謹，無可蹈瑕，或薄施呵譴，女惟順受。

一夜夫婦少有反唇，曉妝猶含盛怒。女捧鏡，鏡墮，破之。妻益恚，握發裂眦。女懼，長跪哀免。怒不解，鞭之至數十。柴不能忍，盛氣奔入，曳女出，妻呶呶逐擊之。柴怒，奪鞭反撲，面膚綻裂，始退。由是夫妻若仇。柴禁女無往，女弗聽，早起，膝行伺幕外。妻捶床怒罵，叱去，不聽前。日夜切齒，將伺柴出而後洩憤於女。柴知之，謝絕人事，杜門不通吊慶。妻無如何，惟日撻婢媪以寄其恨，下人皆不可堪。自夫妻絕好，女亦莫敢當夕，柴於是孤眠。妻聞之，意不稍安，

有大婢索狡黠，偶與柴語，妻疑其私，暴之尤苦。婢輒於無人處，疾首怨罵。一夕輪婢值宿，女囑柴，禁無往，曰：「婢面有殺機，叵測也。」柴如其言，招之來，詐問：「何作？」婢驚懼，無所措詞。柴益疑，檢其衣得利刃焉。婢無言，惟伏地乞死。柴欲撻之，女止之曰：「恐夫人所聞，此婢必無生理。彼罪固不赦，然不如鬻之，既全其生，我亦得直焉。」柴然之。會有買妾者急貨之。妻以其不謀故，罪柴，益遷怒女，詬罵益毒。柴忿，顧女曰：「皆汝自取。前此殺卻，烏有今日？」言已而走。妻怪其言，遍詰左右並無知者，問女，女亦不言。心益悶怒，捉據浪罵。柴乃返，以實告。妻大驚，向女溫語，而心轉恨其言之不早。

柴以為嫌隙盡釋，不復作防。適遠出，妻乃召女而數之曰：「殺主者罪不赦，汝縱之何心？」女造次不能以詞自達。妻燒赤鐵烙女面欲毀其容，婢媪皆為之不平。每號痛一聲，則家人皆哭，願代受死。妻乃不烙，以針刺脅二十餘下，始揮去之。柴歸，見面創，大怒，欲往尋之。女捉襟曰：「妾明知火坑而固蹈之。當嫁君時，豈以君家為天堂耶？亦自顧薄命，聊以洩造化之怒耳。安心忍受，尚有滿時，若再觸焉，是坎已填而復掘之也。」遂以藥糝患處，數日尋愈。忽攬鏡喜曰：「君今日宜為妾賀，彼烙斷我晦紋矣！」朝夕事嫡。一如往日。金前見眾哭，自知身同獨夫，略有愧悔之萌，時時呼女共事，詞色平善。月餘忽病逆，害飲食。柴恨其不死，略不顧問。

數日腹脹如鼓，日夜瀆困。女侍伺不遑眠食，金益德之。女以醫理自陳；金自覺疇昔過慘，疑其怨報，故謝之。金為人持家嚴整，婢僕悉就約束；自病後，皆散誕無操作者。柴躬自經理，劬勞甚苦，而家中米鹽，不食自盡。由是慨然興中饋之思，聘醫藥之。金對人輒自言為「氣虛」，以故醫脈之，無不指為氣鬱者。凡易數醫，卒罔效，亦瀕危矣。又將烹藥，女進曰：「此等藥百裏無益，只增劇耳。」金不信。女暗撮別劑易之。藥下，食頃三遺，病若失。遂益笑女言妄，呻而呼之曰：「女華陀，今如何也？」女及群婢皆笑。金問故，始實告之。泣曰：「妾日受子之覆載而不知也！今而後，請惟家政，聽子而行。」

無何病痊，柴整設為賀。女捧壺侍側，金自起奪壺，曳與連臂，愛異常情。更闌女托故離席，金遣二婢曳還之，強與連榻。自此，事必商，食必借，即姊妹無其和也。無何，女產一男。產後多病，金親為調視，若奉老母。

後金患心疴，痛起則面目皆青，但欲覓死。女急取銀針數枚，比至，則氣息瀕盡，按穴刺之，晝然痛止。十餘日復發，復刺；過六七日又發。雖應手奏效，不至大苦，然心常惴惴，恐其復萌。夜夢至一處，似廟宇，殿中鬼神皆動。神問：「汝金氏耶？汝罪過多端，壽數合盡：念汝改悔，故僅降災以示微譴。前殺兩姬，此其宿報。至邵氏何罪，而慘毒如此？鞭打之刑，已有柴生代報，可以相準；所欠一烙、二十三針，

今三次止償零數，便望病根除耶？明日又當作矣！」醒而大懼，猶冀為妖夢之誣。食後果病，其痛倍苦。女至刺之，隨手而瘥。疑曰：「技止此類，病本何以不拔？請再灼之。此非爛燒不可，但恐夫人不能忍受。」金憶夢中語，以故無難色。然呻吟忍受之際，默思欠此十九針，不知作何變癥，不如今一朝受盡，庶免後苦。炷盡，求女再針，女笑曰：「針豈可以泛常施用耶？」金曰：「不必論穴，但煩十九刺。」女笑不可。金請益堅，起跪榻上，女終不忍。實以夢告，女乃約略經絡刺之如數。自此平復，果不復病。彌自懺悔，臨下亦無戾色。子名曰俊，秀惠絕倫。女每曰：「此子翰苑相也。」八歲有神童之目，十五歲以進士授翰林。是時柴夫婦年四

十，如夫人三十有三耳。輿馬歸寧，鄉里榮之。邵翁自鬻女後，家暴富，而士林羞與為伍，至是始有通往來者。

異史氏曰：「女子狡妒，其天性然也。而為妾媵者，又復炫美弄機以增其怒。嗚呼！禍所由來矣。若以命自安，以分自守，百折而不移其志，此豈挺刃所能加乎？乃至於再拯其死，而始有悔悟之萌。嗚呼！豈人也哉！如數以償，而不增之息，亦造物之恕矣。顧以仁術作惡報，不亦偵乎！每見愚夫婦抱痾終日，即招無知之巫，任其刺肌灼膚而不敢呻，心嘗怪之，至此始悟。」

閩人有納妾者，夕入妻房，不敢便去，偽解屨作登榻狀。妻曰：「去休！勿作態！」夫尚徘徊，妻正色曰：「我非似他家

妒忌者，何必爾爾。」夫乃去。妻獨臥，輾轉不得寐，遂起，往伏門外潛聽之。但聞妾聲隱約，不甚了了，惟「郎罷」二字略可辨識。郎罷，閩人呼父也。妻聽逾刻，痰厥而踣，首觸扉作聲。夫驚起啟戶，尸倒入。呼妾火之，則其妻也。急扶灌之。目略開，即呻曰：「誰家郎罷被汝呼！」妒情可哂。

#### 七、四、鞏仙

鞏道人，無名字，亦不知何里人。嘗求見魯王，闈人不為通。有中貴人出，揖求之，中貴見其鄙陋，逐去之；已而復來。中貴怒，且逐且撲。至無人處，道人笑出黃金二百兩，煩逐者覆中貴：「為言我亦不要見王；但聞後苑花木樓臺，極人

間佳勝，若能導我一游，生平足矣。」又以白金賂逐者。其人喜，反命；中貴亦喜，引道人自後宰門入，諸景俱歷。又從登樓上，中貴方憑窗，道人一推，但覺身墮樓外，有細葛繃腰，懸於空際；下視則高深暈日，葛隱隱作斷聲。懼極，大號。無何數監至，駭極。見其去地絕遠，登樓共視，則葛端系根上，欲解援之，則葛細不堪用力。遍索道人，已杳矣。束手無計，奏之魯王，王詣視大奇之，命樓下藉茅鋪絮，將因而斷之。甫畢，葛崩然自絕，去地乃不咫耳。相與失笑。王命訪道士所在。聞館於尚秀才家，往問之，則出游未復。既，遇於途，遂引見王。王賜宴坐，便請作劇，道士曰：「臣草野之夫，無他庸能。既承優寵，敢獻女樂為大王壽。」遂

探袖中出美人置地上，向王稽拜已。道士命扮「瑤池宴」本，祝王萬年。女子吊場數語。道士又出一人，自白「王母」。少間，董雙成、許飛瓊，一切仙姬次第俱出。末有織女來謁，獻天衣一襲，金彩絢爛，光映一室。王意其偽，索觀之，道士急言：「不可！」王不聽，卒觀之，果無縫之衣，非人工所能制也。道士不樂曰：「臣竭誠以奉大王，暫而假諸天孫，今則濁氣所染，何以還故主乎？」王又意歌者必仙姬，思欲留其一二，細視之，則皆宮中樂伎耳。轉疑此曲非所夙諳，問之，果茫然不自知。道士以衣置火燒之，然後納諸袖中，再搜之，則已無矣。

王於是深重道士，留居府內。道士曰：「野人之性，視宮殿如藩籠，不如秀才家得自由也。」每至中夜，必還其所，時而堅留，亦遂宿止。輒於筵間，顛倒四時花木為戲。王問曰：「聞仙人亦不能忘情，果否？」對曰：「或仙人然耳；臣非仙人，故心如枯木矣。」一夜宿府中，王遣少妓往試之。入其室，數呼不應，燭之，則瞑坐榻上。搖之，目一閃即復合；再搖之，齶聲作矣。推之，則遂手而倒，酣臥如雷；彈其額，逆指作鐵釜聲。返以白王。王使刺一針，針弗入。推之，重不可搖；加十餘人舉擲床下，若千斤石墮地者。旦而窺之，仍眠地上。醒而笑曰：「一場惡睡，墮床下不覺耶！」後女子輩每於其坐臥時，按之為戲，初按猶軟，再按則鐵石矣。

道士舍秀才家，恆中夜不歸。尚鎖其戶，及旦啟扉，道士已臥室中。初，尚與曲妓惠哥善，矢志嫁娶。惠雅善歌，弦索傾一時。魯王聞其名，召入供奉，遂絕情好。每系念之，苦無由通。一夕問道士：「見惠哥否？」答言：「諸姬皆見，但不知其惠哥為誰。」尚述其貌，道其年，道士乃憶之。尚求轉寄一語，道士笑曰：「我世外人，不能為君塞鴻。」尚哀之不已。道士展其袖曰：「必欲一見，請人此。」尚窺之中大如屋。伏身入，則光明洞徹，寬若廳堂；幾案床榻，無物不有。居其內，殊無悶苦。道士入府，與王對弈。望惠哥至，陽以袍袖拂塵，惠哥已納袖中，而他人不之睹也。尚方獨坐凝想時，忽有美人自簷間墮，視之惠哥也。兩相驚喜，綢繆

臻至。尚曰：「今日奇緣，不可不志。請與卿聯之。」書壁上曰：「候門似海久無蹤。」惠續云：「誰識蕭郎今又逢。」尚曰：「袖裏乾坤真個大。」惠曰：「離人思婦盡包容。」書甫畢，忽有五人入，八角冠，淡紅衣，認之都與無素。默然不言，捉惠哥去。尚驚駭，不知所由。道士既歸，呼之出，問其情事，隱諱不以盡言。道士微笑，解衣反袂示之。尚審視，隱隱有字跡，細裁如蟻，蓋即所題句也。後十數日，又求一人。前後凡三人。惠哥謂尚曰：「腹中震動，妾甚憂之，常以緊帛束腰際。府中耳目較多，倘一朝臨蓐，何處可容兒啼？煩與鞏仙謀，見妾三叉腰時，便一拯救。」尚諾之。歸見道士，伏地不起。道士曳之曰：「所言，予已了了。但請勿憂。」

君宗祧賴此一線，何敢不竭綿薄。但自此不必復入。我所以報君者，原不在情私也。」後數月，道士自外入，笑曰：「攜得公子至矣。可速把襁褓來！」尚妻最賢，年近三十，數胎而存一子；適生女，盈月而殤。聞尚言，驚喜自出。道士探袖出嬰兒，酣然若寐，臍梗猶未斷也。尚妻接抱，始呱呱而泣。

道士解衣曰：「產血濺衣，道家最忌。今為君故，二十年故物，一旦棄之。」尚為易衣。道士囑曰：「舊物勿棄卻，燒錢許，可療難產，墮死胎。」尚從其言。居之又久，忽告尚曰：「所藏舊衲，當留少許自用，我死後亦勿忘也。」尚謂其言不祥。道士不言而去，入見王曰：「臣欲死！」王驚問之，

曰：「此有定數，亦復何言。」王不信，強留之；手談一局急起，王又止之。請就外舍，從之。道士趨臥，視之已死。王具棺木，以禮葬之。尚臨哭盡哀，如悟曩言蓋先告之也。遺衲用催生，應如響，求者踵接於門。始猶以污袖與之；既而剪領衿，罔不效。及聞所囑，疑妻必有產厄，斷血布如掌，珍藏之。會魯王有愛妃臨盆，三日不下，醫窮於術，或有以尚生告者，立召入，一劑而產。王大喜，贈白金、彩緞良厚，尚悉辭不受。王問所欲，曰：「臣不敢言。」再請之，頓首曰：「如推天惠，但賜舊妓惠哥足矣。」王召之來，問其年，曰：「妾十八入府，今十四年矣。」王以其齒加長，命遍呼群妓，任尚自擇，尚一無所好。王笑曰：「癡哉書生！十年前

定婚嫁耶？」尚以實對。乃盛備輿馬，仍以所辭彩緞為惠哥作妝，送之出。惠所生子，名之秀生。秀者，袖也。是時年十一矣。日念仙人之恩，清明則上其墓。有久客川中者，逢道人於途，出書一卷曰：「此府中物，來時倉猝，未暇璧返，煩寄去。」客歸，聞道人已死，不敢達王，尚代奏之。王展視，果道士所借。疑之，發其塚，空棺耳。後尚子少殤，賴秀生承繼，益服鞏之先知雲。

異史氏曰：「袖裏乾坤，古人之寓言耳，豈真有之耶？抑何其奇也！中有天地、有日月，可以娶妻生子，而又元催科之苦，人事之煩，則袖中蟣虱，何殊桃源雞犬哉！設容人常住，老於是鄉可耳。」

七、五、二商

莒人商姓者，兄富而弟貧，鄰垣而居。康熙間，歲大兇，弟朝夕不自給。一日，日向午，尚未舉火，枵腹蹠躐，無以為計。妻令往告兄，商曰：「無益。脫兄憐我貧也，當早有以處此矣。」妻固強之，商便使其子往，少頃空手而返。商曰：「何如哉！」妻詳問阿伯云何，子曰：「伯躊躇目視伯母，伯母告我曰：『兄弟析居，有飯各食，誰復能相顧也。』」夫妻無言，暫以殘盎敗榻，少易糠粃而生。

里中三四惡少，窺大商饒足，夜逾垣入。夫妻警寤，鳴盥器而號。鄰人共嫉之，無援者。不得已疾呼二商，商聞嫂鳴欲

趨救，妻止之，大聲對嫂曰：「兄弟析居，有禍各受，誰復能相顧也！」俄，盜破扉，執大商及婦炮烙之，呼聲綦慘。二商曰：「彼固無情，焉有坐視兄死而不救者！」率子越垣，大聲疾呼。二商父子故武勇，人所畏懼，又恐驚致他援，盜乃去。視兄嫂兩股焦灼，扶榻上，招集婢僕，乃歸。

大商雖被創，而金帛無所亡失，謂妻曰：「今所遺留，悉出弟賜，宜分給之。」妻曰：「汝有好兄弟，不受此苦矣！」商乃不言。二商家絕食，謂兄必有一報，久之寂不聞。婦不能待，使子捉囊往從貸，得鬥粟而返。婦怒其少欲反之，二商止之。逾兩月，貧餒愈不可支。二商曰：「今無術可以謀生，不如鬻宅於兄。兄恐我他去，或不受券而恤焉，未可知；縱

或不然，得十餘金，亦可存活。」妻以為然，遣子操券詣大商。大商告之婦，且曰：「弟即不仁，我手足也。彼去則我孤立，不如反其券而周之。」妻曰：「不然、彼言去，挾我也；果爾，則適墮其謀。世間無兄弟者，便都死卻耶？我高葺墻垣，亦足自固。不如受其券，從所適，亦可以廣吾宅。」計定，令二商押署券尾，付直而去。二商於是徙居鄰村。

鄉中不逞之徒，聞二商去，又攻之。復執大商，榜楚並兼，桔毒慘至，所有金資，悉以贖命。盜臨去，開廩呼村中貧者，恣所取，頃刻都盡。次日二商始聞，及奔視，則兄已昏憤不能語，開目見弟，但以手抓床席而已。少頃遂死。二商忿訴

邑宰。盜首逃竄，莫可緝獲。盜粟者百餘人，皆里中貧民，州守亦莫如何。

大商遺幼子，才五歲，家既貧，往往自投叔所，數日不歸；送之歸，則啼不止。二商婦頗不加青眼。二商曰：「渠父不義，其子何罪？」因市蒸餅數枚，自送之。過數日，又避妻子，陰負斗粟於嫂，使養兒。如此以為常。又數年，大商賣其田宅，母得直足自給，二商乃不復至。後歲大饑，道殣相望，二商食指益繁，不能他顧。侄年十五，荏弱不能操業，使攜籃從兄貨胡餅。一夜夢兄至，顏色慘戚曰：「余惑於婦言，遂失手足之義。弟不念前嫌，增我汗羞。所賣故宅，今尚空閑，宜僦居之。屋後篷顛下，藏有窖金，發之可以小阜。」

使醜兒相從，長舌婦余甚恨之，勿顧也。」既醒，異之。以重直啗第主，始得就，果發得五百金。從此棄賤業，使兄弟設肆塵間。侄頗慧，記算無訛，又誠慤，凡出入一錙銖必告。二商益愛之。一日泣為母請粟，商妻欲勿與，二商念其孝，按月廩給之。數年家益富。大商婦病死，二商亦老，乃析侄家資割半與之。

異史氏曰：「聞大商一介不輕取與，亦狷潔自好者也。然婦言是聽，憤憤不置一詞，愬情骨肉，卒以吝死。嗚呼！亦何怪哉！二商以貧始，以素封終。為人何所長？但不甚遵闈教耳。嗚呼！一行不同，而人品遂異。」

七、六、沂水秀才

沂水某秀才，課業山中。夜有二美人入，含笑不言，各以長袖拂榻，相將坐，衣軟無聲。少間一美人起，以白綾巾展幾上，上有草書三四行，亦未嘗審其何詞。一美人置白金一錠，可三四兩許，秀才掇內袖中。美人取巾，握手笑出，曰：「俗不可耐！」秀才捫金則烏有矣。麗人在坐，投以芳澤，置不顧，而金是取，是乞兒相也，尚可耐哉！狐子可兒，雅態可想。

友人言此，並思不可耐事，附志之：對酸俗客。市井人作文語。富貴態狀。秀才裝名士。旁觀諂態。信口謊言不倦。揖

坐苦讓上下。歪詩文強人觀聽。財奴哭窮。醉人歪纏。作滿洲調。體氣若逼人語。市井惡謔。任憨兒登筵抓肴果。假人餘威裝模樣。歪科甲談詩文。語次頻稱貴戚。

七、七、梅女

封雲亭，太行人。偶至郡，晝臥寓屋。時年少喪偶，岑寂之下，頗有所思。凝視間，見牆上有女子影依稀如畫，念必意想所致，而久之不動，亦不滅，異之。起視轉真；再近之，儼然少女，容蹙舌伸，索環秀領，驚顧未已，冉冉欲下。知為縊鬼，然以白晝壯膽，不大畏怯。語曰：「娘子如有奇冤，小生可以極力。」影居然下，曰：「萍水之人，何敢遽以重務

浼君子。但泉下槁骸，舌不得縮，索不得除，求斷屋梁而焚之，恩同山嶽矣。」諾之，遂滅。呼主人來，問所見狀，主人言：「此十年前梅氏故宅，夜有小偷入室，為梅所執，送詣典史。典史受盜錢五百，誣其女與通，將拘審驗，女聞自經。後梅夫妻相繼卒，宅歸於餘。客往往見怪異，而無術可以靖之。」封以鬼言告主人。計毀舍易楹，費不資，故難之，封乃協力助作。

既就而復居之。梅女夜至，展謝已，喜氣充溢，姿態嫣然。封愛悅之，欲與為歡。瞞然而慚曰：「陰慘之氣，非但不為君利，若此之為，則生前之垢，西江不可潘矣。會合有時，今日尚未。」問：「何時？」但笑不言。封問：「飲乎？」答

曰：「不飲。」封曰：「坐對佳人，悶眼相看，亦復何味？」女曰：「妾生平戲技，惟諳打馬。但兩人寥落，夜深又苦無局。今長夜莫遣，聊與君為交線之戲。」封從之，促膝戟指，翻變良久，封迷亂不知所從，女輒口道而頤指之，愈出愈幻，不窮於術。封笑曰：「此閨房之絕技。」女曰：「此妾自悟，但有雙線，即可成文，人自不之察耳。」更闌頗怠，強使就寢，曰：「我陰人不寐，請自休。妾少解按摩之術，願盡技能，以侑清夢。」封從其請。女豐掌為之輕按，自頂及踵皆遍；手所經，骨若醉。既而握指細播，如以團絮相觸狀，體暢舒不可言；播至腰，口目皆慵；至股，則沉沉睡去矣。

及醒，日已向午，覺骨節輕和，殊於往日。心益愛慕，繞屋而呼之，並無響應。日夕女始至，封曰：「卿居何所，使我呼欲遍？」曰：「鬼無所，要在地下。」問：「地下有隙可容身乎？」曰：「鬼不見地，猶魚不見水也。」封握腕曰：「使卿而活，當破產購致之。」女笑曰：「無須破產。」戲至半夜，封苦逼之。女曰：「君勿纏我。有浙娼愛卿者，新寓北鄰，頗極風致。明夕招與俱來，聊以自代，若何？」封允之。次夕，果與一少婦同至，年近三十已來，眉目流轉，隱含蕩意。三人狎坐，打馬為戲。局終，女起曰：「嘉會方殷，我且去。」封欲挽之，飄然已逝。兩人登榻，於飛甚樂。詰其家世，則含糊不以盡道，但曰：「郎如愛妾，當以指彈北壁，微呼曰：『壺

盧子』，即至。三呼不應，可知不暇，勿更招也。」天曉，入北壁隙中而去。次日女來，封問愛卿，女曰：「被高公子招去侑酒，以故不得來。」因而剪燭共話。女每欲有所言，吻已啟而輒止；固詰之，終不肯言，歛噓而已。封強與作戲，四漏始去。自此二女頻來，笑聲徹宵旦，因而城社悉聞。

典史某，亦浙之世族，嫡室以私僕被黜。繼娶顧氏，深相愛好，期月天殂，心甚悼之。聞封有靈鬼，欲以問冥世之緣，遂跨馬造封。封初不肯承，某力求不已。封設筵與坐，諾為招鬼妓。日及曛，叩壁而呼，三聲未已，愛卿即入。舉頭見客，色變欲走；封以身橫阻之。某審視，大怒，投以巨碗，溘然而滅。封大驚，不解其故，方將致詰。俄暗室中一老嫗

出，大罵曰：「貪鄙賊！壞我家錢樹子！三十貫索要償也！」以杖擊某，中顛。某抱首而哀曰：「此顧氏，我妻也！少年而殞，方切哀痛，不圖為鬼不貞。於姥乎何與？」媪怒曰：「汝本浙江一無賴賊，買得條烏角帶，鼻骨倒豎矣！汝居官有何黑白？袖有三百錢便而翁也！神怒人怨，死期已迫。汝父母代哀冥司，願以愛媳入青樓，代汝償貪債，不知耶？」言已又擊，某宛轉哀鳴。方驚詫無從救解，旋見梅女自房中出，張口吐舌，顏色變異，近以長簪刺其耳。封驚極，以身障客。女憤不已，封勸曰：「某即有罪，倘死於寓所，則咎在小生。請少存投鼠之忌。」女乃曳媪曰：「暫假餘息，為我顧封郎也。」某張皇鼠竄而去。至署患腦痛，中夜遂斃。

次夜，女出笑曰：「痛快！惡氣出矣！」問：「何仇怨？」女曰：「曩已言之：受賄誣奸，銜恨已久。每欲浼君一為昭雪，自愧無纖毫之德，故將言而輒止。適聞紛拏，竊以伺聽，不意其仇人也。」封訝曰：「此即誣卿者耶？」曰：「彼典史於此十有八年，妾冤歿十六寒暑矣。」問：「嫗為誰？」曰：「老娼也。」又問愛卿，曰：「臥病耳。」因蹶然曰：「妾昔謂會合有期，今真不遠矣。君嘗願破家相贖，猶記否？」封曰：「今日猶此心也。」女曰：「實告君：妾歿日，已投生延安展孝廉家。徒以大怨未伸，故遷延於是。請以新帛作鬼囊，俾妾得附君以往，就展氏求婚，計必允諧。」封慮勢分懸殊，恐將不遂。女曰：「但去無憂。」封從其言。女囑曰：「途中慎勿

相喚；待合巹之夕，以囊掛新人首，急呼曰：『勿忘勿忘！』封諾之。才啟囊，女跳身已入。

攜至延安，訪之，果有展孝廉，生一女，貌極端好，但病癡，又常以舌出唇外，類犬喘曰。年十六歲無問名者，父母憂念成瘳。封到門投刺，具通族閥。既退，托媒。展喜，贅封於家。女癡絕，不知為禮，使兩婢扶曳歸所。群婢既去，女解衿露乳，對封憨笑。封覆囊呼之，女停眸審顧，似有疑思。封笑曰：「卿不識小生耶？」舉之囊而示之。女乃悟，急掩衿，喜共燕笑。詰旦，封入謁嶽。展慰之曰：「癡女無知，既承青眷，君倘有意，家中慧婢不乏，僕不靳相贈。」封力辨其不癡，展疑之。無何女至，舉止皆佳，因大驚異。女但掩

口微笑。展細詰之，女進退而慚於言，封為略述梗概。展大喜，愛悅逾於平時。使子大成與婿同學，供給豐備。年餘，大成漸厭薄之，因而郎舅不相能，廝僕亦刻疵其短。展惑於浸潤，禮稍懈。女覺之，謂封曰：「岳家不可久居；凡久居者，盡鬪茸也。及今未大決裂，宜速歸！」封然之，告展。展欲留女，女不可。父兄盡怒，不給輿馬，女自出妝資貫馬歸。後展招令歸寧，女固辭不往。後封舉孝廉，始通慶好。

異史氏曰：「官卑者愈貪，其常情然乎？三百誣奸，夜氣之牝亡盡矣。奪嘉偶，入青樓，卒用暴死。籲！可畏哉！」康熙甲子，貝丘典史最貪詐，民咸怨之。忽其妻被狡者誘與偕亡。或代懸招狀云：「某官因自己不慎，走失夫人一名。身

無餘物，止有紅綾七尺，包裹元寶一枚，翹邊細紋，並無闕壞。」亦風流之小報。

七、八、郭秀才

東粵士人郭某，暮自友人歸，入山迷路，竄榛莽中。約更許，聞山頭笑語，急趨之，見十餘人藉地飲。望見郭，哄然曰：「坐中正欠一客，大佳，大佳！」郭既坐，見諸客半儒巾，便請指迷。一人笑曰：「君真酸腐！舍此明月不賞，何求道路？」即飛一觥來。郭飲之，芳香射鼻，一引遂盡。又一人持壺傾注。郭故善飲，又復奔馳吻燥，一舉十觴。眾人大贊曰：「豪哉！真吾友也！」郭放達喜謔，能學禽語，無不酷肖。

離坐起洩，竊作燕子鳴。眾疑曰：「半夜何得此耶？」又效杜鵑，眾益疑。郭坐，但笑不言。方紛議問，郭回首為鸚鵡鳴曰：「郭秀才醉矣，送他歸也！」眾驚聽，寂不復聞；少頃又作之。既而悟其為郭，始大笑。皆撮口從學，無一能者。一人曰：「或惜青娘子未至。」又一人曰：「中秋還集於此，郭先生不可不來。」郭敬諾。一人起曰：「客有絕技，我等亦獻踏肩之戲，若何？」於是嘩然並起。前一人挺身矗立；即有一人飛登肩上，亦矗立；累至四人，高不可登；繼至者，攀肩踏臂如緣梯狀。十餘人頃刻都盡，望之可接霄漢。方驚顧間，挺然倒地，化為修道一線。郭駭立良久，遵道得歸。翼日腹大痛，溺綠色似銅青，著物能染，亦無潮氣，三日乃已。

往驗故處，則肴骨狼藉，四圍叢莽，並無道路。至中秋郭欲赴約，朋友諫止之。設斗膽再往一會青娘子，必更有異，惜乎其見之搖也！

### 七、九、死僧

某道士雲游日暮，沒止野寺。見僧房扃閉，遂藉蒲團，趺坐廊下。夜既靜，聞啟闔聲，旋見一僧來，渾身血污，目中若不見道士，道士亦若不見之。僧直入殿登佛座，抱佛頭而笑，久之乃去。及明視室，門扃如故。怪之，入村道所見。眾如寺發局驗之，則僧殺死在地，室中席篋掀騰，知為盜劫。疑鬼

笑有因；共驗佛首，見腦後有微痕，勦  
□ □ 誑厝 □ □  
啣稔 \* 遂用以葬之。

異史氏曰：「諺有之：『財連於命』。不虛哉！夫人儉嗇封殖，以予所不知誰何之人，亦已癡矣；況僧並不知誰何之人而無之哉！生不肯享，死猶顧而笑之，財奴之可嘆如此。佛云：『一文將不去，誰有孽隨身。』其僧之謂夫！」

七、十、阿英

甘玉字璧人，廬陵人，父母早喪。遺弟珏字雙璧，始五歲從兄鞠養。玉性友愛，撫弟如子。後珏漸長，豐姿秀出，又惠

能文。玉益愛之，每日：「吾弟表表，不可以無良匹。」然簡拔過刻，姻卒不就。

適讀書匡山僧寺，夜初就枕，聞窗外有女子聲。窺之，見三四女郎席地坐，數婢陳肴酒，皆殊色也。一女曰：「秦娘子，阿英何不來？」下坐者曰：「昨自函谷來，被惡人傷右臂，不能同游，方用恨恨。」一女曰：「前宵一夢大惡，今猶汗悸。」下坐者搖手曰：「莫道，莫道！今宵姊妹歡會，言之嚇人不快。」女笑曰：「婢子何膽怯爾爾！便有虎狼銜去耶？若要勿言，須歌一曲，為娘行侑酒。」女低吟曰：「閑階桃花取次開，昨日踏青小約未應乖。付囑東鄰女伴少待莫相催，著得鳳頭鞋子即當來。」吟罷，一座無不嘆賞。

談笑間，忽一偉丈夫岸然自外人，鵠睛熒熒，其貌獐醜。眾啼曰：「妖至矣！」倉卒哄然，殆如鳥散。惟歌者婀娜不前，被執哀啼，強與支撐。丈夫吼怒，齧手斷指，就便嚼食。女郎踣地若死。玉憐惻不可復忍，乃急袖劍拔關出，揮之中股；股落，負痛逃去。扶女入室，面如塵土，血淋衿袖，驗其手則右拇斷矣，裂帛代裹之。女始呻曰：「拯命之德，將何以報？」玉自初窺時，心已隱為弟謀，因告以意。女曰：「狼疾之人，不能操箕帚矣。當別為賢仲圖之。」詰其姓氏，答言：「秦氏。」玉乃展衾，俾暫休養，自乃襍被他所。曉而視之，則床已空，意其自歸。而訪察近村，殊少此姓；廣托戚朋，並無確耗。歸與弟言，悔恨若失。

玳一日偶游塗野，遇一二八女郎，姿致娟娟，顧之微笑，似將有言。因以秋波四顧而後問曰：「君甘家二郎否？」曰：「然。」曰：「君家尊曾與妾有婚姻之約，何今日欲背前盟，另訂秦家？」玳云：「小生幼孤，夙好都不會聞，請言族閥，歸當問兄。」女曰：「無須細道，但得一言，妾當自至。」玳以未稟兄命為辭，女笑曰：「騃郎君！遂如此怕哥子耶？妾陸氏，居東山望村。三日內當候玉音。」乃別而去。玳歸，述諸兄嫂。兄曰：「此大謬語！父歿時，我二十餘歲，倘有是說，那得不聞？」又以其獨行曠野，遂與男兒交語，愈益鄙之。因問其貌，玳紅徹面頸不出一言。嫂笑曰：「想是佳人。」玉

曰：「童子何辨妍媸？縱美，必不及秦；待秦氏不諧，圖之未晚。」玃默而退。

逾數日，玉在途，見一女子零涕前行，垂鞭按轡而微睨之，人世殆無其匹。使僕詰焉，答曰：「我舊許甘家二郎；因家貧遠徙，遂絕耗問。近方歸，復聞郎家二三其德，背棄前盟。往問伯伯甘璧人，焉置妾也？」玉驚喜曰「甘璧人，即我也。先人曩約，實所不知。去家不遠，請即歸謀。」乃下騎授轡，步御以歸。女自言：「小字阿英，家無昆季，惟外姊秦氏同居。」始悟麗者即其人也。玉欲告諸其家，女固止之。竊喜弟得佳婦，然恐其佻達招議。久之，女殊矜莊，又嬌婉善言。母事嫂，嫂亦雅愛慕之。

值中秋，夫妻方狎宴，嫂招之，玨意悵惘。女遣招者先行，約以繼至；而端坐笑言良久，殊無去志。玨恐嫂待久，故連促之。女但笑，卒不復去。質旦，晨妝甫竟，嫂自來撫問：「夜來相對，何爾怏怏？」女微哂之。玨覺有異，質對參差，嫂大駭：「苟非妖物，何得有分身術？」玉亦懼，隔簾而告之曰：「家世積德，曾無怨仇。如其妖也，請速行，幸勿殺吾弟！」女靦然曰：「妾本非人，只以阿翁夙盟，故秦家姊以此勸駕。自分不能育男女，嘗欲辭去，所以戀戀者，為兄嫂待我不薄耳。今既見疑，請從此訣。」轉眼化為鸚鵡，翩然逝矣。

初，甘翁在時，蓄一鸚鵡甚慧，嘗自投餌。時珏四五歲，問：「飼鳥何為？」父戲曰：「將以為汝婦。」間鸚鵡乏食，則呼珏云：「不將餌去，餓煞媳婦矣！」家人亦皆以此為戲。後斷鎖亡去。始悟舊約云即此也。然珏明知非人，而思之不置；嫂懸情猶切，旦夕啜泣。玉悔之而無如何。

後二年為弟聘姜氏女，意終不自得。有表兄為粵司李，玉往省之，久不歸。適上寇為亂，近村裏落，半為丘墟。珏大懼，率家人避山谷。山上男女頗雜，都不知其誰何。忽聞女子小語，絕類英，嫂促珏近驗之，果英。珏喜極，捉臂不釋，女乃謂同行者曰：「姊且去，我望嫂嫂來。」既至，嫂望見悲哽。女慰勸再三，又謂：「此非樂土。」因勸令歸。眾懼

寇至，女固言：「不妨。」乃相將俱歸。女撮土攔戶，囑安居勿出，坐數語，反身欲去。嫂急握其腕，又令兩婢捉左右足，女不得已，止焉。然不甚歸私室；珣訂之三四，始為之一往。嫂每謂新婦不能當叔意。女遂早起為姜理妝，梳竟，細勻鉛黃，人視之，艷增數倍；如此三日，居然麗人。嫂奇之，因言：「我又無子。欲購一妾，姑未遑暇。不知婢輩可塗澤否？」女曰：「無人不可轉移，但質美者易為力耳。」遂遍相諸婢，惟一黑醜者，有宜男相。乃喚與洗濯，已而以濃粉雜藥末塗之，如是三日，面色漸黃；四七日，脂澤沁入肌理，居然可觀。日惟閉門作笑，並不計及兵火。

一夜，噪聲四起，舉家不知所謀。俄聞門外人馬鳴動，紛紛俱去。既明，始知村中焚掠殆盡；盜縱群隊窮搜，凡伏匿岸穴者悉被殺擄。遂益德女，目之以神。女忽謂嫂曰：「妾此來，徒以嫂義難忘，聊分離亂之憂。阿伯行至，妾在此，如諺所云，非李非桃，可笑人也。我姑去，當乘間一相望耳。」嫂問：「行人無恙乎？」曰：「近中有大難。此無與他人事，秦家姊受恩奢，意必報之，固當無妨。」嫂挽之過宿，未明已去。玉自東粵歸，聞亂，兼程進。途遇寇，主僕棄馬，各以金束腰間，潛身叢棘中。一秦吉了飛集棘上，展翼覆之。視其足，缺一指，心異之。俄而群盜四合，繞莽殆遍，似尋

之。二人氣不敢息。盜既散，鳥始翔去。既歸，各道所見。始知秦吉了即所救麗者也。

後值玉他出不歸，英必暮至；計玉將歸而早出。玨或會於嫂所，間邀之，則諾而不赴。一夕玉他往，玨意英必至；潛伏候之。未幾英果來，暴起，要遮而歸於室。女曰：「妾與君情緣已盡，強合之，恐為造物所忌。少留有餘，時作一面之會，如何？」玨不聽，卒與狎。天明詣嫂，嫂怪之。女笑云：「中途為強寇所劫，勞嫂懸望矣。」數語趨出。

居無何，有巨狸銜鸚鵡經寢門過。嫂駭絕，固疑是英。時方沐，輟洗急號，群起噪擊，始得之。左翼沾血，奄存餘息。把置膝頭，撫摩良久，始漸醒。自以喙理其翼。少選，飛繞

中室，呼曰：「嫂嫂，別矣！吾怨玃也！」振翼遂去，不復來。

七、十一、橘樹

陝西劉公為興化令，有道士來獻盆樹，視之，則小橘細裁如指，擯弗受。劉有幼女，時六七歲，適值初度。道士云：「此不足供大人清玩，聊祝女公子福壽耳。」乃受之。女一見，不勝愛悅，置諸閨闥，朝夕護之惟恐傷。劉任滿，橘盈把矣，是年初結實。簡裝將行，以橘重贄，謀棄之。女抱樹嬌啼。家人給之曰：「暫去，且將復來。」女信之，涕始止。又恐為大力者負之而去，立視家人移栽墀下，乃行。

女歸，受莊氏聘。莊丙戌登進士，釋褐為興化令，夫人大喜。竊意十餘年，橘不復存；及至。則橘已十圍，實累累以千計。問之故役，皆云：「劉公去後，橘甚茂而不實，此其初結也。」更奇之。莊任三年，繁實不懈；第四年，憔悴無少華。夫人曰：「君任此不久矣。」至秋，果解任。

異史氏曰：「橘其有夙緣於女與？何遇之巧也。其實也似感恩，其不華也似傷離。物猶如此，而況於人乎？」

七、十二、赤字

順治乙未冬夜，天上赤字如火。其文云：「白苕代靖否復議朝治馳。」

七、十三、牛成章

牛成章，江西之布商也。娶鄭氏，生子、女各一。牛三十三歲病死。子名忠。時方十二；女八九歲而已。母不能貞，貨產入囊，改醮而去，遺兩孤難以存濟。有牛從嫂，年已六秩，貧寡無歸，送與居處。數年嫗死，家益替。而忠漸長，思繼父業而苦無資。妹適毛姓，毛富賈也，女哀婿假數十金付兄。兄從人適金陵，途中遇寇，資斧盡喪，飄蕩不能歸。偶趨典肆，見主肆者絕類其父，出而潛察之，姓字皆符，駭異不諭其故。惟日流連其旁，以窺意旨，而其人亦略不顧問。如此三日，覘其言笑舉止，真父無訛。即又不敢拜識，乃自陳於群小，求以同鄉之故，進身為傭。立券已，主人視其里居、

姓氏，似有所動，問所從來。忠泣訴父名，主人悵然若失，久之，問：「而母無恙乎？」忠又不敢謂父死，婉應曰：「我父六年前經商不返，母醮而去。幸有伯母撫育，不然，葬溝瀆久矣。」主人慘然曰：「我即是汝父也。」於是握手悲哀。又導入參其後母。後母姬，年三十餘，無出，得忠喜，設宴寢門。

牛終欷歔不樂，即欲一歸故里。妻慮肆中乏人，故止之。牛乃率子紀理肆務。居之三月，乃以諸籍委子，取裝西歸。既別，忠實以父死告母，姬乃大驚，言：「彼負販於此，曩所與交好者留作當商，娶我已六年矣，何言死耶？」忠又細述之。相與疑念，不諭其由。逾一晝夜而牛已返，攜一婦人頭

如蓬葆，忠視之則其所生母也。牛摘耳頓罵：「何棄吾兒！」婦懼伏不敢少動。牛以口齧其項，婦呼忠曰：「兒救吾！兒救吾！」忠大不忍，橫身蔽鬲其間。牛猶忿怒，婦已不見。眾大驚，相嘩以鬼。旋視牛，顏色慘變，委衣於地，化為黑氣，亦尋滅矣。母子駭嘆，舉衣冠而瘞之。忠席父業，富有萬金。後歸家問之，則嫁母於是日死，一家皆見牛成章云。

七、十四、青娥

霍桓字匡九，晉人也。父官縣尉，早卒。遺生最幼，聰惠絕人，十一歲以神童入泮。而母過於愛惜，禁不令出庭戶，年十三尚不能辨叔伯甥舅焉。

同里有武評事者，好道，入山不返。有女青娥，年十四，美異常倫。幼時竊讀父書，慕何仙姑之為人，父既隱，立志不嫁，母無奈之。一日，生於門外瞥見之。童子雖無知，只覺愛之極，而不能言；直告母，使委禽焉。母知其不可故難之，生鬱鬱不自得。母恐拂兒意，遂托往來者致意武，果不諧。

生行思坐籌，無以為計。會有一道士在門，手握小鏡長裁尺許，生借閱一過，問：「將何用？」答云：「此劊藥之具，物雖微，堅石可入。」生未深信。道士即以斫牆上石，應手落如腐。生大異之，把玩不釋於手，道士笑曰：「公子愛之，即以奉贈。」生大喜，酬之以錢，不受而去。持歸，歷試磚石，略無隔閡。頓念穴牆則美人可見，而不知其非法也。更定

逾垣而出，直至武第，凡穴兩重垣，始達中庭。見小廂中尚有燈火，伏窺之，則青娥卸晚裝矣。少頃燭滅寂無聲，穿墉入，女已熟眠。輕解雙履，悄然登榻，又恐女郎驚覺，必遭呵逐，遂潛伏繡褶之側，略聞香息，心願竊慰。而半夜經營，疲殆頗甚，少一合眸，不覺睡去。女醒，聞鼻氣休休，開目見穴隙亮入。大駭，暗中拔關輕出，敲窗喚家人婦，共爇火操杖以往。則見一總角書生酣眠繡榻，細審識為霍生。推之始覺，遽起，目灼灼如流星，似亦不大畏懼，但靦然不作一語。眾指為賊，恐呵之。始出涕曰：「我非賊，實以愛娘子故，願以近芳澤耳。」眾又疑穴數重垣，非童子所能者。生出鏡以言異，共試之，駭絕，訝為神授。將共告諸夫人，女

俯首沉思，意似不以為可。眾窺知女意，因曰：「此子聲名門第，殊不辱玷。不如縱之使去，俾復求媒焉。」詰旦，假盜以告夫人，如何也？女不答。眾乃促生行。生索鑿，共笑曰：「騃兒童！猶不忘兇器耶？」生覷枕邊，有鳳釵一股。陰納袖中。已為婢子所窺，急白之，女不言亦不怒。一媪拍頸曰：「莫道他騃，若意念乖絕也。」乃曳之，仍自竇中出。

既歸，不敢實告母，但囑母復媒致之。母不忍顯拒，惟遍托媒氏，急為別覓良姻。青娥知之，中情皇急，陰使腹心者風示媪。媪悅，托媒往。會小婢漏洩前事，武夫人辱之，不勝悲憤。媒至，益觸其怒，以杖畫地，罵生並及其母。媒懼竄歸，具述其狀。生母亦怒曰：「不肖兒所為，我都悞悞。何

遂以無禮相加！當交股時，何不將蕩兒淫女一並殺卻？」由是見其親屬，輒便披訴。女聞愧欲死，武夫人大悔，而不能禁之使勿言也。女陰使人婉致生母，且矢之以不他，其詞悲切。母感之乃不復言，而論親之媒，亦遂輟矣。

會秦中歐公宰是邑，見生文，深器之，時召入內署，極意優寵。一日問生：「婚乎？」答言：「未。」細詰之，對曰：「夙與故武評事女小有盟約，後以微嫌，遂致中寢。」問：「猶願之否？」生靦然不言。公笑曰：「我當為子成之。」即委縣尉教諭，納幣於武。夫人喜，婚乃定，逾歲娶女歸。女入門，乃以鏡擲地曰：「此寇盜物，可將去！」生笑曰：「勿忘媒約。」珍佩之，恆不去身。女為人溫良寡默，一日三朝其母，

餘惟閉門寂坐，不甚留心家務。母或以吊慶他往，則事事經紀，罔不井井。年餘生一子孟仙，一切委之乳保，似亦不甚顧惜。又四五年，忽謂生曰：「歡愛之緣，於茲八載。今離長會短，可將奈何！」生驚問之，即已默默，盛妝拜母，返身入室。追而詰之，則仰眠榻上而氣絕矣。母子痛悼，購良材而葬之。母已衰邁，每每抱子思母，如摧肺肝，由是邁病，遂憊不起。逆害飲食，但思魚羹，而近地則無，百里外始可購致。時廝騎皆被差遣，生性純孝，急不可待，懷資獨往，晝夜無停趾。返至山中，日已沉冥，兩足跋騎，步不能咫。後一叟至，問曰：「足得毋泡乎？」生唯唯。叟便曳坐路隅，敲石取火，以紙裹藥末熏生兩足訖。試使行，不惟痛止，兼

益矯健。感極申謝，叟問：「何事汲汲？」答以母病，因歷道所由。叟問：「何不另娶？」答云：「未得佳者。」叟遙指山村曰：「此處有一佳人，倘能從我去，僕當為君作伐。」生辭以母病待魚，姑不遑暇。叟乃拱手，約以異日入村但問老王，乃別而去。生歸烹魚獻母，母略進，數日尋瘳。乃命僕馬往尋叟，至舊處迷村所在。周章逾時，夕暎漸墜，山谷甚雜，又不可以極望。乃與僕上山頭，以瞻里落；而山徑崎嶇，苦不可復騎，跋履而上，昧色籠煙矣。蹠躩四望，更無村落。方將下山，而歸路已迷，心中燥火如燒。荒竄間，冥墮絕壁，幸數尺下有一線荒臺，墜臥其上，闊僅容身，下視黑不見底。懼極不敢少動。又幸崖邊皆生小樹，約體如欄。

移時，見足傍有小洞口，心竊喜，以背著石，螻行而入。意稍穩，冀天明可以呼救。少頃，深處有光如星點。漸近之，約三四里許，忽睹廊舍，並無釭燭，而光明若晝。一麗人自房中出，視之則青娥也。見生，驚曰：「郎何能來？」生不暇陳，抱祛嗚惻。女勸止之，問母及兒，生悉述苦況，女亦慘然。生曰：「卿死年餘，此得無冥間耶？」女曰：「非也，此乃仙府。曩時非死，所瘞一竹杖耳。郎今來，仙緣有分也。」因導令朝父，則一修髯丈夫坐堂上，生趨拜。女曰：「霍郎來。」翁驚起，握手略道平素。曰：「婿來大好，分當留此。」生辭以母望，不能久留。翁曰：「我亦知之。但遲三數日，即亦何傷。」乃餌以肴酒，即令婢設榻於西堂，施錦褥焉。生

既退，約女同榻寢，女卻之曰：「此何處，可容狎褻？」生捉臂不舍。窗外婢子笑聲嗤然，女益慚。方爭拒間，翁入叱曰：「俗骨污吾洞府！宜即去！」生素負氣，愧不能忍，作色曰：「兒女之情，人所不免，長者何當伺我？無難即去，但令女須便將去。」翁無辭，招女隨之，啟後戶送之，賺生離門，父子闔扉去。回首峭壁鑿巖，無少隙縫，只影瑩瑩，罔所歸適。視天上斜月高揭，星斗已稀。悵悵良久，悲已而恨，面壁叫號，迄無應者。憤極，腰中出鑿，鑿石攻進，瞬息洞入三四尺許。隱隱聞人語曰：「孽障哉！生奮力鑿益急。忽洞底豁開二扉，推娥出曰：「可去，可去！」壁即復合。女怨曰：「既愛我為婦，豈有待丈人如此者？是何處老道士授汝

兇器，將人纏混欲死？」生得女，意願已慰，不復置辯，但憂路險難歸。女折兩枝，各跨其一，即化為馬，行且駛，俄頃至家。時先生已七日矣。初，生之與僕相失也，覓之不得，歸而告母。母遣人窮搜山谷，並無蹤緒。正憂惶所，聞子自歸，歡喜承迎。舉首見婦，幾駭絕。生略述之，母益忻慰。女以形跡詭異，慮駭物聽，求即播遷，母從之。異郡有別業，刻期徙往，人莫之知。

偕居十八年，生一女，適同邑李氏。後母壽終。女謂生日：「吾家茅田中有雉抱八卵，其地可葬，汝父子扶櫬歸窆。兒已成立，宜即留守廬墓，無庸復來。」生從其言，葬後自返。月餘

孟仙往省之，而父母俱杳。問之老奴，則云：「赴葬未還。」心知其異，浩嘆而已。

孟仙文名甚噪，而困於場屋，四旬不售。後以拔貢入北闈，遇同號生，年可十七八，神採俊逸，愛之。視其卷，注順天廩生霍仲仙。瞪目大駭，因自道姓名。仲仙亦異之，便問鄉貫，孟悉告之。仲仙喜曰：「弟赴都時，父囑文場中如逢山右霍姓者，吾族也，宜與款接，今果然矣。顧何以名字相同如此？」孟仙因詰高、曾，並嚴、慈姓諱，已而驚曰：「是我父母也！」仲仙疑年齒之不類。孟仙曰：「我父母皆仙人，何可以貌信其年歲乎？」因述往跡，仲仙始信。

場後不暇休息，命駕同歸。才到門，家人迎告，是夜失太翁及夫人所在。兩人大驚。仲仙入而詢諸婦，婦言：「昨夕尚共杯酒，母謂：『汝夫婦少不更事。明日大哥來，吾無慮矣。』」早旦入室，則闔無人類。」兄弟聞之，頓足悲哀。仲仙猶欲追覓，孟仙以為無益，乃止。是科仲領鄉薦。以晉中祖墓所在，從兄而歸。猶冀父母尚在人間，隨在探訪，而終無蹤跡矣。異史氏曰：「鈎穴眠榻，其意則癡；鑿壁罵翁，其行則狂；仙人之撮合之者，惟欲以長生報其孝耳。然既混跡人間，狎生子女，則居而終焉，亦何不可？乃三十年而屢棄其子，抑獨何哉？異已！」

七、十五、鏡聽

益都鄭氏兄弟，皆文學士。大鄭早知名，父母嘗過愛之，又因子並及其婦；二鄭落拓，不甚為父母所歡，遂惡次婦，至不齒禮。冷暖相形，頗存芥蒂。次婦每謂二鄭：「等男子耳，何遂不能為妻子爭氣？」遂擯弗與同宿。於是二鄭感憤，勤心銳思，亦遂知名。父母稍稍優顧之，然終殺於兄。

次婦望夫甚切，是歲大比，竊於除夜以鏡聽卜。有二人初起，相推為戲，云：「汝也涼涼去！」婦歸，兇吉不可解，亦置之。闔後，兄弟皆歸。時暑氣猶盛，兩婦在廚下炊飯餉耕，其熱正苦。忽有報騎登門，報大鄭捷，母入廚喚大婦曰：「大男

中式矣！汝可涼涼去。」次婦忿惻，泣且炊。俄又有報二鄭捷者，次婦力擲餅杖而起，曰：「儂也涼涼去！」此時中情所激，不覺出之於口；既而思之，始知鏡聽之驗也。

異史氏曰：「貧窮則父母不子，有以也哉！庭幃之中，固非憤激之地；然二鄭婦激發男兒，亦與怨望無賴者殊不同科。投杖而起，真千古之快事也！」

七、十六、牛廣

陳華封，蒙山人。以盛暑煩熱，枕藉野樹下。忽一人奔波而來，首著圍領，疾趨樹陰，掬石而座，揮扇不停，汗下如流。沈。陳起座，笑曰：「若除圍領，不扇可涼。」客曰：「脫之

易，再著難也。」就與傾談，頗極蘊藉。既而曰：「此時無他想，但得冰浸良醞，一道冷芳，度下十二重樓，暑氣可消一半。」陳笑曰：「此願易遂，僕當為君償之。」因握手曰：「寒舍伊邇，請即迂步。」客笑而從之。

至家，出藏酒於石洞，其涼震齒。客大悅，一舉十觥。日已就暮，大忽雨，於是張燈於室，客乃解除領巾，相與磅礴。語次，見客腦後時漏燈光，疑之。無何，客酩酊眠榻上。陳移燈竊窺之，見耳後有巨穴如盞大，數道厚膜間鬲如櫺；櫺外軟革垂蔽，中似空空。駭極，潛抽髻簪，撥膜覘之，有一物狀類小牛，隨手飛出，破窗而去。益駭不敢復撥。方欲轉步，而客已醒。驚曰：「子窺見吾隱矣！放牛廣出，將為奈何？」

陳拜詰其故，客曰：「今已若此，尚復何諱。實相告：我六畜瘟神耳。適所縱者牛廣，恐百里內牛無種矣。」陳故以養牛為業，聞之大恐，拜求術解。客曰：「余且不免於罪，其何術之能解？惟苦參散最效，其廣傳此方，勿存私念可也。」言已謝別出門，又掬土堆壁龕中，曰：「每用一合亦效。」拱不復見。居無何，牛果病，瘟疫大作。陳欲專利，秘其方不肯傳，惟傳其弟。弟試之神驗。而陳自銜啖牛，殊罔所效。有牛兩百蹄陵，倒斃殆盡；遺老牡牛四五頭，亦逡巡就死。中心懊惱，無所用力。忽憶龕中掬土，念未必效，姑妄投之，經夜牛乃盡起。始悟藥之不靈，乃神罰其私也。後數年，牝牛繁育，漸復其故。

七、十七、金姑夫

會稽有梅姑祠。神故馬姓，族居東莞，未嫁而夫早死，遂矢志不醮，三旬而卒。族人祠之，謂之梅姑。

丙申，上虞金生赴試經此，入廟徘徊，頗涉冥想。至夜夢青衣來，傳梅姑命招之。從去，入祠，梅姑立候簷下，笑曰：「蒙君寵顧，實切依戀。不嫌陋拙，願以身為姬侍。」金唯唯。梅姑送之曰：「君且去。設座成，當相迓耳。」醒而惡之。是夜，居人夢梅姑曰：「上虞金生今為吾婿，宜塑其像。」詰村人語夢悉同。族長恐玷其貞，以故不從，未幾一家俱病。大懼，為肖像於左。既成，金生告妻子曰：「梅姑

迎我矣。」衣冠而死。妻痛恨，詣祠指女像穢罵；又升座批頰數四，乃去。今馬氏呼為金姑夫。

異史氏曰：「未嫁而守，不可謂不貞矣。為鬼數百年，而始易其操，抑何其無恥也？大抵貞魂烈魄，未必即依於土偶；其廟貌有靈，驚世而駭俗者，皆鬼狐憑之耳。」

### 七、十八、梓潼令

常進士大忠，太原人。候選在都。前一夜夢文昌投刺，拔簽得梓潼令，奇之。後丁艱歸，服闋候補，又夢如前。默思豈復任梓潼乎？已而果然。

七、十九、鬼津

李某晝臥，見一婦人自墻中出，蓬首如筐，發垂蔽面，至床前，始以手自分，露面出，肥黑絕醜。某大懼，欲奔。婦猝然登床，力抱其首，便與接唇，以舌度津，冷如冰塊，浸浸入喉。欲不咽而氣不得息，咽之稠粘塞喉。才一呼吸，而口中又滿，氣急復咽之。如此良久，氣閉不可復忍。聞門外有人行聲，婦始釋手去。由此腹脹喘滿，數十日不食。或教以參蘆湯探吐之，吐出物如卵清，病乃瘥。

七、二十、仙人島

王勉字黽齋，靈山人。有才思，屢冠文場，心氣頗高，善誚罵，多所凌折。偶遇一道士，視之曰：「子相極貴，然被『輕薄孽』折除幾盡矣。以子智慧，若反身修道，尚可登仙籍。」王嗤曰：「福澤誠不可知，然世上豈有仙人！」道士曰：「子何見之卑？無他求，即我便是仙耳。」王乃益笑其誣。

道士曰：「我何足異。能從我去，真仙數十，可立見之。」問：「在何處？」曰：「咫尺耳。」遂以杖夾股間，即以一頭授生，令如己狀。矚合眼，呵曰：「起！」覺杖粗如五斗囊，凌空翕飛，潛捫之，鱗甲齒齒焉。駭懼，不敢復動。移時，又呵

曰：「止！」即抽杖去，落巨宅中，重樓延閣，類帝王居。有臺高丈餘，臺上殿十一楹，弘麗無比。道士曳客上，即命童子設筵招賓。殿上列數十筵，鋪張炫目。道士易盛服以伺。少頃，諸客自空中來，所騎或龍、或虎、或鸞鳳，不一類。又各攜樂器。有女子，有丈夫，有赤其兩足。中獨一麗者跨彩鳳，宮樣妝束，有侍兒代抱樂具，長五尺以來，非琴非瑟，不知其名。酒既行，珍肴雜錯，入口甘芳，並異常饜。王默然寂坐，惟目注麗者，然心愛其人，而又欲聞其樂，竊恐其終不一彈。酒闌，一叟倡言曰：「蒙崔真人雅召，今日可云盛會，自宜盡歡。請以器之同者，共隊為曲。」於是各合配旅。絲竹之聲，響徹雲漢。獨有跨鳳者，樂伎無偶。群聲既

歇，侍兒始啟繡囊橫陳幾上。女乃舒玉腕，如掐箏狀，其亮數倍於琴，烈足開胸，柔可蕩魄。彈半炊許，合殿寂然，無有咳者。既闕，鏗爾一聲，如擊清磬。並贊曰：「雲和夫人絕技哉！」大眾皆起告別，鶴唳龍吟，一時並散。

道士設寶榻錦衾，備生寢處。王初睹麗人心情已動，聞樂之後涉想猶勞；念己才調，自合芥拾青紫，富貴後何求弗得；頃刻百緒，亂如蓬麻。道士似已知之，謂曰：「子前身與我同學，後緣意念不堅，遂墜塵網。僕不自他於君，實欲拔出惡濁；不料迷晦已深，夢夢不可提悟。今當送君行。未必無復見之期，然作天仙須再劫矣。」遂指階下長石，令閉目坐，堅囑無視。已，乃以鞭驅石。石飛起，風聲灌耳，不知所行。

幾許。忽念下方景界未審何似，隱將兩眸微開一線，則見大海茫茫，渾無邊際。大懼，即復合，而身已隨石俱墮，砰然一響，汨沒若鷗。

幸夙近海，略諸泓浮。聞人鼓掌曰：「美哉跌乎！」危殆方急，一女子援登舟上，且曰：「吉利，吉利，秀才『中濕』矣！」視之，年可十六七，顏色艷麗。王出水寒慄，求火燎之。女子言：「從我至家，當為處置。苟適意，勿相忘。」王曰：「是何言哉！我中原才子，偶遭狼狽，過此圖以身報，何但不忘！」女子以棹催艇，疾如風雨，俄已近岸。於艙中攜所採蓮花一握，導與俱去。

半里許入村，見朱戶南開，進歷數重門，女子先馳入。少間，一丈夫出，是四十許人，揖王升階，命侍者取冠袍襪履，為王更衣。既，詢邦族。王曰：「某非相欺，才名略可聽聞。崔真人切切眷戀，招升天闕。自分功名反掌，以故不願棲隱。」丈夫起敬曰：「此名仙人島，遠絕人世。文若姓桓，世居幽僻，何幸得近名流。」因而殷勤置酒。又從容而言曰：「僕有二女，長者芳雲年十六矣，只今未遭良匹，欲以奉侍高人，如何？」王意必採蓮人，離席稱謝。桓命於鄰黨中，招二三齒德來。顧左右，立喚女郎。無何，異香濃射，美姝十餘輩，擁芳雲出，光艷明媚，若芙蕖之映朝日。拜已即坐，群姝列侍，則採蓮人亦在焉。

酒數行，一垂髻女自內出，僅十餘齡，而姿態秀曼，笑依芳雲肘下，秋波流動。桓曰：「女子不在閨中，出作何務？」乃顧客曰：「此綠雲，即僕幼女。頗惠，能記典、墳矣。」因令對客吟詩，遂誦《竹枝詞》三章，嬌婉可聽，便令傍姊隅坐。桓因謂：「王郎天才，宿構必富，可使鄙人得聞教乎？」王即慨然誦近體一作，顧盼自雄，中二句云：「一身剩有須眉在，小飲能令塊磊消。」鄰叟再三誦之。芳雲低告曰：「上句是孫行者離火雲洞，下句是豬八戒過子母河也。」一座撫掌。桓請其他，王述《水鳥》詩云：「瀕頭鳴格磔，……」忽忘下句。甫一沉吟，芳雲向妹咕咕耳語，遂掩口而笑。綠雲告父

曰：「渠為姊夫續下句矣。云：『狗腓響弼巴。』」合席粲然。王有慚色。桓顧芳云：怒之以目。

王色稍定，桓復請其文藝。王意世外人必不知八股業，乃炫其冠軍之作，題為「孝哉閔子騫」二句，破云：「聖人贊大賢之孝……」綠雲顧父曰：「聖人無字門人者，『孝哉……』一句，即是人言。」王聞之，意興索然。桓笑曰：「童子何知！不在此，只論文耳。」王乃復誦，每數句，姊妹必相耳語，似是月旦之詞，但嚅囁不可辨。王誦至佳處，兼述文宗評語，有云：「字字痛切。」綠雲告父曰：「姊云：『宜刪「切」字。』」眾都不解。桓恐其語嫚，不敢研詰。王誦畢，又述總評，有云：「羯鼓一搥，則萬花齊落。」芳雲又掩口語妹，兩

人皆笑不可仰。綠雲又告曰：「姊云：『羯鼓當是四搥。』」眾又不解。綠雲啟口欲言。芳云忍笑訶之曰：「婢子敢言，打煞矣！」眾大疑，互有猜論。綠雲不能忍，乃曰：「去『切』字，言『痛』則『不通』。鼓四搥，其聲云『不通又不通』也。」眾大笑。桓怒訶之，因而自起泛卮，謝過不遑。

王初以才名自詡，目中實無千古，至此神氣沮喪，徒有汗淫。桓諛而慰之曰：「適有一言，請席中屬對焉：『王子身邊，無有一點不似玉。』」眾未措想，綠雲應聲曰：「黽翁頭上，再著半夕即成龜。」芳雲失笑，呵手扭脅肉數四。綠雲解脫而走，回顧曰：「何預汝事！汝罵之頻頻不以為非，寧他人一句便不許耶？」桓咄之，始笑而去。鄰炎辭別。

諸婢導夫妻入內寢，燈燭屏榻，陳設精備。又視洞房中，牙簽滿架，靡書不有。略致問難，響應無窮。王至此，始覺望洋堪羞。女喚「明璫」，則採蓮者趨應，由是始識其名。屢受諂辱，自恐不見重於閨闈；幸芳雲語言雖虐，而房幃之內，猶相愛好。王安居無事，輒復吟哦。女曰：「妾有良言，不知肯嘉納否？」問：「何言？」曰：「從此不作詩，亦藏拙之一道也。」王大慚，遂絕筆。

久之，與明璫漸狎，告芳雲曰：「明璫與小生有拯命之德，願少假以辭色。」芳雲乃即許之。每作房中之戲，招與共事，兩情益篤，時色授而手語之。芳雲微覺，責詞重疊，王惟喋喋，強自解免。一夕對酌，王以為寂，勸招明璫。芳雲不許，王

曰：「卿無書不讀，何不記『獨樂樂』數語？」芳雲曰：「我言君不通，今益驗矣。句讀尚不知耶？」獨要，乃樂於人要；問樂，孰要乎？曰：不。」一笑而罷。適芳云姊妹赴鄰女之約，王得間，急引明璫，綢繆備至。當晚，覺小腹微痛，痛已而前陰盡腫。大懼，以告芳雲。雲笑曰：「必明璫之恩報矣！」王不敢隱，實供之。芳雲曰：「自作之殃，實無可以方略。既非痛癢。聽之可矣。」數日不疼，優悶寡歡。芳雲知其意，亦不問訊，但凝視之，秋水盈盈，朗若曙星。王曰：「卿所謂『胸中正，則眸子鵠焉』。」芳雲笑曰：「卿所謂『胸中不正，則鵠子眸焉』。」蓋「沒有」之「沒」，俗讀似「眸」，故以此戲之也。王失笑，哀求方劑。曰：「君不聽良言，前

此未必不疑妾為妒意。不知此婢，原不可近。曩實相愛，而君若東風之吹馬耳，故唾棄不相憐。無已，為若治之。然醫師必審患處。」乃探衣而咒曰：「『黃鳥黃鳥，無止於楚！』」王不覺大笑，笑已而瘳。

逾數月，王以親老子幼，每切懷憶，以意告女。女曰：「歸即不難，但會合無日耳。」王涕下交頤，哀與同歸，女籌思再三，始許之，桓翁張筵祖餞。綠雲提籃入，曰：「姊姊遠別，莫可持贈。恐至海南，無以為家，夙夜代營宮室，勿嫌草創。」芳雲拜而受之。近而審諦，則用細草制為樓閣，大如櫟，小如橘，約二十餘座，每座梁棟椳題歷歷可數，其中供帳床榻類麻粒焉。王兒戲視之，而心竊嘆其工。芳雲曰：「實

於君言：我等皆是地仙。因有夙分，遂得陪從。本不欲踐紅塵，徒以君有老父，故不忍違。待父天年，須復還也。」王敬諾。桓乃問：「陸耶？舟耶？」王以風濤險，願陸。出則車馬已候於門。

謝別而邁，行蹤驚駛。俄至海岸，王心慮其無途。芳雲出素練一匹，望南拋去，化為長堤，其闊盈丈。瞬息馳過，堤亦漸收。至一處，潮水所經，四望遼邈。芳云止勿行，下車取籃中草具，偕明璫數輩，布置如法，轉眼化為巨第。並入解裝，則與島中居無稍差殊，洞房內幾榻宛然。時已昏暮，因止宿焉。

早日，命王迎養。王命騎趨詣故里，至則居宅已屬他姓。問之里人，始知母及妻皆已物故，惟老父尚存。子善博，田產並盡，祖孫莫可棲止，暫僦居於西村。王初歸時，尚有功名之念，不愬於懷；及聞此況，沉痛大悲，自念富貴縱可攜取，與空花何異。驅馬至西村見父，衣服萍敝，衰老堪憐。相見，各器失聲；問不肖子，則出賭未歸。王乃載父而還。芳雲朝拜已畢，燂湯請浴，進以錦裳，寢以香舍。又遙致故老與談宴，享奉過於世家。子一日尋至其處，王絕之不聽入，但予以甘金，使人傳語曰：「可持此買婦，以圖生業。再來，則鞭打立斃矣！」子泣而去。王自歸，不甚與人通禮；然故人偶至，必延接盤桓，撫抑過於平時。獨有黃子介，夙與同門

學，亦名士之坎珂者，王留之甚久，時與秘語，賂遺甚厚。居三四年，王翁卒，王萬錢卜兆，營葬盡禮。時子已娶婦，婦束男子嚴，子賭亦少間矣；是日臨喪，始得拜識姑嫜。芳雲一見，許其能家，賜三百金為田產之費。翼曰，黃及子同往省視，則舍宇全渺，不知所在。

異史氏曰：「佳麗所在，人且於地獄中求之，況享受無窮乎？地仙許攜姝麗，恐帝闕下虛無人矣。輕薄減其祿籍，理固宜然，豈仙人遂不之忌哉？彼婦之口，抑何其虐也！」

七、二十一、閻羅薨

巡撫某公父，先為南服總督，殂謝已久。公一夜夢父來，顏色慘慄，告曰：「我生平無多孽愆，只有鎮師一旅，不應調而誤調之，途逢海寇，全軍盡覆。今訟於閻君，刑獄酷毒，實可畏凜。閻羅非他，明日有經歷解糧至，魏姓者是也。當代哀之，勿忘！」醒而異之，意未深信。既寐，又夢父讓之曰：「父罹厄難，尚弗鏤心，猶妖夢置之耶？」公大異之。

明日，留心審閱，果有魏經歷，轉運初至，即刻傳入，使兩人捺坐，而後起拜，如朝參禮。拜已，長跽漣漣而告以故。魏不自任，公伏地不起。魏乃云：「然，其有之。但陰曹之

法，非若陽世悻悻，可以上下其手，即恐不能為力。」公哀之益切，魏不得已諾之。公又求其速理，魏籌回慮無靜所，公請為糞除賓廡，許之。公乃起。又求一往窺聽，魏不可。強之再四，囑曰：「去即勿聲。且冥刑雖慘，與世不同，暫置若死，其實非死。如有所見，無庸駭怪。」

至夜潛伏廡側，見階下囚人，斷頭折臂者紛雜無數。墀中置火鐺油鑊，數人熾薪其下。俄見魏冠帶出，升座，氣象威猛，迴與曩殊。群鬼一時都伏，齊鳴冤苦。魏曰：「汝等命戕於寇，冤自有主，何得妄告官長？」眾鬼嘩言曰：「例不應調，乃被妄檄前來，遂遭兇害，誰貽之冤？」魏又曲為解脫，眾鬼嗥冤，其聲訥動。魏乃喚鬼役：「可將某官赴油鼎，略入

一燂，於理亦當。」察其意似欲借此以洩眾忿。言一出，即有牛首阿旁執公父至，即以利叉刺入油鼎。公見之，中心慘怛，痛不可忍，不覺失聲一號，庭中寂然，萬形俱滅矣。

公嘆吒而歸。及明視魏，則已死於廨中。松江張禹定言之。以非佳名，故諱其人。

### 七、二十二、顛道人

顛道人，不知姓名，寓蒙山寺。歌哭不常，人莫之測，或見其煮石為飯者。

會重陽，有邑貴載酒登臨，輿蓋而往，宴畢過寺，甫及門，則道人赤足著破衲，自張黃蓋，作警蹕聲而出，意近玩弄。邑

貴乃慚怒，揮僕輩逐罵之。道人笑而卻走。逐急，棄蓋，共毀裂之，片片化為鷹隼，四散群飛。眾始駭。蓋柄轉成巨蟒，赤鱗耀目。眾嘩欲奔，有同游者止之曰：「此不過翳眼之幻術耳，烏能噬人！」遂操刃直前。蟒張吻怒逆，吞客咽之。眾駭，擁貴人急奔，息於三里之外。使數人逡巡往探，漸入寺，則人蟒俱無。方將返報，聞老槐內喘急如驢，駭甚。初不敢前，潛蹤移近之，見樹朽中空有竅如盤。試一攀窺，則鬥蟒者倒植其中，而孔大僅容兩手，無術可以出之。急以刀劈樹，比樹開而人已死，逾時少蘇，舁歸。道人不知所之矣。

異史氏曰：「張蓋游山，厭氣浹天骨髓。仙人遊戲三昧，一何可笑！余鄉殷生文屏，畢司農之妹夫也，為人玩世不恭。

章丘有周生者，以寒賤起家，出必駕肩而行。亦與司農有瓜葛之舊。值太夫人壽，殷料其必來，先候於道，著豬皮靴，公服持手本。俟周至，鞠躬道左，唱曰：「淄川生員，接章丘生員！」周慚，下輿，略致數語而別。少間，同聚於司農之堂，冠裳滿座，視其服色，無不竊笑；殷傲睨自若。既而筵終出門，各命輿馬。殷亦大聲呼：「殷老爺獨龍車何在？」有二健僕，橫扁杖於前，騰身跨之。致聲拜謝，飛馳而去。殷亦仙人之亞也。」

七、二十三、胡四娘

程孝思，劍南人，少惠能文。父母俱早喪，家赤貧，無衣食業，求傭為胡銀臺司筆札。胡公試使文，大悅之，曰：「此不長貧，可妻也。」

銀臺有三子四女，皆裸中論親於大家；止有少女四娘孽出，母早亡，笄年未字，遂贅程。或非笑之，以為昏髦之亂命，而公弗之顧也，除館館生，供備豐隆。群公子鄙不與同食，婢僕咸擲揄焉。生默默不較短長，研讀甚苦，眾從旁厭譏之，程讀弗輟，群又以鳴鉦鎗聒其側，程攜卷去讀於閨中。初，四娘之未字也，有神巫知人貴賤，遍觀之，都無諛詞，惟四

娘至，乃曰：「此真貴人也！」及贅程，諸姊妹皆呼之「貴人」以嘲笑之，而四娘端重寡言，若罔聞之。漸至婢媪，亦率相呼。四娘有婢名桂兒，意頗不平，大言曰：「何知吾家郎君，便不作貴官耶？」二姊聞而嗤之曰：「程郎如作貴官，當扶我眸子去！」桂兒怒而言曰：「到爾時，恐不舍得眸子也！」二姊婢春香曰：「二娘食言，我以兩睛代之。」桂兒益恚，擊掌為誓曰：「管教兩丁盲也！」二姊忿其語侵，立批之，桂兒號嘩。夫人聞知，即亦無所可否，但微哂焉。桂兒噪訴四娘，四娘方績，不怒亦不言，績自若。

會公初度，諸婿皆至，壽儀充庭。大婦嘲四娘曰：「汝家祝儀何物？」二婦曰：「兩肩荷一口！」四娘坦然，殊無慚怍。

人見其事事類癡，愈益狎之。獨有公愛妾李氏，三姊所自出也，恆禮重四娘，往往相顧恤。每謂三娘曰：「四娘內慧外樸，聰明渾而不露，諸婢子皆在其包羅中而不自知。況程郎晝夜攻苦，夫豈久為人下者？汝勿效尤，宜善之，他日好相見也。」故三娘每歸寧，輒加意相歡。

是年，程以公力得入邑庠。明年，學使科試士，而公適薨，程縗哀如子，未得與試。既離苦塊，四娘贈以金，使趨入「遺才」籍。囑曰：「曩久居，所不被呵逐者，徒以有老父在，今萬分不可矣！倘能吐氣，庶回時尚有家耳。」臨別，李氏、三娘賂遺優厚。程入闈，砥志研思，以求必售。無何放榜，竟被黜。願乖氣結，難於旋里，幸囊資小泰，攜卷入都。時妻

黨多任京秩，恐見誚訕，乃易舊名，詭托裏居，求潛身於大人之門。東海李蘭臺見而器之，收諸幕中，資以膏火，為之納貢，使應順天舉，連戰皆捷，授庶吉士。自乃實言其故。李公假千金，先使紀綱赴劍南，為之治第。時胡大郎以父亡空匱，貨其沃墅，因購焉。既成，然後貸輿馬往迎四娘。

先是，程擢第後，有郵報者，舉宅皆惡聞之；又審其名字不符，叱去之。適三郎完婚，戚眷登堂為饌，姊妹諸姑咸在，惟四娘不見招于兄嫂，忽一人馳入，呈程寄四娘函信，兄弟發視，相顧失色。筵中諸眷客始請見四娘，姊妹惴惴，惟恐四娘銜恨不至。無何，翩然竟來。申賀者，捉坐者，寒暄者，喧雜滿屋。耳有聽，聽四娘；目有視，視四娘；口有道，道

四娘也：而四娘凝重如故。眾見其靡所短長，稍就安帖，於是爭把盞酌四娘。方宴笑間，門外啼號甚急，群致怪問。俄見春香奔入，面血沾染，共詰之，哭不能對。二娘呵之，始泣曰：「桂兒逼索眼睛，非解脫，幾挾去矣！」二娘大慚，汗粉交下。四娘漠然；合坐寂無一語，各始告別。四娘盛妝，獨拜李夫人及三姊，出門登車而去。眾始知買墅者，即程也。四娘初至墅，什物多闕。夫人及諸郎各以婢僕、器具相贈遺，四娘一無所受；惟李夫人贈一婢受之。居無何，程假歸展墓，車馬扈從如云。詣嶽家，禮公柩，次參李夫人。諸郎衣冠既竟，已升輿矣。胡公歿，群公子日競資財，柩之弗顧。數年，靈寢漏敗，漸將以華屋作山丘矣。程睹之悲，竟

不謀於諸郎，刻期營葬，事事盡禮。殯日，冠蓋相屬，里中咸嘉嘆焉。

程十餘年歷秩清顯，凡遇鄉黨厄急罔不極力。二郎適以人命被逮，直指巡方者，為程同譜，風規甚烈。大郎浼婦翁王觀察函致之，殊無裁答，益懼。欲往求妹，而自覺無顏，乃持李夫人手書往。至都，不敢遽進。覲程入朝，而後詣之。冀四娘念手足之義，而忘睚眦之嫌。閹人既通，即有舊媪出，導入廳事，具酒饌，亦頗草草。食畢，四娘出，顏溫霽，問：「大哥人事大忙，萬里何暇枉顧？」大郎五體投地，泣述所來。四娘扶而笑曰：「大哥好男子，此何大事，直復爾爾？妹子一女流，幾曾見嗚嗚向人？」大郎乃出李夫人書。四娘

曰：「諸兄家娘子都是天人，各求父兄即可了矣，何至奔波到此？」大郎無詞，但顧哀之。四娘作色曰：「我以為跋涉來省妹子，乃以大訟求貴人耶！」拂袖徑入。大郎慚憤而出。歸家詳述，大小無不詬詈，李夫人亦謂其忍。逾數日二郎釋放寧家，眾大喜，方笑四娘之徒取怨謗也。俄而四娘遣價候李夫人。喚入，僕陳金幣，言：「夫人為二舅事，遣發甚急，未遑字覆。聊寄微儀，以代函信。」眾始知二郎之歸，乃程力也。後三娘家漸貧，程施報逾於常格。又以李夫人無子，迎養若母焉。

七、二十四、僧術

黃生，故家子，才情頗贍，夙志高騫。村外蘭若有居僧某，素與分深，既而僧雲游，去十餘年復歸。見黃，嘆曰：「謂君騰達已久，今尚白紵耶？想福命固薄耳。請為君賄冥中主者。能置十千否？」答言：「不能。」僧曰：「請勉辦其半，餘當代假之。三日為約。」黃諾之。竭力典質如數。

三日，僧果以五千來付黃。黃家舊有汲水井，深不竭，云通河海。僧命束置井邊，戒曰：「約我到寺，即推墮井中。候半炊時，有一錢泛起，當拜之。」乃去。黃不解何術，轉念效否未定，而十千可惜。乃匿其九，而以一千投之。少間巨

泡突起，鏗然而破，即有一錢浮出，大如車輪。黃大駭，既拜，又取四千投焉。落下擊觸有聲，為大錢所隔不得沉。日暮僧至，譙讓之曰：「胡不盡投？」黃云：「已盡投矣。」僧曰：「冥中使者止將一千去，何乃妄言？」黃實告之，僧嘆曰：「鄙吝者必非大器。此子之命合以明經終，不然甲科立致矣。」黃大悔，求再禳之，僧固辭而去。黃視井中錢猶浮，以綆釣上，大錢乃沉。是歲，黃以副榜準貢，卒如僧言。

異史氏曰：「豈冥中亦開捐納之科耶？十千而得一第，直亦廉矣。然一千準貢，猶昂貴耳。明經不第，何值一錢！」

七、二十五、祿數

某顯者多為不道，夫人每以果報勸諫之，殊不聽信。適有方士能知人祿數，詣之。方士熟視曰：「君再食米二十石、面四十石，天祿乃終。」歸語夫人。計一人終年僅食面二石，尚有二十餘年天祿，豈不善所能絕耶？橫如故。逾年，忽病「除中」，食甚多而旋饑，一晝夜十餘餐。未及周歲，死矣。

七、二十六、柳生

周生，順天宦裔也，與柳生善。柳得異人之傳，精袁許之術。嘗謂周曰：「子功名無分，萬鍾之資尚可以人謀，然尊

闕薄相，恐不能佐君成業。」未幾婦果亡，家室蕭條，不可聊賴。

因詣柳，將以卜姻。入客舍坐良久，柳歸內不出。呼之再三，始方出，曰：「我日為君物色佳偶，今始得之。適在內作小術，求月老系赤繩耳。」周喜問之，答曰：「甫有一人攜囊出，遇之否？」曰：「遇之。襤褸若丐。」曰：「此君岳翁，宜敬禮之。」周曰：「緣相交好，遂謀隱密，何相戲之甚也！僕即式微，猶是世裔，何至下昏於市儈？」柳曰：「不然。犁牛尚有子，何害？」周問：「曾見其女耶？」答曰：「未也。我素與無舊，姓名亦問訊知之。」周笑曰：「尚未知犁牛，何知其子？」柳曰：「我以數信之，其人兇而賤，然當生厚福之女。」

但強合之必有大厄，容復禳之。」周既歸，未肯以其言為信，諸方覓之，迄無一成。

一日柳生忽至，曰：「有一客，我已代折簡矣。」問：「為誰？」曰：「且勿問，宜速作黍。」周不諭其故，如命治具。俄客至，蓋傅姓營卒也。心內不合，陽浮道譽之；而柳生承應甚恭。少間酒肴既陳，雜惡草具進。柳起告客：「公子向慕已久，每托某代訪，曩夕始得晤。又聞不日遠征，立刻相邀，可謂倉卒主人矣。」飲間傅憂馬病不可騎，柳亦俯首為之籌思。既而客去，柳讓周曰：「千金不能買此友，何乃視之漠漠？」借馬騎歸，歸，因假命周，登門持贈傅。周既知，稍稍不快，已無如何。

過歲將如江西，投臬司幕。詣柳問卜，柳言：「大吉！」周笑曰：「我意無他，但薄有所獵，當購佳婦，幾幸前言之不驗也，能否？」柳云：「並如君願。」及至江西，值大寇叛亂，三年不得歸。後稍平，選日遵路，中途為土寇所掠，同難人七八位，皆劫其金資釋令去，惟周被擄至巢。盜首詰其家世，因曰：「我有息女，欲奉箕帚，當即無辭。」周不答，盜怒，立命梟斬。周懼，思不如暫從其請，因從容而棄之。遂告曰：「小生所以踟躕者，以文弱不能從戎，恐益為丈人累耳。如使夫婦得相將俱去，恩莫厚焉。」盜曰：「我方憂女子累人，此何不可從也。」引入內，妝女出見，年可十八九，

蓋天人也。當夕合昏，深過所望。細審姓氏，乃知其父即當年荷囊人也。因述柳言，為之感嘆。

過三四日，將送之行，忽大軍掩至，全家皆就執縛。有將官三員監視，已將婦翁斬訖，尋次及周。周自分已無生理，一員審視曰：「此非周某耶？」蓋傅卒已軍功授副將軍矣。謂僚曰：「此吾鄉世家名士，安得為賊！」解其縛，問所從來。周詭曰：「適從江臬娶婦而歸，不意途陷盜窟，幸蒙拯救，德戴二天！但室人離散，求借洪威，更賜瓦全。」傅命列諸俘，令其自認，得之。餉以酒食，助以資斧，曰：「曩受解驂之惠，旦夕不忘。但搶攘間，不遑修禮，請以馬二匹、金五十兩，助君北旋。」又遣二騎持信矢護送之。

途中，女告周曰：「癡父不聽忠告，母氏死之。知有今日久矣，所以偷生旦暮者，以少時曾為相者所許，冀他日能收親骨耳。某所窖藏巨金，可以發贖父骨，餘者攜歸，尚足謀生產。」囑騎者候於路，兩人至舊處，廬舍已燼，於灰火中取佩刀掘尺許，果得金，盡裝入橐，乃返。以百金賂騎者，使瘞翁尸，又引拜母塚，始行。至直隸界，厚賜騎者而去。周久不歸，家人謂其已死，恣意侵冒，粟帛器具，蕩無存者。聞主人歸，大懼，哄然盡逃；只有一嫗、一婢、一老奴在焉。周以出死得生，不復追問。及訪柳，則不知所適矣。

女持家逾於男子，擇醇篤者，授以資本而均其息。每諸商會計於簷下，女垂簾聽之，盤中誤下一珠，輒指其訛。內外無

敢欺。數年伙商盈百，家數十巨萬矣。乃遣人移親骨厚葬之。

異史氏曰：「月老可以賄囑，無怪媒妁之同於牙儈矣。乃盜也而有是女耶？培婁無松柏，此鄙人之論耳。婦人女子猶失之，況以相天下士哉！」

七、二十七、冤獄

朱生，陽穀人，少年佻達，喜詼謔。因喪偶往求媒媪，遇其鄰人之妻，睨之美，戲謂媪曰：「適睹尊鄰，雅少麗，若為我求凰，渠可也。」媪亦戲曰：「請殺其男子，我為若圖之。」朱笑曰：「諾。」

更月餘，鄰人出討負，被殺於野。邑令拘鄰保，血膚取實，究無端緒，惟媒媪述相謔之詞，以此疑朱。捕至，百口不承。令又疑鄰婦與私，撈掠之，五毒參至，婦不能堪，誣伏。又訊朱，朱曰：「細嫩不任苦刑，所言皆妄。既是冤死，而又加以不節之名，縱鬼神無知，予心何忍乎？我實供之可矣：欲殺夫而娶其婦皆我之為，婦不知之也。」問：「何憑？」答言：「血衣可證。」及使人搜諸其家，竟不可得。又掠之，死而復蘇者再。朱乃云：「此母不忍出證據死我耳，待自取之。」因押歸告母曰：「予我衣，死也；即不予，亦死也；均之死，故遲也不如其速也。」母泣，入室移時，取衣出付之。令審其跡確，擬斬。再駁再審，無異詞。經年餘，決有日矣。

令方慮囚，忽一人直上公堂，怒目視令而大罵曰：「如此憤憤，何足臨民！」隸役數十輩，將共執之。其人振臂一揮，頽然並僕。令懼欲逃，其人大言曰：「我關帝前周將軍也！昏官若動，即便誅卻！」令戰懼悚聽。其人曰：「殺人者乃宮標也，於朱某何與？」言已倒地，氣若絕。少頃而醒，面無人色。及問其人，則宮標也，撈之盡服其罪。

蓋宮素不逞，知某討負而歸，意腰橐必富，及殺之竟無所得。聞朱誣服，竊自幸，是日身入公門，殊不自知。令問朱血衣所自來，朱亦不知之。喚其母鞠之，則割臂所染，驗其左臂，刀痕猶未平也。令亦愕然。後以此被參揭免官，罰贖羈留而死。年餘，鄰母欲嫁其婦，婦感朱義，遂嫁之。異史

氏曰：「訟獄乃居官之首務，培陰 〇 媮，滅天理，皆在於此，不可不慎也。躁急污暴，固乖天和；淹滯因循，亦傷民命。一人興訟則數農違時，一案既成則十家蕩產，豈故之細哉！余嘗謂為官者不濫受詞訟，即是盛德。且非重大之情，不必羈候；若無疑難之事，何用徘徊？即或鄉里愚民，山村豪氣，偶因鵝鴨之爭，致起雀角之忿，此不過借官宰之一言，以為平定而已，無用全人，只須兩造，笞杖立加，葛藤悉斷。所謂神明之宰非耶？

每見今之聽訟者矣：一票既出，若故忘之。攝牒者入手未盈，不令消見官之票；承刑者潤筆不飽，不肯懸聽審之牌。蒙蔽因循，動經歲月，不及登長吏之庭，而皮骨已將盡矣！

而儼然而民上也者，偃息在床，漠若無事。寧知水火獄中有無數冤魂，伸頸延息以望拔救耶！然在奸民之兇頑，固無足惜；而在良民株累，亦復何堪？況且無辜之干連，往往奸民少而良民多；而良民之受害，且更倍於奸民。何以故？奸民難虐，而良民易欺也。皂隸之所毆罵，胥徒之所需索，皆相良者而施之暴。

自入公門，如蹈湯火。早結一日之案，則早安一日之生，有何大事，而顧奄奄堂上若死人，似恐溪壑之不遽飽，而故假之以歲時也者！雖非酷暴，而其實厥罪維均矣。嘗見一詞之中，其急要不可少者，不過三數人；其餘皆無辜之赤子，妄被羅織者也。或平昔以睚眦開嫌，或當前以懷璧致罪，故興

訟者以其全力謀正案，而以其餘毒復小仇，帶一名於紙尾，遂成附骨之疽；受萬罪於公門，竟屬切膚之痛。人跪亦跪，狀若烏集；人出亦出，還同獠系。而究之官問不及，吏詰不至，其實一無所用，只足以破產傾家，飽蠹役之貪囊；鬻子典妻，洩小人之私憤而已。深願為官者，每投到時，略一審詰：當逐逐之，不當逐芟之。不過一濡毫、一動腕之間耳，便保全多少身家，培養多少元氣。從政者曾不一念及於此，又何必析楊刀鋸能殺人哉！

七、二十八、鬼令

教諭展先生，灑脫有名士風。然酒狂不持儀節，每醉歸，輒馳馬殿階。階上多古柏。一日縱馬入，觸樹頭裂，自言：「子路怒我無禮，擊腦破矣！」中夜遂卒。

邑中某乙者，負販其鄉，夜宿古刹。更靜人稀，忽見四五人攜酒入飲，展亦在焉。酒數行，或以字為令曰：「田字不透風，十字在當中；十字推上去，古字贏一鍾。」一人曰：「回字不透風，口字在當中；口字推上去，呂字贏一鍾。」一人曰：「囙字不透風，令字在當中；令字推上去，含字贏一鍾。」又一人曰：「困字不透風，木字在當中；木字推上去，杏字

贏一鍾。」末至展，凝思不得。眾笑曰：「既不能令，須當受命。」飛一觥來。展即云：「我得之矣。」曰字不透風，一字在當中；……」眾又笑曰：「推作何物？」展吸盡曰：「一字推上去，一口一大鍾！」相與大笑，未幾出門去。某不知展死，竊疑其罷官歸也。及歸問之，則展死已久，始悟所遇者鬼耳。

七、二十九、甄后

洛城劉仲堪，少鈍而淫於典籍。恆杜門攻苦，不與世通。一日方讀，忽聞異香滿室，少間佩聲甚繁。驚顧之，有美人入，簪珥光採，從者皆宮妝。劉驚伏地下，美人扶之曰：「子何

前倨而後恭也？」劉益惶恐，曰：「何處天仙，未曾拜識。前此幾時有侮？」美人笑曰：「相別幾何，遂爾悻悻！危坐磨磚者非子耶？」乃展錦薦，設瑤漿，捉坐對飲，與論古今事，博洽非常。劉茫茫不知所對。美人曰：「我止赴瑤池一回宴耳，子歷幾生，聰明頓盡矣！」遂命侍者，以湯沃水晶膏進之。劉受飲訖，忽覺心神澄徹。既而曠黑，從者盡去，息燭解襦，曲盡歡好。

未曙，諸姬已復集。美人起，妝容如故，鬢發修整，不再理也。劉依依苦詰姓字，答曰：「告郎不妨，恐益君疑耳。妾，甄氏；君，公幹後身。當日以妾故罹罪，心實不忍，今日之會，亦聊以報情癡也。」問：「魏文安在？」曰：「丕，不過

賊父之庸子耳。妾偶從游嬉富貴者數載，過即不復置念。彼曩以阿瞞故，久滯幽冥，今未聞知。反是陳思為帝典籍，時一見之。」旋見龍輿止於庭中，乃以玉脂合贈劉，作別登車，雲推而去。

劉自是文思大進。然追念美人，凝思若癡，歷數月漸近羸殆。母不知其故，憂之。家一老嫗，忽謂劉曰：「郎君意頗有思否？」劉以言隱中情告之，嫗曰：「郎試作尺一書，我能郵致之。」劉驚喜曰：「子有異術，向日昧於物色。果能之，不敢忘也。」乃折柬為函，付嫗便去。半夜而返曰：「幸不誤事。初至門，門者以我為妖，欲加縛繫。我遂出郎君書，乃將去。少頃喚入，夫人亦欵歔，自言不能復會。便欲裁答。」

我言：『郎君羸憊，非一字所能瘳。』夫人沉思久，乃釋筆云：『煩先報劉郎，當即送一佳婦去。』瀕行，又囑：『適所言乃百年計，但無洩，便可永久矣。』劉喜，伺之。

明日，果一老姥率女郎詣母所，容色絕世，自言：「陳氏；女其所出，名司香，願求作婦。」母愛之，議聘，更不索資，坐待成禮而去。惟劉心知其異，陰問女：「系夫人何人？」答云：「妾銅雀故妓也。」劉疑為鬼，女曰：「非也。妾與夫人俱隸仙籍，偶以罪過謫人間。夫人已復舊位；妾謫限未滿，夫人請之天曹，暫使給役，去留皆在夫人。故得長侍床簀耳。」一日，有瞽媪牽黃犬丐食其家，拍板俚歌。女出窺，立未定，犬斷索咋女，女駭走，羅衿斷。劉急以杖擊犬。犬猶怒，齧

斷幅，頃刻碎如麻，嚼吞之。瞽媪捉領毛，縛以去。劉入視女，驚顏未定，曰：「卿仙人，何乃畏犬？」女曰：「君自不知，犬乃老瞞所化，蓋怒妾不守分香戒也。」劉欲買犬杖斃，女不可，曰：「上帝所罰，何得擅誅？」

居二年，見者皆驚其艷，而審所從來，殊恍惚，於是共疑為妖。母詰劉，劉亦微道其異。母大懼，戒使絕之，劉不聽。母陰覓術士來，作法於庭。方規地為壇，女慘然曰：「本期白首，今老母見疑，分義絕矣。要我去亦復非難，但恐非禁咒可遣耳！」乃束薪爇火，拋階下。瞬息煙蔽房屋，對面相失。忽有聲震如雷，已而煙滅，見術士七竅流血死矣。入室，女已渺。呼媪問之，媪亦不知所去。劉始告母：「媪蓋

狐也。」異史氏曰：「始於袁，終於曹，而後注意於公幹，仙人不應若是。然平心而論：奸瞞之篡子，何必有貞婦哉？犬睹故妓，應大悟分香賣履之癡，固猶然妒之耶？嗚呼！奸雄不暇自哀，而後人哀之已！」

七、三十、宦娘

溫如春，秦之世家也。少癖嗜琴，雖逆旅未嘗暫舍。客晉，經由古寺，系馬門外，暫憩止。入則有布衲道人，趺坐廊間，筇杖倚壁，花布囊琴。溫觸所好，因問：「亦善此也？」道人云：「顧不能工，願就善者學之耳。」遂脫囊授溫，視之，紋理佳妙，略一勾撥，清越異常。喜為撫一短曲，道人微笑，

似未許可。溫乃竭盡所長，道人哂曰：「亦佳，亦佳！但未足為貧道師也。」溫以其言誇，轉請之。道人接置膝上，裁撥動，覺和風自來；又頃之，百鳥群集，庭樹為滿。溫驚極，拜請受業。道人三復之，溫側耳傾心，稍稍會其節奏。道人試使彈，點正疏節，曰：「此塵間已無對矣。」溫由是精心刻畫，遂稱絕技。

後歸程，離家數十里，日已暮，暴雨莫可投止。路旁有小村，趨之，不遑審擇，見一門匆匆遽入。登其堂，闔無人；俄一女郎出，年十七八，貌類神仙。舉首見客，驚而走入。溫時未偶，系情殊深。俄一老嫗出問客，溫道姓名，兼求寄宿。嫗言：「宿當不妨，但少床榻；不嫌屈體，便可藉槁。」少旋

以燭來，展草鋪地，意良殷。問其姓氏，答云：「趙姓。」又問：「女郎何人？」曰：「此宦娘，老身之猶子也。」溫曰：「不揣寒陋，欲求援系，如何？」媼顰蹙曰：「此即不敢應命。」溫詰其故，但云難言，悵然遂罷。媼既去，溫視藉草腐濕，不堪臥處，因危坐鼓琴，以消永夜。雨既歇，冒夜遂歸。

邑有林下部郎葛公喜文士，溫偶詣之，受命彈琴。簾內隱約有眷客窺聽，忽風動簾開，見一及笄人，麗絕一世。蓋公有一女，小字良工，善詞賦，有艷名。溫心動，歸與母言，媒通之，而葛以溫勢式微不許。然女自聞琴以後，心竊傾慕，每冀再聆雅奏；而溫以姻事不諧，志乖意沮，絕跡於葛氏之門矣。一日，女於園中拾得舊箋一折，上書《惜餘春詞》

云：「因恨成癡，轉思作想，日日為情顛倒。海棠帶醉，楊柳傷春，同是一般懷抱。甚得新愁舊愁，鏟盡還生，便如青草。自別離，只在奈何天裏，度將昏曉。今日個蹙損春山，望穿秋水，道棄已拚棄了！芳衾妒夢，玉漏驚魂，要睡何能睡好？漫說長宵似年，儂視一年，比更猶少：過三更已是三年，更有何人不老！」女吟詠數四，心悅好之。懷歸，出錦箋，莊書一通置案間，逾時索之不可得，竊意為風飄去。適葛經閨門過，拾之；謂良工作，惡其詞蕩，火之而未忍言，欲急醮之。臨邑劉方伯之公子，適來問名，心善之，而猶欲一睹其人。公子盛服而至，儀容秀美。葛大悅，款延優渥。

既而告別，坐下遺女烏一鉤。心頓惡其儂薄，因呼媒而告以故。公子亟辯其誣，葛弗聽，卒絕之。

先是，葛有綠菊種，吝不傳，良工以植閨中。溫庭菊忽有二株化為綠，同人聞之，輒造廬觀賞，溫亦寶之。凌晨趨視，於畦畔得箋寫《惜餘春詞》，反覆披讀，不知其所自至。以「春」為己名益惑之，即案頭細加丹黃，評語褻嫚。適葛聞溫菊變綠，訝之，躬詣其齋，見詞便取展讀。溫以其評褻，奪而按莎之。葛僅讀一兩句，蓋即閨門所拾者也。大疑，並綠菊之種，亦猜良工所贈。歸告夫人，使逼詰良工。良工涕欲死，而事無驗見，莫有取實。夫人恐其跡益彰，計不如以女歸溫。葛然之，遙致溫，溫喜極。是日招客為綠菊之宴，焚

香彈琴，良夜方罷。既歸寢，齋童聞琴自作聲，初以為僚僕之戲也，既知其非人，始白溫。溫自詣之，果不妄。其聲梗澀，似將效己而未能者。爇火暴入，杳無所見。溫攜琴去，則終夜寂然。因意為狐，固知其願拜門墻也者，遂每夕為奏一曲，而設弦任操若師，夜夜潛伏聽之。至六七夜，居然成曲，雅足聽聞。

溫既親迎，各述曩詞，始知締好之由，而終不知所由來。良工聞琴鳴之異，往聽之，曰：「此非狐也，調淒楚，有鬼聲。」溫未深信。良工因言其家有古鏡，可鑒魑魅。翌日遣人取至，伺琴聲既作，握鏡遽入；火之，果有女子在，倉皇室隅，莫能復隱，細審之趙氏之宦娘也。大駭，窮詰之。泫然曰：「代

作蹇修，不為無德，何相逼之甚也？」溫請去鏡，約勿避；諾之。乃囊鏡。女遙坐曰：「妾太守之女死百年矣。少喜琴箏，箏已頗能諳之，獨此技未能嫡傳，重泉猶以為憾。惠顧時，得聆雅奏，傾心向往；又恨以異物不能奉裳衣，陰為君吻合佳偶，以報眷顧之情。劉公子之女舄，〈惜餘春〉之俚詞，皆妾為之也。酬師者不可謂不勞矣。」夫妻咸拜謝之。宦娘曰：「君之業，妾思過半矣，但未盡其神理，請為妾再鼓之。」溫如其請，又曲陳其法。宦娘大悅曰：「妾已盡得之矣！」乃起辭欲去。良工故善穩，聞其所長，願以披聆。宦娘不辭，其調其譜，並非塵世所能。良工擊節，轉請受業。女命箏為給譜十八章，又起告別。夫妻挽之良苦，宦娘淒然

曰：「君琴瑟之好，自相知音；薄命人烏有此福。如有緣，再世可相聚耳。」因以一卷授溫曰：「此妾小像。如不忘媒妁，當懸之臥室，快意時焚香一炷，對鼓一曲，則兒身受之矣。」出門遂沒。

七、三十一、阿繡

海州劉子固，十五歲時，至蓋省其舅。見雜貨肆中一女子，姣麗無雙，心愛好之。潛至其肆，托言買扇。女子便呼父，父出，劉意沮，故折閱之而退。遙睹其父他往，又詣之，女將覓父，劉止之曰：「無須，但言其價，我不靳直耳。」女如言固昂之，劉不忍爭，脫貫竟去。明日復往又如之。行數武，

女追呼曰：「返來！適偽言耳，價奢過當。」因以半價返之。劉益感其誠，蹈隙輒往，由是日熟。女問：「郎居何所？」以實對。轉詰之，自言：「姚氏。」臨行，所市物，女以紙代裹完好，已而以舌舐粘之。劉懷歸不敢復動，恐亂其舌痕也。積半月為僕所窺，陰與舅力要之歸。意惓惓不自得。以所市香帕脂粉等類，密置一篋，無人時，輒闔戶自檢一過，觸類凝想。

次年復至蓋，裝甫解即趨女所，至則肆宇闔焉，失望而返。猶意偶出未返，早又詣之，闔如故。問諸鄰，始知姚原廣寧人，以貿易無重息，故暫歸去，又不審何時可復來。神志乖喪。居數日怏怏而歸。母為議婚，屢梗之，母怪且怒。僕私

以曩事告母，母益防閑之，蓋之途由是絕。劉忽忽遂減眠食。母憂思無計，念不如從其志。於是刻日辦裝使如蓋，轉寄語勇，媒合之。舅即承命詣姚。逾時而返，謂劉曰：「事不諧矣！阿繡已字廣寧人。」劉低頭喪氣，心灰絕望。既歸，捧篋啜泣，而徘徊顧念，冀天下有似之者。

適媒來，艷稱復州黃氏女。劉恐不確，命駕至復。入西門，見北向一家，兩扉半開，內一女郎怪似阿繡。再屬目之，且行且盼而入，真是無訛。劉大動，因僦其東鄰居，細詰知為李氏。反復疑念，天下寧有此酷肖者耶？居數日莫可夤緣，惟日眈眈候其門，以冀女或復出。一日日方西，女果出，忽見劉，即返身走，以手指其後，又復掌及額，而入。劉喜極，

但不能解。凝思移時，信步詣舍後，見荒園寥廓，西有短垣，略可及肩。豁然頓悟，遂蹲伏露草中。久之，有人自牆上露其首，小語曰：「來乎？」劉諾而起，細視真阿繡也。因大恫，涕墮如綆。女隔堵探身，以巾拭其淚，深慰之。劉曰：「百計不遂，自謂今生已矣，何期復有今夕？顧卿何以至此？」曰：「李氏，妾表叔也。」劉請逾垣。女曰：「君先歸，遣從人他宿，妾當自至。」劉如言，坐伺之。少間女悄然入，妝飾不甚炫麗，袍褲猶昔。劉挽坐，備道艱苦，因問：「卿已字，何未醮也？」女曰：「言妾受聘者，妄也。家君以道里賒遠，不願附公子婚，此或托舅氏詭詞以絕君望耳。」既就枕

席，宛轉萬態，款接之歡不可言喻。四更遽起，過墻而去。劉白是不復措意黃氏矣。旅居忘返，經月不歸。

一夜僕起飼馬，見室中燈猶明，窺之，見阿繡，大駭。顧不敢言主人，旦起訪市肆，始返而詰劉曰：「夜與還往者，何人也？」劉初諱之，僕曰：「此第岑寂，狐鬼之藪，公子宜自愛。彼姚家女郎，何為而至此？」劉始腆然曰：「西鄰是其表叔，有何疑沮？」僕言：「我已訪之審：東鄰止一孤媪，西家一子尚幼，別無密戚。所遇當是鬼魅；不然，焉有數年之衣尚未易者？且其面色過白，兩頰少瘦，笑處無微渦，不如阿繡美。」劉反復思，乃大懼曰：「然且奈何？」僕謀伺其來，操兵入共擊之。至暮女至，謂劉曰：「知君見疑，然妾亦無

他，不過了夙分耳。」言未已，僕排闥入。女呵之曰：「可棄兵！速具酒來，當與若主別。」僕便自投，若或奪焉。劉益恐，強設酒饌。女談笑如常，舉手向劉曰：「君心事，方將圖效綿薄，何竟伏戎？妾雖非阿繡，頗自謂不亞，君視之猶昔否耶？」劉毛發俱豎，噤不語。女聽漏三下，把盞一呷，起立曰：「我且去，待花燭後，再與新婦較優劣也。」轉身遂杳。

劉信狐言，竟如蓋。怨舅之誑己也，不舍其家；寓近姚氏，托媒自通，啖以重賂。姚妻乃言：「小郎為覓婿廣寧，若翁以是故去，就否未可知。須旋日方可計校。」劉聞之，徬徨無以自主，惟堅守以伺其歸。逾十餘日，忽聞兵警，猶疑訛傳；

久之信益急，乃趣裝行。中途遇亂，主僕相失，為偵者所掠。以劉文弱疏其防，盜馬亡去。至海州界見一女子，蓬鬢垢耳，出履蹉跌，不可堪。劉馳過之，女遽呼曰：「馬上人非劉郎乎？」劉停鞭審顧，則阿繡也。心仍訝其為狐，曰：「汝真阿繡耶？」女問：「何為出此言？」劉述所遇。女曰：「妾真阿繡也。父攜妾自廣寧歸，遇兵被俘，授馬屢墮。忽一女子握腕趣遁，荒竄軍中，亦無詰者。女子健步若飛隼，苦不能從，百步而屢屢褪焉。久之，聞號嘶漸遠，乃釋手曰：『別矣！前皆坦途可緩行，愛汝者將至，宜與同歸。』」劉知其狐，感之。因述其留蓋之故。女言其叔為擇婿於方氏，未委禽而亂始作。劉始知舅言非妄。攜女馬上，疊騎歸。入門則老母

無恙，大喜。系馬入，俱道所以。母亦喜，為女盥濯，竟妝，容光煥發。母撫掌曰：「無怪癡兒魂夢不置也！」遂設衾褥，使從己宿。又遣人赴蓋，寓書於姚。不數日姚夫婦俱至，卜吉成禮乃去。

劉出藏篋，封識儼然。有粉一函，啟之，化為赤土。劉異之。女掩口曰：「數年之盜，今始發覺矣。爾日見郎任妾包裹，更不及審真偽，故以此相戲耳。」方嬉笑間，一人牽簾入曰：「快意如此，當謝蹇修否？」劉視之，又一阿繡也，急呼母。母及家人悉集，無有能辨識者。劉回眸亦迷，注目移時，始揖而謝之。女子索鏡自照，赧然趨出，尋之已杳。夫婦感其義，為位於室而祀之。一夕劉醉歸，室暗無人，方自挑燈，

而阿繡至。劉挽問：「何之？」笑曰：「醉臭熏人，使人不耐！如此盤詰，誰作桑中逃耶？」劉笑捧其頰，女曰：「郎視妾與狐姊孰勝？」劉曰：「卿過之。然皮相者不辨也。」已而合扉相狎。俄有叩門者，女起笑曰：「君亦皮相者也。」劉不解，趨啟門，則阿繡入，大愕。始悟適與語者，狐也。暗中又聞笑聲。夫妻望空而禱，祈求現像。狐曰：「我不願見阿繡。」問：「何不另化一貌？」曰：「我不能。」問：「何故不能？」曰：「阿繡，吾妹也，前世不幸夭殂。生時，與餘從母至天宮見西王母，心竊愛慕，歸則刻意效之。妹較我慧，一月神似；我學三月而後成，然終不及妹。今已隔世。自謂過之，不意猶昔耳。我感汝兩人誠，故時復一至，今去矣。」遂不復

言。自此三五日輒一來，一切疑難悉決之。值阿繡歸寧，來常數日住，家人皆懼避之。每有亡失，則華妝端坐，插玳瑁簪長數寸，朝家人而莊語之：「所竊物，夜當送至某所；不然，頭痛大作，悔無及！」天明，果於某所獲之。三年後，絕不復來。偶失金帛，阿繡效其裝嚇家人，亦屢效焉。

七、三十二、楊疤眼

一獵人夜伏山中，見一小人，長二尺已來，踽踽行澗底。少間又一人來，高亦如之。適相值，交問何之。前者曰：「我將往望楊疤眼。前見其氣色晦黯，多罹不吉。」後人曰：「我

亦為此，汝言不謬。」獵者知其非人，厲聲大叱，二人並無有矣。夜獲一狐，左目上有癍痕大如錢。

七、三十三、小翠

王太常，越人。總角時，晝臥榻上。忽陰晦，巨霆暴作，一物大於貓，來伏身下，展轉不離。移時晴霽，物即徑出。視之非貓，始怖，隔房呼兄。兄聞，喜曰：「弟必大貴，此狐來避雷霆劫也。」後果少年登進士，以縣令入為侍御。

生一子名元豐，絕癡，十六歲不能知牝牡，因而鄉黨無於為婚。王憂之。適有婦人率少女登門，自請為婦。視其女，嫣然展笑，真仙品也。喜問姓名。自言：「虞氏。女小翠，年

二八矣。」與議聘金。曰：「是從我糠覈不得飽，一旦置身廣廈，役婢僕，厭膏粱，彼意適，我願慰矣，豈賣菜也而索直乎！」夫人大悅，優厚之。婦即命女拜王及夫人，囑曰：「此爾翁姑，奉侍宜謹。我大忙，且去，三數日當復來。」王命僕馬送之，婦言：「里巷不遠，無煩多事。」遂出門去。

小翠殊不悲戀，便即奩中翻取花樣。夫人亦愛樂之。數日婦不至，以居里問女，女亦憨然不能言其道路。遂治別院，使夫婦成禮。諸戚聞拾得貧家兒作新婦，共笑姍之；見女皆驚，群議始息。女又甚慧，能窺翁姑喜怒。王公夫婦，寵惜過於常情，然惕惕焉惟恐其憎子癡，而女殊歡笑不為嫌。第善謔，刺布作圓，蹋蹴為笑。著小皮靴，蹴去數十步，給公

子奔拾之，公子及婢恆流汗相屬。一日王偶過，圓然來直中面目。女與婢俱斂跡去，公子猶踴躍奔逐之。王怒，投之以石，始伏而啼。王以告夫人，夫人往責女，女俯首微笑，以手勅病，○ 勅 要○ 一 綖剩○ 災 弁抗○ 幼 骰○ 媛 綖對7 蛉 \* 見之怒甚，呼女詬罵。女倚幾弄帶，不懼亦不言。夫人無奈之，因杖其子。元豐大號，女始色變，屈膝乞宥。夫人怒頓解，釋杖去。女笑拉公子入室，代撲衣上塵，拭眼淚，摩挲杖痕，餌以棗慄。公子乃收涕以忻。女闔庭戶，復裝公子作霸王，作沙漠人；己乃艷服，束細腰，婆娑作帳下舞；或髻插雉尾，撥琵琶，丁丁縷縷然，

喧笑一室，日以為常。王公以子癡，不忍過責婦，即微聞焉，亦若置之。

同巷有王給諫者，相隔十餘戶，然素不相能；時值三年大計吏，忌公握河南道篆，思中傷之。公知其謀，憂慮無所為計。一夕早寢，女冠帶飾塚宰狀，剪素絲作濃髭，又以青衣飾兩婢為虞候，竊跨廐馬而出，戲云：「將謁王先生。」馳至給諫之門，即又鞭撻從人，大言曰：「我謁侍御王，寧謁給諫王耶！」回轡而歸。比至家門，門者誤以為真，奔白王公。公急起承迎，方知為子婦之戲。怒甚，謂夫人曰：「人方蹈我之瑕，反以閨閣之醜登門而告之，餘禍不遠矣！」夫人怒，奔女室，詬讓之。女惟憨笑，並不一置詞。撻之不忍，出之

則無家，夫妻懊怨，終夜不寢。時塚宰某公赫甚，其儀採服從，與女偽裝無少殊別，王給諫亦誤為真。屢偵公門，中夜而客未出，疑塚宰與公有陰謀。次日早期，見而問曰：「夜相公至君家耶？」公疑其相譏，慚言唯唯，不甚響答。給諫愈疑，謀遂寢，由此益交歡公。公探知其情竊喜，而陰囑夫人勸女改行，女笑應之。

逾歲，首相免，適有以私函致公者，誤投給諫。給諫大喜，先托善公者往假萬金，公拒之。給諫自詣公所。公覓巾袍並不可得；給諫伺候久，怒公慢，憤將行。忽見公子袞衣旒冕，有女子自門內推之以出，大駭；已而笑撫之，脫其服冕而去。公急出，則客去遠。聞其故，驚顏如土，大哭曰：「此

禍水也！指曰赤吾族矣！」與夫人操杖往。女已知之，闔扉任其詬厲。公怒，斧其門，女在內含笑而告之曰：「翁無煩怒。有新婦在，刀鋸斧鉞婦自受之，必不令貽害雙親。翁若此，是欲殺婦以滅口耶？」公乃止。給諫歸，果抗疏揭王不軌，袞冕作據。上驚驗之，其旒冕乃梁黠心所制，袍則敗布黃袱也。上怒其誣。又召元豐至，見其憨狀可掬，笑曰：「此可以作天子耶？」乃下之法司。給諫又訟公家有妖人，法司嚴詰臧獲，並言無他，惟顛婦癡兒日事戲笑，鄰里亦無異詞。案乃定，以給諫充雲南軍。

王由是奇女。又以母久不至，意其非人，使夫人探詰之，女但笑不言。再復窮問，則掩口曰：「兒玉皇女，母不知耶？」

無何，公擢京卿。五十餘每患無孫。女居三年，夜夜與公子異寢，似未嘗有所私。夫人異榻去，囑公子與婦同寢。過數日，公子告母曰：「借榻去，悍不還！小翠夜夜以足股加腹上，喘氣不得；又慣掐人股里。」婢媼無不粲然。夫人呵拍令去。一日女浴於室，公子見之，欲與偕；女笑止之，諭使姑待。既去，乃更瀉熱湯於甕，解其袍褲，與婢扶之入。公子覺蒸悶，大呼欲出。女不聽，以衾蒙之。少時無聲，啟視已絕。女坦笑不驚，曳置床上，拭體乾潔，加復被焉。夫人聞之，哭而入，罵曰：「狂婢何殺吾兒！」女靦然曰：「如此癡兒，不如勿有。」夫人益恚，以首觸女；婢輩爭曳勸之。方紛噪間，一婢告曰：「公子呻矣！」輟涕撫之，則氣息休休，

而大汗浸淫，沾浹裊褥。食頃汗已，忽開目四顧，遍視家人，似不相識，曰：「我今回憶往昔，都如夢寐，何也？」夫人以其言語不癡，大異之。攜參其父，屢試之果不癡，大喜，如獲異寶。至晚，還榻故處，更設衾枕以覘之。公子入室，盡遣婢去。早窺之，則榻虛設。自此癡顛皆不復作，而琴瑟靜好如形影焉。

年餘，公為給諫之黨，奏劾免官，小有掛誤。舊有廣西中丞所贈玉瓶，價累千金，將出以賄當路。女愛而把玩之，失手墮碎，慚而自投。公夫婦方以免官不快，聞之，怒，交口呵罵。女奮而出，謂公子曰：「我在汝家，所保全者不止一瓶，何遂不少存面目？實與君言：我非人也。以母遭雷霆之劫，深

受而翁庇翼；又以我兩人有五年夙分，故以我來報曩恩、了夙願耳。身受唾罵、擢發不足以數，所以不即行者，五年之愛未盈。今何可以暫止乎！盛氣而出，追之已杳。公爽然自失，而悔無及矣。公子入室，睹其剩粉遺鈎，慟哭欲死；寢食不甘，日就羸瘁。公大憂，急為膠續以解之，而公子不樂。惟求良工畫小翠像，日夜澆禱其下，幾二年。

偶以故自他裏歸，明月已皎，村外有公家亭園，騎馬墻外過，聞笑語聲，停轡，使廝卒捉鞵，登鞍一望，則二女郎游戲其中。雲月昏蒙，不甚可辨，但聞一翠衣者曰：「婢子當逐出門！」一紅衣者曰：「汝在吾家園亭，反逐阿誰？」翠衣人曰：「婢子不羞！不能作婦，被人驅遣，猶冒認物產也？」

紅衣者曰：「索勝老大婢無主顧者！」聽其音酷類小翠，疾呼之。翠衣人去曰：「姑不與若爭，汝漢子來矣。」既而紅衣人來，果小翠。喜極。女令登垣承接而下之，曰：「二年不見，骨瘦一把矣！」公子握手泣下，具道相思。女言：「妾亦知之，但無顏復見家人。今與大姊遊戲，又相邂逅，足知前因不可逃也。」請與同歸，不可；請止園中，許之。公子遣僕奔白夫人。夫人驚起，駕肩輿而往，啟鑰入亭。女即趨下迎拜；夫人捉臂流涕，力白前過，幾不自容，曰：「若不少記榛梗，請偕歸慰我遲暮。」女峻辭不可。夫人慮野亭荒寂，謀以多人服役。女曰：「我諸人悉不願見，惟前兩婢朝夕相

從，不能無眷注耳；外惟一老僕應門，餘都無所復須。」夫人悉如其言。托公子養痾園中，日供食用而已。

女每勸公子別婚，公子不從。後年餘，女眉目音聲漸與曩異，出像質之，迥若兩人。大怪之。女曰：「視妾今日何如疇昔美？」公子曰：「今日美則美矣，然較疇昔則似不如。」女曰：「意妾老矣！」公子曰：「二十餘歲何得速老！」女笑而焚圖，救之已燼。一日謂公子曰：「昔在家時，阿翁謂妾抵死不作繭，今親老君孤，妾實不能產，恐誤君宗嗣。請娶婦於家，旦晚侍奉公姑，君往來於兩間，亦無所不便。」公子然之，納幣於鍾太史之家。吉期將近，女為新人制衣履，齎送母所。及新人入門，則言貌舉止，與小翠無毫發之異。大奇

之。往至園亭，則女亦不知所在。問婢，婢出紅巾曰：「娘子暫歸寧，留此貽公子。」展巾，則結玉玦一枚，心知其不返，遂攜婢俱歸。雖頃刻不忘小翠，幸而對新人如覲舊好焉。始悟鍾氏之姻，女預知之，故先化其貌，以慰他日之思云。

異史氏曰：「一狐也，以無心之德，而猶思所報；而身受再造之福者，顧失聲於破甑，何其鄙哉！月缺重圓，從容而去，始知仙人之情亦更深於流俗也！」

七、三十四、金和尚

金和尚，諸城人，父無賴，以數百錢鬻於五蓮山寺。少頑鈍，不能肄清業，牧豬赴市若傭保。後本師死，稍有遺金，卷懷

離寺，作負販去。飲羊、登壟，計最工。數年暴富，買田宅於水坡里。

弟子繁有徒，食指日千計。繞里膏田千百畝。里中起第數十處，皆僧無人；即有亦貧無業，攜妻子，僦屋佃田者也。每一門內，四繚連屋，皆此輩列而居。僧舍其中，前有廳事，梁楹節梲，繪金碧，射人眼。堂上幾屏，晶光可鑒。又其後為內寢，朱簾繡幕，蘭麝充溢噴人。螺鈿雕檀為床，床上錦茵褥，褶疊大尺有咫。壁上美人、山水諸名跡，懸粘幾無隙處。一聲長呼，門外數十人轟應如雷，細纓革靴者皆烏集鵠立，受命皆掩口語，側耳以聽。客倉卒至，十餘筵可咄嗟辦，肥醴蒸薰，紛紛狼藉如霧霏。但不敢公然蓄歌妓，而狡童十數

輩，皆慧黠能媚人，皂紗纏頭，唱艷曲，聽睹亦頗不惡。金若一出，前後數十騎，腰弓矢相摩戛。奴輩呼之皆以「爺」；即邑人之若民，或「祖」之，「伯、叔」之，不以「師」，不以「上人」，不以禪號也。其徒出，稍稍殺於金，而風鬚雲轡，亦略於貴公子等。金又廣結納，即千里外呼吸亦可通，以此挾方面短長，偶氣觸之，輒惕自懼。而其為人，鄙不文，頂趾無雅骨。生平不奉一經持一咒，跡不履寺院，室中亦未嘗蓄鏡鼓，此等物門人輩弗及見，並弗及聞。凡僦屋者，婦女浮麗如京都，脂澤金粉，皆取給於僧；僧亦不之靳，以故里中不田而農者以百數。時而惡佃決僧首瘞床下，亦不甚窮詰，但逐去之，其積習然也。

金又買異姓兒，私子之。延儒師，教帖括業。兒聰慧能文，因令入邑庠；旋援例作太學生；未幾赴北闈，領鄉薦。由是金之名以「太公」噪。向之「爺」之者「太」之，膝席者皆垂手執兒孫禮。

無何，太公僧薨。孝廉緘經臥苫塊，北面稱孤；諸門人釋杖滿床榻；而靈幃後嚶嚶細泣，惟孝廉夫人一而已。士大夫婦咸華妝來，拏幃吊唁，冠蓋輿馬塞道路。殯日，棚閣雲連，幡□翳日。殉葬芻靈，飾以金帛，輿蓋儀仗數十事，馬千匹，美人百袂皆如生。方弼、方相，以紙殼制巨人，皂帕金鎧，空中而橫以木架，納活人內負之行。設機轉動，須眉飛舞，日光鑠閃，如將叱吒。觀者驚怪，或小兒女遙望之，

輒啼走。冥宅壯麗如宮闕，樓閣房廊連垣數十畝，千門萬戶，入者迷不可出。祭品象物，多難指名。會葬者蓋相摩，上白方面，皆偃僂入，起拜如朝儀；下至貢監簿史，則手據地以叩，不敢勞公子，勞諸師叔也。

當是時，傾國瞻仰，男女喘汗屬於道，攜婦襁兒，呼兄覓妹者聲鼎沸。雜以鼓樂喧豗，百戲鞞鞞，人語都不可聞。觀者自肩以下皆隱不見，惟萬頂攢動而已。有孕婦痛急欲產，諸女伴張裙為幄羅守之；但聞兒啼，不暇問雌雄，斷幅繃懷中，或扶之，或曳之，整躉以去。奇觀哉！

葬後，以金所遺買產，瓜分而二之：子一，門人一。孝廉得半，而居第之南、之北、之東西，盡緇黨；然皆兄弟敘，痛癢又相關雲。

異史氏曰：「此一派也，兩宗未有，六祖無傳，可謂獨闢法門者矣。抑聞之：五蘊皆空，六塵不染，是謂『和尚』；口中說法，座上參禪，是謂『和樣』；鞋香楚地，笠重吳天，是謂『和撞』；鼓鉦鐃聒，笙管敖曹，是謂『和唱』；狗苟鉗緣，蠅營淫賭，是謂『和幃』。金也者，『尚』耶？『樣』耶？『唱』耶？『撞』耶？抑地獄之『幃』耶？」

七、三十五、龍戲蛛

徐公為齊東令。署中有樓，用藏肴餌，往往被物竊食，狼藉於地。家人屢受譙責，因伏伺之。見一蜘蛛大如斗，駭走白公。公以為異，日遣婢輩投餌焉。蛛益馴，饑輒出依人，飽而後去。積年餘，公偶閱案牘，蛛忽來伏幾上。疑其饑，方呼家人取餌，旋見兩蛇夾蛛臥，細裁如箸，蛛爪蜷腹縮，若不勝懼。轉瞬間，蛇暴長粗於卵。大駭欲走。巨霆大作，合家震斃。移時公蘇，夫人及婢僕擊死者七人。公病月餘，尋卒。公為人廉正愛民，柩發之日，民斂錢以送，哭聲滿野。異史氏曰：「龍戲蛛，每意是里巷之訛言耳，乃真有之乎？」

聞雷霆之擊，必於兇人，奈何以循良之吏，罹此慘毒？天公之憤憤，不已多乎！

七、三十六、商婦

天津商人某，將賈遠方，往從富人貸資數百。為偷兒所窺，及夕，預匿室中以俟其歸。而商以是日良，負資竟發。偷兒伏久，但聞商人婦轉側床上，似不成眠。既而壁上一小門開，一室盡亮。門內有女子出，容齒少好，手引長帶一條，近榻授婦，婦以手卻之。女固授之；婦乃受帶，起懸梁上，引頸自縊。女遂去，壁扉亦闔。偷兒大驚，拔關遁去。

既明，家人見婦死，質諸官。官拘鄰人而鍛煉之，誣服成獄，不日就決。偷兒憤其冤，自首於堂，告以是夜所見。鞫之，情真，鄰人遂免。問其里人，言宅之故主曾有少婦經死，年齒容貌，與盜言悉符，因知是其鬼也。欲傳暴死者必求代替，其然歟？

七、三十七、閻羅宴

靜海邵生，家貧。值母初度，備牲酒祀於庭，拜已而起，則案上肴饌皆空。甚駭，以情告母。母疑其困乏不能為壽，故詭言之，邵默然無以自白。

無何，學使案臨，苦無資斧，薄貸而往。途遇一人，伏候道左，邀請甚殷。從去，見殿閣樓臺，彌亙街路。既入，一王者坐殿上，邵伏拜。王者霽顏命坐，即賜宴飲，因曰：「前過華居，廝僕輩道路饑渴，有叨盛饌。」邵愕然不解。王者曰：「我忤官王也。不記尊堂設帨之辰乎？」筵終，出白鏹一裹，曰：「豚蹄之擾，聊以相報。」受之而出，則宮殿人物一時都渺，惟有大樹數章，蕭然道側。視所贈則真金，秤之得五兩。考終，止耗其半，猶懷歸以奉母焉。

七、三十八、役鬼

山西楊醫，善針灸之術，又能役鬼。一出門，則捉騾操鞭者皆鬼物也。嘗夜自他歸，與友人同行。途中見二人來，修偉異常。友人大駭，楊便問：「何人？」答云：「長腳王」大頭李，敬迓主人。」楊曰：「為我前驅。」二人旋踵而行，蹇緩則立候之，若奴隸然。

七、三十九、細柳

細柳娘，中都之士人女也。或以其腰嫋裊可愛，戲呼之「細柳」云。柳少慧，解文字，喜讀相人書。而生平簡默，未嘗言人臧否；但有問名者，必求一親窺其人。閱人甚多，俱未

可，而年十九矣。父母怒之曰：「天下迄無良匹，汝將以丫角老耶？」女曰：「我實欲以人勝天，顧久而不就，亦吾命也。今而後，請惟父母之命是聽。」

時有高生者，世家名士，聞細柳之名，委禽焉。既醮，夫婦甚得。生前室遺孤，小字長福，時五歲，女撫養周至。女或歸寧，福輒號啼從之，呵遣所不能止。年餘女產一子，名之長怙。生問名字之義，答言：「無他，但望其長依膝下耳。」女於女紅疏略，常不留意；而於畝之東南，稅之多寡，按籍而問，惟恐不詳。久之，謂生曰：「家中事請置勿顧，待妾自為之，不知可當家否？」生如言，半載而家無廢事，生亦賢之。一日，生赴鄰村飲酒，適有追逋賦者，打門而誅。遣

奴慰之，弗去。乃趣童召生歸。隸既去，生笑曰：「細柳，今始知慧女不若癡男耶？」女聞之，俯首而哭。生驚挽而勸之，女終不樂。生不忍以家政累之，仍欲自任，女又不肯。晨興夜寐，經紀彌勤。每先一年，即儲來歲之賦，以故終歲未嘗見催租者一至其門；又以此法計衣食，由此用度益紓。於是生乃大喜，嘗戲之曰：「細柳何細哉：眉細、腰細、凌波細，且喜心思更細。」女對曰：「高郎誠高矣：品高、志高、文字高，但願壽數尤高。」

村中有貨美材者，女不惜重直致之。價不能足，又多方乞貸於戚里。生以其不急之物，固止之，卒弗聽。蓄之年餘，富室有喪者，以倍資贖諸其門。生因利而謀諸女，女不可。問

其故，不語；再問之，熒熒欲涕。心異之，然不忍重拂焉，乃罷。又逾歲，生年二十有五，女禁不令遠游，歸稍晚，僮僕招請者，相屬於道。於是同人咸戲謗之。一日生如友人飲，覺體不快而歸，至中途墮馬，遂卒。時方溽暑，幸衣衾皆所夙備。里中始共服細娘智。

福年十歲始學為文。父既歿，嬌情不肯讀，輒亡去從牧兒遨。譙訶不改，繼以夏楚，而頑冥如故。母無奈之，因呼而諭之曰：「既不願讀，亦復何能相強？但貧家無冗人，便更若衣，使與僮僕共操作。不然，鞭撻勿悔！」於是衣以敗絮，使牧豕；歸則自掇陶器，與諸僕啖飯粥。數日，苦之，泣跪庭下，願仍讀。母返身向壁置不聞，不得已執鞭啜泣而出。殘秋向

盡，桁無衣，足無履，冷雨沾濡，縮頭如丐。里人見而憐之，納繼室者皆引細娘為戒，嘖有煩言。女亦稍稍聞之，而漠不為意。福不堪其苦，棄豕逃去，女亦任之，殊不追問。積數月，乞食無所，憔悴自歸，不敢遽入，哀求鄰媪往白母。女曰：「若能受百杖可來見，不然，早復去。」福聞之，驟入，痛哭願受杖。母問：「今知改悔乎？」曰：「悔矣。」曰：「既知悔，無須撻楚，可安分牧豕，再犯不宥！」福大哭曰：「願受百杖，請復讀。」女不聽。鄰媪憇患之，始納焉。濯發授衣，令與弟怙同師。勤身銳慮，大異往昔，三年游泮。中丞楊公見其文而器之，月給常廩，以助燈火。

怙最鈍，讀數年不能記姓名。母令棄卷而農。怙游閑憚於作苦，母怒曰：「四民各有本業，既不能讀，又不能耕，寧不溝瘠死耶？」立杖之。由是率奴輩耕作，一朝晏起，則詬罵從之；而衣服飲食，母輒以美者歸兄。怙雖不敢言，而心竊不能平。農工既畢，母出資使學負販。怙淫賭，入手喪敗，詭托盜賊運數，以欺其母。母覺之，杖責瀕死。福長跪哀乞，願以身代，怒始解。自是一出門，母輒探察之。怙行稍斂，而非其心之所得已也。一日請母，將從諸賈入洛；實借遠游，以快所欲，而中心惕惕，惟恐不遂所請。母聞之，殊無疑慮，即出碎金三十兩為之具裝；末又以鋌金一枚付之，曰：「此乃祖宦囊之遺，不可用去，聊以壓裝備急可耳。且汝初學跋

涉，亦不敢望重息，只此三十金得無虧負足矣。」臨又囑之。怙諾而出，欣欣意自得。至洛，謝絕客侶，宿名娼李姬之家。凡十餘夕散金漸盡，自以巨金在囊，初不意空匱在慮，及取而所之則偽金耳。大駭，失色。李媪見其狀，冷語侵客。怙心不自安，然囊空無所向往，猶翼姬念夙好，不即絕之。俄有二人握索入，驟繫項領，驚懼不知所為。哀問其故，則姬已竊偽金去首公庭矣。至官不能置辭，梏掠幾死。收獄中，又無資斧，大為獄吏所虐，乞食於囚，苛延餘息。

初，怙之行也，母謂福曰：「記取廿日後，當遣汝之洛。我事煩，恐忽忘之。」福不知所謂，黯然欲悲，不敢復請而退。過二十日而問之，嘆曰：「汝弟今日之浮蕩，猶汝昔日之廢

學也。我不冒惡名，汝何以有今日？人皆謂我忍，但淚浮枕簟，而人不知耳！」因泣下。福侍立敬聽，不敢研詰。泣已，乃曰：「汝弟蕩心不死，故授之偽金以挫折之，今度已在縲紲中矣。中丞待汝厚，汝往求焉，可以脫其死難，而生其愧悔也。」福立刻而發。比入洛，則弟被逮三日矣。即獄中而望之，怙奄然面目如鬼，見兄涕不可仰。福亦哭。時福為中丞所寵異，故遐邇皆知其名。邑宰知為怙兄，急釋之。

怙至家，猶恐母怒，膝行而前。母顧曰：「汝願遂耶？」怙零涕不敢復作聲，福亦同跪，母始叱之起。由是痛自悔，家中諸務，經理維勤；即偶惰，母亦不呵問之。凡數月，並不與言商賈，意欲自請而不敢，以意告兄。母聞而喜，並力質

貸而付之，半載而息倍焉。是年福秋捷，又三年登第；弟貨殖累巨萬矣。邑有客洛者，窺見太夫人，年四旬猶若三十許人，而衣妝樸素，類常家云。

異史氏曰：「黑心符出，蘆花變生，古與今如一丘之貉，良可哀也！或有避其謗者，又每矯枉過正，至坐視兒女之放縱而不一置問，其視虐遇者幾何哉？獨是日撻所生，而人不以為暴；施之異腹兒，則指摘從之矣。夫細柳固非獨忍於前子也；然使所出賢，亦何能出此心以自白於天下？而乃不引嫌，不辭謗，卒使二子一富一貴，表表於世。此無論閨闈，當亦丈夫之錚錚者矣！」

# 八、卷八

## 八、一、畫馬

臨清崔生家屢貧，圍垣不修，每晨起。輒見一馬臥露草間，黑質白章；惟尾毛不整，似火燎斷者。逐去，夜又復來，不知所自。崔有好友官於晉，欲往就之，苦無健步，遂捉馬施勒乘去，囑家人曰：「倘有尋馬者，當如以告。」既就途，馬驚駛，瞬息百里。夜不甚燄芻豆，意其病。次日緊銜不令馳，而馬蹄嘶噴沫，健怒如昨。復縱之，午已達晉。時騎入市廛，觀者無不稱嘆。晉王聞之，以重直購之。崔恐為失者所尋，不敢售。

居半年，無耗，遂以八百金貨於晉邱，乃自市健騾歸。後王以急務，遣校尉騎赴臨清。馬逸，追至崔之東鄰，入門不見。索諸主人，主會姓，實莫之睹。及入室，見壁間掛子昂畫馬一幀，內一匹毛色渾似，尾處為香炷所燒，始知馬，畫妖也。校尉難復王命，因訟會。時崔得馬資，居積盈萬，自願以直貸會，付校尉去。會甚德之，不知崔即當年之售主也。

### 八、一一、局詐

某御史家人，偶立市間，有一人衣冠華好，近與攀談。漸問主人姓字、官閥，家人並告之。其人自言：「王姓，貴主家之內使也。」語漸款洽，因曰：「宦途險惡，顯者皆附貴戚之門，

尊主人所托何人也？」答曰：「無之。」王曰：「此所謂惜小費而忘大禍者也。」家人曰：「何托而可？」王曰：「公主待人以禮，能覆翼人。某侍郎系僕階進。倘不惜千金贄，見公主當亦不難。」家人喜，問其居止。便指其門戶曰：「日同巷不知耶？」家人歸告侍御。侍禦喜，即張盛筵，使家人往邀王。王欣然來。筵間道公主情性及起居瑣事甚悉，且言：「非同巷之誼，即賜百金賞，不肯效牛馬。」御史益佩戴之。臨別訂約，王曰：「公但備物，僕乘間言之，旦晚當有報命。」

越數日始至，騎駿馬甚都，謂侍御曰：「可速治裝行。公主事大煩，投謁者踵相接，自晨及夕，不得一間。今得一間，宜急往，誤則相見無期矣。」侍御乃出兼金重幣，從之去。曲

折十餘里，始至公主第，下騎祇候。王先持贄入。久之，出，宣言：「公主召某御史。」即有數人接遞傳呼。侍御偃僂而入，見高堂上坐麗人，姿貌如仙，服飾炳耀；侍姬皆著錦繡，羅列成行。侍御伏謁盡禮，傳命賜坐簷下，金碗進茗。主略致溫旨，侍御肅而退。自內傳賜緞靴、貂帽。

既歸，深德王，持刺謁謝，則門闔無人，疑其侍主未復。三日三詣，終不復見。使人詢諸貴主之門，則高扉扃錮。訪之居人，並言：「此間曾無貴主。前有數人僦屋而居，今去已三日矣。」使反命，主僕喪氣而已。

副將軍某，負資入都，將圖握篆，苦無階。一日有裘馬者謁之，自言：「內兄為天子近侍。」茶已，請問云：「日下有某

處將軍缺，倘不吝重金，僕囑內兄游揚聖主之前，此任可致，大力者不能奪也。」某疑其妄。其人曰：「此無須踟躕。某不過欲抽小數於內兄，於將軍錙銖無所望。言定如乾數，署券為信。待召見後方求實給，不效則汝金尚在，誰從懷中而攫之耶？」某乃喜，諾之。

次日復來引某去，見其內兄云：「姓田。」煊赫如侯家。某參謁，殊傲睨不甚為禮。其人持券向某曰：「適與內兄議，率非萬金不可，請即署尾。」某從之。田曰：「人心叵測，事後慮有反復。」其人笑曰：「兄慮之過矣。既能予之，寧不能奪之耶？且朝中將相，有願納交而不可得者。將軍前程方遠，

應不喪心至此。」某亦力矢而去。其人送之，曰：「三日即復公命。」

逾兩日，日方西，數人吼奔而入，曰：「聖上坐待矣！」某驚甚，疾趨入朝。見天子坐殿上，爪牙森立。某拜舞已。上命賜坐，慰問殷勤，顧左右曰：「聞某武烈非常，今見之，真將軍才也！」因曰：「某處險要地，今以委卿，勿負朕意，侯封有日耳。」某拜恩出。即有前日裘馬者從至客邸，依券兌付而去。於是高枕待綬，日誇榮於親友。過數日探訪之，則前缺已有人矣。大怒，忿爭於兵部之堂，曰：「某承帝簡，何得授之他人？」司馬怪之。及述寵遇，半如夢境。司馬怒，執

下廷尉。始供其引見者之姓名，則朝中並無此人。又耗萬金，始得革職而去。

異哉！武弁雖駭，豈朝門亦可假耶？疑其中有幻術存焉，所謂「大盜不操矛弧」者也。

嘉祥李生，善琴。偶適東郊，見工人掘土得古琴，遂以賤直得之。拭之有異光，安弦而操，清烈非常。喜極，若獲拱璧，貯以錦囊，藏之密室，雖至戚不以示也。

邑丞程氏新蒞任，投刺謁李。李故寡交游，以其先施故，報之。過數日又招飲，固請乃往。程為人風雅絕倫，議論瀟灑，李悅焉。越日折柬酬之，歡笑益洽。從此月夕花晨，未嘗不

相共也。年餘，偶於丞廨中，見繡囊裏琴置幾上，李便展玩。程問：「亦諳此否？」李曰：「生平最好。」程訝曰：「知交非一日，絕技胡不一聞？」撥爐爇沉香，請為小奏。李敬如教。程曰：「大高手！願獻薄技，勿笑小巫也。」遂鼓《御風曲》，其聲泠泠，有絕世出塵之意。李更傾倒，願師事之。自此二人以琴交，情分益篤。

年餘，盡傳其技。然程每詣李，李以常琴供之，未肯洩所藏也。一夕薄醉，承曰：「某新肄一曲，亦願聞之乎？」為秦《湘妃》，幽怨若泣。李亟贊之。承曰：「所恨無良琴；若得良琴，音調益勝。」李欣然曰：「僕蓄一琴，頗異凡品。今遇鍾期，何敢終密？」乃啟櫝負囊而出。程以袍袂拂塵，憑幾

再鼓，剛柔應節，工妙入神。李擊節不置。丞曰：「區區拙技，負此良琴。若得荆人一奏，當有一兩聲可聽者。」李驚曰：「公閨中亦精之耶？」丞笑曰：「適此操乃傳自細君者。」李曰：「恨在閨閣，小生不得聞耳。」丞曰：「我輩通家，原不以形跡相限。明日請攜琴去，當使隔簾為君奏之。」李悅。

次日抱琴而往。丞即治具歡飲。少間將琴入，旋出即坐。俄見簾內隱有麗妝，頃之，香流戶外。又少時弦聲細作，聽之，不知何曲；但覺蕩心媚骨，令人魂魄飛越。曲終便來窺簾，竟二十餘絕代之姝也。丞以巨白勸酌，內復改弦為《閑情之賦》，李形神益惑。傾飲過醉，離席興辭，索琴。丞曰：「醉後防有磋跌。明日復臨，當今閨人盡其所長。」李歸。

次日詣之，則廨舍寂然，惟一老隸應門。問之，云：「五更攜眷去，不知何作，言往復可三日耳。」如期往伺之，日暮，並無音耗。吏皂皆疑，白令破扃而窺其室，室盡空，惟幾榻猶存耳。達之上臺，並不測其何故。

李喪琴，寢食俱廢。不遠數千里訪諸其家。程故楚產，三年前，捐資受嘉祥。執其姓名，詢其居里，楚中並無其人。或云：「有程道士者善鼓琴，又傳其有點金術。三年前，忽去不復見。」疑即其人。又細審其年甲、容貌，吻合不謬。乃知道士之納官皆為琴也。知交年餘，並不言及音律；漸而出琴，漸而獻技，又漸而惑以佳麗；浸漬三年，得琴而去。道

士之癖，更甚於李生也。天下之騙機多端，若道士，騙中之風雅者矣。

八、三、放蝶

長山王進士料生為令時，每聽訟，按律之輕重，罰令納蝶白贖；堂上千百齊放，如風飄碎錦，王乃拍案大笑。一夜夢一女子，衣裳華好，從容而入，曰：「遭君虐政，姊妹多物故。當使君先受風流之小譴耳。」言已化為蝶，回翔而去。明日，方獨酌署中，忽報直指使至，皇遽而出，閨中戲以素花簪冠上，忘除之。直指見之，以為不恭，大受詬罵而返。由是罰蝶之令遂止。

青城於重寅，性放誕。為司理時，元夕以火花爆竹縛驢上，首尾並滿，牽登太守之門，擊柝而請，自白：「某獻火驢，幸出一覽。」時太守有愛子患痘，心緒方惡，辭之。於固請之。太守不得已，使闈人啟鑰。門甫闢，開火發機，推驢入。爆震驢驚，踉蹌狂奔；又飛火射人，人莫敢近。驢穿堂入室，破甌毀甑，火觸成塵，窗紗都燼。家人大嘩。痘兒驚陷，終夜而死。太守痛恨，將揭劾之。於浼諸司道，登堂負荊，乃免。

八、四、男生子

福建總兵楊輔有變童，腹震動。十月既滿，夢神人剖其兩脅去之。及醒，兩男夾左右啼。起視脅下，剖痕儼然。兒名之天舍、地舍云。

異史氏曰：「按此吳藩未叛前事也。吳既叛，閩撫蔡公疑楊欲圖之，而恐其為亂，以他故召之。楊妻夙智勇，疑之，沮楊行，楊不聽。妻涕而送之。歸則傳齊諸將，披堅執銳，以待消息。少間聞夫被誅，遂反攻蔡。蔡倉皇不知所為，幸標卒固守，不克乃去。去既遠，蔡始戎裝突出，率眾大噪。人傳為笑焉。後數年，盜乃就撫。未幾蔡暴亡；臨卒見楊操兵

入，左右亦皆見之。嗚呼！其鬼雖雄，而頭不可復續類！生子之妖，其兆於此耶？」

### 八、五、鐘生

鐘慶餘，遼東名士，應濟南鄉試。聞藩邸有道士知人休咎，心向往之。二場後至趵突泉，適相值。年六十餘，須長過胸，一皤然道人也。集間災祥者如堵，道士悉以微詞授之。於眾中見生，忻然握手，曰：「君心術德行，可敬也！」挽登閣上，屏人語，因問：「莫欲知將來否？」曰：「然。」曰：「子福命至薄，然今科鄉舉可望。但榮歸後，恐不復見尊堂矣。」生至孝，聞之泣下，遂欲不試而歸。道士曰：「若過此已往，

一榜亦不可得矣。」生云：「母死不見，且不可復為人，貴為卿相何加焉？」道士曰：「某夙世與君有緣，今日必合盡力。」乃以一丸授之曰：「可遣人夙夜將去，服之可延七日。場畢而行，母子猶及見也。」

生藏之，匆匆而出，神志喪失。因計終天有期，早歸一日，則多得一日之奉養，攜僕貫驢，即刻東邁。驅里許，驢忽返奔，下之不馴，控之則蹶。生無計，躁汗如雨。僕勸止之，生不聽。又貫他驢，亦如之。日已銜山，莫知為計。僕又勸曰：「明日即完場矣，何爭此一朝夕乎？請即先主而行，計亦良得。」不得已，從之。次日草草竣事，立時遂發，不遑啜息，星馳而歸。則母病綿惓，下丹藥，漸就痊可。入視之，

就榻泣。母搖首止之，執手喜曰：「適夢之陰司，見王者顏色和霽。謂稽爾生平，無大罪惡；今念汝子純孝，賜壽一紀。」生亦喜。歷數日，果平健如故。

未幾聞捷，辭母如濟。因賂內監，致意道士。道士欣然出，生便伏謁。道士曰：「君既高捷，太夫人又增壽數，此皆盛德所致。道人何力焉！」生又訝其先知，因而拜問終身。道士云：「君無大貴，但得耄耋足矣。君前身與我為僧侶，以石投犬，誤斃一蛙，今已投生為驢。論前定數，君當橫折；今孝德感神，已有解星入命，固當無恙。但夫人前世為婦不貞，數應少寡。今君以德延壽，非其所偶，恐歲後瑤臺傾

也。」生惻然良久，問繼室所在。曰：「在中州，今十四歲矣。」臨別囑曰：「倘遇危急，宜奔東南。」

後年餘，妻病果死。鐘舅令於西江，母遣往省，以便途過中州，將應繼室之讖。偶適一村。值臨河優戲，士女甚雜。方欲整轡趨過，有一失勒牡驢，隨之而行，致騾蹄跣。生回首以鞭擊驢耳，驢驚大奔。時有王世子方六七歲，乳媪抱坐堤上；驢沖過，扈從皆不及防，擠墮河中。眾大嘩，欲執之。生縱騾絕馳，頓憶道士言，極力趨東南。

約三十餘里，入一山村，有叟在門，下騎揖之。叟邀入，自言「方姓」，便詰所來。生叩伏在地，具以情告，叟言：「不妨。請即寄居此間，當使徼者去。」至晚得耗，始知為世子，

叟大駭曰：「他家可以為力。此真愛莫能助矣！」生哀不已。叟籌思曰：「不可為也。請過一宵，聽其緩急，倘可再謀。」生愁怖，終夜不枕。次日偵聽，則已行牒譏察，收藏者棄市。叟有難色，無言而入。生疑懼，無以自安。中夜叟來，入坐便問：「夫人年幾何矣？」生以鰥對。叟喜曰：「吾謀濟矣。」問之，答云：「余姊夫慕道，掛錫南山；姊又謝世。遺有孤女，從僕鞠養，亦頗慧。以奉箕帚如何？」生喜符道士之言，而又冀親戚密邇，可以得其周謀，曰：「小生誠幸矣。但遠方罪人，深恐貽累丈人。」叟曰：「此為君謀也。姊夫道術頗神，但久不與人事矣。合盍後，自與甥女籌之，必合有計。」生喜極，贅焉。

女十六歲，艷絕無雙。生母對之歛歔。女云：「妾即陋，何遂遽見嫌惡？」生謝曰：「娘子仙人，相偶為幸。但有禍患，恐致乖違。」因以實告。女怨曰：「舅乃非人！此彌天之禍，不可為謀，乃不明言，而陷我於坎窞！」生長跪曰：「是小生以死命哀舅，舅慈悲而窮於術，知卿能生死人而肉白骨也。某誠不足稱好逑，然家門幸不辱寞。倘得再生，香花供養有日耳。」女嘆曰：「事已至此，夫復何辭？然父自削發招提，兒女之愛已絕。無已同往哀之，恐擔挫辱不淺也。」乃一夜不寐，以氈綿厚作蔽膝，各以隱著衣底。然後喚肩輿，入南山十餘里。山徑拗折絕險，不復可乘。下輿，女跬步甚艱，生挽臂拽扶之，竭蹶始得上達。不遠，即見山門，共坐少憩。

女喘汗淫淫，粉黛交下。生見之，情不可忍，曰：「為某事，遂使卿罹此苦！」女愀然曰：「恐此尚未是苦！」困少蘇，相將入蘭若，禮佛而進。曲折入禪堂，見老僧趺坐，目若瞑，一僮執拂侍之。方丈中，掃除光潔；而坐前悉布沙礫，密如星宿。女不敢擇，入跪其上；生亦從諸其後。僧開目一瞻，即復合去。女參曰：「久不定省，今女已嫁，故偕婿來。」僧久之，啟視曰：「妮子大累人！」即不復言。夫妻跪良久，筋力俱殆，沙石將壓入骨，痛不可支。又移時，乃言曰：「將驟來未？」女答曰：「未。」曰：「夫妻即去，可速將來。」二人拜而起，狼狽而行。

既歸，如命，不解其意，但伏聽之。過數日，相傳罪人已得，伏誅訖。夫妻相慶。無何，山中遣僮來，以斷杖付生云：「代死者，此君也。」便囑瘞葬致祭，以解竹木之冤。生視之，斷處有血痕焉。乃祝而葬之。夫妻不敢久居，星夜歸遼陽。

## 八、六、鬼妻

泰安聶鵬云，與妻某，魚水甚諧。妻邁疾卒，聶坐臥悲思，忽忽若失。一夕獨坐，妻忽排扉入，聶驚問：「何來？」笑云：「妾已鬼矣。感君悼念，哀白地下主者，聊與作幽會。」聶喜，攜就床寢，一切無異於常。從此星離月會，積有年餘。聶亦不復言娶。伯叔兄弟懼墮宗主，私謀於族，勸聶鸞續，

聶從之，聘於良家。然恐妻不樂，秘之。未幾吉期逼邇，鬼知其情，責之曰：「我以君義，故冒幽冥之譴；今乃質盟不卒，鍾情者固如是乎？」聶述宗黨之意，鬼終不悅，謝絕而去。聶雖憐之，而計亦得也。

迨合卺之夕：夫婦俱寢，鬼忽至，就床上搗新婦，大罵：「何得占我床寢！」新婦起，方與擋拒。聶惕然赤蹲，並無敢左右袒。無何，雞鳴，鬼乃去。新婦疑聶妻故並未死，謂其賺己，投繯欲自縊。聶為之緬述，新婦始知為鬼。日夕復來，新婦懼避之。鬼亦不與聶寢，但以指掐膚肉；已乃對燭目怒相視，默默不語。如是數夕，聶患之。近村有良於術者，削桃為杙，釘墓四隅，其怪始絕。

八、七、黃將軍

黃靖南得功微時，與二孝廉赴都，途遇響寇。孝廉懼，長跪獻資。黃怒甚，手無寸鐵，即以兩手握騾足，舉而投之。寇不及防，馬倒人墮。黃拳之臂斷，搜橐而歸孝廉。孝廉服其勇，資勸從軍。後屢建奇功，遂腰蟒玉。

八、八、三朝元老

某中堂，故明相也。曾降流寇，世論非之。老歸林下，享堂落成，數人直宿其中，天明見堂上一匾云：「三朝元老。」一聯云：「一二三四五六七，孝弟忠信禮義廉。」不知何時所懸。怪之，不解其義。或測之云：「首句隱亡八，次句隱無

恥也。」洪經略南征，凱旋，至金陵，醮薦陣亡將士。有舊門人謁見，拜已，即呈文藝。洪久厭文事，辭以昏眊，其人云：「但煩坐聽，容某誦達上聞。」遂探袖出文，抗聲朗讀，乃故明思宗御制祭洪遼陽死難文也。讀畢，大哭而去。

## 八、九、醫術

張氏者，沂之貧民。途中遇一道士，善風鑿，相之曰：「子當以術業富。」張曰：「宜何從？」又顧之，曰：「醫可也。」張曰：「我僅識『之無』耳，烏能是？」道士笑曰：「迂哉！名醫何必多識字乎？但行之耳。」既歸，貧無業，乃捷拾海

上方，即市廛中除地作肆，設魚牙蜂房，謀升斗於口舌之間，而人亦未之奇也。

會青州太守病嗽，牒檄所屬徵醫。沂故山僻少醫工，而令懼無以塞責，又責里中使自報。於是共舉張，令立召之。張方痰喘不能自療，聞命大懼，固辭。令弗聽，卒郵送之去。路經深山，渴極，咳愈甚。入村求水，而出中水價與玉液等，遍乞之無與者。見一婦漉野菜，菜多水寡，盎中濃濁如涎。張燥急難堪，便乞餘沈飲之。少間渴解，嗽亦頓止。陰念：殆良方也。比至郡，諸邑醫工已先施治，並未痊減。張入求密所，偽作藥目，傳示內外；復遣人於民間索諸藜藿，如法

淘汰訖，以汁進太守。一服病良已，太守大悅，賜賚甚厚，旌以金匾。

由此名大噪，門常如市，應手無不悉效。有病傷寒者，言癘求方。張適醉，誤以瘧劑予之。醒而悟，不敢以告人。三日後有盛儀造門而謝者，問之，則傷寒之人，大吐大下而愈矣。此類甚多。張由此稱素封，益以聲價自重，聘者非重資安輿不至焉。

益都韓翁，名醫也。其未著時，貨藥於四方。暮無所宿，投止一家，則其子傷寒將死，因請施治。韓思不治則去此莫適，而治之誠無術。往復趾躄，以手搓體，而汗垢成片，捻之如丸。頓思以此給之，當亦無所害。曉而不愈，已賺得寢食安

飽矣。遂付之。中夜主人搗門甚急，意其子死，恐被侵辱，驚起，逾垣疾遁。主人追之數里，韓無所逃始止。乃知病者汗出而愈矣。挽回，款宴豐隆；臨行，厚贈之。

## 八、十、藏虱

鄉人某者，偶坐樹下，捫得一虱，片紙裹之，塞樹孔中而去。後二三年，復經其處，忽憶之，視孔中紙裹宛然。發而驗之，虱薄如麩。置掌中審顧之。少頃，覺掌中奇癢，而虱腹漸盈矣。置之而歸。癢處核起，腫數日，死焉。

八、十一、夢狼

白翁，直隸人。長子甲筮仕南服，二年無耗。適有瓜葛，丁姓造謁，翁款之。丁素走無常。談次，翁輒問以冥事，丁對語涉幻；翁不深信，但微哂之。

別後數日，翁方臥，見丁又來，邀與同游。從之去，入一城闕，移時，丁指一門曰：「此間君家甥也。」時翁有姊子為晉令，訝曰：「烏在此？」丁曰：「倘不信，入便知之。」翁入，果見甥，蟬冠豸繡生堂上，戟幢行列，無人可通。丁曳之出，曰：「公子衙署，去此不遠，亦願見之否？」翁諾。少間至一第，丁曰：「人之。」窺其門，見一巨狼當道，大懼不

敢進。丁又曰：「入之。」又入一門，見堂上、堂下，坐者、臥者，皆狼也。又視墀中，白骨如山，益懼。丁乃以身翼翁而進。公子甲方自內出，見父及丁良喜。少坐，喚侍者治肴蔌。忽一巨狼，銜死人入。翁戰惕而起，曰：「此胡為者？」甲曰：「聊充庖廚。」翁急止之。心怔忡不寧，辭欲出，而群狼阻道。進退方無所主，忽見諸狼紛然嗥避，或竄床下，或伏幾底。錯愕不解其故，俄有兩金甲猛士努目入，出黑索索甲。甲撲地化為虎，牙齒巉巉，一人出利劍，欲梟其首。一人曰：「且勿，且勿，此明年四月間事，不如姑敲齒去。」乃出巨錘錘齒，齒零落墮地。虎大吼，聲震山嶽。翁大懼，忽醒，乃知其夢。心異之，遣人招丁，丁辭不至。翁志其夢，使

次子詣甲，函戒哀切。既至，見兄門齒盡脫；駭而問之，醉中墜馬所折，考其時則父夢之曰也。益駭。出父書。甲讀之變色，間曰：「此幻夢之適符耳，何足怪。」時方賂當路者，得首薦，故不以妖夢為意。弟居數日，見其蠹役滿堂，納賄關說者中夜不絕，流涕諫止之。甲曰：「弟曰居衡茅，故不知仕途之關竅耳。黜陟之權，在上臺不在百姓。上臺喜，便是好官；愛百姓，何術能令上臺喜也？」弟知不可勸止，遂歸告父，翁聞之大哭。無可如何，惟捐家濟貧，日禱於神，但求逆子之報，不累妻孥。

次年，報甲以薦舉作吏部，賀者盈門；翁惟歛歔，伏枕托疾不出。未幾，聞子歸途遇寇，主僕殞命。翁乃起，謂人

曰：「鬼神之怒，止及其身，祐我家者不可謂不厚也。」因焚香而報謝之。慰藉翁者，咸以為道路訛傳，惟翁則深信不疑，刻日為之營兆。而甲固未死。先是四月間，甲解任，甫離境，即遭寇，甲傾裝以獻之。諸寇曰：「我等來，為一邑之民洩冤憤耳，寧專為此哉！」遂決其首。又問家人：「有司大成者誰是？」司故甲之腹心，助紂為虐者。家人共指之，賊亦殺之。更有蠹役四人，甲聚斂臣也，將攜入都。——並搜決訖，始分資入囊，駑馳而去。

甲魂伏道旁，見一宰官過，問：「殺者何人？」前驅者曰：「某縣白知縣也。」宰官曰：「此白某之子，不宜使老後見此兇慘，宜續其頭。」即有一人掇頭置腔上，曰：「邪人不宜使

正，以肩承領可也。」遂去。移時復蘇。妻子往收其尸，見有餘息，載之以行；從容灌之，亦受飲。但寄旅邸，貧不能歸。半年許，翁始得確耗，遣次子致之而歸。甲雖復生，而目能自顧其背，不復齒人數矣。翁姊子有政聲，是年行取為御史，悉符所夢。

異史氏曰：「竊嘆天下之官虎而吏狼者，比比也。即官不為虎，而吏且將為狼，況有猛於虎者耶！夫人患不能自顧其後耳；蘇而使之自顧，鬼神之教微矣哉！」

鄒平李進士匡九，居官頗廉明。常有富民為人羅織，門役嚇之曰：「官索汝二百金，宜速辦；不然，敗矣！」富民懼，諾備半數。役搖手不可，富民苦哀之，役曰：「我無不極力，但

恐不允耳。待聽鞫時，汝目睹我為若白之，其允與否，亦可明我意之無他也。」少間，公按是事。役知李戒煙，近問：「飲煙否？」李搖其首。役即趨下曰：「適言其數，官搖首不許，汝見之耶？」富民信之，懼，許如數。役知李嗜茶，近問：「飲茶否？」李頷之。役托烹茶，趨下曰：「諧矣！適首肯，汝見之耶？」既而審結，富民果獲免，役即收其苞苴，且索謝金。嗚呼！官自以為廉，而罵其貪者載道焉。此又縱狼而不自知者矣。世之如此類者更多，可為居官者備一鑒也。

又，邑宰楊公，性剛鯁，撻其怒者必死；尤惡隸皂，小過不宥。每凜坐堂上，胥吏之屬無敢咳者。此屬間有所白，必反而用之。適有邑人犯重罪，懼死。一吏索重賂，為之緩頰。

邑人不信，且曰：「若能之，我何靳報焉！」乃與要盟。少頃，公鞫是事。邑人不肯服。吏在側呵語曰：「不速實供，大人械梏死矣！」公怒曰：「何知我必械梏之耶？想其賂未到耳。」遂責吏，釋邑人。邑人乃以白金報吏。要知狼詐多端，此輩敗我陰謀，甚至喪我身家。不知居官者作何心腑，偏要以赤子飼麻胡也！

### 八、十二、夜明

有賈客泛於南海。三更時舟中大亮似曉。起視，見一巨物，半身出水上，儼若山岳；目如兩日初升，光明四射，大地皆明。駭問舟人，並無知者。共伏瞻之。移時漸縮入水，乃復

晦。後至閩中，俱言某夜明而復昏，相傳為異。計其時，則舟中見怪之夜也。

八、十三、夏雪

丁亥年七月初六日，蘇州大雪。百姓皇駭，共禱諸大王之廟。大王忽附人而言曰：「如今稱老爺者皆增一大字；其以我神為小，消不得一大字耶？」眾悚然，齊呼「大老爺」，雪立止。由此觀之，神亦喜諂，宜乎治下部者之得車多矣。異史氏曰：「世風之變也，下者益諂，上者益驕。即康熙四十餘年中，稱謂之不古，甚可笑也。舉人稱爺，二十年始；進士稱老爺，三十年始；司、院稱大老爺，二十五年始。昔者

大令謁中丞，亦不過老大人而止；今則此稱久廢矣。即有君子，亦素諂媚行乎諂媚，莫敢有異詞也。若縉紳之妻呼太太，裁數年耳。昔惟縉紳之母，始有此稱；以妻而得此稱者，惟淫史中有喬林耳，他未之見也。唐時上欲加張說大學士，說辭曰：『學士從無大名，臣不敢稱。』今之大，誰大之？初由於小人之諂，而因得貴倨者之悅，居之不疑，而紛紛者遂遍天下矣。竊意數年以後，稱爺者必進而老，稱老者必進而大，但不知大上造何尊稱？匪夷所思已！』

丁亥年六月初三日，河南歸德府大雪尺餘，禾皆凍死，惜乎其未知媚大王之術也。悲夫！

八、十四、化男

蘇州木瀆鎮，有民女夜坐庭中，忽星隕中顛，僕地而死。其父母老而無子，止此女，哀呼急救。移時始蘇，笑曰：「我今為男子矣！」驗之果然。其家不以為妖，而竊喜其得丈夫子也。此丁亥間事。

八、十五、禽俠

天津某寺，鸛鳥巢於鴟尾。殿承塵上，藏大蛇如盆，每至鸛雛團翼時，輒出吞食盡。鸛悲鳴數日乃去。如是三年，人料其必不復至，次歲巢如故。約雛長成，即徑去，二三日始還，入巢啞啞，哺子如初。蛇又蜿蜒而上。甫近巢，兩鸛驚，飛

鳴哀急，直上青冥。俄聞風聲蓬蓬，一瞬間天地似晦。眾駭異，共視一大鳥翼蔽天日，從空疾下，驟如風雨，以爪擊蛇，蛇首立墮，連催殿角數尺許，振翼而去。鶴從其後，若將送之。巢既傾，兩雛俱墮，一生一死。僧取生者置鐘樓上。少頃鶴返，仍就哺之，翼成而去。

異史氏曰：「次年復至，蓋不料其禍之復也；三年而巢不移，則報仇之計已決；三日不返，其去作秦庭之哭，可知矣。大鳥必羽族之劍仙也，飄然而來，一擊而去，妙手空空兒何以加此？」

濟南有營卒，見鶴鳥過，射之，應弦而落。喙中銜魚，將哺子也。或勸拔矢放之，卒不聽。少頃帶矢飛去。後往來郭間

兩年餘，貫矢如故。一日卒坐轅門下，鶴過，矢墜地。卒拾視曰：「矢固無恙耶？」耳適癢，因以矢搔耳。忽大風催門，門驟闔，觸矢貫腦而死。

### 八、十六、鴻

天津弋人得一鴻，其雄者隨至其家，哀鳴翱翔，抵暮始去。次日弋人早出，則鴻已至，飛號從之；既而集其足下。弋人將並捉之。見其伸頸俯仰，吐出黃金半錠。弋人悟其意，乃曰：「是將以贖婦也。」遂釋雌。兩鴻徘徊，若有悲喜，遂雙飛而去。弋人稱金，得二兩六錢強。噫！禽鳥何知，而鍾情若此！悲莫悲於生別離，物亦然耶？

八、十七、象

粵中有獵獸者，挾矢如山。偶臥憩息，不覺沉睡，被象鼻攝而去。自分必遭殘害。未幾釋置樹下，頓首一鳴，群象紛至，四面旋繞，若有所求。前象伏樹下，仰視樹而俯視人，似欲其登。獵者會意，即足踏象背，攀援而升。雖至樹巔，亦不知其意向所存。少時有狻猊來，眾象皆伏。狻猊擇一肥者，意將搏噬，象戰慄，無敢逃者，惟共仰樹上，似求憐拯。獵者會意，因望狻猊發一弩，狻猊立殪。諸象瞻空，意若拜舞，獵者乃下，象復伏，以鼻牽衣，似欲其乘，獵者隨跨身其上。象乃行至一處，以蹄穴地，得脫牙無算。獵人下，束治置象背。象乃負送出山，始返。

八、十八、負尸

有樵夫赴市，荷杖而歸，忽覺杖頭如有重負。回顧見一無頭人懸系其上，大驚。脫杖亂擊之，遂不復見。駭奔至一村，時已昏暮，有數人爇火照地，似有所尋。近問訊，蓋眾適聚坐，忽空中墮一人頭，須發蓬然，倏忽已渺。樵人亦言所見，合之適成一人，究不解其何來。後有人荷籃而行，忽見其中有人頭，人訝詰之，始大驚，傾諸地上，宛轉而沒。

八、十九、紫花和尚

諸城丁生，野鶴公之孫也。少年名士，沉病而死，隔夜復蘇，曰：「我悟道矣。」時有僧善參玄，遣人邀至，使就榻前講

《楞嚴》。生每聽一節，都言非是，乃曰：「使吾病痊，證道何難。惟某生可愈吾疾，宜虔請之。」蓋邑有某生者，精岐黃而不以術行，三聘始至，疏方下藥，病愈。既歸，一女子自外入，曰：「我董尚書府中侍兒也。紫花和尚與妾有夙冤，今得追報，君又活之耶？再往，禍將及。」言已遂沒。某懼，辭丁。丁病復作，固要之，乃以實告。丁嘆曰：「孽自前生，死吾分耳。」尋卒。後尋諸人，果有紫花和尚，高僧也，青州董尚書夫人嘗供養家中；亦無有知其冤之所自結者。

八、二十、周克昌

淮上貢生周天儀，年五旬，止一子，名克昌，愛暱之。至十三四歲，豐姿益秀；而性不喜讀，輒逃塾從群兒戲，恆終日不返。周亦聽之。一日既暮不歸，始尋之，殊竟烏有。夫妻號啕，幾不欲生。

年餘昌忽自至，言：「為道士迷去，幸不見害。值其他出，得逃而歸。」周喜極，亦不追問。及教以讀，慧悟倍於曩疇。逾年文思大進，既入郡庠試，遂知名。世族爭婚，昌頗不願。趙進士女有姿，周強為娶之。既入門，夫妻調笑甚歡；而昌恆獨宿，若無所私。逾年秋戰而捷，周益慰。然年漸暮，日

望抱孫，故嘗隱諷昌，昌漠若不解。母不能忍，朝夕多絮語。昌變色出曰：「我久欲亡去，所不遽舍者，顧復之情耳。實不能探討房帷以慰所望。請仍去，彼順志者且復來矣。」媪追曳之，已踣，衣冠如蛻。大駭，疑昌已死，是必其鬼也。悲嘆而已。

次日昌忽僕馬而至，舉家惶駭。近詰之，亦言：為惡人略賣於富商之家，商無子，子焉。得昌後，忽生一子。昌思家，遂送之歸。問所學，則頑鈍如昔。乃知此為昌；其入泮鄉捷者鬼之假也。然竊喜其事未洩，即使襲孝廉之名。入房，婦甚狎熟；而昌靦然有忤色，似新婚者。甫周年，生子矣。異史氏曰：「古言庸福人，必鼻口眉目間具有少庸，而後福隨

之；其精光陸離者鬼所棄也。庸之所在，桂籍可以不入闈而通，佳麗可以不親迎而致；而況少有憑借，益之以鈞窺者乎！

八、二十一、嫦娥

太原宗子美，從父游學，流寓廣陵。父與紅橋下林媪有素。一日父子過紅橋，遇之，固請過諸其家，淪茗共話。有女在旁，殊色也。翁亟贊之，媪顧宗曰：「大郎溫婉如處子，福相也。若不鄙棄，便奉箕帚，如何？」翁笑，促子離席，使拜媪曰：「一言千金矣！」先是媪獨居，女忽自至，告訴孤苦。問其小字，則名嫦娥。媪愛而留之，實將奇貨居之也。

時宗年十四，睨女竊喜，意翁必媒定之，而翁歸若忘，心灼熱，隱以白母。翁笑曰：「曩與貧婆子戲耳。彼不知將賣黃金幾何矣，此何可易言！」逾年翁媪並卒。子美不能忘情嫦娥，服將闋，托人示意林媪。媪初不承，宗忿曰：「我生平不輕折腰，何媪視之不值一錢？若負前盟，須見還也！」媪乃云：「曩或與而翁戲約，容有之。但無成言，遂都忘卻。今既云云，我豈留嫁天王耶？要日日裝束，實望易千金，今請半焉可乎？」宗自度難辦，亦遂置之。

適有寡媪僦居西鄰，有女及笄，小名顛當。偶窺之，雅麗不減嫦娥。向慕之，每以饋遺階進；久而漸熟，往往送情以目，

而欲語無間。一夕逾垣乞火，宗喜挽之，遂相燕好。約為嫁娶，辭以兄負販未歸。由此蹈隙往來，形跡周密。

一日偶經紅橋，見嫦娥適在門內，疾趨過之。嫦娥望見，招之以手，宗駐足；女又招之，遂入。女以背約讓宗，宗述其故。女入室，取黃金一錠付之，宗不受，辭曰：「自分水與卿絕，遂他有所約。受金而為卿謀，是負人也；受金而不為卿謀，是負卿也；誠不敢有所負。」女良久曰：「君所約，妾頗知之。其事必無成；即成之，妾不怨君之負心也。其速行，媼將至矣。」宗倉卒無以自主，受之而歸。

隔夜告之顛當，顛當深然其言，但勸宗專心嫦娥。宗不語。顛當願下之，而宗乃悅。即遣媒納金林媪，媪無辭，以嫦娥

歸宗。入門後，悉述顛當言，嫦娥微笑，陽愆息之。宗喜，急欲一白顛當，而顛當跡久絕。嫦娥知其為己，因暫歸寧，故予之間，囑宗竊其佩囊。已而顛當果至，與商所謀，但言勿急。及解衿狎笑，脅下有紫荷囊，將便摘取。顛當變色起曰：「君與人一心，而與妾二！負心郎！請從此絕。」宗曲意挽解，不聽竟去。一日過其門探察之，已另有吳客僦居其中，顛當子母遷去已久，影滅跡絕，莫可問訊。

宗自娶嫦娥，家暴富，連閣長廊，彌互街路。嫦娥善諧謔，適見美人畫卷，宗曰：「吾自謂如卿天下無兩，但不曾見飛燕、楊妃耳。」女笑曰：「若欲見之，此亦何難。」乃執卷細審一過，便趨入室，對鏡修妝，效飛燕舞風，又學楊妃帶醉。

長短肥瘦，隨時變更；風情態度，對卷逼真。方作態時，有婢自外至，不復能識，驚問其僚；復向審注，恍然始笑。宗喜曰：「吾得一美人，而千古之美人，皆在床闥矣！」

一夜方熟寢，數人撬扉而入，火光射壁。女急起，驚言：「盜入！」宗初醒，即欲嗚呼。一人以白刃加頸，懼不敢喘。又一人掠嫦娥負背上，哄然而去。宗始號，家役畢集，室中珍玩，無少亡者，宗大悲，羅然失圖，無復情地。告官追捕，殊無音息。

荏苒三四年，鬱鬱無聊，因假赴試入都。居半載，占驗詢察，無計不施。偶過姚巷，值一女子，垢面敝衣，羅襖如丐。停趾相之，乃顛當也。駭曰：「卿何憔悴至此？」答云：「別後

南遷，老母即世，為惡人掠賣旗下，撻辱凍餒，所不忍言。」宗泣下，問：「可贖否？」曰：「難矣。耗費煩多，不能為力。」宗曰：「實告卿：年來頗稱小有，惜客中資斧有限，傾裝貨馬，所不敢辭。如所需過奢，當歸家營辦之。」女約明日出西城，相會叢柳下，囑獨往，勿以人從。宗曰：「諾。」次日早往，則女先在，桂衣鮮明，大非前狀。驚問之，笑曰：「曩試君心耳，幸綈袍之意猶存。請至敝廬，宜必得當以報。」北行數武，即至其家，遂出肴酒，相與談宴。宗約與俱歸，女曰：「妾多俗累，不能從。嫦娥消息，固頗聞之。」宗急詢其何所，女曰：「其行蹤縹緲，妾亦不能深悉。西山有老尼，一日眇，問之當自知。」遂止宿其家。

天明示以徑。宗至其處，有古寺周垣盡頽，叢竹內有茅屋半間，老尼綴衲其中。見客至，漫不為禮。宗揖之，尼始舉頭致問。因告姓氏，即白所求。尼曰：「八十老瞽，與世睽絕，何處知佳人消息？」宗固求之。乃曰：「我實不知。有二三戚屬，來夕相過，或小女子輩識之，未可知。汝明夕可來。」宗乃出。次日再至，則尼他出，敗扉扃焉。伺之既久，更漏已催，明月高揭，徘徊無計，遙見二女郎自外入，則嫦娥在焉。宗喜極，突起，急攬其祛。嫦娥曰：「莽郎君！嚇煞妾矣！可恨顛當饒舌，乃教情欲纏人。」宗曳坐，執手款曲，歷訴艱難，不覺惻楚。女曰：「實相告：妾實姮娥被謫，浮沉俗間，其限已滿；托為寇劫，所以絕君望耳。尼亦王母守

府者，妾初譴時，蒙其收恤，故暇時常一臨存。君如釋妾，當為代致顛當。」宗不聽，垂首隕涕。女遙顧曰：「姊妹輩來矣。」宗方四顧，而嫦娥已杳。宗大哭失聲，不欲復活，因解帶自縊。恍惚覺魂已出舍，俛俛靡適。俄見嫦娥來，捉而提之，足離於地；入寺，取樹上尸推擠之，喚曰：「癡郎，癡郎！嫦娥在此。」忽若夢醒。少定，女恚曰：「顛當賤婢！害妾而殺郎君，我不能恕之也！」下山賃輿而歸。既命家人治裝，乃返身而出西城，詣謝顛當，至則舍宇全非，愕嘆而返。竊幸嫦娥不知入門，嫦娥迎笑曰：「君見顛當耶？」宗愕然不能答。女曰：「君背嫦娥，烏得顛當？請坐待之，當自至。」未幾顛當果至，倉皇伏榻下。嫦娥疊指彈之，曰：「小鬼頭

陷人不淺！」顛當叩頭，但求賒死。嫦娥曰：「推人坑中，而欲脫身天外耶？廣寒十一姑不日下嫁，須繡枕百幅、履百雙，可從我去，相共操作。」顛當恭白：「但求分工，按時齎送。」女不許，謂宗曰：「君若緩頰，即便放卻。」顛當日宗，宗笑不語，顛當日怒之。乃乞還告家人，許之，遂去。宗問其生平，乃知其西山狐也。買輿待之。

次日果來，遂俱歸。然嫦娥重來，恆持重不輕諧笑。宗強使狎戲，惟密教顛當為之。顛當慧絕，工媚。嫦娥樂獨宿，每辭不當夕。一夜漏三下，猶聞顛當房中，吃吃不絕。使婢竊聽之，婢還，不以告，但請夫人自往。伏窗窺之，則見顛當凝妝作己狀，宗擁抱，呼以嫦娥。女哂而退。未幾，顛當心

暴痛，急披衣，曳宗詣嫦娥所，入門便伏。嫦娥曰：「我豈醫巫厭勝者？汝欲自捧心效西子耳。」顛當頓首，但言知罪。女曰：「愈矣。」遂起，失笑而去。顛當私謂宗：「吾能使娘子學觀音。」宗不信，因戲相賭。嫦娥每跌坐，眸含若暝。顛當悄以玉瓶插柳置幾上；自乃垂發合掌，侍立其側，櫻唇半啟，瓠犀微露，睛不少瞬。宗笑之。嫦娥開目問之，顛當曰：「我學龍女侍觀音耳。」嫦娥笑罵之，罰使學童子拜。顛當束發，遂四面朝參之，伏地翻轉，逞諸變態，左右側折，襪能磨乎其耳。嫦娥解頤，坐而蹴之。顛當仰首，口銜鳳鉤，微觸以齒。嫦娥方嬉笑間，忽覺媚情一縷，自足趾而上直達心舍，意蕩思淫，若不自主。乃急斂神，呵曰：「狐奴當

死！不擇人而惑之耶？」顛當懼，釋口投地。嫦娥又厲責之，眾不解。嫦娥謂宗曰：「顛當狐性不改，適間幾為所愚。若非夙根深者，墮落何難！」自是見顛當，每嚴御之。顛當慚懼，告宗曰：「妾於娘子一肢一體，無不親愛，愛之極，不覺媚之甚。謂妾有異心，不惟不敢，亦不忍。」宗因以告嫦娥，嫦娥遇之如初。然以狎戲無節，數戒宗，宗不聽；因而大小婢婦，競相狎戲。一日，二人扶一婢效作楊妃。二人以目會意，賺婢懈骨作酣態，兩手遽釋，婢暴顛墜下，聲如傾堵。眾方大嘩；近撫之，而妃子已作馬嵬薨矣。眾大懼，急白主人。嫦娥驚曰：「禍作矣！我言如何哉！」往驗之，不可救。使人告其父。父某甲，素無行，號奔而至，負尸入廳事，

叫罵萬端。宗閉戶惴恐，莫知所措。嫦娥自出責之，曰：「主郎虐婢至死，律無償法；且邂逅暴殂，焉知其不再蘇？」甲噪言：「四支已冰，焉有生理！」嫦娥曰：「勿嘩。縱不活，自有官在。」乃入廳事撫尸，而婢已蘇，撫之隨手而起。嫦娥返身怒曰：「婢幸不死，賊奴何得無狀！可以草索繫送官府！」甲無詞，長跪哀免。嫦娥曰：「汝既知罪，姑免究處。但小人無賴，反復何常，留汝女終為禍胎，宜即將去。原價如乾數，當速措置來。」遣人押出，俾浼二三村老，券證署尾。已，乃喚婢至前，使甲自問之：「無恙乎？」答曰：「無恙。」乃付之去。已，遂召諸婢，數責遍撲。又呼顛當，為之厲禁。謂宗曰：「今而知為人上者，一笑顰亦不可輕。謔

端開之自妾，而流弊遂不可止。凡哀者屬陰，樂者屬陽；陽極陰生，此循環之定數。婢子之禍，是鬼神告之以漸也。荒迷不悟，則傾覆及之矣。」宗敬聽之。顛當泣求拔脫。嫦娥乃掐其耳，逾刻釋手，顛當惘然為問，忽若夢醒，據地自投，歡喜欲舞。由此閨閣清肅，無敢嘩者。婢至其家，無疾暴死。甲以贖金莫償，漁村老代求憐恕，許之；又以服役之情，施以材木而去。宗常患無子。嫦娥腹中忽聞兒啼，遂以刃破左脅出之，果男；無何，復有身，又破右脅而出一女。男酷類父，女酷類母，皆論昏於世家。異史氏曰：「陽極陰生，至言哉！然室有仙人，幸能極我之樂，消我之災，長我之生，而不我之死。是鄉樂，老焉可矣，而仙人顧憂之耶？天運循

環之數，理固宜然；而世之長困而不亨者，又何以為解哉？昔宋人有求仙不得者，每日：『作一日仙人，而死亦無憾。』我不復能笑之也。」

八、二十二、鞠樂如

鞠樂如，青州人。妻死棄家而去。後數年，道服荷蒲團至。經宿欲去，戚族強留其衣杖。鞠托閑步至村外，室中服具皆冉冉飛出，隨之而去。

八、二十三、褚生

順天陳孝廉，十六七歲時，嘗從塾師讀於僧寺，徒侶甚繁。內有孺生，自言山東人，攻苦講求，略不暇息；且寄宿齋中，

未嘗一見其歸。陳與最善，因詰之，答曰：「僕家貧，辦束金不易，即不能惜寸陰，而加以夜半，則我之二日，可當人三日。」陳感其言，欲攜榻來與共寢。褚止之曰：「且勿，且勿！我視先生，學非吾師也。阜城門有呂先生，年雖耄可師，請與俱遷之。」蓋都中設帳者多以月計，月終束金完，任其留止。於是兩生同詣呂。呂，越之宿儒，落魄不能歸，因授童蒙，實非其志也。得兩生甚喜，而褚又甚慧，過日輒了，故尤器重之。兩人情好款密，晝同幾，夜同榻。

月既終，褚忽假歸，十餘日不復至。共疑之。一日陳以故至天寧寺，遇褚廊下，劈窠淬硫，作火具焉。見陳，忸怩不安，陳問：「何遽廢讀？」褚握手請問，戚然曰：「貧無以遺先生，

必半月販，始能一月讀。」陳感慨良久，曰：「但往讀，自合極力。」命從人收其業，同歸塾。戒陳勿洩，但托故以告先生。陳父固肆賈，居物致富，陳輒竊父金代褚遺師。父以亡金責陳，陳實告之。父以為癡，遂使廢學。褚大慚，別師欲去。呂知其故，讓之曰：「子既貧，胡不早告？」乃悉以金返陳父，止褚讀如故，與共饗飧，若子焉。陳雖不入館，每邀褚過酒家飲。褚固以避嫌不往，而陳要之彌堅，往往泣下，褚不忍絕，遂與往來無間。逾二年陳父死，復求受業。呂感其誠納之，而廢學既久，較褚懸絕矣。

居半年，呂長子自越來，丐食尋父。門人輩斂金助裝，褚惟灑涕依戀而已。呂臨別，囑陳師事褚。陳從之，館褚於家。

未幾，入邑庠，以「遺才」應試。陳慮不能終幅，褚請代之。至期。褚偕一人來，云是表兄劉天若，囑陳暫從去。陳方出，褚忽自後曳之，身欲踣，劉急挽之而去。覽眺一過，相攜宿於其家。家無婦女，即館客於內舍。

居數日，忽已中秋。劉曰：「今日李皇親園中，游人甚夥，當往一豁積悶，相便送君歸。」使人荷茶鼎、酒具而往。但見水肆梅亭，喧啾不得入。過水關，則老柳之下，橫一畫橈，相將登舟。酒數行，苦寂。劉顧僮曰：「梅花館近有新姬，不知在家否？」僮去少時，與姬俱至，蓋勾欄李遏雲也。李，都中名妓，工詩善歌，陳曾與友人飲其家，故識之。相見，略道溫涼。姬戚戚有憂容。劉命之歌，為歌《蒿里》。陳不悅，

曰：「主客即不當卿意，何至對生人歌死曲？」姬起謝，強顏歡笑，乃歌艷曲。陳喜，捉腕曰：「卿向日《浣溪紗》讀之數過，今並忘之。」姬吟曰：「淚眼盈盈對鏡臺，開簾忽見小姑來，低頭轉側看弓鞋。強解綠蛾開笑面，頻將紅袖拭香腮，小心猶恐被人猜。」陳反復數四。已而泊舟，過長廊，見壁上題詠甚多，即命筆記詞其上。日已薄暮，劉曰：「闈中人將出矣。」遂送陳歸，入門即別去。

陳見室暗無人，俄延間褚已入門，細審之卻非褚生。方疑客遽近身而僕。家人曰：「公子憊矣！」共扶拽之。轉覺僕者非他，即己也。既起，見褚生在旁，惚惚若夢。屏人而研究之。褚曰：「告之勿驚：我實鬼也。久當投生，所以因循

於此者，高誼所不能忘，故附君體，以代捉刀；三場畢，此願了矣。」陳復求赴春閨，曰：「君先世福薄，慳吝之骨，誥贈所不堪也。」問：「將何適？」曰：「呂先生與僕有父子之分，系念常不能置。表兄為冥司典簿，求白地府主者，或當有說。」遂別而去。陳異之；天明訪李姬，將問以泛舟之事，則姬死數日矣。又至皇親園，見題句猶存，而淡墨依稀，若將磨滅。始悟題者為魂，作者為鬼。

至夕，褚喜而至，曰：「所謀幸成，敬與君別。」遂伸兩掌，命陳書褚字於上以志之。陳將置酒為餞，搖首曰：「勿須。君如不忘舊好，放榜後，勿憚修阻。」陳揮涕送之。見一人伺候於門，褚方依依，其人以手按其項，隨手而匾，掬入囊，

負之而去。過數日，陳果捷。於是治裝如越。呂妻斷育幾十年，五旬餘忽生一子，兩手握固不可開。陳至，請相見，便謂掌中當有文曰「褚」。呂不深信。兒見陳，十指自開，視之果然。驚問其故，具告之。共相歡異。陳厚貽之乃返。後呂以歲貢，廷試入都，舍於陳；則兒十三歲入泮矣。

異史氏曰：「呂老教門人，而不知自教其子。嗚呼！作善於人，而降祥於己，一間也哉！褚生者，未以身報師，先以魂報友，其志其行，可貫日月，豈以其鬼故奇之與！」

八、二十四、盜戶

順治間，滕、峰之區，十人而七盜，官不敢捕。後受撫，邑宰別之為「盜戶」。凡值與良民爭，則曲意左袒之，蓋恐其復叛也。後訟者輒冒稱盜戶，而怨家則力攻其偽。每兩造具陳，曲直且置不辨，而先以盜之真偽，反復相苦，煩有司稽籍焉。適官署多狐，宰有女為所惑，聘術士來，符捉入瓶，將熾以火。狐在瓶內大呼曰：「我盜戶也！」聞者無不匿笑。異史氏曰：「今有明火劫人者，官不以為盜而以為奸；逾墻行淫者，每不自認奸而自認盜；世局又一變矣。設今日官署有狐，亦必大呼曰『吾盜』無疑也。」

章丘漕糧徭役，以及徵收火耗；小民嘗數倍於紳衿，故有田者爭求托焉。雖於國無傷，而實於官橐有損。邑令鐘，牒請厘弊，得可。初使自首。既而奸民以此要上，數十年鬻去之產，皆誣托詭掛，以訟售主。令悉左袒之。故良懦者多喪其產。有李生亦為某甲所訟，同赴質審。甲呼之「秀才」，李厲聲爭辯，不居秀才之名。喧不已。令詰左右，共指為真秀才，令問：「何故不承？」李曰：「秀才且置高閣，待爭地後再作之不晚也。」噫！以盜之名則爭冒之；以秀才之名則爭辭之，變異矣哉！有人投匿名狀云：告狀人原壤，為抗法吞產事：身以年老不能當差。有負郭田五十畝，於隱公元年，暫掛惡衿顏淵名下。今功令森嚴，理合自首。詎惡久假不歸，霸為

己有。身往理說，被伊師率惡黨七十二人，毒杖交加，傷殘脛股；又將身鎖置陋巷，日給簞食瓢飲，囚餓幾死。互鄉約地證，叩乞革頂嚴究，俾血產歸主，上告。」此可以繼柳跖之告夷、齊矣。

八、二十五、某乙

邑西某乙，故梁上君子也。其妻深以為懼，屢勸止之；乙遂翻然自改。居二三年，貧窶不能自堪，思欲一作馮婦而後已之。乃托貿易，就善卜者以決趨向。術者曰：「東南吉，利小人，不利君子。」兆隱與心合，竊喜。遂南行抵蘇、松間，日游村郭幾數月。偶入一寺，見墻隅堆石子二三枚，心知其異，

亦以一石投之，徑趨龕後臥。日既暮，寺中聚語，似有十餘人。忽一人數石，訝其多，因共搜之，龕後得乙，問：「投石者汝耶？」乙諾。詰里居、姓名，乙詭對之。乃授以兵，率與共去。至一巨第，出軟梯，爭逾垣入。以乙遠至，徑不熟，俾伏牆外，司傳遞、守囊橐焉。少頃擲一裹下，又少頃縋一篋下。乙舉篋知有物，乃破篋，以手揣取，凡沉重物，悉納一囊，負之疾走，竟取道歸。由此建樓閣、買良田，為子納粟。邑令匾其門曰「善士」。後大案發，群寇悉獲；惟乙無名籍，莫可查詰，得免。事寢既久，乙醉後時自述之。

曹有大寇某，得重資歸，肆然安寢。有二三小盜逾垣入，捉之，索金。某不與；棰灼並施，罄所有乃去。某向人曰：「吾

不知炮烙之苦如此！遂深恨盜，投充馬捕，捕邑寇殆盡。獲曩寇，亦以所施者施之。

八、一二十六、霍女

朱大興，彰德人。家富有而吝嗇已甚，非兒女婚嫁，座無賓、廚無肉。然佻達喜漁色，色所在冗費不惜。每夜逾垣過村，從蕩婦眠。一夜遇少婦獨行，知為亡者，強脅之，引與俱歸。燭之，美絕。自言「霍氏」。細致研詰，女不悅，曰：「既加收齒，何必復盤察？如恐相累，不如早去。」朱不敢問，留與寢處。顧女不能安粗糲，又厭見肉臠，必燕窩、雞心、魚肚白作羹湯，始能饜飽。朱無奈，竭力奉之。又善病，日須

參湯一碗。朱初不肯。女呻吟垂絕，不得已投之，病若失，遂以為常。女衣必錦繡，數日即厭其故。如是月餘，計費不資，朱漸不供。女啜泣不食，求去；朱懼，又委曲承順之。每苦悶，輒令十數日一招優伶為戲；戲時，朱設凳簾外，抱兒坐觀之。女亦無喜容，數相詈罵，朱亦不甚分解。居二年，家漸落，向女婉言求少減；女許之，用度皆損其半。久之仍不給，女亦以肉糜相安；又漸而不珍亦御矣。朱竊喜。忽一夜，啟後扉亡去。朱惘悵若失，遍訪之，乃知在鄰村何氏家。何大姓，世胄也，豪縱好客，燈火達旦。忽有麗人，半夜人閨闥。詰之，則朱家之逃妾也。朱為人，何素藐之；又悅女美，竟納焉。綢繆數日，益惑之，窮極奢欲，供奉一如朱。

朱得耗，坐索之，何殊不為意。朱質於官。官以其姓名來歷不明，置不理。朱貨產行賕，乃準拘質。女謂何曰：「妾在朱家，原非採禮媒定者，胡畏之？」何喜，將與質成。座客顧生諫曰：「收納逋逃，已幹國紀；況此女入門，日費無度，即千金之家，何能久也？」何大悟，罷訟，以女歸朱。

過一二日，女又逃。有黃生者，故貧士，無偶。女叩扉入，自言所來。黃見艷麗，忽投，驚懼不知所為。黃素懷刑，固卻之，女不去。應對間，嬌婉無那。黃心動，留之，而慮其不能安貧。女早起，躬操家苦，劬勞過舊室焉。黃為人蘊藉瀟灑，工於內媚，因恨相得之晚，止恐風聲漏洩，為歡不久。

而朱自訟後，家益貧；又度女不能安，遂置不究。女從黃數歲，親愛甚篤。

一日忽欲歸寧，要黃禦送之。黃曰：「向言無家，何前後之舛？」曰：「曩漫言之。妾鎮江人。昔從蕩子流落江湖，遂至於此。妾家頗裕，君竭資而往，必無相虧。」黃從其言，賃輿同去。至揚州境，泊舟江際。女適憑窗，有巨商子過，驚其絕，反舟綴之，而黃不知也。女忽曰：「君家甚貧，今有一療貧之法，不知能從否？」黃詰之，女曰：「妾相從數年，未能為君育男女，亦一不了事。妾雖陋，幸未老耄，有能以千金相贈者，便鬻妾去，此中妻室、田廬皆備焉。此計如何？」黃失色，不知何故。女笑曰：「君勿急，天下固多佳人，誰肯以

千金買妾者？其戲言於外，以覘其有無。賣不賣，固自在君耳。」黃不肯。女自與榜人婦言之，婦曰黃，黃漫應焉。婦去無幾，返言：「鄰舟有商人子，願出八百。」黃故搖首以難之。未幾復來，便言如命，即請過船交兌。黃微哂，女曰：「教渠姑待，我囑黃郎，即令去。」女謂黃曰：「妾日以千金之軀事君，今始知耶？」黃問：「以何詞遣之？」女曰：「請即往署券，去不去固自在我耳。」黃不可。女逼促之，黃不得已詣焉。立刻兌付。黃令封志之，曰：「遂以貧故，竟果如此，遽相割舍。倘室人必不肯從，仍以原金璧趙。」方運金至舟，女已從榜人婦從船尾登商舟，遙顧作別，並無淒戀。黃驚魂

離舍，嗔不能言。俄商舟解纜，去如箭激。黃大號，欲追傍之，榜人不從，開舟南渡矣。

瞬息達鎮江，運資上岸，榜人急解舟去。黃守裝悶坐，無所適歸，望江水之滔滔，如萬鎊之叢體。方掩泣間，忽聞姣聲呼「黃郎」。愕然回顧，則女已在前途。喜極，負裝從之，問：「卿何遽得來？」女笑曰：「再遲數刻，則君有疑心矣。」黃乃疑其非常，固詰其情。女笑曰：「妾生平於吝者則破之，於邪者則誑之也。若實與君謀，君必不肯，何處可致千金者？錯囊充物，而合浦珠還，君幸足矣，窮問何為？」乃雇役荷囊，相將俱去。

至水門內，一宅南向，徑入。俄而翁媪男婦，紛出相迎，皆曰：「黃郎來也！」黃入參公姥。有兩少年揖坐與語，是女兒弟大郎、三郎也。筵間味無多品，玉杵四枚，方兒已滿。雞蟹鵝魚，皆齷切為個。少年以巨碗行酒，談吐豪放。已而導入別院，俾夫婦同處。衾枕滑軟，而床則以熟革代棕藤焉。日有婢媪饋致三餐，女或時竟日不出。黃獨居悶苦，屢言歸，女固止之。一日謂黃曰：「今為君謀：請買一人為子嗣計。然買婢媵則價奢；當偽為妾也。兄者，使父與論婚，良家子不難致。」黃不可，女弗聽。有張貢士之女新寡，議聘金百緡，女強為娶之。新婦小名阿美，頗婉妙。女嫂呼之；黃

瑟蹶不安，女殊坦坦。他日，謂黃曰：「妾將與大姊至南海一省阿姨，月餘可返，請夫婦安居。」遂去。

夫妻獨居一院，按時給飲食，亦甚隆備。然自入門後，曾無一人復至其室。每晨，阿美人覲媪，一兩言輒退。姊姒在旁，惟相視一笑。既流連久坐，亦不款曲，黃見翁亦如之。偶值諸郎聚語，黃至，既都寂然。黃疑問莫可告語，阿美覺之，詰曰：「君既與諸郎伯仲，何以月來都如生客？」黃倉猝不能對，吃吃而言曰：「我十年於外，今始歸耳。」美又細審翁姑閱閱，及妯娌里居。黃大窘，不能復隱，底裏盡露。女泣曰：「妾家雖貧，無作賤媵者，無怪諸宛若鄙不齒數矣！」黃惶怖莫知籌計，惟長跪一聽女命。美收涕挽之，轉請所處。

黃曰：「僕何敢他謀，計惟子身自去耳。」女曰：「既嫁復歸，於情何忍？渠雖先從，私也；妾雖後至，公也。不如姑俟其歸，問彼既出此謀，將何以置妾也？」

居數月，女竟不返。一夜聞客舍喧飲，黃潛往窺之，見二客戎裝上座：一人裹豹皮巾，凜若天神；東首一人，以虎頭革作兜牟，虎口銜額，鼻耳悉具焉。驚異而返，以告阿美，竟莫測霍父子何人。夫妻疑懼，謀欲僦寓他所，又恐生其猜度。黃曰：「實告卿：即南海人還，折證已定，僕亦不能家此也。今欲攜卿去，又恐尊大人別有異言。不如姑別，二年中當復至。卿能待，待之；如欲他適，亦自任也。」阿美欲告父母而從之，黃不可。阿美流涕，要以信誓，乃別而歸。黃入辭

翁姑。時諸郎皆他出，翁挽留以待其歸，黃不聽而行。登舟淒然，形神喪失。至瓜州，忽回首見片帆來駛如飛；漸近，則船頭按劍而坐者霍大郎也。遙謂曰：「君欲遄返，胡再不謀？遺夫人去，二三年誰能相待也？」言次，舟已逼近。阿美自舟中出，大郎挽登黃舟，跳身徑去。先是，阿美既歸，方向父母泣訴，忽大郎將輿登門，按劍相脅，逼女風走。一家懾息，莫敢遮問。女述其狀，黃不解何意，而得美良喜，開舟遂發。

至家，出資營業，頗稱富有。阿美常懸念父母，欲黃一往探之；又恐以霍女來，嫡庶復有參差。居無何，張翁訪至，見屋宇修整，心頗慰，謂女曰：「汝出門後，遂詣霍家探問，見

門戶已扃，第主亦不之知，半年竟無消息。汝母日夜零涕，謂被奸人賺去，不知流離何所。今幸無恙耶？」黃實告以情，因相猜為神。

後阿美生子，取名仙賜。至十餘歲，母遣詣鎮江，至揚州界，休於旅舍，從者皆出。有女子來，挽兒入他室，下簾，抱諸膝上，笑問何名。兒告之。問：「取名何義？」答云：「不知。」女曰：「歸問汝父當自知。」乃為挽髻，自摘髻上花代簪之；出金釧束腕上。又以黃金內袖，曰：「將去買書讀。」兒問其誰，曰：「兒不知更有一母耶？歸告汝父：朱大興死無棺木，當助之，勿忘也。」老僕歸舍，失少主，尋至他室，聞與人

語，窺之則故主母。簾外微嗽，將有咨白。女推兒榻上，恍惚已杳。問之舍主，並無知者。

數日，自鎮江歸，語黃，又出所贈。黃感嘆不已。及詢朱，則死裁三日，露尸未葬，厚恤之。

異史氏曰：「女其仙耶？三易其主不為貞。然為吝者破其慳，為淫者速其蕩，女非無心者也。然破之則不必其憐之矣，貪淫鄙吝之骨，溝壑何惜焉？」

八、二十七、司文郎

平陽王平子，赴試北闈，賃居報國寺。寺中有餘杭生先在，王以比屋居，投刺焉，生不之答；朝夕遇之多無狀。王怒其狂悖，交往遂絕。

一日，有少年游寺中，白服裙帽，望之傀然。近與接談，言語諧妙，心愛敬之。展問邦族，云：「登州宋姓。」因命蒼頭設座，相對嚱談。餘杭生適過，共起遜坐。生居然上座，更不撓挹。卒然問宋：「亦入闈者耶？」答曰：「非也。駑駘之才，無志騰驤久矣。」又問：「何省？」宋告之。生曰：「竟不進取，足知高明。山左、右並無一字通者。」宋曰：「北人固

少通者，而不通者未必是小生；南人固多通者，然通者亦未必是足下。」言已，鼓掌，王和之，因而哄堂。生慚忿，軒眉攘腕而大言曰：「敢當前命題，一校文藝乎？」宋他顧而哂曰：「有何不敢！」便趨寓所，出經授王。王隨手一翻，指曰：「『闕黨童子將命。』」生起，求筆札。宋曳之曰：「口占可也。我破已成：『於賓客往來之地，而見一無所知之人焉。』」王捧腹大笑。生怒曰：「全不能文，徒事嫚罵，何以為人！」王力為排難，請另命佳題。又翻曰：「『殷有三仁焉。』」宋立應曰：「三子者不同道，其趨一也。夫一者何也？」曰：「仁也。君子亦仁而已矣，何必同？」生遂不作，起曰：「其為人也小有才。」遂去。

王以此益重宋。邀入寓室，款言移晷，盡出所作質宋。宋流覽絕疾，逾刻已盡百首，曰：「君亦沉深於此道者？然命筆時，無求必得之念，而尚有冀幸得之心，即此已落下乘。」遂取閱過者一一詮說。王大悅，師事之；使庖人以蔗糖作水角。宋啖而甘之，曰：「生平未解此味，煩異日更一作也。」從此相得甚歡。宋三五日輒一至，王必為之設水角焉。餘杭生時一遇之，雖不甚傾談，而傲睨之氣頓減。一日以窗藝示宋，宋見諸友圈贊已濃，目一過，推置案頭，不作一語。生疑其未閱，復請之，答已覽竟。生又疑其不解，宋曰：「有何難解？但不佳耳！」生曰：「一覽丹黃，何知不佳？」宋便誦其文，如夙讀者，且誦且訾。生跼蹐汗流，不言而去。移時

宋去，生入，堅請王作，王拒之。生強搜得，見文多圈點，笑曰：「此大似水角子！」王故樸訥，覷然而已。次日宋至，王具以告。宋怒曰：「我謂『南人不復反矣』，儻楚何敢乃爾！必當有以報之！」王力陳輕薄之戒以勸之，宋深感佩。

既而場後以文示宋，宋頗相許。偶與涉歷殿閣，見一瞽僧坐廊下，設藥賣醫。宋訝曰：「此奇人也！最能知文，不可不一請教。」因命歸寓取文。遇餘杭生，遂與俱來。王呼師而參之。僧疑其問醫者，便詰癥候。王具白請教之意，僧笑曰：「是誰多口？無目何以論文？」王請以耳代目。僧曰：「三作兩千餘言，誰耐久聽！不如焚之，我視以鼻可也。」王從之。每焚一作，僧嗅而頷之曰：「君初法大家，雖未逼真，亦近似矣。」

我適受之以脾。」問：「可中否？」曰：「亦中得。」餘杭生未深信，先以古大家文燒試之。僧再嗅曰：「妙哉！此文我心受之矣，非歸、胡何解辦此！」生大駭，始焚已作。僧曰：「適領一藝，未窺全豹，何忽另易一人來也？」生托言：「朋友之作，止此一首；此乃小生作也。」僧嗅其餘灰，咳逆數聲，曰：「勿再投矣！格格而不能下，強受之以膈，再焚則作惡矣。」生慚而退。

數日榜放，生竟領薦；王下第。生與王走告僧。僧嘆曰：「僕雖盲於目，而不盲於鼻；簾中人並鼻盲矣。」俄餘杭生至，意氣發舒，曰：「盲和尚，汝亦啖人水角耶？今竟何如？」僧曰：「我所論者文耳，不謀與君論命。君試尋諸試官之文，

各取一首焚之，我便知孰為爾師。」生與王並搜之，止得八  
九人。生曰：「如有舛錯，以何為罰？」僧憤曰：「剗我盲瞳  
去！」生焚之，每一首，都言非是；至第六篇，忽向壁大嘔，  
下氣如雷。眾皆粲然。僧拭目向生曰：「此真汝師也！初不  
知而驟嗅之，刺於鼻，棘於腹，膀胱所不能容，直自下部出  
矣！」生大怒，去，曰：「明日自見！勿悔！勿悔！」

越二二日竟不至；視之已移去矣。乃知即某門生也。宋慰王  
曰：「凡吾輩讀書人，不當尤人，但當克己；不尤人則德益  
弘，能克己則學益進。當前蹶落，固是數之不偶；平心而論，  
文亦未便登峰，其由此砥礪，天下自有不盲之人。」王肅然  
起敬。又聞次年再行鄉試，遂不歸，止而受教。宋曰：「都

中薪桂米珠，勿憂資斧。舍後有窖鏹，可以發用。」即示之處。王謝曰：「昔竇、範貧而能廉，今某幸能自給，敢自污乎？」王一日醉眠，僕及庖人竊發之。王忽覺，聞舍後有聲，出窺則金堆地上。情見事露，並相懾伏。方訶責間，見有金爵，類多鐫款，審視皆大父字諱。蓋王祖曾為南部郎，入都寓此，暴病而卒，金其所遺也。王乃喜，稱得金八百餘兩。明日告宋，且示之爵，欲與瓜分，固辭乃已。以白金往贈瞽僧，僧已去。積數月，敦習益苦。及試，宋曰：「此戰不捷，始真是命矣！」俄以犯規被黜。王尚無言，宋大哭不能止，王反慰解之。宋曰：「僕為造物所忌，困頓至於終身，今又累及良友。其命也夫！其命也夫！」王曰：「萬事固有數在。如

先生乃無志進取，非命也。」宋拭淚曰：「久欲有言，恐相驚怪。某非生人，乃飄泊之游魂也。少負才名，不得志於場屋。佯狂至都，冀得知我者傳諸著作。甲申之年，竟罹於難，歲歲飄蓬。幸相知愛，故極力為『他山』之攻，生平未酬之願，實欲借良朋一快之耳。今文字之厄若此，誰復能漠然哉！」王亦感泣，問：「何淹滯？」曰：「去年上帝有命，委宣聖及閻羅王核查劫鬼，上者備諸曹任用，餘者即俾轉輪。賤名已錄，所未投到者，欲一見飛黃之快耳。今請別矣！」王問：「所考何職？」曰：「粹潼府中缺一司文郎，暫令龔僮署篆，文運所以顛倒。萬一幸得此秩，當使聖教昌明。」

明日，忻忻而至，曰：「願遂矣！宣聖命作《性道論》，視之色喜，謂可司文。閻羅穆簿，欲以『口孽』見棄。宣聖爭之乃得就。某伏謝已，又呼近案下，囑云：『今以憐才，拔充清要；宜洗心供職，勿蹈前愆。』此可知冥中重德行更甚於文學也。君必修行未至，但積善勿懈可耳。」王曰：「果爾，餘杭其德行何在？」曰：「不知。要冥司賞罰，皆無少爽。即前日瞽僧亦一鬼也，是前朝名家。以生前拋棄字紙過多，罰作瞽。彼自欲醫人疾苦，以贖前愆，故托游塵肆耳。」王命置酒，宋曰：「無須。終歲之擾，盡此一刻，再為我設水角足矣。」王悲愴不食，坐令自啖。頃刻，已過三盛，捧腹曰：「此餐可飽三日，吾以志君德耳。向所食都在舍後，已

成菌矣。藏作藥餌，可益兒慧。」王問後會，曰：「既有官責，當引嫌也。」又問：「梓潼祠中，一相酌祝，可能達否？」曰：「此都無益。九天甚遠，但潔身力行，自有地司牒報，則某必與知之。」言已，作別而沒。王視舍後，果生紫菌，採而藏之。旁有新土墳起，則水角宛然在焉。

王歸，彌自刻厲。一夜，夢宋輿蓋而至，曰：「君向以小忿誤殺一婢，削去祿籍，今篤行已折除矣。然命薄不足任仕進也。」是年捷於鄉，明年春闈又捷。遂不復仕。生二子，其一絕鈍，啖以菌，遂大慧。後以故詣金陵，遇餘杭生於旅次，極道契闊，深自降抑，然鬢毛斑矣。

異史氏曰：「餘杭生公然自詡，意其為文，未必盡無可觀；而驕詐之意態顏色，遂使人頃刻不可復忍。天人之厭棄已久，故鬼神皆玩弄之。脫能增修厥德，則簾內之『刺鼻棘心』者，遇之正易，何所遭之僅也。」

八、二十八、丑狐

穆生，長沙人，家清貧，冬無絮衣。一夕枯坐，有女子入，衣服炫麗而顏色黑醜，笑曰：「得毋寒乎？」生驚問之，曰：「我狐仙也。憐君枯寂，聊與共溫冷榻耳。」生懼其狐，而厭其醜，大號。女以元寶置幾上，曰：「若相諧好，以此相贈。」生悅而從之。床無衾褥，女代以袍。將曉，起而囑曰：「所

贈可急市軟帛作臥具，餘者絮衣作饌足矣。倘得永好，勿憂貧也。」遂去。

生告妻，妻亦喜，即市帛為之縫紉。女夜至，見臥具一新，喜曰：「君家娘子劬勞哉！」留金以酬之。從此至無虛夕。每去，必有所遺。年餘，屋廬修潔，內外皆衣文錦繡，居然素封。女賂貽漸少，生由此心厭之，聘術士至，畫符於門。女嚙折而棄之，入指生曰：「背德負心，至君已極！然此奈何我！若相厭薄，我自去耳。但情義既絕，受於我者須要償也！」忿然而去。

生懼，告術士。術士作壇，陳設未已，忽顛地下，血流滿頰；視之，割去一耳。眾大懼奔散，術士亦掩耳竄去。室中擲石

如盆，門窗釜甑，無復全者。生伏床下，蓄縮汗聳。俄見女抱一物入，貓首獨尾，置床前，嗾之曰：「嘻嘻！可嚼奸人足。」物即齧履，齒利於刃。生大懼，將屈藏之，四肢不能動。物嚼指爽脆有聲。生痛極哀祝，女曰：「所有金珠，盡出勿隱。」生應之。女曰：「呵呵！」物乃止。生不能起，但告以處。女自往搜括，珠鈿衣服之外，止得二百餘金。女少之，又曰：「嘻嘻！」物復嚼。生哀鳴求恕。女限十日償金六百，生諾之，女乃抱物去。

久之，家人漸聚，從床下曳生出，足血淋漓，喪其二指。視室中財物盡空，惟當年破被存焉；遂以覆生令臥。又懼十日復來，乃貨婢鬻衣，以足其數。至期女果至，急付之，無

言而去。自此遂絕。生足創，醫藥半年始愈，而家清貧如初矣。

狐適近村于氏。於業農家不中資，三年間援例納粟，夏屋連蔓，所衣華服半生家物。主見之，亦不敢問。偶適野，遇女於途，長跪道左。女無言，但以素巾裹五六金，遙擲之，反身徑去。後於氏早卒，女猶時至其家，家中金帛輒亡去。於子睹其來，拜參之，遙祝：「父即去世，兒輩皆若子，縱不撫恤，何忍坐令貧也？」女去，遂不復至。

異史氏曰：「邪物之來，殺之亦壯；而既受其德，即鬼物不可負也。既貴而殺趙孟，則賢豪非之矣。夫人非其心之所好，

即萬鍾何動焉。觀其見金色喜，其亦利之所在，喪身辱行而不惜者歟？傷哉貪人，卒取殘敗！」

八、二十九、呂無病

洛陽孫公子名麒，娶蔣太守女，甚相得。二十夭殂，悲不自勝。離家，居山中別業。

適陰雨晝臥，室無人，忽見復室簾下，露婦人足，疑而問之。有女子褰簾入，年約十八九，衣服樸潔，而微黑多麻，類貧家女。意必村中僦屋者，呵曰：「所須宜白家人，何得輕入！」女微笑曰：「妾非村中人，祖籍山東，呂姓。父文學士。妾小字無病。從父客遷，早離顧復。慕公子世家名士，願為康

成文婢。」孫笑曰：「卿意良佳。但僕輩雜居，實所不便，容旋里後，當輿聘之。」女次且曰：「自揣陋劣，何敢遂望敵體？聊備案前驅使，當不至倒捧冊卷。」孫曰：「納婢亦須吉日。」乃指架上，使取《通書》第四卷——蓋試之也。女翻檢得之。先自涉覽，而後進之，笑曰：「今日河魁不會在房。」孫意少動，留匿室中。女閑居無事，為之拂幾整書，焚香拭鼎，滿室光潔。孫悅之。

至夕，遣僕他宿。女俯眉承睫，殷勤臻至。命之寢，始持燭去。中夜睡醒，則床頭似有臥人；以手探之，知為女，捉而撼焉。女驚起，立榻下，孫曰：「何不別寢，床頭豈汝臥處也？」女曰：「妾善懼。」孫憐之，俾施枕床內。忽聞氣息之來，清

如蓮蕊，異之；呼與共枕，不覺心蕩；漸於同衾，大悅之。念避匿非策，又恐同歸招議。孫有母姨，近隔十餘門，謀令遁諸其家，而後再致之。女稱善，便言：「阿姨，妾熟識之，無容先達，請即去。」孫送之，逾垣而去。孫母姨，寡媪也。凌晨起戶，女掩入。媪詰之，答云：「若甥遣問阿姨。公子欲歸，路賒乏騎，留奴暫寄此耳。」媪信之，遂止焉。孫歸，矯謂姨家有婢，欲相贈，遣人異之而還，坐臥皆以從。久益嬖之，納為妾。世家論婚皆勿許，殆有終焉之志。女知之，苦勸令娶；乃娶於許，而終嬖愛無病。許甚賢，略不爭夕，無病事許益恭，以此嫡庶偕好。許舉一子阿堅，無病愛抱如己出。兒甫三歲，輒離乳媪，從無病宿，許喚不去。無何許病

卒，臨訣，囑孫曰：「無病最愛兒，即令子之可也，即正位焉亦可也。」既葬，孫將踐其言，告諸宗黨，僉謂不可；女亦固辭，遂止。

邑有王天官女新寡，來求婚。孫雅不欲娶，王再請之。媒道其美，宗族仰其勢，共慫恿之。孫惑焉，又娶之。色果艷，而驕已甚，衣服器用多厭嫌，輒加毀棄。孫以愛敬故，不忍有所拂。入門數月，擅寵專房，而無病至前，笑啼皆罪。時怒遷夫婿，數相鬪。孫患苦之，以多獨宿。婦又怒。孫不能堪，托故之都，逃婦難也。婦以遠游咎無病。無病鞠躬屏氣，承望顏色，而婦終不快。夜使直宿床下，兒奔與俱。每喚起給使，兒輒啼，婦厭罵之。無病急呼乳媪來，抱之不去。

強之益號。婦怒起，毒撻無算，始從乳媪去。兒以是病悸，不食。婦禁無病不令見之。兒終日啼，婦叱媪，使棄諸地。兒氣竭聲嘶，呼而求飲，婦戒勿與。日既暮，無病窺婦不在，潛飲兒。兒見之，棄水捉衿，號啣不止。婦聞之，意氣洶洶而出。兒聞聲輟涕，一躍遂絕。無病大哭。婦怒曰：「賤婢醜態！豈以兒死脅我耶！無論孫家襁褓物；即殺王府世子，王天官女亦能任之！無病乃抽息忍涕，請為葬具。婦不許，立命棄之。」

婦去，竊撫兒，四體猶溫，隱語媪曰：「可速將去，少待於野，我當繼至。其死也共棄之，活也共撫之。」媪曰：「諾。」無病入室，攜簪珥出，追及之。共視兒，已蘇。二人喜，謀

趨別業，往依姨。媪慮其纖步為累，無病乃先趨以俟之，疾若飄風，媪力奔始能及。約二更許，兒病危不復可前。遂斜行入村，至田叟家，倚門侍曉，叩扉借室，出簪珥易資，巫醫並致，病卒不瘳。女掩泣曰：「媪好視兒，我往尋其父也。」媪方驚其謬妄，而女已杳矣，駭詫不已。

是日孫在都，方憩息床上，女悄然入。孫驚起曰：「才眠已入夢耶！」女握手哽咽，頓足不能出聲。久之久之，方失聲而言曰：「妾歷千辛，與兒逃於楊——」句未終，縱聲大哭，倒地而滅。孫駭絕，猶疑為夢；喚從人共視之，衣履宛然，大異不解。即刻趣裝，星馳而歸。既聞兒死妾遁，撫膺大悲。語侵婦，婦反唇相稽。孫忿，出白刃；婢媪遮救不得近，遙

擲之。刀脊中額，額破血流，披發嗥叫而出，將以奔告其家。孫捉還，杖撻無數，衣皆若縷，傷痛不可轉側。孫命舁諸房中護養之，將待其瘥而後出之。婦兄弟聞之。怒，率多騎登門，孫亦集健僕械御之。兩相叫罵，竟日始散。王未快意，訟之。孫捍衛入城，自詣質審，訴婦惡狀。宰不能屈，送廣文懲戒以悅王。廣文朱先生，世家子，剛正不阿。廉得情。怒曰：「堂上公以我為天下之齷齪教官，勒索傷天害理之錢，以吮人癰痔者耶！此等乞丐相，我所不能！」竟不受命。孫公然歸。王無奈之，乃示意朋好，為之調停，欲生謝過其家。孫不肯，十反不能決。婦創漸平，欲出之，又恐王氏不受，因循而安之。

妾亡子死，夙夜傷心，思得乳媪，一問其情。因憶無病言「逃於楊」，近村有楊家，疑其在是；往問之，並無知者。或言五十里外有楊谷，遣騎詣訊，果得之。兒漸平復，相見各喜，載與俱歸。兒望見父，噉然大啼，孫亦淚下。婦聞兒尚存，盛氣奔出，將致詈罵。兒方啼，開目見婦，驚投父懷，若求藏匿。抱而視之，氣已絕矣。急呼之，移時始蘇。孫恚曰：「不知如何酷虐，遂使吾兒至此！」乃立離婚書，送婦歸。王果不受，又舁還孫。孫不得已，父子別居一院，不與婦通。乳媪乃備述無病情狀，孫始悟其為鬼。感其義，葬其衣履，題碑曰「鬼妻呂無病之墓」。無何，婦產一男，交手於項而死之。孫益忿，復出婦；王又舁還之。孫乃具狀控諸

上臺，皆以天官故置不理。後天官卒，孫控不已，乃判令大歸。孫由此不復娶，納婢焉。

婦既歸，悍名噪甚，三四年無問名者。婦頓悔，而已不可復挽。有孫家舊媪，適至其家。婦優待之，對之流涕；揣其情，似念故夫。媪歸告孫，孫笑置之。又年餘，婦母又卒，孤無所依，諸嫌如頗厭嫉之，婦益失所，日輒涕零。一貧士喪偶，兄議厚其奩妝而遣之，婦不肯。每陰托往來者致意孫，泣告以悔，孫不聽。一日婦率一婢，竊驢跨之，竟奔孫。孫方自內出，迎跪階下，泣不可止。孫欲去之，婦牽衣復跪之。孫固辭曰：「如復相聚，常無間言則已耳；一朝有他，汝兄弟如虎狼，再求離逃，豈可復得！」婦曰：「妾竊奔而來，萬無

還理。留則留之，否則死之！且妾自二十一歲從君，二十三歲被出，誠有十分惡，寧無一分情？」乃脫一腕釧，並兩足而束之，袖覆其上，曰：「此時香火之誓，君寧不憶之耶？」孫乃熒眳欲淚，使人挽扶入室；而猶疑王氏詐諉，欲得其兄弟一言為證據。婦曰：「妾私出，何顏復求兄弟？如不相信，妾藏有死具在此，請斷指以自明。」遂於腰間出利刃，就床邊伸左手一指斷之，血溢如湧。孫大駭，急為束裹。婦容色痛變，而更不呻吟，笑曰：「妾今日黃梁之夢已醒，特借鬥室為出家計，何用相猜？」孫乃使子及妾另居一所，而已朝夕往來於兩間。又日求良藥醫指創，月餘尋愈。

婦由此不茹葷酒，閉戶誦佛而已。居久，見家政廢弛，謂孫曰：「妾此來，本欲置他事於不問，今見如此用度，恐子孫有餓莩者矣。無已，再腆顏一經紀之。」乃集婢媪，按日責其績織。家人以其自投也，慢之，竊相訕訕，婦若不聞。既而課工，惰者鞭撻不貸，眾始懼之。又垂簾課主計僕，綜理微密。孫乃大喜，使兒及妾皆朝見之。阿堅已九歲，婦加意溫恤，朝入塾，常留甘餌以待其歸，兒亦漸親愛之。一日，兒以石投雀，婦適過，中顛而僕，逾刻不語。孫大怒，撻兒；婦蘇，力止之，且喜曰：「妾昔虐兒，中心每不自釋，今幸銷一罪案矣。」孫益嬖愛之，婦每拒，使就妾宿。居數年，屢產屢殤，曰：「此昔日殺兒之報也。」阿堅既娶，遂以外事委

兒，內事委媳。一日曰：「妾某日當死。」孫不信。婦自理葬具，至日更衣入棺而卒。顏色如生，異香滿室；既殮，香始漸滅。異史氏曰：「心之所好，原不在妍媸也。毛嬙、西施，焉知非自愛之者美之乎？然不遭悍妒，其賢不彰，幾令人與嗜痂者並笑矣。至錦屏之人，其夙根原厚，故豁然一悟，立證菩提；若地獄道中，皆富貴而不經艱難者矣。」

### 八、三十、錢卜巫

夏商，河間人。其父東陵，豪富侈汰，每食包子，輒棄其角，狼藉滿地。人以其肥重，呼之「丟角太尉」。暮年家甚貧，日不給餐，兩肢瘦垂革如囊，人又呼「募莊僧」，謂其掛袋也。

臨終謂商曰：「餘生平暴殄天物，上干天怒，遂至凍餓以死。汝當惜福力行，以蓋父愆。」

商恪遵治命，誠樸無二，躬耕自給。鄉人咸愛敬之。富人某翁哀其貧，假以資使學負販，輒虧其母。愧無以償，請為傭，翁不肯。商瞿然不自安，盡貨其田宅，往酬翁。翁請得情，益直之。強為贖還舊業；又益貸以重金，俾作賈。商辭曰：「十數金尚不能償，奈何結來生驢馬債耶？」翁乃招他賈與偕。數月而返，僅能不虧；翁不收其息，使復之。年餘貸資盈輩，歸至江，遭颶，舟幾覆，物半喪失。歸計所有，略可償主，遂語賈曰：「天之所貧，誰能救之？此皆我累君也！」乃稽簿付賈，奉身而退。翁再強之，必不可，躬耕如

故。每自嘆曰：「人生世上，皆有數年之享，何遂落魄如此？」  
會有外來巫，以錢卜，悉知人運數。敬詣之。巫，老嫗也。  
寓室精潔，中設神座，香氣常熏。商人朝拜訖，巫便索資。  
商授百錢，巫盡納木筒中，執跪座下，搖響如祈簽狀。已而  
起，傾錢入手，而後於案上次第擺之。其法以字為否，幕為  
亨；數至五十八皆字，以後則盡幕矣。遂問：「庚甲幾何？」  
答：「二十八歲。」巫搖首曰：「早矣！官人現行者先人運，  
非身運。五十八歲方交本身運，始無盤錯也。」問：「何謂先  
人運？」曰：「先人有善，其福未盡，則後人享之；先人有  
不善，其禍未盡，則後人亦受之。」商屈指曰：「再三十年，  
齒已老耆，行就木矣。」巫曰：「五十八以前，便有回國，略

可營謀；然僅免饑寒耳。五十八之年，當有巨金自來，不須力求。官人生無過行，再世享之不盡也。」別巫而返，疑信半焉。然安貧自守，不敢妄求。後至五十三歲，留意驗之。時方東作，病店不能耕。既痊，天大旱，早禾盡枯。近秋方雨，家無別種，田數畝悉以種穀。既而又旱，葬菽半死，惟谷無恙；後得雨勃發，其豐倍焉。來春大饑，得以無餒。商以此信巫，從翁貸資，小權子母，輒小獲；或勸作大賈，商不肯。迨五十七歲，偶葺墻垣，掘地得鐵釜；揭之，白氣如絮，懼不敢發。移時氣盡，白鏹滿甕。夫妻共運之，稱計一千三百二十五兩。竊議巫術小舛。鄰人妻入商家，窺見之，歸告夫。夫忌焉，潛告邑宰。宰最貪，拘商索金。妻欲隱其

半，商曰：「非所宜得，留之賈禍。」盡獻之。宰得金，恐其漏匿，又追貯器，以金實之，滿焉，乃釋商。居無何，宰遷南昌同知。逾歲，商以懋遷至南昌，則宰已死。妻子將歸，貨其粗重；有桐油如乾簍，商以直賤，買之以歸。既抵家，器有滲漏，瀉注他器，則內有白金二錠；遍探皆然。兌之，適得前掘鏹之數。

商由此暴富，益贍貧窮，慷慨不吝。妻勸積遺子孫，商曰：「此即所以遺子孫也。」鄰人赤貧至為丐，欲有所求，而心自愧。商聞而告之曰：「昔日事，乃我時數未至，故鬼神假子手以敗之，於汝何尤？」遂周給之。鄰人感泣。後商壽八十，子孫承繼，數世不衰。

異史氏曰：「汰侈已甚，王侯不免，況庶人乎！生暴天物，死無飯含，可哀矣哉！幸而鳥死鳴哀，子能幹盅，窮敗七十年，卒以中興；不然，父孽累子，子復累孫，不至乞丐相傳不止矣。何物老巫，遂宣天之秘？嗚呼！怪哉！」

八、三十一、姚安

姚安，臨洮人，美豐標。同裏宮姓，有女子字綠娥，艷而知書，擇偶不嫁。母語人曰：「門族風採，必如姚某始字之。」姚聞，給妻窺井，擠墮之，遂娶綠娥。雅甚親愛。

然以其美也，故疑之。閉戶相守，步輒綴焉；女欲歸寧，則以兩肘支袍，覆翼以出，入輿封志，而後馳隨其後，越宿促

與俱歸。女心不能善，忿曰：「若有桑中約，豈瑣瑣所能止耶！姚以故他往，則扃女室中，女益厭之，俟其去，故以他鑰置門外以疑之。姚見大怒，問所自來。女憤言：「不知！」姚愈疑，伺察彌嚴。一日自外至，潛聽久之，乃開鎖啟扉，惟恐其響，悄然掩入。見一男子貂冠臥床上，忿怒，取刀奔入，力斬之。近視，則女晝眠畏寒，以貂覆面上。大駭，頓足自悔。

宮翁忿質於官。官收姚，褫衿苦械。姚破產，以具金賂上下，得不死。由此精神迷惘，若有所失。適獨坐，見女與髯丈夫狎褻榻上，惡之，操刃而往，則沒矣；反坐又見之。怒甚，以刀擊榻，席褥斷裂。憤然執刃，近榻以伺之，見女面立，

視之而笑。速斫之，立斷其首；既坐，女不移處，而笑如故。夜間滅燭，則聞淫溺之聲，褻不可言。日日如是，不復可忍，於是鬻其田宅，將卜居他所。至夜偷兒穴壁入，劫金而去。自此貧無立錐，忿恚而死。里人槁葬之。

異史氏曰：「愛新而殺其舊，忍乎哉！人止知新鬼為厲，而不知故鬼之奪其魄也。嗚呼！截指而適其屢，不亡何待！」

八、三十二、採薇翁

明鼎革，干戈蜂起。於陵劉芝生先生聚眾數萬，將南渡。忽一肥男子詣柵門，敝衣露腹，請見兵主。先生延入與語，大悅之。問其姓名，自號採薇翁。劉留參帷幄，贈以刃。翁

言：「我自有利兵，無須矛戟。」問：「兵所在？」翁乃捋衣露腹，臍大可容雞子；忍氣鼓之，忽臍中塞膚，嗤然突出劍跗；握而抽之，白刃如霜。劉大驚，問：「止此乎？」笑指腹曰：「此武庫也，何所不有。」命取弓矢，又如前狀，出雕弓一具；略一閉息，則一矢飛墮，其出不窮。已而劍插臍中，既都不見。劉神之，與同寢處，敬禮甚備。

時營中號令雖嚴，而烏合之群，時出剽掠。翁曰：「兵貴紀律；今統數萬之眾，而不能鎮懾人心，此敗亡之道。」劉喜之，於是糾察卒伍，有掠取婦女財物者，梟以示眾。軍中稍肅，而終不能絕。翁不時乘馬出，遨游部伍之間，而軍中悍將驕卒，輒首自墮地，不知其何因。因共疑翁。前進嚴飭之

策，兵士已畏惡之；至此益相憾怨。諸部領譖於劉曰：「採薇翁，妖術也。自古名將，止聞以智，不聞以術。浮雲、白雀之徒，終致滅亡。今無辜將士，往往自失其首，人情洶懼；將軍與處，亦危道也，不如圖之。」劉從其言，謀俟其寢而誅之。使覘翁，翁坦腹方臥，鼻息如雷。眾大喜，以兵繞舍，兩人持刀入斷其頭；及舉刀，頭已復合，息如故，大驚。又斫其腹；腹裂無血，其中戈矛森聚，盡露其穎。眾益駭，不敢近；遙撥以稍，而鐵弩大發，射中數人。眾驚散，白劉。劉急詣之，已杳矣。

八、三十三、崔猛

崔猛字勿猛，建昌世家子。性剛毅，幼在塾中，諸童稍有所犯，輒奮拳毆擊，師屢戒不俊，名、字皆先生所賜也。至十六七，強武絕倫。又能持長竿躍登夏屋。喜雪不平，以是鄉人共服之，求訴稟白者盈階滿室。崔抑強扶弱，不避怨嫌；稍逆之，石杖交加，支體為殘。每盛怒，無敢勸者。惟事母孝，母至則解。母譴責備至，崔唯唯聽命，出門輒忘。比鄰有悍婦，日虐其姑。姑餓瀕死，子竊啖之；婦知，詬厲萬端，聲聞四院。崔怒，逾垣而過，鼻耳唇舌盡割之，立斃。母聞大駭，呼鄰子極意溫恤，配以少婢，事乃寢。母憤泣不食。崔懼，跪請受杖，且告以悔，母泣不顧。崔妻周，亦與並跪。

母乃杖子，而又針刺其臂，作十字紋，朱塗之，俾勿滅。崔並受之，母乃食。

母喜飯僧道，往往饜飽之。適一道士在門，崔過之。道士曰：「郎君多兇橫之氣，恐難保其令終。積善之家，不宜有此。」崔新受母戒，聞之，起敬曰：「某亦自知；但一見不平，苦不自禁。力改之，或可免否？」道士笑曰：「姑勿問可免不可免，請先自問能改不能改。但當痛自抑；如有萬分之一，我告君以解死之術。」崔生平不信厭禳，笑而不言。道士曰：「我固知君不信。但我所言，不類巫覡，行之亦盛德；即或不效，亦無妨礙。」崔請教，乃曰：「適門外一後生，宜厚結之，即犯死罪，彼亦能活之也。」呼崔出，指示其人。蓋

趙氏兒，名僧哥。趙，南昌人，以歲祲饑，僑寓建昌。崔由是深相結，請趙館於其家，供給優厚。僧哥年十二，登堂拜母，約為弟昆。逾歲東作，趙攜家去，音問遂絕。

崔母自鄰婦死，戒子益切，有赴訴者，輒擯斥之。一日崔母弟卒，從母往吊。途遇數人繫一男子，呵罵促步，加以捶撲。觀者塞途，輿不得進。崔問之，識崔者競相擁告。先是，有巨紳子某甲者豪橫一鄉，窺李申妻有色欲奪之，道無由。因命家人誘與博賭，貸以資而重其息，要使署妻於券，資盡復給。終夜負債數千，積半年，計子母三十餘千。申不能償，強以多人篡取其妻。申哭諸其門，某怒，拉系樹上，榜笞刺剝，逼立「無悔狀」。崔聞之，氣湧如山，鞭馬前向，意將用

武。母搥簾而呼曰：「喏！又欲爾耶！」崔乃止。既吊而歸，不語亦不食，兀坐直視，若有所嗔。妻詰之，不答。至夜，和衣臥榻上，輾轉達旦，次夜復然。忽啟戶出，輒又還臥。如此三四，妻不敢詰，惟懾息以聽之。既而遲久乃返，掩扉熟寢矣。

是夜，有人殺某甲於床上，剗腹流腸；申妻亦裸尸床下。官疑申，捕治之。橫被殘梏，踝骨皆見，卒無詞。積年餘不堪刑，誣服，論闕。會崔母死，既殯，告妻曰：「殺甲者實我也，徒以有老母故不敢洩。今大事已了，奈何以一身之罪殃他人？我將赴有司死耳！」妻驚挽之，絕裾而去，自首於庭。官愕然，械送獄，釋申。申不可，堅以自承。官不能決，兩

收之。戚屬皆誚讓申，申曰：「公子所為，是我欲為而不能者也。彼代我為之，而忍坐視其死乎？今日即謂公子未出也可。」執不異詞，固與崔爭。久之，衙門皆知其故，強出之，以崔抵罪，瀕就決矣。會恤刑官趙部郎，案臨閱囚，至崔名，屏人而喚之。崔入，仰視堂上，僧哥也。悲喜實訴。趙徘徊良久，仍令下獄，囑獄卒善視之。尋以自首減等，充雲南軍，申為服役而去，未期年援赦而歸。皆趙力也。

既歸，申終從不去，代為紀理生業。予之資，不受。緣橦技擊之術，頗以關懷。崔厚遇之，買婦授田焉。崔由此力改前行，每撫臂上刺痕，流然流涕，以故鄉鄰有事，申輒矯命排解，不相稟白。

有王監生者家豪富，四方無賴不仁之輩，出入其門。邑中殷實者，多被劫掠；或迂之，輒遣盜殺諸途。子亦淫暴。王有寡孀，父子俱烝之。妻仇氏屢沮王，王縊殺之。仇兄弟質諸官，王賊囑，以告者坐誣。兄弟冤憤莫伸，詣崔求訴。申絕之使去。過數日，客至，適無僕，使申渝茗。申默然出，告人曰：「我與崔猛朋友耳，從徙萬里，不可謂不至矣；曾無廩給，而役同廝養，所不甘也！」遂忿而去。或以告崔，崔訝其改節，而亦未之奇也。申忽訟於官，謂崔三年不給傭值。崔大異之，親與對狀，申忿相爭。官不直之，責逐而去。又數日，申忽夜入王家，將其父子孀婦並殺之，粘紙於壁，自書姓名，及追捕之，則亡命無跡。王家疑崔主使，官不信。

崔始悟前此之訟，蓋恐殺人之累已也。關行附近州邑，追捕甚急。會闖賊犯順，其事遂寢。及明鼎革，申攜家歸，仍與崔善如初。

時土寇嘯聚，王有從子得仁，集叔所招無賴，據山為盜，焚掠村疇。一夜，傾巢而至，以報仇為名。崔適他出，申破扉始覺，越牆伏暗中。賊搜崔、李不得，據崔妻，括財物而去。申歸，止有一僕，忿極，乃斷繩數十段，以短者付僕，長者自懷之。囑僕越賊巢，登半山，以火爇繩，散掛荊棘，即反勿顧。僕應而去。申窺賊皆腰束紅帶，帽系紅絹，遂效其裝。有老牝馬初生駒，賊棄諸門外。申乃縛駒跨馬，銜枚而出，直至賊穴。賊據一大村，申繫馬村外，逾垣入。見賊眾紛紜，

操戈未釋。申竊問諸賊，知崔妻在王某所。俄聞傳令，俾各休息，轟然噉應。忽一人報東山有火，眾賊共望之；初猶一二點，既而多類星宿。申窒息急呼東山有警。王大驚，束裝率眾而出。申乘間漏出其右，返身入內。見兩賊守帳，給之曰：「王將軍遺佩刀。」兩賊競覓。申自後所之，一賊踣；其一回顧，申又斬之。竟負崔妻越垣而出。解馬授轡，曰：「娘子不知途，縱馬可也。」馬戀駒奔駛，申從之。出一隘口，申灼火於繩，遍懸之，乃歸。

次日崔還，以為大辱，形神跳躁，欲單騎往平賊。申諫止之。集村人共謀，眾羅怯莫敢應。解諭再四，得敢往二十餘人，又苦無兵。適於得仁族姓家獲奸細二，崔欲殺之，申不

可；命二十人各持白梃，具列於前，乃割其耳而縱之。眾怨曰：「此等兵旅，方懼賊知，而反示之。脫其傾隊而來，闔村不保矣！」申曰：「吾正欲其來也。」執匿盜者誅之。遣人四出，各假弓矢火銃，又詣邑借巨炮二。日暮，率壯士至隘口，置炮當其沖；使二人匿火而伏，囑見賊乃發。又至谷東口，伐樹置崖上。已而與崔各率十餘人，分岸伏之。一更向盡，遙聞馬嘶，賊果大至，緦屬不絕。俟盡入谷，乃推墮樹木，斷其歸路。俄而炮發，喧騰號叫之聲震動山谷。賊驟退，自相踐踏；至東口，不得出，集無隙地。兩岸銃矢夾攻，勢如風雨，斷頭折足者枕藉溝中。遺二十餘人，長跪乞命。乃遣人紫送以歸。乘勝直抵其巢。守巢者聞風奔竄，揣其輜重

而還。崔大喜，問其設火之謀。曰：「設火於東，恐其西追也；短，欲其速盡，恐偵知其無人也；既而設於谷口，口甚隘，一夫可以斷之，彼即追來，見火必懼；皆一時犯險之下策也。」取賊鞫之，果追入谷，見火驚退。二十餘賊，盡剗刖而放之。由此威聲大震，遠近避亂者從之如市，得土團三百餘人。各處強寇無敢犯，一方賴之以安。

異史氏曰：「快牛必能破車，崔之謂哉！志意慷慨，蓋鮮儷矣。然欲天下無不平之事，寧非意過其通者與？李申，一介細民，遂能濟美。緣橦飛入，剪禽獸於深閨；斷路夾攻，蕩么魔於隘穀。使得假五丈之旗，為國效命，烏在不南面而王哉！」

八、三十四、詩讞

青州居民範小山，販筆為業，行賈未歸。四月間，妻賀氏獨居，夜為盜所殺。是夜微雨，泥中遺詩扇一柄，乃王晟之贈吳蜚卿者。晟，不知何人；吳，益都之素封，與範同里，平日頗有佻達之行，故里黨共信之。郡縣拘質，堅不伏，慘被械梏，誣以成案；駁解往復，歷十餘官，更無異議。

吳亦自分必死，囑其妻罄竭所有，以濟瑩獨。有向其門誦佛千者，給以絮褲；至萬者絮襖。於是乞丐如市，佛號聲聞十餘里。因而家驟貧，惟日貨田產以給資斧。陰賂監者使市鳩，

夜夢神人告之曰：「子勿死，曩日『外邊兇』，目下『裡邊吉』矣。」再睡又言，以是不果死。

未幾，周元亮先生分守是道，錄囚至吳，若有所思。因問：「吳某殺人，有何確據？」範以扇對。先生熟視扇，便問：「王晟何人？」並云不知。又將爰書細閱一過，立命脫其死械，自監移之倉。範力爭之，怒曰：「爾欲妄殺一人便了卻耶？抑將得仇人而甘心耶？」眾疑先生私吳，俱莫敢言。

先生標朱簽，立拘南郭某肆主人。主人懼，莫知所以。至則問曰：「肆壁有東莞李秀才，何時題耶？」答云：「舊歲提學案臨，有日照二三秀才，飲醉留題，不知所居何里。」遂遣役至日照，坐拘李秀。數日秀至，怒曰：「既作秀才，奈何

謀殺人？」秀頓首錯愕，曰：「無之！」先生擲扇下，令其自視，曰：「明系爾作，何詭托王晟？」秀審視，曰：「詩真某作，字實非某書。」曰：「既知汝詩，當即汝友。誰書者？」秀曰：「跡似沂州王佐。」乃遣役關拘王佐。佐至，呵問如秀狀。佐供：「此益都鐵商張成索某書者，云晟其表兄也。」先生曰：「盜在此矣。」執成至，一訊遂伏。

先是成窺賀美，欲挑之恐不諧。念托於吳，必人所共信，故偽為吳扇，執而往。諧則自認，不諧則嫁名於吳，而實不期至於殺也。逾垣入逼婦；婦因獨居，常以刃自衛。既覺，捉成衣，操刀而起。成懼奪其刀。婦力挽，令不得脫，且號。成益窘，遂殺之，委扇而去。

三年冤獄，一朝而雪，無不誦神明者。吳始語「裡邊吉」乃「周」字也。然終莫解其故。後邑紳乘間請之，笑曰：「此最易知。細閱愛書，賀被殺在四月上旬，是夜陰雨，天氣猶寒，扇乃不急之物，豈有忙迫之時，反攜此以增累者，其嫁禍可知。向避雨南郭，見題壁詩與箴頭之作，口角相類，故妄度李生，果因是而得真盜。」聞者嘆服。

異史氏曰：「入之深者，當其無有有之用。詞賦文章，華國之具也，而先生以相天下士，稱孫陽焉。豈非入其中深乎？而不謂相士之道，移於折獄。《易》曰：『知幾其神。』先生有之矣。」

八、三十五、鹿銜草

關外山中多鹿。土人戴鹿首伏草中，卷葉作聲，鹿即群至。然牡少而牝多。牡交群牝，千百必遍，既遍遂死。眾牝嗅之，知其死，分走穀中，銜異草置吻旁以熏之，頃刻復蘇。急鳴金施銃，群鹿驚走。因取其草，可以回生。

八、三十六、小棺

天津有舟人某，夜夢一人教之曰：「明日有載竹筒賃舟者，索之千金；不然，勿渡也。」某醒不信。既寐復夢，且書「𠄎、𠄎、𠄎」三字於壁，囑云：「倘渠吝價，當即書此示之。」某異之。但不識其字，亦不解何意。次日留心行旅；日向西，

果有一人驅騾載笥來，問舟。某如夢索價，其人笑之。反復良久，某牽其手，以指書前字。其人大愕，即刻而滅。搜其裝載，則小棺數萬餘，每具僅長指許，各貯滴血而已。某以三字傳示遐邇，並無知者。未幾吳逆叛謀既露，黨羽盡誅，陳尸幾如棺數焉。徐白山說。

八、三十七、邢子儀

滕有楊某從白蓮教黨，得左道之術。徐鴻儒誅後，楊幸漏脫，遂挾術以遨。家中田園樓閣，頗稱富有。至泗上某紳家，幻法為戲，婦女出窺。楊睨其女美，歸謀攝取之。其繼室朱氏亦風韻，飾以華妝，偽作仙姬；又授木鳥，教之作用；乃

自樓頭推墮之。朱覺身輕如葉，飄飄然凌雲而行。無何至一處，云止不前，知己至矣。是夜，月明清潔，俯視甚了。取木鳥投之，鳥振翼飛去，直達女室。女見彩禽翔入，喚婢撲之，鳥已沖簾出。女追之，鳥墮地作鼓翼聲；近逼之，撲入裙底；展轉間，負女飛騰，直沖霄漢。婢大號。朱在雲中言曰：「下界人勿須驚怖，我月府姮娥也。渠是王母第九女偶謫塵世。王母日切懷念，暫招去一相會聚，即送還耳。」遂與結襟而行。

方及泗水之界，適有放飛爆者，斜觸鳥翼；鳥驚墮，牽朱亦墮，落一秀才家。秀才邢子儀，家赤貧而性方鯁。曾有鄰婦夜奔，拒不納。婦銜憤去，譖諸其夫，誣以挑引。夫固無賴，

晨夕登門詬辱之，邢因貨產僦居別村。有相者顧某善決人福壽，刑踵門叩之。顧望見笑曰：「君富足千鐘，何著敗絮見人？豈謂某無瞳耶？」刑嗤妄之。顧細審曰：「是矣。固雖蕭索，然金穴不遠矣。」邢又妄之。顧曰：「不惟暴富，且得麗人。」邢終不以為信。顧推之出，曰：「且去且去，驗後方索謝耳。」是夜，獨坐月下，忽二女自天降，視之皆麗姝。詫為妖，詰問之，初不肯言。邢將號召鄉里，朱懼，始以實告，且囑勿洩，願終從焉。邢思世家女不與妖人婦等，遂遣人告其家。其父母自女飛升，零涕惶惑；忽得報書，驚喜過望，立刻命輿馬星馳而去。報邢百金，攜女歸。邢得艷妻，方憂

四壁，得金甚慰。往謝顧，顧又審曰：「尚未尚未。泰運已交，百金何足言！」遂不受謝。

先是紳歸，請於上官捕楊。楊預遁不知所之，遂籍其家，發牒追朱。朱懼，牽邢飲泣。邢亦計窘，始賂承牒者，賃車騎攜朱詣紳，哀求解脫。紳感其義，為竭力營謀，得贖免；留夫妻於別館，歡如戚好。紳女幼受劉聘；劉，顯秩也，聞女奇邢家信宿以為辱，反婚書與女絕姻。紳將議姻他族，女告父母誓從邢。邢聞之喜；朱亦喜，自願下之。紳憂邢無家，時楊居宅從官貨，因代購之。夫妻遂歸，出曩金，粗治器具，蓄婢僕，旬日耗費已盡。但冀女來，當復得其資助。一夕，朱謂邢曰：「孽夫楊某，曾以千金埋樓下，惟妾知之。適視

其處，磚石依然，或窖藏無恙。」往共發之，果得金。因信顧術之神，厚報之。後女於歸，妝資豐盛，不數年，富甲一郡矣。

異史氏曰：「白蓮殲滅而楊獨不死，又附益之，幾疑恢恢者疏而且漏矣。孰知天留之，蓋為邢也。不然，邢即否極而泰，亦惡能倉卒起樓閣、累巨金哉？不愛一色，而天報之以兩。嗚呼！造物無言，而意可知矣。」

八、三十八、李生

商河李生，好道。村外里餘有蘭若，築精舍三楹，趺坐其中。游食緇黃，往來寄宿，輒與傾談，供給不厭。一日，大雪嚴

寒，有老僧擔囊借榻，其詞玄妙。信宿將行，固挽之，留數日。適生以他故歸，僧囑早至，意將別生。雞鳴而往，叩關不應。逾垣入，見室中燈火熒熒，疑其有作，潛窺之。僧趣裝矣，一瘦驢繫燈檠上，細審不類真驢，頗似殉葬物；然耳尾時動，氣咻咻然。俄而裝成，啟戶牽出。生潛尾之。門外原有大池，僧系驢池樹，裸入水中，遍體掬濯已；著衣牽驢入，亦濯之。既而加裝超乘，行絕駛。生始呼之。僧但遙拱致謝，語不及聞，去已遠矣。王梅屋言：李其友人。曾至其家，見堂上額書「待死堂」，亦達士也。

八、三十九、陸押官

趙公，湖廣武陵人，官宮詹，致仕歸。有少年伺門下，求司筆札。公召入，見其人秀雅，詰其姓名，自言陸押官，不索傭值。公留之，慧過凡僕。往來箋奏，任意裁答，無不工妙。主人與客弈，陸睨之，指點輒勝。趙益優寵之。

諸僚僕見其得主人青目，戲索作筵。押官許之，問：「僚屬幾何？」會別業主計者約三十餘人，眾悉告之數以難之。押官曰：「此大易。但客多，倉卒不能遽辦，肆中可也。」遂遍邀諸侶，赴臨街店。皆坐。酒甫行，有按壺起者曰：「諸君姑勿酌，請問今日誰作東道主？宜先出資為質，始可放情飲

啖；不然，一舉數千，哄然都散，向何取償也？」眾目押官。押官笑曰：「得無謂我無錢耶？我固有錢。」乃起，向盆中捻濕面如拳，碎掐置幾上，隨擲遂化為鼠，竄動滿案。押官任捉一頭裂之，啾然腹破，得小金；再捉，亦如之。頃刻鼠盡，碎金滿前，乃告眾曰：「是不足供飲耶？」眾異之，乃共恣飲。既畢，會直三兩餘，眾秤金，適符其數。

眾索一枚懷歸，白其異於主人。主人命取金，搜之已亡。反質肆主，則償資悉化蒺藜。僕白趙，趙詰之。押官曰：「朋輩逼索酒食，囊空無資。少年學作小劇，故試之耳。」眾復責償。押官曰：「某村麥穗中，再一簸揚，可得麥二石，足

償酒價有餘也。」因浼一人同去。某村主計者將歸，遂與偕往。至則淨麥數斛，已堆場中矣。眾以此益奇押官。

一日趙赴友筵，堂中有盆蘭甚茂，愛之。歸猶贊嘆之。押官曰：「誠愛此蘭，無難致者。」趙猶未信。凌晨至齋，忽聞異香蓬勃，則有蘭花一盆，箭葉多寡，宛如所見。因疑其竊，審之。押官曰：「臣家所蓄，不下千百，何須竊焉？」趙不信。適某友至，見蘭驚曰：「何酷肖寒家物！」趙曰：「余適購之，亦不識所自來。但君出門時，見蘭花尚在否？」某曰：「我實不曾至齋，有無固不可知。然何以至此？」趙視押官，押官曰：「此無難辨：公家盆破有補綴處，此盆無也。」驗之始信。夜告主人曰：「向言某家花卉頗多，今屈玉趾，乘月

往觀。但諸人皆不可從，惟阿鴨無害。」——鴨，宮詹僮也。遂如所請。公出，已有四人荷肩輿，伏候道左。趙乘之，疾於奔馬。俄頃入山，但聞奇香沁骨。至一洞府，見舍宇華耀迥異人間，隨處皆設花石，精盆佳卉，流光散馥，即蘭一種約有數十餘盆，無不茂盛。觀已，如前命駕歸。押官從趙十餘年，後趙無疾卒，遂與阿鴨俱出，不知所往。

### 八、四十、蔣太史

蔣太史超，記前世為峨嵋僧，數夢至故居庵前潭邊濯足。為人篤嗜內典，一意臺宗，雖早登禁林，常有出世之想。假歸江南，抵秦郵，不欲歸。子哭挽之弗聽。遂入蜀，居成都金沙

寺；久之，又之峨嵋，居伏虎寺，示疾怛化。自書偈云：「脩然猿鶴自來親，老衲無端墮業塵。妄向鑊湯求避熱，那從大海去翻身。功名傀儡場中物，妻子骷髏隊里人。只有君親無報答，生生常自祝能仁。」

#### 八、四十一、邵士梅

邵進士名士梅，濟寧人。初授登州教授，有二老秀才投刺，睹其名，似甚熟識；凝思良久，忽悟前身。便問齋夫：「某生居某村否？」又言其豐範，一一吻合。俄兩生入，執手傾語，歡若平生。談次，問高東海況。一生曰：「獄死二十餘年矣，今一子尚存。此鄉中細民，何以見知？」邵笑云：「我

舊戚也。」先是，高東海素無賴，然性豪爽，輕財好義。有負租而鬻女者，傾囊代贖之。私一媪，媪坐隱盜，官捕甚急，逃匿高家。官知之，收高，備極撈掠，終不服，尋死獄中。其死之日，即邵生辰。後邵至某村，恤其妻子，遠近皆知其異。此高少宰言之，即高公子冀良同年也。

八、四十二、顧生

江南顧生客稷下，眼暴腫，晝夜呻吟，罔所醫藥。十餘日痛少減。乃合眼時輒睹巨宅，凡四五進，門皆洞闢；最深處有人往來，但遙睹不可細認。

一日方凝神注之，忽覺身入宅中，三歷門戶，絕無人跡。有南北廳事，內以紅氈貼地。略窺之，見滿屋嬰兒，坐者、臥者、膝行者，不可數計。愕疑間，一人自舍後出，見之曰：「小王子謂有遠客在門，果然。」便邀之。顧不敢入，強之乃入。問：「此何所？」曰：「九王世子居。世子瘡疾新瘥，今日親賓作賀，先生有緣也。」言未已，有奔至者督促速行。俄至一處，雕榭朱欄，一殿北向，凡九楹。歷階而升，則客已滿座，見一少年北面坐，知是王子，便伏堂下。滿堂盡起。王子曳顧東向坐。酒既行，鼓樂暴作，諸妓升堂，演《華封祝》。才過三折，逆旅主人及僕喚進午餐，就床頭頻呼之。耳聞甚

真，心恐王子知，遂托更衣而出。仰視日中夕，則見僕立床前，始悟未離旅邸。

心欲急返，因遣僕闔扉去。甫交睫，見宮舍依然，急循故道而入。路經前嬰兒處並無嬰兒，有數十媪蓬首駝背，坐臥其中。望見顧，出惡聲曰：「誰家無賴子，來此窺伺！」顧驚懼，不敢置辯，疾趨後庭，升殿即坐。見王子領下添髻尺餘矣。見顧，笑問：「何往？劇本過七折矣。」因以巨觥示罰。移時曲終，又呈齣目。顧點《鼓祖娶婦》。妓即以椰瓢行酒，可容五斗許。顧離席辭曰：「臣目疾，不敢過醉。」王子曰：「君患目，有太醫在此，便合診視。」東座一客，即離坐來，兩

指啟雙眊，以玉簪點白膏如脂，囑合目少睡。王子命侍兒導入復室，令臥；臥片時，覺床帳香軟，因而熟眠。

居無何，忽聞鳴鈺鏗聒，即復驚醒。疑是優戲未畢，開目視之，則旅舍中狗舐油鎖也。然日疾若矢。再閉眼，一無所睹矣。

八、四十三、陳錫九

陳錫九，邳人。父子言，邑名士。富室周某，仰其聲望，訂為婚姻。陳累舉不第，家業蕭條，游學於秦，數年無信。周陰有悔心。以少女適王孝廉為繼室，王聘儀豐盛，僕馬甚都。

以此愈憎錫九貧，堅意絕婚；問女，女不從。怒，以惡服飾遣歸錫九。日不舉火，周全不顧恤。

一日使傭媪以榼餉女，入門向母曰：「主人使某視小姑姑餓死否。」女恐母慚，強笑以亂其詞。因出榼中肴餌，列母前。媪止之曰：「無須爾！自小姑入人家，何曾交換出一杯溫涼水？吾家物，料姥姥亦無顏啖噉得。」母大悲，聲色俱變。媪不服，惡語相侵。紛紜間錫九自外入，訊知大怒，撮毛批頰，撻逐出門而去。次日周來逆女，女不肯歸；明日又來，增其人數，眾口叟叟，如將尋鬥。母強勸女去。女濟然拜母，登車而去。過數日，又使人來逼索離婚書，母強錫九與之。惟望子言歸，以圖別處。

周家有人自西安來，知子言已死，陳母哀憤成疾而卒。錫九哀迫中，尚望妻歸；久而渺然，悲憤益切。薄田數畝，鬻治葬具。葬畢，乞食赴秦，以求父骨。至西安遍訪居人，或言數年前有書生死於逆旅，葬之東郊，今塚已沒。錫九無策，惟朝丐市廛，暮宿野寺，冀有知者。

會晚經叢葬處，有數人遮道，逼索飯價。錫九曰：「我異鄉人，乞食城郭，何處少人飯價？」共怒，捽之僕地，以埋兒敗絮塞其口。力盡聲嘶，漸就危殆。忽共驚曰：「何處官府至矣！」釋手寂然。俄有車馬至，便問：「臥者何人？」即有數人扶至車下。車中人曰：「是吾兒也。孽鬼何敢爾！可悉縛來，勿致漏脫。」錫九覺有人去其塞，少定細認，真其父也。

大哭曰：「兒為父骨良苦。今固尚在人間耶！」父曰：「我非人，太行總管也。此來亦為吾兒。」錫九哭益哀。父慰諭之。錫九泣述岳家離婚，父曰：「無憂，今新婦亦在母所。母念兒甚，可暫一往。」遂與同車，馳如風雨。

移時至一官署，下車入重門，則母在焉。錫九痛欲絕，父止之。錫九啜泣聽命。見妻在母側，問母曰：「兒婦在此，得毋亦泉下耶？」母曰：「非也，是汝父接來，待汝歸家，當便送去。」錫九曰：「兒侍父母，不願歸矣。」母曰：「辛苦跋涉而來，為父骨耳。汝不歸，初志為何也？況汝孝行已達天帝，賜汝金萬斤，夫妻享受正遠，何言不歸？」錫九垂泣。父數數促行，錫九哭失聲。父怒曰：「汝不行耶！」錫九懼，

收聲，始詢葬所。父挽之曰：「子行，我告之：去叢葬處百餘步，有子母白榆是也。」挽之甚急，竟不違別母。門外有健僕，捉馬待之。既超乘，父囑曰：「日所宿處，有少資斧，可速辦裝歸，向岳索婦；不得婦，勿休也。」錫九諾而行。馬絕駛，雞鳴至西安。僕扶下，方將拜致父母，而人馬已杳。尋至舊宿處，倚壁假寐，以待天明。坐處有拳石礙股，曉而視之，白金也。市棺賃輿，尋雙榆下，得父骨而歸。

合厝既畢，家徒四壁。幸里中憐其孝，共飯之。將往索婦，自度不能用武，與族兄十九往。及門，門者絕之。十九素無賴，出語穢褻。周使人勸錫九歸，願即送女去，錫九還。初，女之歸也，周對之罵婿及母，女不語，但向壁零涕。陳母死，

亦不使聞。得離書，擲向女曰：「陳家出汝矣！」女曰：「我不會悍逆，何為出我？」欲歸質其故，又禁閉之。後錫九如西安，遂造兇訃以絕女志。此信一播，遂有杜中翰來議姻，竟許之。親迎有日，女始知，遂泣不食，以被韜面，氣如游絲。周正無法，忽聞錫九至，發語不遜，意料女必死，遂異歸錫九，意將待女死以洩其憤。錫九歸，而送女者已至；猶恐錫九見其病而不內，甫入門委之而去。鄰里代憂，共謀舁還；錫九不聽，扶置榻上，而氣已絕。始大恐。正遑迫間，周子率數人持械入，門窗盡毀。錫九逃匿，苦搜之。鄉人盡為不平；十九糾十餘人銳身急難，周子兄弟皆被夷傷，始鼠竄而去。周益怒，訟於官，捕錫九、十九等。錫九將行，以

女尸囑鄰媪，忽聞榻上若息，近視之，秋波微動矣，少時已能轉側。大喜，詣官自陳。宰怒周訟誣。周懼，啖以重賂始得免。錫九歸，夫妻相見，悲喜交並。

先是，女絕食奄臥，自矢必死。忽有人捉起曰：「我陳家人也，速從我去，夫妻可以相見，不然無及矣！」不覺身已出門，兩人扶登肩輿。頃刻至官廨，見公姑俱在，問：「此何所？」母曰：「不必問，容當送汝歸。」日見錫九至，甚喜。一見遽別，心頗疑怪。公不知何事，恆數日不歸。昨夕忽歸，曰：「我在武夷，遲歸二日，難為保兒矣，可速送兒歸去。」遂以輿馬送女。忽見家門，遂如夢醒。女與錫九共述曩事，相與驚喜。從此夫妻相聚，但朝夕無以自給。錫九於村中設

童蒙帳，兼自攻苦，每私語曰：「父言天賜黃金，今四堵空  
空，豈訓讀所能發跡耶？」

一日自塾中歸，遇二人問之曰：「君陳某耶？」錫九曰：「然」。  
二人即出鐵索繫之，錫九不解其故。少間村人畢集，共詰之，  
始知郡盜所牽。眾憐其冤，醵錢賂役，途中得無苦。至郡見  
太奪，歷述家世。太守愕然曰：「此名士之子，溫文爾雅，烏  
能作賊！」命脫縲紲，取盜嚴梏之，始供為周某賄囑，錫九又  
訴翁婿反面之由，太守更怒，立刻拘提。即延錫九至署，與  
論世好，蓋太守舊邳宰韓公之子，即子言受業門人也。贈燈  
火之費以百金；又以二騾代步，使不時趨郡，以課文藝。轉

於各上官游揚其孝，自總制而下皆有饋遺。錫九乘騾而歸，夫妻慰甚。

一日妻母哭至，見女伏地不起。女駭問之，始知周已被械有獄矣。女哀哭自咎，但欲覓死。錫九不得已，詣郡為之緩頰。太守釋令自贖，罰穀一百石，批賜孝子陳錫九。放歸出倉粟，雜糠秕而輦運之，錫九謂女曰：「爾翁以小人之心度君子矣。烏知我必受之，而瑣瑣雜糠覈耶？」因笑卻之。錫九家雖小有，而垣牆陋蔽。一夜群盜入，僕覺大號，止竊兩騾而去。後半年餘，錫九夜讀，聞搗門聲，問之寂然。呼僕起視，則門一啟，兩騾躍入，乃向所亡也。直奔櫪下，咻咻汗喘。燭之，各負革囊，解視則自鏹滿中。大異，不知其所自來。後

聞是夜大盜劫周，盈裝出，適防兵追急，委其捆載而去。驟認故主，徑奔至家。

周自獄中歸，刑創猶劇；又遭盜劫，大病而死。女夜夢父囚系而至，曰：「吾生平所為，悔已無及。今受冥譴，非若翁莫能解脫，為我代求婚，致一函焉。」醒而鳴泣。詰之，具以告。錫九久欲一詣太行，即日遂發。既至，備牲物酌祝之，即露宿其處，冀有所見，終夜無異，遂歸。周死，母子逾貧，仰給於次婿。王孝廉考補縣尹，以墨敗，舉家徙沈陽，益無所歸。錫九時顧恤之。

異史氏曰：「善莫大於孝，鬼神通之，理固宜然。使為尚德之達人也者，即終貧，猶將取之，烏論後此之必昌哉？或以

膝下之嬌女，付諸頽白之叟，而揚揚曰：『某貴官，吾東床也。』嗚呼！宛宛嬰嬰者如故，而金龜婿以諭葬歸，其慘已甚矣；而況以少婦從軍乎？」

## 九、卷九

九、一、邵臨淄

臨淄某翁之女，太學李生妻也。未嫁時，有術士推其造，決其必受官刑。翁怒之，既而笑曰：「妄言一至於此！無論世家女必不至公庭，豈一監生不能庇一婦乎？」既嫁，悍甚，指罵夫婿以為常。李不堪其虐，忿鳴於官。邑宰邵公準其詞，

簽役立勾。翁聞之大駭，率子弟登堂，哀求寢息，弗許。李亦自悔，求罷。公怒曰：「公門內豈作輟盡由爾耶？必拘審！」既到，略詰一二言，便曰：「真悍婦！」杖責三十，臀肉盡脫。導史氏曰：「公豈有傷心於閨闈耶？何怒之暴也！然邑有賢宰，里無悍婦矣。志之，以補《循吏傳》之所不及者。」

九、二、於去惡

北平陶聖俞，名下士。順治間赴鄉試，寓居郊郭。偶出戶，見一人負笈，儻似卜居未就者。略詰之，遂釋負於道，相與傾語，言論有名士風。陶大說之，請與同居。客喜，攜

囊入，遂同棲止。客自言：「順天人，姓于，字去惡。」以陶差長，兄之。

於性不喜游矚，常獨坐一室，而案頭無書卷。陶不與談，則默臥而已。陶疑之，搜其囊篋，則筆研之外更無長物。怪而問之，笑曰：「吾輩讀書，豈臨渴始掘井耶？」一日就陶借書去，閉戶抄甚疾，終日五十餘紙，亦不見其折迭成卷。竊窺之，則每一稿脫，則燒灰吞之。愈益怪焉，詰其故，曰：「我以此代讀耳。」便誦所抄書，傾刻數篇，一字無訛。陶悅，欲傳其術，於以為不可。陶疑其吝，詞涉誚讓，於曰：「兄誠不諒我之深矣。欲不言，則此心無以自剖；驟言之，又恐驚為異怪。奈何？」陶固謂：「不妨。」於曰：「我非人，實鬼耳。」

今冥中以科目授官，七月十四日奉詔考簾官，十五日士子入闈，月盡榜放矣。」陶問：「考簾官為何？」曰：「此上帝慎重之意，無論烏吏驚官，皆考之。能文者以內簾用，不通者不得與焉。蓋陰之有諸神，猶陽之有守今也。得志諸公，日不睹墳典，不過少年持敲門磚，獵取功名，門既開則棄去，再司簿書十數年即文學士，胸中尚有字耶！陽世所以陋劣幸進，而英雄失志者，惟少此一考耳。」陶深然之，由是益加敬畏。一日自外來，有憂色，嘆曰：「僕生而貧賤，自謂死後可免；不謂迤邐先生相從地下。」陶請其故，曰：「文昌奉命都羅國封王，簾官之考遂罷。數十年游神耗鬼，雜入衡文，吾輩寧有望耶？」陶問：「此輩皆誰何人？」曰：「即言

之，君亦不識。略舉一二人，大概可知：樂正師曠、司庫和嶠是也。僕自念命不可憑，文不可恃，不如休耳。」言已快，遂將治任。陶挽而慰之，乃止。

至中元之夕，謂陶曰：「我將入闈。煩於昧爽時，持香炷於東野。三呼去惡，我便至。」乃出門去。陶沽酒烹鮮以待之。東方既白，敬如所囑。無何，於偕一少年來。問其姓字，於曰：「此方子晉，是我良友，適於場中相邂逅。聞兄盛名，深欲拜識。」同至寓，秉燭為禮。少年亭亭似玉，意度謙婉。陶甚愛之，便問：「子晉佳作，當大快意。」於曰：「言之可笑！闈中七則，作過半矣，細審主司姓名，裹具徑出。奇人也！」陶扇爐進酒，因問：「闈中何題？去惡魁解否？」於曰：「書

藝、經論各一，夫人而能之。策問：『自古邪僻固多，而世風至今日，奸情醜態，愈不可名，不惟十八獄所不得盡，抑非十八獄所能容。是果何術而可？或謂宜量加一二獄，然殊失上帝好生之心。其宜增與、否與，或別有道以清其源，爾多十其悉言勿隱。』弟策雖不佳，頗為痛快。表：『擬天魔殄滅，賜群臣龍馬天衣有差。』次則《瑤臺應制詩》、《西池桃花賦》。此三種，自謂場中無兩矣！言已鼓掌。方笑曰：「此時快心，放兄獨步矣；數辰後，不痛哭始為男子也。」天明，方欲辭去。陶留與同寓，方不可，但期暮至。三日竟不復來，陶使於往尋之。於曰：「無須。子晉拳拳，非無意者。」日既西，方果來。出一卷授陶，曰：「三日失約。敬錄舊藝百餘

作，求一品題。」陶捧讀大喜，一句一贊，略盡一二首，遂藏諸笥。談至更深，方遂留，與於共榻寢。自此為常。方無夕不至，陶亦無方不歡也。

一夕倉皇而入，向陶曰：「地榜已揭，於五兄落第矣！」於方臥，聞言驚起，泫然流涕。二人極意慰藉，涕始止。然相對默默，殊不可堪。方曰：「適聞大巡環張桓侯將至，恐失志者之造言也；不然，文場尚有翻覆。」於聞之色喜。陶詢其故，曰：「桓侯翼德，三十年一巡陰曹，三十五年一巡陽世，兩間之不平，待此老而一消也。」乃起，拉方俱去。兩夜始返，方喜謂陶曰：「君不賀五兄耶？桓侯前夕至，裂碎地榜，榜上名字，止存三之一。遍閱遺卷，得五兄甚喜，薦作交南

巡海使，旦晚輿馬可到。」陶大喜，置酒稱賀。酒數行，於問陶曰：「君家有閑舍否？」問：「將何為？」曰：「子晉孤無鄉土，又不忍愬然於兄。弟意欲假館相依。」陶喜曰：「如此，為幸多矣。即無多屋宇，同榻何礙。但有嚴君，須先關白。」於曰：「審知尊大人慈厚可依。兄場闡有日，子晉如不能待，先歸何如？」陶留伴逆旅，以待同歸。

次日方暮，有車馬至門，接於蒞任。於起，握手曰：「從此別矣。一言欲告，又恐阻銳進之志。」問：「何言？」曰：「君命淹蹇，生非其時。此科之分十之一；後科桓候臨世，公道初彰，十之三；三科始可望也。」陶聞欲中止。於曰：「不然，此皆天數。即明知不可，而注定之艱若，亦要歷盡耳。」又

顧方曰：「勿淹滯，今朝年、月、日、時皆良，即以輿蓋送君歸。僕馳馬自去。」方忻然拜別。陶中心迷亂，不知所囑，但揮涕送之。見輿馬分途，頃刻都散。始悔子晉北旋，未致一字，而已無及矣。

三場畢，不甚滿志，奔波而歸。入門問子晉，家中並無知者。因為父述之，父喜曰：「若然，則客至久矣。先是陶翁晝臥，夢輿蓋止於其門，一美少年自車中出，登堂展拜。訝問所來，答云：「大哥許假一舍，以入闈不得偕來。我先至矣。」言已，請入拜母。翁方謙卻，適家媪入曰：「夫人產公子矣。」恍然而醒，大奇之。是日陶言，適與夢符，乃知兒即子晉後身也。父子各喜，名之小晉。兒初生，善夜啼，母苦之。陶

曰：「倘是子晉，我見之，啼當止。」俗忌客忤，故不令陶見。母患啼不可耐，乃呼陶入。陶鳴之曰：「子晉勿爾！我來矣！」兒啼正急，聞聲輟止，停睇不瞬，如審顧狀。陶摩頂而去。自是竟不復啼。數月後，陶不敢見之，一見則折腰索抱，走去則啼不可止。陶亦狎愛之。四歲離母，輒就兄眠；兄他出，則假寐以俟其歸。兄於枕上教毛詩，誦聲呢喃，夜盡四十餘行。以子晉遺文授之，欣然樂讀，過口成誦；試之他文不能也。八九歲眉目朗徹，宛然一子晉矣。

陶兩入闈，皆不第。丁酉，文場事發，簾官多遭誅遣，貢舉之途一肅，乃張巡環力也。陶下科中副車，尋貢。遂灰志前途，隱居教弟。嘗語人曰：「吾有此樂，翰苑不易也。」異史

氏曰：「余每至張夫子廟堂，瞻其須眉，凜凜有生氣。又其生平喑啞如霹靂聲，矛馬所至，無不大快，出人意料。世以將軍好武，遂置與絳，灌伍，寧知文昌事繁，須侯固多哉！嗚呼！三十五年，來何暮也！」

### 九、三、狂生

劉學師言：濟寧有狂生某，善飲；家無儋石，而得錢輒沽，殊不以窮厄為意。值新刺史蒞任，善飲無對。聞生名，招與飲而悅之，時共談宴。生恃其狎，凡有小訟求直者，輒受薄賄為之緩頰；刺史每可其請。生習為常，刺史心厭之。一日早衙，持刺登堂，刺史覽之微笑，生厲聲曰：「公如所請可

之；不如所請否之，何笑也！聞之：士可殺而不可辱。他固不能相報，豈一笑不能報耶？」言已大笑，聲震堂壁。刺史怒曰：「何敢無禮！寧不聞滅門令尹耶！」生掉臂竟下，大聲曰：「生員無門之可滅！」刺史益怒，執之。訪其家居，則並無田宅，惟攜妻在城堞上住。刺史聞而釋之，但逐不令居城垣。朋友憐其狂，為買數尺地，購斗室焉。入而居之，嘆曰：「今而後畏今尹矣！」

異史氏曰：「士君子奉法守禮，不敢劫人於市，南面者奈我何哉！然仇之猶得而加者，徒以有門在耳；夫至無門可滅，則怒者更無以加之矣。噫嘻！此所謂『貧賤驕人』者耶！獨

是君子雖貧，不輕干人，乃以口腹之累，喋喋公堂，品斯下矣。雖然，其狂不可及。」

九、四、澁俗

澁人多化物類，出院求食。有客寓旅邸時，見群鼠入米盎，驅之即遁。客伺其入，驟覆之，瓢水灌注其中，頃之盡斃。主人全家暴卒，惟一子在。訟官，官原而宥之。

九、五、鳳仙

劉赤水，平樂人，少穎秀，十五入郡庠。父母早亡，遂以游蕩自廢。家不中資，而性好修飾，衾榻皆精美。一夕被人招飲，忘滅燭而去。酒數行始憶之，急返。聞室中小語，伏窺之，

見少年擁麗者眠榻上。宅臨貴家廢第，恆多怪異，心知其狐，亦不恐，入而叱曰：「臥榻豈容鼾睡！」二人遑遽，抱衣赤身遁去。遺紫褲褲一，帶上系針囊。大悅，恐其竊去，藏衾中而抱之。俄一蓬頭婢自門罅入，向劉索取。劉笑要償。婢請遺以酒，不應；贈以金，又不應。婢笑而去。旋返曰：「大姑言：如賜還，當以佳偶為報。」劉問：「伊誰？」曰：「吾家皮姓，大姑小字八仙，共臥者胡郎也；二姑水仙，適富川丁官人；三姑鳳仙，較兩姑尤美，自無不當意者。」劉恐失信，請坐待好音。婢去復返曰：「大姑寄語官人：好事豈能猝合？適與之言，反遭詬厲；但緩時日以待之，吾家非輕諾寡信者。」劉付之。

過數日渺無信息。薄暮自外歸，閉門甫坐，忽雙扉自啟，兩人以被承女郎，手捉四角而入，曰：「送新人至矣！」笑置榻上而去。近視之，酣睡未醒，酒氣猶芳，頰顏醉態，傾絕人寰。喜極，為之捉足解襪，抱體緩裳。而女已微醒，開目見劉，四肢不能自主，但恨曰：「八仙淫婢賣我矣！」劉狎抱之。女嫌膚冰，微笑曰：「今夕何夕，見此涼人！」劉曰：「子兮子兮，如此涼人何！」遂相歡愛。既而曰：「婢子無恥，玷人床寢，而以妾換褲耶！必小報之！」

從此無夕不至，綢繆甚殷。袖中出金釧一枚，曰：「此八仙物也。」又數日，懷繡履一雙來，珠嵌金繡，工巧殊絕，且囑劉暴揚之。劉出誇示親賓，求觀者皆以資酒為贄，由此奇貨

居之。女夜來，作別語。怪問之，答云：「姊以履故恨妾，欲攜家遠去，隔絕我好。」劉懼，願還之。女云：「不必，彼方以此挾妾，如還之，中其機矣。」劉問：「何不獨留？」曰：「父母遠去，一家十餘口，俱托胡郎經紀，若不從去，恐長舌婦造黑白也。」從此不復至。

逾二年，思念纂切。偶在途中，遇女郎騎款段馬，老僕鞚之，摩肩過；反啟障紗相窺，豐姿艷艷。頃，一少年後至，曰：「女子何人？似頗佳麗。」劉亟贊之。少年拱手笑曰：「太過獎矣！此即山荊也。」劉惶愧謝過。少年曰：「何妨。但南陽三葛，君得其龍，區區者又何足道！」劉疑其言。少年曰：「君不認竊眠臥榻者耶？」劉始悟為胡。敘僚婿之誼，嘲

謔甚歡。少年曰：「嶽新歸，將以省覲，可同行否？」劉喜，從入縈山。

山上故有邑人避亂之宅，女下馬入。少間，數人出望，曰：「劉官人亦來矣。」入門謁見翁嫗。又一少年先在，靴袍炫美。翁曰：「此富川丁婿。」並揖就坐。少時，酒炙紛綸，談笑頗洽。翁曰：「今日二婿並臨，可稱佳集。又無他人，可喚兒輩來。作一團圞之會。」俄，姊妹俱出，翁命設坐，各傍其婿。八仙見劉，惟掩口而笑；鳳仙輒與嘲弄；水仙貌少亞，而沉重溫克，滿座傾談，惟把酒含笑而已。於是履舄交錯，蘭麝熏人，飲酒樂甚。劉視床頭樂具畢備，遂取玉笛，請為翁壽。翁喜，命善者各執一藝，因而合座爭取，惟丁與鳳仙

不取。八仙曰：「丁郎不諳可也，汝寧指屈不伸者？」因以拍板擲鳳仙懷中，便串繁響。翁悅曰：「家人之樂極矣！兒輩俱能歌舞，何不各盡所長？」八仙起，捉水仙曰：「鳳仙從來金玉其音，不敢相勞；我二人可歌《洛妃》一曲。」二人歌舞方已，適婢以金盤進果，都不知其何名。翁曰：「此自真臘攜來，所謂『田婆羅』也。」因掬數枚送丁前。鳳仙不悅曰：「婿豈以貧富為愛憎耶？」翁微哂不言。八仙曰：「阿爹以丁郎異縣，故是客耳。若論長幼，豈獨鳳妹妹有拳大酸婿耶？」鳳仙終不快，解華妝，以鼓拍授婢，唱《破窯》一折，聲淚俱下；既闕，拂袖徑去，一座為之不歡。八仙曰：「婢子喬性猶昔。」乃追之，不知所往。

劉無顏，亦辭而歸。至半途見鳳仙坐路旁，呼與並坐，曰：「君一丈夫，不能為床頭人吐氣耶？黃金屋自在書中，願好為之。」舉足云：「出門匆遽，棘刺破復履矣，所贈物，在身邊否？」劉出之，女取而易之。劉乞其敝者，羈然曰：「君亦大無賴矣！幾見自己衾枕之物，亦要懷藏者？如相見愛，一物可以相贈。」旋出一鏡付之曰：「欲見妾，當於書卷中覓之；不然，相見無期矣。」言已不見。

惘悵而歸。視鏡，則鳳仙背立其中，如望去人於百步之外者。因念所囑，謝客下帷。一日見鏡中人忽現正面，盈盈欲笑，益重愛之。無人時，輒以共對。月餘銳志漸衰，游恆忘返。歸見鏡影，慘然若涕；隔日再視，則背立如初矣：始悟為己

之廢學也。乃閉戶研讀，晝夜不輟；月餘則影復向外。自此驗之：每有事荒廢，則其容戚；數日攻苦，則其容笑。於是朝夕懸之，如對師保。如此二年，一舉而捷。喜曰：「今可以對我鳳仙矣！」攬鏡視之，見畫黛彎長，瓠犀微露，喜容可掬，宛在目前。愛極，停睇不已。忽鏡中人笑曰：「『影里情郎，畫中愛寵』，今之謂矣。」驚喜四顧，則鳳仙已在座右。握手問翁媪起居，曰：「妾別後不曾歸家，伏處巖穴，聊與君分苦耳。」劉赴宴郡中，女請與俱；共乘而往，人對面不相窺。既而將歸，陰與劉謀，偽為娶於郡也者。女既歸，始出見客，經理家政。人皆驚其美，而不知其狐也。

劉屬富川令門人，往謁之。遇丁，殷殷邀至其家，款禮優渥，言：「岳父母近又他徙。內人歸寧，將復。當寄信往，並詣申賀。」劉初疑丁亦狐，及細審邦族，始知富川大賈子也。初，丁自別業暮歸，遇水仙獨步，見其美，微睨之。女請附驥以行。丁喜，載至齋，與同寢處。櫥隙可入，始知為狐。女言：「郎勿見疑。妾以君誠篤，故願托之。」丁嬖之。竟不復娶。

劉歸，假貴家廣宅，備客燕寢，灑掃光潔，而苦無供帳；隔夜視之，則陳設煥然矣。過數日，果有三十餘人，齎旗採酒禮而至，輿馬繽紛，填溢階巷。劉揖翁及丁、胡入客舍，風仙逆嫗及兩姨入內寢。八仙曰：「婢子今貴，不怨冰人矣。」

釧履猶存否？」女搜付之，曰：「履則猶是也，而被千人看破矣。」八仙以履擊背，曰：「撻汝寄於劉郎。」乃投諸火，祝曰：「新時如花開，舊時如花謝；珍重不曾著，姮娥來相借。」水仙亦代祝曰：「曾經籠玉筍，著出萬人稱；若使姮娥見，應憐太瘦生。」鳳仙撥火曰：「夜夜上青天，一朝去所歡；留得纖纖影，遍與世人看。」遂以灰捻拌中，堆作十餘分，望見劉來，托以贈之。但見繡履滿拌，悉如故款。八仙急出，推拌墮地；地上猶有一二只存者，又伏吹之，其跡始滅。次日，丁以道遠，夫婦先歸。八仙貪與妹戲，翁及胡屢督促之，亭午始出，與眾俱去。

初來、儀從過盛，觀者如市，有兩寇窺見麗人，魂魄喪失，因謀劫諸途。偵其離村，尾之而去。相隔不盈一尺，馬極奔不能及。至一處，兩崖夾道，輿行稍緩；追及之，持刀吼吒，人眾都奔。下馬啟簾，則老嫗坐焉。方疑誤掠其母；才他顧，而兵傷右臂，頃已被縛。凝視之，崖並非崖，乃平樂城門也；輿中則李進士母，自鄉中歸耳。一寇後至，亦被斷馬足而繫之。門丁執送太守，一訊而伏。時有大盜未獲，詰之，即其人也。

明春，劉及第。鳳仙以招禍，故悉辭內戚之賀。劉亦更不他娶。及為郎官，納妾，生二子。

異史氏曰：「嗟乎！冷暖之態，仙凡固無殊哉！『少不努力，老大徒傷』。惜無好勝佳人，作鏡影悲笑耳。吾願恆河沙數仙人，並遣嬌女婚嫁人間，則貧窮海中，少苦眾生矣。」

九、六、佟客

董生，徐州人，好擊劍，每慷慨自負。偶於途中遇一客，跨蹇同行。與之語，談吐豪邁；詰其姓字，云：「遼陽佟姓。」問：「何往？」曰：「余出門二十年，適自海外歸耳。」董曰：「君遨游四海，閱人綦多，曾見異人否？」佟曰：「異人何等？」董乃自述所好，恨不得異人之傳。佟曰：「異人何地無之，要必忠臣孝子，始得傳其術也。」董又毅然自許；即出

佩劍彈之而歌，又斬路側小樹以矜其利。佟掀髯微笑，因便借觀。董授之。展玩一過，曰：「此甲鐵所鑄，為汗臭所蒸，最為下品。僕雖未聞劍術，然有一劍頗可用。」遂於衣底出短刃尺許，以削董劍，脆如瓜瓠，應手斜斷如馬蹄。董駭極，亦請過手，再三拂拭而後返之。邀佟至家，堅留信宿。叩以劍法，謝不知。董按膝雄談，惟敬聽而已。

更既深，忽聞隔院紛拏。隔院為生父居，心驚疑。近壁凝聽，但聞人作怒聲曰：「教汝子速出即刑，便赦汝！」少頃似加撈掠，呻吟不絕者，真其父也。生捉戈欲往，佟止之曰：「此去恐無生理，宜審萬全。」生皇然請教，佟曰：「盜坐名相索，必將甘心焉。君無他骨肉，宜囑後事於妻子；我啟戶為

君警廝僕。」生諾，入告其妻。妻牽衣泣。生壯念頓消，遂共登樓上，尋弓覓矢，以備盜攻。倉皇未已，聞佟在樓簷上笑曰：「賊幸去矣。」燭之已杳。逡巡出，則見翁赴鄰飲，籠燭方歸；惟庭前多編菅遺灰焉。乃知佟異人也。

異史氏曰：「忠孝，人之血性；古來臣子而不能死君父者，其初豈遂無提戈壯往時哉，要皆一轉念誤之耳。昔解縉與方孝儒相約以死，而卒食其言；安知矢約歸後，不聽床頭人嗚泣哉？」

邑有快役某，每數日不歸，妻遂與里中無賴通。一日歸，值少年自房中出，大疑，苦詰妻。妻不服。既於床頭得少年遺物，妻窘無詞，惟長跪哀乞。某怒甚，擲以繩，逼令自縊。

妻請妝服而死，許之。妻乃入室理妝；某自酌以待之，呵叱頻催。俄妻炫服出，含涕拜曰：「君果忍令奴死耶？」某盛氣咄之，妻返走入房，方將結帶，某擲盞呼曰：「哈，返矣！一頂綠頭巾，或不能壓人死耳。」遂為夫婦如初。此亦大紳者類也，一笑。

### 九、七、遼陽軍

沂水某，明季充遼陽軍。會遼城陷，為亂兵所殺；頭雖斷猶不甚死。至夜一人執簿來，按點諸鬼。至某，謂其不宜死，使左右續其頭而送之。遂共取頭按項上，群扶之，風聲簌簌，行移時，置之而去。視其地則故里也。沂令聞之，疑其

竊逃。拘訊而得其情，頗不信；又審其頸無少斷痕，將刑之。某曰：「言無可憑信，但請寄獄中。斷頭可假，陷城不可假。設遼城無恙，然後受刑未晚也。」令從之。數日遼信至，時日一如所言，遂釋之。

### 九、八、張貢士

安丘張貢士，寢疾，仰臥床頭。忽見心頭有小人出，長僅半尺；儒冠儒服，作俳優狀。唱昆山曲，音調清徹，說白、白道名貫，一與己同；所唱節末，皆其生平所遭。四折既畢，吟詩而沒。張猶記其梗概，為人述之。

高西園云：「向讀漁洋先生《池北偶談》，見有記心頭小人者，為安丘張某事。餘素善安丘張卯君，意必其宗屬也。一日晤間問及，始知即卯君事。詢其本末，云：當病起時，所記昆山曲者，無一字遺，皆手錄成冊。後其嫂夫人以為不祥語，焚棄之。每從酒邊茶餘，猶能記其尾聲，常舉以誦客。今並識之，以廣異聞。其詞云：「詩云子曰都休講，不過是『都都平丈』」（相傳一村塾師訓童子讀論語，字多訛謬。其尤堪笑者，讀『鬱鬱乎文哉』為『都都平丈我』。全憑著佛留一百二十行（村塾中有訓蒙要書，名《莊農雜字》。其開章云：「佛留一百二十行，惟有莊農打頭強，最為鄙俚。」）玩其語意，似自道其生平寥落，晚為農家作塾師，主人慢之，

而為是曲。意者：夙世老儒，其卯君前身乎？卯君名在辛，善漢隸篆印。

### 九、九、愛奴

河間徐生，設教於恩。臘初歸，途遇一叟，審視曰：「徐先生撤帳矣。明歲授教何所？」答曰：「仍舊。」叟曰：「敬業姓施。有舍甥延求明師，適托某至東，睡聘呂子廉，渠已受贄稷門。君如苟就，束儀請倍於恩。」徐以成約為辭。叟曰：「信行君子也。然去新歲尚遠，敬以黃金一兩為贄，暫留教之，明歲另議何如？」徐可之。叟下騎呈禮函，且曰：「敝里不

遙矣。宅綦隘，飼畜為艱，請即遣僕馬去，散步亦佳。」徐從之，以行李寄叟馬上。

行三四里許，日既暮，始抵其宅，漚釘獸環，宛然世家。呼甥出拜，十三四歲童子也。叟曰：「妹夫蔣南川，舊為指揮使。止遺此兒，頗不鈍，但嬌慣耳。得先生一月善誘，當勝十年。」未幾設筵，備極豐美，而行酒下食，皆以婢媪。一婢執壺侍立，年約十五六，風致韻絕，心竊動之。席既終，叟命安置床寢，始辭而去。

天未明。兒出就學。徐方起，即有婢來捧巾侍盥，即執壺人也。日給三餐悉此婢，至夕又來掃榻。徐問：「何無僮僕？」婢笑不言，布衾徑去。次夕復至。入以游語，婢笑不拒，遂

與狎。因告曰：「吾家並無男子，外事則托施舅。妾名愛奴。夫人雅敬先生，恐諸婢不潔，故以妾來。今日但須緘密，恐發覺，兩無顏也。」一夜共寢忘曉，為公子所遭，徐慚忤不自安。至夕婢來曰：「幸夫人重君，不然敗矣！公子入告，夫人急掩其口，若恐君聞。但戒妾勿得久留齋館而已。」言已遂去。徐甚德之。

然公子不善讀，訶責之，則夫人輒為緩頰。初猶遣婢傳言；漸親出，隔戶與先生語，往往零涕。顧每晚必問公子日課。徐頗不耐，作色曰：「既從兒懶，又責兒工，此等師我不慣作！請辭。」夫人遣婢謝過，徐乃止。自入館以來，每欲一出登眺，輒錮閉之。一日醉中怏悶，呼婢問故。婢言：「無

他，恐廢學耳。如必欲出，但請以夜。」徐怒曰：「受人數金，便當淹禁死耶！教我夜竄何之乎？久以素食為恥，贄固猶在囊耳。」遂出金置幾上，治裝欲行。夫人出，脈脈不語，惟掩袂哽咽，使婢返金，啟鑰送之。徐覺門戶逼側；走數步，目光射入，則身自陷塚中出，四望荒涼，一古墓也。大駭。然心感其義，乃賣所賜金，封堆植樹而去。

過歲復經其處，展拜而行。遙見施叟，笑致溫涼，邀之殷切。心知其鬼，而欲一問夫人起居，遂相將入村，沽酒共酌。不覺日暮，叟起償酒價，便言：「寒舍不遠，舍妹亦適歸寧，望移玉趾，為老夫祓除不祥。」出村數武，又一里落，叩扉入，秉燭向客。俄，蔣夫人自內出，始審視之，蓋四十許麗人也。

拜謝曰：「式微之族，門戶零落，先生澤及枯骨，真無計可以償之。」言已泣下。既而呼愛奴，向徐曰：「此婢，妾所憐愛，今以相贈，聊慰客中寂寞。凡有所須，渠亦略能解意。」徐唯唯。少問兄妹俱去，婢留侍寢。雞初鳴，叟即來促裝送行；夫人亦出，囑婢善事先生。又謂徐曰：「從此尤宜謹秘，彼此遭逢詭異，恐好事者造言也。」徐諾而別，與婢共騎。至館獨處一室，與同棲止。或客至，婢不避，人亦不之見也。偶有所欲，意一萌而婢已致之。又善巫，一按拏而痾立愈。清明歸，至墓所，婢辭而下。徐囑代謝夫人。曰：「諾。」遂沒。數日返，方擬展墓，見婢華妝坐樹下，因與俱發。終歲往還，如此為常。欲攜同歸，執不可。歲杪辭館歸，相訂後

期。婢送至前坐處，指石堆曰：「此妾墓也。夫人未出閣時，便從服役，天殂瘞此。如再過以炷香相吊，當得復會。」

別歸，懷思頗苦，敬往祝之，殊無影響。乃市櫬發塚，意將載骨歸葬，以寄戀慕。穴開自入，則見顏色如生。膚雖未朽，衣敗若滅；頭上玉飾金釧都如新制。又視腰間，裹黃金數錠，卷懷之。始解袍覆尸，抱入材內，賃輿載歸；停諸別第，飾以繡裳，獨宿其旁，冀有靈應。忽愛奴自外入，笑曰：「劫墳賊在此耶！」徐驚喜慰問。婢曰：「向從夫人往東昌，三日既歸，則舍宇已空。頻蒙相邀，所以不肯相從者，以少受夫人重恩，不忍離逃耳。今既劫我來，即速瘞葬便見厚德。」徐問：「有百年復生者，今芳體如故，何不效之？」嘆曰：「此

有定數。世傳靈跡，半涉幻妄。要欲復起動履，亦復何難？但不能類生人，故不必也。」乃啟棺入，尸即自起，亭亭可愛。探其懷，則冷若冰雪。遂將入棺復臥，徐強止之，婢曰：「妾過蒙夫人寵，主人自異域來，得黃金數萬，妾竊取之，亦不甚追問。後瀕危，又無戚屬，遂藏以自殉。夫人痛妾天謝，又以寶飾入殮。身所以不朽者，不過得金寶之餘氣耳。若在人世，豈能久乎？必欲如此，切勿強以飲食；若使靈氣一散，則游魂亦消矣。」徐乃構精舍，與共寢處。笑語一如常人；但不食不息，不見生人。年餘徐飲薄醉，執殘瀝強灌之，立刻倒地，口中血水流溢，終日面尸已變。哀悔無及，厚葬之。導史氏曰：「夫人教子，無異人世，而所以待師者

何厚也！不亦賢乎！余謂艷尸不如雅鬼，乃以措大之俗莽，致靈物不享其長年，惜哉！

章丘朱生，索剛鯁，設帳於某貢士家。每譴弟子，內輒遣婢為乞免，不聽。一口親詣窗外，與朱關說。朱怒，執界方，大罵而出。婦懼而奔；朱迫之，自後橫市臀股，鏘然作皮肉聲。令人笑絕！

長山某，每延師，必以一年束金，合終歲之虛盈，計每日得如乾數；又以師離齋、歸齋之日，詳記為籍，歲終，則公同按日而乘除之。馬生館其家，初見操珠盤來，得故甚駭；既而暗生一術，反嗔為喜，聽其復算不少校。翁大悅，堅訂來歲之約。馬辭以故。遂薦一生乖謬者自代。及就館，動輒詬

罵，翁無奈，悉含忍之。歲杪攜珠盤至，生勃然忿極，姑聽其算。翁又以途中日盡歸於兩，生不受，撥珠歸東。兩爭不決，操戈相向，兩人破頭爛額而赴公庭焉。

### 九、十、單父宰

青州民某五旬餘，繼娶少婦。二子恐其復育，乘父醉，潛割宰九而藥糝之。父覺，托病不言，久之創漸平。忽入室，刀縫綻裂，血溢不止，尋斃。妻知其故，訟於官。官械其子，果伏。駭曰：「余今為『單父宰』矣！」並誅之。

邑有王生者，娶月餘而出其妻。妻父訟之。時淄宰辛公，問王何故出妻。答云：「不可說。」固詰之，曰：「以其不能產

育耳。」公曰：「妄哉！月餘新婦，何知不產？」忸怩久之，告曰：「其陰甚偏。」公笑曰：「是則偏之為害，而家之所以不齊也。」此可與「單父宰」並傳一笑。

### 九、十一、孫必振

孫必振渡江，值大風雷，舟船蕩搖，同舟大恐。忽見金甲神立雲中，手持金字牌下示；諸人共仰視之，上書「孫必振」三字，甚真。眾謂孫：「必汝有犯天譴，請自為一舟，勿相累。」孫尚無言，眾不待其肯可，視旁有小舟，共推置其上。孫既登舟，回首，則前舟覆矣。

九、十二、邑人

邑有鄉人，素無賴。一日晨起，有二人攝之去。至市頭，見屠人以半豬懸架上，二人便極力推擠之，遂覺身與肉合，二人亦徑去。少間屠人賣肉，操刀斷割，遂覺一刀一痛，徹於骨髓。後有鄰翁來市肉，苦爭低昂，添脂搭肉，片片碎割，其苦更慘。肉盡，乃尋途歸，歸時日已向辰。家人謂其晏起，乃細述所遭。呼鄰問之，則市肉方歸，言其片數、斤數，毫發不爽。崇朝之間，已受凌遲一度，不亦奇哉！

九、十三、元寶

廣東臨江山崖巉巖，常有元寶嵌石上。崖下波湧，舟不可泊。或蕩槳近摘之，則牢不可動；若其人數應得此，則一摘即落，回首已復生矣。

九、十四、研石

王仲超言：洞庭君山間有石洞，高可容舟，深暗不測，湖水出入其中。嘗秉燭泛舟而入，見兩壁皆黑石，其色如漆，按之而軟；出刀割之，如切硬腐。隨意制為研。既出，見風則堅凝過於他石。試之墨，大佳。估舟游楫，往來甚眾，中有佳石，不知取用，亦賴好奇者之品題也。

九、十五、武夷

武夷山有削壁千仞，人每於下拾沉香玉塊焉。太守聞之，督數百人作雲梯，將造頂以覘其異，三年始成。太守登之，將及巔，見大足伸下，一拇指粗於搗衣杵，大聲曰：「不下，將墮矣！」大驚，疾下。才至地，則架木朽折，崩墜無遺。

九、十六、大鼠

萬歷間。宮中有鼠，大與貓等，為害甚劇。遍求民間佳貓捕制之，輒被啖食。適異國來貢獅貓，毛白如雪。抱投鼠屋，闔其扉，潛窺之。貓蹲良久，鼠逡巡自穴中出，見貓怒奔之。貓避登幾上，鼠亦登，貓則躍下。如此往復，不啻百次。眾

咸謂貓怯，以為是無能為者。既而鼠跳擲漸遲，碩腹似喘，蹲地上少休。貓即疾下，爪掬頂毛，口齧首領，輾轉爭持，貓聲嗚嗚，鼠聲啾啾。啟扉急視，則鼠首已嚼碎矣。然後知貓之避非怯也，待其惰也。彼出則歸，彼歸則復，用此智耳。噫！匹夫按劍何異鼠乎！

九、十七、張不量

賈人某至直隸界，忽大雨雹，伏禾中。聞空中云：「此張不量田，勿傷其稼。」賈私意張氏既云「不良」，何反祐護？雹止，入村，訪問其人，且問取名之義。蓋張素封，積粟甚富。每春貧民就貸，償時多寡不校，悉內之，未嘗執概取盈，故

名「不量」，非「不良」也。眾趨田中，見棵穗摧折如麻，獨張氏諸田無恙。

九、十八、牧豎

兩牧豎入山至狼穴，穴有小狼二，謀分捉之。各登一樹，相去數十步。少頃大狼至，入穴失子，意甚倉皇。豎於樹上扭小狼蹄耳故令噪；大狼聞聲仰視，怒奔樹下，號且爬抓。其一豎又在彼樹致小狼鳴急；狼輟聲四顧，始望見之，乃舍此趨彼，跑號如前狀。前樹又鳴，又轉奔之。口無停聲，足無停趾，數十往復，奔漸遲，聲漸弱；既而奄奄殫臥，久之不動。豎下視之，氣已絕矣。

今有豪強子，怒目按劍，若將搏噬；為所怒者，乃闔扇去。豪力盡聲嘶，更無敵者，豈不暢然自雄？不知此禽獸之威，人故弄之以為戲耳。

九、十九、富翁

富翁某，商賈多貸其資。一日出，有少年從馬後，問之，亦假本者。翁諾之。至家，適幾上有錢數十，少年即以手疊錢，高下堆壘之。翁謝去，竟不與資。或問故，翁曰：「此人必善博，非端人也，所熟之技，不覺形於手足矣。」訪之果然。

九、二十、王司馬

新城王大司馬霽宇鎮北邊時，常使匠人鑄一大桿刀，闊盈尺，重百鈞。每按邊，輒使四人扛之。鹵簿所止，則置地上，故令北人捉之，力撼不可少動。司馬陰以桐木依樣為刀，寬狹大小無異，貼以銀箔，時於馬上舞動，諸部落望見，無不震悚。又於邊外埋葦薄為界，橫斜十餘里，狀若藩籬，揚言曰：「此吾長城也。」北兵至，悉拔而火之。司馬又置之。既而三火，乃以炮石伏機其下，北兵焚薄，藥石盡發，死傷甚眾。既遁去，司馬設薄如前。北兵遙望皆卻走，以故帖服若神。後司馬乞骸歸，塞上復警。召再起，司馬時年八十有三，力疾陛辭。上慰之曰：「但煩卿臥治耳。」於是司馬復至邊。

每止處，輒臥幃中。北人聞司馬至皆不信，因假議和，將驗真偽。啟簾，見司馬坦臥，皆望榻伏拜，擣舌而退。

九、二十一、嶽神

揚州提同知，夜夢嶽神召之，詞色憤怒。仰見一人侍神側，少為緩頰。醒而惡之。早詣嶽廟，默作祈禳。既出見藥肆一人，絕肖所見。問之知為醫生，及歸暴病，特遣人聘之。至則出方為劑，暮服之，中夜而卒。或言：閻羅王與東嶽天子，日遣侍者男女十萬八千眾，分布天下作巫醫，名「勾魂使者」。用藥者不可不察也！

九、二十二、小梅

蒙陰王慕貞，世家子也。偶游江浙，見媪哭於途，詰之。言：「先夫止遺一子，今犯死刑，誰有能出之者？」王素慷慨，志其姓名，出橐南中金為之斡旋，竟釋其罪。

其人出，聞王之救己也，茫然不解其故；訪詣旅邸，感泣謝問。王曰：「無他，憐汝母老耳。」其人大駭曰：「母故已久，」王亦異之。抵暮媪來申謝，王咎其謬誣，媪曰：「實相告：我東山老狐也。二十年前，曾與兒父有一夕之好，故不忍其鬼之餒也。」王悚然起敬，再欲詰之，已杳。

先是，王妻賢而好佛，不茹葷酒，治潔室，懸觀音像，以無子，日日焚禱其中。而神又最靈，輒示夢，教人趨避，以故家中事皆取決焉。後有疾綦篤，移榻其中；又別設錦裯於內室而扃其戶，若有所伺。王以為惑，而以其疾勢昏瞶，不忍傷之。臥病二年，惡罵，常屏人獨寢。潛聽之似與人語，啟門視之又寂然。病中他無所慮，有女十四歲，惟日催治裝遣嫁。既醮，呼王至榻前，執手曰：「今訣矣！初病時，菩薩告我，命當速死；念不了者，幼女未嫁，因賜少藥，俾延息以待。去歲，菩薩將回南海，留案前侍女小梅，為妾服役。今將死，薄命人又無所出。保兒，專所憐愛，恐娶悍怒之婦，令其子母失所。小梅姿容秀美，又溫淑，即以為繼室可也。」

蓋王有妾生一子，名保兒。王以其言荒唐，曰：「卿素敬者神，今出此言，不已褻乎？」答云：「小梅事我年餘，相忘形骸，我已婉求之矣。」問：「小梅何處？」曰：「室中非耶？」方欲再詰，閉目已逝。

王夜守靈幃，聞室中隱隱啜泣，大駭，疑為鬼。喚諸婢妾啟鑰視之，則二八麗者縗服在室。眾以為神，共羅拜之，女斂涕扶掖。王凝注之，俯首而已。王曰：「如果亡室之言非妄，請即上堂，受兒女朝謁；如其不可，僕亦不敢妄想，以取罪過。」女靦然出，竟登北堂，王使婢為設坐南向，王先拜，女亦答拜；下而長幼卑賤，以次伏叩，女莊容坐受，惟妾至則挽之。自夫人臥病，婢情奴偷，家久替。眾參已，肅肅列侍。

女曰：「我感夫人盛意，羈留人間，又以大事相委，汝輩宜各洗心，為主效力，從前愆尤，悉不計較。不然，莫謂室無人也！」共視座上，真如懸觀音圖像，時被微風吹動。聞言悚惕，哄然並諾。女乃排撥喪務，一切井井，由是大小無敢懈者。女終日經紀內外，王將有作，亦稟白而行；然雖一夕數見，並不交一私語。

既殯，王欲申前約，不敢徑告，囑妾微示意。女曰：「妾受夫人諄囑，義不容辭；但匹配大禮，不得草草。年伯黃先生位尊德重，求使主秦晉之盟，則惟命是聽。」時沂水黃太僕致仕閑居，於王為父執，往來最善。王即親詣，以實告。黃奇之，即與同來。女聞，即出展拜。黃一見，驚為天人，遜

謝不敢當禮；既而助妝優厚，成禮乃去。女饋遺枕履，若奉舅姑，由此交益親。

合卺後，王終以神故，褻中帶肅，時研詰菩薩起居。女笑曰：「君亦太愚，焉有正直之神，而下婚塵世者？」王力審所自。女曰：「不必研窮，既以為神，朝夕供養，自無殃咎。」女御下常寬，非笑不語；然婢賤戲狎時，遙見之，則默默無聲。女笑諭曰：「豈爾輩尚以我為神耶？我何神哉！實為夫人姨妹，少相交好；姊病見思，陰使南村王姥招我來。第以日近姊夫，有男女之嫌，故托為神道，閉內室中，其實何神！眾猶不信。而日侍邊旁，見其舉動，不少異於常人，浮言漸息。然即頑奴鈍婢，王素撻楚所不能化者，女一言無不

樂於奉命。皆云：「並不自知。實非畏之；但睹其貌，則心自柔，故不忍拂其意耳。」以此百廢具舉。數年中，田地連阡，倉稟萬石矣。

又數年，妾產一女。女生一子——子生，左臂有朱點，因字小紅。彌月，女使王盛筵招黃。黃賀儀豐渥，但辭以耄，不能遠涉；女遣兩媪強邀之，黃始至。抱兒出，袒其左臂，以示命名之意。又再三問其吉兇。黃笑曰：「此喜紅也，可增一字，名喜紅。」女大悅，更出展叩。是日，鼓樂充庭，貴戚如市。

黃留三日始去。忽門外有輿馬來，逆女歸寧。向十餘年，並無瓜葛，共議之，而女若不聞。理妝竟，抱子於懷，要王相

送，王從之。至二三十里許，寂無行人，女停輿，呼王下騎，屏人與語，曰：「王郎王郎，會短離長，謂可悲否？」王驚問故，女曰：「君謂妾何人也？」答曰：「不知。」女曰：「江南拯一死罪，有之乎？」曰：「有。」曰：「哭於路者吾母也，感義而思所報。乃因夫人好佛，附為神道，實將以妾報君也。今幸生此襁褓物，此願已慰。妾視君晦運將來，此兒在家，恐不能育，故借歸寧，解兒危難。君記取家有死口時，當於晨雞初唱，詣西河柳堤上，見有挑葵花燈來者，遮道苦求，可免災難。」王曰：「諾。」因訊歸期，女云：「不可預定。要當牢記吾言，後會亦不遠也。」臨別，執手愴然交涕。俄登輿，疾若風。王望之不見，始返。

經六七年，絕無音問。忽四鄉瘟疫流行，死者甚眾，一婢病三日死，王念曩囑，頗以關心。是日與客飲，大醉而睡。既醒聞雞鳴，急起至堤頭，見燈光閃爍，適已過去。急追之，止隔百步許，愈追愈遠，漸不可見，懊恨而返。數日暴病，尋卒。

王族多無賴，共憑陵其孤寡，田禾樹木，公然伐取，家日陵替。逾歲，保兒又殤，一家更無所主。族人益橫，割裂田產，廄中牛馬俱空；又欲瓜分第宅。以妾居故，遂將數人來，強奪鬻之。妾戀幼女，母子環泣，慘動鄰里。方危難間，俄聞門外有肩輿入，共覘，則女引小郎自車中出。四顧人紛如市，問：「此何人？」妾哭訴其由。女顏色慘變，便喚從來僕投，

關門下鑰。眾欲抗拒，而手足若痿。女令一一收縛，系諸廊柱，日與薄粥三甌。即遺老僕奔告黃公，然後入室哀泣。泣已，謂妾曰：「此天數也。」已期前月來，適以母病耽延，遂至於今。不謂轉盼間已成丘墟！」問舊時婢媪，則皆被族人掠去，又益欷歔。越日，婢僕聞女至，皆自遁歸，相見無不流涕。所繫族人，共噪兒非慕貞體胤，女亦不置辯，既而黃公至，女引兒出迎。黃握兒臂，便捋左袂，見朱記宛然，因袒示眾人以證其確。乃細審失物，登簿記名，親詣邑令。令拘無賴輩，各笞四十，械禁嚴迫；不數日，田地馬牛悉歸故主。黃將歸，女引兒泣拜曰：「妾非世間人，叔父所知也。今以此子委叔父矣。」黃曰：「老夫一息尚在，無不為區處。」

黃去，女盤查就緒，托兒於妾，乃具饌為夫祭掃，半日不返。視之，則杯饌猶陳，而人杳矣。

異史氏曰：「不絕人嗣者，人亦不絕其嗣，此人也而實天也。至座有良朋，車裘可共，迨宿莽既滋，妻子陵夷，則車中人望望然去之矣。死友而不忍忘，感恩而思所報，獨何人哉！狐乎！倘爾多財，吾為爾宰。」

九、二十三、藥僧

濟寧某偶於野寺外，見一游僧向陽捫虱，杖掛葫蘆，似賣藥者。因戲曰：「和尚亦賣房中丹否？」僧曰：「有。弱者可強，微者可巨，立刻見效，不俟經宿。」某喜求之。僧解衲角，出

藥一丸如黍大，令吞之。約半炊時，下部暴長；逾刻自捫，增於舊者三之一。心猶未足，窺僧起遺，竊解衲，拈二三丸並吞之。俄覺膚若裂，筋若抽，項縮腰橐，而陰長不已。大懼，無法。僧返見其狀，驚曰：「子必竊吾藥矣！」急與一丸，始覺休止。解衣自視，則幾與兩股鼎足而三矣。縮頸蹣跚而歸。父母皆不能識。從此為廢物，日臥街上，多見之者。

九、二十四、於中丞

於中丞成龍，按部至高郵。適巨紳家將嫁女，裝奩甚富，夜被穿窬席卷而去。刺史無術。公令諸門盡閉，止留一門放行人出入，吏目守之，嚴搜裝載。又出示諭闔城戶口，各歸第

宅，候次日查點搜掘，務得贓物所在。乃陰囑吏目：設有城門中出入至再者捉之。過午得二人，一身之外，並無行裝。公曰：「此真盜也。」二人詭辯不已。公令解衣搜之，見袍服內著女衣二襲，皆奩中物也。蓋恐次日大搜，急於移置，而物多難攜，故密著而屢出之也。

又公為宰時，至鄰邑。早旦經郭外，見二人以床舁病人，覆大被；枕上露發，發上簪鳳釵一股，側眠床上。有三四健男夾隨之，時更番以手擁被，令壓身底，似恐風入。少頃息肩路側，又使二人更相為荷。於公過，遣隸回問之，云是妹子垂危，將送歸夫家。公行二三里，又遣隸回，視其所入何村。隸尾之，至一村舍，兩男子迎之而入，還以白公。公謂其邑

宰：「城中得無有劫寇否？」宰曰：「無之。」時功令嚴，上下諱盜，故即被盜賊劫殺，亦隱忍而不敢言。公就館舍，囑家人細訪之，果有富室被強寇入室，炮烙而死。公喚其子來詰其狀，子固不承。公曰：「我已代捕大盜在此，非有他也。」子乃頓首哀泣，求為死者雪恨。公叩關往見邑宰，差健役四鼓出城，直至村舍，捕得八人，一鞫而伏。詰其病婦何人，盜供：「是夜同在勾欄，故與妓女合謀，置金床上，今抱臥至窩處始瓜分耳。」共服於公之神。或問所以能知之故，公曰：「此甚易解，但人不關心耳。豈有少婦在床，面容入手袞底者？且易肩而行，其勢甚重，交手護之，則知其中必有

物矣。若病婦昏憤而至，必有婦人倚門而迎；止見男子，並不驚問一言，是以確知其為盜也。」

九、二十五、皂隸

萬歷間，歷城令夢城隍索人服役，即以皂隸八人書姓名於牒，焚廟中；至夜八人皆死。廟東有酒肆，肆主故與一隸有素。會夜來沾酒，問：「款何客？」答云：「僚友甚多，沾一尊少敘姓名耳。」質明，見他役，始知其人已死。入廟啟扉，則瓶在焉，貯酒如故。歸視所與錢皆紙灰也。令肖八像於廟，諸役得差，皆先酬之乃行；不然，必遭答譴。

九、二十六、續女

紹興有寡媪夜績，忽一少女推扉入，笑曰：「老姥無乃勞乎？」視之年十八九，儀容秀美，袍服炫麗。媪驚問：「何來？」女曰：「憐媪獨居，故來相伴。」媪疑為侯門亡人，苦相詰，女曰：「媪勿懼，妾之孤亦猶媪也。我愛媪潔，故相就，兩免岑寂，固不佳耶？」媪又疑為狐，默然猶豫。女竟升床代績。曰：「媪無憂，此等生活，妾優為之，定不以口腹相累。」媪見其溫婉可愛，遂安之。

夜深，謂媪曰：「攜來衾枕，尚在門外，出溲時煩代捉入。」媪出，果得衣一裹。女解陳榻上，不知是何等錦繡，香滑無

比，媼亦設布被，與女同榻。羅衿甫解，異香滿室。既寢，媼私念遇此佳人，可惜身非男子。女子枕邊笑曰：「姥七旬猶妄想耶？」媼曰：「無之。」女曰：「既不妄想，奈何欲作男子？」媼愈知為狐，大懼。女又笑曰：「願作男子，何心而又懼我耶？」媼益恐，股戰搖床。女曰：「嗟乎！膽如此大，還欲作男子！實相告：我真仙人，然非禍汝者。但須謹言，衣食自足。」媼早起拜於床下，女出臂挽之，臂膩如脂，熱香噴溢；肌一著人，覺皮膚松快。媼心動，復涉遐想。女哂曰：「婆子戰慄才止，心又何處去矣！使作丈夫，當為情死。」媼曰：「使是丈夫，今夜那得不死！」由是兩心浹洽，日同操

作。視所績勻細生光，織為布晶瑩如錦，價較常三倍。媪出則扃其戶，有訪媪者，輒於他室應之。居半載，無知者。

後媪漸洩於所親，里中姊妹行皆托媪以求見。女讓曰：「汝言不慎，我將不能久居矣。」媪悔失言，深自責，而求見者日益眾，至有以勢迫媪者。媪涕泣自陳。女曰：「若諸女伴，見亦無妨；恐有輕薄兒，將見狎侮。」媪復哀懇，始許之。越日老媪少女，香煙相屬於道。女厭其煩，無貴賤，悉不交語，惟默然端坐，以聽朝參而已。鄉中少年聞其美，神魂傾動，媪悉絕之。

有費生者，邑之名士，傾其產以重金啖媪，媪諾為之請。女已知之，責曰：「汝賣我耶？」媪伏地自投。女曰：「汝貪其

賂，我感其癡，可以一見。然而緣分盡矣。」媼又伏叩。女約以明日。生聞之，喜，具香燭而往，入門長揖。女簾內與語，問：「君破產相見，將何以教妾也？」生曰：「實不敢他有所干，只以王嬙、西子，徒得傳聞，如不以冥頑見棄，俾得一闊眼界，不願已足。若休咎自有定數，非所樂聞。」忽見布幕之中，容光射露，翠黛朱櫻，無不畢現，似無簾幌之隔者。生意炫神馳，不覺傾拜。拜已而起，則厚幕沉沉，聞聲不見矣。悒悵間，竊恨未睹下體；俄見簾下繡履雙翹，瘦不盈指。生又拜。簾中語曰：「君歸休！妾體惰矣！」媼延生別室，烹茶為供。生題《南鄉子》一調於壁云：「隱約畫簾前，三寸凌波玉筍尖；點地分明蓮瓣落，纖纖，再著重臺更

可憐。花襯鳳頭彎，入握應知軟似綿；但願化為蝴蝶去，裙邊，一嗅餘香死亦甜。」題畢而去。

女覽題不悅，謂媪曰：「我言緣分已盡，今不妄矣。」媪伏地請罪。女曰：「罪不盡在汝。我偶墮情障，以色身示人，遂被淫詞污褻，此皆自取，於汝何尤。若不速遷，恐陷身情窟，轉劫難出矣。」遂襜被出。媪追挽之，轉瞬已失。

九、二十七、紅毛氈

紅毛國，舊許與中國相貿易。邊帥見其眾，不許登岸。紅毛人固請：「賜一氈地足矣。」帥思一氈所容無幾，許之。其人

置氈岸上僅容二人；拉之容四五人；且拉且登，頃刻氈大畝許，已數百人矣。短刃並發，出於不意，被掠數里而去。

九、二十八、抽腸

萊陽民某晝臥，見一男子與婦人握手入。婦黃腫，腰粗欲仰，意象愁苦。男子促之曰：「來，來！」某意其苟合者，因假睡以窺所為。既入，似不見榻上有人。又促曰：「速之！」婦便自坦胸懷，露其腹，腹大如鼓。男子出屠刀一把，用力刺入，從心下直剖至臍，蚩蚩有聲。某大俱，不敢喘息。而婦人攢眉忍受，未嘗少呻。男子口銜刀，入手於腹，捉腸掛肘際；且掛且抽，頃刻滿臂。乃以刀斷之，舉置幾上，還復抽

之。幾既滿，懸椅上；椅又滿，乃肘數十盤，如漁人舉網狀，望某首邊一擲。覺一陣熱腥，面目喉膈覆壓無縫。某不能復忍，以手推腸，大號起奔。腸墮榻前，兩足被繫，冥然而倒。家人趨視，但見身繞豬臟；既入審顧，則初無所有。眾各自謂目眩，未嘗駭異。及某述所見，始共奇之。而室中並無痕跡，惟數日血腥不散。

九、二十九、張鴻漸

張鴻漸，水平人。年十八為郡名士。時盧龍令趙某貪暴，人民共苦之。有範生被杖斃，同學忿其冤，將鳴部院，求張為刀筆之詞，約其共事。張許之。妻方氏美而賢，聞其謀，諫

曰：「大凡秀才作事，可以共勝，而不可以共敗；勝則人人貪天功，一敗則紛然瓦解，不能成聚。今勢力世界，曲直難以理定；君又孤，脫有翻覆，急難者誰也！」張服其言，悔之，乃宛謝諸生，但為創詞而去。

質審一過，無所可否。趙以巨金納大僚，諸生坐結黨被收，又追捉刀人。張懼亡去，至鳳翔界，資斧斷絕。日既暮，踟躕曠野，無所歸宿。欵睹小村，趨之。老嫗方出闔扉，見生，問所欲為。張以實告，嫗曰：「飲食床榻，此都細事；但家無男子，不便留客。」張曰：「僕亦不敢過望，但容寄宿門內，得避虎狼足矣。」嫗乃令人，閉門，授以草薦，囑曰：「我憐

客無歸，私容止宿，未明宜早去，恐吾家小娘子聞知，將便怪罪。」

嫗去，張倚壁假寐。忽有籠燈晃耀，見嫗導一女郎出。張急避暗處，微窺之，二十許麗人也。及門見草薦，詰嫗。嫗實告之，女怒曰：「一門細弱，何得容納罪人！」即問：「其人焉往？」張懼出伏階下。女審詰邦族，色稍霽，曰：「幸是風雅士，不妨相留。然老奴竟不關白，此等草草，豈所以待君子。」命嫗引客入舍。俄頃羅酒漿，品物精潔；既而設錦裯於榻。張甚德之。因私詢其姓氏。嫗曰：「吾家施氏，太翁夫人俱謝世，止遺三女。適所見長姑舜華也。」嫗去。張視幾上有《南華經注》，因取就枕上伏榻翻閱，忽舜華推扉入。

張釋卷，搜覓冠履。女即榻捷坐曰：「無須，無須！」因近榻坐，腆然曰：「妾以君風流才士，欲以門戶相托，遂犯瓜李之嫌。得不相遐棄否？」張皇然不知所對，但云：「不相誑，小生家中固有妻耳。」女笑曰：「此亦見君誠篤，顧亦不妨。既不嫌憎，明日當煩媒妁。」言已欲去。張探身挽之，女亦遂留。未曙即起，以金贈張曰：「君持作臨眺之資；向暮宜晚來。恐旁人所窺。」張如其言，早出晏歸，半年以為常。

一日歸頗早，至其處，村舍全無，不勝驚怪。方徘徊間，聞嫗云：「來何早也！」一轉盼間，則院落如故，身固已在室中矣，益異之。舜華自內出，笑曰：「君疑妾耶？實對君言：妾，狐仙也，與君固有夙緣。如必見怪，請即別。」張戀其美，

亦安之。夜謂女曰：「卿既仙人，當千里一息耳。小生離家三年，念妻孥不去心，能攜我一歸乎？」女似不悅，曰：「琴瑟之情，妾自分於君為篤；君守此念彼，是相對綢繆者皆妄也！」張謝曰：「卿何出此言。諺云：『一日夫妻，百日恩義。』」後日歸念卿時，亦猶今日之念彼也。設得新忘故，卿何取焉？」女乃笑曰：「妾有褊心，於妾願君之不忘，於人願君之忘之也。然欲暫歸，此復何難？君家咫尺耳！」遂把袂出門，見道路昏暗，張逡巡不前。女曳之走，無幾時，曰：「至矣。君歸，妾且去。」張停足細認，果見家門。逾堦垣入，見室中燈火猶熒，近以兩指彈扉，內問為誰，張具道所來。內秉燭啟關，真方氏也。兩相驚喜。握手入帷。見兒臥床上，慨

然曰：「我去時兒才及膝，今身長如許矣！」夫婦依倚，恍如夢寐。張歷述所遭。問及訟獄，始知諸生有瘐死者，有遠徙者，益服妻之遠見。方縱體入懷，曰：「君有佳偶，想不復念孤衾中有零涕人矣！」張曰：「不念，胡以來也？我與彼雖雲情好，終非同類；獨其恩義難忘耳。」方曰：「君以我何人也！」張審視竟非方氏，乃舜華也。以手探兒，一竹夫人耳。大慚無語。女曰：「君心可知矣！分當自此絕矣，猶幸未忘恩義，差足自贖。」

過二三日，忽曰：「妾思癡情戀人，終無意味。君日怨我不相送，今適欲至都，便道可以同去。」乃向床頭取竹夫人共跨之，令閉兩眸，覺離地不遠，風聲颼颼。移時尋落，女

曰：「從此別矣。」方將訂囑，女去已渺。悵立少時，聞村犬鳴吠，蒼茫中見樹木屋廬，皆故里景物，循途而歸。逾垣叩戶，宛若前狀。方氏驚起，不信夫歸；詰證確實，始挑燈嗚咽而出。既相見，涕不可仰。張猶疑舜華之幻弄也；又見床臥一兒如昨夕，因笑曰：「竹夫人又攜入耶？」方氏不解，變色曰：「妾望君如歲，枕上啼痕固在也。甫能相見，全無悲戀之情，何以為心矣！」張察其情真，始執臂欷歔，具言其詳。問訟案所結，並如舜華言。方相感慨，聞門外有履聲，問之不應。蓋里中有惡少甲，久窺方艷，是夜自別村歸，遙見一人逾垣去，謂必赴淫約者，尾之入。甲故不甚識張，但伏聽之。及方氏亟問，乃曰：「室中何人也？」方諱言：「無

之。」甲言：「竊聽已久，敬將以執奸也。」方不得已以實告，甲曰：「張鴻漸大案未消，即使歸家，亦當縛送官府。」方苦哀之，甲詞益狎逼。張忿火中燒，把刀直出，剝甲中顱。甲踣猶號，又連剝之，遂死。方曰：「事已至此，罪益加重。君速逃，妾請任其辜。」張曰：「丈夫死則死耳，焉肯辱妻累子以求活耶！卿無顧慮，但令此子勿斷書香，目即瞑矣。」

天明，赴縣自首。趙以欽案中人，姑薄懲之。尋由郡解都，械禁頗苦。途中遇女子跨馬過，一老嫗捉鞵，蓋舜華也。張呼嫗欲語，淚隨聲墮。女返轡，手啟障紗，訝曰：「表兄也，何至此？」張略述之。女曰：「依兄平昔，便當掉頭不顧，然予不忍也。寒舍不遠，即邀公役同臨，亦可少助資斧。」從

去三二里，見一山村，樓閣高整。女下馬入，令嫗啟舍延客。既而酒炙豐美，似所夙備。又使嫗出曰：「家中適無男子，張官人即向公役多勸數觴，前途倚賴多矣。遣人措辦數十金為官人作費，兼酬兩客，尚未至也。」二役竊喜，縱飲，不復言行。日漸暮，二役徑醉矣。女出以手指械，械立脫。曳張共跨一馬，駛如龍。少時促下，曰：「君止此。妾與妹有青海之約，又為君逗留一晌，久勞盼注矣。」張問：「後會何時？」女不答，再問之，推墮馬下而去。

既曉問其地，太原也。遂至郡，賃屋授徒焉。托名宮子遷。居十年，訪知捕亡寢怠，乃復逡巡東向。既近裏門，不敢遽入，俟夜深而後入。及門，則墻垣高固，不復可越，只得以

鞭撻門。久之妻始出問，張低語之。喜極納入，作呵叱聲，曰：「都中少用度，即當早歸，何得遣汝半夜來？」入室，各道情事，始知二役逃亡未返。言次，簾外一少婦頻來，張問伊誰，曰：「兒婦耳。」問：「兒安在？」曰：「赴郡大比未歸。」張涕下曰：「流離數年，兒已成立，不謂能繼書香，卿心血殆盡矣！」話末已，子婦已盪酒炊飯，羅列滿兒。張喜慰過望。居數日，隱匿屋榻，惟恐人知。夜方臥，忽聞人語騰沸，捶門甚厲。大懼，並起。聞人言曰：「有後門否？」益懼，急以門扇代梯，送張夜度坦而出，然後詣門問故，乃報新貴者也。方大喜，深悔張遁，不可追挽。

張是夜越莽穿榛，急不擇途，及明困殆已極。初念本欲向西，問之途人，則去京都通衢不遠矣。遂入鄉村，意將質衣而食。見一高門，有報條粘壁上，近視知為許姓，新孝廉也。頃之，一翁自內出，張迎揖而告以情。翁見儀容都雅，知非賺食者，延入相款。因詰所往，張托言：「設帳都門，歸途遇寇。」翁留誨其少子。張略問官閥，乃京堂林下者；孝廉其猶子也。月餘，孝廉偕一同榜歸，云是永平張姓，十八九少年也。張以鄉譜俱同，暗中疑是其子；然邑中此姓良多，姑默之。至晚解裝，出「齒錄」，急借披讀，真子也。不覺淚下。共驚問之，乃指名曰：「張鴻漸，即我是也。」備言其

由。張孝廉抱父大哭。許叔侄慰勸，始收悲以喜。許即以金帛函字，致告憲臺，父子乃同歸。

方自聞報，日以張在亡為悲；忽白孝廉歸，感傷益痛。少時父子並入，駭如天降，詢知其故，始共悲喜。甲父見其子貴，禍心不敢復萌。張益厚遇之，又歷述當年情狀，甲父感愧，遂相交好。

### 九、三十、太醫

萬歷間，孫評事少孤，母十九歲守節。孫舉進士，而母已死。嘗語人曰：「我必博誥命以光泉壤，始不負萱堂苦節。」忽得暴病，綦篤。素與太醫善，使人招之，使者出門，而疾益劇。

張曰曰：「生不能揚名顯親，何以見老母地下乎！」遂卒，目不瞑。無何太醫至，聞哭聲，即入臨吊。見其狀異之。家人告以故，太醫曰：「欲得誥贈，即亦不難。今皇后旦晚臨盆矣，但活十餘日，誥命可得。」立命取艾灸尸一十八處。炷將盡，床上已呻；急灌以藥，居然復生。囑曰：「切記勿食熊虎肉。」共志之。然以此物不常有，頗不關意。

既而三日平復，仍從朝賀。過六七日果生太子，召賜群臣宴。中使出異品，遍賜文武，白片朱絲，甘美無比。孫啖之，不知何物。次日訪諸同僚，曰：「熊蹯也。」大驚失色，即刻而病，至家遂卒。

九、三十一、牛飛

邑人某，購一牛，頗健。夜夢牛生兩翼飛去，以為不祥，疑有喪失。牽入市損價售之，以巾裹金纏臂上。歸至半途，見有鷹食殘兔，近之甚馴。遂以巾頭繫股，臂之。鷹屢擺撲，把捉稍懈，帶巾騰去。此雖定數，然不疑夢，不貪拾遺，則走者何遽能飛哉？

九、三十二、王子安

王子安，東昌名士，困於場屋。入闈後期望甚切。近放榜時，痛飲大醉，歸臥內室。忽有人白：「報馬來。」王踉蹌起曰：「賞錢十千！」家人因其醉，誑而安之曰：「但請睡，已賞

矣。」王乃眠。俄又有入者曰：「汝中進士矣！」王自言：「尚未赴都，何得及第？」其人曰：「汝忘之耶？三場畢矣。」王大喜，起而呼曰：「賞錢十千！」家人又誑之如前。又移時，一人急入曰：「汝殿試翰林，長班在此。」果見一人拜床下，衣冠修潔。王呼賜酒食，家人又給之，暗笑其醉而已。久之，王自念不可不出耀鄉里，大呼長班，凡數十呼無應者。家人笑曰：「暫臥候，尋他去。」又久之，長班果復來。王捶床頓足，大罵：「鈍奴焉往！」長班怒曰：「措大無賴！向與爾戲耳，而真罵耶？」王怒，驟起撲之，落其帽。王亦傾跌。

妻入，扶之曰：「何醉至此！」王曰：「長班可惡，我故懲之，何醉也？」妻笑曰：「家中止有一媪，晝為汝炊，夜為汝溫足

耳。何處長班，伺汝窮骨？」子女皆笑。王醉亦稍解，忽如夢醒，始知前此之妄。然猶記長班帽落。尋至門後，得一纓帽如盞大，共疑之。自笑曰：「昔人為鬼揶揄，吾今為狐奚落矣。」

異史氏曰：「秀才入闈，有七似焉：初入時，白足提籃似丐。唱名時，官呵隸罵似囚。其歸號舍也，孔孔伸頭，房房露腳，似秋末之冷蜂。其出場也，神情恂恂，天地異色，似出籠之病鳥。迨望報也，草木皆驚，夢想亦幻。時作一得志想，則頃刻而樓閣俱成；作一失志想，則瞬息而骸骨已朽。此際行坐難安，則似被縶之獠。忽然而飛騎傳人，報條無我，此時神色猝變，嗒然若死，則似餌毒之蠅，弄之亦不覺也。初失

志心灰意敗，大罵司衡無目，筆墨無靈，勢必舉案頭物而盡炬之；炬之不已，而碎踏之；踏之不已，而投之濁流。從此披發入山，面向石壁，再有以『且夫』、『嘗謂』之文進我者，定當操戈逐之。無何日漸遠，氣漸平，技又漸癢，遂似破卵之鳩，只得銜木營巢，從新另抱矣。如此情況，當局者痛哭欲死，而自旁觀者視之，其可笑孰甚焉。王子安方寸之中，頃刻萬緒，想鬼狐竊笑已久，故乘其醉而玩弄之。床頭人醒，寧不啞然失笑哉？顧得志之況味，不過須臾；詞林諸公，不過經兩三須臾耳，子安一朝而盡嘗之，則狐之恩與薦師等。」

九、三十三、刁姓

有刁姓者，家無生產，每出賣許負之術——實無術也——數月一歸，則金帛盈囊。共異之。會里人有客於外者，遙見高門內一人，冠華陽巾，言語啁噍，眾婦叢繞之。近視則刁也。因微窺所為，見有問者曰：「吾等眾人中有一夫人在，能辨之乎？」蓋有一貴人婦微服其中，將以驗其術也。里人代為刁窘。刁從容望空橫指曰：「此何難辨。試觀貴人頂上，自有雲氣環繞。」眾目不覺集視一人，覘其雲氣，刁乃指其人曰：「此真貴人！」眾驚以為神。里人歸述其詐慧，乃知雖小道，亦必有過人之才；不然，烏能欺耳目、賺金錢，無本而殖哉！

九、三十四、農婦

邑西磁窰塢有農人婦，勇健如男子，輒為鄉中排難解紛。與夫異縣而居。夫家高苑，距淄百餘里；偶一來，信宿便去。婦自赴顏山，販陶器為業。有羸餘，則施丐者，一夕與鄰婦語，忽起曰「腹少微痛，想孽障欲離身也。」遂去。天明往探之，則見其肩荷釀酒巨翁二，方將入門，隨至其室，則有嬰兒繡臥，駭問之，蓋媿後已負重百里矣。故與北闍尼善，訂為姊妹。後聞尼有穢行，忿然操杖，將往撻楚，眾苦勸乃止。一日遇尼於途，遽批之。問：「何罪？」亦不答。拳石交施，至不能號，乃釋而去。

異史氏曰：「世言女中丈夫，猶自知非丈夫也，婦並忘其為巾幗矣。其豪爽自快，與占劍仙無殊，母亦其夫亦磨鏡者流耶？」

九、三十五、金陵乙

金陵賣酒人某乙，每釀成，投水而置毒焉，即善飲者，不過數盞，便醉如泥。以此得「中山」之名，富致巨金。

早起見一狐醉臥槽邊，縛其四肢。方將覓刃，狐已醒，哀曰：「忽見害，諸如所求。」遂釋之，輾轉已化為人。時巷中孫氏，其長婦患狐為祟，因問之，答云：「是即我也。」乙窺婦娣尤美，求狐攜往。狐難之，乙固求之。狐邀乙去，入一

洞中，取褐衣授之，曰：「此先兄所遺，著之當可去。」既服而歸，家人皆不之見，襲衣裳而出，始見之。大喜，與狐同詣孫氏家。見牆上貼巨符，畫蜿蜒如龍，狐懼曰：「和尚大惡，我不往矣！」遂去。乙逡巡近之，則真龍盤壁上，昂首欲飛，大懼亦出。蓋孫覓一異域僧，為之厭勝，授符先歸，僧猶未至也。

次日僧來，設壇作法。鄰人共觀之，乙亦雜處其中。忽變色急奔，狀如被捉；至門外踣地，化為狐，四體猶著人衣。將殺之，妻子叩請。僧命牽去，目給飲食，數月尋斃。

九、三十六、郭安

孫五粒，有僮僕獨宿一室，恍惚被人攝去。至一宮殿，見閻羅在上，視之曰：「誤矣，此非是。」因遣送還。既歸大懼，移宿他所。遂有僚僕郭安者，見榻空閑，因就寢焉。又一僕李祿，與僮有夙怨，久將甘心，是夜操刀入，捫之以為僮也，竟殺之。郭父鳴於官。時陳其善為邑宰，殊不苦之。郭哀號，言：「半生止此子，今將何以聊生！」陳即以李祿為之子。郭含冤而退。此不奇於僮之見鬼，而奇於陳之折獄也。

濟之西邑有殺人者，其婦訟之。令怒，立拘兇犯至，拍案罵曰：「人家好好夫婦，直令寡耶！即以汝配之，亦令汝妻寡

守。」遂判令之。此等明決皆是甲榜所為，他途不能也。而陳亦爾爾，何途無才！

九、三十七、折獄

邑之西崖莊，有賈某被人殺於途，隔夜其妻亦自經死。賈弟鳴於官，時浙江費公禕祉令淄，親詣驗之。見布袱裏銀五錢餘，尚在腰中，知非為財也者。拘兩村鄰保審質一過，殊少端緒，並未撈掠，釋散歸農，但命地約細察，十日關白而已，逾半年事漸懈。賈弟怨公仁柔，上堂屢聒。公怒曰：「汝既不能指名，欲我以桎梏加良民耶！」呵逐而出。賈弟無所伸訴，憤葬兄嫂。

一日以逋賦故逮數人至，內一人周成懼責，上言錢糧措辦已足，即於腰中出銀袱，稟公驗視。驗已，便問：「汝家何里？」答云：「某村。」又問：「去西崖幾裏？」答云：「五六月。」「去年被殺賈某，系汝何人？」答曰：「不識其人。」公勃然曰：「汝殺之，尚云不識耶！」周力辯不聽，嚴梏之，果伏其罪。先是，賈妻王氏，將詣姻家，慚無釵飾，聒夫使假於鄰。夫不肯；妻自假之，頗甚珍重。歸途卸而裹諸袱，內袖中；既至家，探之已亡。不敢告夫，又無力償鄰，懊惱欲死。是日周適拾之，知為賈妻所遺，窺賈他出，半夜逾垣，將執以求合。時溽暑，王氏臥庭中，周潛就淫之。王氏覺大號。周急止之，留袱納釵。事已，婦囑曰：「後勿來，吾家

男子惡，犯恐俱死！周怒曰：「我挾勾欄數宿之資，寧一度可償耶？」婦慰之曰：「我非不願相交，渠常善病，不如從容以待其死。」周乃去，於是殺賈，夜詣婦曰：「今某已被人殺，請如所約。」婦聞大哭，周懼而逃，天明則婦死矣。

公廉得情，以周抵罪。共服其神，而不知所以能察之故。公曰：「事無難辨，要在隨處留心耳。初驗尸時，見銀袱刺萬字文，周袱亦然，是出一手也。及詰之，又云無舊，詞貌詭變，是以確知其真兇也。」

異史氏曰：「世之折獄者，非悠悠置之，則縲系數十人而狼藉之耳。堂上肉鼓吹，喧闐旁午，遂顰蹙曰：『我勞心民事也。』云板三敲，則聲色並進，難決之詞，不復置念，專待升堂時，

禍桑樹以烹老龜耳。嗚呼！民情何由得哉！余每日：『智者不必仁，而仁者則必智；蓋用心苦則機關出也。』『隨在留心』之言，可以教天下之宰民社者矣。」

邑人胡成，與馮安同里，世有隙。胡父子強，馮屈意交歡，胡終猜之。一日共飲薄醉，頗傾肝膽。胡大言：「勿憂貧，百金之產不難致也。」馮以其家不豐，故嗤之。胡正色曰：「實相告：昨途遇大商，載厚裝來，我顛越於南山智井中矣。馮又笑之。時胡有妹夫鄭倫，托為說合田產，寄數百金於胡家，遂盡出以炫馮。馮信之。既散，陰以狀報邑。公拘胡對勘，胡言其實，問鄭及產主皆不訛。乃共驗諸智井。一役縋下，則果有無首之尸在焉。胡大駭，莫可置辯，但稱冤苦。公怒，

擊喙數十，曰：「確有證據，尚叫屈耶！」以死囚具禁制之。尸戒勿出，惟曉示諸村，使尸主投狀。

逾日有婦人抱狀，自言為亡者妻，言：「夫何甲，揭數百金作貿易，被胡殺死。」公曰：「井有死人，恐未必即是汝夫。」婦執言甚堅。公乃命出尸於井，視之果不妄。婦不敢近，卻立而號。公曰：「真犯已得，但骸軀未全。汝暫歸，待得死者首，即招報令其抵償。」遂自獄中喚胡出，呵曰：「明日不將頭至，當械折股！」押去終日而返，詰之，但有號泣。乃以梏具置前作刑勢，卻又不刑，曰：「想汝當夜扛尸忙迫，不知墜落何處，奈何不細尋之？」胡哀祈容急覓。公乃問婦：「子女幾何？」答曰：「無。」問：「甲有何戚屬？」「但有堂叔一

人。」慨然曰：「少年喪夫，伶仃如此，其何以為生矣！」婦乃哭，叩求憐憫。公曰：「殺人之罪已定，但得全尸，此案即結；結案後速醮可也。汝少婦勿復出入公門。」婦感泣，叩頭而下。公即票示里人，代覓其首。

經宿，即有同村王五，報稱已獲。問驗既明，賞以千錢。喚甲叔至，曰：「大案已成；然人命重大，非積歲不能成結。侄既無出，少婦亦難存活，早令適人。此後亦無他務，但有上臺檢駁，止須汝應聲耳。」甲叔不肯，飛兩簽下；再辯，又一簽下。甲叔懼，應之而出。婦聞，詣謝公恩。公極意慰諭之。又諭：「有買婦者，當堂關白。」既下，即有投婚狀者，蓋即報人頭之王五也。公喚婦上，曰：「殺人之真犯，汝知

之乎？」答曰：「胡成。」公曰：「非也。汝與王五乃真犯耳。」二人大駭，力辯冤枉。公曰：「我久知其情，所以遲遲而發者，恐有萬一之屈耳。尸未出井，何以確信為汝夫？蓋先知其死矣。且甲死猶衣敗絮，數百金何所自來？」又謂王五曰：「頭之所在，汝何知之熟也！所以如此其急者，意在速合耳。」兩人驚顏如土，不能強置一詞。並械之，果吐其實。蓋王五與婦私已久，謀殺其夫，而適值胡成之戲也。

乃釋胡。馮以誣告重笞，徒三年。事結，並未妄刑一人。異史氏曰：「我夫子有仁愛名，即此一事，亦以見仁人之用心苦矣。方宰淄時，松裁弱冠，過蒙器許，而駕鈍不才，竟以

不舞之鶴為羊公辱。是我夫子生平有不哲之一事，則松實貽之也。悲夫！

九、三十八、義犬

周村有賈某貿易蕪湖，獲重資，賃舟將歸，見堤上有屠人縛犬，倍價贖之，養豢舟上。舟上固積寇也，窺客裝，蕩舟入莽，操刀欲殺。賈哀賜以全尸，盜乃以氈裹置江中。犬見之，哀嗥投水；口銜裹具，與共浮沉。流蕩不知幾里，達淺攔乃止。犬泅出，至有人處，狼信哀吠。或以為異，從之而往，見氈束水中，引出斷其繩。客固未死，始言其情。復哀舟人

載還蕪湖，將以伺盜船之歸。登舟失犬，心甚悼焉。抵關三四日，估輯如林，而盜船不見。適有同鄉估客將

攜俱歸，忽犬自來，望客大嗥，喚之卻走。客下舟趁之。犬奔上一舟，嚙人脛股，撻之不解。客近呵之，則所嚙即前盜也。衣服與舟皆易，故不得而認之矣。縛而搜之，則裏金猶在，嗚呼！一犬也，而報恩如是，世無心肝者，其亦愧此犬也夫！

九、三十九、楊大洪

大洪楊先生漣，微時為楚名儒，自命不凡。科試後，聞報優等者，時方食，含哺出問：「有楊某否？」答云：「無。」不

覺嗒然自喪，咽食入鬲，遂成病塊，噎阻甚苦。眾勸令錄遺才；公患無資，眾醵十金送之行，乃強就道。

夜夢人告之云：「前途有人能愈君疾，宜苦求之。」臨去贈以詩，有「江邊柳下三弄笛，拋向江心莫嘆息」之句。明日途次，果見道士坐柳下，因便叩請。道士笑曰：「子誤矣，我何能療病？請為三弄可也。」因出笛吹之。公觸所夢，拜求益切，且傾囊獻之。道士接金擲諸江流。公以所來不易，啞然驚惜。道士曰：「君未能恻然耶？金在江邊，請自取之。」公詣視果然。又益奇之，呼為仙。道士漫指曰：「我非仙，彼處仙人來矣。」賺公回顧，力拍其項曰：「俗哉！」公受拍，張

吻作聲，喉中嘔出一物，墮地然塌，俯而破之，赤絲中裹飯猶存，病若失。回視道士已杳。

異史氏曰：「公生為河岳，沒為日星，何必長生乃為不死哉！或以未能免俗，不作天仙，因而為公悼惜；餘謂天上多一仙人，不如世上多一聖賢，解者必不議予說之僞也。」

### 九、四十、查牙山洞

章丘查牙山，有石窟如井，深數尺許。北壁有洞門，伏而引領望見之。會近村數輩，九日登臨飲其處，共謀入探之。三人受燈，縋而下。洞高敞與夏屋等，入數武稍狹，即忽見底。底際一竇，蛇行可入。燭之，漆漆然暗深不測。

兩人餒而卻退；一人奪火而嗤之，銳身塞而進。幸隘處僅厚於堵，即又頓高頓闊，乃立，乃行。頂上石參差危聳，將墜不墜。兩壁嶙嶙峋峋然，類寺廟中塑，都成鳥獸人鬼形：鳥若飛，獸若走，人若坐若立，鬼魅魍魎，示現忿怒；奇奇怪怪，類多醜少妍。心凜然作怖畏。喜徑夷，無少陂。逡巡幾百步，西壁開石室，門左一怪石，鬼面人身而立，目怒口箕張，齒舌獐惡，左手作拳觸腰際，右手叉五指欲撲人。心大恐，毛森森以立。遙望門中有蕪灰，知有人曾至者，膽乃稍壯，強入之。見地上列碗盞，泥垢其中，然皆近今物，非古窯也。旁置錫壺四，心利之，解帶縛項系腰間。即又旁矚，一尸臥西隅，兩肱及股四布以橫。駭極。漸審之，足躡銳履，

梅花刻底猶存，知是少婦。人不知何里，斃不知何年。衣色黯敗，莫辨青紅；發蓬蓬，似筐許亂絲粘著髑髏上；目、鼻孔各二，瓠犀兩行白巉巉，意是口也。有想首顛當有金珠飾，以火近腦，似有口氣噓燈，燈搖搖無定，焰纒黃，衣動掀掀。復大懼，手搖顫。燈頓滅。憶路急奔，不敢手索壁，恐觸鬼者物也。頭觸石，僕，即復起；冷濕浸頷頰，知是血，不覺痛，抑不敢呻；空息奔至竇，方將伏，似有人捉發住，暈然遂絕。眾坐井上俟久，疑之，又縋二人下。探身入竇，見發冪石上，血淫淫已殭。二人失色，不敢入，坐愁嘆。俄井上又使二人下；中有勇者，始健進，曳之以出。置山上，半日

方醒，言之縷縷。所恨未窮其底；極窮之，必更有佳境。後章令聞之，以丸泥封竇，不可復入矣。

康熙二十六七年間，養母峪之南石崖崩，現洞口，望之鐘乳林，林如密筍。然深險無人敢入。忽有道士至，自稱鐘離弟子，言：「師遣先至，糞除洞府。」居人供以膏火，道士攜之而下，墜石筍上，貫腹而死。報令，令封其洞。其中必有奇境，惜道士尸解，無回音耳。

### 九、四十一、安期島

長山劉中堂鴻訓，同武弁某使朝鮮。聞安期島神仙所居，欲命舟往游。國中臣僚僉謂不可，令待小張。蓋安期不與世通，

惟有弟子小張，歲輒一兩至。欲至島者，須先自白。如以為可，則一帆可至，否則颶風覆舟。

逾一二日，國王召見。入朝，見一人佩劍，冠棕笠，坐殿上；年三十許，儀容修潔。問之即小張也。劉因自述向往之意，小張許之。但言：「副使不可行。」又出遍視從人，惟二人可以從游。遂命舟導劉俱往。水程不知遠近，但覺習習如駕雲霧，移時已抵其境。時方嚴寒，既至則氣候溫煦，山花遍巖谷。導人洞府，見三叟趺坐。東西者見客入，漠若罔知；惟中坐者起迎客，相為禮。既坐，呼茶。有僮將盤去。洞外石壁上有鐵錐，銳沒石中；僮拔錐，水即溢射，以盞承之；滿，復塞之。既而托至，其色淡碧。試之，其涼震齒。劉畏寒不

飲。叟顧僮頤視之。僮取盞去，呷其殘者；仍於故處拔錐溢取而返，則芳烈蒸騰，如初出於鼎。竊異之。問以休咎，笑曰：「世外人歲月不知，何解人事？」問以卻老術，曰：「此非富貴人所能為者？」劉興辭，小張仍送之歸。

既至朝鮮，備述其異。國王嘆曰：「惜未飲其冷者。此先天之玉液，一盞可延百齡。」劉將歸，王贈一物，紙帛重裹，囑近海勿開視。既離海，急取拆視，去盡數百重，始見一鏡；審之，則鮫宮龍族，歷歷在目。方凝注間，忽見潮頭高於樓閣，洶洶已近。大駭，極馳；潮從之，疾若風雨。大懼，以鏡投之，潮乃頓落。

九、四十二、沅俗

李季霖攝篆沅江，初蒞任，見貓犬盈堂，訝之。僚屬曰：「此鄉中百姓，瞻仰風採也。」少間人畜已半；移時都復為人，紛紛並去。一日出謁客，肩輿在途。忽一輿夫急呼曰：「小人吃害矣！」即倩役代荷，伏地乞假。怒呵之，役不聽，疾奔而去。遣人尾之。役奔入市，覓得一叟，便求按視。叟相之曰：「是汝吃害矣。」乃以手揣其膚肉，自上而下力推之，推至少股，見皮內墳起，以利刃破之，取出石子一枚，曰：「愈矣。」乃奔而返。後聞其俗有身臥室中，手即飛出，入人房闖，竊取財物。設被主覺，繫不令去，則此人一臂不用矣。

九、四十三、雲蘿公主

安大業，盧龍人。生而能言，母飲以犬血始止。既長，韶秀，顧影無儔，慧而能讀。世家爭婚之。母夢曰：「兒當尚主。」信之。至十五六迄無驗，亦漸自悔。

一日安獨坐，忽聞異香。俄一美婢奔入。曰：「公主至。」即以長氈貼地，自門外直至榻前。方駭疑問，一女郎扶婢肩入；服色容光，映照四堵。婢即以繡墊設榻上，扶女郎坐。安倉皇不知所為，鞠躬便問：「何處神仙，勞降玉趾？」女郎微笑，以袍袖掩口。婢曰：「此聖後府中雲蘿公主也。」聖後

屬意郎君，欲以公主下嫁，故使自來相宅。」安驚喜不知置詞，女亦俯首，相對寂然。

安故好棋，揪枰嘗置坐側。一婢以紅巾拂塵，移諸案上，曰：「主曰耽此，不知與粉侯孰勝？」安移坐近案，主笑從之。甫三十餘著，婢竟亂之，曰：「駙馬負矣！」斂子入盒，曰：「駙馬當是俗間高手，主僅能讓六子。」乃以六黑子實局中，主亦從之。主坐次，輒使婢伏座下，以背受足；左足踏地，則更一婢右伏。又兩小鬟夾侍之；每值安凝思時，輒曲一肘伏肩上。局闌未結，小鬟笑云：「駙馬負一子。」進曰：「主情，宜且退。」女乃傾身與婢耳語。

婢出，少頃而還，以千金置榻上，告生曰：「適主言居宅湫隘，煩以此少致修飾，落成相會也。」一婢曰：「此月犯天刑，不宜建造；月後吉。」女起，生遮止，閉門。婢出一物，狀類皮排，就地鼓之；雲氣突出，俄頃四合，冥不見物，索之已杳。

母知之，疑以為妖。而生神馳夢想，不能復舍。急於落成，無暇禁忌；刻日敦迫，廊舍一新。

先是，有灤州生袁大用，僑寓鄰坊，投刺於門；生素寡交，托他出，又窺其亡而報之。後月餘，門外適相值，二十許少年也。宮絹單衣，絲履烏帶，意甚都雅。略與頃談，頗甚溫謹。喜，揖而入。請與對弈，互有贏虧。已而設席流連，談

笑大歡。明日邀生至其寓所，珍肴雜進，相待殷渥。有小僮十二三許，拍板清歌，又跳擲作劇。生大醉不能行，便令負之，生以其纖弱恐不勝，袁強之。僮綽有餘力，荷送而歸。生奇之。明日犒以金，再辭乃受。由此交情款密，三數日輒一過從。袁為人簡默，而慷慨好施。市有負債鬻女者，解囊代贖，無吝色。生以此益重之。過數日，詣生作別，贈象箸、楠珠等十餘事，白金五百，用助興作。生反金受物，報以束帛。

後月餘，樂亭有仕宦而歸者，橐資充物。盜夜入，執主人，燒鐵鉗灼，劫掠一空。家人識袁，行牒追捕。鄰院屠氏，與生家積不相能，因其土木大興，陰懷疑忌。適有小僕竊象箸，

賣諸其家，知袁所贈，因報大尹。尹以兵繞舍，值生主僕他出，執母而去。母哀邁受驚，僅存氣息，一三日不復飲食。尹釋之。生聞母耗，急奔而歸，則母病已篤，越宿遂卒。收殮甫畢，為捕役執去。尹見其少年溫文，竊疑誣枉，故恐喝之。生實述其交往之由。尹問：「其何以暴富？」生曰：「母有藏鏹，因欲親迎，故治昏室耳。」尹信之，具牒解郡。鄰人知其無事，以重金賂監者，使殺諸途。路經深山，被曳近削壁，將推墮。計逼情危，時方急難，忽一虎自叢莽中出，嚙二役皆死，銜生去。至一處，重樓疊閣，虎入，置之。見雲蘿扶婢出，淒然慰吊曰：「妾欲留君，但母喪未卜窀穸。可懷牒去，到郡自投，保無恙也。」因取生胸前帶，連結十餘

扣，囑云：「見官時，拈此結而解之，可以弭禍。」生如其教，詣郡自投。太守喜其誠信，又稽牒知其冤，銷名令歸。

至中途，遇袁，下騎執手，備言情況。袁憤然作色，默然無語。生曰：「以君風採，何自污也？」袁曰：「某所殺皆不義之人，所取皆非義之財。不然，即遺於路者不拾也。君教我固自佳，然如君家鄰，豈可留在人間耶！」言已超乘而去。生歸，殯母已，杜門謝客。忽一日盜入鄰家，父子十餘口盡行殺戮，止留一婢。席卷資物，與僮分攜之。臨去，執燈謂婢：「汝認明：殺人者我也，與人無涉。」並不啟關，飛簷越壁而去。明日告官。疑生知情，又捉生去。邑宰詞色甚厲，生上堂握帶，且辨且解。宰不能詰，又釋之。既歸，益自韜晦，

讀書不出，一跛嫗執炊而已。服既闋，日掃階庭，以待好音。一日異香滿院。登閣視之，內外陳設煥然矣。悄揭畫簾，則公主凝妝坐，急拜之。女挽手曰：「君不信數，遂使土木為災；又以苦塊之戚，遲我三年琴瑟：是急之而反以得緩，天下事大抵然也。」生將出資治具。女曰：「勿復須。」婢探櫝，有肴羹熱如新出於鼎，酒亦芳烈。酌移時，日已投暮，足下所踏婢，漸都亡去。女四肢嬌惰，足股屈伸，似無所著，生狎抱之。女曰：「君暫釋手。今有兩道，請君擇之。」生攬項問故，曰：「若為棋酒之交，可得三十年聚首；若作床第之歡，可六年諧合耳。君焉取？」生曰：「六年後再商之。」女乃默然，遂相燕好。

女曰：「妾固知君不免俗道，此亦數也。」因使生蓄婢媪，別居南院，炊爨紡織以作生計。北院中並無煙火，惟棋枰、酒具而已。戶常闔，生推之則自開，他人不得入也。然南院人作事勤惰，女輒知之，每使生往譴責，無不具服。女無繁言，無響笑，與有所談，但俯首微哂。每駢肩坐，喜斜倚人。生舉而加諸膝，輕如抱嬰。生曰：「卿輕若此，可作掌上舞。」曰：「此何難！但婢子之為，所不屑耳。飛燕原九姊侍兒，屢以輕佻獲罪，怒謫塵間，又不守女子之貞；今已幽之。」

閣上以錦褥布滿，冬未嘗寒，夏未嘗熱。女嚴冬皆著輕縠，生為制鮮衣，強使著之。逾時解去，曰：「塵濁之物，幾於壓骨成勞！」一日抱諸膝上，忽覺沉倍曩昔，異之。笑指腹

曰：「此中有俗種矣。」過數日，顰黛不食，曰：「近病惡阻，頗思煙火之味。」生乃為具甘旨。從此飲食遂不異於常人。一日曰：「妾質單弱，不任生產。婢子樊英頗健，可使代之。」乃脫衷服衣英，閉諸室。少頃聞兒啼聲，啟扉視之，男也。喜曰：「此兒福相，大器也！」因名大器。繙納主懷，俾付乳媪，養諸南院。女自免身，腰細如初，不食煙火矣。

忽辭生，欲暫歸寧。問返期，答以「三日」。鼓皮排如前狀，遂不見。至期不來；積年餘音信全渺，亦已絕望。生鍵戶下幃，遂領鄉薦。終不肯娶；每獨宿北院，沐其餘芳。一夜輾轉在榻，忽見燈火射窗，門亦自闕，群婢擁公主入。生喜，起問爽約之罪。女曰：「妾未愆期，天上二日半耳。」生得意

自詡，告以秋捷，意主必喜。女愀然曰：「烏用是儻來者為！無足榮辱，止折人壽數耳。三日不見，入俗幃又深一層矣。」生由是不復進取。過數月又欲歸寧，生殊淒戀，女曰：「此去定早還，無煩穿望。且人生合離，皆有定數，擢節之則長，恣縱之則短也。」既去，月餘即返。從此一年半載輒一行，往往數月始還，生習為常，亦不之怪。

又生一子。女舉之曰：「豺狼也！」立命棄之。生不忍而止，名曰可棄。甫周歲，急為卜婚。諸媒接踵，問其甲子，皆謂不合。曰：「吾欲為狼子治一深圈，竟不可得，當今傾敗六七年，亦數也。」囑生曰：「記取四年後，侯氏生女，左脅有小贅疣，乃此兒婦。當婚之，勿較其門第也。」即令書而志

之。後又歸寧，竟不復返。生每以所囑告親友。果有侯氏女，生有贅疣，侯賤而行惡，眾咸不齒，生竟媒定焉。

大器十七歲及第，娶雲氏，夫妻皆孝友。父鐘愛之。可棄漸長不喜讀，輒偷與無賴博賭，恆盜物償戲債。父怒撻之，而卒不改。相戒提防，不使有所得。遂夜出，小為穿窬。為主所覺，縛送邑宰。宰審其姓氏，以名刺送之歸。父兄共繫之，楚掠慘棘，幾於絕氣。兄代哀免，始釋之。父忿恚得疾，食銳減。乃為二子立析產書，樓閣沃田，盡歸大器。可棄怨怒，夜持刀入室將殺兄，誤中嫂。先是，主有遺褲絕輕軟，云拾作寢衣。可棄斫之，火星四射，大懼奔出。父知病益劇，數月尋卒。可棄聞父死，始歸。兄善視之，而可棄益肆。年餘

所分田產略盡，赴郡訟兄。官審知其人，斥逐之。兄弟之好遂絕。

又逾年可棄二十有二，侯女十五矣。兄憶母言，欲急為完婚。召至家，除佳宅與居；迎婦入門，以父遺良田，悉登籍交之，曰：「數頃薄田，為若蒙死守之，今悉相付。吾弟無行，寸草與之皆棄也。此後成敗，在於新婦。能令改行，無憂凍餒；不然，兄亦不能填無底壑也。」

侯雖小家女，然固慧麗，可棄雅畏愛之，所言無敢違。每出限以晷刻，過期則詬厲不與飲食，可棄以此少斂。年餘生一子，婦曰：「我以後無求於人矣。膏腴數頃，母子何患不溫飽？無夫焉，亦可也。」會可棄盜粟出賭，婦知之，彎弓於

門以拒之。大懼避去。窺婦入，逡巡亦入。婦操刀起，可棄反奔，婦逐斫之，斷幅傷臀，血沾襪履。忿極往訴兄，兄不禮焉，冤慚而去。過宿復至，跪嫂哀泣，乞求先容於婦，婦決絕不納。

可棄怒，將往殺婦，兄不語。可棄忿起，操戈直出。嫂愕然，欲止之；兄目禁之。俟其去，乃曰：「彼固作此態，實不敢歸也。」使人覘之，已入家門。兄始色動，將奔赴之，而可棄已全息入。

蓋可棄入家，婦方弄兒，望見之，擲兒床上，覓得廚刀；可棄懼，曳戈反走，婦逐出門外始返。兄已得其情，故詰之。可棄不言，惟向隅泣，目盡腫。兄憐之，親率之去，婦乃內

之。俟兄出，罰使長跪，要以重誓，而後以瓦盆賜之食。自此改行為善。婦持籌握算，日致豐盈，可棄仰成而已。後年七旬，子孫滿前，婦猶時捋白須，使膝行焉。

異史氏曰：「悍妻妒婦，遭之者如疽附於骨，死而後已，豈不毒哉！然砒、附，天下之至毒也，苟得其用，瞑眩大瘳，非參、苓所能及矣。而非仙人洞見臟腑，又烏敢以毒藥貽子孫哉！」

章丘李孝廉善遷，少倜儻不泥，絲竹詞曲之屬皆精之。兩兄皆登甲榜，而孝廉益佻脫。娶夫人謝，稍稍禁制之。遂亡去，三年不返，遍覓不得。後得之臨清勾欄中。家人入，見其南向坐，少姬十數左右侍，蓋皆學音藝而拜門墻者也。臨行積

衣累笥，悉諸姬所貽。既歸，夫人閉置一室，投書滿案。以長繩系榻足，引其端自櫺內出，貫以巨鈴，系諸廚下。凡有所需則躡繩，繩動鈴響則應之。夫人躬設典肆，垂簾納物而估其直；左持籌，右握管；老僕供奔走而已。由此居積致富。每恥不及諸奴貴。錮閉三年而孝廉捷。喜曰：「三卯兩成，吾以改為鰈矣，今亦爾耶？」

又耿進士崧生，章丘人。夫人每以績火佐讀：績者不輟，讀者不敢息也。或朋舊相詣，輒竊聽之：論文則淪茗作黍；若恣諧謔，則惡聲逐客矣。每試得平等，不敢入室門；超等始笑迎之。設帳得金悉內獻，絲毫不敢匿。故東主饋遺，恆面較錙銖。人或非笑之，而不知其銷算良難也。後為婦翁

延教內弟。是年游泮，翁謝儀十金，耿受盒返金。夫人知之曰：「彼雖固親，然舌耕為何也？」追之返而受之。耿不敢爭，而心終歉焉，思暗償之。於是每歲館金，皆短其數以報夫人。積二年餘得若干數。忽夢一人告之曰：「明日登高，金數即滿。」次日試一臨眺，果拾遺金，恰符缺數，遂償獄。後成進士，夫人猶呵譴之。耿曰：「今一行作吏，何得復爾？」夫人曰：「諺云：『水長則船亦高。』即為宰相，寧便大耶？」

九、四十四、鳥語

中州境有道士，募食鄉村。食已聞鷓鳴，因告主人使慎火。問故，答曰：「鳥云：『大火難救，可怕！』」眾笑之，竟不

備。明日果火，延燒數家，始驚其神。好事者追及之，稱為仙。道士曰：「我不過知鳥語耳，何仙乎！」適有皂花雀鳴樹上，眾問何語。曰：「雀言：『初六養之，初六養之；十四、十六殤之。』想其家雙生矣。今日為初十，不出五六日，當俱死也。」詢之果生二子，無何並死，其日悉符。

邑令聞其奇，招之，延為客。時群鴨過，因問之。對曰：「明公內室必相爭也。鴨曰：『罷罷！偏向他！』」令大服，蓋妻妾反唇，令適被喧聒而出也。因留居署中，優禮之。時辨鳥言，多奇中。而道士樸野多肆言，輒無顧忌。令最貪，一切供用諸物，皆折為錢以入之。一日方坐，群鴨復來，令又詰之。答曰：「今日所言，不與前同，乃為明公會計耳。」問：「何

計？」曰：「彼云：『蠟燭一百八，銀朱一千八。』」令慚，疑其相譏。道士求去，不許。逾數日宴客，忽聞杜宇。客問之，答云：「鳥曰：『丟官而去。』」眾愕然失色。令大怒，立逐而出。未幾令果以墨敗。嗚呼！此仙人儆戒之，惜乎危厲熏心者，不之悟也！

齊俗呼蟬曰「稍遷」，其綠色者曰「都了」。邑有父子，俱青、社生，將赴歲試，忽有蟬落襟上。父喜曰：「稍遷，吉兆也。」一僮視之，曰：「何物稍遷，都了而已。」父子不悅。已而果皆被黜。

九、四十五、天宮

郭生京都人，年二十餘，儀容修美。一日薄暮，有老嫗貽尊酒，怪其無因，嫗笑曰：「無須問。但飲之自有佳境。」遂徑去。揭尊微嗅，冽香四射，遂飲之。忽大醉，冥然罔覺。及醒，則與一人並枕臥。撫之膚膩如脂，麝蘭噴溢，蓋女子也。問之不答，遂與交。交已，以手捫壁，壁皆石，陰陰有土氣，酷類墳塚。大驚，疑為鬼迷，因問女子：「卿何神也？」女曰：「我非神，乃仙耳。此是洞府。與有夙緣，勿相訝，但耐居之。再入一重門，有漏光處，可以洩便。」既而女起，閉戶而去。久之腹餒，遂有女僮來，餉以面餅、鴨臠，使捫索而啖之。黑漆不知昏曉。無何女子來寢，始知夜矣。郭曰：「晝

無天日，夜無燈火，食炙不知口處；常常如此，則姮娥何殊於羅刹，天堂何別於地獄哉！女笑曰：「為爾俗中人，多言喜洩，故不欲以形色相見。且暗中摸索，妍媸亦當有別，何必燈燭！」

居數日，幽悶異常，屢請暫歸。女曰：「來夕當與君一游天宮，便即為別。」次日忽有小鬟籠燈入，曰：「娘子伺郎久矣。」從之出。星斗光中，但見樓閣無數。經幾曲畫廊，始至一處，堂上垂珠簾，燒巨燭如晝。入，則美人華妝南向坐，年約二十許，錦袍炫目，頭上明珠，翹顛四垂；地下皆設短燭，裙底皆照，誠天人也。郭迷亂失次，不覺屈膝。女令婢扶曳入坐。俄頃八珍羅列。女行酒曰：「飲此以送君行。」郭

鞠躬曰：「向覲面不識仙人，實所惶悔；如容自贖，願收為沒齒不二之臣。」女顧婢微笑，便命移席臥室。室中流蘇繡帳，衾褥香軟。使郭就榻坐。飲次，女屢言：「君離家久，暫歸亦無妨。」更盡一籌，郭不言別。女喚婢籠燭送之。郭仍不言，偽醉眠榻上，抗之不動。女使諸婢扶裸之。一婢排私處曰：「個男子容貌溫雅，此物何不文也！」舉置床上，大笑而去。

女亦寢，郭乃轉側。女問：「醉乎？」曰：「小生何醉！甫見仙人，神志顛倒耳。」女曰：「此是天宮。未明宜早去。如嫌洞中快悶，不如早別。」郭曰：「今有人夜得名花，聞香捫干，而苦無燈火，此情何以能堪？」女笑，允給燈火。漏下

四點，呼婢籠燭抱衣而送之。入洞，見丹堊精工，寢處褥革棕氈尺許厚。郭解履擁衾，婢徘徊不去。郭凝視之，風致娟好，戲曰：「謂我不文者卿耶？」婢笑，以足蹴枕曰：「子宜彊矣！勿復多言，」視履端嵌珠如巨菽。捉而曳之，婢僕於懷，遂相狎，而呻楚不勝。郭問：「年幾何矣？」答云：「十七。」問：「處子亦知情否？」曰：「妾非處子，然荒疏已三年矣。」郭研詰仙人姓氏，及其清貫、尊行。婢曰：「勿問！即非天上，亦異人間。若必知其確耗，恐覓死無地矣。」郭遂不敢復問。次夕女果以燭來，相就寢食，以此為常。一夜女入曰：

「期以永好；不意人情乖阻，今將糞除天宮，不能復相容矣。請以卮酒為別。」郭泣下，請得脂澤為愛。女不許，贈以黃金一斤、珠百顆。三盞既盡，忽已昏醉。

既醒，覺四體如縛，糾纏甚密，股不得伸，首不得出。極力轉側，暈墮床下。出手摸之，則錦被囊裏，細繩束焉。起坐凝思，略見床櫺，始知為己齋中。時離家已三月，家人謂其已死。郭初不敢明言，懼被仙譴，然心疑怪之。竊間以告知交，莫有測其故者。被置床頭，香盈一室；拆視，則湖綿雜香屑為之，因珍藏焉。後某達官聞而詰之，笑曰：「此賈後之故智也。仙人烏得如此？雖然，此亦宜甚秘，洩之，族矣！」

有巫常出入貴家，言其樓閣形狀，絕似嚴東樓家。郭聞之大懼，攜家亡去。未幾嚴伏誅，始歸。

異史氏曰：「高閣迷離，香盈繡帳；雛奴蹀躞，履綴明珠；非權奸之淫縱，豪勢之驕奢，烏有此哉？顧淫籌一擲，金屋變而長門；唾壺未幹，情田鞠為茂草。空床傷意，暗燭銷魂。含顰玉臺之前，凝眸寶幄之內。遂使糟丘臺上，路入天宮；溫柔鄉中，人疑仙子。儻楚之帷薄固不足羞，而廣田白荒者，亦足戒已！」

九、四十六、喬女

平原喬生有女黑醜，壑一鼻，跛一足。年二十五六，無問名者。邑有穆生四十餘，妻死，貧不能續，因聘焉。三年生一子。未幾穆生卒，家益索，大困，則乞憐其母。母頗不耐之。女亦憤不復返，惟以紡織自給。

有孟生喪偶，遺一子烏頭，裁周歲，以乳哺乏人，急於求配；然媒數言，輒不當意。忽見女，大悅之，陰使人風示女。女辭焉，曰：「饑凍若此，從官人得溫飽，夫寧不願？然殘醜不如人，所可自信者，德耳。又事二夫，官人何取焉！」孟益賢之，使媒者函金加幣而悅其母，母悅，自詣女所固要之，

女志終不奪。母慚，願以少女字孟，家人皆喜，而孟殊不願。居無何，孟暴疾卒，女往臨哭盡哀。孟故無戚黨，死後，村中無賴悉憑陵之，家具攜取一空。方謀瓜分其田產，家人又各草竊以去，惟一嫗抱兒哭帷中。女問得故，大不平。聞林生與孟善，乃踵門而告曰：「夫婦、朋友，人之大倫也。妾以奇醜為世不齒，獨孟生能知我。前雖固拒之，然固已心許之矣。今身死子幼，自當有以報知己。然存孤易，禦侮難，若無兄弟父母，遂坐視其子死家滅而不一救，則五倫可以無朋友矣。妾無所多須於君，但以片紙告邑宰；撫孤，則妾不敢辭。」林曰：「諾。」女別而歸。林將如其所教，無賴輩怒，

咸欲以白刃相仇。林大懼，閉戶不敢復行。女見數日寂無音，問之，則孟氏田產已盡矣。

女忿甚，挺身自詣官。官詰女屬孟何人，女曰：「公宰一邑，所憑者理耳。如其言妄，即至戚無所逃罪；如非妄，則道路之人可聽也。」官怒其言戇，呵逐而出。女冤憤無伸，哭訴於搢紳之門。某先生聞而義之，代剖於宰。宰按之果真，窮治諸無賴，盡返所取。

或議留女居孟第，撫其孤；女不肯。扃其戶，使媪抱烏頭從與俱歸，另舍之。凡烏頭日用所需，輒同媪啟戶出粟，為之營辦；己錙銖無所沾染，抱子食貧，一如曩昔。積數年烏頭漸長，為延師教讀；己子則使學操作。媪勸使並讀，女

曰：「烏頭之費，其所自有；我耗人之財以教己子，此心何以自明？」又數年，為烏頭積粟數百石，乃聘於名族，治其第宅，析令歸。烏頭泣要同居，女從之；然紡績如故。烏頭夫婦奪其具，女曰：「我母子坐食，心甚不安。」遂早暮為之紀理，使其子巡行阡陌，若為傭然。烏頭夫妻有小過，輒斥譴不少貸；稍不悛，則怫然欲去。夫妻跪道悔詞始止。未幾烏頭入泮，又辭欲歸。烏頭不可，捐聘幣，為穆子完婚。女乃析子令歸。烏頭留之不得，陰使人於近村為市恆產百畝而後遺之。後女疾求歸。烏頭不聽。病益篤，囑曰：「必以我歸葬！」烏頭諾。既卒，陰以金啖穆子，俾合葬於孟。及期，棺重，三十人不能舉。穆子忽僕，七孔血出，自言曰：「不

肖兒，何得遂賣汝母！烏頭懼，拜祝之，始愈。乃復停數日，修治穆墓已，始合厝之。

異史氏曰：「知己之感，許之以身，此烈男子之所為也。彼女子何知，而奇偉如是？若遇九方皋，直牡視之矣。」

九、四十七、蛤此名寄生

東海有蛤，饑時浮岸邊，兩殼開張，中有小蟹出，赤線系之，離殼數尺，獵食既飽乃歸，殼始合。或潛斷其線，兩物皆死。

九、四十八、劉夫人

廉生者，彰德人。少篤學；然早孤，家甚貧。一日他出，暮歸失途。入一村，有媪來謂曰：「廉公子何之？夜得毋深乎？」生方皇懼，更不暇問其誰何，便求假榻。媪引去，入一大第。有雙鬟籠燈，導一婦人出，年四十餘，舉止大家。媪迎曰：「廉公子至。」生趨拜。婦喜曰：「公子秀發，何但作富家翁乎！」即設筵，婦側坐，勸酌甚殷，而自己舉杯未嘗飲，舉箸亦未嘗食。生惶惑，屢審閱。笑曰：「再盡三爵告君知。」生如命飲。婦曰：「亡夫劉氏，客江右，遭變遽殞。未亡人獨居荒僻，日就零落。雖有兩孫，非鴟鴞即駑駘耳。公子雖異姓，亦三生骨肉也；且至性純篤，故遂覩然相見。無

他煩，薄藏數金，欲倩公子持泛江湖，分其贏餘，亦勝案頭螢枯死也。」生辭曰：「少年書癡，恐負重托。」婦曰：「讀書之計，先於謀生。公子聰明，何之不可？」遣婢運資出，交兌八百餘兩。生惶恐固辭，婦曰：「妾亦知公子未慣懋遷，但試為之，當無不利。」生慮重金非一人可任，謀合商侶。婦曰：「勿須。但覓一樸愨諳練之僕，為公子服役足矣。」遂輪纖指以卜之曰：「伍姓者吉。」命僕馬囊金送生出，曰：「臘盡滌盞，候洗寶裝矣。」又顧僕曰：「此馬調良，可以乘御，即贈公子，勿須將回。」生歸，夜才四鼓，僕系馬自去。

明日多方覓役，果得伍姓，因厚價招之。伍老於行旅，又為人戇拙不苟，資財悉倚付之。往涉荆襄，歲杪始得歸，計利

三倍。生以得伍力多，於常格外，另有饋賞，謀同飛灑，不令主知。甫抵家，婦已遣人將迎，遂與俱去。見堂上華筵已設；婦出，備極慰勞。生納資訖，即呈簿；婦置不顧。少頃即席，歌舞鞞鞞，伍亦賜筵外舍，盡醉方歸。因生無家室，留守新歲。次日又求稽盤，婦曰：「後無須爾，妾會計久矣。」乃出冊示生，登志甚悉，並給僕者亦載其上。生曰：「夫人真神人也！」過數日，館穀豐盛，待若子侄。一日堂上設席，一東面，一南面；堂下設一筵西向。謂生曰：「明日財星臨照，宜可遠行。今為主價粗設祖帳，以壯行色。」少間伍亦呼至，賜坐堂下。一時鼓鉦鳴聒。女優進呈曲目，生命唱《陶朱富》。婦曰：「此先兆也，當得西施作內助矣。」宴罷，仍以

全金付生，曰：「此行不可以歲月計，非獲巨萬勿歸也。妾與公子，所憑者在福命，所信者在腹心。勿勞計算，遠方之盈絀，妾自知之。」生唯唯而退。

往客淮上，進身為齎賈，逾年利又數倍。然生嗜讀，操籌不忘書卷，所與游皆文士；所獲既盈，隱思止之，漸謝任於伍。桃源薛生與最善，適過訪之，薛一門俱適別業，昏暮無所復之，闍人延生入，掃榻作炊。細詰主人起居，蓋是時方訛傳朝廷欲選良家女，犒邊庭，民間騷動。聞有少年無婦者，不通媒約，竟以女送諸其家，至有一夕而得兩婦者。薛亦新婚於大姓，猶恐輿馬喧動，為大令所聞，故暫遷於鄉。生既留，初更向盡，方將拂榻就寢，忽聞數人排闥入。闍人不知

何語，但聞一人云：「官人既不在家，秉燭者何人？」闈人答：「是廉公子，遠客也。」俄而問者已入，袍帽光潔，略一舉手，即詰邦族。生告之。喜曰：「吾同鄉也。岳家誰氏？」答云：「無之。」益喜，趨出，即招一少年同入，敬與為禮。卒然曰：「實告公子：某慕姓。今夕此來，將送舍妹於薛官人，至此方知無益。進退維谷之際，適逢公子，寧非數乎！生以未悉其人，故躊躇不敢應。慕竟不聽其致詞，急呼送女者。少間二媪扶女郎入，坐生榻上。睨之年十五六，佳妙無雙。生喜，始整巾向慕展謝；又囑闈人行沽，略盡款洽。

慕言：『先世彰德人；母族亦世家，今陵夷矣。聞外祖遺有兩孫，不知家況何似。』生問：「伊誰？」曰：「外祖劉，字

暉若，聞在郡北三十里。」生曰：「僕郡城東南人，去北裏頗遠；年又最少，無多交知。郡中此姓最繁，止知郡北有劉荊卿，亦文學士，未審是否？然貧矣！」慕曰：「某祖墓尚在彰郡，每欲扶兩櫬歸葬故里，以資斧未辦，姑猶遲遲。今妹子從去，歸計益決矣。」生聞之，銳然自任。二慕俱喜。酒數行辭去。生卻僕移燈，琴瑟之愛，不可勝言。次日薛已知之，趨入城，除別院館生。生詣淮，交盤已，留伍居肆，裝資返桃源，同二慕啟岳父母骸骨，兩家細小，載與俱歸。入門安置已，囊金詣主。前僕已候於途。

從去，婦逆見，色喜曰：「陶朱公載得西子來矣！前日為客，今日吾甥婿也。」置酒迎塵，倍益親愛。生服其先知，因

問：「夫人與岳母遠近？」婦云：「勿問，久自知之。」乃堆金案上，瓜分為五；自取其二，曰：「吾無用處，聊貽長孫。」生以過多，辭不受。淒然曰：「吾家零落，宅中喬木被人伐作薪；孫子去此頗遠，門戶蕭條，煩公子一營辦之。」生諾，而金止收其半，婦強納之。送生出，揮涕而返。生疑怪間，回視第宅，則為墟墓。始悟婦即妻之外祖母也。

既歸，贖墓田一頃，封植偉麗。劉有二孫，長即荊卿；次玉卿，飲博無賴，皆貧。兄弟詣生申謝，生悉厚贈之。由此往來最稔。生頗道其經商之由，玉卿竊意塚中多金，夜合博徒數輩，發墓搜之，剖棺露齒，竟無少獲，失望而散。生知墓被發，以告荊卿。詣同驗之，入壙，見案上累累，前所分金

具在。荊卿欲與生共取之。生日：「夫人原留此以待兄也。」荊卿乃囊運而歸，告諸邑宰，訪緝甚嚴。

後一人賣墳中玉簪，獲之，窮訊其黨，始知玉卿為首。宰將治以極刑，荊卿代哀，僅得賒死。墓內外兩家並力營繕，較前益堅美。由此廉、劉皆富，惟玉卿如故。生及荊卿常河潤之，而終不足供其賭博。一夜盜入生家，執索金資。生所藏金皆以千五百為個，發示之。盜取其二，止有鬼馬在廐，用以運之而去。使生送諸野，乃釋之。村眾望盜火未遠，噪逐之。賊驚遁。共至其處，則金委路側，馬已成灰燼。始知馬亦鬼也。是夜止失金釧一枚而已。先是盜執生妻，悅其美，將欲淫。一盜帶面具，力呵止之，聲似玉卿。盜釋生妻，但

脫腕釧而去。生以是疑玉卿，然心竊德之。後盜以釧質賭，為捕役所獲，詰其黨，果有玉卿。宰怒，備極五毒。兄與生謀，欲為賄脫，謀未成而玉卿已死。生獄時恤其妻子。生後登賢書，數世皆素封焉。嗚呼！「貪」字之點畫形象甚近乎「貧」。如玉卿者，可以鑒矣！

九、四十九、陵縣狐

陵縣李太史家，每見瓶鼎古玩之物，移列案邊，勢危將墮。疑廝僕所為，輒怒譴之。僕輩稱冤，而亦不知其由，乃嚴扃齋扉，天明復然。心知其異，暗覘之。一夜光明滿室，訝為盜。兩僕近窺，則一狐臥櫬上，光自兩眸出，晶瑩四射。恐

其遁，急入捉之。狐嚙腕肉欲脫，僕持益堅，因共縛之。舉視則四足皆無骨，隨手搖搖若帶垂焉。太史念其通靈，不忍殺；覆以柳器，狐不能出，戴器而走。乃數其罪而放之，怪遂絕。

## 十、卷十

十、一、王貨郎

濟南業酒人某翁，遣子小二如齊河索貫價。出西門，見兄阿大。時大死已久，二驚問：「哥那得來？」答云：「冥府一疑案，須弟一證之。」二作色怨訕。大指後一人如皂狀者，

曰：「官役在此，我豈自由耶！」但引手招之，不覺從去，盡夜狂奔，至泰山下。忽見官衙，方將並入，見群眾紛出。皂問：「所事何如矣？」一人曰：「勿須復入，結矣。」皂乃釋令歸。大憂弟無資斧。皂思良久，即引二去，走二三十里，入村至一家簷下，囑云：「如有人出，便使相送；如其不肯，便道王貨郎言之矣。」遂去。二冥然而殭。既曉第主出，見人死門外大駭。守移時微蘇，扶入餌之，始言里居，即求資送，主人難之，二如皂言。主人驚絕，急雇騎送之歸。償之不受，問其故亦不言，別而去。

十、二、疲龍

膠州王侍御出使琉球。舟行海中，忽自雲際墮一巨龍，激水高數丈。龍半浮半沉，仰其首，以舟承頷；睛半含，嗒然若喪。闔舟大恐，停橈不敢少動。舟人曰：「此天上行雨之疲龍也。」王懸敕於上。焚香共祝之，移時悠然遂逝。舟方行，又一龍墮如前狀。日凡三四。又逾日，舟人命多備白米，戒曰：「去清水潭不遠矣。如有所見，但糝米於水，寂無嘩。」俄至一處，水清澈底。下有群龍，五色，如盆如甕，條條盡伏。有蜿蜒者，鱗鬣爪牙，歷歷可數。眾神魂俱喪，閉息含眸，不惟不敢窺，並不能動。惟舟人握米自撒。久則見海波

深黑，始有呻者。因問擲米之故，答曰：「龍畏蛆，恐入其甲。白米類蛆，故龍見輒伏，舟行其上，可無害也。」

十、三、真生

長安士人賈子龍，偶過鄰巷，見一客風度灑如，問之則真生，咸陽僦寓者也。心慕之。明日往投刺，適值其出；凡三謁皆不遇。乃陰使人窺其在舍而後過之，真走避不出；賈搜之始出。促膝傾談，大相知悅。賈就逆旅，遣僮行沽。真又善飲，能雅謔，樂甚。酒欲盡，真搜篋出飲器，玉卮無當，注杯酒其中，盎然已滿；以小盞挹取入壺，並無少減。賈異之，堅求其術。真曰：「我不願相見者，君無他短，但貪心未

淨耳。此乃仙家隱術，何能相授。」賈曰：「冤哉！我何貪？間萌奢想者徒以貧耳！」一笑而散。由此往來無間，形骸盡忘。每值乏窘，真輒出黑石一塊，吹咒其上，以磨瓦礫，立刻化為白金，便以贈生；僅足所用，未嘗贏餘。賈每求益，真曰：「我言君貪，如何，如何！」賈思明告必不可得，將乘其醉睡，竊石而要之。一日飲既臥，賈潛起，搜諸衣底。真覺之，曰：「子真喪心，不可處也！」遂辭別，移居而去。

後年餘，賈游河干，見一石瑩潔，絕類真生物。拾之，珍藏若寶。過數日真忽至，眇然若有所失。賈慰問之，真曰：「君前所見，乃仙人點金石也。曩從抱真子游，彼憐我介，以此相貽。醉後失去，隱卜當在君所。如有還帶之恩，不敢忘報。」

賈笑曰：「僕生平不敢欺友朋，誠如所卜。但知管仲之貧者，莫如鮑叔，君且奈何？」真請以百金為贈。賈曰：「百金非少，但授我口訣，一親試之無憾矣。」真恐其寡信。賈曰：「君自仙人，豈不知賈某寧失信於朋友者乎！」直授其訣。賈顧砌石上有巨石，將試之。真掣其肘，不聽前。賈乃俯掬半磚置砧上曰：「若此者非多耶？」真乃聽之。賈不磨磚而磨砧；真變色欲與爭，而砧已化為渾金。反石於真。真嘆曰：「業如此，復何言。然妄以福祿加人，必遭天譴。如追我罪，施材百具、絮衣百領，肯之乎？」賈曰：「僕所欲得錢者，原非欲窖藏之也。君尚視我為守錢虜耶？」真喜而去。

賈得金，且施且賈，不三年施數已滿。真忽至，握手曰：「君信義人也！別後被福神奏帝，削去仙籍；蒙君博施，今幸以功德消罪。願勉之，勿替也。」賈問真：「系天上何曹？」曰：「我乃有道之狐耳。出身綦微，不堪孽累，故生平自愛，一毫不敢妄作。」賈為設酒，遂與歡飲如初。賈至九十餘，狐猶時至其家。

長山某賣解砒藥，即垂危灌之無不活。然秘其方，不傳人。一日以株連被逮。妻弟餉獄食，隱置砒霜。坐待食已乃告之，不信。少頃腹中潰動，始大驚，罵曰：「畜生！速向城中物色薛荔瓜為末，清水一盞，將來！」妻弟如言。覓至，某已

嘔瀉欲死，急服之，立刻而愈。其方始傳。此亦猶狐之秘其石也。

#### 十、四、布商

布商某至青州境，偶入廢寺，見其院宇零落，嘆悼不已。僧在側曰：「今如有善信，暫起山門，亦佛面之光。」客慨然自任。僧喜，邀入方丈，款待殷勤。僧又舉內外殿閣，並請裝修；客辭不能。僧固強之，詞色悍怒。客懼，請傾囊倒裝，悉以授僧。欲出，僧止之曰：「君竭資實非所願，得毋甘心於我乎？不如先之。」遂握刀相向。客哀求切，不聽。請自經，許之。逼置暗室，且迫促之。適有防海將軍經寺外，遙

自缺墻外望見一紅裳女子入僧舍，疑之。下馬入寺，遍搜不得。至暗室所，嚴扃雙扉，僧不肯開，托有妖異。將軍怒，斬關入，則見客縊梁上。救之，復蘇，詰得其情。又械問僧女子所在，實為烏有，蓋神佛現化也。殺僧，財物仍以歸客。客重募修廟宇，從此香火大盛。趙孝廉豐原言之最悉。

十、五、彭二掙

禹城韓公甫言：與邑人彭二掙並行於途，忽回首不見之，惟空蹇隨行，但聞號救甚急，細聽則在被囊中。近視囊內累然，雖偏重不得墮。欲出之，而囊口縫紉甚密；以刀斷線，始見

彭犬臥其中，出而問之，亦不自知其何以入。蓋其家有狐為崇，乃狐之所為也。

十、六、何仙

長山王公子瑞亭，能以乩卜。乩神自稱何仙，乃純陽弟子，或云是呂祖所跨鶴雲。每降，輒與人論作文作詩。李太史質君師事之，丹黃課藝，理緒明切；太史揣摩成，何仙力居多焉，故文學士多皈依之。每為人決疑難事，多憑理，不甚言休咎。

辛未，朱文宗案臨濟南，試後，諸友請決第等。何仙索試藝，悉月旦之。有樂陵李忭，乃好學深思之士，其相好友在座，

出其文代為之請。乩批云：「一等。」少間，又批云：「適評  
李生，據文為斷。然此生運氣大晦，應犯夏楚。異哉！文與  
數適不相符，豈文宗不論文耶？諸公少待，試往探之。」少  
頃，又書云：「適至提學署中，見文宗公事旁午，所焦慮者  
殊不在文也。一切付幕客，客六七人，粟生、例監都在其中，  
前生全無根氣，大半餓鬼道中游魂，乞食於四方者也。曾在  
黑暗獄中八百年，損其目之精氣，如人久在洞中，乍出則天  
地異色，無正明也。中有一二為人身所化者，閱卷分曹，恐  
不能適相值耳。」眾問挽回之術，書云：「其術至實，人所  
共曉，何必問？」眾會其意以告李。李懼，以文質孫太史子  
未，且訴以兆。太史贊其文，為解其惑。李心益壯，乩語不

復置懷。案發，竟居四等。太史大駭，取其文復閱之，殊無疵摘。評云：「石門公祖素有文名，必不悠謬至此。此必幕中醉漢，不識句讀者所為。」於是眾益服何仙之神，共焚香祝謝之。乩又批云：「李生勿以暫時之屈，遂懷慚怍。當多寫試卷，益暴之，明歲可得優等。」李如言布之。久而署中亦聞，懸牌特慰之。科試果列前名，其靈應如此。

異史氏曰：「幕中多此輩客，無怪京中醜婦巷中，至夕無閑床也。」

十、七、牛同人

(前缺)牛過父室，則翁臥床上未醒，以此知為狐。怒曰：「狐可忍也，胡敗我倫！關聖號為「伏魔」，今何在，而任此類橫行！」因作表上玉帝，內微訴關帝之不職。久之，忽聞空中喊嘶聲，則關帝也。怒叱曰：「書生何得無禮！我豈專掌為汝家驅狐耶？若稟訴不行，咎怨何辭矣。」即令杖牛二十，股肉幾脫。少間，有黑面將軍獲一狐至，牽之而去，其怪遂絕。後三年，濟南游擊女為狐所惑，百術不能遣。狐語女曰：「我生平所畏惟牛同人而已。」游擊亦不知牛何里，無可物色。適提學按臨，牛赴試，在省偶被營兵迂辱，忿訴游擊之門，游擊一聞其名，不勝驚喜，傴僂甚恭。立捉兵至，捆

責盡法。已，乃實告以情，牛不得已，為之呈告關帝。俄頃，見金甲神降於其家。狐方在室，顏猝變，現形如犬，繞屋嗥竄。旋出自投階下。神言：「前帝不忍誅，今再犯不赦矣！」繫系馬頸而去。

## 十、八、神女

米生，閩人，偶入郡，飲醉過市，聞高門中有簫聲。詢知為開壽筵者，然門庭殊清寂。醉中雅愛笙歌，因就街頭寫晚生刺，封祝壽儀投焉。人問：「君系此翁何親？」米云：「並非。」人又云：「此流寓於此，不審何官，甚屬驕倨。既非親屬，又將何求？」生悔之，而刺已投矣。

未幾兩少年出迎，華裳炫目，豐採都雅，揖生入。見一叟南向坐，東西列數筵，客六七人，皆似貴胄；見生至，俱起為禮，叟亦杖而起。生久立，待與周旋，叟殊不離席。兩少年致詞曰：「家君衰邁，起拜良難，予兄弟代謝高賢之枉駕也。」生遜謝。遂增一筵於上，與叟接席。未幾女樂作於下。座後設琉璃屏，以幃內眷。鼓吹大作，座客無嘩。筵將終，兩少年起，各以巨杯勸客，杯可容三斗；生有難色，然見客受，亦受。頃刻四顧，主客盡醺，生不得已亦強盡之。少年復斟；生覺憊甚，起而告退。少年強挽其裾。生大醉逖地，但覺有人以冷水灑面，恍然若寤。起視，賓客盡散，惟一少年捉臂送之，遂別而歸。後再過其門，則已遷去矣。

自郡歸，偶適市，一人自肆中出招之飲。並不識；姑從之入，則座上先有里人鮑莊在焉。問其人，乃諸姓，市中磨鏡者也。問：「何相識？」曰：「前日上壽者，君識之否？」生曰：「不識。」諸曰：「予出入其門最稔。翁，傅姓，不知其何籍、何官。先生上壽時，我方在墀下，故識之也。」日暮飲散。鮑莊夜死於途。鮑父不識諸，執名訟生。檢得鮑莊體有重傷，生以謀殺論死，備歷械梏；以諸未獲，罪無申證，頌系之。年餘直指巡方，廉知其冤，釋之。

家中田產蕩盡，衣巾革褫，冀其可以辨復，於是攜囊入郡。日將暮，休憩路側。遙見小車來，一青衣夾隨之。既過忽命停輿，車中命一青衣問生：「君非米姓乎？」生曰：「諾。」

問：「何貧窶若此？」生告以故。問：「安往？」又告之。青衣向車中語；復返，請生至車前。車中以纖手拏簾，微睨之，乃絕代佳人也。謂生曰：「君不幸得無妄之禍，甚為太息。今日學使署非白手可以出入者，途中無可為贈，……」乃於髻上摘珠花一朵授生，曰：「此物可鬻百金，請緘藏之。」生下拜，欲問官闕，車發已遠，不解何人。執花懸想，上綴明珠，非凡物也。珍藏而行。至郡投狀，上下勒索甚苦；生又不忍貨花，遂歸依於兄嫂，幸兄賢，為之經紀，貧不廢讀。

過歲赴郡應試，誤入深山。時值清明，游人甚眾。有數女騎來，內一女郎，即向年車中人也。見生停驂，問：「何往？」生具對。女驚曰：「君衣頂尚未復耶？」生慘然出珠花，曰：「不

忍棄此，故未復也。」女郎暈紅上頰，囑云：「且坐待路隅。」款段而去。久之，一婢馳馬來，以裹物授生，曰：「娘子說：如今學使之門如市，贈白金二百，為進取之資。」生辭曰：「娘子惠我多矣！自公掇芹不難，重賜所不敢受。但告以姓名，繪一小像，焚香供之，足矣。」婢不顧，委金於地，上馬而去。生得金，終不屑夤緣。旋入邑庠第一。乃以金授兄；兄善行運，三年舊業盡復。適有巡撫於閩者，乃生祖門人，優恤甚厚。然生素清鯁，雖屬通家，不肯少有幹謁。

一日有客裘馬至門，家人不識。生出視，則傅公子也。揖入，各道間闊。治具相款，肴酒既陳，公子起而請問；相將入內，公子拜伏於地。生驚問故，則愴然曰：「家君適罹大禍，欲

有求於撫臺，非兄不可。」生力辭曰：「渠雖世誼，而以私干人，生平從不為也。」公子伏地哀泣。生厲色曰：「小生與公子，一飲之知交耳，何遂以喪節強人！」公子大慚，起而別去。越日方獨坐，有青衣人入，視之即山中贈金者。生方驚起，青衣曰：「君忘珠花耶？」生曰：「不敢忘。」曰：「昨公子，即娘子胞兄也。」生聞之竊喜，偽曰：「此難相信。若得娘子親見一言，則油鼎可蹈耳；不然，不敢奉命。」青衣乃馳馬去。更半復返，扣扉入曰：「娘子來矣。」言未幾，女郎慘然入，向壁而哭，不出一語。生拜曰：「小生非娘子，無以有今日。但有驅策，敢不惟命！」女曰：「受人求者常驕人，求人者常畏人。中夜奔波，生平何解此苦，只以畏人故耳，

亦復何言！」生慰之曰：「小生所以不遽諾者，恐過此一見為難耳。使卿夙夜蒙露，吾知罪矣！」因挽其祛。隱抑搔之。女怒曰：「子誠敝人也！不念疇昔之義，而欲乘人之厄。予過矣！予過分！」忿然而出，登車欲去。生追出謝過，長跪而要遮之。青衣亦為緩頰，女意稍解，就車中謂生曰：「實告君：妾非人，乃神女也。家君為南岳都理司，偶失禮於地官，將達帝庭；非本地都人官印信不可解也。君如不忘舊義，以黃紙一幅為妾求之。」言已，車發遂去。

生歸，悚懼不已。乃假驅崇言於巡撫。巡撫以事近巫盅，不許。生以厚金賂其心腹，諾之，而未得其便。乃歸，青衣候門，生具告之，默然遂去，意似怨其不忠。生追送之曰：「歸

告娘子：如事不諧，我以身命殉之！」歸而終夜思維，計無所出。適院署有寵妾購珠，生乃以珠花獻之。姬大悅，竊印為生嵌之。懷歸，青衣適至。笑曰：「幸不辱命。然數年來貧賤乞食所不忍鬻者，今仍為主人棄之矣！」因告以情。且曰：「黃金拋置，我都不惜：寄語娘子：珠花須要償也。」逾數日，傅公子登堂申謝，納黃金百兩。生作色曰：「所以然者，為令妹之惠我無私耳；不然，即萬金豈足以易名節哉！再強之，生色益厲。公子慚退，曰：「此事殊未了！」翼日青衣奉女郎命，進明珠百顆，曰：「此足以償珠花否耶？」生曰：「重花者非貴珠也。設當日贈我萬鎰之寶，直須賣作富家翁耳；什襲而甘貧賤何為乎？娘子神人，小生何敢他望，

幸得報洪恩於萬一，死無憾矣！」青衣置珠案間，生朝拜而後卻之。

越數日公子又至。生命治酒。公子使從人入廚下，自行烹調，相對縱飲，歡若一家。有客饋苦糯，公子飲而美，引盡百盞，面頰微赭。乃謂生曰：「君貞介士，愚兄弟不能早知君，有愧裙釵多矣。家君感大德，無以相報，欲以妹子附為婚姻，恐以幽明見嫌也。」生喜出非常，不知所對。公子辭出，曰：「明夜七月初九，新月鉤辰，天孫有少女下嫁，吉期也，可備青廬。」次夕果送女郎至，一切無異常人。三日後，女自兄嫂以及僕婦，皆有饋賞。又最賢，事嫂如姑。數年不育，勸納妾，生不肯。

適兄賈於江淮，為買少姬而歸。姬，姓顧，小字博士，貌亦清婉，夫婦皆喜。見髻上插珠花，酷似當年故物；摘視，果然。異而詰之，答云：「昔有巡撫愛妾死，其婢盜出鬻於市，先人廉其值，買歸。妾愛之。先父止生妾，故與妾。後父死家落，妾寄養於顧媪家。顧，妾姨行，見珠屢欲售去，妾死不肯，故得存也。」夫婦嘆曰：「十年之物，復歸故主，豈非數哉。」女另出珠花一朵，曰：「此物久無偶矣！」因並賜之，親為簪於髻上。姬退，問女郎家世甚悉，家人皆諱言之。陰語生曰：「妾視娘子非人間人也，其眉目間有神氣。昨簪花時得近視，其美麗出於肌裏，非若凡人以黑白位置中見長耳。」生笑之。姬曰：「君勿言，妾將試之；如其神，但有所

須，無人處焚香以求，彼當自知。」女郎繡襪精工，博士愛之而未敢言，乃即閨中焚香祝之。女早起，忽檢篋中出襪，遣婢贈博士。生見而笑。女問故，以實告。女曰：「黠哉婢乎！」因其慧益憐愛之；然博士益恭，昧爽時必薰沐以朝。

後博士一舉兩男，兩人分字之。生年八十，女貌猶如處子。生病，女置材，倍加寬大。及死，女不哭；男女他適，女已入材中死矣。因合葬之。至今傳為「大材塚」云。

異史氏曰：「女則神矣，博士而能知之，是遵何術歟？乃知人之慧，固有靈於神者矣！」

十、九、湘裙

晏仲，陝西延安人。與兄伯同居，友愛敦篤。伯三十而卒，無嗣；嫂亦繼亡。仲痛悼之，每思生一子，則以一繼兄後。甫舉一男，而仲妻又死。仲恐繼室不恤其子，將購一妾。鄰村有貨婢者，仲往相之，略不稱意，被友人留酌醉歸。途中遇故窗友梁生，握手殷殷，邀至其家。竟忘其已死，隨之而去。入其門，並非舊第，疑而問之。曰：「新移於此。」入謀酒，又告竭，囑仲坐待，挈瓶往沽。仲出立門外以俟之。忽見一婦人控驢而過，有八九歲童子隨之，其面目神色，絕類其兄。心惻然動，急委綴之，便問：「意子何姓？」童曰：「姓晏。」仲驚，又問其父名。曰：「不知。」敘問間，已至其家，

婦人下驢入。仲執童子曰：「汝父在家否？」童入問。少頃一媪出窺，則其嫂也。訝叔何來。仲大悲，隨之而入。見廬落整頓，問：「兄何在？」嫂曰：「責負未歸。」問：「騎驢者何人？」曰：「此汝兄妾甘氏，生兩男矣。長阿大赴市未返；汝所見者阿小。」坐久酒漸醒，始悟所見皆鬼。然以兄弟情切，亦不甚懼。嫂治酒飯。仲急欲見兄，促阿小覓之。良久哭而歸，云：「李家負欠不還，反與父鬪。」仲聞之，與阿小奔去，見兩人方摔兄地上。仲怒，奮拳直入，當者盡踣。急救兄起，敵已俱奔。追捉一人，捶楚無算，始起。執兄手，頓足哀泣。兄亦泣。既歸，舉家慰問，乃具酒食，兄弟相慶。忽一少年入，年約十六七。伯呼阿大，令拜叔。仲挽之，哭向兄

曰：「大哥地下有兩子，而墳墓不掃；弟又無妻子，奈何？」伯亦淒惻。嫂曰：「遣阿小從叔去，亦得。」阿小聞言，依叔肘下，眷戀不去。仲撫之，問：「汝樂從否？」答云：「樂從。」仲念鬼雖非人，慰情亦勝無也，因為解顏。伯曰：「從去但勿嬌慣，宣啖以血肉，驅向日中曝之，午過乃已。六七歲兒，歷春及夏，骨肉更生，可以娶妻育子；但恐不壽耳。」

言間有少女在門外窺聽，意致溫婉。仲疑為兄女，因問兄。兄曰：「此名湘裙，吾妾妹也。孤而無歸，寄食十年矣。」問：「已字否？」伯曰：「尚未。近有媒議東村田家。」女在窗外小語曰：「我不嫁田家牧牛子。」仲頗心動，未便明言。既而伯起，設榻於齋，止弟宿。仲本不欲留，意戀湘裙，將

探兄意，遂別兄就寢。時方初春，天氣尚寒，齋中夙無煙火，森然冷坐。思得小飲，俄見阿小推扉入，以杯羹斗酒置案上。仲問：「誰為？」答曰：「湘姨。」酒將盡，又以灰覆盆火置床下。仲問：「爹娘睡乎？」曰：「睡已久矣。」汝寢何所？」曰：「與湘姨同榻耳。」阿小俟叔步眠，乃掩門去。仲念湘裙慧而解意，愈愛慕之；且能撫阿小，欲得之心更堅，輾轉床頭，終夜不寐。

早起，告兄曰：「弟子然無偶，願大哥留意。」伯曰：「吾家非一瓢一擔者，物色當自有人。地下即有佳麗，恐於弟無所利益。」仲曰：「古人亦有鬼妻，何害？」伯會意，曰：「湘裙亦佳。但以巨針刺人迎，血出不止者，便可為生人妻，何

得草草。」仲曰：「得湘裙撫阿小，亦得。」伯但搖首。仲求不已，嫂曰：「試捉湘裙強刺驗之，不可乃已。」遂握針出門外，遇湘裙急捉其腕，則血痕猶濕。蓋聞伯言時，已自試之矣。嫂釋手而笑，反告伯曰：「渠作有意喬才久矣，尚為之代慮耶？」妾聞之怒，趨近湘裙，以指刺眶而罵曰：「淫婢不羞！欲從阿叔奔走耶？我定不如其願！」湘裙愧憤，哭欲覓死，舉家騰沸。仲乃大慚，別兄嫂，率阿小而出。兄曰：「弟姑去；阿小勿使復來，恐損其生氣也。」仲曰：「諾。」

既歸，偽增其年，托言兄賣婢之遺腹子。眾以其貌酷肖，亦信為伯遺體。仲教之讀，輒遣抱書就日中誦之。初以為苦，久而漸安。六月中，幾案灼人，而兒戲且讀，殊無少怨。兒

甚慧，日盡半卷，夜與叔抵足，恆背誦之。叔甚慰。又以不忘湘裙，故不復作「燕樓」想矣。

一日雙煤來為阿小議姻，中饋無人，心甚躁急。忽甘嫂自外入曰：「阿叔勿怪，吾送湘裙至矣。緣婢子不識羞，我故挫辱之。叔如此表表而不相從，更欲從何人者？」見湘裙立其後，心甚歡悅。肅嫂坐，具述有客在堂，乃趨出。少間復入，則甘氏已去。湘裙卸妝入廚下，刀砧盈耳矣。俄而肴載羅列，烹飪得宜。客去，仲入，見凝妝坐室中，遂與交拜成禮。至晚，女仍欲與阿小共宿。仲曰：「我欲以陽氣溫之，不可離也。」因置女別室，惟晚間杯酒一往歡會而已。湘裙撫前子如己出，仲益賢之。

一夕夫妻款洽，仲戲問：「陰世有佳人否？」女思良久，答曰：「未見。惟鄰女葳靈仙，群以為美；顧貌亦猶人，要善修飾耳。與妾往還最久，心中竊鄙其激蕩也。如欲見之，頃刻可致。但此等人，未可招惹。」仲急欲一見。女把筆似欲作書，既而擲管曰：「不可，不可！」強之再四，乃曰：「勿為所惑。」仲諾之。遂裂紙作數畫若符，於門外焚之。少時簾動鉤鳴，吃吃作笑聲。女起曳入，高髻雲翹，殆類畫圖。扶坐床頭，酌酒相敘間闊。初見仲，猶以紅袖掩口，不甚縱談；數盞後，嬉狎無忌，漸伸一足壓仲衣。仲心迷亂，魄蕩魂飛。目前唯礙湘裙；湘裙又故防之，頃刻不離於側。葳靈仙忽起牽簾而出；湘裙從之，仲亦從之。葳靈仙握仲趨入他

室。湘裙甚恨，然而無可如何，憤憤歸室，聽其所為而已。既而仲入，湘裙責之曰：「不聽我言，後恐卻之不得耳。」仲疑其妒，不樂而散。次夕葳靈仙不召自來。湘裙甚厭見之，傲不為禮；仙竟與仲相將而去。如此數夕。女望其來則詬辱之，而亦不能卻也。月餘仲病不能起，始大悔，喚湘裙與共寢處，冀可避之；晝夜之防稍懈，則人鬼已在陽臺。湘裙操杖逐之，鬼忿與爭，湘裙荏弱，手足皆為所傷。仲瀆以沉困。湘裙泣曰：「吾何以見吾姊乎！」

又數日仲冥然遂死。初見二隸執牒入，不覺從去。至途患無資斧，邀隸便道過兄所。兄見之，驚駭失色，問：「弟近何作？」仲曰：「無他，但有鬼病耳。」實告之。兄曰：「是矣。」

乃出白金一裹，謂隸曰：「姑笑納之。吾弟罪不應死，請釋歸，我使豚子從去，或無不諧。」便喚阿大陪隸飲。返身入家，便告以故。乃令甘氏隔壁喚葳靈仙。俄至見仲欲遁，伯揪返罵曰：「淫婢！生為蕩婦，死為賤鬼，不齒群眾久矣；又崇吾弟耶！」立批之，雲鬢蓬飛，妖容頓滅。久之，一嫗來，伏地哀懇。伯又責嫗縱女宣淫，呵詈移時，始令與女俱去。

伯乃送仲出，飄忽間已抵家門，直至臥室，豁然若寤，始知適間之已死也。伯責湘裙曰：「我與若姊謂汝賢能，故使從吾弟，反欲促吾弟死耶！設非名分之嫌，便當撻楚！」湘裙慚懼啜泣，望伯伏謝。伯顧阿小喜曰：「兒居然生人矣！」湘裙欲出作黍，伯曰：「弟事未辦，我不遑暇。」阿小年十三，

漸知戀父；見父出，零涕從之。伯曰：「從叔最樂，我行復來耳。」轉身便逝，從此不復相聞問矣。

後阿小娶婦，生一子，亦三十而卒。仲撫其孤如侄生時。仲年八十，其子二十餘矣，乃析之。湘裙無出。一日謂仲曰：「我先驅狐狸於地下可乎？」盛妝上床而歿。仲亦不哀，半年亦歿。

異史氏曰：「天下之友愛如仲幾人哉！宜其不死而益之以年也。陽絕陰嗣，此皆不忍死兄之誠心所格；在人無此理，在天寧有此數乎？地下生子，願承前業者想亦不少；恐承絕產之賢兄賢弟，不肯收恤耳！」

十、十、三生

湖南某，能記前生三世。一世為令尹，闈場入簾。有名士興於唐被黜落，憤懣而卒，至陰司執卷訟之。此狀一投，其同病死者以千萬計，推興為首，聚散成群。某被攝去對質。閻王問曰：「爾既衡文，何得黜佳士而進凡庸？」某辨曰：「上有總裁，某不過奉行之耳。」閻羅即發一簽，往拘主司。勾至，閻羅即述某言。主司曰：「某不過總其大成；雖有佳章，而房官不薦，吾何由見之？」閻羅曰：「此不得相諉，其失一也，例合答。」方將施刑，興不滿志，戛然大號；兩墀諸鬼，萬聲鳴和。閻羅問故，興抗言曰：「答罪太輕，是必掘其雙睛，以為不識文字之報。」閻羅不肯，眾呼益厲。閻羅

曰：「彼非不欲得佳文，特其所見鄙耳。」眾又請剖其心。閻羅不得已，使人褫去袍服，以白刃剗胸，兩人瀝血鳴嘶。眾始大快，皆曰：「吾輩抑鬱泉下，未有能一伸此氣者；今得興先生，怨氣都消矣。」哄然而散。

某受剖已，押投陝西為庶人子。年二十餘，值土寇大作，陷入盜中。有兵巡道往平賊，俘擄其眾，某亦在中。心猶自揣非賊，冀可辯釋。及見堂上官亦年二十餘，細視則興也。驚曰：「吾合休矣！」既而俘者盡釋，惟某後至，不容置辨，立斬之。某至陰司投狀訟興。閻羅不即拘，待其祿盡。

遲之三十年興方至，面質之。興以草菅人命罰作畜。稽某所為，曾撻其父母，其罪維均。某恐後世再報，請為大畜。閻

羅判為大犬，興為小犬。某生於順天府市肆中。一日臥街頭，適有客自南攜金毛犬來，大如狸。某視之，興也。心易其小，齧之。小犬咬其喉下，系綴如鈴。大犬擺撲嗥竄，市人解之不得。兩犬俱斃。

並至陰司，互有爭論。閻羅曰：「冤冤相報，何時可已？今為若解之。」乃判興來世為某婿。某生慶雲，二十八舉於鄉。生一女，嫻靜娟好，世族爭委禽焉；皆不許。過臨郡，值學使發落諸生，其第一卷李生；即興也。遂挽至旅舍優待之。問其家適無偶，遂訂姻好。人皆謂憐才，而不知其有夙因也。及完娶，相得甚歡。然婿恃才輒侮翁，恆隔歲不一至其門。

翁亦耐之。後婿中歲淹蹇，苦不得售，翁為百計營謀，始得連捷。從此和好如父子焉。

異史氏曰：「一被黜而三世不解，怨毒之甚至此哉！閻羅之調停固善；然墀下千萬眾，如此紛紛，毋亦天下之愛婿，皆冥中之悲鳴號動者耶？」

十、十一、長亭

石太璞，泰山人，好厭禳之術。有道士遇之，喜其慧，納為弟子。啟牙簽，出二卷，上卷驅狐，下卷驅鬼，乃以下卷授之曰：「虔奉此書，衣食佳麗皆有之。」問其姓名，曰：「吾

汴城北村玄帝觀王赤城也。」留數日，盡傳其訣。石由此精於符籙，委贄者接踵於門。

一日有叟來自稱翁姓，炫陳幣帛，謂其女鬼病已殆，必求親詣。石聞病危，辭不受贄，姑與俱往。十餘里入山村，至其家，廊舍華好。入室，見少女臥縠幃中，婢以鉤掛帳。望之年十四五許，支綴於床，形容已槁。近臨之，忽開目云：「良醫至矣。」舉家皆喜，謂其不語已數日矣。石乃出，因詰病狀。叟曰：「白晝見少年來，與共寢處，捉之已杳；少間復至，意其為鬼。」石曰：「其鬼也驅之不難；恐其是狐，則非餘所敢知矣。」叟曰：「必非必非。」石授以符，是夕宿於其家。夜分有少年入，衣冠整肅。石疑是主人眷屬，起而問之。

曰：「我鬼也。翁家盡狐。偶悅其女紅亭，姑止焉。鬼為狐崇，陰鷲無傷，君何必離人之緣而護之也？女之姊長亭，光艷尤絕。敬留全壁，以待高賢。彼如許字，方可為之施治；爾時我當自去。」石諾之。是夜少年不復至，女頓醒。天明，叟喜告石，清石入視。石焚舊符，坐診之。見繡幕有女郎，麗如天人，心知其長亭也。診已，索水灑幃。女郎急以碗水付之，蹀躞之間，意動神流。石生此際，心殊不在鬼矣。出辭叟，托制藥去，數日不返。鬼益肆，除長亭外，子婦婢女俱被淫惑。又以僕馬招石，石托疾不赴。

明日，叟自至。石故作病股狀，扶杖而出。叟問故，曰：「此鰥之難也！曩夜婢子登榻，傾跌，墮湯夫人泡兩足耳。」叟

問：「何久不續？」石曰：「恨不得清門如翁者。」叟默而出。石送囑曰：「病瘥當自至，無煩玉趾也。」又數日叟復來，石跛而見之。叟慰問曰：「頃與荊人言，君如驅鬼去，使舉家安枕，小女長亭，年十七矣，願遣奉事君子。」石喜，頓首於地。乃曰：「雅意若此，病軀何敢復愛。」立刻出門，並騎而去。入視崇者既畢，石恐負約，請與媪盟。媪出口：「先生何見疑也？」隨拔長亭所插金簪，授石為信。石喜拜受，乃遍集家人，悉為祓除。惟長亭深匿不出，遂寫一佩符，使持贈之。是夜寂然，惟紅亭呻吟未已，投以法水，所患若失。石起辭，叟挽留殷懇。至晚，肴核羅列，勸酬殊切。漏二下，主人辭去。石方就枕，聞叩扉甚急；起視，則長亭掩入，倉皇

告曰：「吾家欲以白刃相仇，可急走！」言已經返身去。石戰懼失色，越垣急竄。遙見火光，疾奔而往，則里人夜獵者也。喜，待獵已，從與俱歸。心懷怨憤，無路可伸，欲往汴城尋師治之。奈家有老父，病廢在床，日夜籌思，進退莫決。

忽一日雙輿至門，則翁媪送長亭至，謂石曰：「曩夜之歸，胡再不謀？」石見長亭，怨恨都消，故隱不發。媪促兩人庭拜訖。石欲設筵，媪曰：「我非閑人，不能坐享甘旨。我家老子昏髦，倘有不悉，郎肯為長亭一念老身，為幸多矣。」登車遂去。蓋殺婿之謀，媪不與聞；及追之不得而返，媪始知之。心不能平，與叟日相詬誶。長亭亦涕泣不食。媪強送女來，非翁意也。長亭入門，詰之，始知其故。過兩三月，翁

家取女歸寧。石料其不返，禁止之。女自此時一涕零。年餘生一子，名慧兒，雇乳媪哺之。兒好啼，夜必歸母。一日翁家又以輿來，言媪思女甚。長亭益悲，石不忍復留之。欲抱子去，石不可，長亭乃自歸。別時以一月為期，既而半載無耗。遣人往探之，則向所僦宅久空。

又二年餘，望想都絕；而兒啼終夜，寸心如割。既而父又病卒，倍益哀傷；因而病憊，苦次彌留，不能受賓朋之吊。方昏憤間，忽聞婦人哭入。視之，則縗絰者長亭也。石大悲，一慟遂絕。婢驚呼，女始啜泣，撫之良久漸蘇。曰：「我疑已死，與汝相聚於冥中。」女曰：「非也。妾不孝，不得嚴父心，尼歸三載，誠所負心。適家人由東海過此，得翁兇信。妾遵

嚴命而絕兒女之情，不敢循亂命而失翁媳之禮。妾來時，母知而父不知也。」言間，兒投懷中。言已，始撫而泣曰：「我有父，兒無母矣！」兒亦嗷啣，一室掩泣。女起，經理家政，柩前牲盛潔備，石乃大慰。然病久，急切不能起。女乃請石外兄款洽吊唁。喪既閉，石始能杖而起，相與營謀齋葬。葬已，女欲辭歸，以受背父之譴。夫挽兒號，隱忍而止。未幾，有人來言母病，乃謂石曰：「妾為君父來，君不為妾母放令歸耶？」石許之。女使乳媪抱兒他適，涕洟出門而去。去後數年不返。石父子漸亦忘之。

一日昧爽啟扉，則長亭飄入。石方駭問，女戚然坐榻上，嘆曰：「生長閨閣，視一里為遙；今一日夜而奔千里，殆矣！」

細詰之，女欲言復止。固詰之，乃哭曰：「今為君言，恐妾之所悲，而君之所快也。邇年徙居晉界，僦居趙縉紳之第。主客交最善，以紅亭妻其公子。公子數逋蕩，家庭頗不相安。妹歸告父；父留之半年不令還。公子忿恨，不知何處聘一惡人來，遣神綰鎖縛老父去。一門大駭，頃刻四散矣。」石聞之，笑不自禁。女怒曰：「彼雖不仁，妾之父也。妾與君琴瑟數年，止有相好而無相尤。今日人亡家敗，百口流離，即不為父傷，寧不為妾吊乎！聞之怵舞，更無片語相慰藉，何不義也！」拂袖而出。石追謝之，亦已渺矣。悵然自悔，拚已決絕。

過二三日，媪與女俱來，石喜慰問。母女俱伏。驚問其故，又俱哭。女曰：「妾負氣而去，今不能自堅，又要求人復何顏面！」石曰：「嶽固非人；母之惠，卿之情，所不敢忘。然聞禍而樂，亦猶人情，卿何不能暫忍？」女曰：「頃於途中遇母，始知繫吾父者，乃君師也。」石曰：「果爾，亦大易。然翁不歸，則卿之父子離散；恐翁歸，則卿之夫泣兒悲也。」媪矢以自明，女亦誓以相報。石乃即刻治任如汴，詢至玄帝觀，則赤城歸未久。入而參拜，師問：「何來？」石視廚下一老狐，孔前股而系之，笑曰：「弟子之來，為此老魅。」赤城詰之，曰：「是吾岳也。」因以實告。道士謂其狡詐不肯輕釋；固請，始許之。石因備述其詐，狐聞之，塞身入灶，似

有慚狀。道士笑曰：「彼羞惡之心未盡亡也。」石起，牽之而出，以刀斷索抽之。狐痛極，齒齧齧然。石不遽抽，而頓挫之，笑問之曰：「翁痛乎？勿抽可耶！」狐睛睽閃，似有慍色。既釋，搖尾出觀而去。石辭歸。

三日前，已有人報叟信，媪先去，留女待石。石至，女逆而伏。石挽之曰：「卿如不忘琴瑟之情，不在感激也。」女曰：「今復遷還故居矣，村舍鄰邇，音問可以不梗。妾欲歸省，三日可旋，君信之否？」曰：「兒生而無母，未便殤折。我日日鰥居，習已成慣。今不似趙公子，而反德報之，所以為卿者盡矣。如其不還，在卿為負義，道里雖近，當亦不復過問，何不信之與有？」女去，二日即返。問：「何速？」曰：「父以君

在汴曾相戲弄，未能忘懷，言之絮叨；妾不欲復聞，故早來也。」自此閨中之往來無間，而翁婿間尚不通吊慶雲。異史氏曰：「狐情反復，譎詐已甚。悔婚之事，兩女而一轍，詭可知矣。然要而婚之，是啟其悔者猶在初也。且婿既愛女而救其父，止宜置昔怨而仁化之；乃復狎弄於危急之中，何怪其沒齒不忘也！天下之有冰玉而不相能者，類如此。」

十、十二、席方平

席方平，東安人。其父名廉，性戇拙。因與里中富室羊姓有隙，羊先死；數年，廉病垂危，謂人曰：「羊某今賄囑冥使擄我矣。」俄而身赤腫，號呼遂死，席慘怛不食，曰：「我父

樸訥，今見凌於強鬼；我將赴冥，代伸冤氣矣。」自此不復言，時坐時立，狀類癡，蓋魂已離舍。

席覺初出門，莫知所往，但見路有行人，便問城邑。少選，入城。其父已收獄中。至獄門，遙見父臥簷下，似甚狼狽。舉目見子，潸然流涕，曰：「獄吏悉受賂囑，日夜撈掠，脛股摧殘甚矣！」席怒，大罵獄吏：「父如有罪，自有王章，豈汝等死魅所能操耶！」遂出，寫狀。趁城隍早衙，喊冤投之。羊懼，內外賄通，始出質理。城隍以所告無據，頗不直席。席憤氣無伸，冥行百餘里至郡，以官役私狀，告諸郡司。遲至半月始得質理。郡司撲席，仍批城隍赴案。席至邑，備受

械梏，慘冤不能自舒。城隍恐其再訟，遣役押送歸家。投至門辭去。

席不肯入，遁赴冥府，訴郡邑之酷貪。冥王立拘質對。二官密遣腹心與席關說，許以千金。席不聽。過數日，逆旅主人告曰：「君負氣已甚，官府求和而執不從，今聞於王前各有函進，恐事殆矣。」席猶未信。俄有皂衣人喚入。升堂，見冥王有怒色，不容置詞，命答二十。席厲聲問：「小人何罪？」冥王漠若不聞。席受答，喊曰：「受答允當，誰教我無錢也！」冥王益怒，命置火床。兩鬼捽席下，見東墀有鐵床，熾火其下，床面通赤。鬼脫席衣，掬置其上，反復揉捺之。痛極，骨肉焦黑，苦不得死。約一時許，鬼曰：「可矣。」遂扶起，促

使下床著衣，猶幸跛而能行。復至堂上，冥王問：「敢再訟乎？」席曰：「大冤未伸，寸心不死，若言不訟，是欺王也。必訟！」王曰：「訟何詞？」席曰：「身所受者，皆言之耳。」冥王又怒，命以鋸解其體。二鬼拉去，見立木高八九尺許，有木板二仰置其上，上下凝血模糊。方將就縛，忽堂上大呼「席某」，二鬼即復押回。冥王又問：「尚敢訟否？」答曰：「必訟！」冥王命捉去速解。既下，鬼乃以二板夾席縛木上。鋸方下，覺頂腦漸闢，痛不可忍，顧亦忍而不號。聞鬼曰：「壯哉此漢！」鋸隆隆然尋至胸下。又聞一鬼云：「此人大孝無辜，鋸令稍偏，勿損其心。」遂覺鋸鋒曲折而下，其痛倍苦。俄頃半身闕矣；板解，兩身俱僕。鬼上堂大聲以報，堂上傳呼，

令合身來見。二鬼即推令復合，曳使行。席覺鋸縫一道，痛欲復裂，半步而踣。一鬼於腰間出絲帶一條授之，曰：「贈此以報汝孝。」受而束之，一身頓健，殊無少苦。遂升堂而伏。冥王復問如前；席恐再罹酷毒，便答：「不訟矣。」冥王立命送還陽界。隸率出北門，指示歸途，反身遂去。

席念陰曹之昧暗尤甚於陽間，奈無路可達帝聽。世傳灌口二郎為帝勛戚，其神聰明正直，訴之當有靈異。竊喜二隸已去，遂轉身南向。奔馳間，有二人追至，曰：「王疑汝不歸，今果然矣。」摔回復見冥王。竊疑冥王益怒，禍必更慘；而王殊無厲容，謂席曰：「汝志誠孝。但汝父冤，我已為若雪之矣。今已往生富貴家，何用汝嗚呼為。今送汝歸，予以千

金之產、期頤之壽，於願足乎？」乃注籍中，嵌以巨印，使親視之。席謝而下。鬼與俱出，至途，驅而罵曰：「奸猾賊！頻頻反復，使人奔波欲死！再犯，當捉入大磨中細細研之！」席張目叱曰：「鬼子胡為者！我性耐刀鋸，不耐撻楚耶！請反見王，王如令我自歸，亦復何勞相送。」乃返奔。二鬼懼，溫語勸回。席故蹇緩，行數步輒憩路側。鬼含怒不敢復言。約半日至一村，一門半開，鬼引與共坐；席便據門闕，二鬼乘其不備，推入門中。

驚定自視，身已生為嬰兒。憤啼不乳，三日遂殤。魂搖搖不忘灌口，約奔數十里，忽見羽葆來，幡戟橫路。越道避之，因犯鹵簿，為前馬所執，繫送車前。仰見車中一少年，豐儀

瑰瑋。問席：「何人？」席冤憤正無所出，且意是必巨官，或當能作威福，因緬訴毒痛。車中人命釋其縛，使隨車行。俄至一處，官府十餘員，迎謁道左，車中人各有問訊。已而指席謂一官曰：「此下方人，正欲往訴，宜即為之剖決。」席詢之從者，始知車中即上帝殿下九王，所囑即二郎也。席視二郎，修軀多髯，不類世間所傳。九王既去，席從二郎至一官廨，則其父與羊姓並衙隸俱在。少頃，檻車中有囚人出，則冥王及郡司、城墮也。當堂對勘，席所言皆不妄。三官戰慄，狀若伏鼠。二郎援筆立判；頃刻，傳下判語，令案中人共視之。判云：

「勘得冥王者：職膺王爵，身受帝恩。自應貞潔以率臣僚，不當貪墨以速官謗。而乃繁纓棨戟，徒誇品秩之尊；羊狼狼貪，竟玷人臣之節。斧敲斫，斫入木，婦子之皮骨皆空；鯨吞魚，魚食蝦，螻蟻之微生可憫。當掬江西之水，為爾湔腸；即燒東壁之床，請君入甕。城隍、郡司，為小民父母之官，司上帝牛羊之牧。雖則職居下列，而盡瘁者不辭折腰；即或勢逼大僚，而有志者亦應強項。乃上下其鷹鷂之手，既罔念夫民貧；且飛揚其狙獍之奸，更不嫌乎鬼瘦。惟受贓而枉法，真人面而獸心！是宜剔髓伐毛，暫罰冥死；所當脫皮換革，仍令胎生。隸役者：既在鬼曹，便非人類。只宜公門修行，庶還落蓍之身；何得苦海生波，益造彌天之孽？飛揚跋扈，狗

臉生六月之霜；墮突叫號，虎威斷九衢之路。肆淫威於冥界，咸知獄吏為尊；助酷虐於昏官，共以屠伯是懼。當以法場之內，剝其四肢；更向湯鑊之中，撈其筋骨。羊某：富而不仁，狡而多詐。金光蓋地，因使閻摩殿上盡是陰霾；銅臭熏天，遂教枉死城中全無日月。餘腥猶能役鬼，大力直可通神。宜籍羊氏之家，以償席生之孝。即押赴東嶽施行。」

又謂席廉：「念汝子孝義，汝性良懦，可再賜陽壽三紀。」使兩人送之歸里。席乃抄其判詞，途中父子共讀之。既至家，席先蘇：令家人啟棺視父，殭尸猶冰，俟之終日，漸溫而活。又索抄詞，則已無矣。

自此，家道日豐，三年良沃遍野；而羊氏子孫微矣；樓閣田產盡為席有。即有置其田者，必夢神人叱之曰：「此席家物，汝烏得有之！」初未深信；既而種作，則終年升斗無所獲，於是復鬻於席。席父九十餘歲而卒。

異史氏曰：「人人言淨土，而不知生死隔世，意念都迷，且不知其所以來，又烏知其所以去；而況死而又死，生而復生者乎？忠孝志定，萬劫不移，異哉席生，何其偉也！」

十、十三、素秋

俞慎字謹庵，順天舊家子。赴試入都，舍於郊郭。時見對戶一少年，美如冠玉。心好之，漸近與語，風雅尤絕。大悅，

捉臂邀至寓所，相與款宴。問其姓氏，則金陵俞士忱也，字恂九。公子聞與同姓，更加浹洽，訂為昆仲；少年遂減名字為忱。

明日過其家，書舍光潔；然門庭踈落，更無廝僕。引公子入內，呼妹出拜，年約十三四，肌膚瑩澈，粉玉無其白也。少頃托茗獻客，家中似無臧獲。公子異之，數語遂出。自後友愛如胞。恂九無日不來，或留共宿，則以弱妹無伴為辭。公子曰：「吾弟流寓千里，曾無應門之僮，兄妹纖弱，何以為生？計不如從我去，有鬥舍可共棲止，如何？」恂九喜，約以場後。試畢，恂九邀公子去，曰：「中秋月明如畫，妹子素秋具有蔬酒，勿違其意。」竟挽入內。素秋出，略道溫涼，

便入復室，下簾治具。少間自出行炙。公子起曰：「妹子奔波，情何以忍！」素秋笑入。頃之，搯簾出，則一青衣婢捧壺；又一媪托枰進烹魚。公子訝曰：「此輩何來？不早從事而煩妹子？」恂九微笑曰：「妹子又弄怪矣。」但聞簾內吃吃作笑聲，公子不解其故。既而筵終，婢媪撤器，公子適嗽，誤咳婢衣；婢隨唾而倒，碎碗流炙。視婢，則帛剪小人，僅四寸許。恂九大笑。素秋笑出，拾之而去。俄而婢復出，奔走如故，公子大異之。恂九曰：「此不過妹子幼時，卜紫姑之小技耳。」公子因問：「弟妹都已長成，何未婚姻？」答云：「先人即世，去留尚無定所，故此遲遲。」遂與商定行期，鬻宅，攜妹與公子俱西。既歸，除舍舍之；又遣一婢為之服役。

公子妻，韓侍郎之猶女也，尤憐愛素秋，飲食共之。公子與恂九亦然。而恂九又最慧，目下十行，試作一藝，老宿不能及之。公子勸赴童試，恂九曰：「姑為此業者，聊與君分苦耳。自審福薄，不堪仕進；且一入此途，遂不能不戚戚於得失，故不為也。」居三年，公子又下第。恂九大為扼腕，奮然曰：「榜上一名，何遂艱難若此！我初不欲為成敗所惑，故寧寂寂耳。今見大哥不能發舒，不覺中熱，十九歲老童當效駒馳也。」公子喜，試期送入場，邑、郡、道皆第一。益與公子下帷攻苦。逾年科試，並為郡、邑冠軍。恂九名大噪，遠近爭婚之，恂九悉卻去。公子力勸之，乃以場後為解。

無何，試畢，傾慕者爭錄其文，相與傳頌；恂九亦自覺第二人不屑居也。及榜發，兄弟皆黜。時方對飲，公子尚強作噓；恂九失色，酒盞傾墮，身僕案下。扶置榻上，病已困殆。急呼妹至，張曰謂公子曰：「吾兩人情雖如胞，實非同族。弟自分已登鬼籙。銜恩無可相報，素秋已長成，既蒙嫂撫愛，媵之可也。」公子作色曰：「是真吾弟之亂命也！其將謂我人頭畜鳴者耶！」恂九泣下。公子即以重金為購良材。恂九命舁至，力疾而入，囑妹曰：「我沒後即闔棺，無令一人開視。」公子尚欲有言，而目已瞑矣。公子哀傷，如喪手足。然竊疑其囑異，俟素秋他出，啟而視之，則棺中袍服如蛻；揭之，有蠹魚徑尺殭臥其中。駭異間，素秋促入，慘然曰：「兄

弟何所隔闕？所以然者非避兄也；但恐傳布飛揚，妾亦不能久居耳。」公子曰：「禮緣情制，情之所在，異族何殊焉？妹寧不知我心乎？即中饋當無漏言，請勿慮。」遂速卜吉期，厚葬之。初，公子欲以素秋論婚於世家，恂九不欲。既歿，公子商於素秋，素秋不應。公子曰：「妹子年已二十，長而不嫁，人其謂我何？」對曰：「若然，但惟兄命。然自顧無福相，不願入侯門，寒士而可。」公子曰：「諾。」不數日，冰媒相屬，卒無所可。先是，公子妻弟韓荃來吊，得窺素秋，心愛悅之，欲購作小妻。謀之姊，姊急戒勿言，恐公子知。韓心不釋，托媒風示公子，許為買鄉場關節。公子聞之，大怒詬罵，將致意者批逐出門，自此交往遂絕。又有故尚書孫某

甲，將娶而婦卒，亦遣冰來。其甲第人所素識，公子欲一見其人，因使媒約，使甲躬謁。及期，垂簾於內，令素秋自相之。甲至，裘馬騶從，炫耀閭里；人又秀雅如處子。公子大悅，而素秋殊不樂。公子竟許之，盛備裝奩。素秋固止之；公子亦不聽，卒厚贈焉。既嫁，琴瑟甚敦。然兄嫂系念，月輒歸寧。來時，奩中珠繡，必攜數事付嫂收貯。嫂不解其意，亦姑聽之。

甲少孤，寡母溺愛太過，日近匪人，引誘嫖賭，家傳書畫鼎彝，皆以鬻償戲債。韓荃與有瓜葛，日招甲飲而竊探之，願以兩妾及五百金易素秋。甲初不肯；韓固求之，甲意搖動，恐公子不甘。韓曰：「彼與我至戚，此又非其支系，若事已

成，彼亦無如我何；萬一有他，我身任之。有家君在，何畏一俞謹庵哉！遂盛妝兩姬出行酒，且曰：「果如所約，此即君家人矣。」甲惑之，約期而去。至日，慮韓詐諉，夜候於途，果有輿來，啟簾驗照不虛，乃導去，姑置齋中。韓僕以五百金交兌明白。甲奔入，誑素秋曰：「公子暴病相呼。」素秋未遑理妝，草草遂出。輿既發，夜迷不知何所，連行良遠，殊不可到。忽見二巨燭來，眾竊喜其可以問路。及至前，則巨蟒兩目如燈。眾大駭，人馬俱竄，委輿路側；將曙復集則空輿存焉。意必葬於蛇腹，歸告主人，垂首喪氣而已。

數日後，公子遣人詣妹，始知為惡人賺去，初不疑其婿之偽也。陪娶婢歸，細詰情跡，微窺其變，忿極，遍訴都邑。某

甲懼，求救於韓。韓以金妾兩亡，正復懊喪，斥絕不為力。甲呆憨無所復計，各處勾牒至，俱以賂囑免行。月餘，金珠服飾典貨一空。公子於憲府究理甚急，邑官皆奉嚴令，甲知不能復匿，始出，至公堂實情盡吐。憲票拘韓對質。韓懼，以情告父。父時已休職，怒其所為不法，執付隸。及見官府，言及遇蟒之變，悉謂其詞枝梧；家人撈掠殆遍，甲亦屢被敲楚。幸母日鬻田產，上下營求，刑輕得不死，而韓僕已瘵斃矣。韓久困囹圄，願助甲賂公子千金，哀求罷訟。公子不許。甲母又請益以二姬，但求姑存疑案以待尋訪；妻又承叔母命，朝夕解免，公子乃許之。甲家甚貧，貨宅辦金，而急切不能得售，因先送姬來，乞其延緩。

逾數日，公子夜坐齋中，素秋偕一媪，驀然忽入。公子駭問：「妹固無恙耶？」笑曰：「蟒變乃妹之小術耳。當夜竄入一秀才家，依於其母。彼亦識兄，今在門外。」公子倒屣出迎，則宛平名士周生也，素相善。把臂入齋，款洽臻至。傾談既久，始知顛末。初，素秋昧爽款生門，母納入，詰之，知為公子妹，便欲馳報。素秋止之，因與母居。甚得母歡，以子無婦，竊屬意素秋，微言之。素秋以未奉兄命為辭。生亦以公子交契，故不肯作無媒之合，但頻頻偵聽。知訟事已有關說，素秋乃告母欲歸。母遣生率一媪送之，即囑媪為媒。公子以素秋居生家久，亦有此心；及聞媪言大喜，即與生面訂姻好。先是，素秋夜歸，欲使公子得金而後宣之。公子不

可，曰：「向憤無所洩，故索金以敗之耳。今復見妹，萬金何能易哉！」即遣人告諸兩家罷之。又念生家故不甚豐，道又遠，親迎殊難，因移生母來，居以恂九舊第；生亦備幣帛鼓樂，婚嫁成禮。

一日，嫂戲素秋曰：「今得新婿，從前枕席之愛猶憶之否？」素秋笑顧婢曰：「憶之否？」嫂不解，研問之，蓋三年床第皆以婢代。每夕以筆畫其兩眉，驅之去，即對燭獨坐，婿亦不之辨也。蓋奇之，求其術，但笑不言。次年大比，生將與公子偕往。素秋曰：「不必。」公子強挽而去。是科，公子中式，生落第歸。逾年母卒，遂不復言進取矣。一日，素秋謂嫂曰：「向求我術，固未肯以此駭物聽也。今將遠別，請秘

授之，亦可以避兵燹。」嫂驚問故，答曰：「三年後此處當無人煙。妾荏弱不堪驚恐，將蹈海濱而隱。大哥富貴中人，不可以偕，故言別也。」乃以術悉授嫂。數日又告別，公子留之不得，至泣下，問：「何往？」又不言。雞鳴早起，攜一白須奴，控雙衛而去。公子陰使人尾送之，至膠萊之界，塵霧幃天，既晴，已迷所住。

三年後闖寇犯順，村舍為墟。韓夫人剪帛置門內，寇至，見雲繞韋馱高丈餘，遂駭走，以是得保無恙。後村中有賈客至海上，遇一叟似老奴，而髭發盡黑，猝不能認。叟停足笑曰：「我家公子尚健耶？借口寄語：秋姑亦甚安樂。」問其

居何里，曰：「遠矣，遠矣！」匆匆遂去。公子聞之，使人於所在遍訪之，竟無蹤跡。

異史氏曰：「管城子無食肉相，其來舊矣。初念甚明，而乃持之不堅。寧如糊眼主司，固衡命不衡文耶？一擊不中，冥然遂死，蠹魚之癡，一何可憐！傷哉雄飛不如雌伏。」

十、十四、賈奉雉

賈奉雉，平涼人。才名冠世，而試輒不售。一日途中遇一秀才，自言姓郎，風格飄灑，談言微中。因邀俱歸，出課藝就正。郎讀之，不甚稱許，曰：「足下文，小試取第一則有餘，大場取榜尾亦不足。」賈曰：「奈何？」郎曰：「天下事，仰而

跂之則難，俯而就之甚易，此何須鄙人言哉！遂指二一人、一二篇以為標準，大率賈所鄙棄而不屑道者。賈笑曰：「學者立言，貴乎不朽，即味列八珍，當使天下不以為泰耳。如此獵取功名，雖登臺閣，猶為賤也。」郎曰：「不然。文章雖美，賤則弗傳。君將抱卷以終也則已；不然，簾內諸官，皆以此等物事進身，恐不能因閱君文，另換一副眼睛肺腸也。」賈終默然。郎起笑曰：「少年盛氣哉！」遂別去。

是秋入闈復落，邑邑不得志，頗思郎言，遂取前所指示者強讀之。未至終篇，昏昏欲睡，心惶惑無以自主。又三年，場期將近，郎忽至，相見甚歡。出擬題七使賈作文。越日，索文而閱，不以為可，又令復作；作已，又訾之。賈戲於落卷

中，集其葛茸泛濫，不可告人之句，連綴成文，示之。郎喜曰：「得之矣！」因使熟記，堅囑勿忘。賈笑曰：「實相告」此言不由中，轉瞬即去，便受夏楚，不能復憶之也。」郎坐案頭，強令自誦一遍；因使袒背，以筆寫符而去，曰：「只此已足，可以束閣群書矣。」驗其符，濯之不下，深入肌理。

入場七題無一遺者。回思諸作，茫不記憶，惟戲綴之文，歷歷在心。然把筆終以為羞；欲少竄易，而顛倒苦思，更不能復易一字。日已西墜，直錄而出。郎候之已久，問：「何暮也？」賈以實告，即求拭符；視之已漫滅矣。回憶場中文，渾如隔世。大奇之，因問：「何不自謀？」笑曰：「某惟不作此等想，故不能讀此等文也。」遂約明日過其寓。賈曰：「諾。」

郎去，賈復取文自閱，大非本懷，怏怏自失，不復訪郎，嗒喪而歸。榜發，竟中經魁。復閱舊稿，汗透重衣，自言曰：「此文一出，何以見天下士矣！」正慚忤間，郎忽至曰：「求中即中矣，何其悶也？」曰：「僕適自念，以金盆玉碗貯狗矢，真無顏出見同人。行將遁跡山林，與世長辭矣。」郎曰：「此論亦高，但恐不能耳。若果能，僕引見一人，長生可得，並千載之名，亦不足戀，況儻來之富貴乎！」賈悅，留與共宿，曰：「容某思之。」天明，謂郎曰：「吾志決矣！」不告妻子，飄然遂去。

漸入深山，至一洞府，其中別有天地。有叟坐堂上，郎使參之，呼以師。叟曰：「來何早也？」郎曰：「此人道念已堅，望

加收齒。」叟曰：「汝既來，須將此身並置度外，始得。」賈唯唯聽命。郎送至一院，安其寢處，又投以餌，始去。」房亦精潔；但戶無扉，窗無櫺，內惟一幾一榻。賈解履登榻，月明穿射；覺微饑，取餌啖之，甘而易飽。因即寂坐，但覺清香滿室，臟腑空明，脈絡皆可指數。忽聞有聲甚厲，似貓抓癢，自牖窺之，則虎蹲簷下。乍見甚驚；因憶師言，收神凝坐。虎似知有其人，尋入近榻，氣咻咻遍嗅足股。少間聞庭中噪動，如雞受縛，虎即趨出。

又坐少時，一美人入，蘭麝撲人，悄然登榻，附耳小言曰：「我來矣。」一言之間，口脂散馥。賈瞑然不少動。又低聲曰：「睡乎？」聲音頗類其妻，心微動。又念曰：「此皆師相試之幻

術也。」瞑如故。美人曰：「鼠子動矣！」初，夫妻與婢同室，押褻惟恐婢聞，私約一謎曰：「鼠子動，則相歡好。」忽聞是語，不覺大動，開目凝視，真其妻也。問：「何能來？」答云：「郎生恐君岑寂思歸，遣一嫗導我來。」言次，因賈出門不相告語，俛傍之際，頗有怨懟。賈慰藉良久，始得嬉笑為歡。既畢，夜已向晨，聞叟譙呵聲，漸近庭院。妻急起，無地自匿，遂越短牆而去。俄頃郎從曳入。叟對賈杖郎，便令逐客。郎亦引賈自短牆出，曰：「僕望君奢，不免躁進；不圖情緣未斷，累受撲責。從此暫別，相見行有日矣。」指示歸途，拱手遂別。

賈俯視故村，故在目中。意妻弱步，必滯途間。疾趨里餘，已至家門，但見房垣零落，舊景全非，村中老幼，竟無一相識者，心始駭異。忽念劉、阮返自天臺，情景真似。不敢入門，於對戶憩坐。良久，有老翁曳杖出。賈揖之，問：「賈某家何所？」翁指其第曰：「此即是也。得無欲聞奇事耶？僕悉知之。相傳此公聞捷即遁；遁時其子才七八歲。後至十四五歲，母忽大睡不醒。子在時，寒暑為之易衣；迨後窮蹶，房舍拆毀，惟以木架苫覆蔽之。月前夫人忽醒，屈指百餘年矣。遠近聞其異，皆來訪視，近日稍稀矣。」賈豁然頓悟，曰：「翁不知賈奉雉即某是也。」翁大駭，走報其家。

時長孫已死；次孫祥，至五十餘矣。以賈年少，疑有詐偽。少間夫人出，始識之。雙涕霑霑，呼與俱去。苦無屋宇，暫入孫舍。大小男婦，奔入盈側，皆其曾、玄，率陋劣少文。長孫婦吳氏，沽酒具藜藿；又使少子果及婦，與已同室，除舍舍祖翁姑。賈入舍，煙埃兒溺，雜氣熏人。居數日，懊惋殊不可耐。兩孫家分供餐飲，調飪尤乖。里中以賈新歸，日招飲；而夫人恆不得一飽。吳氏故士人女，頗嫻閨訓，承順不衰。祥家給奉漸疏，或呼而與之。賈怒，攜夫人去，設帳東里。每謂夫人曰：「吾甚悔此一返，而已無及矣。不得已，復理舊業，若心無愧恥，富貴不難致也。」居年餘，吳氏猶時饋贈，而祥父子絕跡矣。是歲試入邑癢。宰重其文，

厚贈之，由此家稍裕。祥稍稍來近就之。賈喚入，計曩所耗費出金償之，斥絕令去。遂買新第，移吳氏共居之，吳二子，長者留守舊業；次杲頗慧，使與門人輩共筆硯。

賈自山中歸，心思益明澈，遂連捷登進士。又數年，以侍御出巡兩浙，聲名赫奕，歌舞樓臺，一時稱盛。賈為人鯁峭，不避權貴，朝中大僚思中傷之。賈屢疏恬退，未蒙俞允，未幾而禍作矣。先是，祥六子皆無賴，賈雖擯斥不齒，然皆竊餘勢以作威福，橫占田宅，鄉人共患之。有某乙娶新婦，祥次子篡娶為妾。乙故狙詐，鄉人斂金助訟，以此聞於都。當道交章劾賈。賈殊無以自剖，被收經年。祥及次子皆瘐死。賈奉旨充遼陽軍。

時杲入泮已久，人頗仁厚，有賢聲。夫人生一子，年十六，遂以囑果，夫妻攜一僕一媪而去。賈曰：「十餘年之富貴，曾不如一夢之久。今始知榮華之場，皆地獄境界，悔比劉晨、阮肇，多造一重孽案耳。」數日抵海岸，遙見巨舟來，鼓樂殷作，虞候皆如天神。既近，舟中一人出，笑請侍御過舟少憩。賈見驚喜，踴身而過，押吏不敢禁。夫人急欲相從，而相去已遠，遂憤投海中。漂泊數步，見一人垂練於水引救而去。隸命篙師蕩舟，且追且號，但聞鼓聲如雷，與轟濤相間，瞬間遂杳。僕識其人，蓋郎生也。

異史氏曰：「世傳陳大士在闈中，書藝既成，吟誦數四，嘆曰：『亦復誰人識得！』遂棄而更作，以故闈墨不及諸稿。賈

生羞而遁去，蓋亦有仙骨焉。乃再返人世，遂以口腹自貶，貧賤之中人甚矣哉！

十、十五、胭脂

東昌卞氏，業牛醫者，有女小字胭脂，才姿惠麗。父寶愛之，欲占鳳於清門，而世族鄙其寒賤，不屑締盟，所以及笄未字。對戶龐姓之妻王氏，佻脫善謔，女閨中談友也。一日送至門，見一少年過，白服裙帽，豐採甚都。女意動，秋波縈轉之。少年俯首趨去。去既遠，女猶凝眺。王窺其意，戲謂曰：「以娘子才貌，得配若人，庶可無憾。」女暈紅上頰，脈脈不作一語。王問：「識得此郎否？」女曰：「不識。」曰：「此南巷

鄂秀才秋隼，故孝廉之子。妾向與同里，故識之，世間男子無其溫婉。近以妻服未闋，故衣素。娘子如有意，當寄語使委冰焉。」女無語，王笑而去。

數日無耗，女疑王氏未往，又疑宦裔不肯俯就。邑邑徘徊，漸廢飲食；縈念頗苦，寢疾惛頓。王氏適來省視，研詰病由。女曰：「自亦不知。但爾日別後，漸覺不快，延命假息，朝暮人也。」王小語曰：「我家男子負販未歸，尚無人致聲鄂郎。芳體違和，莫非為此？」女頰顏良久。王戲曰：「果為此，病已至是，尚何顧忌？先令其夜來一聚，彼豈不肯可？」女嘆氣曰：「事至此，已不能羞。若渠不嫌寒賤，即遣冰來，病當愈；若私約，則斷斷不可！」王頷之而去。

王幼時與鄰生宿介通，既嫁，宿偵夫他出，輒尋舊好。是夜宿適來，因述女言為笑，戲囑致意鄂生。宿久知女美，聞之竊喜其有機可乘。欲與婦謀，又恐其妒，乃假無心之詞，問女家閨闈甚悉。次夜逾垣入，直達女所，以指叩窗。女問：「誰何？」答曰：「鄂生。」女曰：「妾所以念君者，為百年，不為一夕。郎果愛妾，但當速遣冰人；若言私合，不敢從命。」宿姑諾之，苦求一握玉腕為信。女不忍過拒，力疾啟扉。宿遽入，抱求歡。女無力撐拒，僕地上，氣息不續。宿急曳之。女曰：「何來惡少，必非鄂郎；果是鄂郎，其人溫馴，知妾病由，當相憐恤，何遂狂暴若此！若復爾爾，便當嗚呼，品行虧損，兩無所益！」宿恐假跡敗露，不敢復強，但請後會。

女以親迎為期。宿以為遠，又請。女厭糾纏，約待病愈。宿求信物，女不許；宿捉足解繡履而出。女呼之返，曰：「身已許君，復何吝惜？但恐『畫虎成狗』，致貽污謗。今褻物已入君手，料不可反。君如負心，但有一死！」宿既出，又投宿王所。既臥，心不忘履，陰摸衣袂，竟已烏有。急起篝燈，振衣冥索。詰王，不應。疑其藏匿，婦故笑以疑之。宿不能隱，實以情告。言已遍燭門外，竟不可得。懊恨歸寢，猶意深夜無人，遺落當猶在途也。早起尋，亦復杳然。

先是巷中有毛大者，游手無籍。嘗挑王氏不得，知宿與洽，思掩執以脅之。是夜過其門，推之未扁，潛入。方至窗下，踏一物軟若絮縮，拾視，則巾裏女舄。伏聽之，聞宿自述甚

悉，喜極，抽息而出。逾數夕，越墻入女家，門戶不悉，誤詣翁舍。翁窺窗見男子，察其音跡，知為女來。大怒，操刀直出。毛大駭，反走。方欲攀垣，而卞追已近，急無所逃，反身奪刃；媪起大呼，毛不得脫，因而殺翁。女稍痊，聞喧始起。共燭之，翁腦裂不能言，俄頃已絕。於墻下得繡履，媪視之，胭脂物也。逼女，女哭而實告之；不忍貽累王氏，言鄂生之自至而已。天明訟於邑。

官拘鄂。鄂為人謹訥，年十九歲，見人羞澀如童子。被執駭絕。上堂不能置詞，惟有戰慄。宰益信其情實，橫加桎械。生不堪痛楚，遂誣服。及解郡，敲撲如邑。生冤氣填塞，每

欲與女面質；及相見，女輒詬詈，遂結舌不能自伸，由是論死。經數官復訊無異。

後委濟南府復審。時吳公南岱守濟南，一見鄂生，疑其不類殺人者，陰使人從容私問之，俾盡得其詞。公以是益知鄂生冤。籌思數日始鞫之。先問胭脂：「訂約後有知者否？」曰：「無之。」「遇鄂生時別有人否？」亦曰：「無之。」乃喚生上，溫語慰問。生曰：「曾過其門，但見舊鄰婦王氏同一少女出，某即趨避，過此並無一言。」吳公叱女曰：「適言側無他人，何以有鄰婦也？」欲刑之。女懼曰：「雖有王氏，與彼實無關涉。」公罷質，命拘王氏。拘到，禁不與女通，立刻出審，便問王：「殺人者誰？」王曰：「不知。」公詐

之曰：「胭脂供殺卞某汝悉知之，何得不招？」婦呼曰：「冤哉！淫婢自思男子，我雖有媒合之言，特戲之耳。彼自引奸夫入院，我何知焉！」公細詰之，始述其前後相戲之詞。公呼女上，怒曰：「汝言彼不知情，今何以自供撮合哉？」女流涕曰：「自己不肖，致父慘死，訟結不知何年，又累他人，誠不忍耳。」公問王氏：「既戲後，曾語何人？」王供：「無之。」公怒曰：「夫妻在床應無不言者，何得雲無？」王曰：「丈夫久客未歸。」公曰：「雖然，凡戲人者，皆笑人之愚，以炫己之慧，更不向一人言，將誰欺？」命梏十指。婦不得已，實供：「曾與宿言。」公於是釋鄂拘宿。宿至，自供：「不知。」公曰：「宿妓者必非良士！」嚴械之。宿供曰：「賺女是真。」

自失履後，未敢復往，殺人實不知情。」公曰：「逾墻者何所不至！又械之。宿不任凌藉，遂亦誣承。招成報上，咸稱吳公之神。鐵案如山，宿遂延頸以待秋決矣。然宿雖放縱無行，實亦東國名士。聞學使施公愚山賢能稱最，且又憐才恤士，宿因以一詞控其冤枉，語言愴惻。公乃討其招供，反復凝思之，拍案曰：「此生冤也！」遂請於院、司，移案再鞫。問宿生：「鞋遺何所？」供曰：「忘之。但叩婦門時，猶在袖中。」轉詰王氏：「宿介之外，奸夫有幾？」供言：「無有。」公曰：「淫婦豈得專私一人？」又供曰：「身與宿介稚齒交合，故未能謝絕；後非無見挑者，身實未敢相從。」因使指其挑者，供云：「同裏毛大，屢挑屢拒之矣。」公曰：「何忽貞白如

此？」命撈之。婦頓首出血，力辨無有，乃釋之。又詰：「汝夫遠出，寧無有托故而來者？」曰：「有之。某甲、某乙，皆以借貸饋贈，曾一二次入小人家。」

蓋甲、乙皆巷中游蕩之子，有心於婦而未發者也。公悉籍其名，並拘之。既齊，公赴城隍廟，使盡伏案前。訊曰：「曩夢神告，殺人者不出汝等四五人中。今對神明，不得有妄言。如肯自首，尚可原宥；虛者廉得無赦！」同聲言無殺人之事。公以三木置地，將並夾之。括發裸身，齊鳴冤苦。公命釋之，謂曰：「既不自招，當使鬼神指之。」使人以氈褥悉障殿窗，令無少隙；袒諸囚背，驅入暗中，始投盆水，一一命白盥訖；系諸壁下，戒令「面壁勿動，殺人者當有神書其

背」。少間，喚出驗視，指毛曰：「此真殺人賊也！」蓋公先使人以灰塗壁，又以煙煤濯其手：殺人者恐神來書，故匿背於壁而有灰色；臨出以手護背，而有煙色也。公固疑是毛，至此益信。施以毒刑，盡吐其實。判曰：

「宿介：蹈盆成括殺身之道，成登徒子好色之名。只緣兩小無猜，遂野鷺如家雞之戀；為因一言有漏，致得隴興望蜀之心。將仲子而逾園牆，便如鳥墮；冒劉郎而至洞口，竟賺門開。感悅驚彪，鼠有皮胡若此？攀花折樹，士無行其謂何！幸而聽病燕之嬌啼，猶為玉惜；憐弱柳之憔悴，未似鶯狂。而釋么鳳於羅中，尚有文人之意；乃劫香盟於襪底，寧非無賴之尤：蝴蝶過牆，隔窗有耳；蓮花瓣卸，墮地無蹤。假中

之假以生，冤外之冤誰信？天降禍起，酷械至於垂亡；自作孽盈，斷頭幾於不續。彼逾牆鉗隙，固有玷夫儒冠；而殭李代桃，誠難消其冤氣。是宜稍寬答撲，折其已受之慘；姑降青衣，開彼自新之路。

若毛大者：刁猾無籍，市井兇徒。被鄰女之投梭，淫心不死；伺狂童之入巷，賊智忽生。開戶迎風，喜得履張生之跡；求漿值酒，妄思偷韓掾之香。何意魄奪自天，魂攝於鬼。浪乘槎木，直入廣寒之宮；徑泛漁舟，錯認桃源之路。遂使情火息焰，欲海生波。刀橫直前，投鼠無他顧之意；寇窮安往，急兔起反噬之心。越壁入人家，止期張有冠而李借；奪兵遺

繡履，遂教魚脫網而鴻罹。風流道乃生此惡魔，溫柔鄉何有此鬼蜮哉！即斷首領，以快人心。

胭脂；身猶未字，歲已及笄。以月殿之仙人，自應有郎似玉；原霓裳之舊隊，何愁貯屋無金？而乃感關雎而念好逑，竟繞春婆之夢；怨標梅而思吉士，遂離倩女之魂。為因一線纏縈，致使群魔交至。爭婦女之顏色，恐失『胭脂』；惹鷲鳥之紛飛，並托『秋隼』。蓮鉤摘去，難保一瓣之香；鐵限敲來，幾破連城之玉。嵌紅豆於骰子，相思骨竟作厲階；喪喬木於斧斤，可憎才真成禍水！葳蕤自守，幸白璧之無瑕；縲紲苦爭，喜錦衾之可覆。嘉其入門之拒，猶潔白之情人；

遂其擲果之心，亦風流之雅事。仰彼邑令，作爾冰人。」案既結，遐邇傳頌焉。

自吳公鞫後，女始知鄂生冤。堂下相遇，覩然含涕，似有痛惜之詞，而未可言也。生感其眷戀之情，愛慕殊切；而又念其出身微賤，日登公堂，為千人所窺指，恐娶之為人姍笑，日夜縈回，無以自主。判牒既下，意始安貼。邑宰為之委禽，送鼓吹焉。

異史氏曰：「甚哉！聽訟之不可以不慎也！縱能知李代為冤，誰復思桃殭亦屈？然事雖暗昧，必有其間，要非審思研察，不能得也。嗚呼！人皆服哲人之折獄明，而不知良工之用心苦矣。世之居民上者，棋局消日，綢被放衙，下情民艱，

更不肯一勞方寸。至鼓動衙開，巍然坐堂上，彼曉曉者直以桎梏靖之，何怪覆盆之下多沉冤哉！

愚山先生吾師也。方見知時，餘猶童子。竊見其獎進士子，拳拳如恐不盡；小有冤抑，必委曲呵護之，曾不肯作威學校，以媚權要。真宣聖之護法，不止一代宗匠，衡文無屈士已也。而愛才如命，尤非後世學使虛應故事者所及。嘗有名士入場，作「寶藏興焉」文，誤記「水下」；錄畢而後悟之，料無不黜之理。因作詞文後云：「寶藏在山間，誤認卻在水邊。山頭蓋起水晶殿，瑚長峰尖，珠結樹顛。這一回崖中跌死撐船漢！告蒼天：留點蒂兒，好與友朋看。」先生閱而和之曰：「寶藏將山誇，忽然見在水涯。樵夫漫說漁翁話。題

目雖差，文字卻佳，怎肯放在他人下。嘗見他，登高怕險；那曾見，會水淹殺？」此亦風雅之一斑，憐才之一事也。

十、十六、阿纖

奚山者，高密人。貿販為業，常客蒙沂間。一日途中阻雨，至歇處，夜已深，遍叩無應。徘徊底下。忽二扉豁開，一叟出，邀客入，山喜從之。繫蹇登客，堂上並無幾榻。叟曰：「我憐客無歸，故相容納。我實非賣食沽飲者。家下止有老荊弱女，已眠熟矣。雖有宿肴，苦少烹鬻，勿嫌冷啜也。」言已，便入。少頃，以足床來置地上，促客坐；又攜一短足幾至；往來蹠躩。山起坐不自安，曳令暫息。

少間，一女郎出行酒。叟顧曰：「我家阿纖興矣。」視之，年十六七，窈窕秀弱，風致嫣然。山有少弟未婚，竊屬意焉。因問叟清貫尊閥，答云：「土虛，姓古。子孫夭折，剩有此女。適不忍攪其酣睡，想老荊喚起矣。」問：「婿家阿誰？」答云：「未字。」山竊喜。既而品味雜陳，似所宿具。食已，致謝曰：「萍水之人，遂蒙寵惠，沒齒所不敢忘。緣翁盛德，乃敢遽陳樸魯：僕有弟三郎，十七歲矣。讀書肄業，頗不冥頑。欲求援系，不嫌寒賤否？」叟喜曰：「老夫在此，亦是僑寓。倘得相托，便假一廬，移家而往，庶免懸念。」山都應之，遂啟展謝。叟殷勤安置而去。雞既鳴，叟出，呼客盥沐。束裝已，酬以飯金。固辭曰：「留客一飯，萬無受金之

理；矧附為婚姻乎？」既別，客月餘乃返。去村里餘，遇老媪率一女郎，冠服盡素。既近，疑似阿纖。女郎亦頻轉顧，因把媪袂，附耳不知何辭。媪便停步，向山曰：「君奚姓乎？」山曰：「然。」媪慘容曰：「不幸老翁壓於敗堵，今將上墓。家虛無人，請少待路側，行即還也。」遂入林去，移時始來。途已昏冥，遂與偕行。道其孤弱，不覺哀啼，山亦酸惻。媪曰：「此處人情大不平善，孤孀難以過度。阿纖既為君家婦，過此恐遲時日，不如早夜同歸。」山可之。

既至家，媪挑燈供客已，謂山曰：「意君將至，儲粟都已糶去；尚存二十餘石，遠莫致之。北去四五里，村中第一門有談二泉者，是吾售主。君勿憚勞，先以尊乘運一囊去，叩門

而告之，但道南村中古姥有數石粟，糶作路用，煩驅蹄躐一  
致之也。」即以囊粟付山。山策蹇去，叩門，一碩腹男子出，  
告以故，傾囊先歸。俄有兩夫以五騾至。媪引山至粟所，乃  
在窖中。山下為操量執概，母放女收，頃刻盈裝，付之以去。  
凡四返而粟始盡。既而以金授媪。媪留其一人二畜，治任遂  
東。行二十里，天始曙。至一市，市頭賃騎，談僕乃返。既  
歸，山以情告父母。相見甚喜，再以別第館媪，卜吉為三郎  
完婚。媪治奩裝甚備。阿織寡言少怒，或與言，但有微笑，  
晝夜績織無停晷，以是上下俱憐悅之。囑三郎曰：「寄語大  
伯：再過西道，勿言吾母子也。」居三四年，奚家益富，三  
郎入泮矣。

一日山宿古之舊鄰，偶及曩年無歸，投宿翁媪之事。主人曰：「客誤矣。東鄰為阿伯別第，三年前居者輒睹怪異，故空廢甚久，有何翁媪相留？」山訝之，而未深信。主人又曰：「此宅向空十年無敢入者。一日第後墻傾，伯往視之，則石壓巨鼠如貓，尾在外猶搖。急歸，呼眾往視，則已渺矣。群疑是物為妖。後十餘日復入試，寂無形聲；又年餘始有居人。」山益奇之。歸家私語，竊疑新婦非人，陰為三郎慮；而三郎篤愛如常。久之，家人競相猜議。女微察之，至夜語三郎曰：「妾從君數年，未嘗少失婦德；今置之不以人齒，請賜離婚書，聽君自擇良偶。」因泣下。三郎曰：「區區寸心，宜所夙知。自卿入門，家日益豐，咸以福澤歸卿，烏得有異

言？」女曰：「君無二心，妾豈不知；但眾口紛紜，恐不免秋扇之捐。」三郎再四慰解，乃已。

山終不釋，日求善撲之貓以覘其異。女雖不懼，然蹙蹙不快。一夕謂媪小恙，辭三郎省侍之。天明三郎往訊。則室已空矣。駭極，使人四途蹤跡，並無消息。中心營營，寢食都廢。而父兄皆以為幸，將為續婚；而三郎殊不懌。又年餘，音問已絕。父兄輒相誚責，不得已，勉買一妾，然思阿纖不衰。又數年，奚家日漸貧，由是咸憶阿纖。

有叔弟嵐以事至膠，迂道宿表戚陸生家。夜聞鄰哭甚哀，未遑詰問。及返，又聞之，因問主人。答云：「數年前有寡母孤女，僦居於此。月前姥死，女獨處無一線之親，是以哀耳。」

問：「何姓？」曰：「姓古。嘗閉戶不與里社通，故未悉其家世。」嵐驚曰：「是吾嫂也！」遂往款扉。有人揮涕出，隔扉問曰：「客何人？我家故無男子。」嵐隙窺而遙審之，果嫂，便曰：「嫂啟關，我是叔家阿遂。」女拔關納入，訴其孤苦、淒愴悲懷。嵐曰：「三兄憶念頗苦，夫妻即有乖迕，何遂遠遁至此？」即欲賃輿同歸。女愴然曰：「我以人不齒數故，遂與母偕隱；今又返而依人，誰不加白眼？如欲復還，當與大兄分炊；不然，行乳藥求死耳！」

嵐歸以告三郎。三郎星夜馳去，夫妻相見，各有涕洟。次日告其屋主。屋主謝監生，窺女美，陰欲圖致為妾，數年不取屋直，頻風示媪，媪絕之。媪死，竊幸可媒，而二郎忽至。

通計房租以留難之。三郎家故不豐，聞金多，有憂色。女曰：「不妨。」引三郎視倉儲，約粟三十餘石，償租有餘。三郎喜以告謝，謝不受粟，故索金。女嘆曰：「此皆妾身之惡幃也！」遂以其情告三郎。三郎怒，將訟於邑。陸氏止之，為散粟於里黨，斂資償謝，以車送兩人歸。

三郎實告父母，與兄析居。阿纖出私金，日建倉廩，而家中尚無儋石，共奇之。年餘驗視，則倉中滿矣。又不數年，家中大富；而山苦貧。女請翁姑自養之；輒以金粟周兄，習以為常。三郎喜曰：「聊可謂不念舊惡矣。」女曰：「彼自愛弟耳。且非兄，妾何緣識三郎哉？」後亦無甚怪異。

十、十七、瑞雲

瑞雲，杭之名妓，色藝無雙。年十四。其母蔡媪，將使出應答。瑞雲曰：「此奴終身發軔之始，不可草草。價由母定，客則聽奴自擇之。」媪曰：「諾。」乃定價十五金，逐日見客。客求見者必贄：贄厚者接以弈，酬以畫；薄者一茶而已。瑞雲名噪已久，富商貴介，接踵於門。

餘杭賀生，才名夙著，而家僅中資。素仰瑞雲，固未敢擬同鴛夢，亦竭微贄，冀得一睹芳澤，竊恐其閱人既多，不以寒酸在意；及至相見一談，而款接殊殷。坐語良久，眉目含情，作詩贈生曰：「何事求漿者，藍橋叩曉關？有心尋玉杵，端

只在人間。」生得詩狂喜，更欲有言，忽小鬟來白「客至」，生倉猝遂別。既歸，吟玩詩意，夢魂縈擾。過一二日，情不自己，修贄復往。瑞雲接見良歡。移坐近生，悄然曰：「能圖一宵之聚否？」生曰：「窮蹶之士，惟有癡情可獻知己。一絲之贄，已竭綿薄。得近芳容，私願已足；若肌膚之親，何敢作此夢想。」瑞雲聞之，戚然不樂，相對遂無一語。生久坐不出，媪頻喚瑞雲以促之，生乃歸。心甚悒悒，思欲罄家以博一次，而更盡而別，此情復何可耐？籌思及此，熱念都消，由是音息遂絕。

瑞雲擇婿數月，不得一當，媪恚，將強奪之。一日有秀才投贄，坐語少時，便起，以一指按女額曰：「可惜，可惜！」遂

去。瑞雲送客返，共視額上有指印黑如墨，濯之益真；過數日墨痕益闊；年餘連額徹準矣，見者輒笑，而車馬之跡以絕。媼斥去妝飾，使與婢輩伍。瑞雲又荏弱，不任驅使，日益憔悴。賀聞而過之，見蓬首廚下，醜狀類鬼。舉目見生，面壁自隱。賀憐之，便與媼言願贖作婦。媼許之。賀貨田傾裝，買之以歸。入門，牽衣攬涕，不敢以伉儷自居，願備妾媵，以俟來者。賀曰：「人生所重者知己，卿盛時猶能知我，我豈以衰故忘卿哉！」遂不復娶。聞者又姍笑之，而生情益篤。居年餘偶至蘇，有和生與同主人，忽問：「杭有名妓瑞雲，近如何矣？」賀曰：「適人矣。」問：「何人？」曰：「其人率與僕等。」和曰：「若能如君，可謂得人矣。不知其價幾

何？」賀曰：「緣有奇疾，姑從賤售耳。不然，如僕者，何能於勾欄中買佳麗哉！」又問：「其人果能如君否？」賀以其問之異，因反詰之。和笑曰：「實不相欺：昔曾一覲其芳儀，甚惜其以絕世之姿，而流落不偶，故以小術晦其光而保其璞，留待憐才者之真賞耳。」賀急問曰：「君能點之，亦能滌之否？」和笑曰：「烏得不能？但須其人一誠求耳！」賀起拜曰：「瑞雲之婿，即某是也。」和喜曰：「天下惟真才人為能多情，不以妍媸易念也。請從君歸，便贈一佳人。」遂同返杭。

抵家，賀將命酒。和止之曰：「先行吾法，當先令治具者有歡心也。」即令以盥器貯水，戟指而書之，曰：「濯之當愈。」

然須親出一謝醫人也。」賀喜謝，笑捧而去，立俟瑞雲自饋之，隨手光潔，艷麗一如當年。夫婦共德之，同出展謝，而客已渺，遍覓之不得，意其其仙歟？

十、十八、仇大娘

仇仲，晉人也。值大亂，為寇俘去。二子福、祿俱幼；繼室邵氏，撫雙孤，遺業能溫飽。而歲屢祲，豪強者復凌藉之，遂至食息不保。仲叔尚廉利其嫁，屢勸駕，邵氏矢志不搖。廉陰券於大姓，欲強奪之；鬪說已成，並無人知。里人魏名夙狡獪，與仲家積不相能，事事思中傷之。因邵寡，偽造浮言以相敗辱。大姓聞之，惡其不德而止。久之，廉之陰謀與

外之飛語，邵漸聞之，冤結胸懷，朝歲隕涕，四體漸以不仁，委身床榻。福甫十六歲，因縫紉無人，遂急為畢姻。婦，姜秀才妃瞻之女，頗賢能，百事賴以經紀。由此用漸裕，仍使祿從師讀。

魏忌嫉之，而陽與善，頻招福飲，福倚為心腹交。魏乘間告曰：「尊堂病廢，不能理家人生產，弟坐食一無所操作，賢夫婦何為作牛馬哉！且弟買婦，將大耗金錢。為君計不如早析，則貧在弟而富在君也。」福歸謀諸婦，婦咄之。奈魏日以微言相漸漬，福惑焉，直以己意告母，母怒，詬罵之。福益恚，輒視金粟為他人物而委棄之。魏乘機誘賭，倉粟漸空，婦知而未敢言。及糧絕，被母駭問，始以實告。母怒，遂析

之。幸姜女賢，旦夕為母執炊，奉事一如平日。福既析，無顧忌，大肆淫賭，數月間田屋悉償賭債，而母與妻皆不知。福資既罄，無所為計，因券妻代資，苦無受者。邑人趙閻羅，原系漏網大盜，武斷一鄉，竟不畏福言之食，慨然假資。福持去，數日復空。意踟躕，將背券盟。趙橫目相加。福懼，賺妻付之。魏聞竊喜，急奔告姜，實將傾敗仇也。姜怒，訟興；福懼甚，亡去。

姜女至趙家，方知為婿所賣，大哭，但欲覓死。趙初慰諭之，不聽；既而威逼之，愈罵；大怒，鞭撻之，終不肯服。因拔笄自刺其喉，急救，已透食管，血溢出。趙急以帛束其項，猶冀從容而挫折焉。明日拘票已至，趙行行不置意。官驗女

傷，命重答之，隸相顧不敢用刑。官久知其橫暴，至此益信，大怒，喚家人出，立斃之。姜遂舁女歸。自姜之訟也，邵氏始知福不肖狀，一號幾絕，冥然大漸。祿時年十五，瑩瑩無主。

先是，仲有前室女大娘，嫁於遠郡，性剛猛，每歸寧，饋贈不滿其志，輒迂父母，往往以憤去，仲以是怒惡之；數載已不往置問。邵氏垂危，魏欲使招之來而啟其爭。適有貿販者與大娘同里，便托寄信大娘，且歆以家之可圖。數日大娘果與少子至。入門，見幼弟侍病母，景象淒慘，不覺惻然。因問弟福，祿實告之。大娘聞之，忿氣塞吭，曰：「家無成人，遂任人蹂躪至此！吾家田產，諸賊何得賺去！」因入廚下，爇

火炊糜，先供母，而後呼弟及子啖之。啖已，忿出，詣邑投狀，訟諸博待。眾懼，斂金賂大娘。大娘受其金而仍訟之。官拘甲、乙等，各加杖責，田產殊置不問。大娘率子赴郡訟之。郡守最惡賭博。大娘力陳孤苦，及諸惡局騙之狀，情詞慷慨。守為之動，判令知縣追田給主；仍懲仇福以儆不肖。到縣，邑令奉命敲逼，於是故產盡反。

大娘已寡，乃遣少子歸，且囑從兄務業，勿得復來。大娘從此止母家，養母教弟，內外井然。母大慰，病漸瘥，家務悉委大娘。里中豪強少見陵暴，輒握刀登門，侃侃爭論，罔不屈服。居年餘，田產日增。時市藥餌珍肴，饋遺姜女。見祿

漸長成，囑媒謀姻。魏告人曰：「仇家產業，悉屬大娘，恐將來不可復返矣。」人咸信之，故無肯與論婚者。

有範公子子文，家中名園為晉第一。園中名花夾路，直通內室。或不知而誤入之，公子怒，執為盜，杖幾死。會清明，祿自塾中歸，魏引與遨遊，遂至範園。魏故與園丁相熟，放令入，周歷亭榭。俄至一處，溪水洶湧，有畫橋朱欄，通一漆門；遙望門內，繁花如錦，蓋即公子內齋也，魏給祿曰：「君請先入，我適欲私焉。」祿信之，尋橋入戶，至一院落，聞女子笑聲。方停步間，一婢出，窺見之，旋踵即返。祿始駭奔。無何公子出，叱家人綰索逐之。祿大窘，自投溪中。公子反怒為笑，命僕引出。見其容裳都雅，便令易其衣履，曳

入一亭，詰其姓氏。藹顏溫語，意甚親暱。俄趨入內；旋出，笑握祿手，過橋漸達曩所。祿不解其意，逡巡不敢入。公子強曳之入，見花籬內隱隱有美人窺伺。既坐，則群婢行酒。祿辭曰：「童子無知，誤踐閨闈，得蒙赦宥，已出非望。但求釋令早歸，受恩匪淺。」公子不聽。俄頃，肴炙紛紜。祿又起，辭以醉飽，公子捺坐，笑曰：「僕有一樂拍名，若能對之，即放君行。」祿請教。公子曰：「拍名『渾不似』。」祿默思良久，對曰：「銀成『沒奈何』。」公子大喜曰：「真石崇也！」祿殊不解。

蓋公子有女名蕙娘，美而知書，日擇良偶。夜夢一人告之曰：「石崇，汝婿也。」問：「何在？」曰：「明日落水矣。」早

告父母，共以為異。祿適符夢兆，故邀入內舍，使夫人女婢共覘之也。公子聞對而喜，乃曰：「拍名乃小女所擬，屢思而無其偶，今得屬對，亦有天緣。僕欲以息女奉箕帚；寒舍不乏第宅，更無煩親迎耳。」祿惶然遜謝，且以母病不能入贅為辭。公子姑令歸謀，遂遣園人負濕衣，送之以馬。既歸告母，母驚為不詳。於是始知魏氏險；然因兇得吉，辦置不仇，但戒子遠絕而已。逾數日公子又使人致意母，母終不敢應。大娘應之，即倩雙媒納採焉。未幾祿贅入公子家。年餘游泮，才名籍甚。妻弟長成，敬少弛；祿怒，攜婦而歸，母已杖而能行。頻歲賴大娘經紀，第宅完好。新婦既歸，僕從如云，宛然大家矣。

魏既見絕，嫉妒益深，恨無瑕之可蹈，乃引旗下逃人誣祿寄資。國初立法最嚴，祿依令徙口外。範公子上下賄托，僅以蕙娘免行；田產盡沒入官。幸大娘執析產書，銳身告理，新增良沃若干頃，悉掛福名，母女始得安居。祿自分不返，遂寫離書付岳家，伶仃自去。

行數日至都北，飯於旅肆。有丐子怔營戶外，貌絕類兄；親往訊詰，果兄。祿因自述，兄弟悲慘。祿解復衣，分數金，囑令歸。福泣受而別。祿至關外，寄將軍帳下為奴。因祿文弱，俾主文籍，與諸僕同棲止。僕輩研問家世，祿悉告之。內一人驚曰：「是吾兒也！」蓋仇仲初為寇家牧馬，後寇投誠，賣仲旗下，時從主屯關外。向祿緬述，始知真為父子，抱頭大

哭，一室俱為酸辛。已而憤曰：「何物逃東，遂詐吾兒！」因泣告將軍。將軍即令祿攝書記；函致親王，付仲詣都。仲伺車駕出，先投冤狀。親王為之婉轉，遂得昭雪，命地方官贖業歸仇。仲返，父子各喜。祿細問家口，為贖身計。乃知仲入旗下，兩易配而無所出，時方鰥居。祿遂治任歸。

初，福別弟歸，匍匐投大娘。大娘奉母坐堂上，操杖問之：「汝願受撲責，便可姑留；不然，汝田產既盡，亦無汝啖飯之所，請仍去。」福涕泣伏地，願受笞。大娘投杖曰：「賣婦之人，亦不足懲。但宿案未消，再犯首官可耳。」即使人往告姜，姜女罵曰：「我是仇家何人，而相告耶！」大娘頻述告福而揶揄之，福慚愧不敢出氣。居半年，大娘雖給奉周備，而役同廝

養。福操作無怨詞，托以金錢輒不苟。大娘察其無他，乃白母，求姜女復歸，母意其不可復挽，大娘曰：「不然。渠如肯事二主，楚毒豈肯自罹？要不能不有此忿耳。」率弟躬往負荆。岳父母諄讓良切。大娘叱使長跪，然後請見姜女。請之再四，堅避不出；大娘搜捉以出。女乃指福唾罵，福慚汗無地自容。姜母始曳令起。大娘請問歸期，女曰：「向受姊惠綦多，今承尊命，豈復敢有異言？但恐不能保其不再賣也！且恩義已絕，更何顏與黑心無賴子共生活哉？請別營一室，妾往奉事老母，較勝披削足矣。」大娘代白其悔，為翌日之約而別。

次日，以乘輿取歸，母逆於門而跪拜之。女伏地大哭。大娘勸止，置酒為歡，命福坐案側，乃執爵而言曰：「我苦爭者非自利也。今弟悔過，貞婦復還，請以簿籍交納；我以一身來，仍以一身去耳。」夫婦皆興席改容。羅拜哀泣，大娘乃止。居無何，昭雪命下，不數日，田宅悉還故主。魏大駭，不知其故，自恨無術可以復施。適西鄰有回祿之變，魏托救焚而往，暗以編菅爇祿第，風又暴作，延燒幾盡；止餘福居兩三屋，舉家依聚其中。未幾祿至，相見悲喜。初，範公子得離書，持商蕙娘。蕙娘痛哭，碎而投諸地。父從其志，不復強。祿歸聞其未嫁，喜如岳所。公子知其災，欲留之；祿不可，遂辭而退。大娘幸有藏金，出葺敗堵。福負鍤營築，掘

見窖鏹，夜與弟共發之，石池盈丈，滿中皆不動尊也。由是鳩工大作，樓舍群起，壯麗擬於世胄。祿感將軍義，備千金往贖父。福請行，因遣健僕輔之以去。祿乃迎蕙娘歸。未幾父兄同歸，一門歡騰。大娘自居母家，禁子省視，恐人議其私也。父既歸，堅辭欲去。兄弟不忍。父乃析產而三之：子得二，女得一也。大娘固辭。兄弟皆泣曰：「吾等非姊，烏有今日！」大娘乃安之，遣人招子移家共居焉。或問大娘：「異母兄弟，何遂關切如此？」大娘曰：「知有母而不知有父者，惟禽獸如此耳，豈以人而效之？」福祿聞之皆流涕，使工人治其第，皆與己等。魏自計十餘年，禍之而益福之，深自愧悔。又仰其富，思交歡之，因以賀仲階進，備物而往。福欲

卻之；仲不忍拂，受雞酒焉。雞以布縷縛足，逸入灶；灶火燃布，往棲積薪，僮婢不察。俄而薪焚災舍，一家惶駭。幸手指眾多，一時撲滅，而廚中已百物俱空矣。兄弟皆謂其物不祥。後值父壽，魏復饋牽羊。卻之不得，系羊庭樹。夜有僮被僕毆，忿趨樹下，解羊索自經死。兄弟嘆曰：「其福之不如其禍之也！」自是魏雖殷勤，竟不敢受其寸縷，寧厚酬之而已。後魏老，貧而作丐，仇每周以布粟而德報之。

異史氏曰：「噫嘻！造物之殊不由人也！益仇之而益福之，彼機詐者無謂甚矣。顧受其愛敬；而反以得禍，不更奇哉？此可知盜泉之水，一掬亦污也。」

十、十九、曹操塚

許城外有河水洶湧，近崖深黯。盛夏時有人入浴，忽然若敲刀斧，尸斷浮出；後一人亦如之。轉相驚怪。邑宰聞之，遣多人閘斷上流，竭其水。見崖下有深洞，中置轉輪，輪上排利刃如霜。去輪攻入，中有小碑，字皆漢篆。細視之，則曹孟德墓也。破棺散骨，所殉金寶盡取之。

異史氏曰：「後賢詩云：『盡掘七十二疑塚，必有一塚葬君尸。』寧知竟在七十二塚之外乎？奸哉瞞也！然千餘年而朽骨不保，變詐亦復何益？嗚呼，瞞之智正瞞之愚也！」

十、二十、龍飛相公

安慶戴生，少薄行，無檢幅。一日醉歸，途中遇故表兄季生。醉後昏眊，竟忘其死，問：「向在何所？」季曰：「僕已異物，君忘之耶？」戴始恍然，而醉亦不懼，問：「冥間何作？」答曰：「近在轉輪王殿下司錄。」戴曰：「人世禍福當必知之？」季曰：「此僕職也，烏得不知？但過繁不甚關切，不能盡記耳。三日前偶稽冊，尚睹君名。」戴急問其何詞，季曰：「不敢相欺，尊名在黑暗獄中。」戴大懼，酒亦醒，苦求拯拔。季曰：「此非僕所能效力，惟善可以已之。然君惡籍盈指，非大善不可復挽。窮秀才有何大力？即日行一善，非年餘不能相準，今已晚矣。但從此砥行，則地獄或有出時。」戴聞之

泣下，伏地哀懇；及仰首而季已杳矣。悒悒而歸。由此洗心改行，不敢差跌。

先是，戴私其鄰婦，鄰人聞之而不肯發，思掩執之。而戴自改行，永與婦絕；鄰人伺之不得，以為恨。一日遇於田間，陽與語，給窺胥井，因而墮之。井深數丈，計必死。而戴中夜蘇，坐井中大號，殊無知者。鄰人恐其復上，過宿往聽之；聞其聲，急投石。戴移避洞中，不敢復作聲。鄰人知其不死，鬪土填井，幾滿之。

洞中冥黑真與地獄無異。況空洞無所得食，計無生理。匍匐漸入，則三步外皆水，無所復之，還坐故處。初覺腹餒，久竟忘之。因思重泉下無善可行，惟長宣佛號而已。既見磷火

浮游，熒熒滿洞，因而祝之曰：「聞青磷悉為冤鬼；我雖暫生，固亦難返，如可共話，亦慰寂寞。」但見諸磷漸浮水來；磷中有一人，高約人身之半。詰所自來，答云：「此古煤井。主人攻煤，震動古墓，被龍飛相公決地海之水，溺死四十三人。我皆鬼也。」問：「相公何人？」曰：「不知也。但相公文學士，今為城隍幕客，彼亦憐我等無辜，三五日輒一施水粥。思我輩冷水浸骨，超拔無日。君倘再履人世，祈撈殘骨葬一義塚，則惠及泉下者多矣。」戴曰：「如有萬分之一，此更何難。但深在九地，安望重睹天日乎！」因教諸鬼使念佛，捻塊代珠，記其藏數。不知時之昏曉：倦則眠，醒則坐而已。

忽見深處有籠燈，眾喜曰：「龍飛相公施食矣！」邀戴同往。戴慮水沮，眾強曳扶以行，飄若履虛。曲折半里許，至一處，眾釋令自行；步益上，如升數仞之階。階盡，睹房廊，堂上燒明燭一支，大如臂。戴久不見火光，喜極趨上。上坐一叟，儒服儒巾。戴輟步不敢前，叟已睹見，訝問：「生人何來？」戴上，伏地自陳。叟曰：「我子孫也。」因令起，賜之坐。自言：「戴潛，字龍飛。向因不肖孫堂，連結匪類，近墓作井，使老夫不安於夜室，故以海水投之。今其後續如何矣？」蓋戴近宗凡五支，堂居長。初，邑中大姓賂堂，攻煤於其祖塋之側。諸弟畏其強莫敢爭。無何地水暴至，採煤人盡死井中。諸死者家群興大訟，堂及大姓皆以此貧；堂子孫至無立錐。

戴乃堂弟裔也。曾聞先人傳其事，因告翁。翁曰：「此等不肖，其後焉得昌！汝既來此，當勿廢讀。」因餉以酒饌，遂置卷案頭，皆成、洪制藝，迫使研讀。又命題課文，如師教徒。堂上燭常明，不剪亦不滅。倦時輒眠，莫辨晨夕。翁時出，則以一僮給役。歷時覺有數年之久，然幸無苦。但無別書可讀，惟制藝百首，首四千餘遍矣。翁一日謂曰：「子孽報已滿，合還人世。餘塚鄰煤洞，陰風刺骨，得志後當遷我於東原。」戴敬諾。翁乃喚集群鬼，仍送至舊坐處。群鬼羅拜再囑。戴亦不知何計可出。

先是家中失戴，搜訪既窮，母告官，系縲多人，杳無蹤跡。積三四年，官離任，緝察亦弛。戴妻不安於室，遣嫁去。會

里中人復治舊井，入洞見戴，撫之未死。大駭，報諸其家。異歸經日，始能言其底裏。自戴入井，鄰人毆殺其妻，為妻翁所訟，駁審年餘，僅存皮骨而歸。聞戴復生，大懼亡去。宗人議究治之。戴不許；且謂曩時實所自取，此冥中之譴，於彼何與焉。鄰人察其意無他，始逡巡而歸。井水既涸，戴買人入洞拾骨，俾各為具，市棺設地，葬叢塚焉。又稽宗譜名潛，字龍飛，先設品物祭諸塚。學使聞其異，又賞其文，是科以優等入闈，遂捷於鄉。既歸，營兆東原，遷龍飛厚葬之；春秋上墓，歲歲不衰。

異史氏曰：「余鄉有攻煤者，洞沒於水，十餘人沉溺其中。竭水求尸，兩月餘始得涸，而十餘人並無死者。蓋水大至時，

共泅高處，得不溺。縋而上之，見風始絕，一晝夜乃漸蘇。始知人在地下，如蛇鳥之蟄，急切未能死也。然未有至數年者。苟非至善，三年地獄中，烏復有生人哉！」

十、二十一、珊瑚

安生大成，重慶人。父孝廉，早卒。弟二成，幼。生娶陳氏，小字珊瑚，性嫻淑。而生母沈，悍不仁，遇之虐，珊瑚無怨色。每早旦靚妝往朝。值生疾，母謂其誨淫，詬責之。珊瑚退，毀妝以進。母益怒，投繯自搗。生素孝，鞭婦，母少解。自此益憎婦。婦雖奉事惟謹，終不與一語。生知母怒，亦寄宿他所，示與婦絕。久之母終不快，觸物類而罵之，意總在

珊瑚。生日：「娶妻以奉姑嫜，今若此，何以妻為！」遂出珊瑚，使老嫗送歸母家。

方出里門，珊瑚泣曰：「為女子不能作婦，歸何以見雙親？不如死！」袖中出剪刀刺喉。急救之，血溢沾襟。扶歸生族嬸家。嬸王氏，寡居無偶，遂止焉。媪歸，生囑隱其情，而心竊恐母知。過數日探知珊瑚創漸平，登王氏門，使勿留珊瑚。王召生入；不入，但盛氣逐珊瑚。無何，王乃率珊瑚出見生，問：「珊瑚何罪？」生責其不能事母。珊瑚默默不作一語，惟俯首鳴泣，淚皆赤，素衫盡染；生慘惻不能盡詞而退。又數日母已聞之，怒詣王，惡言誚讓。王傲不相下，反述其惡，且曰：「婦已出，尚屬安家何人？我自留陳氏女，非留

安氏婦也，何煩強與他家事！母怒甚而窮於詞，又見王意氣訥訥，慚沮大哭而返。

珊瑚意不自安，思他適。先是生有母姨於媪，即沈姊也。年六十餘，子死，止一幼孫及寡媳；又嘗善視珊瑚。遂辭王，往投媪。媪詰得故，極道妹子昏暴，即欲送之還。珊瑚力言其不可，兼囑勿言，乃與於媪居，如姑婦焉。珊瑚有兩兄，聞而憐之，欲移歸另嫁。珊瑚執不肯，惟從於媪紡績以自度。生自出婦，母多方為生謀婚，而悍聲流播，遠近無與為偶。積三四年，二成漸長，遂先為畢姻。二成妻臧姑，驕悍戾沓，尤倍於母。母或怒以色，則臧姑怒以聲。二成又儒，不敢為左右袒。於是母威頓減，莫敢撻，反望色笑而承迎之，猶不

能得臧姑歡。臧姑役母若婢；生不敢言，惟身代母操作，滌器灑掃之事皆與焉。母子恆於無人處，相對飲泣。無何，母以鬱抑成病，委頓在床，便溺轉側皆須生；生晝夜不得寐，兩日盡赤。呼弟代役，甫入門，臧姑輒喚去。

生於是奔告於媪，冀媪臨存。入門泣且訴；訴未畢，珊瑚自幃中出。生大慚，禁聲欲出。珊瑚以兩手叉扉。生窘極，自肘下沖出而歸，亦不敢以告母。無何於媪至，母喜止之。從此媪家無日不有人來，來必以甘旨餉媪。媪寄語寡媳：「此處不餓，後無復爾。」而家中饋遺卒無少間。媪不肯少嘗食，緘留以待病者。母病亦漸瘥。媪幼孫又以母命將佳餌來問病。沈嘆曰：「賢哉婦乎！姊何修者！」媪曰：「妹以去婦何

如人？」曰：「嘻！誠不至夫臧氏之甚也！然烏如甥婦賢。」媪曰：「婦在，汝不知勞；汝怒，婦不知怨，惡乎弗如？」沈乃泣下，且告之悔，曰：「珊瑚嫁也未者？」答云：「不知，請訪之。」又數日病愈，媪欲別。沈泣曰：「恐姊去，我仍死耳！」媪乃與生謀，析二成居。二成告臧姑。臧姑不樂，語侵兄，兼及媪。生願以良田悉歸二成，臧姑乃喜。立析產書已，媪始去。

明日以車來迎沈。沈至其家，先求見甥婦，亟道甥婦德。媪曰：「小女子百善，何遂無一疵？余固能容之。子即有婦如吾婦，恐亦不能享也。」沈曰：「冤戰！謂我木石鹿豕耶！具有口鼻，豈有觸香臭而不知者？」媪曰：「被出如珊瑚，不知

念子作何語？」曰：「罵之耳。」媪曰：「誠反躬無可罵，亦惡乎而罵之？」曰：「瑕疵人所時有，惟其不能賢，是以知其罵也。」媪曰：「當怨者不怨，則德焉者可知；當去者不去，則撫焉者可知。向之所饋遺而奉事者，固非予婦也，爾婦也。」沈驚曰：「如何？」曰：「珊瑚寄此久矣。向之所供，皆渠夜績之所貽也。」沈聞之，泣數行下，曰：「我何以見我婦矣！」媪乃呼珊瑚。珊瑚含涕而出，伏地下。母慚痛自撻，媪力勸始止，遂為姑媳如初。

十餘日偕歸，家中薄田數畝，不足自給，惟恃生以筆耕，婦以針耨。二成稱饒，然兄不之求，弟亦不之顧也。臧姑以嫂之出也鄙之；嫂亦惡其悍置不齒。兄弟各院居。臧姑時有凌

虐，一家盡掩其耳。臧姑無所用虐，虐夫及婢。婢一日自經死。婢父訟臧姑，二成代婦質理，大受撲責，仍坐拘臧姑。生上下為之營脫，卒不免。臧姑械十指肉盡脫。官貪暴，索望良奢。二成質田貸資，如數納入，姑釋歸。而債家責負曰：「亟，不得已，悉以良田鬻於村中任翁。翁以田半屬大成所讓，要生署券。生往，翁忽自言：『我安孝廉也。任某何人，敢市吾業！』又顧生曰：『冥中感汝夫妻孝，故使我暫歸一面。』」生出涕曰：「父有靈，急救吾弟！」曰：「逆子悍婦不足惜也！」歸家速辦金，贖吾血產。」生曰：「母子僅自存活，安得多金？」曰：「紫薇樹下有藏金，可以取用。」欲再問之，翁已不語；少時而醒，茫不自知。

生歸告母，亦未深信。臧姑已率人往發窖，坎地四五尺，止見磚石，並無金，失意而去。生聞其掘藏，戒母及妻勿往視。後知其無所獲，母竊往窺之，見磚石雜土中，遂返。珊瑚繼至，則見土內悉白鏹；呼生往驗之，果然。生以先人所遺，不忍私，召二成均分之。數適得揭取之二，各囊歸。二成與臧姑共驗之，啟囊則瓦礫滿中，大駭。疑二成為兄所愚，使二成往窺兄，兄方陳金幾上，與母相慶。因實告兄，兄亦駭，而心甚憐之，舉金而並賜之。二成乃喜，往酬債訖，甚德兄。臧姑曰：「即此益知兄詐。若非自愧於心，誰肯以瓜分者復讓人乎？」二成疑信半之。次日債主遣僕來，言所償皆偽金，將執以首官。夫妻皆失色。臧姑曰：「伺如！我固謂兄賢不

至於此，是將以殺汝也！」二成懼，往哀債主，主怒不釋。二成乃券田於主，聽其自售，始得原金而歸。細視之，見斷金二錠，僅裹真金一韭葉許，中盡銅耳。臧姑因與二成謀：留其斷者，餘仍反諸兄以覘之。且教之言曰：「屢承讓德，實所不忍。薄留二錠，以見推施之義。所存物產，尚與兄等。餘無庸多田也，業已棄之，贖否在兄。」生不知其意，固讓之。二成辭甚決，生乃受。稱之少五兩，命珊瑚質奩妝以滿其數，攜付債主。主疑似舊金，以剪刀夾驗之，紋色俱足，無少差謬，遂收金，與生易券。

二成還金後，意其必有參差；既聞舊業已贖，大奇之。臧姑疑發掘時，兄先隱其真金，忿詣兄所，責數詬厲。生乃悟反

金之故。珊瑚逆而笑曰：「產固在耳，何怒為？」使生出券付之。二成一夜夢父責之曰：「汝不孝不弟，冥限已迫，寸土皆非己有，占賴將以奚為！」醒告臧姑，欲以田歸兄。臧姑嗤其愚。是時二成有兩男，長七歲，次三歲。未幾長男病痘死。臧姑始懼，使二成退券於兄，言之再三，生不受。無何次男又死。臧姑益懼，自以券置嫂所。春將盡，田蕪穢不耕，生不得已種治之。

臧姑自此改行，定省如孝子，敬嫂亦至。半年母病卒。臧姑哭之慟，至勺飲不入口。向人曰：「姑早死，使我不得事，是天不許我自贖也！」育十胎皆不存，遂以兄子為子。夫妻皆壽終。生養二子皆舉進士。人以為孝友之報云。

異史氏曰：「不遭跋扈之惡，不知靖獻之忠，家與國有同情哉。逆婦化而母死，蓋一堂孝順，無德以戡之也。臧姑自克，謂天不許其自贖，非悟道者何能為此言乎？然應迫死，而以壽終，天固已恕之矣。生於憂患，有以矣夫！」

十、二十二、五通

南有五通，猶北之有狐也。然北方狐崇，尚可驅遣；而江浙五通，則民家美婦輒被淫占，父母兄弟皆莫敢息，為害尤烈。

有趙弘者吳之典商也，妻閻氏頗風格。一夜有丈夫岸然自外入，按劍四顧，婢媼盡奔。閻欲出，丈夫橫阻之，曰：「勿相

畏，我五通神四郎也。我愛汝，不為汝禍。」為抱腰舉之，如舉嬰兒，置床上，裙帶自開，遂狎之。而偉岸甚不可堪，迷惘中呻楚欲絕。四郎亦憐惜，不盡其器。既而下床，曰：「我五日當復來。」乃去。弘於門外設典肆，是夜婢奔告之。弘知其五通，不敢問。質明視之，妻憊不起，心甚羞恨，戒家人勿播。婦三四日始就平復，懼其復至。婢媪不敢宿內室，悉避外舍；惟婦對燭含愁以伺之。無何四郎偕兩人入，皆少年蘊藉。有僮列肴酒，與婦共飲。婦羞縮低頭，強之飲亦不飲；心惕惕然，恐更番為淫，則命合盡矣。三人互相勸酬，或呼大兄，或呼三弟。飲至中夜，上坐二客並起，曰：「今日四郎以美人見招，會當邀二郎、五郎釀酒為賀。」遂辭而

去。四郎挽婦入幃，婦哀免；四郎強合之，鮮血流離，昏不知人，四郎始去。婦奄臥床榻，不勝羞憤，思欲自盡，而投繯則帶自絕，屢試皆然，苦不得死。幸四郎不常至，約婦痊可始一來。積兩三月，一家俱不聊生。

有會稽萬生者，趙之表弟，剛猛善射。一日過趙，時已暮，趙以客舍為家人所集，遂宿趙內院。萬久不寐，聞庭中有人行聲，伏窗窺之，見一男子入婦室。疑之，捉刀而潛視之，見男子與閻氏並肩坐，肴陳幾上矣。忿火中騰，奔而入。男子驚起，急覓劍；刀已中顱，顱裂而踣。視之則一小馬，大如驢。愕問婦；婦具道之，且曰：「諸神將至，為之奈何！」萬搖手，禁勿聲。滅燭取弓矢，伏暗中。未幾有四五人自空

飛墮，萬急發一矢，首者殪。三人吼怒，拔劍搜射者。萬握刀依扉後，寂不動。人入，剝頸亦殪。仍倚扉後，久之無聲，乃出，叩關告趙。趙大驚，共燭之，一馬兩豕死室中。舉家相慶。猶恐二物復仇，留萬於家，俛豕烹馬而供之，味美異於常饘。萬生之名，由是大噪。

居月餘，其怪竟絕，乃辭欲去。有木商某苦要之。先是，木有女未嫁，忽五通晝降，是二十餘美丈夫，言將聘作婦，委金百兩，約吉期而去。計期已迫，合家惶懼。聞萬生名，堅請過諸其家。恐萬有難詞，隱不以告。盛筵既罷，妝女出拜客，年十六七，是好女子。萬錯愕不解其故，離席偃僂，某捺坐而實告之。萬生平意氣自豪，遂亦不辭。至日某乃懸彩

於門，使萬坐室中。日昃不至，疑新郎已在誅數。未幾見簷間忽如鳥墜，則一少年盛服入，見萬，返身而奔。萬追出，但見黑氣欲飛，以刀躍揮之，斷其一足，大嗥而去。俯視，則巨爪大如手，不知何物；尋其血跡，入於江中。某大喜，聞萬無偶，是夕即以所備床寢，使與女合卺焉。

於是素患五通者，皆拜請一宿其家。居年餘始攜妻而去。從此吳中止有一通，不敢公然為害矣。

異史氏曰：「五通、青蛙，惑俗已久，遂至任其淫亂，無人敢私議一語。萬生真天下之快人也！」

金生字王孫，蘇州人。設帳於淮，館縉紳園。園中屋宇無多，花木叢雜。夜既深，僮僕盡散，輒吊孤影。

一夜三漏將殘，忽有人以指彈扉。急問之，對以「乞火」，聲類館僮。啟戶則二八佳麗，一婢從之。生意妖魅，窮詰甚悉。女曰：「妾以君風雅之士，枯寂可憐，不畏多露，相與遣此良宵。恐言其故，妾不敢來，君亦不敢納也。」生又以為鄰之奔女，懼喪行檢，敬謝之。女橫波一顧，生覺神魂都迷，忽顛倒不能自主。婢已知之，便云：「霞姑，我且去。」女頷之。既而呵之曰：「去則去耳，甚得云耶、霞耶！」婢既去，女笑曰：「適室中無人，遂偕婢從來。無知如此，遂以小字令君聞矣。」生曰：「卿深細如此，故僕懼有禍機。」女曰：「久當

自知，但不敗君行止，勿憂也。」上榻緩其裝束。見臂上腕釧，以條金貫火齊，銜明珠二粒；燭既滅，光照一室。生益駭，終莫測其所自至。生於女去時遙尾之，女似已覺，遽蔽其光，樹濃茂，昏不見掌而返。

一日生詣河北，笠帶斷絕，風吹欲落，輒於馬上以手自按。至河，坐扁舟上，飄風墮笠，隨波竟去。意頗自失。既渡，見大風飄笠，團轉空際；漸落，以手承之，則帶已續矣。異之。歸齋向女緬述；女不言，但微笑之。生疑女所為，曰：「卿果神人，當相明告，以祛煩惑。」女曰：「岑寂之中，得此癡情人為君破悶，妾自謂不惡。縱令妾能為此，亦相愛耳。苦致詰難，欲相絕耶？」生不敢復言。

先是生有甥女既嫁，為五通所惑，心憂之而未以告人。緣與女狎暱既久，肺膈無不傾吐。女曰：「此等物事，家君能驅除之。顧何敢以情人之私告諸嚴君？」生苦哀求計。女沉思曰：「此亦易除，但須親往。若輩皆我奴隸，若令一指得著肌膚，則此恥西江不能濯也。」生哀求不已，女曰：「當即圖之。」次夕至，告曰：「妾為君遣婢南下矣。婢子弱，恐不能便誅卻耳。」次夜方寢，婢來叩戶，生急內入，女問：「何如？」答曰：「力不能擒，已宮之矣。」笑問其狀，曰：「初以為郎家也；既到始知其非。比至婿家，燈火已張，入見娘子坐燈下，隱幾若寐，我斂魂覆瓿中。少時物至，入室急退，曰：『何得寓生人！』審視無他，乃復入。我陽若迷。彼啟衾

入，又驚曰：「何得有兵氣！」本不欲以穢物污指，奈恐緩而生變，遂急促而鬪之。物驚噪遁去。乃起啟甌，娘子若醒，而婢子行矣。」生喜謝之，女與俱去。

後半月餘，女不復至，亦已絕望。歲暮解館欲歸，女復至。生喜逆之，曰：「卿久見棄，念必有獲罪處；幸不終絕耶？」女曰：「終歲之好，分手未有一言，終屬缺事。聞君卷帳，故竊來一告別耳。」生請偕歸，女嘆曰：「難言之矣！今將別，情不忍昧。妾實金龍大王之女，緣與君有夙分，故來相就。不合遣婢江南，致江湖流傳，言妾為君鬪割五通。家君聞之，以為大辱，忿欲賜死。幸婢以身自任，怒乃稍解；杖婢以百數。妾一跬步，必使保母從之，投隙一至，不能盡此衷曲，

奈何！言已欲別，生挽之而泣。女曰：「君勿爾，後三十年可復相聚。」生曰：「僕年三十矣；又三十年，皤然一老，何顏復見？」女曰：「不然，龍宮無白叟也。且人生壽夭，不在容貌，如徒求駐顏，固亦大易。」乃書一方於卷頭而去。

生旋里，甥女始言其異，云：「當晚若夢，覺一人捉塞盎中；既醒，則血殷床褥而怪絕矣。」生曰：「我曩禱河伯耳。」群疑始解。

後生六十餘，貌猶類三十許人。一日渡河，遙見上流浮蓮葉大如席，一麗人坐其上，近視則神女也。生躍從之，人隨荷葉俱小，漸漸如錢而滅。此事與趙弘一則，俱明季事，不知

孰前孰後。若在萬生用武之後，則吳下僅遺半通，宜其不為害也。

十、二十三、申氏

涇河之間，有士人子申氏者，家窶貧，竟日恆不舉火。夫妻相對，無以為計。妻曰：「無已，子其盜乎！」申曰：「士人子不能亢宗而辱門戶，羞先人，跣而生，不如夷而死！」妻忿曰：「子欲活而惡辱耶？世不田而食者，止兩途：汝既不能盜，我無寧娼乎！」申怒，與妻語相侵。妻含憤而眠。

申念：為男子不能謀兩餐，至使妻欲娼，固不如死！潛起，投繯庭樹間。但見父來，驚曰：「癡兒，何至於此！」斷其繩，

囑曰：「盜可以為，須擇禾黍深處伏之。此行可富，無庸再矣。」妻聞墮地聲，驚寤：呼夫不應，爇火覓之，見樹上纒絕，申死其下。大駭。撫捺之，移時而蘇，扶臥床上。妻忿氣少平。既明托夫病，乞鄰得稀餈餌申。申啜已，出而去。至午負一囊米至。妻問所從來，曰：「餘父執皆世家，向以搖尾羞，故不屑相求也。古人云：『不遭者可無不為。』今且將作盜，何顧焉！可速炊，我將從卿言往行劫。」妻疑其未忘前言不忿，含忍之。因漸米作糜。申飽食訖，急尋堅木，斧作梃，持之欲夫。妻察其意似真，曳而止之。申曰：「子教我為，事敗相累，當無悔！」絕裾而出。

日暮抵鄰村，違村里許伏焉。忽暴雨上下淋濕，遙望濃樹，將以投止。而電光一照，已近村垣。遠外似有行人，恐為所窺，見垣下有禾黍蒙密，疾趨而入，蹲避其中。無何一男子來，軀甚壯偉，亦投禾中。申懼不敢少動，幸男子斜行去。微窺之，入於垣中。默憶垣內為富室亢氏第，此必梁上君子，伺其重獲而出，當合有分。又念其人雄健，倘善取不予，必至用武。自度力不敵，不如乘其無備而顛之。計已定，伏伺良專。直將雞鳴，始越垣出，足未至地，申暴起，挺中腰臂，踣然傾跌，則一巨龜，喙張如盆。大驚，又連擊之，遂斃。

先是亢翁有女絕惠美，父母甚憐愛之。一夜有丈夫入室，狎逼為歡。欲號則舌已入口，昏不知人，聽其所為而去。羞以

告人，惟多集婢媼，嚴肩門戶而尺。夜既寢，更不知扉何自而開，入室則群眾皆迷，婢媼遍淫之。於是相告各駭，以告翁；翁戒家人操兵環繡闥，室中人燭而坐。約近夜半，內外人一時都暝，忽若夢醒，見女白身臥，狀類癡，良久始寤。翁甚恨之，而無如何。積數月女柴瘠頗殆，每語人：「有能驅遣者，謝金三百。」申平時亦悉聞之。是夜得龜，因悟崇翁女者，必是物也。遂叩門求賞。翁喜，筵之上座，使人舁龜於庭，鬻割之。留申過夜，其怪果絕，乃如數贈之。

負金而歸。妻以其隔夜不還，方且憂盼；見申入，急問之。申不言，以金置榻上。妻開視，幾駭絕，曰：「子真為盜耶！」申曰：「汝逼我為此，又作是言！」妻泣曰：「前特以相戲耳。」

今犯斷頭之罪，我不能為賊人累也。請先死！」乃奔。申逐出，笑曳而返之，具以實告，妻乃喜。自此謀生產，稱素封焉。

異史氏曰：「人不患貧，患無行耳。其行端者，雖餓不死；不為人憐，亦有鬼祐也。世之貧者，利所在忘義，食所在忘恥，人且不敢以一文相托，而何以見諒於鬼神乎！」

邑有貧民某乙，殘臘向盡，身無完衣。自念何以卒歲？不敢與妻言，暗操白梃，出伏墓中，冀有孤身而過者，劫其所有。懸望甚苦，渺無人跡；而松風刺骨，不可復耐。意瀕絕矣，忽見一人偃僂來。心竊喜，持梃遽出。則一叟負囊道左，哀曰：「一身實無長物。家絕食，適於婿家乞得五升米耳。」乙

奪米，復欲褫其絮襖，與苦哀求，乙憐其老，釋之，負米而歸。妻詰其白，詭以「賭債」對。

陰念此策良佳，次夜復往。居無幾時，見一人荷挺來，亦投墓中，蹲居眺望，意似同道。乙乃逡巡自塚後出。其人驚問：「誰何？」答云：「行道者。」問：「何不行？」曰：「待君耳。」其人失笑。各以意會，並道饑寒之苦。夜既深，無所獵獲。乙欲歸，其人曰：「子雖作此道，然猶雛也。前村有嫁女者，營辦中夜，舉家必殆。從我去，得當均之。」乙喜從之。至一門，隔壁聞炊餅聲，知未寢，伏伺之。無何，一人啟關荷杖出行汲，二人乘間掩入。見燈輝北舍，他屋皆暗黑。聞一媪曰：「大姐，可向東舍一矚，汝奩妝悉在櫝中，忘扃鐸

未也。」聞少女作嬌惰聲。二人竊喜，潛趨東舍，暗中摸索得臥櫝；啟復探之，深不見底。其人謂乙曰：「入之！」乙果入，得一裹傳遞而出。其人問：「盡矣乎？」曰：「盡矣。」又給之曰：「再索之。」乃閉櫝，加鎖而去。乙在其中，窘急無計。未幾燈火亮入，先照櫝。聞媪云：「誰已扃矣。」於是母及女上榻息燭。乙急甚，乃作鼠嚙物聲。女曰：「櫝中有鼠！」媪曰：「勿壞爾衣。我疲頓已極，汝宜自覘之。」女振衣起，發肩啟櫝。乙突出，女驚僕。乙拔關奔去，雖無所得，而竊幸獲免。

嫁女家被盜，四方流播。或議乙。乙懼，東遁百里，為逆旅主人賃作傭。年餘浮言稍息，始取妻同居，不業白槌矣。此其自述，因類申氏，故附志之。

十一、二一四、恆娘

都中洪大業，妻朱氏，姿致頗佳，兩相愛悅。後洪納婢寶帶為妾，貌遠遜朱，而洪嬖之。朱不平，遂致反目。洪雖不敢公然宿妾所，然益嬖妾，疏朱。

後徙居，與帛商狄姓為鄰。狄妻恆娘，先過院謁朱。恆娘三十許，姿僅中人，言詞輕倩。朱悅之。次日答拜，見其室亦有小妾，年二十許，甚娟好。鄰居幾半年，並不聞其詬誶。

一語；而狄獨鍾愛恆娘，副室則虛位而已。朱一日問恆娘曰：「予向謂良人之愛妾，為其為妾也，每欲易妻之名呼作妾。今乃知不然。夫人何術？如可授，願北面為弟子。」恆娘曰：「嘻！子則自疏，而尤男子乎？朝夕而絮聒之，是為叢驅雀，其離滋甚耳！其歸益縱之，即男子自來，勿納也。一月後當再為子謀之。」朱從其謀，益飾寶帶，使從丈夫寢。洪一飲食，亦使寶帶共之。洪時以周旋朱，朱拒之益力，於是共稱朱氏賢。

如是月餘朱往見恆娘，恆娘喜曰：「得之矣！子歸毀若妝，勿華服，勿脂澤，垢面敝履，雜家人操作。一月後可復來。」

朱從之。衣敝補衣，故為不潔清，而紡績外無他問。洪憐之，使寶帶分其勞；朱不受，輒叱去之。

如是者一月，又往見恆娘。恆娘曰：「孺子真可教也！後日為上巳節，欲招子踏春園。子當盡去敝衣，袍褲襪履，嶄然一新，早過我。」朱曰：「諾。」至日，攬鏡細勻鉛黃，一如恆娘教。妝竟，過恆娘，恆娘喜曰：「可矣！」又代換鳳髻，光可鑒影。袍袖不合時制，拆其線更作之；謂其履樣拙，更於筓中出業履，共成之，訖，即令易著。臨別飲以酒，囑曰：「歸去一見男子，即早閉戶寢，渠來叩關勿聽也。三度呼可一度納。口索舌，手索足，皆吝之。半月後當復來。」朱歸，炫妝見洪，洪上下凝睇之，歡笑異於平時。朱少話游覽，便支頤

作情態；日未昏，即起入房，闔扉眠矣。未幾洪果來款關，朱堅臥不起，洪始去。次夕復然。明日洪讓之，朱曰：「獨眠習慣，不堪復擾。」日既西，洪入閨坐守之。滅燭登床，如調新婦，綢繆甚歡。更為次夜之約；朱不可長，與洪約以三日為率。

半月許復詣恆娘，恆娘闔門與語曰：「從此可以擅專房矣。然子雖美，不媚也。子之姿，一媚可奪西施之寵，況下者乎！」於是試使貌，曰：「非也！病在外眚。」試使笑，又曰：「非也！病在左頤。」乃以秋波送嬌，又靦然瓠犀微露，使朱效之。凡數十作，始略得其仿佛。恆娘曰：「子歸矣，攬鏡而

嫻習之，術無餘矣。至於床第之間，隨機而動之，因所好而投之，此非可以言傳者也。」

朱歸，一如恆娘教。洪大悅，形神俱惑，惟恐見拒。日將暮，則相對調笑，跬步不離閨闥，日以為常，竟不能推之使去。朱益善遇寶帶，每房中之宴，輒呼與共榻坐；而洪視寶帶益丑，不終席，遣去之。朱賺夫入寶帶房，扃閉之，洪終夜無所沾染。於是寶帶恨洪，對人輒怨謗。洪益厭怒之，漸施鞭楚。寶帶忿，不自修，拖敝垢履，頭類蓬葆，更不復可言人矣。

恆娘一日謂朱曰：「我之術何加？」朱曰：「道則至妙；然弟子能由之，而終不能知之也。縱之，何也？」曰：「子不聞

乎：人情厭故而喜新，重難而輕易？丈夫之愛妾，非必其美也，甘其所乍獲，而幸其所難邁也。縱而飽之，則珍錯亦厭，況藜羹乎！」「毀之而復炫之，何也？」曰：「置不留目，則似久別；忽睹艷妝，則如新至，譬貧人驟得梁肉，則視脫粟非味矣。而又不易與之，則彼故而我新，彼易而我難，此即子易妻為妾之法也。」朱大悅，遂為閨中密友。

積數年，忽謂朱曰：「我兩人情若一體，自當不昧生平。向欲言而恐疑之也；行相別，敢以實告：妾乃狐也。幼遭繼母之變，鬻妾都中。良人遇我厚，故不忍遽絕，戀戀以至於今。朋曰老父尸解，妾往省覲，不復還矣。」朱把手唏噓。早旦往視，則舉家惶駭，恆娘已杳。

異史氏曰：「買珠者不貴珠而貴櫝：新舊易難之情，千古不能破其惑；而變憎為愛之術，遂得以行乎其間矣。古佞臣事君，勿令見人，勿使窺書。乃知容身固寵，皆有心傳也。」

十、二一五、葛巾

常大用，洛人，癖好牡丹。聞曹州牡丹甲齊、魯，心向往之。適以他事如曹，因假縉紳之園居焉。時方二月，牡丹未華，惟徘徊園中，目注勾萌，以望其拆。作《懷牡丹》詩百絕。未幾花漸含苞，而資斧將匱；尋典春衣，流連忘返。一日凌晨趨花所，則一女郎及老嫗在焉。疑是貴家宅眷，遂遄返。暮往又見之，從容避去；微窺之，宮妝艷絕。眩迷之中，忽

轉一想：此必仙人，世上豈有此女子乎！急返身而搜之，驟過假山，適與媪遇。女郎方坐石上，相顧失驚。媪以身幃女，叱曰：「狂生何為！」生長跪曰：「娘子必是仙人！」媪咄之曰：「如此妄言，自當繫送令尹！」生大懼，女郎微笑曰：「去之！」過山而去。

生返，復不能徒步。意女郎歸告父兄，必有詬辱相加。偃臥空齋，甚海孟浪。竊幸女郎無怒容，或當不復置念。悔懼交集，終夜而病。日已向辰，喜無問罪之師，心漸寧帖。回憶聲容，轉懼為想。如是三日，憔悴欲死。秉燭夜分，僕已熟眠。媪入，持甌而進曰：「吾家葛巾娘子，手合鳩湯，其速飲！」生駭然曰：「僕與娘子，夙無怨嫌，何至賜死？既為娘

子手調，與其相思而病，不如仰藥而死！遂引而盡之。嫗笑接甌而去。生覺藥氣香冷，似非毒者。俄覺肺膈寬舒，頭顱清爽，酣然睡去。既醒紅日滿窗。試起，病若失，心益信其為仙。無可夤緣，但於無人時，虔拜而默禱之。

一日行去，忽於深樹內覲面遇女郎，幸無他人，大喜投地。女郎近曳之，忽聞異香竟體，即以手握玉腕而起，指膚軟膩，使人骨節欲酥。正欲有言，老嫗忽至。女令隱身石後，南指曰：「夜以花梯度墻，四面紅窗者即妾居也。」匆匆而去。生悵然，魂魄飛散，莫知所往。至夜移梯登南垣，則垣下已有梯在，喜而下，果有紅窗。室中聞敲棋聲，佇立不敢復前，姑逾垣歸。少間再過之，子聲猶繁，漸近窺之，則女郎與一

素衣美人相對弈，老嫗亦在坐，一婢侍焉。又返。凡三往復，漏已三催。生伏梯上，聞嫗出云：「梯也，誰置此？」呼婢共移去之。生登垣，欲下無階，恨悒而返。

次夕復往，梯先設矣。幸寂無人，入，則女郎兀坐若有思者，見生驚起，斜立含羞。生揖曰：「自分福薄，恐於天人無分，亦有今夕也！」遂狎抱之。纖腰盈掬，吹氣如蘭，撐拒曰：「何遽爾！」生日：「好事多磨，遲為鬼妒。」言未已，遙聞人語。女急曰：「玉版妹子來矣！君可姑伏床下。」生從之。無何，一女子入，笑曰：「敗軍之將，尚可復言戰否？業已烹茗，敢邀為長夜之歡。」女郎辭以困惰，玉版固請之，女郎堅坐不行。玉版曰：「如此戀戀，豈藏有男子在室耶？」

強拉出門而去。生出恨極，遂搜枕簟。室內並無香奩，惟床頭有一水精如意，上結紫巾，芳潔可愛。懷之，越垣歸。自理衿袖，體香猶凝，傾慕益切。然因伏床之恐，遂有懷刑之懼，籌思不敢復往，但珍藏如意，以冀其尋。

隔夕女郎果至，笑曰：「妾向以君為君子，不知其為寇盜也。」生曰：「有之。所以偶不君子者，第望其如意耳。」乃攬體入懷，代解裙結。玉肌乍露，熱香四流，偎抱之間，覺鼻息汗熏，無氣不馥。因曰：「僕固意卿為仙人，今益知不妄。幸蒙垂盼，緣在三生。但恐杜蘭香之下嫁，終成離恨耳。」女笑曰：「君慮亦過。妾不過離魂之倩女，偶為情動耳。此事宜要慎秘，恐是非之口捏造黑白，君不能生翼，妾不能乘

風，則禍離更慘於好別矣。」生然之，而終疑為仙，固詰姓氏，女曰：「既以妾為仙，仙人何必以姓名傳。」問：「嫗何人？」曰：「此桑姥。妾少時受其露覆，故不與婢輩等。」遂起欲去，曰：「妾處耳目多，不可久羈，蹈隙當復來。」臨別，索如意，曰：「此非妾物，乃玉版所遺。」問：「玉版為誰？」曰：「妾叔妹也。」付鉤乃去。

去後，衾枕皆染異香。從此三兩夜輒一至。生惑之不復思歸，而囊橐既空欲貨馬，女知之，曰：「君以妾故，瀉囊質衣，情所不忍。又去代步，千餘里將何以歸？妾有私蓄，卿可助裝。」生辭曰：「感卿情好，撫臆誓肌，不足論報；而又貪鄙以耗卿財，何以為人乎！」女固強之，曰：「姑假君。」

遂捉生臂至一桑樹下，指一石曰：「轉之！」生從之。又拔頭上簪，刺土數十下，又曰：「爬之。」生又從之。則甕口已見。女探入，出白鏹近五十餘兩，生把臂止之，不聽，又出數十錠，生強分其半而後掩之。

一夕謂生曰：「近日微有浮言，勢不可長，此不可不預謀也。」生驚曰：「且為奈何！」小生素迂謹，今為卿故，如寡婦之失守，不復能自主矣。一惟卿命，刀鋸斧鉞，亦所不遑顧耳！女謀偕亡，命生先歸，約會於洛。生治任旋里，擬先歸而後迎之；比至，則女郎車適已至門。登堂朝家人，四鄰驚賀，而並不知其竊而逃也。生竊自危，女殊坦然，謂生曰：「無

論千里外非邏察所及，即或知之，妾世家女，卓王孫當無如長卿何也。」

生弟大器，年十七，女顧之曰：「是有慧根，前程尤勝於君。」完婚有期，妻忽夭殞。女曰：「妾妹玉版，君固嘗窺見之，貌頗不惡，年亦相若，作夫婦可稱佳偶。」生請作伐，女曰：「是亦何難。」生曰：「何術？」曰：「妹與妾最相善。兩馬駕輕車，費一嫗之往返耳。」生恐前情發，不敢從其謀，女曰：「不妨。」即命桑嫗遣車去。數日至曹。將近裏門，婢下車，使御者止而候於途，乘夜入里。良久偕女子來，登車遂發。昏暮即宿車中，五更復行。女郎計其時日，使大器盛服而迎之。

五十里許乃相遇，御輪而歸；鼓吹花燭，起拜成禮。由此兄弟皆得美婦，而家又日富。

一日有大寇數十騎突入第。生知有變，舉家登樓。寇入圍樓。生俯問：「有仇否？」答云：「無仇。但有兩事相求：一則聞兩夫人世間所無，請賜一見；一則五十八人，各乞金五百。」聚薪樓下，為縱火計以脅之。生允其索金之請，寇不滿志，欲焚樓，家人大恐。女欲與玉版下樓，止之不聽。炫妝下階，未盡者三級，謂寇曰：「我姊妹皆仙媛，暫時一履塵世，何畏寇盜！欲賜汝萬金，恐汝不敢受也。」寇眾一齊仰拜，喏聲「不敢」。姊妹欲退，一寇曰：「此詐也！」女聞之，反身

佇立，曰：「意欲何作，便早圖之！尚未晚也。」諸寇相顧，默無一言。姊妹從容上樓而去。寇仰望無跡，哄然始散。

後二年，姊妹各舉一子，始漸自言：「魏姓，母封曹國夫人。」生疑曹無魏姓世家，又且大姓失女，何得置之不問？未敢窮詰，心竊怪之。遂托故復詣曹，入境諮訪，世族並無魏姓。於是仍假館舊主人，忽見壁上有贈曹國夫人詩，頗涉駭異，因詰主人。主人笑，即請往觀曹夫人，至則牡丹一本，高與簷等。問所由名，則以其花為曹第一，故同人戲封之。問其「何種」？曰：「葛巾紫也。」愈駭，遂疑女為花妖。既歸不敢質言，但述贈夫人詩以覘之。女蹙然變色，遽出呼玉版抱兒至，謂生曰：「三年前感君見思，遂呈身相報，今見猜疑，

何可復聚！」因與玉版皆舉兒遙擲之，兒墮地並沒。生方驚顧，則二女俱渺矣。悔恨不已。後數日，墮兒處生牡丹二株，一夜徑尺，當年而花，一紫一白，朵大如盤，較尋常之葛巾、玉版，瓣尤繁碎。數年茂蔭成叢，移分他所，更變異種，莫能識其名。自此牡丹之盛，洛下無雙焉。

異史氏曰：「懷之專一，鬼神可通，偏反者亦不可謂無情也。少府寂寞，以花當夫人；況真能解語，何必力窮其原哉？惜常生之未達也！」

# 十一、卷十一

## 十一、一、馮木匠

撫軍周有德，改創故藩邸為部院衙署。時方鳩工，有木作匠馮明寰直宿其中。夜方就寢，忽見紋窗半開，月明如晝。遙望短垣上立一紅雞，注目間，雞已飛搶至地。俄一少女，露半身來相窺。馮疑為同輩所私；靜聽之，眾已熟眠。私心忤忤，竊望其誤投也。少間女果越窗過，徑已入懷。馮喜，默不一言。歡畢，女亦遂去。自此夜夜至。初猶自隱，後遂明告。女曰：「我非誤就，敬相投耳。」兩人情日密。既而工滿，馮欲歸，女已候於曠野。馮所居村離郡固不甚遠，女遂

從去。既入室，家人皆莫之睹，馮始知其非人。迨數月，精神漸減，心益懼，延師鎮驅，卒無少驗。一夜女艷妝來，向馮曰：「世緣俱有定數：當來推不去，當去亦挽不住。今與子別矣。」遂去。

十一、二、黃英

馬子才，順天人。世好菊，至才尤甚，聞有佳種必購之，千里不憚。一日有金陵客寓其家，自言其中表親有一二種，為北方所無。馬欣動，即刻治裝，從客至金陵。客多方為之營求，得兩芽，裹藏如寶。

歸至中途，遇一少年，跨蹇從油碧車，豐姿灑落。漸近與語，少年自言：「陶姓。」談言騷雅。因問馬所自來，實告之。少年曰：「種無不佳，培溉在人。」因與論藝菊之法。馬大悅，問：「將何往？」答云：「姊厭金陵，欲卜居於河朔耳。」馬欣然曰：「僕雖固貧，茅廬可以寄榻。不嫌荒陋，無煩他適。」陶趨車前向姊咨稟，車中人推簾語，乃二十許絕世美人也。顧弟言：「屋不厭卑，而院宜得廣。」馬代諾之，遂與俱歸。第南有荒圃，僅小室三四椽，陶喜居之。日過北院為馬治菊，菊已枯，拔根再植之，無不活。然家清貧，陶日與馬共飲食，而察其家似不舉火。馬妻呂，亦愛陶姊，不時以升斗饋恤之。陶姊小字黃英，雅善談，輒過呂所，與共紉績。陶一日謂馬

曰：「君家固不豐，僕日以口腹累知交，胡可為常！為今計，賣菊亦足謀生。」馬素介，聞陶言，甚鄙之，曰：「僕以君風流雅士，當能安貧；今作是論，則以東籬為市井，有辱黃花矣。」陶笑曰：「自食其力不為貪，販花為業不為俗。人固不可苟求富，然亦不必務求貧也。」馬不語，陶起而出。自是馬所棄殘枝劣種，陶悉掇拾而去。由此不復就馬寢食，招之始一至。未幾菊將開，聞其門囂喧如市。怪之，過而窺焉，見市人買花者，車載肩負，道相屬也。其花皆異種，日所未睹。心厭其貪，欲與絕；而又恨其私秘佳種，遂款其扉，將就消讓。陶出，握手曳入。見荒庭半畝皆菊畦，數椽之外無曠土。劬去者，則折別枝插補之；其蓓蕾在畦者，罔不佳妙，

而細認之，盡皆向所拔棄也。陶入室，出酒饌，設席畦側，曰：「僕貧不能守清戒，連朝幸得微資，頗足供醉。」少間，房中呼「三郎」，陶諾而去。俄獻佳肴，烹飪良精。因問：「貴姊胡以不字？」答云：「時未至。」問：「何時？」曰：「四十三月。」又詰：「何說？」但笑不言，盡歡始散。過宿又詣之，新插者已盈尺矣。大奇之，苦求其術，陶曰：「此固非可言傳；且君不以謀生，焉用此？」又數日，門庭略寂，陶乃以蒲席包菊，捆載數車而去。逾歲，春將半，始載南中異卉而歸，於都中設花肆，十日盡售，復歸藝菊。問之去年買花者，留其根，次年盡變而劣，乃復購於陶。

陶由此日富。一年增舍，二年起夏屋。興作從心，更不謀諸主人。漸而舊日花畦，盡為廊舍。更於牆外買田一區，築墉四周，悉種菊。至秋載花去，春盡不歸。而馬妻病卒。意屬黃英，微使人風示之。黃英微笑，意似允許，惟專候陶歸而已。年餘陶竟不至。黃英課僕種菊，一如陶。得金益合商賈，村外治膏田二十頃，甲第益壯。忽有客自東粵來，寄陶生函信，發之，則囑姊歸馬。考其寄書之日，即馬妻死之日；回憶國中之飲，適四十三月也，大奇之。以書示英，請問「致聘何所」。英辭不受採。又以故居陋，欲使就南第居，若贅焉。馬不可，擇日行親迎禮。

黃英既適馬，於間壁開扉通南第，日過課其僕。馬恥以妻富，恆囑黃英作南北籍，以防淆亂。而家所需，黃英輒取諸南第。不半歲，家中觸類皆陶家物。馬立遣人一一齎還之，戒勿復取。未浹旬又雜之。凡數更，馬不勝煩。黃英笑曰：「陳仲子母乃勞乎？」馬慚，不復稽，一切聽諸黃英。鳩工庀料，土木大作，馬不能禁。經數月，樓舍連垣，兩第竟合為一，不分疆界矣。然遵馬教，閉門不復業菊，而享用過於世家。馬不自安，曰：「僕三十年清德，為卿所累。今視息人間，徒依裙帶而食，真無一毫丈夫氣矣。人皆祝富，我但祝窮耳！」黃英曰：「妾非貪鄙；但不少致豐盈，遂令千載下人，謂淵明貧賤骨，百世不能發跡，故聊為我家彭澤解嘲耳。然貧者

願富為難，富者求貧固亦甚易。床頭金任君揮去之，妾不  
靳也。」馬曰：「捐他人之金，抑亦良醜。」英曰：「君不願  
富，妾亦不能貧也。無已，析君居：清者自清，濁者自濁，  
何害？」乃於園中築茅茨，擇美婢往侍馬。馬安之。然過數  
日，苦念黃英。招之不肯至，不得已反就之。隔宿輒至以為  
常。黃英笑曰：「東食西宿，廉者當不如是。」馬亦自笑無以  
對，遂復合居如初。

會馬以事客金陵，適逢菊秋。早過花肆，見肆中盆列甚繁，  
款朵佳勝、心動，疑類陶制。少間主人出，果陶也。喜極，  
具道契闊，遂止宿焉。要之歸，陶曰：「金陵吾故土，將婚  
於是。積有薄資，煩寄吾姊。我歲杪當暫去。」馬不聽，請

之益苦。且曰：「家幸充盈，但可坐享，無須復賈。」坐肆中，使僕代論價，廉其直，數日盡售。逼促囊裝，賃舟遂北，入門，則姊已除舍，床榻裊褥皆設，若預知弟也歸者。陶自歸，解裝課役，大修亭園，惟日與馬共棋酒，更不復結一客。為之擇婚，辭不願。姊遣二婢侍其寢處，居三四年中一女。陶飲素豪，從不見其沉醉。有友人曾生，量亦無對。適過馬，馬使與陶相較飲。二人縱飲甚歡，相得恨晚。自辰以迄四漏，計各盡百壺。曾爛醉如泥，沉睡座間。陶起歸寢，出門踐菊畦，玉山傾倒，委衣於側，即地化為菊，高如人；花十餘朵，皆大如拳。馬駭絕，告黃英。英急往，拔置地上，曰：「胡醉至此！覆以衣，要馬俱去，戒勿視。既明而往，則陶臥畦

邊。馬乃悟姊弟皆菊精也，益敬愛之。而陶自露跡，飲益放，恆自折柬招會，因與莫逆。值花朝，會乃造訪，以兩僕舁藥浸白酒一壇，約與共盡。壇將竭，二人猶未甚醉。馬潛以一瓶續入之，二人又盡之。會醉已憊，諸僕負之以去。陶臥地，又化為菊。馬見慣不驚，如法拔之，守其旁以觀其變。久之，葉益憔悴。大懼，始告黃英。英聞駭曰：「殺吾弟矣！」奔視之，根株已枯。痛絕，掐其梗，埋盆中，攜入閨中，日灌溉之。馬悔恨欲絕，甚怨會。越數日，聞會已醉死矣。盆中花漸萌，九月既開，短幹粉朵，嗅之有酒香，名之「醉陶」，澆以酒則茂。後女長成，嫁於世家。黃英終老，亦無他異。

異史氏曰：「青山白雲人，遂以醉死，世盡惜之，而未必不自以為快也。植此種於庭中，如見良友，如見麗人，不可不物色之也。」

十一、三、書癡

彭城郎玉柱，其先世官至太守，居官廉，得俸不治生產，積書盈屋。至玉柱尤癡。家苦貧，無物不鬻，惟父藏書，一卷不忍置。父在時，曾書《勸學篇》粘其座右，郎日諷誦；又幃以素紗，惟恐磨滅。非為干祿，實信書中真有金粟。晝夜研讀，無問寒暑。年二十餘，不求婚朽，冀卷中麗人自至。

見賓親不知溫涼，三數語後，則誦聲大作，客逡巡自去。每文宗臨試，輒首拔之，而苦不得售。

一日方讀，忽大風飄卷去。急逐之，踏地陷足；探之，穴有腐草；掘之，乃古人窖粟，配敗已成糞土。雖不可食，而益信「千鍾」之說不妄，讀益力。一日梯登高架，於亂卷中得金輦徑尺，大喜，以為「金屋」之驗。出以示人，則鍍金而非真金。心竊怨古人之誑己也。居無何，有父同年，觀察是道，性好佛。或勸郎獻輦為佛龕。觀察大悅，贈金三百、馬二匹。郎喜，以為金屋、車馬皆有驗，因益刻苦。然行年已三十矣。或勸其娶，曰：「『書中自有顏如玉』，我何憂無美妻乎？」又讀二三年，迄無效，人咸揶揄之。時民間訛言天

上織女私逃。或戲郎：「天孫竊奔，蓋為君也。」郎知其戲，置不辯。

一夕讀《漢書》至八卷，卷將半，見紗剪美人夾藏其中。駭曰：「書中顏如玉，其以此驗之耶？」心悵然自失。而細視美人，眉目如生；背隱隱有細字云：「織女。」大異之。日置卷上，反復瞻玩，至忘食寢。一日方注目間，美人忽折腰起，坐卷上微笑。郎驚絕，伏拜案下。既起，已盈尺矣。益駭，又叩之。下幾亭亭，宛然絕代之姝。拜問：「何神？」美人笑曰：「妾顏氏，字如玉，君固相知已久。日垂青盼，脫不一至，恐千載下無復有篤信古人者。」郎喜，遂與寢處。然枕席間親愛倍至，而不知為人。

每讀必使女坐其側。女戒勿讀，不聽；女曰：「君所以不能騰達者，徒以讀耳。試觀春秋榜上，讀如君者幾人？若不聽，妾行去矣。」郎暫從之。少頃忘其教，吟誦復起。逾刻索女，不知所在。神志喪失，囑而禱之，殊無影跡。忽憶女所隱處，取《漢書》細檢之，直至舊處，果得之。呼之不動，伏以哀祝。女乃下曰：「君再不聽，當相永絕！」因使治棋枰、檮蒲之具，日與遨戲。而郎意殊不屬。覩女不在，則竊卷流覽。恐為女覺，陰取《漢書》第八卷，雜混他所以迷之。一日讀酣，女至竟不之覺；忽睹之，急掩卷而女已亡矣。大懼，冥搜諸卷，渺不可得；既，仍於《漢書》八卷中得之，頁數不爽。因再拜祝，矢不復讀。

女乃下，與之弈，曰：「三日不工，當復去。」至三日，忽一局贏女二子。女乃喜，授以弦索，限五日工一曲。郎手營目注，無暇他及；久之隨手應節，不覺鼓舞。女乃日與飲博，郎遂樂而忘讀，女又縱之出門，使結客，由此倜儻之名暴著。女曰：「子可以出而試矣。」

郎一夜謂女曰：「凡人男女同居則生子；今與卿居久，何不然也？」女笑曰：「君日讀書，妾固謂無益。今即夫婦一章，尚未了悟，枕席二字有工夫。」郎驚問：「何工夫？」女笑不言。少間潛迎就之。郎樂極曰：「我不意夫婦之樂，有不可言傳者。」於是逢人輒道，無有不掩口者。女知而責之，郎

曰：「鈔穴逾隙者始不可以告人，天倫之樂人所皆有，何諱焉？」過八九月，女果舉一男，買媪撫字之。

一日，謂郎曰：「妾從君二年，業生子，可以別矣。久恐為君禍，悔之已晚。」郎聞言泣下，伏不起，曰：「卿不念呱呱者耶？」女亦淒然，良久曰：「必欲妾留，當舉架上書盡散之。」郎曰：「此卿故鄉，乃僕性命，何出此言！」女不之強，曰：「妾亦知其有數，不得不預告耳。」先是，親族或窺見女，無不駭絕，而又未聞其締姻何家，共詰之。郎不能作偽語，但默不言。人益疑，郵傳幾遍，聞於邑宰史公。史，閩人，少年進士。聞聲傾動，竊欲一睹麗容，因而拘郎與女。女聞知遁匿無跡。宰怒，收郎，斥革衣衿，梏械備加，務得

女所自往。郎垂死無一言。械其婢，略得道其仿佛。宰以為妖，命駕親臨其家。見書卷盈屋，多不勝搜，乃焚之庭中，煙結不散，暝若陰霾。

郎既釋，遠求父門入書，得從辨復。是年秋捷，次年舉進士。而銜恨切於骨髓。為顏如玉之位，朝夕而祝曰：「卿如有靈，當佑我官於閩。」後果以直指巡閩。居三月，訪史惡款，籍其家。時有中表為司理，逼納愛妾，托言買婢寄署中。案既結，郎即日自劾，取妾而歸。

異史氏曰：「天下之物，積則招妒，好則生魔，女之妖書之魔也。事近怪誕，治之未為不可；而祖龍之虐不已慘乎！其存心之私，更宜得怨毒之報也。嗚呼！何怪哉！」

十一、四、齊天大聖

許盛，竟人。從兄成賈於閩，貨未居積。客言大聖靈著，將禱諸祠。盛未知大聖何神，與兄俱往。至則殿閣連蔓，窮極弘麗。入殿瞻仰，神猴首人身，蓋齊天大聖孫悟空雲。諸客肅然起敬，無敢有惰容。盛素剛直，竊笑世俗之陋。眾焚奠叩祝，盛潛去之。既歸，兄責其慢。盛曰：「孫悟空乃丘翁之寓言，何遂誠信如此？如其有神，刀槩雷霆，餘自受之！」逆旅主人聞呼大聖名，皆搖手失色，若恐大聖聞。盛見其狀，益嘩辨之，聽者皆掩耳而走。

至夜盛果病，頭痛大作。或勸詣祠謝，盛不聽。未幾頭小愈，股又痛，竟夜生巨疽，連足盡腫，寢食俱廢。兄代禱迄無驗；或言：神譴須自祝，盛卒不信。月餘瘡漸斂，而又一疽生，其痛倍苦。醫來，以刀割腐肉，血溢盈碗；恐人神其詞，故忍而不呻。又月餘始就平復。而兄又大病。盛曰：「何如矣！敬神者亦復如是，足徵餘之疾非由悟空也。」兄聞其言，益恚，謂神遷怒，責弟不為代禱。盛曰：「兄弟猶手足。前日支體糜爛而不之禱；今豈以手足之病，而易吾守乎？」但為延醫銜藥，而不從其禱。藥下，兄暴斃。

盛慘痛結於心腹，買棺殮兄已，投祠指神而數之曰：「兄病，謂汝遷怒，使我不能自白。倘爾有神，當今死者復生。餘即

北面稱弟子，不敢有異詞；不然，當以汝處三清之法，還處汝身，亦以破吾兄地下之惑。」至夜夢一人招之去，入大聖祠，仰見大聖有怒色，責之曰：「因汝無狀，以菩薩刀穿汝脛股；猶不自悔，嘖有煩言。本宜送拔舌獄，念汝一念剛鯁，姑置宥赦。汝兄病，乃汝以庸醫夭其壽數，與人何尤？今不少施法力，益令狂妄者引為口實。」乃命青衣使請命於閻羅。青衣曰：「三日後鬼籍已報天庭，恐難為力。」神取方版，命筆不知何詞，使青衣執之而去。良久乃返。成與俱來，並跪堂上。神問：「何遲？」青衣曰：「閻魔不敢擅專，又持大聖旨上咨斗宿，是以來遲。」盛趨上拜謝神恩。神曰：「可速與兄俱去。若能向善，當為汝福。」兄弟悲喜，相將俱歸。醒而

異之。急起，啟材視之，兄果已蘇，扶出，極感大聖力。盛由此誠服信奉，更倍於流俗。而兄弟資本，病中已耗其半；兄又未健，相對長愁。

一日偶游郊郭，忽一褐衣人相之曰：「子何憂也？」盛方苦無所訴，因而備述其遭。褐衣人曰：「有一佳境，暫往瞻矚，亦足破悶。」問：「何所？」但云：「不遠。」從之。出郭半里許，褐衣人曰：「予有小術，頃刻可到。」因命以兩手抱腰，略一點頭，遂覺雲生足下，騰蹕而上，不知幾百由旬。盛大懼，閉目不敢少啟。頃之曰：「至矣。」忽見琉璃世界，光明異色，訝問：「何處？」曰：「天宮也。」信步而行，上上益高。遙見一叟，喜曰：「適遇此老，子之福也！」舉手相揖。叟邀

過詣其所，烹茗獻客；止兩盞，殊不及盛。褐衣人曰：「此吾弟子，千里行賈，敬造仙署，求少贈饋。」與命僮出白石一椀，狀類雀卵，瑩澈如冰，使盛自取之。盛念攜歸可作酒枚，遂取其六。褐衣人以為過廉，代取六枚付盛並裹之。囑納腰橐，拱手曰：「足矣。」辭與出，仍令附體而下，俄頃及地。盛稽首請示仙號，笑曰：「適即所謂斤斗雲也。」盛恍然悟為大聖，又求祐護。曰：「適所會財星，賜利十二分，何須多求。」盛又拜之，起視已渺。

既歸，喜而告兄。解取共視，則融入腰橐矣。後輦貨而歸，其利倍蓰。自此屢至閩必禱大聖。他人之禱時不甚驗，盛所求無不應者。

異史氏曰：「昔士人過寺，畫琵琶於壁而去；比返，則其靈大著，香火相屬焉。天下事固不必實有其人，人靈之則既靈焉矣。何以故？人心所聚，而物或托焉耳。若盛之方鯁，固宜得神明之祐，豈真耳內繡針，毫毛能變，足下觔斗，碧落可升哉！卒為邪惑，亦其見之不真也。」

十一、五、青蛙神

江漢之間，俗事蛙神最虔。祠中蛙不知幾百千萬，有大如籠者。或犯神怒，家中輒有異兆；蛙游幾榻，甚或攀緣滑壁，其狀不一，此家當兇。人則大恐，斬牲禳禱之，神喜則已。

楚有薛昆生者，幼惠，美姿容。六七歲時，有青衣媪至其家，自稱神使，坐致神意，願以女下嫁昆生。薛翁性樸拙，雅不欲，辭以兒幼。雖固卻之，而亦未敢議婚他姓。遲數年，昆生漸長，委禽於姜氏。神告姜曰：「薛昆生吾婿也，何得近禁鬻！」姜懼，反其儀。薛翁憂之，潔牲往禱，自言不敢與神相匹偶。祝已，見肴酒中皆有巨蛆浮出，蠢然擾動，傾棄謝罪而歸。心益懼，亦姑聽之。

一日昆生在途，有使者迎宣神命，苦邀移趾。不得已，從與俱往。入一朱門，樓閣華好。有叟坐堂上，類七八十歲人。昆生伏謁，叟命曳起之，賜坐案旁。少間，婢媪集視，紛紜滿側。叟顧曰：「人言薛郎至矣。」數婢奔去。移時，一媪率女

郎出，年十六七，麗絕無儔。與指曰：「此小女十娘，自謂與君可稱佳偶，君家尊乃以異類見拒。此自百年事，父母止主其半，是在君耳。」昆生日注十娘，心愛好之，默然不言。媪曰：「我固知郎意良佳。請先歸，當即送十娘往也。」昆生日：「諾。」趨歸告翁。翁倉遽無所為計，乃授之詞，使返謝之，昆生不肯行。方消讓間，輿已在門，青衣成群，而十娘入矣。上堂朝見翁姑，見之皆喜。即夕合卺，琴瑟甚諧。由此冲翁神媪時降其家。視其衣，赤為喜，白為財，必見，以故家日興。自婚於神，門堂藩溷皆蛙，人無敢詬蹴之。惟昆生少年任性，喜則忌，怒則踐斃，不甚愛惜。十娘雖謙馴，但含怒，頗不善昆生所為，而昆生不以十娘故斂抑之。十娘

語侵昆生，昆生怒曰：「豈以汝家翁媪能禍人耶？大丈夫何畏蛙也！」十娘甚諱言「蛙」，聞之恚甚，曰：「自妾入門為汝家婦，田增粟，賈增價，亦復不少。今老幼皆已溫飽，遂於鴉鳥生翼，欲啄母睛耶！」昆生益憤曰：「吾正嫌所增污穢，不堪貽子孫。請不如早別，」遂逐十娘，翁媪既聞之，十娘已去。呵昆生，使急往追復之。昆生盛氣不屈。至夜母子俱病，鬱冒不食。翁懼，負荊於祠，詞義殷切。過三日病尋愈。十娘已自至，夫妻歡好如初。

十娘日輒凝妝坐，不操女紅，昆生衣履一委諸母。母一日忿曰：「兒既娶，仍累媪！人家婦事姑，我家姑事婦！」十娘適聞之，負氣登堂曰：「兒婦朝侍食，暮問寢，事姑者，其道

如何？所短者，不能吝傭錢自作苦耳。」母無言，慚沮自哭。昆生入見母涕痕，詰得故，怒責十娘。十娘執辨不相屈。昆生曰：「娶妻不能承歡，不如勿有！便觸老蛙怒，不過橫災死耳！」復出十娘。十娘亦怒，出門徑去。次日居舍災，延燒數屋，幾案床榻，悉為煨燼。昆生怒，詣祠責數曰：「養女不能奉翁姑，略無庭訓，而曲護其短！神者至公，有教人畏婦者耶！且盞盂相敲，皆臣所為，無所涉於父母。刀鋸斧鉞，即加臣身；如其不然，我亦焚汝居室，聊以相報。」言已，負薪殿下，爇火欲舉。居人集而哀之，始憤而歸。父母聞之，大懼失色。至夜神示夢於近村，使為婿家營宅。及明齎材鳩工，共為昆生建造，辭之不肯；日數百人相屬於道，

不數日第舍一新，床幕器具悉備焉。修除甫竟，十娘已至，登堂謝過，言詞溫婉。轉身向昆生展笑，舉家變怨為喜。自此十娘性益和，居二年無間言。

十娘最惡蛇，昆生戲函小蛇，給使啟之。十娘變色，詬昆生。昆生亦轉笑生嗔，惡相抵。十娘曰：「今番不待相迫逐，請自此絕。」遂出門去。薛翁大恐，杖昆生，請罪於神。幸不禍之，亦寂無音。積有年餘，昆生懷念十娘，頗自悔，竊詣神所哀十娘，迄無聲應。未幾，聞神以十娘字袁氏，中心失望，因亦求婚他族；而歷相數家，並無如十娘者，於是益思十娘。往探袁氏，則已墜壁滌庭，候魚軒矣。心愧憤不能自已，廢食成疾。父母憂皇，不知所處。

忽昏憤中有人撫之曰：「大丈夫頻欲斷絕，又作此態！」開目則十娘也。喜極，躍起曰：「卿何來？」十娘曰：「以輕薄人相待之禮，止宜從父命，另醮而去。固久受袁家採幣，妾千思萬思而不忍也。卜吉已在今夕，父又無顏反幣，妾親攜而置之矣。適出門，父走送曰：『癡婢！不聽吾言，後受薛家凌虐，縱死亦勿歸也。』」昆生感其義，為之流涕。家人皆喜，奔告翁媪。媪聞之，不待往朝，奔入子舍，執手嗚泣。由此昆生亦老成，不作惡虐，於是情好益篤。十娘曰：「妾向以君儂薄，未必遂能相白首，故不欲留孽根於人世；今已靡他，妾將生子。」居無何，神翁神媪著朱袍，降臨其家。次日十娘臨蓐，一舉兩男。

由此往來無間。居民或犯神怒，輒先求昆生；乃使婦女輩盛妝入閨，朝拜十娘，十娘笑則解。薛氏苗裔甚繁，人名之「薛蛙子家」。近人不敢呼，遠人則呼之。

青蛙神，往往托諸巫以為言。巫能察神嗔喜：告諸信士曰「喜矣」，神則至；「怒矣」，婦子坐愁嘆，有廢餐者。流俗然哉？抑神實靈，非盡妄也？

有富賈周某性吝嗇。會居人斂金修關聖祠，貧富皆與有力，獨周一毛所不肯拔。久之工不就，首事者無所為謀。適眾賽蛙神，巫忽言：「周將軍倉命小神司募政，其取簿籍來。」眾從之。巫曰：「已捐者不復強，未捐者量力自注。」眾唯唯敬聽，各注已。巫視曰：「周某在此否？」周方混跡其後，惟

恐神知，聞之失色，次且而前。巫指籍曰：「注金百。」周益窘，巫怒曰：「淫債尚酬二百，況好事耶！」蓋周私一婦，為夫掩執，以金二百自贖，故訐之也。周益慚懼，不得已，如命注之。

既歸告妻，妻曰：「此巫之詐耳。」巫屢索，卒不與。一日方晝寢，忽聞門外如牛喘。視之則，巨蛙，室門僅容其身，步履蹇緩，塞兩扉而入。既入轉身臥，以闔承頷，舉家盡驚。周曰：「此必討募金也。」焚香而祝，願先納三十，其餘以次贖送，蛙不動；請納五十，身忽一縮小尺許；又加二十益縮如斗；請全納，縮如拳，從容出，入墻罅而去。周急以五十金送監造所，人皆異之，周亦不言其故。積數日，巫又言：「周

某欠金五十，何不催並？」周聞之，懼，又送十金，意將以次完結。一日夫婦方食，蛙又至，如前狀，目作怒。少間登其床，床搖撼欲傾；加喙於枕而眠，腹隆起如臥牛，四隅皆滿。周懼，即完百數與之。驗之，仍不少動。半日間小蛙漸集，次日益多，穴倉登榻，無處不至；大於碗者，升灶啜蠅，糜爛釜中，以致穢不可食；至三日庭中蠢蠢，更無隙地。一家皇駭，不知計之所出。不得已，請教於巫。巫曰：「此必少之也。」遂祝之，益以二十首始舉；又益之起一足；直至百金，四足盡起，下床出門，狼狽數步，復返身臥門內。周懼，問巫。巫揣其意，欲周即解囊。周無奈何，如數付巫，

蛙乃行，數步外身暴縮，雜眾蛙中，不可辨認，紛紛然亦漸散矣。

祠既成，開光祭賽，更有所需。巫忽指首事者曰：「某宜出如乾數。共十五人，止遺二人。眾祝曰：『吾等與某某，已同捐過。』」巫曰：「我不以貧富為有無，但以汝等所侵漁之數為多寡。此等金錢，不可自肥，恐有橫災飛禍。念汝等首事勤勞，故代汝消之也。除某某廉正無苟且外，即我家巫，我亦不少私之，便令先出，以為眾倡。」即奔入家，搜括箱櫝。妻問之亦不答，盡卷囊蓄而出，告眾曰：「某私克銀八兩，今使傾橐。」與眾衡之，秤得六兩餘，使人志之。眾愕然，不敢置辯，悉如數納入。巫過此茫不自知；或告之，大

慚，質衣以盈之。惟二人虧其數，事既畢，一人病月餘，一人患疔瘡，醫藥之費，浮於所欠，人以為私克之報云。

異史氏曰：「老蛙司募，無不可與為善之人，其勝刺釘拖索者不既多乎？又發監守之盜而消其災，則其現威猛，正其行慈悲也。神矣！」

十一、六、任秀

任建之，魚臺人。販氈裘為業，竭資赴陝。途中逢一人。自言：「申竹亭，宿遷人。」話言投契，盟為昆弟，行止與俱。至陝，任病不起，申善視之，積十餘日，疾大漸。謂申曰：「吾家故無恆產，八口衣食皆恃一人犯霜露。今不幸殂謝異域。

君，我手足也，兩千里外，更有誰何！囊金二百餘金，一半君自取之，為我小備殮具，剩者可助資斧；其半寄吾妻子，俾輦吾櫬而歸。如肯攜殘骸旋故里，剛裝資勿計矣。」乃扶枕為書付申，至夕而卒。申以五六金為市薄材，殮已。主人催其移柩，申托尋寺觀，竟遁不返。任家年餘方得確耗。

任子秀，年十七，方從師讀，由此廢學，欲往尋父柩。母憐其幼，秀哀涕欲死，遂典資治任，俾老僕佐之行，半年始還。殯後家貧如洗。幸秀聰穎，釋服，入魚臺泮。而佻達喜博，母教戒綦嚴，卒不改。一日文宗案臨，試居四等。母憤泣不食，秀慚懼，對母自矢。於是閉戶年餘，遂以優等食餼。母勸令設帳，而人終以其蕩無檢幅，咸訕薄之。

有表叔張某賈京師，勸赴都，願攜與俱，不耗其資。秀喜從之。至臨清，泊舟關外。時鹽航艤集，帆檣如林。臥後，聞水聲人聲，聒耳不寐。更既靜，忽聞鄰舟骰聲清越，入耳縈心，不覺舊技復癢。竊聽諸客，皆已酣寢，囊中自備千文，思欲過舟一戲。潛起解囊，捉錢踟躕，回思母訓，即復束置。既睡，心怔沖苦不得眠；又起又解，如是者三。興勃發，不可復忍，攜錢徑去。至鄰舟，則見兩人對賭，錢注豐美。置錢幾上，即求入局。二人喜，即與共擲。秀大勝。一客錢盡，即以巨金質舟主，漸以十餘貫作孤注。賭方酣，又有一人登舟來，眈視良久，亦傾囊出百金質主人，入局共博。張中夜醒，覺秀不在舟，聞骰聲，心知之，因詣鄰舟，欲撓沮之。

至，則秀胯側積資如山，乃不復言，負錢數千而返。呼諸客並起，往來移運，尚存十餘千。未幾三客俱敗，一舟之錢盡空。客欲賭金，而秀欲已盈，故托非錢不博以難之。張在側，又促逼令歸。三客燥急。舟主利其盆頭，轉貸他舟，得百餘千。客得錢，賭更豪，無何又盡歸秀。

天已曙，放曉關矣，共運資而返。三客已去。主人視所質二百餘金，盡箔灰耳。大驚，尋至秀舟，告以故，欲取償於秀，及問里居、姓名，知為建之之子，縮頸羞汗而退。過訪榜人，乃知主人即申竹亭也。秀至陝時，亦頗聞其姓字；至此鬼已報之，故不復追其前卻矣。乃以資與張合業而北，終歲獲息倍蓰。遂援例入監。益權子母，十年間財雄一方。

十一、七、晚霞

五月五日，吳越有鬥龍舟之戲：剡木為龍，繪鱗甲，飾以金碧；上為雕蓑朱檻，帆旌皆以錦繡。舟末為龍尾高丈餘，以布索引木板下垂。有童坐板上，顛倒滾跌，作諸巧劇。下臨江水，險危欲墮。故其購是童也，先以金啖其父母，預調馴之，墮水而死勿悔也。吳門則載美姬，較不同耳。

鎮江有蔣氏童阿端，方七歲。便捷奇巧莫能過，聲價益起，十六歲猶用之。至金山下墮水死。蔣媪止此子，哀鳴而已。阿端不自知死，有兩人導去，見水中別有天地；回視則流波四繞，屹如壁立。俄入宮殿，見一人兜牟坐。兩人曰：「此

龍窩君也。」便使拜伏，龍窩君顏色和霽，曰：「阿端伎巧可入柳條部。」遂引至一所，廣殿四合。趨上東廊，有諸少年出與為禮，率十三四歲。即有老嫗來，眾呼解姥。坐令獻技。已，乃教以「錢塘飛霆」之舞，「洞庭和風」之樂。但聞鼓鉦惶聒，諸院皆響；既而諸院皆息。姥恐阿端不能即嫻，獨絮絮調撥之；而阿端一過殊已了了。姥喜曰：「得此兒，不讓晚霞矣！」

明日龍窩君按部，諸部畢集。首按「夜叉部」，鬼面魚服，鳴大鉦，圍四尺許，鼓可四人合抱之，聲如巨霆，叫噪不復可聞。舞起則巨濤洶湧，橫流空際，時墮一點大如盆，著地消滅。龍窩君急止之，命進「乳鶯部」，皆二八姝麗，笙樂細

作，一時清風習習，波聲俱靜，水漸凝如水晶世界，上下通明。按畢，俱退立西墀下。次按「燕子部」，皆垂髻人。內一女郎，年十四五已來，振袖傾鬟，作「散花舞」；翩翩翔起，衿袖襪履間，皆出五色花朵，隨風颺下，飄泊滿庭。舞畢，隨其部亦下西墀。阿端旁睨，雅愛好之，問之同部，即晚霞也。無何，喚「柳條部」。龍窩君特試阿端。端作前舞，喜怒隨腔，俯仰中節。龍窩君嘉其惠悟，賜五文褲褶，魚須金束發，上嵌夜光珠。阿端拜賜下，亦趨西墀，各守其伍。端於眾中遙注晚霞，晚霞亦遙注之。少間，端逡巡出部而北，晚霞亦漸出部而南，相去數武，而法嚴不敢亂部，相視神馳而已。既按「蛺蝶部」，童男女皆雙舞，身長短、年大小、服

色黃白，皆取諸同。諸部按畢，魚貫而出。「柳條」在「燕子部」後，端疾出部前，而晚霞已緩滯在後。回首見端，故遺珊瑚釵，端急內袖中。

既歸，凝思成疾，眠餐頓廢。解姥輒進甘旨，日三四省，撫摩殷切，病不少瘥。姥憂之，罔所為計，曰：「吳江王壽期已促，且為奈何！」薄暮一童子來，坐榻上與語，自言：「隸蛺蝶部。」從容問曰：「君病為晚霞否？」端驚問：「何知？」笑曰：「晚霞亦如君耳。」端淒然起坐，便求方計。童問：「尚能步否？」答云：「勉強尚能自力。」童挽出，南啟一戶，折而西，又闢雙扉。見蓮花數十畝，皆生平地上，葉大如席，花大如蓋，落瓣堆梗下盈尺。童引入其中，曰：「姑坐此。」

遂去。少時，一美人撥蓮花而入，則晚霞也。相見驚喜，各道相思，略述生平。遂以石壓荷蓋令側，雅可幃蔽；又勻鋪蓮瓣而藉之，忻與狎寢。既訂後約，日以夕陽為候，乃別。端歸，病亦尋愈。由此兩人日以會於蓮畝。

過數日，隨龍窩君往壽吳江王。稱壽已，諸部悉歸，獨留晚霞及乳鶯部一人在宮中教舞。數月更無音耗，端悵望若失。惟解姥日往來吳江府，端托晚霞為外妹，求攜去，冀一見之。留吳江門下數日，宮禁嚴森，晚霞苦不得出，怏怏而返。積月餘，癡想欲絕。一日解姥入，戚然相吊曰：「惜乎！晚霞投江矣！」端大駭，涕下不能自止。因毀冠裂服，藏金珠而出，意欲相從俱死。但見江水若壁，以首力觸不得入。念欲

復還，懼問冠服，罪將增重。意計窮蹇，汗流浹踵。忽睹壁下有大樹一章，乃猿攀而上，漸至端杪，猛力躍墮，幸不沾濡，而竟已浮水上。不意之中，恍睹人世，遂飄然泅去。移時得岸，少坐江濱，頓思老母，遂趁舟而去。

抵裏，四顧居廬，忽如隔世。次旦至家，忽聞窗中有女子曰：「汝子來矣。」音聲甚似晚霞。俄，與母俱出，果霞。斯時兩人喜勝於悲；而媪則悲疑驚喜，萬狀俱作矣。初，晚霞在吳江，覺腹中震動，龍宮法禁嚴，恐旦夕身媿，橫遭撻楚，又不得一見阿端，但欲求死，遂潛投江水。身泛起，沉浮波中，有客舟拯之，問其居里。晚霞故吳名妓，溺水不得其尸，自念衍院不可復投，遂曰：「鎮江蔣氏，吾婿也。」客因代貫

扁舟，送諸其家。蔣媪疑其錯誤，女自言不誤，因以其情詳告媪。媪以其風格婉妙，頗愛悅之。第慮年太少，必非肯終寡也者。而女孝謹，顧家中貧，便脫珍飾售數萬。媪察其志無他，良喜。然無子，恐一旦臨蓐，不見信於戚里，以謀女。女曰：「母但得真孫，何必求人知。」媪亦安之。

會端至，女喜不自己。媪亦疑兒不死；陰發兒塚，骸骨俱存，因以此詰端。端始爽然自悟；然恐晚霞惡其非人，囑母勿復言。母然之。遂告同里，以為當日所得非兒尸，然終慮其不能生子。未幾竟舉一男，捉之無異常兒，始悅。久之，女漸覺阿端非人，乃曰：「胡不早言！凡鬼衣龍宮衣，七七魂魄

堅凝，生人不殊矣。若得宮中龍角膠，可以續骨節而生肌膚，惜不早購之也。」

端貨其珠，有賈胡出資百萬，家由此巨富。值母壽，夫妻歌舞稱觴，遂傳聞王邸。王欲強奪晚霞。端懼，見王自陳：「夫婦皆鬼。」驗之無影而信，遂不之奪。但遣宮人就別院傳其技。女以龜溺毀容，而後見之。教三月，終不能盡其技而去。

十一、八、白秋練

直隸有慕生，小字蟾宮，商人慕小寰之子。聰惠喜讀。年十六，翁以文業迂，使去而學賈，從父至楚。每舟中無事，輒

便吟誦。抵武昌，父留居逆旅，守其居積。生乘父出，執卷哦詩，音節鏗鏘。輒見窗影憧憧，似有人竊聽之，而亦未之異也。

一夕翁赴飲，久不歸，生吟益苦。有人徘徊窗外，月映甚悉。怪之，遽出窺覘，則十五六傾城之姝。望見生，急避去。又二三日，載貨北旋，暮泊湖濱。父適他出，有媪入曰：「郎君殺吾女矣！」生驚問之，答云：「妾白姓。有息女秋練，頗解文字。言在郡城，得聽清吟，於今結念，至絕眠餐。意欲附為婚姻，不得復拒。」生心實愛好，第慮父嗔，因直以情告。媪不實信，務要盟約。生不肯，媪怒曰：「人世姻好，有求委禽而不得者。今老身自媒，反不見納，恥孰甚焉！請勿想

北渡矣！遂去。少間父歸，善其詞以告之，隱冀垂納。而父以涉遠，又薄女子之懷春也，笑置之。

泊舟處水深沒棹；夜忽沙磧擁起，舟滯不得動。湖中每歲客舟必有留住守洲者，至次年桃花水溢，他貨未至，舟中物當百倍於原直也，以故翁未甚憂怪。獨計明歲南來，尚須揭資，於是留子自歸。生竊喜，悔不詰媪居里。日既暮，媪與一婢扶女郎至，展衣臥諸榻上，向生曰：「人病至此，莫高枕作無事者！」遂去。生初聞而驚；移燈視女，則病態含嬌，秋波自流。略致訊詰，嫣然微笑。生強其一語，曰：「為郎憔悴卻羞郎」，可為妾詠。」生狂喜，欲近就之，而憐其荏弱。探手於懷，接□為戲。女不覺歡然展謔，乃曰：「君為

妾三吟王建『羅衣葉葉』之作，病當愈。」生從其言。甫兩過，女攬衣起曰：「妾愈矣！」再讀，則嬌顛相和。生神志益飛，遂滅燭共寢。女未曙已起，曰：「老母將至矣。」未幾媪果至。見女凝妝歡坐，不覺欣慰；邀女去，女俯首不語。媪即自去，曰：「汝樂與郎君戲，亦自任也。」於是生始研問居止。女曰：「妾與君不過傾蓋之交，婚嫁尚未可必，何須令知家門。」然兩人互相愛悅，要誓良堅。

女一夜早起挑燈，忽開卷淒然淚瑩，生起急問之。女曰：「阿翁行且至。我兩人事，妾適以卷卜，展之得李益《江南曲》，詞意非祥。」生慰解之，曰：「首句『嫁得瞿塘賈』，即已大吉，何不祥之與有！」女乃少歡，起身作別曰：「暫請分手，

天明則千人指視矣。」生把臂哽咽，問：「好事如諧，何處可以相報？」曰：「妾常使人偵探之，諧否無不聞也。」生將下舟送之，女力辭而去。無何慕果至。生漸吐其情，父疑其招妓，怒加詬厲。細審舟中財物，並無虧損，譙呵乃已。一夕翁不在舟，女忽至，相見依依，莫知決策。女曰：「低昂有數，且圖目前。姑留君兩月，再商行止。」臨別，以吟聲作為相會之約。由此值翁他出，遂高吟，則女自至。四月行盡，物價失時，諸賈無策，斂資禱湖神之廟。端陽後，雨水大至，舟始通。

生既歸，凝思成疾。慕憂之，巫醫並進。生私告母曰：「病非藥禳可痊，惟有秋練至耳。」翁初怒之；久之支離益憊，始

懼，賃車載子復入楚，泊舟故處。訪居人，並無知白媪者。會有媪操柁湖濱，即出自任。翁登其舟，窺見秋練，心竊喜，而審詰邦族，則浮家泛宅而已。因實告子病由，冀女登舟，姑以解其沉痾。媪以婚無成約，弗許。女露半面，殷殷窺聽，聞兩人言，皆淚欲望。媪視女面，因翁哀請，即亦許之。至夜翁出，女果至，就榻鳴泣曰：「昔年妾狀今到君耶！此中況味，要不可不使君知。然羸頓如此，急切何能使瘳？妾請為君一吟。」生亦喜。女亦吟王建前作。生日：「此卿心事，醫二人何得效？然聞卿聲，神已爽矣。試為我吟『楊柳千條盡向西』。」女從之。生贊曰：「快哉！卿昔誦詩餘，有《採蓮子》云：『菡萏香蓮十頃陡。』心尚未忘，煩一曼聲度之。」

女又從之。甫闕，生躍起曰：「小生何嘗病哉！」遂相狎抱，沉痾若失。既而問：「父見媪何詞？事得諧否？」女已察知翁意，直對「不諧」。

既而女去，父來，見生已起，喜甚，但慰勉之。因曰：「女子良佳。然自總角時把柁棹歌，無論微賤，抑亦不貞。」生不語。翁既出，女復來，生述父意。女曰：「妾窺之審矣：天下事，愈急則愈遠，愈迎則愈拒。當使意自轉，反相求。」生問計，女曰：「凡商賈之志在於利耳。妾有術知物價。適視舟中物，並無少息。為我告翁：居某物利三之；某物十之。歸家，妾言驗，則妾為佳婦矣。再來時君十八，妾十七，相歡有日，何憂為！」生以所言物價告父。父頗不信，姑以餘

資半從其教。既歸，所自買貨，資本大虧；幸少從女言，得厚息，略相準。以是服秋練之神。生益誇張之，謂女自誇，能使己富。翁於是益揭資而南。至湖，數日不見白媪；過數日，始見其泊舟柳下，因委禽焉。媪悉不受，但涓吉送女過舟。翁另賃一舟，為子合巹。

女乃使翁益南，所應居貨，悉籍付之。媪乃邀婿去，家於其舟。翁三月而返。物至楚，價已倍蓰。將歸，女求載湖水；既歸，每食必加少許，如用醯醬焉。由是每南行，必為致數壇而歸。後三四年，舉一子。

一日涕泣思歸。翁乃偕子及婦俱入楚。至湖，不知媪之所在。女扣舷呼母，神形喪失。促生沿湖問訊。會有釣鱖者，得

白驥。生近視之，巨物也，形全類人，乳陰畢具。奇之，歸以告女。女大駭，謂夙有放生願，囑生贖放之。生往商釣者，釣者索直昂。女曰：「妾在君家，謀金不下巨萬，區區者何遂靳直也！如必不從，妾即投湖水死耳！」生懼，不敢告父，盜金贖放之。既返不見女。搜之不得，更盡始至。問：「何往？」曰：「適至母所。」問：「母何在？」腆然曰：「今不得不實告矣：適所贖，即妾母也。向在洞庭，龍君命司行旅。近宮中欲選嬪妃，妾被浮言者所稱道，遂敕妾母，坐相索。妾母實奏之。龍君不聽，放母於南濱，餓欲死，故罹前難。今難雖免，而罰未釋。君如愛妾，代禱真君可免。如以異類見憎，請以兒擲還君。妾自去，龍宮之奉，未必不百倍君家

也。」生大驚，慮真君不可得見。女曰：「明日未刻，真君當至。見有跛道士，急拜之，入水亦從之。真君喜文士，必合憐允。」乃出魚腹綾一方，曰：「如問所求，即出此，求書一『免』字。」生如言候之。果有道士蹙蹙而至，生伏拜之。道士急走，生從其後。道士以杖投水，躍登其上。生竟從之而登，則非杖也，舟也。又拜之，道士問：「何求？」生出羅求書。道士展視曰：「此白驥翼也，子何遇之？」蟾宮不敢隱，詳陳始末。道士笑曰：「此物殊風流，老龍何得荒淫！」遂出筆草書「免」字如符形，返舟令下。則見道士踏杖浮行，頃刻已渺。歸舟女喜，但囑勿洩於父母。

歸後二三年，翁南游，數月不歸。湖水俱罄，久待不至。女遂病，日夜喘急，囑曰：「如妾死，勿瘞，當於卯、午、酉三時，一吟杜甫《夢李白》詩，死當不朽。待水至，傾注盆內，閉門緩妾衣，抱入浸之，宜得活。」喘息數日，奄然遂斃。後半月，慕翁至，生急如其教，浸一時許，漸蘇。自是每思南旋。後翁死，生從其意，遷於楚。

十一、九、王者

湖南巡撫某公，遣州佐押解餉六十萬赴京。途中被雨，日暮愆程，無所投宿，遠見古剎，因詣棲止。天明視所解金，蕩

然無存。眾駭怪莫可取咎。回白撫公，公以為妾，將置之法；及詰眾役，並無異詞。公責令仍反故處，緝察端緒。

至廟前見一瞽者，形貌奇異，自榜云：「能知心事。」因求卜筮。瞽曰：「是為失金者。」州佐曰：「然。」因訴前苦。瞽者便索肩輿，云：「但從我去當自知。」遂如其言，官役皆從之。瞽曰：「東」。東之。瞽曰：「北」。北之。凡五日，入深山，忽睹城郭，居人輻輳。入城走移時，瞽曰：「止。」因下輿，以手南指：「見有高門西向，可款關自問之。」拱手自去。州佐如其教，果見高門，漸入之。一人出，衣冠漢制，不言姓名。州佐述所自來，其人云：「請留數日，當與君謁當事者。」遂導去，令獨居一所，給以食飲。暇時閑步至第

後，見一園亭，入涉之。老松翳日，細草如氈。數轉廊榭，又一高亭，歷階而入，見壁上掛人皮數張，五官俱備，腥氣流熏。不覺毛骨森豎，疾退歸舍。自分留鞞異域，已無生望，因念進退一死，亦姑聽之。

明日，衣冠者召之去，曰：「今日可見矣。」州佐唯唯。衣冠者乘怒馬甚駛，州佐步馳從之。俄，至一轅門，儼如制府衙署，皂衣人羅列左右，規模凜肅。衣冠者下馬導入。又一重門，見有王者，珠冠繡紱南面坐。州佐趨上伏謁。王者問：「汝湖南解官耶？」州佐諾。王者曰：「銀俱在此。是區區者，汝撫軍即慨然見贈，未為不可。」州佐泣訴：「限期已滿，歸必就刑，稟白何所申證？」王者曰：「此即不難。」遂

付以巨函云：「以此復之，可保無恙。」又遣力士送之。州佐懾息不敢辨，受函而返。山川道路，悉非來時所經。既出山，送者乃去。

數日抵長沙，敬白撫公。公益妄之，怒不容辨，命左右者飛索以縲。州佐解襍出函，公拆視未竟，面如灰土。命釋其縛，但云：「銀亦細事，汝姑出。」於是急檄屬官，設法補解訖。數日公疾，尋卒。先是公與愛姬共寢，既醒，而姬發盡失。闔署驚怪，莫測其由。蓋函中即其發也。外有書云：「汝自起家守令，位極人臣。賂賂貪婪，不可悉數。前銀六十萬，業已驗收在庫。當自發貪囊，補充舊額。解官無罪，不得加譴責。前取姬發，略示微警。如復不遵教令，旦晚取汝首領。」

姬發附還，以作明信。」公卒後，家人始傳其書。後屬員遣人尋其處，則皆重巖絕壑，更無徑路矣。

異史氏曰：「紅線金合，以儆貪婪，良亦快異。然桃源仙人，不事劫掠；即劍客所集。烏得有城郭衙署哉？嗚呼！是何神歟？苟得其地，恐天下之赴訴者無已時矣。」

十一、十、某甲

某甲私其僕婦，因殺僕納婦，生二子一女。閱十九年，巨寇破城，劫掠一空。一少年賊，持刀入甲家。甲視之，酷類死僕。自嘆曰：「吾今休矣！」傾囊贖命。迄不顧，亦不一言，

但搜人而殺，共殺一家二十七口而去。甲頭未斷，寇去少蘇，猶能言之。三日尋斃。嗚呼！果報不爽，可畏也哉！

十一、十一、衢州三怪

張握仲從戎衢州，言：「衢州夜靜時，人莫敢獨行。鐘樓上有鬼，頭上一角，象貌獐惡，聞人行聲即下。人馳而奔，鬼亦遂去。然見之輒病，且多死者。又城中一塘，夜出白布一匹，如匹練橫地。過者拾之，即卷入水。又有鴨鬼，夜既靜，塘邊並寂無一物，若聞鴨聲，人即病。」

十一、十二、拆樓人

何冏卿，平陰人。初令秦中，一賣油者有薄罪，其言戇，何怒，杖殺之。後仕至銓司，家資富饒。建一樓，上梁日，親賓稱觴為賀。忽見賣油者入，陰自駭疑。俄報妾生子，愀然曰：「樓工未成，拆樓人已至矣！」人謂其戲，而不知其實有所見也。後子既長，最頑，蕩其家。傭為人役，每得錢數文，輒買香油食之。

異史氏曰：「常見富貴家數第連亙，死後，再過已墟。此必有拆樓人降生其家也。身居人上，烏可不早自惕哉！」

十一、十三、大蠍

明彭將軍宏，征寇入蜀。至深山中，有大禪院，雲已百年無僧。詢之土人，則曰：「寺中有妖，入者輒死。」彭恐伏寇，率兵斬茅而入。前殿中有皂雕奪門飛去；中殿無異；又進之，則佛閣，周視亦無所見，但入者皆頭痛不能禁。彭親入，亦然。少頃，有大蠍如琵琶，自板上蠢蠢而下，一軍驚走，彭遂火其寺。

十一、十四、陳云犧

真毓生，楚夷陵人，孝廉之子。能文，美豐姿，弱冠知名。兒時，相者曰：「後當娶女道士為妻。」父母共以為笑。而為

之論婚，低昂苦不能就。生母臧夫人，祖居黃岡，生以故詣外祖母。聞時人語曰：「黃州『四云』，少者無論。」蓋郡有呂祖庵，庵中女道士皆美，故云。

庵去臧氏村僅十餘里，生因竊往。扣其關，果有女道士三四人，謙喜承迎，儀度皆潔。中一最少者，曠世真無其儔，心好而目注之。女以手支頤但他顧。諸道士覓盞烹茶。生乘間問姓字，答云：「雲棲，姓陳。」生戲曰：「奇矣！小生適姓潘。」陳頰顏發頰，低頭不語，起而去。少間淪茗，進佳果，各道姓字：一白雲深，年三十許；一盛雲眠，二十已來；一梁雲棟，約二十有四五，卻為弟。而雲棲不至，生殊悵惘，

因問之。白曰：「此婢懼生人。」生乃起別，白力挽之，不留而出。白曰：「而欲見雲棲，明日可復來。」

生歸，思戀綦切。次日又詣之。諸道士俱在，獨少雲棲，未便遽問。諸道士治具留餐，生力辭，不聽。白拆餅授箸，勸進良殷。既問：「雲棲何在？」答云：「自至。」久之，日勢已晚，生欲歸。白捉腕留之，曰：「姑止此，我捉婢子來奉見。」生乃止。俄，挑燈具酒，雲眠亦去。酒數行，生辭已醉。白曰：「飲三觥，則雲棲出矣。」生果飲如數。梁亦以此挾勸之，生又盡之，覆盞告辭。白顧梁曰：「吾等面薄，不能勸飲，汝往曳陳婢來，便道潘郎待妙常已久。」梁去，少時而返，具言：「雲棲不至。」生欲去，而夜已深，乃佯醉仰

臥。兩人代裸之，迭就淫焉。終夜不堪其擾。天既明，不睡而別，數日不敢復往，而心念雲棲不忘也，但不時於近側探偵之。

一日既暮，白出門與少年去。生喜，不甚畏梁，急往款關。雲眠出應門，問之，則梁亦他適。因問雲棲，盛導去，又入一院。呼曰：「雲棲！客至矣。」但見室門闔然而合。盛笑曰：「閉扉矣。」生立窗外，似將有言，盛乃去。雲棲隔窗曰：「人皆以妾為餌釣君也。頻來則身命殆矣。妾不能終守清規，亦不敢遂乖廉恥，欲得如潘郎者事之耳。」生乃以白頭相約。雲棲曰：「妾師撫養，即亦非易，果相見愛，當以

二十金贖妾身。妾候君三年。如望為桑中之約，所不能也。」生諾之。方欲自陳，而盛復至，從與俱出，遂別歸。

中心怛悵，思欲委曲夤緣，再一親其嬌範，適有家人報父病，遂星夜而還。無何，孝廉卒。夫人庭訓最嚴，心事不敢使知，但刻減金資日積之。有議婚者，輒以服闋為辭。母不聽。生婉告曰：「曩在黃岡，外祖母欲以婚陳氏，誠心所願。今遭大故，音耗遂梗，久不如黃省問；旦夕一往，如不果諧，從母所命。」夫人許之。乃攜所積而去。

至黃詣庵中，則院宇荒涼，大異疇昔。漸入之，惟一老尼炊灶下，因就問。尼曰：「前年老道士死，『四云』星散矣。」問：「何之？」曰：「雲深、雲棟，從惡少去；向聞雲棲寓居

郡北；雲眠消息不知也。」生聞之悲嘆。命駕即詣郡北，遇觀輒詢，並少蹤跡。悵恨而歸，偽告母曰：「舅言：陳翁如岳州，待其歸，當遣伴來。」

逾半年夫人歸寧，以事問母，母殊茫然。夫人怒子誑；媪疑甥與舅謀，而未以問也。幸舅出莫從稽其妄。夫人以香願登蓮峰。齋宿山下。既臥，逆旅主人扣扉，送一女道士寄宿同舍，自言：「陳雲棲。」聞夫人家夷陵，移坐就榻，告訴坎坷，詞旨悲惻。末言：「有表兄潘生，與夫人同籍，煩囑子侄輩一傳口語，但道其寄棲鶴觀師叔王道成所。朝夕厄苦，度日如歲。令早一臨存；恐過此以往，未之或知也。」夫人審名

字，即又不知。但云：「既在學宮，秀才輩想無不聞也。」未明早別，殷殷再囑。

夫人既歸，向生言及。生長跪曰：「實告母：所謂潘生即兒也。」大人既知其故，怒曰：「不肖兒！宣淫寺觀，以道士為婦，何顏見親賓乎！」生垂頭，不敢出詞。會生以赴試入郡，竊命舟訪王道成。至，則雲棲半月前出游不返。既歸，悒悒而病。

適臧媪卒，夫人往奔喪，殯後迷途，至京氏家，問之，則族妹也。相便邀入。見有少女在堂，年可十八九，姿容曼妙，目所未睹。夫人每思得一佳婦，俾子不懟，心動，因詰生平。妹云：「此王氏女也，京氏甥也。怙恃俱夫，暫寄此耳。」

問：「婿家誰？」曰：「無之。」把手與語，意致嬌婉，母大悅，為之過宿，私以己意告妹。妹曰：「良佳。但其人高白位置，不然，胡蹉跎至今也。容商之。」夫人招與同榻，談笑甚歡，自願母夫人。夫人悅，請同歸荊州，女益喜。

次日同舟而還。既至，則生病未起，母慰其沉痾，使婢陰告曰：「夫人為公子載麗人至矣。」生未信，伏窗窺之，較雲棲尤艷絕也。因念：三年之約已過，出游不返，則玉容必已有主。得此佳麗，心懷頗慰。於是靦然動色，病亦尋瘳。母乃招兩人相拜見。生出，夫人謂女：「亦知我同歸之意乎？」女微笑曰：「妾已知之。但妾所以同歸之初志，母不知也。妾少字夷陵潘氏，音耗闊絕，必已另有良匹。果爾，則為母也。」

婦；不爾，則終為母也女，報母有日也。」夫人曰：「既有成約，即亦不強。但前在五祖山時，有女冠向潘氏，今又潘氏，固知夷陵世族無此姓也。」女驚曰：「臥蓮峰下者母耶？詢潘氏者即我是也。」母始恍然悟，笑曰：「若然，則潘生固在此矣。」女問：「何在？」夫人命婢導去問生，生驚曰：「卿雲棲耶？」女問：「何如？」生言其情，始知以潘郎為戲。女知為生，羞與終談，急返告母。母問其：「何復姓王？」答云：「妾本姓王。道師見愛，遂以為女，從其姓耳。」夫人亦喜，涓吉為之成禮。先是，女與雲眠俱依王道成。道成居隘，雲眠遂去之漢口。女嬌癡不能作苦，又羞出操道士業，道成頗不善之。會京氏如黃岡，女遇之流涕，因與俱去，俾改女

子裝，將論婚士族，故諱其曾隸道士籍。而問名者女輒不願，舅及姑妗皆不知意向，心厭嫌之。是日從夫人歸，得所托，如釋重負焉。合卺後各述所遭，喜極而泣。女孝謹，夫人雅憐愛之；而彈琴好弈，不知理家人生業，夫人頗以為憂。

積月餘，母遣兩人如京氏，留數日而歸，泛舟江流，欸一舟過，中一女冠，近之則雲眠也。雲眠獨與女善。女喜，招與同舟，相對酸辛。問：「將何之？」盛云：「久切懸念。遠至棲鶴觀。則聞依京舅矣。故將詣黃岡一奉探耳。竟不知意中人已得相聚。今視之如仙，剩此漂泊人，不知何時已矣！」因而歛歔。女設一謀，令易道裝，偽作姊，攜伴夫人，徐擇佳偶。盛從之。

既歸，女先白夫人，盛乃入。舉止大家；談笑間，練達世故。母既寡苦寂，得盛良歡，惟恐其去。盛早起代母劬勞，不自作客。母益喜，陰思納女姊，以掩女冠之名，而未敢言也。一日忘某事未作，急問之，則盛代備已久。因謂女曰：「畫中人不能作家，亦復何為。新婦若大姊者，吾不憂也。」不知女存心久，但恐母嗔。聞母言，笑對曰：「母既愛之，新婦欲效英、皇，何如？」母不言，亦靦然笑。女退，告生曰：「老母首肯矣。」乃另潔一室，告曰：「昔在觀中共枕時，姊言：『但得一能知親愛之人，我兩人當共事之。』猶憶之否？」盛不覺雙眦熒熒，曰：「妾所謂親愛者非他，如日日經營，曾無一人知其甘苦；數日來，略有微芳，即煩老母恤念，則中心冷

暖頓殊矣。若不下逐客令，俾得長伴老母，於願斯足，亦不望前言之踐也。」女告母。母今姊妹焚香，各矢無悔詞，乃使生與行夫婦禮。將寢，告生曰：「妾乃二十三歲老處女也。」生猶未信。既而落紅殷褥，始奇之。盛曰：「妾所以樂得良人者，非不能甘岑寂也；誠以閨閣之身，覷然酬應如勾欄，所不堪耳。借此一度，掛名君籍，當為君奉事老母，作內紀綱，若房闈之樂，請別與人探討之。」三日後，襪被從母，遣之不去。女早詣母所，占其床寢，不得已，乃從生去。由是三兩日輒一更代，習為常。

夫人故善弈，自宴居，不暇為之。自得盛，經理井井，晝日無事，輒與女弈。挑燈瀹茗，聽兩婦彈琴，夜分始散。每與

人曰：「兒父在時，亦未能有此樂也。」盛司出納，每紀籍報母。母疑曰：「兒輩常言幼孤，作字彈棋，誰教之？」女笑以實告。母亦笑曰：「我初不俗為兒娶一道士，今竟得兩矣。」忽憶童時所卜，始信定數不可逃也。生再試不第。夫人曰：「吾家雖不豐，簿田三百畝，幸得雲眠紀理，日益溫飽。兒但在膝下，率兩婦與老身共樂，不願汝求富貴也。」生從之。後雲眠生男女各一，雲棲女一男三。母八十餘歲而終。孫皆入泮；長孫，雲眠所出，已中鄉選矣。

十一、十五、司札吏

游擊官某，妻妾甚多。最諱某小字，呼年曰歲，生日硬，馬曰大驢；又諱敗曰勝，安為放。雖簡札往來，不甚避忌，而家人道之，則怒。一日司札吏白事，誤犯；大怒，以研擊之立斃。三日後醉臥，見吏持刺入，問：「何為？」曰：「馬子安」來拜。」忽悟其鬼，急起，拔刀揮之。吏微笑，擲刺幾上，泯然而沒。取刺視之，書云：「歲家眷硬大驢子放勝。」暴謬之夫，為鬼挪揄，可笑甚已！

牛首山一僧，自名鐵漢，又名鐵屎。有詩四十首，見者無不絕倒。自鏤印章二：一曰：「混帳行子」，一曰「老實潑皮」。

秀水王司直梓其詩，名曰：《牛山四十屁》。款云：「混帳行子，老實潑皮放。」不必讀其詩。標名已足解頤。

十一、十六、蚰蜒

學使朱彞三家門限下有蚰蜒，長數尺。每遇風雨即出，盤旋地上如白練。按蚰蜒形若蜈蚣，晝不能見，夜則出，聞腥輒集。或云：蜈蚣無目而多貪也。

十一、十七、司訓

教官某甚聾，而與一狐善，狐耳語之亦能聞。每見上官，亦與狐俱，人不知其重聽也。積五六年，狐別而去，囑曰：「君如傀儡，非挑弄之，則五官俱廢。與其以聾取罪，不如早自

高也。」某戀祿，不能從其言，應對屢乖。學使欲逐之，某又求當道者為之緩頰。一日執事文場，唱名畢，學使退與諸教官燕坐。教官各捫籍靴中，呈進關說。已而學使笑問：「貴學何獨無所呈進？」某茫然不解。近坐者肘之，以手入靴，示之勢。某為親戚寄賣房中偽器，輒藏靴中，隨在求售。因學使笑語，疑索此物，鞠躬起對曰：「有八錢者最佳，下官不敢呈進。」一座匿笑。學使叱出之，遂免官。

異史氏曰：「平原獨無，亦中流之砥柱也。學使而求呈進，固當奉之以此。由是得免。冤哉！」

朱公子子青《耳錄》云：「東萊一明經遲，司訓沂水。性顛癡，凡同人咸集時，皆默不語；遲坐片時，不覺五官俱動，

笑啼並作，旁若無人焉者。若聞人笑聲，頓止。日儉鄙自奉，積金百餘兩，自埋齋房，妻子亦不使知。一日獨坐，忽手足動，少刻云：『作惡結怨，受凍忍饑，好容易積蓄者，今在齋房。倘有人知，竟如何？』如此再四。一門斗在旁，殊亦不覺。次日遲出，門斗入，掘取而去。過二三日，心不自寧，發穴驗視，則已空空。頓足拊膺，嘆恨欲死。」教職中可云千態百狀矣。

十一、十八、黑鬼

膠州李總鎮，買二黑鬼，其黑如漆。足革粗厚，立刃為途，往來其上，毫無所損，總鎮配以娼，生子而白，僚僕戲之，

謂非其種。黑鬼亦疑，因殺其子，檢骨盡黑，始悔焉。公每令兩鬼對舞，神情亦可觀也。

十一、十九、織成

洞庭湖中，往往有水神借舟。遇有空船，纜忽自解，飄然游行。但聞空中音樂並作，舟人蹲伏一隅，瞑目聽之，莫敢仰視，任所往。游畢仍泊舊處。

有柳生落第歸，醉臥舟上。笙樂忽作。舟人搖生不得醒，急匿艙下。俄有人捽生。生醉甚，隨手墮地，眠如故，即亦置之，少間，鼓吹鳴聒。生微醒，聞蘭麝充盈，睨之，見滿船皆佳麗。心知其異，目若瞑。少間傳呼織成，即有侍兒來，

立近頰際，翠襪紫鳥，細瘦如指。心好之，隱以齒嚙其襪。少間，女子移動，牽曳傾踣。上問之，因白其故。在上者怒，命即行誅。遂有武士入，捉縛而起。

見南面一人，冠類王者，因行且語，曰：「聞洞庭君為柳氏，臣亦柳氏；昔洞庭落第，今臣亦落第；洞庭得遇龍女而仙，今臣醉戲一姬而死，何幸不幸之懸殊也！」王者聞之，喚回，問：「汝秀才下第者乎？」生諾。便授筆札，令賦《風鬟霧鬢》。生固襄陽名士，而構思頗遲，捉筆良久。上謂讓曰：「名士何得爾？」生釋筆自白：「昔《三都賦》十稔而成，以是知文貴工不貴速也。」王者笑聽之。自辰至午，稿始脫。王者覽之，大悅曰：「真名士也！」遂賜以酒。頃刻，異饌紛

綸。方問對問，一吏捧簿進白：「溺籍告成矣。」問：「人數幾何？」曰：「二百二十八人。」問：「簽差何人矣？」答云：「毛、南二尉。」生起拜辭，王者贈黃金十斤，又水晶界方一握，曰：「湖中小有劫數，持此可免。」忽見羽葆人馬，紛立水面，王者下舟登輿，遂不復見，久之寂然。舟人始自艖下出，蕩舟北渡，風逆不得前。忽見水中有鐵貓浮出，舟人駭曰：「毛將軍出現矣！」各舟商人俱伏。又無何，湖中一木直立，築築搖動。益懼曰：「南將軍又出矣！」少時，波浪大作，上翳天日，四顧湖舟，一時盡覆。生舉界方危坐舟中，萬丈洪濤至舟頓滅，以是得全。

既歸，每向人語其異，言：「舟中侍兒，雖未悉其容貌，而裙下雙鉤，亦人世所無。」後以故至武昌，有崔媪賣女，千金不售；蓄一水晶界方，言有能配此者，嫁之。生異之，懷界方而往。媪忻然承接，呼女出見，年十五六已來，媚曼風流，更無倫比，略一展拜，反身入幃。生一見魂魄動搖，曰：「小生亦蓄一物，不知與老姥家藏頗相稱否？」因各出相較，長短不爽毫厘。媪喜，便問寓所，請生即歸命輿，界方留作信。生不肯留，媪笑曰：「官人亦太小心！老身豈為一界方抽身竄去耶？」生不得已，留之。出則賃輿急返，而媪室已空，大駭。遍問居人，迄無知者。

日已向西，形神懊喪，邑邑而返。中途，值一輿過，忽褰簾曰：「柳郎何遲也？」視之，則崔媪，喜問：「何之？」媪笑曰：「必將疑老身拐騙者矣。別後，適有便輿，頃念官人亦僑寓，措辦良艱，故遂送女歸舟耳。」生邀回車，媪必不可。生倉皇不能確信，急奔入舟，女果及一婢在焉。見生入，含笑承迎。生見翠襪紫履，與舟中侍兒妝飾，更無少別。心異之，徘徊凝注，女笑曰：「眈眈注目，生平所未見耶？」生益俯窺之，則襪後齒痕宛然，驚曰：「卿織成耶？」女掩口微哂。生長揖曰：「卿果神人，早請直言，以祛煩惑。」女曰：「實告君：前舟中所遇，即洞庭君也。仰慕鴻才，便欲以

妾相贈；因妾過為王妃所愛，故歸謀之。妾之來從妃命也。」生喜，沐手焚香，望湖朝拜。乃歸。

後詣武昌，女求同去，將便歸寧。既至洞庭，女拔釵擲水，忽見一小舟自湖中出，女躍登如飛鳥集，轉瞬已杳。生坐船頭，於沒處凝盼之。遙遙一樓船至，既近窗開，忽如一彩禽翔過，則織成至矣。一人自窗中遞擲金珠珍物甚多，皆妃賜也。自是，歲一兩覲以為常。故生家富有珠寶，每出一物，世家所不識焉。

相傳唐柳毅遇龍女，洞庭君以為婿。後遜位於毅。又以毅貌文，不能攝服水怪，付以鬼面，晝戴夜除；久之漸習忘除，遂與面合而為一。毅覽鏡自慚。故行人泛湖，或以手指物，

則疑為指己也；以手覆額，則疑其窺己也；風波輒起，舟多覆。故初登舟，舟人必以此告戒之。不則設牲牢祭享乃得渡。許真君偶至湖，浪阻不得行。真君怒，執毅付郡獄。獄吏檢囚，恆多一人，莫測其故。一夕毅示夢郡伯，哀求拔救。伯以幽明異路，謝辭之。毅云：「真君於某日臨境，但為求懇，必合有濟。」既而真君果至，因代求之，遂得釋。嗣後湖禁稍平。

十一、二十、竹青

魚客，湖南人，忘其郡邑。家貧，下第歸，資斧斷絕。羞於行乞，餓甚，暫憩吳王廟中，拜禱神座。出臥廊下，忽一

人引去見王，跪白曰：「黑衣隊尚缺一卒，可使補缺。」王曰：「可。」即授黑衣。既著身，化為鳥，振翼而出。見鳥友群集，相將俱去，分集帆檣。舟上客旅，爭以肉向上拋擲。群於空中接食之。因亦尤效，須臾果腹。翔棲樹杪，意亦甚得。逾二三日，吳王憐其無偶，配以雌，呼之「竹青」。雅相愛樂。魚每取食，輒馴無機，竹青恆勸諫之，卒不能聽。一日有滿兵過，彈之中胸。幸竹青銜去之，得不被擒。群鳥怒，鼓翼扇波，波湧起，舟盡覆。竹青仍投餌哺魚。魚傷甚，終日而斃。忽如夢醒，則身臥廟中。先是居人見魚死，不知誰何，撫之未冷，故不時令人邏察之。至是訊知其由，斂資送歸。後三年，復過故所，參謁吳王。設食，喚鳥下集群啖，

祝曰：「竹青如在，當止。」食已並飛去。後領薦歸，復謁吳王廟，薦以少牢。已，乃大設以饗烏友，又祝之。是夜宿於湖村，秉燭方坐，忽幾前如飛鳥飄落；視之則二十許麗人，蹶然曰：「別來無恙乎？」魚驚問之，曰：「君不識竹青耶？」魚喜，詰所來。曰：「妾今為漢江神女，返故鄉時常少。前烏使兩道君情，故來一相聚也。」魚益欣感，宛如夫妻之久別，不勝歡戀。生將偕與俱南，女欲邀與俱西，兩謀不決。寢初醒，則女已起。開目，見高堂中巨燭熒煌，竟非舟中。驚起，問：「此何所？」女笑曰：「此漢陽也。妾家即君家，何必南！」天漸曉，婢媪紛集，酒炙已進。就廣床上設矮幾，夫婦對酌。魚問：「僕何在？」答：「在舟上。」生慮舟人不

能久待，女言：「不妨，妾當助君報之。」於是日夜談宴，樂而忘歸。

舟人夢醒，忽見漢陽，駭絕。僕訪主人，杳無音信。舟人欲他適，而纜結不解，遂共守之。積兩月餘，生忽憶歸，謂女曰：「僕在此，親戚斷絕。且卿與僕，名為琴瑟，而不一認家門，奈何？」女曰：「無論妾不能往；縱往，君家自有婦，將何以處妾乎？不如置妾於此，為君別院可耳。」生恨道遠不能時至，女出黑衣，曰：「君向所著舊衣尚在。如念妾時，衣此可至，至時為君解之。」乃大設肴珍，為生祖餞。即醉而寢，醒則身在舟中，視之洞庭舊泊處也。舟人及僕俱在，相視大駭，詰其所往，生故悵然自驚。枕邊一襪，檢視，則女

贈新衣襪履，黑衣亦折置其中。又有繡橐維繫腰際，探之，則金資充牣焉。於是南發，達岸，厚酬舟人而去。

歸家數月，苦憶漢水，因潛出黑衣著之，兩脅生翼，翕然凌空，經兩時許，已達漢水。回翔下視，見孤嶼中有樓舍一簇，遂飛墮。有婢子已望見之，呼曰：「官人至矣！」無何，竹青出，命眾手為緩結，覺羽毛劃然盡脫。握手入舍，曰：「郎來恰好，妾旦夕臨蓐矣。」生戲問曰：「胎生乎？卵生乎？」女曰：「妾今為神，則皮骨已硬，應與曩異。」越數日果產，胎衣厚裹如巨卵然，破之男也。生喜，名之「漢產」。三日後，漢水神女皆登堂，以服食珍物相賀。並皆佳妙，無三十以上人。俱入室就榻，以拇指按兒鼻，名曰：「增壽」。既去，

生問：「適來者皆誰何？」女曰：「此皆妾輩。其末後著藉白者，所謂『漢皋解珮』，即其人也。」居數月，女以舟送之，不用帆楫，飄然自行。抵陸，已有人繫馬道左，遂歸。由此往來不絕。

積數年，漢產益秀美，生珍愛之。妻和氏苦不育，每思一見漢產。生以情告女。女乃治任，送兒從父歸，約以三月。既歸，和愛之過於己出，過十餘月不忍令返。一日暴病而殤，和氏悼痛欲死。生乃詣漢告女。入門，則漢產赤足臥床上，喜以問女。女曰：「君久負約。妾思兒，故招之也。」生因述和氏愛兒之故。女曰：「待妾再育，令漢產歸。」

又年餘，女雙生男女各一：男名「漢生」，女名「玉珮」。生遂攜漢產歸，然歲恆三四往，不以為便，因移家漢陽。漢產十二歲入郡庠。女以人間無美質，招去，為之娶婦，始遣歸。婦名「卮娘」，亦神女產也。後和氏卒，漢生及妹皆來擗踴。葬畢，漢產遂留；生攜漢生、玉珮去，自此不返。

十一、二十一、段氏

段瑞環，大名富翁也。四十無子。妻連氏最妒，欲買妾而不敢。私一婢，連覺之，撻婢數百，鬻諸河間欒氏之家。段日益老，諸侄朝夕乞貸，一言不相應，怒徵聲色。段思不能給其求，而欲嗣一侄，則群侄阻撓之，連之悍亦無所施，始大

悔。憤曰：「翁年六十餘，安見不能生男！」遂買兩妾，聽夫臨幸，不之問。居年餘，二妾皆有身，舉家皆喜。於是氣息漸舒，凡諸侄有所強取，輒惡聲梗拒之。無何，一妾生女，一妾生男而殤。夫妻失望。又將年餘，段中風不起，諸侄益肆，牛馬什物競自取去。連詬斥之，輒反唇相稽。無所為計，朝夕嗚哭。段病益劇，尋死。諸侄集柩前議析遺產，連雖痛切，然不能禁止之。但留沃野一所，贍養老稚，侄輩不肯。連曰：「汝等寸土不留，將令老嫗及呱呱者餓死耶！」日不決，惟忿哭自撾。

忽有客入吊，直趨靈所，俯仰盡哀。哀已，便就苦次。眾詰為誰，客曰：「亡者吾父也。」眾益駭。客從容自陳。先是，

婢嫁欒氏，逾五六月，生子懷，欒撫之等諸男。十八歲入泮。後欒卒，諸兄析產置不與堵欒齒。懷問母，始知其故，曰：「既屬兩姓，各有宗祏，何必在此承人百畝田哉！」乃命騎詣段，而段已死。言之鑿鑿，確可信據。連方忿痛，聞之大喜，直出曰：「我今亦復有兒！諸所假去牛馬什物，可好自送還；不然，有訟興也！」諸侄相顧失色，漸引去。懷乃攜妻來，共居父憂。諸段不平，共謀逐懷。懷知之，曰：「欒不以為欒，段復不以為段，我安適歸乎！」忿欲質官，諸戚黨為之排解，群謀亦寢。

而連以牛馬故不肯已，懷勸置之，連曰：「我非為牛馬也，雜氣集滿胸，汝父以憤死，我所以吞聲忍泣者，為無兒耳。今

有兒，何畏哉！前事汝不知狀，待予自質審。」懷固止之，不聽，具詞赴宰控。宰拘諸段，審狀，連氣直詞惻，吐陳泉湧。宰為動容，並懲諸段，追物給主。既歸，其兄弟之子有不與黨謀者，招之來，以所追物盡散給之。

連七十餘歲，將死，呼女及孫媳囑曰：「汝等志之：如三十不育，便當典質釵珥，為夫納妾。無子之情狀實難堪也！」異史氏曰：「連氏雖妒，而能疾轉，宜天以有後伸其氣也。觀其慷慨激發，籲！亦傑矣哉！」

濟南蔣稼，其妻毛氏不育而妒。嫂每勸諫，不聽，曰：「寧絕嗣，不令送眼流眉者忿氣人也！」年近四旬，頗以嗣續為念。欲繼兒子，兄嫂俱諾，而故悠忽之。兒每至叔所，夫妻餌以

甘肫，問曰：「肯來吾家乎？」兒亦應之。兄私囑兒曰：「倘彼再問，答以不肯。如問何故不肯，答云：『待汝死後，何愁田產不為吾有。』」一日稼出遠賈，兒復來。毛又問，兒即以父言對。毛大怒曰：「妻孥在家，固日日盤算吾田產耶！其計左矣！」遂兒出，立招媒媪為夫買妾。

及夫歸，時有賣婢者其價昂，傾資不能取盈，勢將難成。其兄恐遲而變悔，遂暗以金付媪，偽稱為媪轉貸者玉成之。毛大喜，遂買婢歸。毛以情告夫，夫怒，與兄絕。年餘妾生子，夫妻大喜。

毛曰：「媪不知假貸何人，年餘竟不置問，此德不可忘。今子已生，尚不償母價也！」稼乃囊金詣媪，媪笑曰：「當大謝

大官人。老身一貧如洗，誰敢貸一金者。」具以實告。稼感悟，歸告其妻，相為感泣。遂治具邀兄嫂至，夫婦皆膝行，出金償兄，兄不受，盡歡而散。後稼生三子。

十一、二十二、狐女

伊袞，九江人。夜有女來相與寢處。心知為狐，而愛其美，秘不告人，父母亦不知也。久而形體支離。父母窮詰，始實告之。父母大憂，使人更代伴寢，兼施敕勒，卒不能禁。翁自與同衾，則狐不至；易人則又至。伊問狐，狐曰：「世俗符咒何能制我。然俱有倫理，豈有對翁行淫者！」翁聞之，益伴子不去，狐遂絕。後值叛寇橫恣，村人盡竄，一家相失。

伊奔入昆侖山，四顧荒涼。日既暮，心恐甚。忽見一女子來，近視之，則狐女也。離亂之中，相見忻慰。女曰：「日已西下，君姑止此。我相佳地，暫創一室以避虎狼。」乃北行數武，遂蹲莽中，不知何作。少頃返，拉伊南去，約十餘步，又曳之回。忽見大木千章，繞一高亭，銅墻鐵柱，頂類金箔；近視則墻可及肩，四圍並無門戶，而墻上密排坎窞，女以足踏之而過，伊亦從之。既入，疑金屋非人工可造，問所自來。女笑曰：「君子居之，明日即以相贈。金鐵各千萬，計半生吃著不盡矣。」既而告別。伊苦留之，乃止。曰：「被人厭棄，已拚永絕；今又不能自堅矣。」及醒，狐女不知何時已

去。天明，逾垣而出。回視臥處並無亭屋，惟四針插指環內，覆脂合其上；大樹則叢荊老棘也。

十一、二十三、張氏婦

凡大兵所至，其害甚於盜賊，蓋盜賊人猶得而仇之，兵則人所不敢仇也。其少異於盜者，特不敢輕於殺人耳。甲寅歲，三藩作反，南征之士，養馬袁郡，雞犬廬舍一空，婦女皆被淫污。時遭霖雨，田中瀦水為湖，民無所匿，遂乘桴入高粱叢中。兵知之，裸體乘馬，入水搜淫，鮮有遺脫。

惟張氏婦不伏，公然在家。有廚舍一所，夜與夫掘坎深數尺，積茅焉；覆以薄，加席其上，若可寢處。自炊灶下。有

兵至，則出門應給之。二蒙古兵強與淫，婦曰：「此等事，豈可對人行者？」其一微笑，啁噓而出。婦與入室，指席使先登。薄折，兵陷。婦又另取席及薄覆其上，故立坎邊，以誘來者。少間，其一復入。聞坎中號，不知何處，婦以手笑招之曰：「在此處。」兵踏席，又陷。婦乃益投以薪，擲火其中。火大熾，屋焚。婦乃呼救。火既熄，燔尸焦臭。人問之，婦曰：「兩豬恐害於兵，故納坎中耳。」

由此離村數里，於大道旁並無樹木處，攜女紅往坐烈日中。村去郡遠，兵來率乘馬，頃刻數至。笑語啁噓，雖多不解，大約調弄之語。然去道不遠，無一物可以蔽身，輒去，數日無患。一日一兵至，甚無恥，就烈日中欲淫婦。婦含笑不甚拒。

隱以針刺其馬，馬輒噴嘶，兵遂繫馬股際，然後擁婦。婦出巨錐猛刺馬項，馬負痛奔駭。韁系股不得脫，曳馳數十里，同伍始代捉之。首軀不知處，韁上一股，儼然在焉。異史氏曰：「巧計六出，不失身於悍兵。賢哉婦乎，慧而能貞！」

十一、二十四、於子游

海濱人說：一日海中忽有高山出，居人大駭。一秀才寄宿漁舟，沾酒獨酌。夜闌，一少年人，儒服儒冠，自稱：「於子游。」言詞風雅。秀才悅，便與歡飲。飲至中夜，離席言別。秀才曰：「君家何處？玄夜茫茫，亦太自苦。」答云：「僕非土著，以序近清明，將隨大王上墓。眷口先行，大王姑留憩

息，明日辰刻發矣。宜歸早治任也。」秀才亦不知大王何人。送至鷓首，躍身入水，撥刺而去，乃知為魚妖也。次日，見山峰浮動，頃刻已沒。始知山為大魚，即所云大王也。俗傳清明前，海中大魚攜兒女往拜其墓，信有之乎？

康熙初年，萊郡潮出大魚，鳴號數日，其聲如牛。既死，荷擔割肉者一道相屬。魚大盈畝，翅尾皆具；獨無目珠。眇深如井，水滿之。割肉者誤墮其中輒溺死。或云，「海中貶大魚則去其目，以目即夜光珠」云。

十一、二十五、男妾

一官紳在揚州買妾，連相數家，悉不當意。惟一媪寄居賣女，女十四五，豐姿姣好，又善諸藝。大悅，以重價購之。至夜入衾，膚膩如脂。喜捫私處，則男子也。駭極，方致窮詰。蓋買好僮，加意修飾，設局以騙人耳。黎明，遣家人尋媪，則已遁去無蹤。中心懊喪，進退莫決。適浙中同年某來訪，因為告訴。某便索觀，一見大悅，以原價贖之而去。異史氏白：「苟遇知音，即與以南威不易。何事無知婆子多作一偽境哉！」

十一、二十六、汪可受

湖廣黃梅縣汪可受能記三生：一世為秀才，讀書僧寺。僧有牝馬產騾駒，愛而奪之。後死，冥王稽籍，怒其貪暴，罰使為騾償寺僧。既生，僧愛護之，欲死無間。稍長，輒思投身澗穀，又恐負豢養之恩，冥罰益甚，遂安之。數年孽滿自斃。生一農人家。墮蓐能言，父母以為不祥，殺之，乃生汪秀才家。秀才近五旬，得男甚喜。汪生而了了，但憶前生以早言死，遂不敢言，至三四歲人皆以為啞。一日父方為文，適有友人過訪，投筆出應客。汪入見父作，不覺技癢，代成之。父返見之，問：「何人來？」家人曰：「無之。」父大疑。次日故書一題置幾上，旋出；少間即返，翳行悄步而入。則見

兒伏案間，稿已數行，忽睹父至，不覺出聲，跪求免死。父喜，握手曰：「吾家止汝一人，既能文，家門之幸也，何自匿為？」由是益教之讀。少年成進士，官至大同巡撫。

十一、二十七、牛犢

楚中一農人赴市歸，暫休於途。有術人後至，止與傾談。忽瞻農人曰：「子氣色不祥，三日內當退財，受官刑。」農人曰：「某官稅已完，生平不解爭鬥，刑何從至？」術人曰：「僕亦不知。但氣色如此，不可不慎之也！」農人頗不深信，拱別而歸。次日牧犢於野，有驛馬過，犢望見誤以為虎，直前觸之，馬斃。役報農人至官，官薄懲之，使償其馬。蓋水牛

見虎必鬥，故販牛者露宿，輒以牛自衛；遙見馬過，急驅避之，恐其誤也。

十一、二十八、王大

李信，博徒也。晝臥，忽見昔年博友王大，馮九來邀與敖戲，李亦忘其為鬼，忻然從之。既出，王大往邀村中周子明，馮乃導李先行，入村東廟中。少頃周果同王至，馮出葉子約與撩零，李曰：「倉卒無博資，辜負盛邀，奈何？」周亦云然。王云：「燕子穀黃八官人放利債，同往貸之，宜必諾允。」於是四人並去。

飄忽間至一大村，村中甲第連垣，王指一門，曰：「此黃公子家。」內一者僕出，王告以意，僕即入白。旋出，奉公子命請王、李相會。入見公子，年十八九，笑語藹然。便以大錢一提付李，曰：「知君慤直，無妨假貸；周子明我不能信之也。」王委曲代為請。公子要李署保，李不肯。王從旁慫恿之，李乃諾。亦授一千而出。便以付周，且述公子之意，以激其必償。

出谷，見一婦人來，則村中趙氏妻，素喜爭善罵。馮曰：「此處無人，悍婦宜小崇之。」遂與捉返入谷。婦大號，馮掬土塞其口。周贊曰：「此等婦，只宜椽杙陰中！」馮乃捋褲，以長石強納之，婦若死。眾乃散去，復入廟，相與賭博。

自午至夜分，李大勝、馮、周資皆空。李因以厚資增息悉付王，使代償黃公子；王又分給周、馮，局復合。居無何聞人聲紛拏，一人奔入曰：「城隍老爺親捉博者，今至矣！」眾失色。李舍錢逾垣而逃。眾顧資皆被縛。既出，果見一神人坐馬上，馬後繫博徒二十餘人。天未明已至邑城，門啟而入。至衙署，城隍南面坐，喚人犯上，執籍呼名。呼已，並令以利斧斫去將指，乃以墨朱各塗兩目，游市三周訖。押者索賄而後去其墨朱，眾皆賂之。獨周不肯，辭以囊空；押者約送至家而後酬之，亦不許。押者指之曰：「汝真鐵豆，炒之不能爆也！」遂拱手去。周出城，以唾濕袖，且行且拭。及河自照，墨朱未去，掬水盥之，堅不可下，悔恨而歸。

先是，趙氏婦以故至母家，日暮不歸，夫往迎之，至谷口，見婦臥道周。睹狀，知其遇鬼，去其泥塞，負之而歸。漸醒能言，始知陰中有物，宛轉抽拔而出。乃述其遭。趙怒，遽赴邑宰，訟李及周。牒下，李初醒；周尚沉睡，狀類死。宰以其誣控，答趙械婦，夫妻皆無理以自申。

越日周醒，目眶忽變一赤一黑，大呼指痛。視之筋骨已斷，惟皮連之，數日尋墮。日上墨朱，深入肌理。見者無不掩笑。一日見王大來索負。周厲聲但言無錢，王忿而去。家人問之，始知其故。共以神鬼無情，勸償之。周齷齪不可，且曰：「今日官宰皆左袒賴債者，陰陽應無二理，況賭債耶！」次日有二鬼來，謂黃公子具呈在邑，拘赴質審；李信亦見隸來取

作間證，二人一時並死。至村外相見，王、馮俱在。李謂周曰：「君尚帶赤墨眼，敢見官耶？」周仍以前言告。李知其吝，乃曰：「汝既昧心，我請見黃八官人，為汝還之。」遂共詣公子所。李入而告以故，公子不可，曰：「負欠者誰，而取償於子？」出以告周，因謀出資，假周進之。周益忿，語侵公子。

鬼乃拘與俱行。無何至邑，入見城隍。城隍呵曰：「無賴賊！塗眼猶在，又賴債耶！」周曰：「黃公子出利債誘某博賭，遂被懲創。」城隍喚黃家僕上，怒曰：「汝主人開場誘賭，尚討債耶？」僕曰：「取資時，公子不知其賭。公子家燕子穀，捉獲博徒在觀音廟，相去十餘里。公子從無設局場之事。」城隍

顧周曰：「取資悍不還，反被捏造！人之無良，至汝而極！」欲答之。周又訴其息重，城隍曰：「償幾分矣？」答云：「實尚未有所償。」城隍怒曰：「本資尚欠，而論息耶？」答三十，立押償主。二鬼押至家，索賄，不令即活，縛諸廁內，令示夢家人。家人焚楮錠二十提，火既滅，化為金二兩、錢二千。周乃以金酬債，以錢賂押者，遂釋令歸。

既蘇，臀瘡墳起，膿血崩潰，數月始痊。後趙氏婦不敢復罵；而周以四指帶赤墨眼，賭如故。此以知博徒之非人矣！異史氏曰：「世事之不平，皆由為官者矯枉之過正也。昔日富豪以倍稱之息折奪良家子女，人無敢言者；不然，函刺一投，則官以三尺法左袒之。故昔之民社官，皆為勢家役耳。迨後

賢者鑒其弊，又悉舉而大反之。有舉人重資作巨商者，衣錦厭梁肉，家中起樓閣、買良沃。而竟忘所自來。一取償則怒目相向。質諸官，官則曰：『我不為人役也。』嗚呼！是何異懶殘和尚，無工夫為俗人拭淚哉！余嘗謂昔之官諂，今之官謬；諂者固可誅，謬者亦可恨也。放資而薄其息，何嘗專有益於富人乎？

張石年宰淄川，最惡博。其塗面游城亦如冥法，刑不至墮指，而賭以絕。蓋其為官甚得鉤距法。方簿書旁午時，每一人上堂，公偏暇，里居、年齒、家口、生業，無不絮絮問。問已，始勸勉令去，有一人完稅一繳單，自分無事，呈單欲下。公止之。細問一過，曰：「汝何博也？」其人力辯生平不解博。

公笑曰：「腰中尚有博具。」搜之果然。人以為神，而並不知其何術。

十一、二十九、樂仲

樂仲，西安人。父早喪，母遺腹生仲。母好佛，不如葷酒。仲既長，嗜飲善啖，竊腹誹母，每以肥甘勸進，母咄之。後母病，彌留，苦思肉。仲急無所得肉，剖左股獻之。病稍瘥，悔破戒，不食而死。

仲哀悼益切，以利刃益剖右股見骨。家人共救之，裹帛敷藥，尋愈。心念母苦節，雙又母愚，遂焚所供佛像，立主祀母，醉後輒對哀哭，年二十始娶，身猶童子。娶三日，謂人

曰：「男女居室，天下之至穢，我實不為樂！」遂去妻。妻父顧文淵，浼戚求返，請之三四，仲必不可。遲半年，顧遂醮女。

仲鰥居二十年，行益不羈，奴隸優伶皆與飲，里黨乞求不靳與；有言嫁女無釜者，揭灶頭舉贈之。自乃從鄰借釜炊。諸無行者知其性，朝夕騙賺之。或以賭博無資，故對之歛歔，言追呼急，將鬻其子。仲措稅金如數，傾囊遺之；及租吏登門，自始典質營辦。以故，家日益落。先是仲殷饒，同堂子弟爭奉事之，家中所有任其取攜，亦莫之較；及仲蹇落，存問絕少，仲曠達不為意。值母忌辰，仲適病，不能上墓，欲遣子弟代祀，諸子弟皆謝以故，仲乃酌諸室中，對主號痛，

無嗣之戚，頗縈懷抱。因而病益劇。瞽亂中覺有人撫摩之，目微啟，則母也。驚問：「何來？」母曰：「緣家中無人上墓，故來就享，即視汝病。」問：「母向居何所？」母曰：「南海。」撫摩既已，遍體生涼。開目四顧，渺無一人。

病瘥既起，思朝南海。會鄰村有結香社者，即賣田十畝，挾資求偕。社人嫌其不潔，共擯絕之。乃隨從同行。途中牛酒蕘蒜不戒，眾更惡之，乘其醉睡，不告而去。仲即獨行。至閩，遇友人邀飲，有名妓瓊華在座。適言南海之游，瓊華願附以行。仲喜，即待趨裝，遂與俱發，雖寢食與共，而毫無所私。及至南海，社中人見其載妓而至，更非笑之，鄙不與同朝。仲與瓊華知其意，乃俟其先拜而後拜之。眾拜時，恨

無現示。及二人拜，方投地，忽見遍海皆蓮花，花上瓔珞垂珠；瓊華見為菩薩，仲見花朵上皆其母。因急呼奔母，躍入從之。眾見萬朵蓮花，悉變霞彩，障海如錦。少間雲靜波澄，一切都杳，而仲猶身在海岸。亦不自解其何以得出，衣履並無沾濡。望海大哭，聲震島嶼。瓊華挽勸之，愴然下剎，命舟北渡。途中有豪家招瓊華去，仲獨憩逆旅。

有童子方八九歲，丐食肆中，貌不類乞兒。細詰之，則被逐於繼母，心憐之，兒依依左右，苦求拔拯，仲遂攜與俱歸。問其姓氏，則曰：「阿辛，姓雍，母顧氏。嘗聞母言：『適雍六月，遂生餘。餘本樂姓。』」仲大驚。自疑生平一度，不應有子。因問樂居何鄉，答云不知。但母沒時，付一函書，

囑勿遺失。」仲急索書。視之，則當年與顧家離婚書也。驚曰：「真吾兒也！」審其年月良確，顏慰心願。然家計日疏，居二年，割畝漸盡，竟不能畜僮僕。

一日父子方自炊，忽有麗人入，視之則瓊華也，驚問：「何來？」笑曰：「業作假夫妻，何又問也？向不即從者，徒以有老嫗在；今已死。顧念不從人無以自庇；從人則又無以自潔。計兩全者，無如從君，是以不憚千里。」遂解裝代兒炊。仲良喜。至夜父子同寢如故，另治一室居瓊華。兒母之，瓊華亦善撫兒。戚黨聞之，皆餽仲，兩人皆樂受之。客至，瓊華悉為治具，仲亦不問所自來。瓊華漸出金珠贖故產，廣置婢僕牛馬，日益繁盛。仲每謂瓊華曰：「我醉時，卿當避

匿，勿使我見。」華笑諾之。一日大醉，急喚瓊華。華艷妝出；仲睨之良久，大喜，蹈舞若狂，曰：「吾悟矣！」頓醒。覺世界光明，所居廬舍盡為瓊樓玉宇，移時始已。從此不復飲市上，惟日對瓊華飲。華茹素，以茶茗侍。一日微醺，命瓊華按股，見股上剗痕，化為兩朵赤菡萏，隱起肉際。奇之。仲笑曰：「卿視此花放後，二十年假夫妻分手矣。」瓊華信之。

既為阿辛完婚，瓊華漸以家付新婦，與仲別院居。子婦三日一朝，事非疑難不以告。役二婢：一溫酒，一瀹茗而已。一日瓊華至兒所，兒媳咨白良久，共往見父。入門，見父白足坐榻上。聞聲，開眸微笑曰：「母子來大好！」即復瞑。瓊華

大驚曰：「君欲何為？」視其股上，蓮花大放。試之，氣已絕。即以兩手捻合其花，且祝曰：「妾千里從君，大非容易。為君教子訓婦，亦有微勞。即差二三年，何不一少待也？」移時，仲忽開眸笑曰：「卿自有卿事，何必又牽一人作伴也？無已，姑為卿留。」瓊華釋手，則花已復合。於是言笑如初。積三年餘，瓊華年近四旬，猶如二十許人。忽謂仲曰：

「凡人死後，被人捉頭舁足，殊不雅潔。」遂命工治雙樽。辛駭問之，答云：「非汝所知。」工既竣，沐浴妝竟，命子及婦曰：「我將死矣。」辛泣曰：「數年賴母經紀，始不凍餒。母尚未得一享安逸，何遂舍兒而去？」曰：「父種福而子享，奴婢牛馬，皆騙債者填償爾父，我無功焉。我本散花天女，偶

涉凡念，遂謫人間三十餘年，今限已滿。」遂登木自入。再呼之，雙目已含。辛哭告父，父不知何時已殭，衣冠儼然。號慟欲絕。入棺，並停堂中，數日未殮，冀其復返。光明生於股際，照徹四壁。瓊華棺內則香霧噴溢，近舍皆聞。棺既合，香光遂漸減。

既殯，樂氏諸子弟覬覦其有，共謀逐辛，訟諸官。官莫能辨，擬以田產半給諸樂。辛不服，以詞質郡，久不決。初，顧嫁女於雍，經年餘，雍流寓於閩，音耗遂絕。顧老無子，苦憶女，詣婿，則女死甥逐。告官。雍懼，賂顧，不受，必欲得甥。窮覓不得。一日顧偶於途中，見彩輿過，避道左。輿中一美人呼曰：「若非顧翁耶？」顧諾。女子曰：「汝甥即吾子，

現在樂家，勿訟也。甥方有難，宜急往。」顧欲詳詰，輿已去遠。顧乃受賂入西安。至，則訟方沸騰。顧自投官，言女大歸日、再醮日，及生子年月，歷歷甚悉。諸樂皆被杖逐，案遂結。及歸，述其見美人之日，即瓊華沒日也。辛為顧移家，授廬贈婢。六十餘生一子，辛顧恤之。

異史氏曰：「斷葦遠室，佛之似也。爛熳天真，佛之真也。樂仲對麗人，直視之為香潔道伴，不作溫柔鄉觀也。寢處三十年，若有情，若無情，此為菩薩真面目，世中人烏得而測之哉！」

十一、三十、香玉

勞山下清宮，耐冬高二丈，大數十圍，牡丹高丈餘，花時璀璨似錦。

膠州黃生舍讀其中。一日自窗中見女郎，素衣掩映花間。心疑觀中焉得此，趨出已遁去。自此屢見之。遂隱身叢樹中以伺其至。未幾，女郎又偕一紅裳者來，遙望之，艷麗雙絕。行漸近，紅裳者卻退，曰：「此處有生人！」生暴起。二女驚奔，袖裙飄拂，香風洋溢，追過短墻，寂然已杳，愛慕彌切，因題句樹下云：「無限相思苦，含情對短窗。恐歸沙吒利，何處覓無雙？」歸齋冥思。女郎忽入，驚喜承迎。女笑

曰：「君洵洵似強寇，令人恐怖；不知君乃騷雅士，無妨相見。」生略叩生平，曰：「妾小字香玉，隸籍平康巷。被道士閉置山中，實非所願。」生問：「道士何名？當為卿一滌此垢。」女曰：「不必，彼亦未敢相通。借此與風流士長作幽會，亦佳。」問：「紅衣者誰？」曰：「此名絳雪，乃妾義姊。」遂相狎。及醒，曙色已紅。女急起，曰：「貪歡忘曉矣。」著衣易履，且曰：「妾酬君作，勿笑：『良夜更易盡，朝暾已上窗。願如梁上燕，棲處自成雙。』」生握腕曰：「卿秀外惠中，令人愛而忘死。顧一日之去，如千里之別。卿乘間當來，勿待夜也。」女諾之。由此夙夜必偕。每使邀絳雪來，輒不至，生以為恨。女曰：「絳姐性殊落落，不似妾情癡也。當從容

對罵，不必過急。一夕，女慘然入曰：「君隴不能守，尚望蜀耶？今長別矣。」問：「何之？」以袖拭淚，曰：「此有定數，難為君言。昔日佳作，今成讖語矣。『佳人已屬沙吒利，義士今無古押衙』，可為妾詠。詰之不言，但有嗚咽。竟夜不眠，早旦而去。生怪之。

次日有即墨藍氏，入官游矚，見白牡丹，悅之，掘移徑去。生始悟香玉乃花妖也，悵惋不已。過數日聞藍氏移花至家，日就萎悴。恨極，作《哭花》詩五十首，日日臨穴涕洟。

一日憑吊方返，遙見紅衣人揮涕穴側。從容近就，女亦不避。生因把袂，相向洑瀾。已而挽請入室，女亦從之。嘆曰：「童稚姊妹，一朝斷絕！聞君哀傷，彌增妾慟。淚墮九泉，或當

感誠再作；然死者神氣已散，倉卒何能與吾兩人共談笑也。」  
生曰：「小生薄命，妨害情人，當亦無福可消雙美。曩頻煩  
香玉道達微忱，胡再不臨？」女曰：「妾以年少書生，什九  
薄幸；不知君固至情人也。然妾與君交，以情不以淫。若晝  
夜狎暱，則妾所不能矣。」言已告別。生曰：「香玉長離，使  
人寢食俱廢。賴卿少留，慰此懷思，何決絕如此！」女乃止，  
過宿而去。數日不復至。冷雨幽窗，苦懷香玉，輾轉床頭，  
淚凝枕席。攬衣更起，挑燈復踵前韻曰：「山院黃昏雨，垂  
簾坐小窗。相思人不見，中夜淚雙雙。」詩成自吟。忽窗外  
有人曰：「作者不可無和。」聽之，絳雪也。啟戶內之。女視  
詩，即續其後曰：「連袂人何處？孤燈照晚窗。空山人一個，

對影自成雙。」生讀之淚下，因怨相見之疏。女曰：「妾不能如香玉之熱，但可少慰君寂寞耳。」生欲與狎。曰：「相見之歡，何必在此。」

於是至無聊時，女輒一至。至則宴飲唱酬，有時不寢遂去，生亦聽之。謂曰：「香玉吾愛妻，絳雪吾良友也。」每欲相問：「卿是院中第幾株？乞早見示，僕將抱植家中，免似香玉被惡人奪去，貽恨百年。」女曰：「故土難移，告君亦無益也。妻尚不能終從，況友乎！」生不聽，捉臂而出，每至壯丹下，輒問：「此是卿否？」女不言，掩口笑之。旋生以臘歸過歲。至二月間，忽夢絳雪至，愀然曰：「妾有大難！君急往尚得相見；遲無及矣。」醒而異之，急命僕馬，星馳至

山。則道士將建屋，有一耐冬，礙其營造，工師將縱斤矣。生急止之。入夜，絳雪來謝。生笑曰：「向不實告，宜遭此厄！今已知卿；如卿不至，當以艾炷相灸。」女曰：「妾固知君如此，曩故不敢相告也。」坐移時，生曰：「今對良友，益思艷妻。久不哭香玉，卿能從我哭乎？」二人乃往，臨穴灑涕。更餘，絳雪收淚勸止。

又數夕，生方寂坐，絳雪笑入曰：「報君喜信：花神感君至情，俾香玉復降宮中。」生問：「何時？」答曰：「不知，約不遠耳。」天明下榻，生囑曰：「僕為卿來。勿長使人孤寂。」女笑諾。兩夜不至。生往抱樹，搖動撫摩，頻喚無聲。乃返，對燈團艾，將往灼樹。女遽入，奪艾棄之，曰：「君惡作劇，

使人創痛，當與君絕矣！」生笑擁之。坐未定，香玉盈盈而入。生望見，泣下流離，急起把握香玉。以一手握絳雪，相對悲哽。及坐，生把之覺虛，如手自握，驚問之，香玉泫然曰：「昔，妾花之神，故凝；今，妾花之鬼，故散也。今雖相聚，勿以為真，但作夢寐觀可耳。」絳雪曰：「妹來大好！我被汝家男子糾纏死矣。」遂去。

香玉款笑如前；但偎傍之間，仿佛以身就影。生悒悒不樂。香玉亦俯仰自恨，乃曰：「君以白藪屑，少雜硫黃，日酌妾一杯水，明年此日報君恩。」別去。明日往觀故處，則牡丹萌生矣。生乃日加培植，又作雕欄以護之。香玉來，感激倍至。生謀移植其家，女不可，曰：「妾弱質，不堪復戕。且

物生各有定處，妾來原不擬生君家，違之反促年壽。但相憐愛，合好自有日耳。」生恨絳雪不至。香玉曰：「必欲強之使來，妾能致之。」乃與生挑燈至樹下，取草一莖，布掌作度，以度樹本，自下而上至四尺六寸，按其處，使生以兩爪齊搔之。俄見絳雪從背後出，笑罵曰：「婢子來，助桀為虐耶！」牽挽並入。香玉曰：「姊勿怪！暫煩陪侍郎君，一年後不相擾矣。」從此遂以為常。

生視花芽，日益肥茂，春盡，盈二尺許。歸後，以金遺道士，囑令朝夕培養之。次年四月至宮，則花一朵含苞未放；方流連間，花搖搖欲拆；少時已開，花大如盤，儼然有小美人坐蕊中，裁三四指許；轉瞬飄然欲下，則香玉也。笑曰：「妾忍

風雨以待君，君來何遲也！」遂入室。絳雪亦至，笑曰：「日代人作婦，今幸退而為友。」遂相談宴。至中夜，絳雪乃去，二人同寢，款洽一如從前。後生妻卒，生遂入山不歸。是時牡丹已大如臂。生每指之曰：「我他日寄魂於此，當生卿之左。」二女笑曰：「君勿忘之。」

後十餘年，忽病。其子至，對之而哀。生笑曰：「此我生期，非死期也，何哀為！」謂道士曰：「他日牡丹下有赤芽怒生，一放五葉者，即我也。」遂不復言。子輿之歸家。即卒。次年，果有肥芽突出，葉如其數。道士以為異，益灌溉之。三年，高數尺，大拱把，但不花。老道士死，其弟子不知愛惜，斫去之。白牡丹亦憔悴死；無何耐冬亦死。

異史氏曰：「情之至者，鬼神可通。花以鬼從，而人以魂寄，非其結於情者深耶？一去而兩殉之，即非堅貞，亦為情死矣。人不能貞，亦其情之不篤耳。仲尼讀《唐棣》而曰『未思』，信矣哉！」

十一、三十一、三仙

一士人赴試金陵，經宿遷，遇三秀才，談論超曠，遂與沽酒款洽。各表姓字：一介秋衡，一常豐林，一麻西池。縱飲甚樂，不覺日暮。介曰：「未修地主之儀，忽叨盛饌，於理不當。茅茨不遠，可便下榻。」常、麻並起捉裾，喚僕相將俱去。至邑北山，忽睹庭院，門繞清流。既入，舍宇清潔，呼

童張燈，又命安置從人。麻曰：「昔日以文會友，今場期伊邇，不可虛此良夜。請擬四題，命鬪各拈其一，文成方飲。」眾從之。各擬一題，寫置幾上，拾得者就案構思。二更未盡，皆已脫稿，迭相傳視。士人讀三作，深為傾倒，草錄而懷藏之。主人進良醞，巨杯促酌，不覺醺醉。主人乃導客就別院寢。客醉，不暇解履，和衣而臥。及醒，紅日已高，四顧並無院宇，主僕臥山谷中。大駭。見旁有一洞，水涓涓流，自訝迷惘。探懷中則三作俱存。下問土人，始知為「三仙洞」。中有蟹、蛇、蝦蟆三物最靈，時出游，人常見之。士人入闈，三題即仙作，以是擢解。

十一、三十二、鬼隸

歷城縣二隸，奉邑令韓承宣命，營乾他郡，歲暮方歸。途遇二人，裝飾亦類公役，同行話言。二人自稱郡役。隸曰：「濟城快皂，相識十有八九，二君殊昧生平。」一人云：「實相告：我城隍鬼隸也。今將以公文投東嶽。」隸問「公文何事？」答云：「濟南大劫，所報者，殺人之名數也。」驚問其數。曰：「亦不甚悉，約近百萬。」隸問其期，答以「正朔」。二隸驚顧，計到郡正值歲除，恐罹於難，遲留恐貽遣責。鬼曰：「違誤限期罪小，入遭劫數禍大。宜他避，姑勿歸。」隸從之。未幾北兵大至，屠濟南，扛尸百萬。二人亡匿得免。

十一、三十三、王十

高苑民王十，負鹽於博興，夜為二人所獲。意為土商之邏卒也，舍鹽欲遁；足苦不前，遂被縛。哀之。二人曰：「我非鹽肆中人，乃鬼卒也。」十懼，乞一至家別妻子。不許，曰：「此去亦未便即死，不過暫服役耳。」十問：「何事？」曰：「冥中新閻王到任，見奈河淤平，十八獄坑廁俱滿，故捉三等人淘河：小偷、私鑄、私鹽；又一等人使滌廁，樂戶也。」

十從去，入城郭，至一官署，見閻羅在上，方稽名籍。鬼稟曰：「捉一私販王十至。」閻羅視之，怒曰：「私鹽者，上漏國稅，下蠹民生者也。若世之暴官奸商所指為私鹽者，皆天

下之良民。貧人揭錙銖之本，求升斗之息，何為私哉！罰二鬼市鹽四斗，並十所負，代運至家。留十，授以蒺藜骨朵，令隨諸鬼督河工。鬼引十去，至奈河邊，見河內人夫，繼續如蟻。又視河水渾赤，臭不可聞。淘河者皆赤體持畚鍤，出沒其中。朽骨腐尸，盈筐負舁而出；深處則滅頂求之。惰者輒以骨朵攻背股。同監者以香綿丸如巨菽，使含口中，乃近岸。見高苑肆商亦在其中，十獨苛遇之，入河楚背，上岸敲股。商懼，常沒身水中，十乃已。經三晝夜，河夫半死，河工亦竣。前二鬼仍送至家，豁然而蘇。

先是，十負鹽未歸，天明妻啟戶，則鹽兩囊置庭中，而十久不至。使人遍覓之，則死途中。舁之而歸，奄有微息，不解

其故。及醒，始言之。肆商亦於前日死，至是始蘇。骨朵擊處，皆成巨疽，渾身腐潰，臭不可近。十故詣之。望見十，猶縮首衾中，如在奈河狀。一年始愈，不復為商矣。

異史氏曰：「鹽之一道，朝遷之所謂私，乃不從乎公者也；官與商之所謂私，乃不從其私者也。近日齊、魯新規，土商隨在設肆，各限疆域。不惟此邑之民，不得去之彼邑；即此肆之民，不得去之彼肆。而肆中則潛設餌以釣他邑之民：其售於他邑，則廉其直；而售諸土人，則倍其價以昂之。而又設邏於道，使境內之人，皆不得逃吾網。其有境內冒他邑以來者，法不宥。彼此之相釣，而越肆假冒之愚民益多。一被邏獲，則先以刀杖殘其脛股，而後送諸官；官則桎梏之，是

名『私鹽』。嗚呼！冤哉！漏數萬之稅非私，而負升斗之鹽則私之；本境售諸他境非私，而本境買諸本境則私之，冤矣！律中『鹽法』最嚴，而獨於貧難軍民，背負易食者不之禁，今則一切不禁，而專殺此貧難軍民！且夫貧難軍民，妻子嗷嗷，上守法而不盜，下知恥而不倡；不得已，而揭十母而求一子。使邑盡此民，即『夜不閉戶』可也。非天下之良民乎哉！彼肆商者，不但使之淘奈河，直當使滌獄廁耳！而官於春秋節，受其斯須之潤，遂以三尺法助使殺吾良民。然則為貧民計，莫若為盜及私鑄耳：盜者白晝劫人而官若聾，鑄者爐火亙天而官若瞽，即異日淘河，尚不至如負販者所得

無幾，而官刑立至也。嗚呼！上無慈惠之師，而聽奸商之法，日變日詭，奈何不頑民日生，而良民日死哉！

各邑肆商，舊例以若干石鹽資，歲奉本縣，名曰：「食鹽」。又逢節序具厚儀。商以事謁官，官則禮貌之，坐與語，或茶焉。送鹽販至，重懲不遑。張石宰令淄川，肆商來見，循舊規但揖不拜。公怒曰：「前令受汝賄，故不得不隆汝禮；我市鹽而食，何物商人，敢公堂抗禮乎！」捥褲將笞。商叩頭謝過，乃釋之，後肆中獲二負販者，其一逃去，其一被執到官。公問：「販者二人，其一焉往？」販者曰：「逃去矣。」公曰：「汝腿病不能奔耶？」曰：「能奔。」公曰：「既被捉，必不能奔；果能，可起試奔，驗汝能否。」其人奔數步欲止。公

曰：「奔勿止！」其人疾奔，竟出公門而去。見者皆笑。公愛民之事不一，此其閑情，邑人猶樂誦之。

十一、三十四、大男

奚成列，成都士人也。有一妻一妾。妾何氏，小字昭容。妻早沒，繼娶申氏，性妒，虐遇何，且並及奚；終日曉聒，恆不聊生。奚怒亡去；去後何生一子大男。奚去不返，申擯何不與同炊，計日授粟。大男漸長，用不給，何紡績佐食。大男見塾中諸兒吟誦，亦欲讀。母以其太稚，姑送詣讀。大男慧，所讀倍諸兒。師奇之，願不索束脩。何乃使從師，薄相酬。積二三年，經書全通。

一日歸，謂母曰：「塾中五六人，皆從父乞錢買餅，我何獨無？」母曰：「待汝長，告汝知。」大男曰：「今方七八歲，何時長也？」母曰：「汝往塾，路經關帝廟，當拜之，祐汝速長。」大男信之，每過必入拜。母知之，問曰：「汝所祝何詞？」笑云：「但祝明年便使我十六七歲。」母笑之。然大男學與軀長並速：至十歲，便如十三四歲者；其所為文竟成章。一日謂母曰：「昔謂我壯大，當告父處，今可矣。」母曰：「尚未，尚未。」又年餘居然成人，研詰益頻，母乃緬述之。大男悲不自勝，欲往尋父。母曰：「兒太幼，汝父存亡未知，何遽可尋？」大男無言而去，至午不歸。往塾問師，則辰餐未復。母大驚，出資傭役，到處冥搜，杳無蹤跡。

大男出門，循途奔去，茫然不知何往。適遇一人將如夔州，言姓錢。大男丐食相從。錢病其緩，為賃代步，資斧耗竭。至夔同食，錢陰投毒食中，大男瞑不覺。錢載至大剎，托為己子，偶病絕資，賣諸僧。僧見其豐姿秀異，爭購之。錢得金竟去。僧飲之，略醒。長老知而詣視，奇其相，研詰始得顛末。甚憐之，贈資使去。有瀘州蔣秀才下第歸，途中問得故，嘉其孝，攜與同行。至瀘，主其家。月餘，遍加諮訪。或言閩商有奚姓者，乃辭蔣，欲之閩。蔣贈以衣履，里黨皆斂資助之。途遇二布客，欲往福清，邀與同侶。行數程，客窺囊金，引至空所，摯其手足，解奪而去。適有永福陳翁過其地，脫其縛，載歸其家。翁豪富，諸路商賈，多出其門，

翁囑南北客代訪奚耗。留大男伴諸兒讀。大男遂住翁家，不復游。然去家愈遠，音梗矣。

何昭容孤居三四年，申氏減其費，抑勒令嫁。何志不搖。申強賣於重慶賈，賈劫取而去。至夜，以刀自剗。賈不敢逼，俟創瘡，又轉鬻於鹽亭賈。至鹽亭，自刺心頭，洞見臟腑。賈大懼，敷以藥，創平，求為尼。賈曰：「我有商侶，身無淫具，每欲得一人主縫紉。此與作尼無異，亦可少償吾值。」何諾。賈輿送去。入門，主人趨出，則奚生也。蓋奚已棄儒為商，賈以其無婦，故贈之也。相見悲駭，各述苦況，始知有兒尋父未歸。奚乃囑諸客旅，偵察大男。而昭容遂以妾為妻矣。

然自歷艱苦，痾痛多疾，不能操作，勸奚納妾。奚鑒前禍，不從所請。何曰：「妾如爭床第者，數年來固已從人生子，尚得與君有今日耶？且人加我者，隱痛在心，豈及諸身而自蹈之？」奚乃囑客侶，為買三十餘老妾。逾半年客果為買妾歸，入門則妻申氏。各相駭異。先是申獨居年餘，兄苞勸令再適。申從之，惟田產為子侄所阻不得售。鬻諸所有，積數百金，攜歸兄家。有保寧賈，聞其富有奩資，以多金啖苞賺娶之。而賈老廢不能人。申怨兄，不安於室，懸梁投井，不堪其擾。賈怒，搜括其資，將賣作妾。聞者皆嫌其老。賈將適夔，乃載與俱去。遇奚同肆，適中其意，遂貨之而去。既見奚，慚懼不出一語。奚問同肆商，略知梗概，因曰：「使

遇健男，則在保寧，無再見之期，此亦數也。然今日我買妾，非娶妻，可先拜昭容，修嫡庶禮。」申恥之。奚曰：「昔日汝作嫡，何如哉！」何勸止之。奚不可，操杖臨逼，申不得已，拜之。然終不屑承奉，但操作別室，何悉優容之，亦不忍課其勤惰。奚每與昭容談宴，輒使役使其側；何更代以婢，不聽前。

會陳公嗣宗宰鹽亭。奚與里人有小爭，里人以逼妻作妾揭訟奚。公不準理，叱逐之。奚喜，方與何竊頌公德。一漏既盡，僮呼叩扉，入報曰：「邑令公至。」奚駭極，急覓衣履，則公已至寢門；益駭，不知所為。何審之，急出曰：「是吾兒也！」遂哭。公乃伏地悲咽。蓋大男從陳公姓，業為官矣。

初、公至自都，迂道過故里，始知兩母皆醮，伏膺哀痛。族人知大男已貴，反其田廬。公留僕營造，冀父復還。既而授任鹽亭，又欲棄官尋父，陳翁苦勸止之。會有卜者，使筮焉。卜者曰：「小者居大，少者為長；求雄得雌，求一得兩，為官吉。」公乃之任。為不得親，居官不茹葷酒。是日得裏人狀，睹奚姓名，疑之。陰遣內使細訪，果父。乘夜微行而出。見母，益信卜者之神。臨去囑勿播，出金二百，啟父辦裝歸里。

父抵家，門戶一新，廣畜僕馬，居然大家矣。申見大男貴盛，益自斂。兄苞不憤，訟官，為妹爭嫡。官廉得其情，怒曰：「貪資勸嫁，已更二夫，尚何顏爭昔年嫡庶耶！」重笞

苞。由此名分益定。而申妹何，何姊之。衣服飲食，悉不自私。申初懼其復仇，今益愧悔。奚亦忘其舊惡，俾內外皆呼以太母，但誥命不及耳。

異史氏曰：「顛倒眾生，不可思議，何造物之巧也！奚生不能自立於妻妾之間，一碌碌庸人耳。苟非孝子賢母，烏能有此奇合，坐享富貴以終身哉！」

十一、三十五、外國人

己巳秋，嶺南從外洋飄一巨艘來。上有十一人，衣鳥羽，文採璀璨。自言曰：「呂宋國人。遇風覆舟，數十人皆死；惟十一人附巨木，飄至大島得免。凡五年，日攫鳥蟲而食；夜

伏石洞中，織羽為帆。忽又飄一舟至，櫓帆皆無，蓋亦海中碎於風者，於是附之將返。又被大風引至澳門。」巡撫題疏，送之還國。

十一、三十六、韋公子

韋公子，咸陽世家。放縱好淫，婢婦有色，無不私者。嘗載金數千，欲盡覓天下名妓，凡繁麗之區無不至。其不甚佳者，信宿即去，當意則作百日留，叔亦名宦，休致歸，怒其行，延明師置別業，使與諸公子鍵戶讀。公子夜伺師寢，逾垣歸，遲明而返。一夜失足折肱，師始知之。告公，公益施夏楚，俾不能起而始藥之。及愈，公與之約：能讀倍諸弟，文字佳，

出勿禁；若私逸，撻如前。然公子最慧，讀常過程。數年中鄉榜。欲自敗約，公鉗制之。赴都，以老僕從，授日記籍，使志其言動。故數年無過行。後成進士，公乃稍弛其禁。

公子或將有作，惟恐公聞，入曲巷中輒托姓魏。一日過西安，見優僮羅惠卿，年十六七，秀麗如好女，悅之。夜留繾綣，贈貽豐隆。聞其新娶婦尤韻妙，私示意惠卿。惠卿無難色，夜果攜婦至，三人共一榻。留數日眷愛臻至。謀與俱歸。問其家口，答云：『母早喪，父存。某原非羅姓。母少服役於咸陽韋氏，賣至羅家，四月即生餘。倘得從公子去，亦可察其音耗。』公子驚問母姓，曰：「姓呂。」生駭極，汗下浹體，

蓋其母即生家婢也。生無言。時天已明，厚贈之，勸令改業。偽托他適，約歸時召致之，遂別去。

後令蘇州，有樂伎沈韋娘，雅麗絕倫，愛留與狎。戲曰：「卿小字取『春風一曲杜韋娘』耶？」答曰：「非也。妾母十七為名妓，有咸陽公子與公同姓，留三月，訂盟婚娶。公子去，八月生妾，因名韋，實妾姓也。公子臨別時，贈黃金鴛鴦今尚在。一去竟無音耗，妾母以是憤悒死。妾三歲，受撫於沈媪，故從其姓。」公子聞言，愧恨無以自容。默移時，頓生一策。忽起挑燈，喚韋娘飲，暗置鴆毒杯中。韋娘才下咽，潰亂呻嘶。眾集視則已斃矣。呼優人至，付以尸，重賂之。而

韋娘所與交好者盡勢家，聞之皆不平，賄激優人訟於上官。生懼，瀉橐彌縫，卒以浮躁免官。

歸家年才三十八，頗悔前行。而妻妾五六人，皆無子。欲繼公孫；公以門無內行，恐兒染習氣，雖許過嗣，必待其老而後歸之。公子憤欲招惠卿，家人皆以為不可，乃止。又數年忽病，輒搥心曰：「淫婢宿妓者非人也！」公聞而嘆曰：「是殆將死矣！」乃以次子之子，送詣其家，使定省之。月餘果死。異史氏曰：「盜婢私娼，其流弊殆不可問。然以己之骨血，而謂他人父，亦已羞矣。乃鬼神又侮弄之，誘使自食便液。尚不自剖其心，自斷其首，而徒流汗投鳩，非人頭而

畜鳴者耶！雖然，風流公子所生子女，即在風塵中亦皆擅場。」

十一、三十七、石清虛

邢雲飛，順天人。好石，見佳不惜重直。偶漁於河，有物掛網，沉而取之，則石徑尺，四面玲瓏，峰巒疊秀。喜極如獲異珍。既歸，雕紫檀為座，供諸案頭。每值天欲雨，則孔孔生云，遙望如塞新絮。

有勢豪某踵門求觀。既見，舉付健僕，策馬徑去。邢無奈，頓足悲憤而已。僕負石至河濱，息肩橋上，忽失手墮諸河。豪怒，鞭僕。即出金雇善泅者，百計冥搜，竟不可見。乃懸

金署約而去。由是尋石者日盈於河，迄無獲者。後邢至落石處，臨流於邑，但見河水清澈，則石固在水中。邢大喜，解衣入水，抱之而出。攜歸，不敢設諸廳所，潔治內室供之。一日有老叟款門而請，邢托言石失已久。叟笑曰：「客舍非耶？」邢便請入舍以實其無，及入，則石果陳幾上。愕不能言。叟撫石曰：「此吾家故物，失去已久，今固在此耶。既見之，請即賜還。」邢窘甚，遂與爭作石主。叟笑曰：「既汝家物，有何驗證？」邢不能答。叟曰：「僕則故識之。前後九十二竅，孔中五字云：『清虛天石供。』」邢審視，孔中果有小字，細如粟米，竭目力才可辨認；又數其竅，果如所言。邢無以對，但執不與。叟笑曰：「誰家物而憑君作主耶！」拱

手而出。邢送至門外；既還，已失石所在。邢急追叟，則叟緩步未遠。奔牽其袂而哀之。叟曰：「奇哉！經尺之石，豈可以手握袂藏者耶？」邢知其神，強曳之歸，長跽請之。叟乃曰：「石果君家者耶、僕家者耶？」答曰：「誠屬君家，但求割愛耳。」叟曰：「既然，石固在是。」入室，則石已在故處。叟曰：「天下之寶，當與愛惜之人。此石能自擇主，僕亦喜之。然彼急於自見，其出也早，則魔劫未除。實將攜去，待三年後始以奉贈。既欲留之，當減三年壽數，乃可與君相終始。君願之乎？」曰：「願。」叟乃以兩指捏一竅，竅軟如泥，隨手而閉。閉三竅，已，曰：「石上竅數，即君壽也。」作別欲去。邢苦留之，辭甚堅；問其姓字亦不言，遂去。

積年餘，邢以故他出，夜有賊入室，諸無所失，惟竊石而去。邢歸，悼喪欲死。訪察購求，全無蹤跡。積有數年，偶入報國寺，見賣石者，則故物也，將便認取。賣者不服，因負石至官。官問：「何所質驗？」賣石者能言竅數。邢問其他，則茫然矣。邢乃言竅中五字及三指痕，理遂得伸。官欲杖責賣石者，賣石者自言以二十金買諸市，遂釋之。

邢得石歸，裹以錦，藏櫝中，時出一賞，先焚異香而後出之。有尚書某購以百金，邢曰：「雖萬金不易也。」尚書怒，陰以他事中傷之。邢被收，典質田產。尚書托他人風示其子。子告邢，邢願以死殉石。妻竊與子謀，獻石尚書家。邢出獄始知，罵妻毆子，屢欲自經，皆以家人覺救得不死。夜夢一

丈夫來，自言：「石清虛。」戒邢勿戚：「特與君年餘別耳。明年八月二十日昧爽時，可詣海岱門以兩貫相贖。」邢得夢，喜，謹志其日。其石在尚書家，更無出雲之異，久亦不甚貴重之。明年，尚書以罪削職，尋死，邢如期至海岱門，則其家人竊石出售，因以兩貫市歸。

後邢至八十九歲，自治葬具，又囑子必以石殉，及卒，子遵遺教，瘞石墓中。半年許，賊發墓劫石去。子知之，莫可追詰。越二三日，同僕在道，忽見兩人奔躑汗流，望空投拜，曰：「邢先生，勿相逼！我二人將石去，不過賣四兩銀耳。」遂繫送到官，一訊即伏。問石，則鬻宮氏。取石至，宮愛玩

欲得之，命寄諸庫。吏舉石，石忽墮地，碎為數十餘片。皆失色。官乃重械兩盜論死。邢子拾碎石出，仍瘞墓中。

異史氏曰：「物之尤者禍之府。至欲以身殉石亦癡甚矣！而卒之石與人相終始，誰謂石無情哉？古語云：『士為知己者死。』非過也！石猶如此，何況於人！」

十一、三十八、曾友於

曾翁，昆陽故家也。翁初死未殮，兩眶中淚出如沈，有子六，莫解所以。次子悌，字友于，邑名士，以為不祥，戒諸兄弟各自惕，勿貽痛於先人；而兄弟半迂笑之。

先是翁嫡配生長子成，至七八歲，母子為強寇擄去。娶繼室，生三子：曰孝，曰忠，曰信。妾生三子：曰悌，曰仁，曰義。孝以悌等出身賤，鄙不齒，因連結忠、信為黨。即與客飲，悌等過堂下，亦傲不為禮。仁、義皆忿，與友於謀欲相仇。友於百詞寬譬，不從所謀；而仁、義年最少，因兄言亦遂止。

孝有女適邑周氏，病死。糾悌等往撻其姑，悌不從。孝憤然，令忠、信合族中無賴子，往捉周妻，擄掠無算，拋粟毀器，盜盂無存。周告官。官怒，拘孝等囚系之，將行申黜。友於懼，見宰自投。友於品行，素為宰重，諸兄弟以是得無苦。友于乃詣周所負荊，周亦器重友于，訟遂止。

孝歸，終不德友于。無何，友於母張夫人卒，孝等不為服，宴飲如故。仁、義益忿。友于曰：「此彼之無禮，於我何損焉。」及葬，把持墓門，不使合厝。友于乃瘞母隧道中。未幾孝妻亡，友於招仁、義同往奔喪。二人曰：「『期』且不論，『功』於何有！」再勸之，哄然散去。友于乃自往，臨哭盡哀。隔牆聞仁、義鼓且吹，孝怒，糾諸弟往毆之。友於操杖先從。入其家，仁覺先逃。興方逾垣，友於自後擊僕之。孝等拳杖交加，毆不止。友於橫身障阻之。孝怒，讓友于。友于曰：「責之者以其無禮也，然罪固不至死。我不怙弟惡，亦不助兄暴。如怒不解，願以身代之。」孝遂反杖撻友于，忠、信亦相助毆兄，聲震里黨，群集勸解，乃散去。友於即扶杖詣兄請罪。

孝逐去之，不令居喪次。而義創甚，不復食飲。仁代具詞訟官，訴其不為庶母行服。官簽拘孝、忠、信，而令友於陳狀。友於以面目損傷，不能詣署，但作詞稟白，哀求寢息，宰遂消案。義亦尋愈。由是仇怨益深。仁、義皆幼弱，輒被敲楚。怨友于曰：「人皆有兄弟，我獨無！」友于曰：「此兩語，我宜言之，兩弟何雲！」因苦勸之，卒不聽。友于遂扃戶，攜妻子借寓他所，離家五十餘里，冀不相聞。

友於在家雖不助弟，而孝等尚稍有顧忌；既去，諸兄一不當，輒叫罵其門，辱侵母諱。仁、義度不能抗，惟杜門思乘間刺殺之，行則懷刀。

一日寇所掠長兄成，忽攜婦亡歸。諸兄弟以家久析，聚謀三日，竟無處可以置之。仁、義竊喜，招去共養之。往告友于。友於喜，歸，共出田宅居成。諸兄怒其市惠，登門窘辱。而成久在寇中，習於威猛，大怒曰：「我歸，更無人肯置一屋；幸三弟念手足，又罪責之。是欲逐我耶！」以石投孝，孝僕。仁、義各以杖出，捉忠、信，撻無數。成乃訟宰，宰又使人請教友于。友於詣宰，俯首不言，但有流涕。宰問之，曰：「惟求公斷。」宰乃判孝等各出田產歸成，使七分相準。自此仁、義與成倍加愛敬，談及葬母事，因並泣下。成恚曰：「如此不仁，真禽獸也！」遂欲啟壙更為改葬。仁奔告友于，友於急歸諫止。成不聽，刻期發墓，作齋於塋。以刀削樹，謂諸

弟曰：「所不衰麻相從者，有如此樹！」眾唯唯。於是一門皆哭臨，安厝盡禮。自此兄弟相安。

而成性剛烈，輒批撻諸弟，於孝尤甚。惟重友于，雖盛怒，友於至，一言即解。孝有所行，成輒不平之，故孝無一日不至友於所，潛對友於詬詛。友於婉諫，卒不納。友於不堪其擾，又遷居三泊，去家益遠，音跡遂疏。又二年，諸弟皆畏成，久亦相習。

而孝年四十六，生五子：長繼業，三繼德，嫡出；次繼功，四繼績，庶出；又婢生繼祖。皆成立。效父舊行，各為黨，日相競，孝亦不能呵止。惟祖無兄弟，年又最幼，諸兄皆得而詬厲之。岳家近三泊，會詣嶽，迂道詣叔。入門見叔家兩

兄一弟，弦誦怡怡，樂之，久居不言歸。叔促之，哀求寄居。叔曰：「汝父母皆不知，我豈惜甌飯瓢飲乎！」乃歸。過數月，夫妻往壽岳母，告父曰：「兒此行不歸矣。」父詰之，因吐微隱。父慮與叔有夙隙，計難久居。祖曰：「父慮過矣。二叔聖賢也。」遂去，攜妻之三泊。友於除舍居之，以齒兒行，使執卷從長子繼善。祖最慧，寄籍三泊年餘，入去南郡庠。與善閉戶研讀，祖又諷誦最苦。友於甚愛之。

自祖居三泊，家中兄弟益不相能。一日微反唇，業詬辱庶母。功怒，刺殺業。官收功，重械之，數日死獄中。業妻馮氏，猶日以罵代哭。功妻劉聞之，怒曰：「汝家男子死，誰家男子活耶！」操刀入，擊殺馮，自投井死。馮父大立，悼女死

慘，率諸子弟，藏兵衣底，往捉孝妾，裸撻道上以辱之。成怒曰：「我家死人如麻，馮氏何得復爾！」吼奔而出。諸會從之，諸馮盡靡。成首捉大立，割其兩耳。其子護救，繼、績以鐵杖橫擊，折其兩股。諸馮各被夷傷，哄然盡散。惟馮子猶臥道周。成夾之以肘，置諸馮村而還。遂呼績詣官自首。馮狀亦至。於是諸會被收。

惟忠亡去，至三泊，徘徊門外。適友於率一子一侄鄉試歸，見忠，驚曰：「弟何來？」忠未語先淚，長跪道左。友於握手拽入，詰得其情，大驚曰：「似此奈何！然一門乖戾，逆知奇禍久矣；不然，我何以竄跡至此。但我離家久，與大令無聲氣之通，今即匍伏而往，徒取辱耳。但得馮父子傷重不死，

吾三人中幸有捷者，則此禍或可少解。」乃留之，晝與同餐，夜與共寢。忠頗感愧。居十餘日，見其叔侄如父子，兄弟如同胞，淒然下淚曰：「今始知從前非人也。」友於喜其悔悟，相對酸惻。俄報友於父子同科，祖亦副榜，大喜。不赴鹿鳴，先歸展墓。明季科甲最重，諸馮皆為斂息。友于乃托親友賂以金粟，資其醫藥，訟乃息。舉家泣感友于，求其復歸。友于乃與兄弟焚香約誓，俾各滌慮自新，遂移家還。

祖從叔不願歸其家。孝乃謂友于曰：「我不德，不應有亢宗之子；弟又善教，俾姑為汝子。有寸進時，可賜還也。」友於從之。又三年，祖果舉於鄉。使移家，夫妻皆痛哭而去。不數日，祖有子方三歲，亡歸友於家，藏伯繼善室，不肯返。

捉去輒逃。孝乃令祖異居，與友於鄰。祖開戶通叔家。兩間定省如一焉。時成漸老，家事皆取決於友于。從此門庭雍穆，稱孝友焉。

異史氏曰：「天下惟禽獸止知母而不知父，奈何詩書之家往往蹈之也！夫門內之行，其漸潰子孫者，直入骨髓。古云：其父盜，子必行劫，其流弊然也。孝雖不仁，其報亦慘，而卒能自知乏德，托子於弟，宜其有操心慮患之子也。若論果報猶迂也。」

十一、三十九、嘉平公子

嘉平某公子，風儀秀美。年十七八，入郡赴童子試。偶過許娼之門，見內有二八麗人，因目注之。女微笑點首，公子近就與語。女問：「寓居何處？」具告之，問：「寓中有人否？」曰：「無。」女云：「妾晚間奉訪，勿使人知。」公子歸，及暮，屏去僮僕。女果至，自言：「小字溫姬。」且云：「妾慕公子風流，故背媪而來。區區之意，願奉終身。」公子亦喜。自此三兩夜輒一至。一夕冒雨來，入門解去濕衣，冒諸櫬上，又脫足上小靴，求公子代去泥塗。遂上床以被自覆。公子視其靴，乃五文新錦，沾濡殆盡，惜之。女曰：「妾非敢以賤物相役，欲使公子知妾之癡於情也。」聽窗外雨聲不止，遂

吟曰：「淒風冷雨滿江城。」求公子續之。公子辭以不解。女曰：「公子如此一人，何乃不知風雅！使妾清興消矣！」因勸肄習，公子諾之。往來既頻，僕輩皆知。公子姊夫宋氏亦世家子，聞之，竊求公子一見溫姬。公子言之，女必不可。宋隱身僕舍，伺女至，伏窗窺之，顛倒欲狂。急排闥，女起，逾垣而去。宋向往甚殷，乃修贄見許媪，指名求之。媪曰：「果有溫姬，但死已久。」宋愕然退，告公子，公子始知為鬼。至夜因以宋言告女，女曰：「誠然。顧君欲得美女子，妾亦欲得美丈夫。各遂所願足矣，人鬼何論焉？」公子以為然。試畢而歸，女亦從之。他人不見，惟公子見之。至家，寄諸齋中。公子獨宿不歸，父母疑之。女歸寧，始隱以告母，

母大驚，戒公子絕之，公子不能聽。父母深以為憂，百術驅之不能去。一日，公子有諭僕帖置案上，中多錯謬：「椒」訛「菽」，「姜」訛「江」，「可恨」訛「可浪」。女見之，書其後：「何事『可浪』？『花菽生江』。有婿如此，不如為娼！」遂告公子曰：「妾初以公子世家文人，故蒙羞自薦。不圖虛有其表！以貌取人，毋乃為天下笑乎！」言已而沒。公子雖愧恨，猶不知所題，折帖示僕。聞者傳為笑談。

異史氏曰：「溫姬可兒！翩翩公子，何乃苛其中之所有哉！遂至悔不如娼，則妻妾羞泣矣。顧百計遣之不去，而見帖浩然，則『花菽生江』，何殊於杜甫之『子章髑髏』哉！《耳錄》云：「道旁設漿者，榜云：『施『恭』結緣。』亦可一笑。」

有故家子，既貧，榜於門曰：「賣古淫器。」訛確淫云：「有要宣淫、定淫者，大小皆有，入內看物論價。」崔盧之子孫如此甚眾，何獨「花菽生江」哉！

## 十一、卷十二

十二、一、二班

殷元禮，雲南人，善針灸之術。遇寇亂，竄入深山。日既暮，村舍尚遠，懼遭虎狼。遙見前途有兩人，疾趨之。既至，兩人問客何來，殷乃自陳族貫。兩人拱敬曰：「是良醫殷先生也，仰山斗久矣！」殷轉詰之。二人自言班姓，一為班爪，一

為班牙。便謂：「先生，予亦避難石室，幸可棲宿，敢屈玉趾，且有所求。殷喜從之。俄至一處，室傍巖谷。爇柴代燭：始見二班容軀威猛，似非良善。計無所之，亦即聽之。又聞榻上呻吟，細審，則一老嫗殭臥，似有所苦。問：「何恙？」牙曰：「以此故，敬求先生。」乃束火照榻，請客逼視。見鼻下口角有兩贅瘤，皆大如碗，且云：「痛不可觸，妨礙飲食。」殷曰：「易耳。」出艾團之，為灸數十壯，曰：「隔夜愈矣。」二班喜，燒鹿餉客；並無酒飯，惟肉一品。爪曰：「倉猝不知客至，望勿以輜褻為怪。」殷飽餐而眠，枕以石塊。二班雖誠樸，而粗莽可懼，殷轉側不敢熟眠。天未明便呼嫗，問所

患。媼初醒，自捫，則瘤破為創。殷促二班起，以火就照，敷以藥屑，曰：「愈矣。」拱手遂別。班又以燒鹿一肘贈之。

後三年無耗。殷適以故入山，遇二狼當道，阻不得行。日既西。狼又群至，前後受敵。狼撲之，僕；數狼爭嚙，衣盡碎。自分必死。忽兩虎驟至，諸狼四散。虎怒大吼，狼懼盡伏。虎悉撲殺之，竟去。殷狼狽而行，懼無投止。遇一媼來，睹其狀，曰：「殷先生吃苦矣！」殷戚然訴狀，問何見識。媼曰：「余即石室中灸瘤之病媼也。」殷始恍然，便求寄宿。媼引去，入一院落，燈火已張，曰：「老身伺先生久矣。」遂出袍褲，易其敝敗。羅漿具酒，酬勸諄切。媼亦以陶碗自酌，談飲俱豪，不類巾幗。殷問：「前日兩男子，系老姥何人？」

胡以不見？」媪曰：「兩兒遣逆先生，尚未歸復，必迷途矣。」  
殷感其義，縱飲不覺沉醉，酣眠座間。既醒，已曙，四顧竟  
無廬，孤坐巖上。聞巖下喘息如牛，近視，則老虎方睡未醒。  
喙間有二癩痕，皆大如拳。駭極，惟恐其覺，潛蹤而遁。始  
悟兩虎即二班也。

十二、二、車夫

有車夫載重登坡，方極力時，一狼來嚙其臀。欲釋手，則貨  
敝身壓，忍痛推之。既上，則狼已齧片肉而去。乘其不能為  
力之際，竊嘗一鬻，亦黠而可笑也。

十二、三、乩仙

章丘米步雲，善以乩卜。每同人雅集，輒召仙相與賡和。一日友人見天上微去，得句，請以屬對，曰：「羊脂白玉天。」乩批云：「問城南老董。」眾疑其妄。後以故偶適城南，至一處，土如丹砂，異之。見一叟牧豕其側，因問之。叟曰：「此豬血紅泥地也。」忽憶乩詞，大駭。問其姓，答云：「我老董也。」屬對不奇，而預知遇城南老董，斯亦神矣！

十二、四、苗生

龔生，岷州人。赴試西安，憩於旅舍，沽酒自酌。一偉丈夫入，坐與語。生舉卮勸飲，客亦不辭。自言苗姓，言嘍粗豪。

生以其不文，偃蹇遇之。酒盡不復沽。苗生曰：「措大飲酒，使人悶損！」起向壚頭沽，提巨甌而入。生辭不飲，苗捉臂勸釀，臂痛欲折。生不得已，為盡數觴。苗以羹碗自吸，笑曰：「僕不善勸客，行止惟君所便。」生即治裝行。

約數里，馬病臥於途，坐待路側。行李重累，正無方計，苗尋至。詰知其故，遂謝裝付僕，已乃以肩承馬腹而荷之，趨二十餘里，始至逆旅，釋馬就櫪。移時生主僕方至。生乃驚為神，相待優渥，沽酒市飯，與共餐飲。苗曰：「僕善飯，非君所能飽，飫飲可也。」引盡一甌，乃起而別曰：「君醫馬尚須時日，餘不能待，行矣。」遂去。

後生場事畢，三四友人邀登華山，藉地作筵。方共宴笑，苗忽至，左攜巨尊，右提豚肘擲地曰：「聞諸君登臨，敬附驥尾。」眾起為禮，相並雜坐，豪飲甚歡。眾欲聯句，苗爭曰：「縱飲甚樂，何苦愁思。」眾不聽，設「金穀之罰」。苗曰：「不佳者，當以軍法從事！」眾笑曰：「罪不至此。」苗曰：「如不見誅，僕武夫亦能之也。」首座靳生曰：「絕巘憑臨眼界空。」苗信口續曰：「唾壺擊缺劍光紅。」下座沉吟既久，苗遂引壺自傾。移時，以次屬句，漸涉鄙俚。苗呼曰：「只此已足，如赦我者，勿作矣！」眾弗聽。苗不可復忍，遽效作龍吟，山谷響應；又起俯仰作獅子舞。詩思既亂，眾乃罷吟，因而飛觴再酌。時已半酣，客又互誦闡中作，迭相贊賞。苗不欲聽，

牽生豁拳。勝負屢分，而諸客誦贊未已。苗厲聲曰：「僕聽之已悉。此等文只宜向床頭對婆子讀耳，廣眾中刺刺者可厭也！」眾有慚色，更惡其粗莽，遂益高吟。苗怒甚，伏地大吼，立化為虎，撲殺諸客，咆哮而去。所存者，惟生及靳。靳是科領薦。

後三年再經華陰，忽見嵇生，亦山上被噬者。大恐欲馳，靳捉鞵使不得行。靳乃下馬，問其何為。答曰：「我今為苗氏之俚，從役良苦。必再殺一士人，始可相代。三日後，應有儒服儒冠者見噬於虎，然必在蒼龍嶺下，始是代某者。君於是日，多邀文士於此，即為故人謀也。」靳不敢辨，敬諾而別。至寓籌思終夜，莫知為謀，自拚背約，以聽鬼責。適有

表戚蔣生來，靳述其異。蔣名下士，邑尤生考居其上，竊懷忌嫉。聞靳言，陰欲陷之。折簡邀尤與共登臨，自乃著白衣而往，尤亦不解其意。至嶺半，肴酒並陳，敬禮臻至。會郡守登嶺上，與蔣為通家，聞蔣在下，遣人召之。蔣不敢以白衣往，遂與尤易冠服。交著未完，虎驟至，銜蔣而去。

異史氏曰：「得意津津者，捉衿袖，強人聽聞；聞者欠伸屢作，欲睡欲遁，而誦者足蹈手舞，茫不自覺。知交者亦當從旁肘之躡之，恐座中有不耐事之苗生在也。然嫉忌者易服而斃，則知苗亦無心者耳。故厭怒者苗也——非苗也。」

十二、五、蠍客

南商販蠍者，歲至臨朐，收買甚多。土人持木鉗入山，探穴發石搜捉之。一歲商復來，寓客肆。忽覺心動，毛發森悚，急告主人曰：「傷生既多，今見怒於蠍鬼，將殺我矣！急垂拯救！」主人顧室中有巨甕，乃使蹲伏，以甕覆之。移時一人奔入，黃發獐丑，問主人：「南客安在？」答曰：「他出。」其人入室四顧，鼻作嗅聲者三，遂出門去。主人曰：「可幸無恙矣。」及啟甕視客，客已化為血水。

十二、六、杜小雷

杜小雷，益都之西山人。母雙盲。杜事之孝，家雖貧，甘旨無缺。一日將他適，市肉付妻，令作餽飪。妻最忤逆，切肉時雜蜣螂其中。母覺臭惡不可食，藏以待子。杜歸，問：「餽飪美乎？」母搖首，出示子。杜裂視，見蜣螂，怒甚。入室欲撻妻，又恐母聞。上榻籌思，妻問之，不語。妻自餒，徬徨榻下。久之喘息有聲。杜叱曰：「不睡待敲撲耶！」亦覺寂然。起而燭之，但見一豕，細視，則兩足猶人，始知為妻所化。邑令聞之，繫去，使游四門，以戒眾人。譚薇臣曾親見之。

十二、七、毛大福

太行毛大福，瘍醫也。一日行術歸，道遇一狼，吐裹物，蹲道左。毛拾視，則布裹金飾數事。方怪異間，狼前歡躍，略曳袍服即去。毛行又曳之。察其意不惡，因從之去。未幾至穴，見一狼病臥，視頂上有巨瘡，潰腐生蛆。毛悟其意，撥剔淨盡，敷藥如法，乃行。日既晚，狼遙送之。行三四里，又遇數狼，咆哮相侵，懼甚。前狼急入其群，若相告語，從狼悉散去。毛乃歸。

先是，邑有銀商寧泰，被盜殺於途，莫可追詰。會毛貨金飾，為寧所認，執赴公庭。毛訴所從來，官不信，械之。毛冤極

不能自伸，惟求寬釋，請問諸狼。官遣兩役押入山，直抵狼穴。值狼未歸，及暮不至，三人遂反。至半途遇二狼，其一瘡痕猶在，毛識之，向揖而祝曰：「前蒙饋贈，今遂以此被屈。君不為我昭雪，回去撈掠死矣！」狼見毛被繫，怒奔隸。隸拔刀相向。狼以喙拄地大嗥；嗥兩三聲，山中百狼群集，圍旋隸。隸大窘。狼競前噬繫索，隸悟其意，解毛縛，狼乃俱去。歸述其狀，官異之，未遽釋毛。後數日，官出行。一狼銜敝履委道上。官過之，狼又銜履奔前置於道。官命收履，狼乃去。官歸，陰遣人訪履主。或傳某村有叢薪者，被二狼迫逐，銜其履而去。拘來認之，果其履也。遂疑殺寧者必薪，

鞫之果然。蓋薪殺寧，取其巨金，衣底藏飾，未遑搜括，被狼銜去也。

昔一穩婆出歸，遇一狼阻道，牽衣若欲召之。乃從去，見雌狼方媿不下。嫗為用力按捺，產下放歸。明日，狼銜鹿肉置其家以報之。可知此事從來多有。

十二、八、雹神

唐太史濟武，適日照會安氏葬。道經雹神李左車祠，入游眺。祠前有池，池水清澈，有朱魚數尾游泳其中。內一斜尾魚唼呷水面，見人不驚。太史拾小石將戲擊之。道士急止勿擊。問其故，言：「池鱗皆龍族，觸之必致風雹。」太史笑其

附會之誣，竟擲之。既而升車東行，則有黑雲如蓋，隨之以行。簌簌雹落，大如綿子。又行里餘，始霽。太史弟涼武在後，追及與語，則竟不知有雹也。問之前行者亦云。太史笑曰：「此豈廣武君作怪耶！」猶未深異。

安村外有關聖祠，適有稗販客，釋肩門外，忽棄雙籠，趨祠中，拔架上大刀旋舞，曰：「我李左車也。明日將陪從淄川唐太史一助執紼，敬先告主人。」數語而醒，不自知其所言，亦不識唐為何人。安氏聞之，大懼。村去祠四十餘里，敬修楮帛祭具，詣祠哀禱，但求憐憫，不敢枉駕。太史怪其敬信之深，問諸主人。主人曰：「雹神靈跡最著，常托生人以為言，應驗無虛語。若不虔祝以尼其行，則明日風雹立至矣。」

異史氏曰：「廣武君在當年，亦老謀壯事者流也。即司電於東，或亦其不磨之氣，受職於天。然業已神矣，何必翹然自異哉！唐太史道義文章，天人之欽矚已久，此鬼神之所以必求信於君子也。」

十二、九、李八缸

太學李月生，升字翁之次子也。翁最富，以缸貯金，里人稱之「八缸」。翁寢疾，呼子分金：兄八之，弟二之。月生缺望。翁曰：「我非偏有愛憎，藏有窖鏹，必待無多人時，方以畀汝，勿急也。」過數日，翁益彌留。月生慮一旦不虞，覷無人就床頭秘訊之，翁曰：「人生苦樂皆有定數。汝方享妻

賢之福，故不宜再助多金，以增汝過。」蓋月生妻車氏，最賢，有桓、孟之德，故云。月生固哀之，怒曰：「汝尚有二十餘年坎壈未歷，即予千金，亦立盡耳。苟不至山窮水盡時，勿望給與也！」月生孝友敦篤，亦即不敢復言。猶冀父復瘥，旦夕可以婉告。無何翁大漸，尋卒。幸兄賢，齋葬之謀，勿與校計。

月生又天真爛漫，不較錙銖，且好客善飲，炊黍治具，日促妻三四作，不甚理家人生產。里中無賴窺其懦，輒魚肉之。逾數年家漸落。窘急時，賴兄小周給，不至大困。無何兄以老病卒，益失所助，至絕糧食。春貸秋償，田所出登場輒盡。乃割畝為活，業益消滅。又數年妻及長子相繼殂謝，無聊

益甚。尋買販羊者之妻徐，翼得其小阜；而徐性剛烈，日凌藉之，至不敢與親朋通吊慶禮。忽一夜夢父曰：「今汝所遭，可謂山窮水盡矣。嘗許汝窖金，今其可矣。」問：「何在？」曰：「明日畀汝。」醒而異之，猶謂是貧中之積想也。次日發土茸壟，掘得巨金，始悟向言「無多人」，乃死亡將半也。

異史氏曰：「月生，餘杵臼交，為人樸誠無偽。餘兄弟與交，哀樂輒相共。數年來村隔十餘里，老死竟不相聞。余偶過其居里，因亦不敢過問之。則月生之苦況，蓋有不可明言者矣。忽聞暴得千金，不覺為之鼓舞。嗚呼！翁臨終之治命，昔習聞之，而不意其言皆讖也。抑何其神哉！」

十二、十、老龍船戶

朱公徽蔭巡撫粵東時，往來商旅，多告無頭冤狀。千里行人，死不見尸，數客同游，全無音信，積案累累，莫可究詰。初告，有司尚發牒行緝；迨投狀既多，竟置不問。公蒞任，歷稽舊案，狀中稱死者不下百餘，其千里無主，更不知凡幾。公駭異惻怛，籌思廢寢。遍訪僚屬，迄少方略。於是潔誠熏沐，致檄城隍之神。已而齋寢，恍惚見一官僚搢笏而入。問：「何官？」答云：「城隍劉某。」將何言？曰：「鬢邊垂雪，天際生云，水中漂木，壁上安門。」言已而退。既醒，隱謎不解。輾轉終宵，忽悟曰：「垂雪者，老也；生云者，龍也；水上木為船；壁上門為戶：豈非『老龍船戶』耶！」蓋

省之東北，曰小嶺，曰藍關，源自老龍津以達南海，每由此入粵。公遣武弁，密授機謀，捉龍津駕舟者，次第擒獲五十餘名，皆不械而服。蓋此等賊以舟渡為名，賺客登舟，或投蒙藥，或燒悶香，致客沉迷不醒，而後剖腹納石以沉水底。冤慘極矣！自昭雪後，遐邇歡騰，謠湧成集焉。

異史氏曰：「剖腹沉石，慘冤已甚，而木雕之有司，絕不少關痛癢，豈特粵東之暗無天日哉！公至則鬼神效靈，覆盆俱照，何其異哉！然公非有四目兩口，不過痼瘼之念，積於中者至耳。彼巍巍然，出則刀戟橫路，入則蘭麝熏心，尊優雖至，究何異於老龍船戶哉！」

十二、十一、青城婦

費邑高夢說為成都守，有一奇獄。先是有西商客成都，娶青城山寡婦。既而以故西歸，年餘復返。夫妻一聚，而商暴卒。同商疑而告官，官亦疑婦有私，苦訊之。橫加酷掠，卒無詞。牒解上司，並少實情，淹系獄底，積有時日。

後高署有患病者，延一老醫，適相言及。醫聞之，遽曰：「婦尖嘴否？」問：「何說？」初不言，詰再三，始曰：「此處繞青城山有數村落，其中婦女多為蛇交，則生女尖喙，陰中有物類蛇舌。至淫縱時則舌或出，一入陰管，男子陽脫立死。」高聞之駭，尚未深信。醫曰：「此處有巫媪，能內藥使婦意

蕩，舌自出，是否可以驗見。」高即如言，使媪治之，舌果出，疑始解。牒報郡。上官皆如法驗之，乃釋婦罪。

十二、十二、鴉鳥

長山楊令，性奇貪。康熙乙亥間，西塞用兵，市民間騾馬運糧。楊假此搜括，地方頭畜一空。周村為商賈所集，趁墟者車馬輻輳。楊率健丁悉篡奪之，不下數百餘頭。四方估客，無處控告。

時諸令皆以公務在省。適益都令董、萊蕪令範、新城令孫，會集旅舍。有山西二商迎門號訴，蓋有健騾四頭，俱被搶掠，道遠失業不能歸，哀求諸公為緩頰也。三公憐其情，許之。

遂共詣楊。楊治具相款。酒既行，眾言來意，楊不聽。眾言之益切。楊舉酒促醕以亂之，曰：「某有一令，不能者罰。須一天上、一地下、一古人，左右問所執何物，口道何詞，隨問答之。」便倡云：「天上有月輪，地下有昆侖，有一古人劉伯倫。左問所執何物，答云：『手執酒杯。』右問口道何詞，答云：『道是酒杯之外不須提。』」範公云：「天上有廣寒宮，地下有乾清宮，有一古人姜太公。手執釣魚竿，道是『願者上鉤』。孫云：『天上有天河，地下有黃河，有一古人是蕭何。手執一本《大清律》，他道是『臧官臧吏。』」楊有慚色，沉吟久之，曰：「某又有之。天上有靈山，地下有太山，有一古人是寒山。手執一帚，道是『各人自掃門前雪。』」眾

相視覲然。忽一少年傲岸而入，袍服華整，舉手作禮。共挽坐，酌以大斗。少年笑曰：「酒且勿飲。聞諸公雅令，願獻芻蕘。」眾請之，少年曰：「天上有玉帝，地下有皇帝，有一古人洪武朱皇帝。手執三尺劍，道是『貪官剝皮』。」眾大笑。楊恚罵曰：「何處狂生敢爾！」命隸執之。少年躍登幾上，化為鴉，沖簾飛出，集庭樹間，四顧室中作笑聲。主人擊之，且飛且笑而去。

異史氏曰：「市馬之役，諸大令健畜盈庭者十之七，而千百為群，作騾馬賈者，長山外不數數見也。聖明天子愛惜民力，取一物必償其值，焉知奉行者流毒若此哉！鴉所至，人最厭其笑，兒女共唾之，以為不祥。此一笑則何異於鳳鳴哉！」

十二、十三、古瓶

淄邑北村井涸，村人甲、乙縋入淘之。掘尺餘，得髑髏。誤破之，口含黃金，喜納腰橐。復掘，又得髑髏六七枚。冀得含金，悉破之，而一無所有。其旁有磁瓶二、銅器一。器大可合抱，重數十斤，側有雙環，不知何用，斑駁陸離。瓶亦古制，非近款。既出井，甲、乙皆死。移時乙蘇，曰：「我乃漢人。遭新莽之亂，全家投井中。適有少金，因內口中，實非含斂之物，人人都有也。奈何遍碎頭顱？情殊可恨！」眾香楮共祝之，許為殯葬，乙乃愈；甲則不能復生矣。

顏鎮孫生聞其異，購銅器而去。袁孝廉宣四得一瓶，可驗陰晴：見有一點潤處，初如粟米，漸闊漸滿，未幾雨至；潤退則雲開天霽。其一入張秀才家，可志朔望：朔則黑點起如豆，與日俱長；望則一瓶遍滿；既望又以次而退，至晦則復其初。以埋土中久，瓶口有小石粘口上，刷剔不可下。敲去之，石落而口微缺，亦一憾事。浸花其中，落花結實，與在樹者無異云。

十二、十四、元少先生

韓元少先生為諸生時，有吏突至，白主人欲延作師，而殊無名刺。問其家閥，含糊對之。束帛緘贄，儀禮優渥，先生許

之，約期而去。至日果以輿來。迺〇而往，道路皆所未經。忽睹殿閣，下車入，氣象類藩邸。既就館，酒炙紛羅，勸客自進，並無主人。筵既撤，則公子出拜；年十五六，姿表秀異。展禮罷，趨就他舍，請業始至師所。公子甚慧，聞義輒通。

先生以不知家世，頗懷疑悶。館有二僮給役，私詰之，皆不對。問：「主人何在？」答以事忙。先生求導窺之，僮不可。屢求之，乃導至一處，聞拷楚聲。自門隙目注之，見一王者坐殿上，階下劍樹刀山皆冥中事。大駭。方將卻步，內已知之，因罷政，叱退諸鬼，疾呼僮。僮變色曰：「我為先生，禍及身矣！」戰惕奔入。王者怒曰：「何敢引人私窺！」即以

巨鞭重答訖。乃召先生入，曰：「所以不見者，以幽明異路。今已知之，勢難再聚。」因贈束金使行，曰：「君天下第一人，但坎壈未盡耳。」使青衣捉騎送之。先生疑身已死，青衣曰：「何得便爾！先生食御一切置自俗間，非冥中物也。」既歸，坎坷數年，中會、狀，其言皆驗。

十二、十五、薛慰娘

豐玉桂，聊城儒生也，貧無生業。萬歷間，歲大祲，子然南遁。及歸，至沂而病。力疾行數里，至城南叢葬處，益憊，因傍塚臥。忽如夢，至一村，有叟自門中出，邀生入。屋兩楹，亦殊草草。室內一女子，年十六七，儀容慧雅。叟使淪柏枝

湯，以陶器供客。因詰生裏居、年齒，既已，乃曰：「洪都姓李，平陽族。流寓此間今三十二年矣。君志此門戶，餘家子孫如見探訪，即煩指示之。老夫不敢忘義。義女慰娘頗不醜，可配君子。三豚兒到日，即遣主盟。」生喜，拜曰：「犬馬齒二十有二，尚少良配。惠以眷好固佳；但何處得翁之家，人而告訴也？」叟曰：「君但住北村中，相待月餘，自有來者，止求不憚煩耳。」生恐其言不信，要之曰：「實告翁：僕故家徒四壁，恐後日不如所望，中道之棄，人所難堪。即無姻好，亦不敢不守季路之諾，即何妨質言之也？」叟笑曰：「君欲老夫旦旦耶？我稔知君貧。此訂非專為君，慰娘孤而無倚，

相托已久，不忍聽其流落，故以奉君子耳。何見疑！即捉臂送生出，拱手合扉而去。

生覺，則身臥塚邊，日已將午。漸起，次且入村，村人見之皆驚，謂其已死道旁經日矣。頓悟叟即塚中人也，隱而不言，但求寄寓。村人恐其復死，莫敢留。村有秀才與同姓，聞之，趨詰家世，蓋生總服叔也。喜導至家，餌治之，數日尋愈。因述所遇，叔亦驚異，遂坐待以覘其變。居無何，果有官人至村，訪父墓址，自言平陽進士李叔向。先是其父李洪都，與同鄉某甲行賈，死於沂，某因瘞諸叢葬處。既歸某亦死。是時翁三子皆幼。長伯仁，舉進士，令淮南。數遣人尋父墓，

迄無知者。次仲道，舉孝廉。叔向最少，亦登第。於是親求父骨，至沂遍訪。

是日至，村人皆莫識。生乃引至墓所，指示之。叔向未敢信，生為具陳所遇，叔向奇之。審視兩墳相接，或言三年前有宦者，葬少妾於此。叔向恐誤發他塚，生遂以所臥處示之。叔向命舁材其側，始發塚。塚開，則見女尸，服妝黯敗，而粉黛如生。叔向知其誤，駭極，莫知所為。而女已頓起，四顧曰：「三哥來耶？」叔向驚，就問之，則慰娘也。乃解衣蔽覆，舁歸逆旅。急發旁塚，冀父復活。既發，則膚革猶存，撫之僵燥，悲哀不已。裝斂入村，清醮七日；女亦縗絰若女。忽告叔向曰：「曩阿翁有黃金二錠，曾分一為妾作奩。妾以孤

弱無藏所，僅以絲線繫腰，而未將去，兄得之否？」叔向不知，乃使生反求諸壙，果得之，一如女言。叔向仍以線志者分贈慰娘。暇乃審其家世。

先是，女父薛寅侯無子，止生慰娘，甚鐘愛之。一日女自金陵舅氏歸，將媪問渡。操舟者乃金陵媒也。適有宦者任滿赴都，遣覓美妾，凡歷數家，無當意者，將為扁舟詣廣陵。忽遇女，隱生詭謀，急招附渡。媪素識之，遂與共濟。中途投毒食中，女媪皆迷。推媪墮江，載女而返，以重金賣諸宦者。入門嫡始知，怒甚。女又惘然，莫知為禮，遂撻楚而囚禁之。北渡三日，女方醒。婢言始末，女大泣。一夜宿於沂，自經死，乃瘞諸亂塚中。女在墓，為群鬼所凌，李翁時呵護之，

女乃父事翁。翁曰：「汝命合不死，當為擇一快婿。」前生既見而出，反謂女曰：「此生品誼可托。待汝三兄至，為汝主婚。」一日曰：「汝可歸候，汝三兄將來矣。」蓋即發墓之日也。女於喪次，為叔向緬述之。

叔向嘆息良久，乃以慰娘為妹，俾從李姓。略買衣妝，遣歸生，且曰：「資斧無多，不能為妹子辦妝。意將偕歸，以慰母心，何如？」女亦欣然。於是夫妻從叔向，輦柩並發。及歸，母詰得其故，愛逾所生，館諸別院。喪次，女哀悼過於兒孫。母益憐之，不令東歸，囑諸子為之買宅。

適有馮氏賣宅，直六百元，倉猝未能取盈，暫收契券，約日交兌。及期馮早至，適女亦從別院入省母，突見之，絕似當

年操舟人，馮見亦驚。女趨過之。兩兄亦以母小恙，俱集母所。女問：「廳前踉蹌者為誰？」仲道曰：「此必前日賣宅者也。」即起欲出。女止之，告以所疑，使詰難之。仲道諾而出，則馮已去，而巷南塾師薛先生在焉。因問：「何來？」曰：「昨夕馮某浼早登堂，一署券保。適途遇之，雲偶有所忘，暫歸便返，使僕坐以待之。」少間，生及叔向皆至，遂相攀談。慰娘以馮故，潛來屏後窺客，細視之，則其父也。突出，持抱大哭。翁驚涕曰：「吾兒何來！」眾始知薛即寅侯也。仲道雖與街頭常遇，初未悉其名字。至是共喜，為述前因，設酒相慶。因留信宿，自道行蹤。蓋失女後，妻以悲死，鰥居無依，故游學至此也。生約買宅後，迎與同居。翁

次日往探，馮則舉家遁去，乃知殺媪賣女者即其人也。馮初至平陽，貿易成家；比年賭博，日就消乏，故貨居宅，賣女之資，亦瀕盡矣。慰娘得所，亦不甚仇之，但擇日徙居，更不追其所往。李母饋遺不絕，一切日用皆供給之。生遂家於平陽，但歸試甚苦。幸於是科得舉孝廉。

慰娘富貴，每念媪為己死，思報其子。媪夫姓殷，一子名富，好博，貧無立錐。一日博局爭注，毆殺人命，亡歸平陽，遠投慰娘。生遂留之門下。研詰所殺姓名，蓋即操舟馮某也。駭嘆久之，因為道破，乃知馮即殺母仇人也。益喜，遂役生家。薛寅侯就養於婿，婿為買婦，生子女各一焉。

十二、十六、田子成

江寧田子成，過洞庭舟覆而沒。子良耜，明季進士，時在抱中。妻杜氏聞訃，仰藥而死。良耜受庶祖母撫養成立，筮仕湖北。年餘，奉憲命營務湖南，至洞庭痛哭而返。自告才力不及，降縣丞，隸漢陽，辭不就。院司強督促之乃就。輒放蕩江湖間，不以官職自守。

一夕艤舟江岸，聞洞簫聲，抑揚可聽。乘月步去，約半里許，見曠野中茅屋數椽，熒熒燈火。近窗窺之，有三人對酌其中，上座一秀才年三十許；下座一叟；側座吹簫者年最少。吹竟，叟擊節贊佳。秀才面壁吟思，若罔聞。叟曰：「盧十

兄必有佳作，請長吟，俾得共賞之。」秀才乃吟曰：「滿江風月冷淒淒，瘦草零花化作泥。千里雲山飛不到，夢魂夜夜竹橋西。」吟聲愴惻。叟笑曰：「盧十兄故態作矣！」因酌以巨觥，曰：「老夫不能屬和，請歌以侑酒。」乃歌「蘭陵美酒」之什。歌已，一座解頤。

少年起曰：「我視月斜何度矣。」突出見客，拍手曰：「窗外有人，我等狂態盡露也！」遂挽客入，共一舉手。叟使與少年相對坐。試其杯皆冷酒，辭不飲。少年知其意，即起，以葦炬燎壺而進之。良耜亦命從者出錢行沽，叟固止之。因訊邦族，良耜具道生平。叟致敬曰：「吾鄉父母也。少君姓江，此間土著。」指少年曰：「此江西杜野侯。」又指秀才：「此

盧十兄，與公同鄉。」盧自見良耜，殊偃蹇不甚為禮。良耜因問：「家居何里？如此清才，殊早不聞。」答曰：「流寓已久，親族恆不相識，可嘆人也！」言之哀楚。叟搖手亂之曰：「好客相逢，不理觴政，聒絮如此，厭人聽聞！」遂把杯自飲，曰：「一令請共行之，不能者罰。每擲三色，以相逢為率，須一古典相合。」乃擲得么二三，唱曰：「三加么二點相同，雞黍三年約範公：朋友喜相逢。」次少年，擲得雙二單四，曰：「不讀書人，但見俚典，勿以為笑。四加雙二點相同，四人聚義古城中：兄弟喜相逢。」盧得雙么單二，曰：「二加雙么點相同，呂向兩手抱老翁：父子喜相逢。」良

耜擲，復與盧同，曰：「二加雙么點相同，茅容二簋款林宗，主客喜相逢。」

令畢，良耜興辭。盧始起，曰：「故鄉之誼，未遑傾吐，何別之遽？將有所問，願少留也。」良耜復坐，問：「何言？」曰：「僕有老友某，沒於洞庭，與君同族否？」良耜曰：「是先君也，何以相識？」曰：「少時相善。沒日惟僕見之，因收其骨，葬江邊耳。」良耜出涕下拜，求指墓所。盧曰：「明日來此，當指示之。要亦易辨，去此數武，但見墳上有叢蘆十莖者是也。」良耜灑涕，與眾拱別。

至舟終夜不寢，念盧情詞似皆有因。不能待旦，昧爽而往，則舍宇全無，益駭。因遵所指處尋墓，果得之。叢蘆其上，

數之，適符其數。恍然悟盧十兄之稱，皆其寓言；所遇乃其父之鬼也。細問土人，則二十年前，有高翁富而好善，溺水者皆拯其尸而埋之，故有數墳在焉。遂發塚負骨，棄官而返。歸告祖母，質其狀貌皆確。江西杜野侯，乃其表兄，年十九，溺於江；後其父流寓江西。又悟杜夫人歿後，葬竹橋之西，故詩中憶之也。但不知叟何人耳。

十二、十七、王桂庵

王樨字桂庵，大名世家子。適南游。泊舟江岸。臨舟有榜人女繡履其中，風姿韶絕。王窺既久，女若不覺。王朗吟「洛陽女兒對門居」，故使女聞。女似解其為己者，略舉首一斜

瞬之，俯首繡如故。王神志益馳，以金一錠投之，墮女襟上；女拾棄之，金落岸邊。王拾歸，益怪之，又以金釧擲之，墮足下；女操業不顧。無何榜人自他歸，王恐其見釧研詰，心急甚；女從容以雙鉤覆蔽之。榜人解纜徑去。

王心情喪惘，癡坐凝思。時王方喪偶，悔不即媒定之。乃詢舟人，皆不識其何姓。返舟急追之，杳不知其所往。不得已返舟而南。務畢北旋，又沿江細訪，並無音耗。抵家，寢食皆縈念之。逾年復南，買舟江際若家焉。日日細數行舟，往來者帆楫皆熟，而曩舟殊杳。居半年資罄而歸。行思坐想，不能少置。一夜夢至江村，過數門，見一家柴扉南向，門內疏竹為籬，意是亭園，徑入。有夜合一株，紅絲滿樹。隱念：

詩中「門前一樹馬纓花」，此其是矣。過數武，葦笆光潔。又入之，見北舍三楹，雙扉闔焉。南有小舍，紅蕉蔽窗。探身一窺，則施架當門，施畫裙其上，知為女子閨闈，愕然卻退；而內亦覺之，有奔出瞰客者，粉黛微呈，則舟中人也。喜出望外，曰：「亦有相逢之期乎！」方將狎就，女父適歸，倏然驚覺，始知是夢。景物歷歷，如在目前。秘之，恐與人言，破此佳夢。

又年餘再適鎮江。郡南有徐太僕，與有世誼，招飲。信馬而去，誤入小村，道途景象，仿佛平生所歷。一門內馬纓一樹，夢境宛然。駭極，投鞭而入。種種物色，與夢無別。再入，則房舍一如其數。夢既驗，不復疑慮，直趨南舍，舟中人果

在其中。遙見王，驚起，以扉自幃，叱問：「何處男子？」王逡巡間，猶疑是夢。女見步趨甚近，闌然扃戶。王曰：「卿不憶擲釧者耶？」備述相思之苦，且言夢徵。女隔窗審其家世，王具道之。女曰：「既屬宦裔，中饋必有佳人，焉用妾？」王曰：「非以卿故，婚娶固已久矣！」女曰：「果如所云，足知君心。妾此情難告父母，然亦方命而絕數家。金釧猶在，料鍾情者必有耗問耳。父母偶適外戚，行且至。君姑退，倩冰委禽，計無不遂；若望以非禮成耦，則用心左矣。」王倉卒欲出。女遙呼王郎曰：「妾藝娘，姓孟氏。父字江籬。」王記而出。罷筵早返，謁江籬。江迎入，設坐籬下。王自道家闕，即致來意，兼納百金為聘。翁曰：「息女已字矣。」王

曰：「訊之甚確，固待聘耳，何見絕之深？」翁曰：「適間所說，不敢為誑。」王神情俱失，拱別而返。當夜輾轉，無人可媒。向欲以情告太僕，恐娶榜人女為先生笑；今情急無可為媒，質明詣太僕，實告之。太僕曰：「此翁與有瓜葛，是祖母嫡孫，何不早言？」王始吐隱情。太僕疑曰：「江離固貧，素不以操舟為業，得毋誤乎？」乃遣子大郎詣孟，孟曰：「僕雖空匱，非賣婚者。曩公子以金自媒，諒僕必為利動，故不敢附為婚姻。既承先生命，必無錯謬。但頑女頗恃嬌愛，好門戶輒便拗卻，不得不與商榷，免他日怨婚也。」遂起，少入而返，拱手一如尊命，約期乃別。大郎復命，王乃盛備禽妝，納採於孟，假館太僕之家，親迎成禮。

居三日，辭岳北歸。夜宿舟中，問藝娘曰：「向於此處遇卿，固疑不類舟人子。當日泛舟何之？」答云：「妾叔家江北，偶借扁舟一省視耳。妾家僅可自給，然儻來物頗不貴視之。笑君雙瞳如豆，屢以金資動人。初聞吟聲，知為風雅士，又疑為儂薄子作蕩婦挑之也。使父見金釧，君死無地矣。妾憐才心切否？」王笑曰：「卿固黠甚，然亦墮吾術矣！」女問：「何事？」王止而不言。又固詰之，乃曰：「家門日近，此亦不能終秘。實告卿：我家中固有妻在，吳尚書女也。」藝娘不信，王故壯其詞以實之。藝娘色變，默移時，遽起，奔出；王口履追之，則已投江中矣。王大呼，諸船驚鬧，夜色

昏蒙，惟有滿江星點而已。王悼痛終夜，沿江而下，以重價覓其骸骨，亦無見者。

悒悒而歸，憂痛交集。又恐翁來視女，無詞可對。有姊丈官河南，遂命駕造之，年餘始歸。途中遇雨，休裝民舍，見房廊清潔，有老嫗弄兒廈間。兒見王入，即撲求抱，王怪之。又視兒秀婉可愛，攬置膝頭，嫗喚之不去。少頃雨霽，王舉兒付嫗，下堂趣裝。兒啼曰：「阿爹去矣！」嫗恥之，呵之不止，強抱而去。王坐待治任，忽有麗者自屏後抱兒出，則藝娘也。方詫異間，藝娘罵曰：「負心郎！遺此一塊肉，焉置之？」王乃知為己子。酸來刺心，不暇問其往跡，先以前言之戲，矢日自白。藝娘始反怒為悲。相向涕零。先是，第主

莫翁，六旬無子，攜媪往朝南海。歸途泊江際，雲娘隨波下，適觸翁舟。翁命從人拯出之，療控終夜始漸蘇。翁媪視之，是好女子，甚喜，以為己女，攜歸。居數月，欲為擇婿，女不可。逾十月，生一子，名曰寄生。王避雨其家，寄生方周歲也。王於是解裝，入拜翁媪，遂為嶽婿。居數日，始舉家歸。至，則孟翁坐待已兩月矣。翁初至，見僕輩情詞恍惚，心頗疑怪；既見始共歡慰。歷述所遭，乃知其枝梧者有由也。

十二、十八、寄生附

寄生字王孫，郡中名士。父母以其襁褓認父，謂有夙惠，鍾愛之。長益秀美，八九歲能文，十四入郡庠。每自擇偶。父

桂庵有妹二娘，適鄭秀才子僑，生女閨秀，慧艷絕倫。王孫見之，心切愛慕，積久寢食俱廢。父母大憂，苦研詰之，遂以實告。父遣冰於鄭；鄭性方謹，以中表為嫌卻之。王孫愈病，母計無所出，陰婉致二娘，但求閨秀一臨存之。鄭聞益怒，出惡聲焉。父母既絕望，聽之而已。

郡有大姓張氏，五女皆美；幼者名五可，尤冠諸姊，擇婿未字。一日上墓，途遇王孫，自輿中窺見，歸以白母。母沈知其意，見媒媪于氏，微示之。媪遂詣王所。時王孫方病，訊知笑曰：「此病老身能醫之。」藝娘問故。媪述張氏意，極道五可之美。藝娘喜，使媪往候王孫。媪入，撫王孫而告之。王孫搖首曰：「醫不對癥，奈何！」媪笑曰：「但問醫良否

耳：其良也，召和而緩至，可矣；執其人以求之，守死而待之，不亦癡乎？」王孫歔歔曰：「但天下之醫無愈和者。」媼曰：「何見之不廣也？」遂以五可之容顏發膚，神情態度，口寫而手狀之。王孫又搖首曰：「媼休矣！此余願所不及也。」反身向壁，不復聽矣。媼見其志不移，遂去。

一日王孫沉痾中，忽一婢入曰：「所思之人至矣！」喜極，躍然而起。急出舍，則麗人已在庭中。細認之，卻非閨秀，著松花色細褶繡裙，雙鉤微露，神仙不啻也。拜問姓名，答曰：「妾，五可也。君深於情者，而獨鍾閨秀，使人不平。」王孫謝曰：「生平未見顏色，故目中止一閨秀。今知罪矣！」遂與要誓。方握手殷殷，適母來撫摩，遽然而覺，則一夢也。

回思聲容笑貌，宛在目中。陰念：五可果如所夢，何必求所難邁，因而以夢告母。母喜其念少奪，急欲媒之。

王孫恐夢見不的，托鄰媪素識張氏者，偽以他故詣之，囑其潛相五可。媪至其家，五可方病，靠枕支頤，婀娜之態，傾絕一世。近問：「何恙？」女默然弄帶，不作一語。母代答曰：「非病也。連日與爹娘負氣耳！」媪問故。曰：「諸家問名，皆不願，必如王家寄生者方嫁。是為母者勸之急，遂作意不食數日矣。」媪笑曰：「娘子若配王郎，真是玉人成雙也。渠若見五娘，恐又憔悴死矣！我歸即令倩冰，如何？」五可止之曰：「姥勿爾！恐其不諧，益增笑耳！」媪銳然以必成自任，五可方微笑。媪歸復命，一如媒媪言。王孫詳問衣履，

亦與夢合，大悅。意雖稍舒，然終不以人言為信。過數日漸瘳，秘招于媪來，謀以親見五可。媪難之，姑應而去。久之不至。方欲覓問，媪忽忻然來曰：「機幸可圖。五娘向有小恙，因令婢輩將扶，移過對院。公子往伏伺之，五娘行緩澀，委曲可以盡睹矣。」王孫喜，明日，命駕早往，媪先在焉。即令繫馬村樹。引入臨路舍，設座掩扉而去。少間五可果扶婢出，王孫自門隙目注之。女從門外過，媪故指揮雲樹以遲纖步，王孫窺覘盡悉，意顛不能自持。未幾媪至，曰：「可以代閨秀否？」王孫申謝而返，始告父母，遣媒要盟。及媒往，則五可已別字矣。

王孫失意，悔悶欲死，即刻復病。父母憂甚，責其自誤。王孫無詞，惟日飲米汁一合。積數日，雞骨支床，較前尤甚。媪忽至，驚曰：「何憊之甚？」王孫涕下，以情告。媪笑曰：「癡公子！前日人趁汝來，而故卻之；今日汝求人，而能必遂耶？雖然，尚可為力。早與老身謀，即許京都皇子，能奪還也。」王孫大悅，求策。媪命函啟遣伴，約次日候於張所。桂庵恐以唐突見拒，媪曰：「前與張公業有成言，延數日而遽悔之；且彼字他家，尚無函信。諺云：『先炊者先餐。』何疑也！」桂庵從之。次日一僕往，並無異詞，厚犒而歸。王孫病頓起。由此閨秀之想遂絕。

初，鄭子僑卻聘，閨秀頗不懌；及聞張氏婚成，心愈抑鬱，遂病，曰就支離。父母詰之不肯言。婢窺其意，隱以告母。鄭聞之，怒不醫，以聽其死。二娘懟曰：「吾侄亦殊不惡，何守頭巾戒，殺吾嬌女！」鄭恚曰：「若所生女，不如早亡，免貽笑柄！」以此夫妻反目。二娘故與女言，將使仍歸王孫若為媵。女俯首不言，意若甚願。二娘商鄭，鄭更怒，一付二娘，置女度外，不復預聞。二娘愛女切，欲實其言。女乃喜，病漸瘥。竊探王孫，親迎有日矣。及期以侄完婚，偽欲歸寧，昧旦，使人求僕輿於兄。兄最友愛，又以居村鄰近，遂以所備親迎車馬，先迎二娘。既至，則妝女入車，使兩僕兩媪護送之。到門，以氈貼地而入。時鼓樂已集，從僕叱令吹播，

一時人聲沸聒。王孫奔視，則女子以紅帕蒙首，駭極欲奔；鄭僕夾扶，便令交拜。王孫不知何由，即便拜訖。二媪扶女，徑坐青廬，始知其閨秀也。舉家皇亂，莫知所為。

時漸瀕暮，王孫不復敢行親迎之禮。桂庵遣僕以情告張；張怒，遂欲斷絕。五可不肯，曰：「彼雖先至，未受雁採；不如仍使親迎。」父納其言，以對來使。使歸，桂庵終不敢從。相對籌思，喜怒俱無所施。張待之既久，知其不行，遂亦以輿馬送五可至，因另設青帳於別室。

王孫周旋兩間，蹀躞無以自處。母乃調停於中，使序行以齒，二女皆諾。及五可聞閨秀差長，稱「姊」有難色。母甚慮之。比三朝公會，五可見閨秀風致宜人，不覺右之，自是始定。

然父母恐其積久不相能，而二女卻無間言，衣履易著，相愛如姊妹焉。

王孫始問五可卻媒之故，笑曰：「無他，聊報君之卻於媪耳。尚未見妾，意中止有閨秀；即見妾，亦略靳之，以覘君之視妾，較閨秀何如也。使君為伊病，而不為妾病，則亦不必強求容矣。」王孫笑曰：「報亦慘矣！然非於媪，何得一覲芳容。」五可曰：「是妾自欲見君，媪何能為。過舍門時，豈不知眈眈者在內耶。夢中業相要，何尚未知信耶？」王孫驚問：「何知？」曰：「妾病中夢至君家，以為妾；後聞君亦夢，妾乃知魂魄真到此也。」王孫異之，遂述所夢，時日悉符。父子之良緣，皆以夢成，亦奇情也。故並志之。

異史氏曰：「父癡於情，子遂幾為情死。所謂情種，其王孫之謂歟？不有善夢之父，何生離情之子哉！」

十二、十九、周生

周主，淄邑之幕客。令公出，夫人徐，有朝碧霞元君之願，以道遠故，將遣僕齎儀代往。使周為祝文。周作駢詞，歷敘平生，頗涉狎諛。中有云：「栽般陽滿縣之花，偏憐斷袖；置夾谷彌山之草，惟愛餘桃。」此訴夫人所憤也，類此甚多。脫稿，示同幕凌生。凌以為褻，戒勿用。弗聽，付僕而去。未幾，周主卒於署；既而僕亦死；徐夫人產後，亦病卒。人猶未之異也。

周生子自都來迎父櫬，夜與凌生同宿。夢父戒之曰：「文字不可不慎也！我不聽凌君言，遂以褻詞致干神怒，遽夭天年；又貽累徐夫人，且殃及焚文之僕，恐冥罰尤不免也！」醒而告凌，凌亦夢同，因述其文。周子為之惕然。

異史氏曰：「恣情縱筆，輒灑灑自快，此文客之常也。然淫嫚之詞，何敢以告神明哉！狂生無知，冥譴其所應爾。但使賢夫人及千里之僕，駢死而不知其罪，不亦與刑律中分首從者，殊多憤憤耶？冤已！」

十二、二十、褚遂良

長山趙某，稅屋大姓。病癥結，又孤貧，奄然就斃。一日力疾就涼，移臥簷下。及醒，見絕代麗人坐其旁，因詰問之，女曰：「我特來為汝作婦。」某驚曰：「無論貧人不敢有妄想；且奄奄一息，有婦何為！」女曰：「我能治之。」某曰：「我病非倉猝可除，縱有良方，其如無資買藥何！」女曰：「我醫疾不用藥也。」遂以手按趙腹，力摩之。覺其掌熱如火。移時腹中痞塊，隱隱作解拆聲。又少時欲登廁。急起走數武，解衣大下，膠液流離，結塊盡出，覺通體爽快。

返臥故處，謂女曰：「娘子何人？祈告姓氏，以便尸祝。」答云：「我狐仙也。君乃唐朝褚遂良，曾有恩於妾家，每銘心欲一圖報。日相尋覓，今始得見，夙願可酬矣。」某自慚形穢，又慮茅屋灶煤，玷染華裳。女但請行。趙乃導入家，土莖無席，灶冷無煙，曰：「無論光景如此，不堪相辱；即卿能甘之，請視甕底空空，又何以養妻子？」女但言：「無慮。」言次一回頭，見榻上氈席衾褥已設；方將致詰，又轉瞬，見滿室皆銀光紙裱貼如鏡，諸物已悉變易，幾案精潔，肴酒並陳矣。遂相歡飲。日暮與同狎寢，如夫婦。

主人聞其異，清一見之，女即出見無難色。由此四方傳播，造門者甚夥。女並不拒絕。或設筵招之，女必與夫俱。一日，

座中一孝廉，陰萌淫念。女已知之，忽加誚讓。即以手推其首；首過櫺外，而身猶在室，出入轉側，皆所不能。因共哀免，方曳出之。積年餘，造請者日益煩，女頗厭之。被拒者輒罵趙。

值端陽，飲酒高會，忽一白兔躍入。女起曰：「春藥翁來見召矣！」謂兔曰：「請先行。」兔趨出，徑去。女命趙取梯。趙於舍後負長梯來，高數丈。庭有大樹一章，便倚其上；梯更高於樹杪。女先登，趙亦隨之。女回首曰：「親賓有願從者，當即移步。」眾相視不敢登。惟主人一僮，踴躍從其後，上上益高，梯盡雲接，不可見矣。共視其梯，則多年破扉，去

其白板耳。群入其室，灰壁敗灶依然，他無一物。猶意僮返可問，竟終杳已。

十二、二十一、劉全

鄒平牛醫侯某，荷飯餉耕者。至野，有風旋其前，侯即以杓掬漿祝奠之。盡數杓，風始去。一日適城隍廟，閑步廊下，見內塑劉全獻瓜像，被鳥雀遺糞，糊蔽目睛。侯曰：「劉大哥何遂受此玷污！」因以爪甲為除去之。

後數年病臥，被二皂攝去。至官衙前，逼索財賄甚苦。侯方無所為計，忽自內一綠衣人出，見之，訝曰：「侯翁何來？」侯便告訴。綠衣人責二皂曰：「此汝侯大爺，何得無禮！」二

皂喏喏，遜謝不知。俄聞鼓聲如雷。綠衣人曰：「早衙矣。」遂與俱入，令立墀下，曰：「姑立此，我為汝問之。遂上堂點手，招一吏人下，略道數語。吏人見侯，拱手曰：「侯大哥來耶？汝亦無甚大事，有一馬相訟，一質便可復返。」遂別而去。少間堂上呼侯名，侯上跪，一馬亦跪。官問侯：「馬言被汝藥死，有諸？」侯曰：「彼得瘟癘，某以瘟方治之。既藥不瘳，隔日而死，與某何涉？」馬作人言，兩相苦。官命稽籍，籍注馬壽若干，應死於某年月日，數確符。因呵曰：「此汝天數已盡，何得妄控！」叱之而去。因謂侯曰：「汝存心方便，可以不死。」仍命二皂送回。前二人亦與俱出，又囑途中善相視。侯曰：「今日雖蒙覆庇，生平實未識荊。乞示姓

字，以圖銜報。」綠衣人曰：「三年前，僕從泰山來，焦渴欲死。經君村外，蒙以杓漿見飲，至今不忘。」吏人曰：「某即劉全。曩被雀糞之污，悶不可耐，君手為滌除，是以耿耿。奈冥間酒饌，不可以奉賓客，請即別矣。」侯始悟，乃歸。

既至家，款留二皂，皂並不敢飲其杯水。侯蘇，蓋死已逾兩日矣。從此益修善。每逢節序，必以漿酒酬劉全。年八旬，尚強健，能超乘馳走。一日途間見劉全騎馬來，若將遠行。拱手道溫涼畢，劉曰：「君數已盡，勾牒出矣。勾役欲相招，我禁使弗須。君可歸治後事。三日後，我來同君行。地下代買小缺，亦無苦也。」遂去。侯歸告妻子，招別戚友，棺衾俱備。第四日日暮，對眾曰：「劉大哥來矣。」入棺焉遂歿。

十二、二十二、土化兔

靖逆侯張勇鎮蘭州時，出獵獲兔甚多，中有半身或兩股尚為土質。一時秦中爭傳土能化兔。此亦物理之不可解者。

十二、二十三、鳥使

苑城史烏程家居，忽有鳥集屋上，音色類鴉。史見之，告家人曰：「夫人遣鳥使召我矣。急備後事，某日當死。」至日果卒。殯日鴉復至，隨槨緩飛，由苑之新。及殯，鴉始不見。長山吳木欣目睹之。

十二、二十四、姬生

南陽鄂氏患狐，金錢什物，輒被竊去。迂之崇益甚。鄂有甥姬生，名士不羈，焚香代為禱免，卒不應；又祝舍外祖使臨己家，亦不應。眾笑之，生日：「彼能幻變，必有人心。我固將引之俾入正果。」數日輒一往祝之。雖不見驗，然生所至狐遂不擾，以故鄂常止生宿。生夜望空請見，邀益堅。一日生歸，獨坐齋中，忽房門緩緩自開。生起，致敬曰：「狐兄來耶？」殊寂無聲。又一夜門自開，生日：「倘是狐兄降臨，固小生所禱祝而求者，何妨即賜光霽？」卻又寂然。案頭有錢二百，及明失之。生至夜增以數百。中宵聞布幄鏗然，生日：「來耶？敬具時銅數百備用。僕雖不充裕，然非鄙吝者。」

若緩急有需，無妨質言，何必盜竊？」少間視錢，脫去二百。生仍置故處，數夜不復失。有熟雞，欲供客而失之。生至夕又益以酒，而狐從此絕跡矣。

鄂家崇如故。生又往祝曰：「僕設錢而子不取，設酒而子不飲；我外祖衰邁，無為久崇之。僕備有不腆之物，夜當憑汝自取。」乃以錢十千、酒一樽，兩雞皆聶切，陳幾上。生臥其旁，終夜無聲，錢物如故。狐怪從此亦絕。生一日晚歸，啟齋門，見案上酒一壺，燂雞盈盤；錢四百，以赤繩貫之，即前日所失物也。知狐之報。嗅酒而香，酌之色碧綠，飲之甚醇。壺盡半酣，覺心中貪念頓生，暮然欲作賊，便啟戶出。

思村中一富室，遂往越其墻。墻雖高，一躍上下，如有翹翎。入其齋，竊取貂裘、金鼎而出，歸置床頭，始就枕眠。

天明攜入內室，妻驚問之，生囁嚅而告，有喜色。妻駭曰：「君素剛直，何忽作賊！」生恬然不為怪，因述狐之有情。妻恍然悟曰：「是必酒中之狐毒也。」因念丹砂可以卻邪，遂研入酒，飲生，少頃，生忽失聲曰：「我奈何做賊！」妻代解其故，爽然自失。又聞富室被盜，噪傳里黨。生終日不食，莫知所處。妻為之謀，使乘夜拋其墻內。生從之。富室復得故物，事亦遂寢。

生歲試冠軍，又舉行優，應受倍賞。及發落之期，道署梁上粘一帖云：「姬某作賊，偷某家裘、鼎，何為行優？」梁最

高，非跋足可粘。文宗疑之，執帖問生。生愕然，思此事除妻外無知者；況署中深密，何由而至？因悟曰：「此必狐之為也。」遂緬述無諱，文宗賞禮有加焉。生每自念無取罪於狐，所以屢陷之者，亦小人之恥獨為小人耳。

異史氏曰：「生欲引邪入正，而反為邪惑。狐意未必大惡，或生以諧引之，狐亦以戲弄之耳。然非身有夙根，室有賢助，幾何不如原涉所云，家人寡婦，一為盜污遂行淫哉！籲！可懼也！」

吳木欣云：「康熙甲戌，一鄉科令浙中，點稽囚犯，有竊盜已刺字訖，例應逐釋。令嫌『竊』字減筆從俗，非官板正字，使刮去之；候創平，依字匯中點畫形象另刺之。盜口占一絕

云：『手把菱花仔細看，淋漓鮮血舊痕斑。早知面上重為苦，竊物先防識字官。』禁卒笑之曰：「詩人不求功名，而乃為盜？」盜又口占答之云：『少年學道志功名，只為家貧誤一生。冀得資財權子母，囊游燕市博恩榮。』」即此觀之，秀才為盜，亦仕進之志也。狐授姬生以進取之資，而返悔為所誤，迂哉！一笑。

十二、二十五、果報

安丘某生通卜筮之術，其為人邪蕩不檢，每有鉅穴逾隙之行，則卜之。一日忽病，藥之不愈，曰：「吾實有所見。冥中

怒我狎褻天數，將重譴矣，藥何能為！亡何，目暴瞽，兩手無故自折。

某甲者伯無嗣，甲利其有，願為之後。伯既死，田產悉為所有，遂背前盟。又有叔家頗裕，亦無子，甲又父之，死，又背之。於是並三家之產，富甲一鄉。一日暴病若狂，自言曰：「汝欲享富厚而生耶！」遂以利刃自割肉，片片擲地。又曰：「汝絕人後，尚欲有後耶！」剖腹流腸，遂斃。未幾子亦死，產業歸人矣。果報如此，可畏也夫！

十二、二十六、公孫夏

保定有國學生某，將入都納資，謀得縣尹。方趣裝而病，月餘不起。忽有僮入曰：「客至。」某亦忘其疾，趨出逆客。客華服類貴者。三揖入舍，叩所自來。客曰：「僕，公孫夏，十一皇子坐客也。」聞治裝將圖縣秩，既有是志，太守不更佳耶？」某遜謝，但言：「資薄，不敢有奢願。」客請效力，俾出半資，約於任所取盈。某喜求策，客曰：「督撫皆某昆季之交，暫得五千緡，其事濟矣。目前真定缺員，便可急圖。」某訝其本省，客笑曰：「君迂矣！但有孔方在，何問吳、越桑梓耶？」某終躊躇，疑其不經，客曰：「無須疑惑。實相告：此冥中城隍缺也。君壽終已注死籍。乘此營辦，尚可以

致冥貴。」即起告別，曰：「君且自謀，三日當復會。」遂出門跨馬去，某忽開眸，與妻子永訣。命出藏鏹，市楮錠萬提，郡中是物為空。堆積庭中，雜芻靈鬼馬，日夜焚之，灰高如山。

三日客果至。某出資交兌，客即導至部署，見貴官坐殿上，某便伏拜。貴官略審姓名，便勉以「清廉謹慎」等語。乃取憑文，喚至案前與之。某稽首出署。自念監生卑賤，非車服炫耀，不足震懾曹屬。於是益市輿馬，又遣鬼役以彩輿迓其美妾。區畫方已，真定鹵簿已至。途百里餘，一道相屬，意甚得。忽前導者鉦息旗靡，驚疑問騎者盡下，悉伏道周；人小徑尺，馬大如狸。車前者駭曰：「關帝至矣！」某懼，下車

亦伏，遙見帝君從四五騎，緩轡而至。須多繞頰，不似世所模肖者；而神採威猛，目長幾近耳際。馬上問：「此何官？」從者答：「真定守。」帝君曰：「區區一郡，何直得如此張皇！」某聞之，灑然毛悚；身暴縮，自顧如六七歲兒。帝君令起，使隨馬蹤行。道旁有殿宇，帝君入，南向坐，命以筆札，俾自書鄉貫姓名。某書已，呈進；帝君視之，怒曰：「字訛誤不成形象！此市儈耳，何足以任民社！」又命稽其德籍。旁一人跪奏，不知何詞。帝君厲聲曰：「干進罪小，賣爵罪重！」旋見金甲神縮鎖去。遂有二人捉某，褫去冠服，笞五十，臀肉幾脫，逐出門外。四顧車馬盡空，痛不能步，偃息草間。細認其處，離家尚不甚遠。幸身輕如葉，一晝夜始抵家。

豁若夢醒，床上呻吟。家人集問，但言股痛。蓋瞑然若死者已七日矣，至是始寤。便問：「阿憐何不來。」蓋妾小字也。先是，阿憐方坐談，忽曰：「彼為真定太守，差役來接我矣。」乃入室麗妝，妝竟而卒，才隔夜耳。家人述其異。某悔恨爬胸，命停尸勿葬，冀其復還。數日杳然，乃葬之。某病漸瘳，但股瘡大劇，半年始起。每自曰：「官資盡耗，而橫被冥刑，此尚可忍；但愛妾不知昇向何所，清夜所難堪耳。」異史氏曰：「嗟夫！市儈固不足南面哉！冥中既有線索，恐夫子馬蹤所不及到，作威福者正不勝誅耳。吾鄉郭華野先生傳有一事，與此頗類，亦人中之神也。先生以清鯁受主知，再起總制荊楚。行李蕭然，惟四五人從之，衣履皆敝陋，途中人皆

不知為貴官也。適有新令赴任，道與相值。駝車二十餘乘，前驅數十騎，騶從百計。先生亦不知其何官，時先之，時後之，時以數騎雜其伍。彼前馬者怒其擾，輒呵卻之。先生亦不顧瞻。亡何，至一巨鎮，兩俱休止。乃使人潛訪之，則一國學生，加納赴任湖南者也。乃遣一價召之使來。令聞呼駭疑；及詰官閥，始知為先生，悚懼無以為地，冠帶匍伏而前。先生問：『汝即某縣縣尹耶？』答曰：『然。』先生曰：『蕞爾一邑，何能養如許騶從？履任，則一方塗炭矣！不可使殃民社，可即旋歸，勿前矣。』令叩首曰：『下官尚有文憑。』先生即令取憑，審驗已，曰：『此亦細事，代若繳之可耳。』令伏

拜而出，歸途不知何以為情，而先生行矣。世有未蒞任而已受考成者，實所創聞。蓋先生奇人，故信其有此快事耳。」

十二、二十七、韓方

明季，濟郡以北數州縣，邪疫大作，比戶皆然。齊東農民韓方，性至孝。父母皆病，因具楮帛，哭禱於孤石大夫之廟。歸途零涕，遇一人衣冠清潔，問：「何悲？」韓具以告，其人曰：「孤石之神不在於此，禱之何益？僕有小術，可以一試。」韓喜，詰其姓字。其人曰：「我不求報，何必通鄉貫乎？」韓敦請臨其家。其人曰：「無須。但歸，以黃紙置床上，厲聲言：『我明日赴都，告諸岳帝！』病當已。」韓恐不

驗，堅求移趾。其人曰：「實告子：我非人也。巡環使者以我誠篤，俾為南縣土地。感君孝，指授此術。目前岳帝舉枉死之鬼，其有功人民，或正直不作邪崇者，以城隍、土地用。今日殃人者，皆郡城北兵所殺之鬼，急欲赴都自投，故沿途索賂，以謀口食耳，言告岳帝，則彼必懼，故當已。」韓悚然起敬，伏地叩謝，及起，其人已渺。驚嘆而歸。遵其教，父母皆愈。以傳鄰村，無不驗者。

異史氏曰：「沿途崇人而往，以求不作邪崇之用，此與策馬應『不求聞達之科』者何殊哉！天下事大率類此。猶憶甲戌、乙亥之間，當事者使民捐谷，具疏謂民樂輸。於是各州縣如數取盈，甚費敲撲。時郡北七邑被水，歲祲，催辦尤難。

唐太史偶至利津，見系逮者十餘人。因問：『為何事？』答曰：『官捉吾等赴城，比追樂輸耳。』農民不知『樂輸』二字作何解，遂以為徭役敲比之名，豈不可嘆而可笑哉！

十二、二十八、紉針

虞小思，東昌人。居積為業。妻夏，歸寧返，見門外一嫗，偕少女哭甚哀。夏詰之。嫗揮淚相告。乃知其夫王心齋，亦宦裔也。家中落無衣食業，浼中保貸富室黃氏金作賈。中途遭寇，喪資，幸不死。至家，黃索償，計子母不下三十金，實無可準抵。黃窺其女紉針美，將謀作妾。使中保質告之：如肯，可折債外，仍以甘金壓券。王謀諸妻，妻泣曰：「我雖

貧，固簪纓之胄。彼以執鞭發跡，何敢遂媵吾女！況紉針固自有婿，汝何得擅作主！先是，同邑傅孝廉之子，與王投契，生男阿卯，與祿中論婚。後孝廉官於閩，年餘而卒。妻子不能歸，音耗俱絕。以故紉針十五尚未字也。妻言及此，王無詞，但謀所以為計。妻曰：「不得已，其試謀諸兩弟。」蓋妻範氏，其祖曾任京職，兩孫田產尚多也。次日妻攜女歸告兩弟，兩弟任其涕淚，並無一詞肯為設處。範乃號啼而歸。適逢夏詰，且訴且哭。

夏憐之；視其女綽約可愛，益為哀楚。遂邀入其家，款以酒食，慰之曰：「母子勿戚：妾當竭力。」範未遑謝，女已哭伏在地，益加惋惜。籌思曰：「雖有薄蓄，然三十金亦復大難。」

當典質相付。」母女拜謝。夏以三日為約。別後百計為之營謀，亦未敢告諸其夫。三日未滿其數，又使人假諸其母。範母女已至，因以實告。又訂次日。抵暮假金至，合裹並置床頭。

至夜有盜穴壁以火入，夏覺，睨之，見一人臂跨短刀，狀貌兇惡。大懼，不敢作聲，偽為睡者。盜近箱，意將發扃。回顧，夏枕邊有裹物，探身攫去，就燈解視；乃入腰橐，不復祛篋而去。夏乃起呼。家中唯一小婢，隔牆呼鄰，鄰人集而盜已遠。夏乃對燈啜泣。見婢睡熟，乃引帶自經於櫥間。天曙婢覺，呼人解救，四肢冰冷。虞聞奔至，詰婢始得其由，驚涕營葬。時方夏，尸不殭，亦不腐。過七日乃殮之。

既葬。紉針潛出，哭於其墓。暴雨忽集，霹靂大作，發墓，紉針震死。虞聞奔驗，則棺木已啟，妻呻嘶其中，抱出之。見女尸，不知為誰。夏審視，始辨之。方相駭怪。未幾範至，見女已死，哭曰：「固疑其在此，今果然矣！聞夫人自縊，日夜不絕聲。今夜語我，欲哭於殯宮，我未之應也。」夏感其義，遂與夫言，即以所葬材穴葬之。範拜謝。虞負妻歸，範亦歸告其夫。

聞村北一人被雷擊死於途，身有朱字云：「偷夏氏金賊。」俄聞鄰婦哭聲，乃知雷擊者即其夫馬大也。村人白於官，官拘婦械鞫，則範氏以夏之措金贖女，對人感泣，馬大賭博無賴，聞之而盜心遂生也。官押婦搜贓，則止存二十數；又檢馬尸

得四數。官判賣婦償補責還虞。夏益喜，全金悉仍付範，俾償債主。

葬女三日，夜大雷電以風，墳復發，女亦頓活。不歸其家，往扣夏氏之門。夏驚起，隔扉問之。女曰：「夫人果生耶！我紉針耳。」夏駭為鬼，呼鄰媪詰之，知其復活，喜內入室。女自言：「願從夫人服役，不復歸矣。」夏曰：「得無謂我損金為買婢耶？汝葬後，債已代償，可勿見猜。」女益感泣，願以母事。夏不允，女曰：「兒能操作，亦不坐食。」天明告範，範喜，急至。母女相見，哭失聲。亦從女意，即以屬夏。範去，夏強送女歸。女啼思夏。王心齋自負女來，委諸門內而去。夏見驚問，始知其故，遂亦安之。女見虞至，急下拜，呼

以父。虞固無子女，又見女依依憐人，頗以為歡。女紡績縫紉，勤勞臻至。夏偶病劇，女晝夜給役。見夏不食亦不食；面上時有啼痕，向人曰：「母有萬一，我誓不復生！」夏少瘳，始解顏為歡。夏聞流涕，曰：「我四十無子，但得生一女如紉針亦足矣。」夏從不育；逾年忽生一男，人以為行善之報。

居二年女益長。虞與王謀，不能堅守舊盟。王曰：「女在君家，婚姻惟君所命。」女十七，惠美無雙。此言出，問名者趾錯於門，夫妻為揀富室。黃某亦遣媒來。虞惡其為富不仁，力卻之。為擇於馮氏。馮，邑名士，子慧而能文。將告於王；王出負販未歸，遂徑諾之。黃以不得於虞，亦托作賈，跡王

所在，設饌相邀，更復助以資本，漸漬習洽。因自言其子慧以自媒。王感其情，又仰其富，遂與訂盟。既歸詣虞，則虞昨日已受馮氏婚書。聞王所言不悅，呼女出，告以情。女佛然曰：「債主，吾仇也！以我事仇，但有一死！」王無顏，托人告黃以馮氏之盟。黃怒曰：「女姓王，不姓虞。我約在先，彼約在後，何得背盟！」遂控於邑宰，宰意以先約判歸黃。馮曰：「王某以女付虞，固言婚嫁不復預聞，且某有定婚書，彼不過杯酒之談耳。」宰不能斷，將惟女願從之。黃又以金賂官，求其左袒，以此月餘不決。

一日有孝廉北上，公車過東昌，使人問王心齋。適問於虞，虞轉詰之，蓋孝廉姓傅，即阿卯也。入閩籍，十八已鄉薦矣。

以前約未婚。其母囑令便道訪王，問女曾否另字也。虞大喜，邀傅至家，歷述所遭，然婿遠來數千里，患無憑據。傅啟篋，出王當日允婚書。虞招王至，驗之果真，乃共喜。是日當官覆審，傅投刺謁宰，其案始銷。涓吉約期乃去。會試後，市幣帛而還，居其舊第，行親迎禮。進士報已到閩，又報至東，傅又捷南宮。復入都觀政而返。女不樂南渡，傅亦以廬墓在，遂獨往扶父樞，載母俱歸。又數年虞卒，子才七八歲，女撫之過於其弟。使讀書，得入邑庠，家稱素封，皆傅力也。

異史氏曰：「神龍中亦有游俠耶？彰善癉惡，生死皆以雷霆，此『錢塘破陣舞』也。轟轟屢擊，皆為一人，焉知紉針非龍女謫降者耶？」

十二、二十九、桓侯

荊州彭好士，友家飲歸。下馬溲便，馬齧草路旁。有細草一叢，蒙茸可愛，初放黃花，艷光奪目，馬食已過半矣。彭拔其餘莖，嗅之有異香，因納諸懷。超乘復行，馬驚駛絕馳，頗覺快意，竟不計算歸途，縱馬所之。

忽見夕陽在山，始將旋轡。但望亂山叢沓，並不知其何所。一青衣人來，見馬方噴嘶，代為捉銜，曰：「天已近暮，吾家主人便請宿止。」彭問：「此屬何地？」曰：「閩中也。」彭大駭，蓋半日已千餘里矣，因問：「主人為誰？」曰：「到彼自知。」又問：「何在？」曰：「咫尺耳。」遂代鞚疾行，人馬

若飛。過一山頭，見半山中屋宇重疊，雜以屏幔，遙睹衣冠一簇，若有所伺。彭至下馬，相向拱敬。俄主人出，氣象剛猛，巾服都異人世。拱手向客，曰：「今日客莫遠於彭君。」因揖彭，請先行。彭謙謝，不肯遽先。主人捉臂行之。彭覺捉處如被械梏，痛欲折，不敢復爭，遂行。下此者猶相推讓，主人或推之，或挽之，客皆呻吟傾跌，似不能堪，一依主命而行。登堂則陳設炫麗，兩客一筵。彭暗問接坐者：「主人何人？」答云：「此張桓侯也。」彭愕然，不敢復咳。合座寂然。酒既行，桓侯曰：「歲歲叨擾親賓，聊設薄酌，盡此區區之意。值遠客辱臨，亦屬幸遇。僕竊妄有干求，如少存愛戀，即亦不強。」彭起問：「何物？」曰：「尊乘已有仙骨，非塵世

所能驅策。欲市馬相易如何？」彭曰：「敬以奉獻，不敢易也。」桓侯曰：「當報以良馬，且將賜以萬金。」彭離席伏謝。桓侯命人曳起之。俄傾酒饌紛綸，日落命燭。眾起辭，彭亦告別。桓侯曰：「君遠來焉歸？」彭顧同席者曰：「已求此公作居停主人矣。」桓侯乃遍以巨觴酌客，謂彭曰：「所懷香草，鮮者可以成仙，枯者可以點金；草七莖，得金一萬。」即命僮出方授彭，彭又拜謝。桓侯曰：「明日造市，請於馬群中任意擇其良者，不必與之論價，吾自給之。」又告眾曰：「遠客歸家，可少助以資斧。」眾唯唯。觴盡，謝別而出。

途中始詰姓字，同座者為劉子翬。同行二三里，越嶺即睹村舍。眾客陪彭並至劉所，始述其異。先是，村中歲歲賽社於

桓侯之廟，斬牲優戲以為成規，劉其首善者也。三日前賽社方畢。是午，各家皆有一人邀請過山。問之，言殊恍惚，但敦促甚急，過山見亭舍，相共駭疑。將至門，使者始實告之；眾亦不敢卻退。使者曰：「姑集此，邀一遠客行至矣。」蓋即彭也。眾述之驚怪。其中被把握者，皆患臂痛；解衣燭之，膚肉青黑。彭自視亦然。眾散，劉即襍被供寢。既明，村中爭延客；又伴彭入市相馬。十餘日相數十匹，苦無佳者；彭亦拚苟就之。又入市見一馬骨相似佳；騎試之，神駿無比。徑騎入村，以待鬻者；再往尋之，其人已去。遂別村人欲歸。村人各饋金資，遂歸。

馬一日行五百里。抵家，述所自來，人不之信，囊中出蜀物，始共怪之。香草久枯，恰得七莖，遵方點化，家以暴富。遂敬詣故處，獨祀桓侯之祠，優戲三日而返。

異史氏曰：「觀桓侯燕賓，而後信武夷幔亭非誕也。然主人肅客，遂使蒙愛者幾欲折肱，則當年之勇力可想。」

吳木欣言：「有李生者，唇不掩其門齒，露於外盈指。一日於某所宴集，二客遜上下，其爭甚苦。一力挽使前，一力卻向後。力猛肘脫，李適立其後，肘過觸喙，雙齒並墮，血下如湧。眾愕然，其爭乃息。」此與桓侯之握臂折肱，同一笑也。

十二、三十、粉蝶

陽日旦，瓊州土人也。偶自他郡歸，泛舟於海，遭颶風，舟將覆；忽飄一虛舟來，急躍登之。回視則同舟盡沒。風愈狂，暝然任其所吹。亡何風定，開眸忽見島嶼，舍宇連亙。把棹近岸，直抵村門。村中寂然，行坐良久，雞犬無聲。見一門北向，松竹掩藹。時已初冬，墻內不知何花，蓓蕾滿樹。心愛悅之，遂之遂入。遙聞琴聲，步少停。有婢自內出，年約十四五，飄灑艷麗。睹陽，返身遽入。俄聞琴聲歇，一少年出，訝問客所自來，陽具告之。轉詰邦族，陽又告之。少年喜曰：「我姻親也。」遂揖請入院。

院中精舍華好，又聞琴聲。既入舍，則一少婦危坐，朱弦方調，年可十八九，風採煥映。見客入，推琴欲逝，少年止之曰：「勿遁，此正卿家瓜葛。」因代溯所由。少婦曰：「是吾侄也。」因問其「祖母尚健否？父母年幾何矣？」陽曰：「父母四十餘，都各無恙；惟祖母六旬，得疾沉痾，一步履須人耳。侄實不省姑系何房，望祈明告，以便歸述。」少婦曰：「道途遼闊，音問梗塞久矣。歸時但告而父，『十姑問訊矣』，渠自知之。」陽問：「姑丈何族？」少年曰：「海嶼姓晏。此名神仙島，離瓊三千里，僕流寓亦不久也。」十娘趨入，使婢以酒食餉客，鮮蔬香美，亦不知其何名。飯已，引與瞻眺，見園中桃杏含苞，頗以為怪。晏曰：「此處夏無大暑，冬無大

寒，花無斷時。」陽喜曰：「此乃仙鄉。歸告父母，可以移家作鄰。」晏但微笑。

還齋炳燭，見琴橫案上，請一聆其雅操。晏乃撫弦捻柱。十娘自內出，晏曰：「來，來！卿為若侄鼓之。」十娘即坐，問侄：「願何聞？」陽曰：「侄素不讀《琴操》，實無所願。」十娘曰：「但隨意命題，皆可成調。」陽笑曰：「海風引舟，亦可作一調否？」十娘曰：「可。」即按弦挑動，若有舊譜，意調崩騰；靜會之，如身仍在舟中，為颶風之所擺簸。陽驚嘆欲絕，問：「可學否？」十娘授琴，試使勾撥，曰：「可教也。欲何學？」曰：「適所奏《颶風操》，不知可得幾日學？請先錄其曲，吟誦之。」十娘曰：「此無文字，我以意譜之耳。」

乃別取一琴，作勾剔之勢，使陽效之。陽習至更餘，音節粗合，夫妻始別去。陽目注心鼓，對燭自鼓；久之頓得妙悟，不覺起舞。舉首忽見婢立燈下，驚曰：「卿固猶未去耶？」婢笑曰：「十姑命待安寢，掩戶移檠耳。」審顧之，秋水澄澄，意態媚絕。陽心動，微挑之；婢俯首含笑。陽益惑之，遽起挽頸。婢曰：「勿爾！夜已四漏，主人將起，彼此有心，來宵未晚。」方狎抱間，聞晏喚「粉蝶」。婢作色曰：「殆矣！急奔而去。陽潛往聽之，但聞晏曰：「我固謂婢子塵緣未滅，汝必欲收錄之。今如何矣？宜鞭三百！」十娘曰：「此心一萌，不可給使，不如為吾侄遺之。」陽甚慚懼，返齋滅燭自寢。天明，有童子來侍盥沐，不復見粉蝶矣。心惴惴恐見譴

逐。俄晏與十姑並出，似無所介於懷，便考所業。陽為一鼓。十娘曰：「雖未入神，已得什九，肆熟可以臻妙。」陽復求別傳。晏教以《天女謫降》之曲，指法拗折，習之三日，始能成曲。晏曰：「梗概已盡，此後但須熟耳。爛此兩曲，琴中無梗調矣。」

陽頗憶家，告十娘曰：「吾居此，蒙姑撫養甚樂；顧家中懸念。離家三千里，何日可能還也！」十娘曰：「此即不難。故舟尚在，當助一帆風，子無家室，我已遣粉蝶矣。」乃贈以琴，又授以藥曰：「歸醫祖母，不惟卻病，亦可延年。」遂送至海岸，俾登舟。陽覓楫，十娘曰：「無須此物。」因解裙作帆，為之縈系。陽慮迷途，十娘曰：「勿憂，但聽帆漾

耳。」系已下舟。陽淒然，方欲拜謝別，而南風競起，離岸已遠矣。視舟中糗糧已具，然止足供一日之餐，心怨其吝。腹餒不敢多食，惟恐遽盡，但啖胡餅一枚，覺表裏甘芳。餘六七枚，珍而存之，即亦不復饑矣。俄見夕陽欲下，方悔來時未索膏燭。瞬息遙見人煙，細審則瓊州也。喜極。旋已近岸，解裙裹餅而歸。

入門，舉家驚喜，蓋離家已十六年矣，始知其遇仙。視祖母老病益憊，出藥投之，沉痾立除。共怪問之，因述所見。祖母泫然曰：「是汝姑也。」初，老夫人有少女名十娘，生有仙姿，許字晏氏。婿十六歲入山不返，十娘待至二十餘，忽無疾自殂，葬已三十餘年。聞旦言，共疑其未死。出其裙，則

猶在家所素著也。餅分啖之，一枚終日不饑，而精神倍生。老夫人命發塚驗視，則空棺存焉。

旦初聘吳氏女未娶，旦數年不還，遂他適。共信十娘言，以俟粉蝶之至；既而年餘無音，始議他圖。臨邑錢秀才，有女名荷生，艷名遠播。年十六，未嫁而三喪其婿。遂媒定之，涓吉成禮。既入門，光艷絕代，旦視之則粉蝶也。驚問曩事，女茫乎不知。蓋被逐時，即降生之辰也。每為之鼓《天女謫降》之操，輒支頤凝想，若有所會。

十二、三十一、李檀斯

長山李檀斯，國學生也。其村中有媪走無常，謂人曰：「今夜與一人昇檀老，投生淄川柏家莊一新門中，身軀重贅，幾被壓死。」時李方與客歡飲，悉以媪言為妄。至夜，無疾而卒。天明，如所言往問之，則其家夜生女矣。

十二、三十二、錦瑟

沂人王生，少孤，自為族。家清貧；然風標修潔，灑然裙履少年也。富翁蘭氏，見而悅之，妻以女，許為起屋治產。娶未幾而翁死。妻兄弟鄙不齒數，婦尤驕倨，常傭奴其夫；自享饑饌，生至則脫粟瓢飲，折稀為匕置其前。王悉隱忍之。年

十九往應童試被黜。自郡中歸，婦適不在室，釜中烹羊臠熟，就啖之。婦入不語，移釜去。生大慚，抵箸地上，曰：「所遭如此，不如死！」婦恚，問死期，即授索為自經之具。生忿投羹碗敗婦頰。

生含憤出，自念良不如死，遂懷帶入深壑。至叢樹下，方擇枝系帶，忽見土崖間微露裙幅，瞬息一婢出，睹生急返，如影就滅，土壁亦無綻痕。固知妖異，然欲覓死，故無畏怖，釋帶坐覘之。少間復露半面，一窺即縮去。念此鬼物，從之必有死樂，因抓石叩壁曰：「地如可入，幸示一途！我非求歡，乃求死者。」久之無聲。王又言之，內云：「求死請姑退，可  
以夜來。」音聲清銳，細如游蜂。生曰：「諾。」遂退以待夕。

未幾星宿已繁，崖間忽成高第，靜敞雙扉。生拾級而入。才數武，有橫流湧注，氣類溫泉。以手探之，熱如沸湯，不知其深幾許。疑即鬼神示以死所，遂踴身入。熱透重衣，膚痛欲糜，幸浮不沉。泅沒良久，熱漸可忍，極力爬抓，始登南岸，一身幸不泡傷。行次，遙見廈屋中有燈火，趨之。有猛犬暴出，齧衣敗襪。摸石以投，犬稍卻。又有群犬要吠，皆大如犢。危急間婢出叱退，曰：「求死郎來耶？吾家娘子憫君厄窮，使妾送君入安樂窩，從此無災矣。」挑燈導之。啟後門，黯然行去。

入一家，明燭射窗，曰：「君自入，妾去矣。」生入室四瞻，蓋已入己家矣。反奔而出，遇婦所役老媪曰：「終日相覓，又

焉往！」反曳入。婦帕裹傷處，下床笑逆，曰：「夫妻年餘，狎謔顧不識耶？我知罪矣。君受虛誚，我被實傷，怒亦可以少解。」乃於床頭取巨金一錠置生懷，曰：「以後衣食，一惟君命可乎？」生不語，拋金奪門而奔，仍將入壑，以叩高第之門。

既至野，則婢行緩弱，挑燈尤遙望之。生急奔且呼，燈乃止。既至，婢曰：「君又來，負娘子苦心矣。」王曰：「我求死，不謀與卿復求活。娘子巨家，地下亦應需人。我願服役，實不以有生為樂。」婢曰：「樂死不如苦生，君設想何左也！吾家無他務。惟淘河、糞除、飼犬、負尸；作不如程，則則耳剮鼻、敲肘剝趾。君能之乎？」答曰：「能之。」又入後門，生

問：「諸役何也？適言負尸，何處得如許死人？」婢曰：「娘子慈悲，設『給孤園』，收養九幽橫死無歸之鬼。鬼以千計，日有死亡，須負瘞之耳。請一過觀之。」移時入一門，署「給孤園」。入，見屋宇錯雜，穢臭熏人。園中鬼見燭群集，皆斷頭缺足，不堪入目。回首欲行，見尸橫墻下；近視之，血肉狼藉。曰：「半日未負，已被狗咋。」即使生移去之。生有難色，婢曰：「君如不能，請仍歸享安樂。」生不得已，負置秘處。乃求婢緩頰，幸免尸污。婢諾。

行近一舍，曰：「姑坐此，妾入言之。」飼狗之役較輕，當代圖之，庶幾得當以報。」去少頃，奔出，曰：「來，來！娘子出矣。」生從入。見堂上籠燭四懸，有女郎近戶坐，乃二十

許天人也。生伏階下，女郎命曳起之，曰：「此一儒生烏能飼犬？可使居西堂主簿。」生喜伏謝，女曰：「汝以樸誠，可敬乃事。如有舛錯，罪責不輕也！」生唯唯。婢導至西堂，見棟壁清潔，喜甚，謝婢。始問娘子官閥，婢曰：「小字錦瑟，東海薛侯女也。妾名春燕。旦夕所需，幸相聞。」婢去，旋以衣履衾褥來，置床上。生喜得所。

黎明早起視事，錄鬼籍。一門僕役盡來參謁，饋酒送脯甚多。生引嫌，悉卻之。日兩餐皆自內出。娘子察其廉謹，特賜儒巾鮮衣。凡有齎賚，皆遣春燕。婢頗風格，既熟，頗以眉目送情。生斤斤自守，不敢少致差跌，但偽作駸鈍。積二年餘，賞給倍於常廩，而生謹抑如故。

一夜方寢，聞內第喊噪。急起捉刀出，見炬火光天。入窺之，則群盜充庭，廝僕駭竄。一僕促與偕遁，生不肯，塗面束腰，雜盜中呼曰：「勿驚薛娘子！但當分括財物，勿使遺漏。」時諸舍群賊方搜錦瑟不得，生知未為所獲，潛入第後獨覓之。遇一伏嫗，始知女與春燕皆越墻矣。生亦過墻，見主婢伏於暗陬，生曰：「此處烏可自匿？」女曰：「吾不能復行矣！」生棄刀負之。奔二三里許，汗流竟體，始入深谷，釋肩令坐。欵一虎來，生大駭，欲迎當之，虎已銜女。生急捉虎耳，極力伸臂入虎口，以代錦瑟。虎怒釋女，嚼生臂，脆然有聲。臂斷落地，虎亦返去。女泣曰：「苦汝矣！苦汝矣！」生忙遽未知痛楚，但覺血溢如水，使婢裂衿裹斷處。女止之，俯覓

斷臂，自為續之；乃裹之。東方漸白，始緩步歸，登堂如墟。天既明，僕媪始漸集。女親詣西堂，問生所苦。解裹，則臂骨已續；又出藥糝其創，始去。由此益重生，使一切享用悉與己等。

臂愈，女置酒內室以勞之。賜之坐，三讓而後隅坐。女舉爵如讓賓客。久之，曰：「妾身已附君體，意欲效楚王女之於臣建。但無媒，羞自薦耳。」生惶恐曰：「某受恩重，殺身不足酬。所為非分，懼遭雷殛，不敢從命。苟憐無室，賜婢已過。」一日女長姊瑤臺至，四十許佳人也。至夕招生入，瑤臺命坐，曰：「我千里來為妹主婚，今夕可配君子。」生又起辭。瑤臺遽命酒，使兩人易盞。生固辭，瑤臺奪易之。生乃伏地

謝罪，受飲之。瑤臺出，女曰：「實告君：妾乃仙姬，以罪被謫。自願居地下收養冤魂，以贖帝譴。適遭天魔之劫，遂與君有附體之緣。遠邀大姊來，固主婚嫁，亦使代攝家政，以便從君歸耳。」生起敬曰：「地下最樂！某家有悍婦；且屋宇隘陋，勢不能容委曲以共其生。」女笑曰：「不妨。」既醉，歸寢，歡戀臻至。

過數日，謂生曰：「冥會不可長，請郎歸。君幹理家事畢，妾當自至。」以馬授生，啟扉自出，壁復合矣。生騎馬入村，村人盡駭。至家門則高廬煥映矣。先是，生去，妻召兩兄至，將筮楚報之；至暮不歸，始去。或於溝中得生履，疑其已死。既而年餘無耗。有陝中賈某，媒通蘭氏，遂就生第與婦合。

半年中，修建連瓦。賈出經商，又買妾歸，自此不安其室。賈亦恆數月不歸。生訊得其故，怒，系馬而入。見舊媼，媼驚伏地。生叱罵久，使導詣婦所，尋之已遁，既於舍後得之，已自經死。遂使人舁歸蘭氏。呼妾出，年十八九，風致亦佳，遂與寢處。賈托村人，求反其妾，妾哀號不肯去。生乃具狀，將訟其霸產占妻之罪，賈不敢復言，收肆西去。

方疑錦瑟負約；一夕正與妾飲，則車馬扣門而女至矣。女但留春燕，餘即遣歸。入室，妾朝拜之，女曰：「此有宜男相，可以代妾苦矣。」即賜以錦裳珠飾。妾拜受，立侍之；女挽坐，言笑甚歡。久之，曰：「我醉欲眠。」生亦解履登床，妾始出；入房則生臥榻上；異而反窺之，燭已滅矣。生無夜不

宿妾室。一夜妾起，潛窺女所，則生及女方共笑語。大怪之。急反告生，則床上無人矣。天明陰告生；生亦不自知，但覺時留女所、時寄妾宿耳。生囑隱其異。久之，婢亦私生，女若不知之。婢忽臨蓐難產，但呼「娘子」。女入，胎即下；舉之，男也。為斷臍置婢懷，笑曰：「婢子勿復爾！業多，則割愛難矣。」自此，婢不復產。妾出五男二女。居三十年，女時返其家，往來皆以夜。一日攜婢去，不復來。生年八十，忽攜老僕夜出，亦不返。

十二、三十三、太原獄

太原有民家，姑婦皆寡。姑中年不能自潔，村無賴頻頻就之。婦不善其行，陰於門戶墻垣阻拒之。姑慚，借端出婦；婦不去，頗有勃谿，姑益恚，反相誣告諸官。官問奸夫姓名，媪曰：「夜來宵去，實不知其阿誰，鞫婦自知。」因喚婦。婦果知之，而以奸情歸媪，苦相抵。拘無賴至，又嘩辨：「兩無所私，彼姑婦不相能，故妄言相詆毀耳。」官曰：「一村百人何獨誣汝？」重笞之。無賴叩乞免責，自認與婦通。械婦，婦終不承。逐去之。婦忿告憲院，仍如前，久不決。

時淄邑孫進士柳下令臨晉，推折獄才，遂下其案於臨晉。人犯到，公略訊一過，寄監訖，使命隸人備磚石刀錐，質理聽用。共疑曰：「嚴刑自有桎梏，何將以非刑折獄耶？」不解其意，姑備之。明日升堂，問知諸具已備，命悉置堂上。乃喚犯者，又一略鞫之。乃謂姑婦：「此事亦不必甚求清析。淫婦雖未定，而奸夫則確。汝家本清門，不過一時為匪人所誘，罪全在某。堂上刀石具在，可自取擊殺之。」姑婦赧赧，恐邂逅抵償，公曰：「無慮，有我在。」於是媪婦並起，掇石交投。婦銜恨已久，兩手舉巨石，恨不即立斃之，媪惟以小石擊臀腿而已。又命用刀。婦把刀貫胸膺，媪猶逡巡未下。

公止之曰：「淫婦我知之矣。」命執媪嚴梏之，遂得其情。答無賴三十，其案始結。

附記：公一日遣役催租，租戶他出，婦應之。投不得賄，拘婦至。公怒曰：「男子自有歸時，何得擾人家室！」遂笞役，遣婦去。乃命匠多備手械，以備敲比。明日合邑傳頌公仁。欠賦者聞之，皆使妻出應，公盡拘而械之。余嘗謂：孫公才非所短，然如得其情，則喜而不暇哀矜矣。

十二、三十四、新鄭訟

長山石進士宗玉，為新鄭令。適有遠客張某經商於外，因病思歸，不能騎步，憑禾車一輛，攜資五千，兩夫挽載以行。

至新鄭，兩夫往市飲食，張守資獨臥車中。有某甲過，睨之，見旁無人，奪資去。張不能御，力疾起，遙尾綴之，入一村中；又從之，入一門內。張不敢入，但自短垣窺覘之。甲釋所負，回首見窺者，怒執為賊，縛見石公，因言情狀。問張，備述其冤。公以無質實，叱去之。二人下，皆以官無皂白，公置若不聞。

頗憶甲久有逋賦，遣役嚴追之。逾日即以銀三兩投納。石公問金所自來，甲云：「質衣鬻物。」皆指名以實之。石公遣役令視納稅人，有與甲同村者否。適甲鄰人在，喚入問之：「汝既為某甲近鄰，金所從來。爾當知之。」鄰曰：「不知。」公曰：「鄰家不知，其來曖昧。」甲懼，顧鄰曰：「我質某物、鬻

某器，汝豈不知？」鄰急曰：「然，固有之矣。」公怒曰：「爾必與甲同盜，非刑詢不可！」命取梏械。鄰人懼曰：「吾以鄰故，不敢招怨；今刑及己身，何諱乎，彼實劫張某錢所市也。」遂釋之。時張以喪資未歸，乃責甲押償之。此亦見石之能實心為政也。

異史氏曰：「石公為諸生時，恂恂雅飭，意其人翰苑則優，簿書則拙。乃一行作吏，神君之名，噪於河朔。誰謂文章無經濟哉！故志之以風有位者。」

十二、三十五、李象先

李象先，壽光之聞人也。前世為某寺執炊僧，無疾而化。魂出棲坊上，下見市上行人，皆有火光出顛上，蓋體中陽氣也。夜既昏，念坊上不可久居，但諸舍暗黑，不知所之。唯一家燈火猶明，飄赴之。及門則身已嬰兒。母乳之。見乳恐懼；腹不勝饑，閉目強吮。逾三月餘，即不復乳；乳之則驚懼而啼。母以米沈間棗慄哺之，得長成。是為象先。兒時至某寺，見寺僧，皆能呼其名。至老猶畏乳。

異史氏曰：「象先學問淵博，海岱清士。子早貴，身僅以文學終，此佛家所謂福業未修者耶？弟亦名士。生有隱疾，數

月始一動；動時急起，不顧賓客，自外呼而入，於是婢媪盡避；適及門復痿，則不入室而反。兄弟皆奇人也。」

十二、三十六、房文淑

開封鄧成德，游學至兗，寓敗寺中，傭為造齒籍者繕寫。歲暮，僚役各歸家，鄧獨炊廟中。黎明，有少婦叩門而入，艷絕，至佛前焚香叩拜而去。次日又如之。至夜鄧起挑燈，適有所作，女至益早。鄧曰：「來何早也？」女曰：「明則人雜，故不如夜。太早，又恐擾君清睡。適望見燈光，知君已起，故至耳。」生戲曰：「寺中無人，寄宿可免奔波。」女哂曰：「寺中無人，君是鬼耶？」鄧見其可狎，俟拜畢，曳坐求歡。女

曰：「佛前豈可作此。身無片椽，尚作妄想！」鄧固求不已。女曰：「去此三十里某村，有六七童子延師未就。君往訪李前川，可以得之。托言攜有家室，令別給一舍，妾便為君執炊，此長策也。」鄧慮事發獲罪，女曰：「無妨。妾房氏，小名文淑，並無親屬，恆終歲寄居舅家，有誰知？」鄧喜。既別女，即至某村，謁見李前川，謀果遂。約歲前即攜家至。既反，告女。女約候於途中。鄧告別同黨，借騎而去。女果待於半途，乃下騎以轡授女，御之而行。至齋，相得甚歡。

積六七年，居然琴瑟，並無追捕逃者。女忽生一子。鄧以妻不育，得之甚喜，名曰「堯生」。女曰：「偽配終難作真。妾將辭君而去，又生此累人物何為！」鄧曰：「命好，倘得餘

錢，擬與卿遁歸鄉里，何出此言？」女曰：「多謝，多謝！我不能脅肩諂笑，仰大婦眉睫，為人作乳媪，呱呱者難堪也！」鄧代妻明不妒，女亦不言。月餘鄧解館，謀與前川子同出經商，告女曰：「我思先生設帳，必無富有之期。今學負販，庶有歸時。」女亦不答。至夜，女忽抱子起。鄧問：「何作？」女曰：「妾欲去。」鄧急起追問之，門未啟，而女已杳。駭極，始悟其非人也。鄧以形跡可疑，故亦不敢告人，托之歸寧而已。初，鄧離家與妻婁約，年終必返；既而數年無音，傳其已死。兄以其無子，欲改醮之。婁更以三年為期，日惟以紡績自給。一日既暮，往扃外戶，一女子掩入，懷中繡兒，曰：「自母家歸，適晚。知姊獨居，故求寄宿。」婁內之。至

房中，視之，二十餘麗者也。喜與共榻，同弄其兒，兒白如瓠。嘆曰：「未亡人遂無此物！」女曰：「我正嫌其累人，即嗣為姊後，何如？」婁曰：「無論娘子不忍割愛；即忍之，妒亦無乳能活之也。」女曰：「不難。當兒生時，患無乳，服藥半劑而效。今餘藥尚存，即以奉贈。」遂出一裹，置窗間。婁漫應之，未遽怪也。既寢，及醒呼之，則兒在而女已啟門去矣。駭極。日向辰，兒啼饑，婁不得已，飼其藥，移時湏流，遂哺兒。積年餘，兒益豐肥，漸學語言，愛之不啻己出，由是再醮之心遂絕。但早起抱兒，不能操作謀衣食，益窘。

一日女忽至。婁恐其索兒，先問其不謀而去之罪，後敘其鞠養之苦。女笑曰：「姊告訴艱難，我遂置兒不索耶？」遂招

兒。兒啼入婁懷，女曰：「犢子不認其母矣！此百金不能易，可將金來，署立券保。」婁以為真，顏作赧，女笑曰：「姊勿懼，妾來正為兒也。別後慮姊無豢養之資，因多方措十餘金來。」乃出金授婁。婁恐受其金，索兒有詞，堅卻之。女置床上，出門徑去。抱子追之，其去已遠，呼亦不顧。疑其意惡。然得金，少權子母，家以饒足。

又三年鄧賈有贏餘，治裝歸。方共慰藉，睹兒問誰氏子。妻告以故，問：「何名？」曰：「渠母呼之竟生。」鄧驚曰：「此真吾子也！」問其時日，即夜別之日。鄧乃歷敘與房文淑離合之情，益共欣慰。猶望女至。而終渺矣。

十二、三十七、秦檜

青州馮中堂家殺一豕，燻去毛鬣，肉內有字，云：「秦檜七世身。」烹而啖之，其肉臭惡，因投諸犬。嗚呼！檜之肉，恐犬亦不當食之矣！

聞益都人說：「中堂之祖，前身宋朝為檜所害，故生平最敬岳武穆。於青州城北通衢旁建嶽王殿，秦檜。萬俟卨伏跪地下。往來行人瞻禮岳王，則投石檜、卨，香火不絕。後大兵征於七之年，馮氏子孫毀岳王像。數里外有俗祠「子孫娘娘」，因昇檜、卨其中，使朝跪焉。百世下必有杜十姨、伍髭須之誤，甚可笑也。」

又青州城內舊有「淡臺子羽祠」。當魏璫烜赫時，世家中有媚之者，就子羽毀冠去須，改作魏監。此亦駭人聽聞者也。

十二、三十八、浙東生

浙東生房某客於陝，教授生徒。嘗以膽力自詡。一夜裸臥，忽有毛物從空墮下，擊胸有聲。覺大如犬，氣咻咻然，四足撓動。大懼欲起，物以兩足撲倒之，恐極而死。經一時許，覺有人以尖物穿鼻，大嚏乃蘇。見室中燈火熒熒，床邊坐一美人，笑曰：「好男子！膽氣固如此耶！」生知為狐，益懼。女漸與戲，膽始放，遂共狎昵。積半年，如琴瑟之好。一日女臥床頭，生潛以獵網蒙之。女醒不敢動，但哀乞。生笑不前。

女忽化白氣從床下出，恚曰：「終非好相識！可送我去。」以手曳之，身不覺自行。出門，凌空翕飛。食頃，女釋手，生暈然墜落。

適世家園中有虎阱，揉木為圈，結繩作網，以覆其口。生墜網上，網為之側，以腹受網，身半倒懸。下視，虎蹲阱中，仰見臥人，躍上，近不盈尺，心膽俱碎。園丁來飼虎，見而怪之，扶上，已死。移時漸蘇，備言其故。其地乃浙界，離家已四百餘里矣。主人贈以資遣歸。歸告人：「雖得兩次死，然非狐則貧不能歸也。」

十二、三十九、博興女

博興民王某，有女及笄。勢豪某窺其姿，伺女出，掠去，無知者。至家逼淫，女號嘶撐拒，某縊殺之。門外故有深淵，遂以石系尸沉其中。王覓女不得，計無所施。天忽雨，雷電繞豪家，霹靂一聲，龍下攫豪首去。天晴，淵中女尸浮出，一手捉人頭，審視則豪頭也。官知，鞫其家人，始得其情。龍其女之所化與？不然，何以能爾也？奇哉！

十二、四十、一員官

濟南同知吳公，剛正不阿。時有陋規：凡貪墨者虧空犯贓罪，上官輒庇之，以贓分攤屬僚，無敢梗者。以命公，不受，

強之不得，怒加叱罵。公亦惡聲還報之曰：「某官雖微？亦受君命。可以參處，不可以罵詈也！要死便死，不能損朝廷之祿，代人償枉法贓耳！」上官乃改顏溫慰之。人皆言斯世不可以行直道，人自無直道耳，何反咎斯世之不可行哉！會高苑有穆情懷者，狐附之，輒慷慨與人談論，音響在坐上，但不見其人。適至郡，賓客談次，或詰之曰：「仙固無不知，請問郡中官共幾員？」應聲答曰：「一員。」共笑之。復詰其故。曰：「通郡官僚雖七十有二，其實可稱為官者，吳同知一人而已。」是時泰安知州張公，人以其木強，號之「橛子」。凡貴官大僚登岱者，夫馬兜輿之類，需索煩多，州民苦於供億。公一切罷之。或索羊豕，公曰：「我即一羊也，一豕也，

請殺之以犒驕從。」大僚亦無奈之。公自遠宦，別妻子者十二年。初蒞泰安，夫人及公子自都中來省之，相見甚歡。逾六七日，夫人從容曰：「君塵甑猶昔，何老悖不念子孫耶？」公怒大罵，呼杖，逼夫人伏受。公子覆母，號泣求代。公橫施撻楚，乃已。夫人即偕公子命駕歸，矢曰：「渠即死於是，吾亦不復來矣！」逾年公卒。此不可謂非今之強項令也。然以久離之琴瑟，何至以一言而躁怒至此，豈人情哉！而威福能行床第，事更奇於鬼神矣。

十二、四十一、丐汕

高玉成，故家子，居金城之廣里。善針灸，不擇貧富輒醫之。里中來一丐者，脛有廢瘡，臥於道。膿血狼籍，臭不可近。居人恐其死，日一飴之。高見而憐焉，遣人扶歸，置於耳舍。家人惡其臭，掩鼻遙立。高出艾親為之灸，日餉以蔬食。數日，丐者索湯餅，僕怒訶之。高聞，即命僕賜以湯餅。未幾，又乞酒肉，僕走告曰：「乞人可笑之甚！方其臥於道也，日求一餐不可得，今三飯猶嫌粗糲，既與湯餅，又乞酒肉。此等貪饕，只宜仍棄之道上耳。」高問其瘡，曰：「痂漸脫落，似能步履，故假呻嗶作呻楚狀。」高曰：「所費幾何，即以酒肉饋之，待其健，或不吾仇也。」僕偽諾之而竟不與。且與

諸曹喁語，共笑主人癡。次日。高親詣視丐，丐跛而起，謝曰：「蒙君高義，生死人而肉白骨，惠深覆載。但新瘥未健，妄思饞嚼耳。」高知前命不行，呼僕痛答之，立命持酒炙餌丐者。僕銜之，夜分縱火焚耳舍，乃故呼號。高起視，舍已燼。嘆曰：「丐者休矣！」督眾救滅。見丐者酣臥火中，齶聲雷動。喚之起，故驚曰：「屋何往？」群始驚其異。高彌重之，臥以客舍，衣以新衣，日與同坐處。問其姓名，自言：「陳九。」居數日，容益光澤。言論多風格，又善手談。高與對局輒敗。乃日從之學，頗得其奧秘。如此半年，丐者不言去，高亦一時少之不樂也。即有貴客來，亦必偕之同飲。或擲骰

為令，陳每代高呼採，雉盧無不如意。高大奇之。每求作劇，輒辭不知。

一日，語高曰：「我欲告別，向受君惠且深，今薄設相邀，勿以人從也。」高曰：「相得甚歡，何遽決絕？且君杖頭空虛，亦不敢煩作東道主。」陳固邀之曰：「杯酒耳，亦無所費。」高曰：「何處？」答云：「園中。」時方嚴冬，高慮園亭苦寒，陳固言：「不妨。」乃從至園中，覺氣候頓暖似三月初旬。又至亭中，見異鳥成群，亂弄清味，仿佛暮春景象。亭中幾案皆鑲以瑠玉。有一水晶屏瑩澈可鑒，中有花樹搖曳開落不一，又有白禽似雪，往來勾輊於其上，以手撫之，殊無一物。高愕然良久。坐，見鸚鵡棲架上，呼曰：「茶來！」俄見朝陽丹

鳳銜一赤玉盤，上有玻璃盞二盛香茗，伸頸屹立。飲已，置盞其中，鳳銜之振翼而去。鸚鵡又呼曰：「酒來！」即有青鸞黃鶴翩翩自日中來，銜壺銜杯，紛置案上。頃之，則諸鳥進饌，往來無停翅，珍錯雜陳，瞬息滿案，肴香酒冽，都非常品。陳見高飲甚豪，乃曰：「君宏量，是得大爵。」鸚鵡又呼曰：「取大爵來！」忽見日邊閃閃，有巨蝶攫鸚鵡杯，受斗許，翔集案間。高視蝶大於雁，兩翼綽約，文采燦麗，亟加贊嘆。陳喚曰：「蝶子勸酒！」蝶展然一飛化為麗人，繡衣蹁躑，前席進酒。陳曰：「不可無以佐觴。」女乃仙仙而舞，舞到酣際，足離於地者尺餘，輒仰折其首，直與足齊，倒翻身而起立，身未嘗著於塵埃。且歌曰：「連翩笑語踏芳叢，低

亞花枝拂面紅。曲折不知金鈿落，更隨蝴蝶過籬東。」餘音裊裊，不啻繞梁。高大喜，拉與同飲。陳命之坐，亦飲之酒。高酒後心搖意動，遽起狎抱，視之則變為夜叉。睛突於眦，牙出於喙，黑肉凹凸，怪惡不可言狀。高驚釋手，伏幾戰慄。陳以箸擊其喙，訶曰：「速去！」隨擊而化又為蝴蝶，飄然颺去。高驚定，辭出。見月色如洗，漫語陳曰：「君旨酒佳肴來自空中，君家當在天上，盍攜故人一游？」陳曰：「可。」即與攜手躍起，遂覺身在空冥。漸與天近，見有高門口圓如井，入，則光明似晝，階路皆蒼石砌成，滑潔無纖翳。有大樹一株高數丈，上開赤花大如蓮，紛紜滿樹。下一女子，搗絳紅之衣於砧上，艷麗無雙。高木立睛停，竟忘行步。女子

見之，怒曰：「何處狂郎妄來此處！」輒以杵投之，中其背。陳急曳於虛所，切責之。高被杵，酒亦頓醒，殊覺汗愧，乃從陳出，有白雲接於足下。陳曰：「從此別矣，有所囑，慎志勿忘：君壽不永，明日速避西山中，當可免。」高欲挽之，返身竟去。高覺雲漸低，身落園中，則景物大非。

歸與妻子言，共相駭異。視衣上著杵處，異紅如錦，有奇香。早起，從陳言，裹糧入山。大霧障天，茫茫然不辨徑路。躡荒急奔，忽失足墮雲窟中，覺深不可測，而身幸不損。定醒良久，仰見雲氣如籠。乃自嘆曰：「仙人令我逃避大數，終不能免。何時出此窟耶？」又坐移時，見深處隱隱有光，遂起而漸入，則別有天地。有三老方對奕，見高至，亦不顧

問，奕不輟。高蹲而觀焉。局終，斂子入盒。方問：「客何得至此？」高言：「迷墮失路。」老者曰：「此非人間，不宜久淹，我送君歸。」乃導至窟下。覺雲氣擁之以升，遂履平地，見山中樹色深黃，蕭蕭木落，似是秋杪。大驚曰：「我以冬來，何變暮秋？」奔赴家中，妻、子盡驚，相聚而泣。高訝問之，妻曰：「君去三年不返，皆以為異物矣。」高曰：「異哉，才頃刻耳。」於腰中出其糗糧，已若灰燼，相與詫異。妻曰：「君行後，我夢二人，皂衣閃帶，似詛賦者，洶洶然入室。張顧曰：『彼何往？』我訶之曰：『彼已外出。爾即官差，何得入人閨闈？』二人乃出。且行且語曰『怪事怪事』而去。」

高乃悟已所遇者仙也，妻所遇者鬼也。高每對客，衷杵衣於內，滿座皆香，非麝非蘭，著汗彌盛云。

十二、四十二、人妖

馬生萬寶者，東昌人，疏狂不羈。妻田氏亦放誕風流。伉儷甚敦。有女子來，寄居鄰人某媪家，言為翁姑所虐，暫出亡。其縫紉絕巧，便為媪操作。媪喜而留之。逾數日，自言能於宵分按摩，愈女子瘵盅。媪常至生家游揚其術，田亦未嘗著意。生一日於墻隙窺見女，年十八九已來，頗風格。心竊好之，私與妻謀，托疾以招之。媪先來，就榻撫問已，言：「蒙娘子招，便將來。但渠畏見男子，請勿以郎君入。」妻曰：「家

中無廣舍，渠儂時復出入，可復奈何？」已又沉思曰：「晚間西村阿舅家招渠飲，即囑令勿歸，亦大易。」媪諾而去。妻與生用拔趙幟易漢幟計，笑而行之。

日曛黑，媪引女子至，曰：「郎君晚回家否？」田曰：「不回了。」女子喜曰：「如此方好。」數語，媪別去。田便燃燭展衾，讓女先上床，已亦脫衣隱燭。忽曰：「幾忘卻廚舍門未關，防狗子偷吃也。」便下床啟門易生。生窸窣入，上床與女共枕臥。女顫聲曰：「我為娘子醫清恙也。」間以暱詞，生不語。女即撫生腹，漸至臍下，停手不摩，遽探其私，觸腕崩騰。女驚怖之狀，不啻誤捉蛇蠍，急起欲遁。生沮之，以手入其股際。則搐垂盈掬，亦偉器也。大駭呼火。生妻謂事

決裂，急燃燈至，欲為調停，則見女赤身投地乞命。妻羞懼趨出。生詰之，云是穀城人王二喜。以兄大喜為桑沖門人，因得轉傳其術。又問：「玷幾人矣？」曰：「身出行道不久，只得十六人耳。」生以其行可誅，思欲告郡；而憐其美，遂反接而宮之。血溢隕絕，食頃復蘇。臥之榻，覆之衾，而囑曰：「我以藥醫汝，創瘡平，從我終焉可也？不然，事發不赦！」王諾之。明日媪來，生約之曰：「伊是我表侄女王二姐也。以天闔為夫家所逐，夜為我家言其由，始知之。忽小不康，將為市藥餌，兼請諸其家，留與荊人作伴。」媪入室視王，見其面色敗如塵土。即榻問之。曰：「隱所暴腫，恐是

惡疽。」媪信之去。生餌以湯，糝以散，日就平復。夜輒引與狎處；早起，則為田提汲補綴，灑掃執炊，如媵婢然。

居無何，桑沖伏誅，同惡者七人並棄市；惟二喜漏網，檄各屬嚴緝。村人竊共疑之，集村媪隔裳而探其隱，群疑乃釋。王自是德生，遂從馬以終焉。後卒，即葬府西馬氏墓側，今依稀在焉。

異史氏曰：「馬萬寶可云善於用人者矣。兒童喜蟹可把玩，而又畏其鉗，因斷其鉗而畜之。嗚呼！苟得此意，以治天下可也。」

十二、四十三、蟄蛇

予邑郭生設帳於東山之莊，童蒙五六人皆初入館者也。書室之南為廁所，乃一牛欄；靠山石壁，壁上多雜草蓁莽。童子入廁，多歷時刻而後返。郭責之，則曰：「予在廁中騰雲。」郭疑之。童子入廁，從旁睨之，見其起空中二三尺，倏起倏墜，移時不動。郭進而細審，見壁縫中一蛇，昂首大於盆，吸氣而上。遂遍告莊人，共視之，以炬火焚壁，蛇死壁裂。蛇不甚長，而粗則如巨桶。蓋蟄於內而不能出，已歷多年者也。

十二、四十四、晉人

晉人某有勇力，不屑格拒之術，而搏技家當之盡靡。過中州，有少林弟子受其辱，忿告其師，群謀設席相邀，將以困之。既至，先陳茗果。胡桃連殼，堅不可食。某取就案邊，伸食指敲之，應手而碎。寺眾大駭，優禮而散。

十二、四十五、龍

博邑有鄉民王茂才，早赴田，田畔拾一小兒，四五歲，貌豐美而言笑巧妙。歸家子之，靈通非常。至四五年後，有一僧至其家，兒見之驚避無蹤。僧告鄉民曰：「此兒乃華山池中

五百小龍之一，竊逃於此。」遂出一鉢，注水其中，宛一小白蛇游衍於內，袖鉢而去。

十二、四十六、愛才

仕宦中有妹養宮中而字貴人者，有將官某代作啟，中警句云：「令弟從長，奕世近龍光，貂珥曾參於畫室；舍妹夫人，十年陪鳳輦，霓裳遂燦於朝霞。寒砧之杵可掬，不搗夜月之霜；御溝之水可托，無勞雲英之詠。」當事者奇其才，遂以文階換武階，後至通政使。